『PRIDE・GP決勝』大炎上! 直前濃密大特集!!

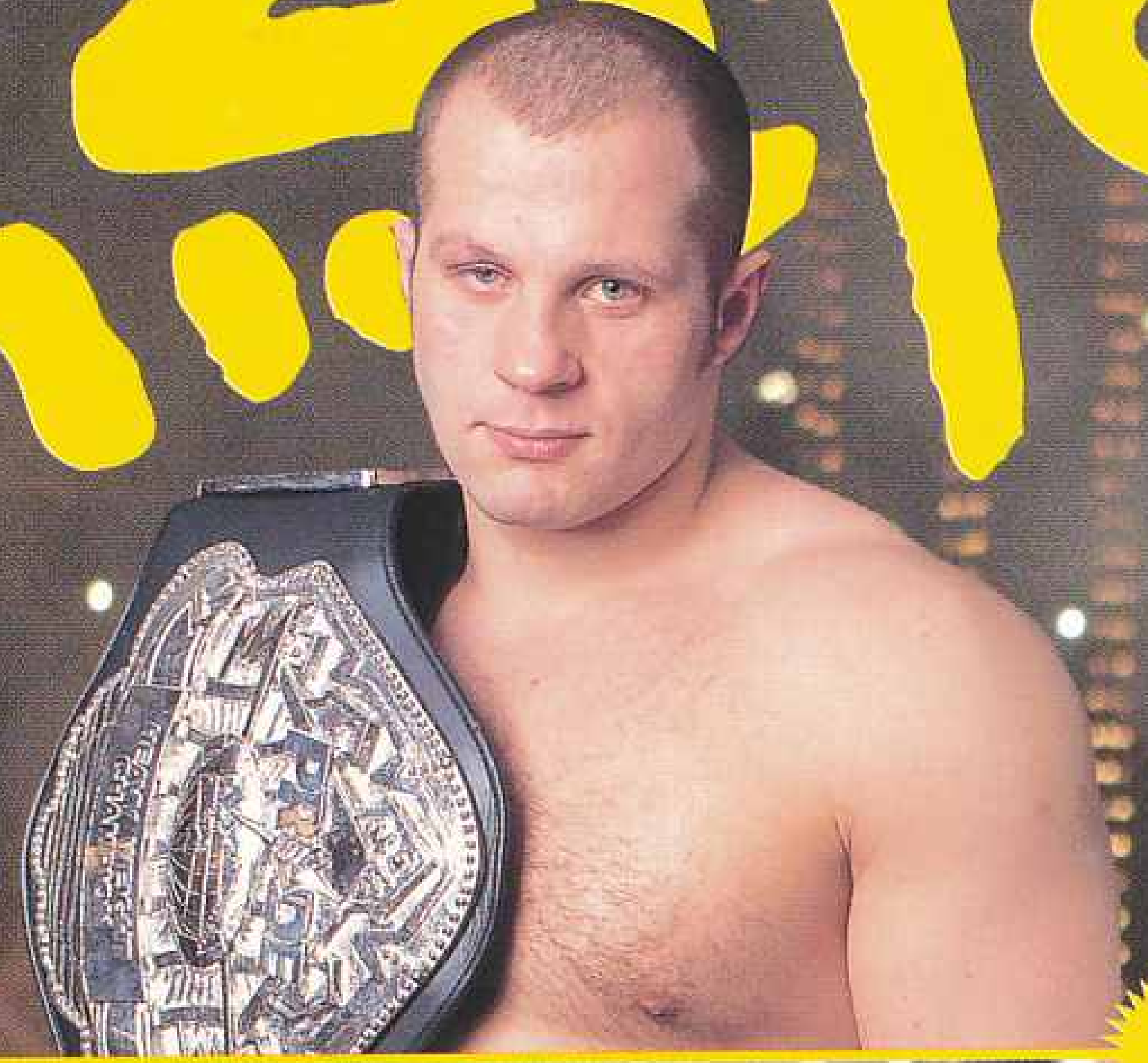
紙のプロレス RADICAL

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

880 yen

77
2004









いきなりクライマックス!
驚ガクのヒョードル戦決定!!
小川直也

"キャプテン・ハッスル"!
史上最大の査定試合へ!!


大ハッスル特集!
ハッスル怒濤の快進撃!
高田総統、小川に続き
『ハッスル4』で
橋本、川田、長州も猛ハッスル!!
9月の2大会に続き、10・21後楽園、
10・23名古屋で開催決定!!

"幻想大国"ロシア現地徹底レポート!!
スクープ!
セルゲイ・ハリトーノフの秘密特訓に潜入!!

"生きる伝説"とついに再会!
独占ロングインタビュー ヴォルク・ハン

紙のプロレス RADICAL NO.77 史上最大の査定試合へ!!

発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188


EMELIANENKO FEDOR vs NAOYA OGAWA
8・15『PRIDE・GP』決勝ラウンド
史上最大のヒリヒリ感!!
この緊張感の正体を探れ!
SERGEY KHARITONOV vs ANTONIO R. NOGUEIRA
MINOTAURO

「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」

すべては『ハッスル』のため! “キャプテン・ハッスル”、いざ史上最大の査定試合へ





直也

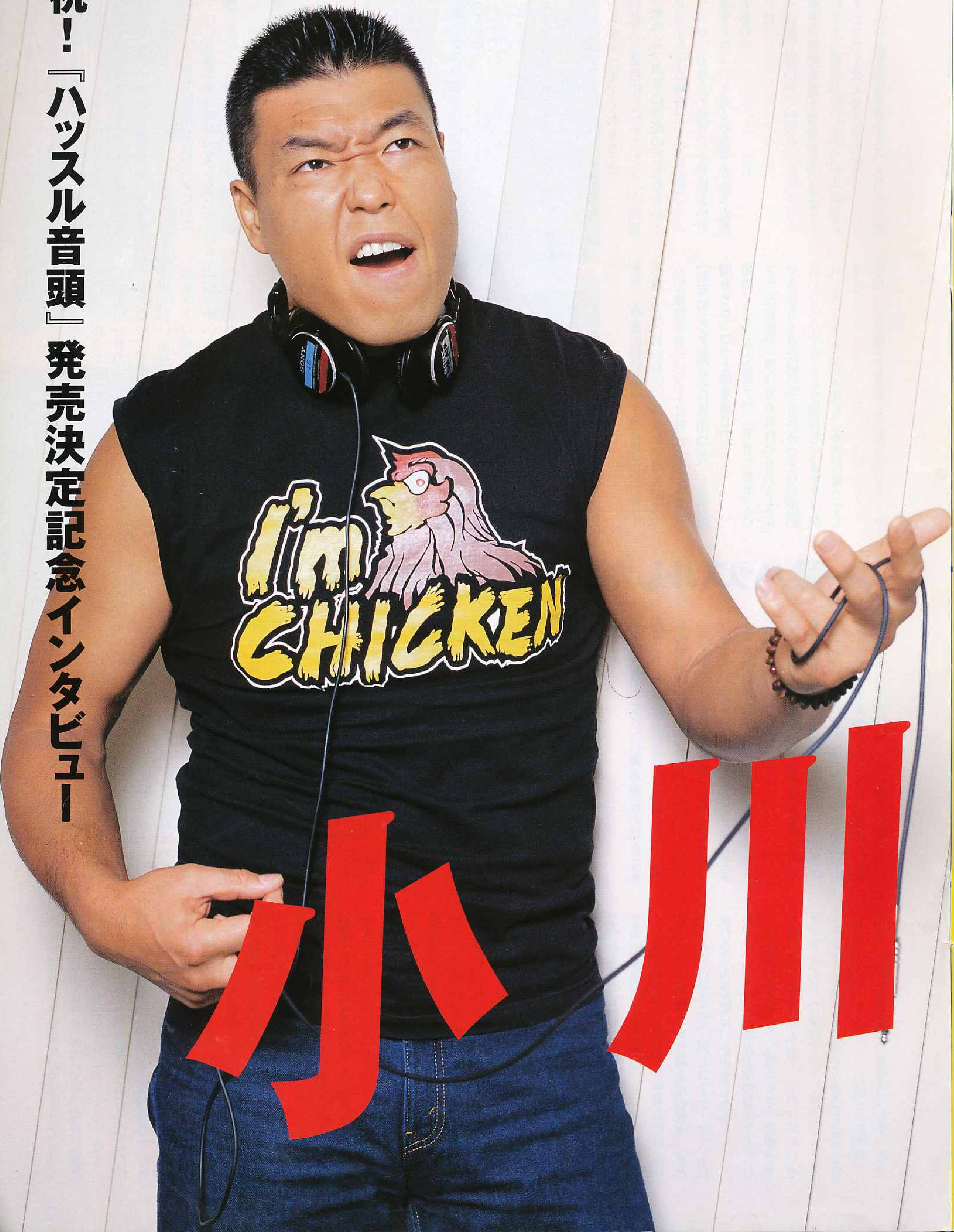
［プロレスラー／新人歌手］

8・15『PRIDE・GP』決勝ラウンド一回戦は“皇帝”ヒョードルと対戦することになった“キャプテン・ハッスル”!
“『ハッスル』を広めるため”だけのモチベーションで『PRIDE・GP』に乗り込んできたわけだが、
“最後のハッスル査定試合”を前にして、その心境はいかに——?

構成／ジャン斉藤　撮影／森モーリー鷹博　試合写真／平工幸雄　designed by hisa (Two Three)

祝！『ハッスル音頭』発売決定記念インタビュー

小川



まさかの長州力との合体を果たした7・25『ハッスル4』の翌日。『PRIDE・GP決勝ラウンド』に向けて周囲も緊張感高まる中、小川直也自身も周波数をGPに合わせ極秘特訓に入ってい……なかった。

この日、小川直也は都内某スタジオにいた。8・15に会場緊急発売が決定した『ハッスル音頭』（作詞／"キャプテン・ハッスル"小川直也。歌／小川直也。後になんと髙田総統が歌うスペシャル・バージョンが収録されたものも発売されるという！）のレコーディング中だったのだ。

その合間を縫い、山口日昇＝本誌鬼畜編集長が久しぶりにオーちゃんにインタビューするはずだったのだが……。

【小川直也が待つ部屋に山口日昇が入ってくる】

山口　小川さん、オイッスぅ!!（中村カントクを真似ながら）。『ハッスル4』はお疲れさまでした!!

小川　おお～、編集長！……いや、"ハッスル大統領"！　大統領が自らやって来てくれるなんて嬉しいねぇ。最近忙しいからねぇ、大統領も。（嫌みたっぷりに）俺のことなんかインタビューしてる場合じゃないでしょ？

山口　いや、お察しの通り、すぐにおいとましちゃいます。ちょっと近くを通りがかっただけですから。

小川　は？

山口　心配しないでください。インタビューはウチの秘密兵器・斉藤がやります！

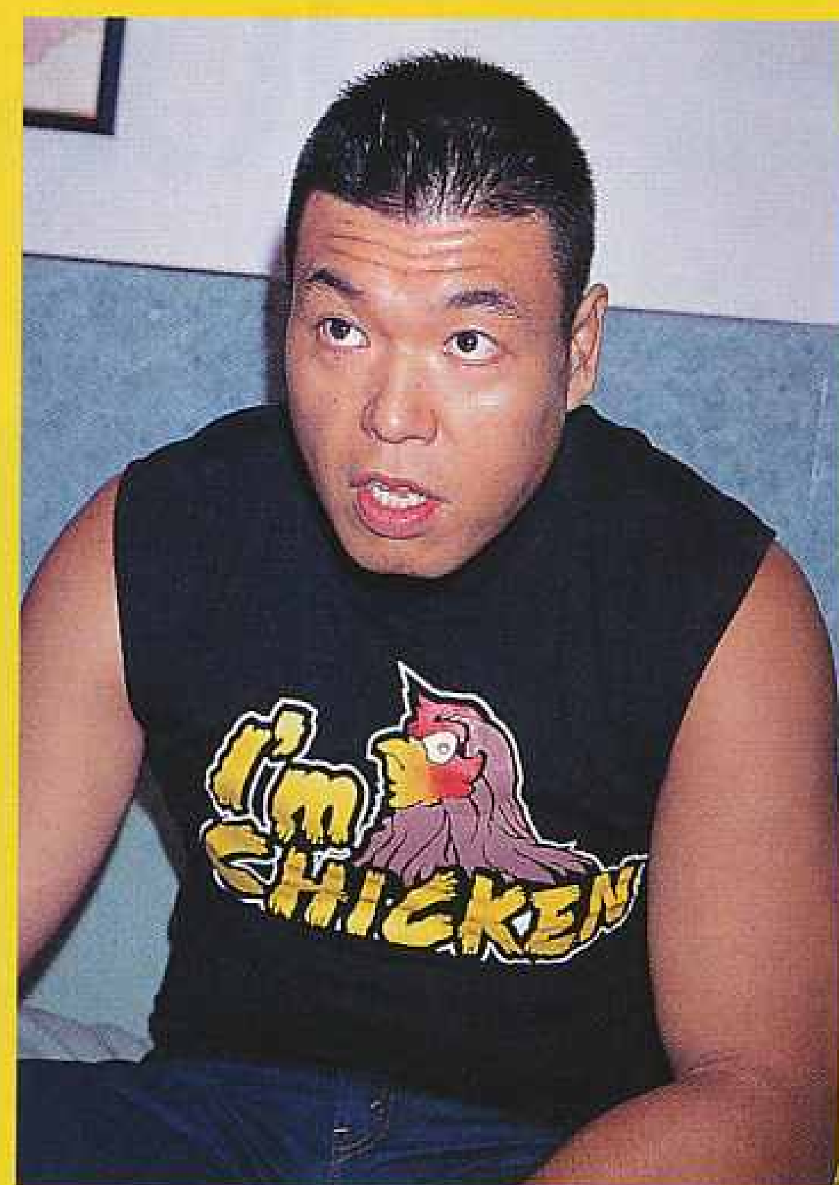
小川　あ？　今日は久しぶりに大統領がインタビュアーなんじゃないの？

山口　いや、本当はそうするつもりだったんですが、すぐ近くで、ど～うしても外せない用事ができちゃいまして……。

――ボ、ボクがやるんですか？　今回は会長（山口日昇のアダ名）がやるって言ってたじゃないですか！

小川　いい加減な会社だなぁ～。大統領はホントに帰るわけ？

山口　すいません！　ど～～しても外せない用事なんです。せめて挨拶だけでもしようと立ち寄ったんですよ。それから小川さん、大統領と呼ぶのはやめてください。わけわかりませんから。じゃあ、さいちん（斉藤の呼び名）、あとはよろしく！



小川　おいおいおい、外せない用事があるって俺のインタビューは外せるのかよ！

【脱兎のごとく帰りかけた山口が、ドアの隙間からヒョコっと顔を出し】

山口　じゃあ小川さん、『PRIDE・GP』決勝戦、「勝っても負けてもハッスルできなきゃみな同じ」ということで、大いにハッスルすることを期待してます!!　失礼しま～す（と言い残し、本当に帰ってしまう）。

小川　（ア然としながら）しっかし……偉くなったもんだねぇ、大統領は！　昔はもっと付き合いがよかったのになぁ。

一番ハッスルしたのは"ロートルの黒パンツ"じゃない

――ほ、本当にすいません。今日はよろしくお願いします！

小川　キミに謝られても困るんだけどさぁ。最近、大統領が来ないときに来るインタビュアーの彼（堀江ガンツ）はどうしたの？

――堀江はロシアに行ってまして……。

小川　ロ、ロシア⁉　出張か？

――はい。小川さんと同じく『PRIDE・GP』決勝ラウンドに出場するハリトーノフの取材ですね。

小川　ヒッデェなあ。ハリトーノフだかハリー・ポッターだか知らねぇけどさ、俺のことは置いてけぼりかよ。彼とはこのあいだ「仲良くやろうな！」って意気投合したばかりなのに、もう裏切りかよ！

――か、重ね重ねすいません！

小川　『紙プロ』は本当は俺のことなんて、どーでもいいと思ってるんじゃないの？　そうだろ？

――い、いや（冷や汗）。小川さんに毎号出ていただけるお陰か売れ行きは好調でして、8月は2冊出すことになりましたから。

小川　お！　ついに隔週の道が見えてきたな!!　その調子でバンバン出して、ハッスルしてくれよ!!

――ところで、あの川田さんや橋本さんがファンのド肝を抜くド派手なニューコスチュームでハッスルしまくった『ハッスル4』も評判がいいですね。

小川　評判がいい？　俺はまだまだハッスルが足りないと思うけどね～。

――まだまだハッスルが足りない！　小川さんのハードルが高いところに設置してあるというのは実にいいことだと思います。

小川　それぞれ各自がハッスルしてくれたのはたしかに嬉しいよ。でも、現状に満足してたらダメだろ！　『ハッスル』はもっともっと上を目指さないといけないんだから。あの程度で満足してる場合じゃないよ。だってさ、まだ『4』だよ。某S代表は去年暮れの最初の会見で「『ハッスル100』を目指します」と言ってたんだからね。まだまだ通過点ですよ。

――実はまだ10分の1もクリアしてない、と（笑）。その『ハッスル4』で一番ハッスルしてたのは、先日の『ハッスル・ハウス』に続いて髙田総統じゃないかと……。

小川　（遮って）いや、髙田総統とやらが言うところの"黒パンツのロートル"が一番ハッスルしてたでしょ。

――小川さんとまさかのタッグを結成した長州さんですね。

小川　"黒パンツのロートル"と言ったら他に誰もいねぇだろ。

――長州さんは入場するまで正体不明の"超大物X"ということで、パワーホールが流れた瞬間に会場が大爆発しましたね！

小川　ファンも「もしかしたら……」という推測と「まさかあの"黒パンツのロートル"が……」という驚きが入り混じった中での出来事だったからね。

――小川さんと長州さんは過去にいろいろあって、恩讐を乗り越えての初タッグとなったわけですが、同じコーナーポストに並び立った感触はいかがでしたか？

小川　いやぁ、"黒パンツのロートル"はハッスルしてたよ！　だってさ、途中でタッチしたときに「小川！　ハッスルだぞ!!」と言われたから。

――え？　長州さんがそんなこと言っていたんですか⁉

小川　ビビってたじろいじゃったよ、ホン





7・25『ハッスル4』で初タッグを結成した因縁深い小川と長州。試合前には恩讐を越えてガッチリ握手！　STOとリキラリアットの共演も披露してくれた。長年の2人の関係を知る者にはにわかに信じられないシーン。『ハッスル』を軸に地殻変動が起こっているマット界。次は何が勃発するのか!?

トに（笑）。俺の中では「もっとハッスルしてくれよ！」という希望はあるんだけど、彼は彼なりに精一杯やってくれてたよ。その姿勢にファンがあそこまで熱狂して感動したんじゃないかな。〃黒パンツのロートル〃の『ハッスル』に対する姿勢は、ファンに十分伝わったと思うよ、俺は。

――試合後の、ハッスル軍とモンスター軍の睨み合いのときも、いつもの長州さんならすぐに控室に引き上げても不思議じゃないんですけど、比較的最後のほうまでリングに残ってましたからね。

小川　〃最後までいてくれりゃいいなぁ……〃って思ってたけどさ、あれはしょうがないよ。ファンがいくら「長州コール」を送ったとしても、リングに戻ってこないのはわかってたし。だから俺は「今日は無理ですけど、近いうちにハッスルさせるよう努力します」って謝ったんだよ。お客さんはちゃんとわかってくれたけどね。

――ハッスルポーズをしなくても、長州さんは存在感は示してましたし、ファンも満足したんでしょうね。

小川　ある意味で『ハッスル4』は〃黒パンツのロートル〃のためにあったようなもので、最後は気持ちよくハッスルをさせようと、俺はいろいろ壮大な計画を考えていたんだけど……髙田総統とやらの独壇場が長すぎてペースを狂わされたな。あれには毎回やられっぱなしだよ（笑）。

NAOYA OGAWA

――総統は暴走しかけても、必ずブーメランのように話が戻ってきますからね（笑）。

小川　総統とやらは総統とやらで壮大で良からぬことを考えてるだろうな……でも、次回へいい意味で持ち越したことで、ファンの期待感はさらに大きく膨らんでると思うけどね。それにもしかしたら〃黒パンツのロートル〃の方も次の展開を虎視眈々と考えてるのかもしれないしね。〃黒パンツのロートル〃は俺らより一歩先に行ってるかもしれないな。

――長州さんがこれからさらにハッスルするためには、川田さんや橋本さんみたいに、ハッスルテイストのコスチュームを着用するべきなんですか？

小川　勘違いされると困るのは、『ハッスル』はコスチュームを変えることが狙いじゃないんだよ。まず気持ちがどれだけハッスルできるか。それからハッスルポーズに込められた意味合いや、コスチュームに象徴されるよう意味合いを理解した上で、どこまで自分の殻を破れるかが最も重要なんだよ。そりゃあみんなキャリアや歴史があるんだから、各自の中に〃俺は変わんなくていいや……〃っていう思いもあるんだろうけど、ファンが喜ぶんならチャレンジした方がいいと思わないか？

――橋本さんや川田さんが変わったあとのファンの熱狂度も明らかに違いました。


小川　〃黒パンツのロートル〃にしても、あの歓声がすべてを表してるんじゃないの？「〃超大物X〃作戦」は大成功だったよ。初めてと言っていいくらいハッスル軍がしてやったり、だったね。ビビってたじろいだのはモンスター軍の方だろう？

――そのモンスター軍から『ハッスル4』への出場が発表されていたマスクド・ノーフィアーは、欠場というか来日不……。

小川　（遮って）誰だ、それ！

――『ハッスル・ハウス』にも出現した〃高山らしき人物〃が正体だったんじゃないかとも言われてますよね。

小川　〃高山らしき人物〃だかなんだか知らねぇけど、一歩踏み込んでおいて「出



る・出ない」で踏ん切りつかない奴は、いまの『ハッスル』には向いてない！〝黒パンツのロートル〟までもがあそこまでハッスルしてるときにアーダコーダ迷って……モンスター軍側だからどーでもいいけど、『ハッスル』に上がるには覚悟がいるよってことだよ。でもまぁ、髙田総統も血迷ったのか、信用して〝ビターン〟をかけてなかったんだろ？

――島田参謀長が再びそのことで髙田総統から制裁を受けてましたけど（笑）。でも、イベント的にはマスクド・ノーフィアー来日不可能の逆風は思いのほかありませんでしたけど、一度は出場が発表されていただけに残念ではありますよね。

小川　それがその何とかって奴のプロレスラーとしての姿勢なんじゃないの？　ヨソではそれで通用するのかもしれないけど、『ハッスル』ではそんな態度はやめてほしかったね。ホントにハッスルしたいんなら、ドップリはまり込んでもらわないと、ハッスル・ファンにだって失礼だよ。

――その姿勢で仮に出たとしても、妙な違和感も出ちゃいそうですよね。

小川　違和感というより浮いちゃうだろ。ハッスル・ファンはそういう選手やシチュエーションは求めてないだろうしさ。そういう選手やシチュエーションが好きな人間は、マスクド・ノーフィアーらしきデカイのが出るリングを見てればいいんだよ。『ハッスル』はプロレスの構造そのものも変えていく目的があるんだから、旧態依然とした態度だったら闘う意味もないでしょ。

――いかにビッグネームの選手といえども、『ハッスル』の世界観を理解しないと上がれないってことですよね。

小川　傲慢な言い方かもしれないけど、もうビッグネームとか「誰vs誰」のカード至上主義じゃ通用しないでしょ、これからのプロレスは。それもたしかに大事な要素だよ。でも、プロレスファンやプロレス業界だけじゃなく、世間に対してプロレスをアピールしていくためには、何か新しいものにトライしていく姿勢がないと誰も振り向いてくれないだろ。

――それが川田さんや橋本さんの大変身だったりに象徴されるわけですか。

小川　さっきも言ったけど、コスチュームを変えることが目的じゃないけどね。でも、みんな頑張ってるけど、まだまだ芯の部分で生まれ変わってないよ。〝ハッスルK〟もまだちょっと踏ん切り悪いじゃん（笑）。

――あそこまで振り切っても、まだ踏み込みが足りないわけですか？（笑）。

小川　〝ハッスルK〟は「やりたかないけど……」とかさ、いちいちうるせぇんだよな、ハッキリ言っちゃうと（笑）。

――試合後のマイクで「こんな格好までさせられて」とも言ってましたね（笑）。

小川　あそこまでやっているのに「やりたかないけど……」という態度を見せるのは、お客さんに対して失礼じゃん。「〝ハッスルK〟って呼んでくれ！」って言っといて、グズグズ言うなって（笑）。

――そのうえ「俺だけのハッスル」宣言もブチあげましたね！

小川　〝キャプテン・ハッスル〟として敢えて言わせてもらうけど、不満は俺たちに言やぁいいんだよ。お客さんの前では何も言わず黙ってハッスルする。〝ハッスル・キング〟に関しても〝ハッスルK〟と同じだよ。「こういう格好までして」とか、そうじゃねえだろって！　恥ずかしいことを恥ずかしがらずにやることがプロレスラーなんだからさ。まだ恥ずかしがってるようならハッスル度はゼロだよ。うん。

NAOYA OGAWA

――いやあ～、ハッスル山の頂点への道は厳しいですね！

小川　厳しくねぇよ！こんなの当たり前‼ ああいう格好したんだから完全に振り切ってくれればいいんだけど、まだどっかに昔の自分があるんだろうな。

――キングの「トルネ～～ドォォォオ、ハッスル‼」は全開フルスイングだったんですけどね（笑）。

小川　しかし、あの衣装をあれだけ恥ずかしがる男が、よくトルネードなんかやるよね～。

――ワハハハ！　久しぶりに破壊王パワーを感じました。

小川　あの人には定義や基準がないことがあらためて痛感したよ（笑）。

――あのコスチュームは恥ずかしくて、トルネードは恥ずかしくない、という基準もさすがですよね（笑）。

小川　トルネードが恥ずかしくないのは、ハッスルポーズが流行ってるから安心してできるんだよ。

――あ、そういうことなんですか？

小川　キングは新日出身だもん。新日本は成功してるものに対して追従するからさ。

――なるほど（笑）。あのトルネードはこれから定番になるんですか？

小川　どうなんだろう？　キングには「最後のシメに今日はトルネードをやろう！」とは言われてたけど、俺は〝黒パンツのロートル〟にどうやってハッスルポーズをさせるかってことで頭がいっぱいだったから普通に無視してたんだけどね（笑）。

――それでキングは自分の試合のあとで、ひとりでトルネードしちゃったわけですか。

小川　俺がいい返事しなかったからでしょ。だって、イベント的には〝黒パンツのロートル〟がハッスルポーズをしてくれるのがベストだったけど、いくらなんでもトルネードまではやってくれないだろ？

――たしかに普通のハッスルポーズよりも難しそうですよね（笑）。

小川　でも、みんな『ハッスル』に前向きになってきたよね。ようやくハッスル軍にもまとまりができてきたかな。

――でもよく考えたら、とてもまとまりきらないような凄いメンツなんですよね、ハッスル軍は。

小川　そうなんだよ。だからキャプテンは大変だよ（笑）。キングやKも大変かもしれないけどな。

――イベントの手法にも関わることなんでしょうけど、小川さんは最後、笹原GMに「チケット代はどうにかならないか？」ってリング上から直談判されてましたね。

小川　直談判というより「チケットが高いと思わねえか？」という提案だよ。

――たしかに他のプロレス興行と比べると『ハッスル』は高めですよね。

小川　高いことが決して悪いこととは言わないよ。否定はしない。だけど、ファンには何度でも『ハッスル』に来てほしいからね。値段はそのままでも、たとえば回数券みたいシステムで何かしら特典が付いてもいいし、毎回観に来る人には割引サービスをしてもいい。あとは子供料金を設定しないとダメだね。

――うちの編集長はマイレージ制を導入しろとか言ってましたね（笑）。

小川　だから俺が言いたいのは、チケットの値段が本質的な問題じゃなくて、いかにしてファンをハッスルさせることができるのか？　という命題なんだよ。GMにチケット価格の提案をしたのはそれがすべて。でも、あまり言っちゃうと、あのGMは悩みそうだからなぁ……。でもまぁいいな！



嬉しいよね。〝キャプテン・ハッスル〟になったあとに、ちゃんとハッスル軍のみんなが動いてくれるんだから。



史上最大の査定試合は史上最大の緊張感がリングを支配する！　決勝ラウンド一回戦の相手はノゲイラが有力視されていたので、発表会見の席で高田本部長の口から「小川vsヒョードル」が発表されると記者陣からはドヨメキが起こった。数々の強敵を葬り去ってきたヒョードルの“氷の拳”がオーちゃんに向けられることになる。ミルコの一回戦負けなど様々なサプライズを生んだ『PRIDE・GP』はどんなクライマックスが待っているのか――？



俺は髙田総統曰く〝スター気取りの笹原GM〟に、イチャモン付けるのが仕事だからな。『ハッスル』は10月のスケジュールまで決定していて、その速度はますます増していくわけですが、とりあえず次回は9・2『ハッスル・ハウス』になります。じつは同日に闘魂三銃士興行が予定されてたそうなんですよ。

小川　は？　そうなの？

――結局、足並みが揃わずに中止になったようですけど。

小川　というかね、そんなレベルの話はいいよ！　だいたい三銃士興行なんかやって、得るものなんて何もないだろう。打ち上げ花火を見たい人は行けばいいけど、こっちは続きモンだから見逃すと痛いよって（笑）。

――『ハッスル』も、初めは業界から打ち上げ花火的なイベントとして捉えられていたわけですが（笑）、いまはストーリーを軸に迫っていってますよね。

小川　初めはね。俺も打ち上げ花火で終わらす気かな？って思ってたもん（笑）。ストーリーを追うのは、俺たちが特別なんじゃないよ。それがもともとのプロレスの姿なんだから。俺たちは昔ながらのプロレスの芯の部分を『ハッスル』流にやってるだけ。……じゃあ、●日本のプロレスは何だろう？　ってことなんだけどさ。もしかしたら、彼らは〝未来のプロレス〟をやってんじゃねえのか？

――〝未来のプロレス〟！　言葉の響きはカッコいいですね（笑）。

小川　意外と俺たちの上を行ってるかもしれないね（笑）。ま、俺たちは着実に〝続き〟のあるプロレスをやるだけですよ。

――しかし、『ハッスル』がスタートした今年の1月には考えられない状態ですよね。長州さんや川田さんがここまで『ハッスル』に踏み込んでくれると、小川さんも更なる使命感が沸き上がってくるんじゃないですか？

締切ド直前の緊急ニュース！
ハッスル・キングが右肩の手術を決意!!

佐藤耕平が『火祭り』優勝を飾った8・1ZERO-ONE後楽園ホール大会で、ハッスル・キングこと橋本真也が負傷中の右肩にメスを入れることを告白した！　「プロレス生活20周年を迎え挫折も栄光もつかんだが、その代償に身体がボロボロになった。いまの状態で試合を見せるのが心苦しい。治るかどうかはわからないが、肩の手術をしたいと思う。破壊王のチョップはこんなもんじゃない。わずかの勇気と時間をください。必ず破壊王として戻ってくる!!」と衝撃のマイク。予定では「9月半ばには手術」「年内の復帰が目標」で、肩は「医学的に言えば、腕が上がるのはおかしく」「腱が3本切れている」危ない状態だという……。ハッスル・キングを見ているだけで幸せになれるのは、P81をご覧になればおわかりになれると思う。もっともっと元気になって帰ってきてくれ！



自らが作詞した『ハッスル音頭』の収録に挑む小川直也さん（新人歌手）。噂によると総統からDSEに総統自身が歌唱した『ハッスル音頭』のテープが届けられたとか。友人の本部長はハウンド・ドッグ風なシャウトをするが、総統ははたして？

小川　嬉しいよね。"キャプテン・ハッスル"になったあとに、ちゃんと彼らが動いてくれるんだからさ（しみじみと）。

——その『ハッスル』大爆発のひとつのきっかけになったのが、小川さんの『PRIDE・GP』出場だと思うんですけど、いよいよ最後の"ハッスル査定試合"を迎えます。スタンスは過去の二戦と変わらないわけですよね？

小川　何度も言わせるなよ！　目的は『ハッスル』を広めるためだけ!!　ここで俺が「いや、『ハッスル』のためじゃなくて、実は……」って話したら、バカみたいじゃねえか！

——し、失礼しました。

小川　さっきも言っただろ？　『ハッスル』は流れが大切なんだから。俺が『ハッスル』に出るためには、"ハッスル査定試合"でハッスルしないといけないんだよ。

——いまの時点で対戦カードの発表はされてないですけど、対戦相手のことはとくに意識されてないんですか？（※数日後に小川の対戦相手はヒョードルと発表された）

小川　対戦相手？　対戦相手なんて残り3人しかいねえじゃねぇかよ。もう誰だって同じだよ。

——『PRIDE』が実施した対戦カードのアンケートによると、会場アンケートでは「小川vsノゲイラ」が1位、海外も含むネットアンケートを足すと「小川vsヒョードル」が1位らしいです。

小川　対戦相手やカードの話とかさ、そういう話はやめようよ。『紙プロ』に似合ってねぇよ。そういうことは俺の知らないところで勝手な憶測記事を書かせてればいいんだよ。最近もそんな雑誌が出てただろ？

『男祭り』？　俺は『ハッスル音頭』で紅白に出る!

——そういえば、某・格闘技雑誌の表紙が小川さんで、「ハッスルの裏側に秘められた柔道家としての本質」という特集をやってましたね。

小川　俺もたじろいじゃったよ！　本屋に行ったら俺に似た奴が表紙だから思わず手に取ったんだけど、たしかに俺だとわかったからすぐに元に戻したけどね。

——念のために確認しましたか（笑）。

小川　ヒドイ話だよ。俺が『PRIDE・GP』に出るのは、『ハッスル』を広めるためなんだから。裏側も何もないんだよ。『ハッスルの裏側』って、表も裏も『ハッスル』しかねぇんだよ!!　俺はね、他の雑誌に出たくないんじゃなくて、彼らに俺の真意を説明してる時間がないんだよ。ファンに対してはもちろん説明したいよ。ただ、俺は自分の姿勢を雑誌社に対して説明する時間がないだけ。ファンに対して言ってることをそのまま載っけてくれればいいんだけど、な～んか歪曲するからさ。

——「格闘技専門誌」をうたっているから、どうしても格闘技的に料理したいんでしょうね。

小川　料理したいんだったら美味しく料理してくれよ。釣ってきた魚を水槽に入れちゃったり、勝手にイジって加工したりしてさ。刺身食いたい人がたくさんいるのに煮魚出したり。干物のときもあるからな（笑）。

——干からびた記事（笑）。

小川　そうじゃなくて、『紙プロ』みたいに新鮮なうちに刺身の五点盛りみたいなものをパッと出してくれって。そういうものをみんな食べたいわけよ。俺には格闘技雑誌が何を求めてるのかハッキリわからない。

ヒョードル戦が発表になった日の翌日に「ハッスル会社訪問」!!



7月30日、ハッスル・キャプテンが「ハッスル会社訪問」を敢行！　『PRIDE』HPで「小川直也にハッスル注入してもらいたい企業」を募集したところ100件以上の応募が殺到!!　その中の一社が中央区の携帯コンテンツ製作会社・株式会社ドワンゴだった。キャプテンはいきなり取締役会議が行われている部屋に乱入すると、「元気がないなぁ～。社長、誰？」といきなり小林宏社長を指名!!　さっそくハッスル・ポーズをレクチャーしたが声が小さい。キャプテンは「ダメだこりゃ!!」と、いかりや長助ばりにダメ出し！　取締役全員の胸にハッスル・ステッカーを貼り付けて奮起を促し、最後には全員で「3、2、1、ハッスル!!　ハッスル!!」を成功させた。そんなコーチの合間に、ちゃっかり「今度『ハッスル』の携帯サイトも作ってください」と懇願すると、小林社長は「わかりました」と返答!!　満足げな表情を浮かべたキャプテンは、『PRIDE・GP』については何も語らず、そのまま会社をあとに。日本にはまだまだハッスルを必要とする会社は多数ある。あなたの会社にキャプテンがギョロ目をひんむいて乱入……する日も近い!?

GPを選んだのは、そのときに一番強い奴とやるためですよ。

――単純に格闘家としての考えやアスリートとしての姿勢じゃないですかね。

小川　俺は格闘家じゃないもん！

――プロレスラーだと。

小川　おまえさ、何くだらねえこと聞いてんだよ！　ここまで取材に来といて、まだ俺が何者かわからねえのかよ？

――（たじろぎながら）は……？　プロレスラーじゃないんですか？

小川　ここ、どこだ？

――ろ、録音スタジオです！

小川　だったら俺は歌手に決まってるんだろ！　『ハッスル音頭』でCDデビューもするしさ。ちょっとはTPOをわきまえた取材をしろよ。

――失礼しました（笑）。え～、「歌手」小川直也さんにお伺いしたいんですが、小川さんが作詞して自ら歌う『ハッスル音頭』のレコーディングはいかがでしたか？

小川　レコーディングはバッチリだよ。咽が潤れちゃったけどさ。かつての破壊王のCDよりはいい内容になったんじゃねえの（笑）。それはそれでちょっとハードルは低い話だけどさ。

――いや、マニアの間では、『橋本元年』はなかなか越えることができない伝説の名盤ですよ！（笑）。

小川　（聞かずに）『ハッスル音頭』を全国の盆踊りで使ってくれないかなぁ。

――発売は秋だから盆踊りの時期からは外れますけど、小学校の運動会には盆踊りをやるところもあるので、その学校を巡業するのも面白いですよね。

小川　それはいいね。各地の学校を回りたいな。そして最後に狙うは紅白だよ！

――紅白に総統やキングやハッスルKが全員集合するシーンは見たいですよ！

小川　でも、『PRIDE』は大晦日に『男祭り』とやらをやるんでしょ？　ま、俺はハッスル軍だから紅白に出る!!（キッパリ）。

――比重としては歌手とプロレスラーが同率で、その下に格闘家が位置してるわけですか？

小川　違う！　歌手・プロレスラーときて、次にはアクターが来るんだよ。調べておけよ！

――ア、アクター……アクターとしては、『ごきげんよう』での小堺さんとの絡みが噛み合ってなかったと高田総統から指摘を受けてましたが。

小川　昼間からテレビ見てるなんて、総統とやらもヒマな奴だよね～。でも、あれはアクターじゃなくて、タレントとしての仕事だよ。

――あ、まださらなる階層があるわけですか（笑）。

小川　アクター、タレントはあるけど、格闘家というものは俺の中の階層ではかなり低いんだよ。格闘家の前にも柔道家というものがあるから。

――当たり前の話ですけど、柔道家としての小川直也が占める割合は大きいんですよね？

小川　柔道にはいろいろお世話になったからね。自分の人格形成とか、人生を生きる上で学んだものは多いから。柔道をやってたから世の中というものを見ることができたし、見聞を広めることができたから。

――すべての階層をトータルした小川直也で、『ハッスル』なり、そして『PRIDE』に臨むということですね？

小川　トータルというか、いまは歌手としてハッスルしたいね。やるんだったらとことん突き詰めないと（笑）。

――それなら、『PRIDE・GP』に『ハッスル音頭』で入場するべきです（笑）。

小川　ダハハハ。よし！　『PRIDE』のパンフレットのプロフィールは〝歌手〟にしてもらおう！

――「小川直也（歌手）」（笑）。〝シンガーソングライター〟のほうがカッコいいですよ。

小川　シンガーもいいなぁ。でも日本語で「歌手」だな。ここまで落としたんだったら、カッコつけちゃダメじゃん。ここまでいったら歌手でいこうよ。しかも「小川直也（新人歌手）」で（笑）。

――今年一番の超大型新人です（笑）。

小川　紅白に出るにしても、敵は多いからなぁ。『PRIDE・GP』なんか、次は相手はたった3人だぜ。歌手なんて何千、何万っているんだぞ!!　それに一生語り継がれる歌になるには、もっと大変だろ。目指すはベートーベンやシューベルトですよ。

――ノゲイラは相手じゃない、と（笑）。

小川　100年後にヒョードルが語り継がれるか？　その違いだよ。上には上がいるっていうことをわかってほしいな。

――目標を大きく設定にすることで、モチベーションを膨らませていくわけですね。

小川　大きく設定するんじゃないよ。男として生まれたからには、一生に一度はハッスルしなきゃいけねえときがある!!　目標が大きいとかじゃなくて、とにかくやるからにはハッスルする。歌でもハッスルするんだよ。

――『PRIDE・GP』でもそれは同じ意気込みですか？

小川　何だよ、また『PRIDE』の話かよ！　せっかく歌の話をしてるんだから流れよくいこうぜ。

――そ、そうなんですが、試合直前なんで小川さんの意気込みを聞きたい読者も多いんですが……。

NAOYA OGAWA

クローズド・サーキットで
“灼熱の格闘大戦”を堪能せよ!!

『PRIDE・GP』決勝戦 スペシャル・ビューイング

＜スカパー！完全生中継＞

チケットが完売となった8・15『PRIDE・GP』を会場でもPPVでも観戦できないファンのために、全国3都市の特設会場にてクローズド・サーキットを開催されることになった。マット界ではもはや“死語”になりつつあったクローズド・サーキット。ここまで大規模な開催は新生UWF以来となる。札幌、大阪、福岡在住のプロ格者は特設会場でハッスルするしかない!!

［開催日］2004年8月15日（日）

［会場］
（札幌地区）Zepp Sapporo 札幌市中央区南9条西4-4
（大阪地区）Zepp Osaka 大阪市住之江区南港北1-18-31
（福岡地区）Zepp Fukuoka 福岡市中央区地行浜2-2-1

［開場］14:30～

［選手ゲスト］現在調整中

［チケット料金］前売¥2000/当日¥2500
※1ドリンク付消費税込

［チケットについてのお問い合わせ］
<札幌地区>チケットぴあ:TEL0570-02-9999
ローソンチケット:TEL0570-06-3001
<大阪地区>キョードー大阪:TEL06-6233-8888
<福岡地区>BEA:TEL092-712-4221

［お問い合わせ］
『PRIDE』スペシャル・ビューイング実行委員会
TEL03-3263-6997



【突然、ドアが開いて山口日昇が入ってくる】

山口　小川さん！　用事が終わったので飛んで帰ってきました！

小川　遅いよ、大統領〜。もう終わりだよ、インタビューは。

山口　それは残念だなぁ。で、どんな内容になったんですか？

小川　『ハッスル音頭』の歌手として、その意気込みをたっぷり語りましたよ。

山口　ガハハハハ！　じゃあ、まずは「打倒！橋本真也」ですね。

格闘技世界大戦ついにCLIMAX!!

小川　甘いなぁ、大統領は。目指すはシューベルトやベートーベンですよ。

山口　話がまったく掴めません（笑）。おい、さいちん。おまえ『GP』についてちゃんと聞いたんだろうな？　ヒョードルやノゲイラの話を。

――い、いや……小川さんが「俺は歌手だから……」って言うもんですから……。

小川　だってレコーディングの場に取材に来て、おまえ、俺が歌ってるのを聞いてただろ？

――は、はい！　聞いてました!!

小川　あれを見てプロレスラーだと思うか？　俺は歌手だろ⁉

――は、はい！　歌手です！

山口　じゃあ歌手の小川直也さんに聞きます。『ハッスル』を切り離した場合、今度の『PRIDE・GP』にはどういうモチベーションで上がるんですか？

小川　……ハッスルすることがとにかく一番だから、切り離せないんだけどさ、ひとつだけ言えることは、GPを選んだっていうことは、そのときに一番強い奴とやるためですよ。ヒョードルだろうがノゲイラだろうがさ。俺は相手が誰だろうと、目的はハッスルすることに変わりはないから、自然の流れに身を任せるよ。『ハッスル音頭』の歌詞にもある通り、「勝っても負けてもどちらでも　ハッスルできなきゃみな同じ」ってことですよ！　俺はもうハッスルするしかない！　よし！　じゃあ最後に大統領も一緒に行くゾー！

一同　おーーー！

小川　スリー、ツー、ワンッ！

一同　ハッスル、ハッスル、ハッスル!!

【7月26日／都内某レコーディング・スタジオにて収録】

『ハッスル音頭』のレコーディングから4日後、記者会見が開かれ、8・15のオーちゃんの相手はヒョードルと発表された。マスコミもファンも含め、「小川vsノゲイラ」との予想が大半を占めていただけに、この発表は驚天動地級のインパクトを与えた。

オーちゃんからのコメントは「ファン投票1位なんだったら自然な流れじゃん。誰も文句はねぇだろ？　ひとつだけ言っておきたい。ヒョードルは髙田総統の〝ビターン！〟は受けなくていいのか？」という非常に〝らしい〟ものだった。

しかし、オーちゃんの相手が『PRIDE』ヘビー級王者であり、穴はどこを探しても見あたらないと言われるヒョードルに決まったのだ。改めてもの凄いカードが決まったものだと思う。

試合展開の予測はつきにくいが、オーちゃんが勝つというシチュエーションを想像するといまから大興奮できるのと同時に、オーちゃんがハッスルできずにリングを降りる、もっと言えば『ハッスル』もろとも崩れ落ちる危険性も孕んでいるカードなのだ。

そんな史上最大のヒリヒリ感を周囲が感じているのをヨソに、オーちゃんはヒョードル戦発表の翌日には『ハッスル公式携帯サイト』を発進させるドワンゴをアポなしで会社訪問しハッスル三昧！　数日後には福岡競艇場でハッスル三昧！（自ら試しに買った船券で大穴を的中させるというサプライズも！）、〝ハッスル伝道師〟として驚異的な殺人的スケジュールをこなしている。

ヒョードルは森に入り、ハリトノフは不気味な沈黙を貫き、ノゲイラはチームを上げて調整中というなか、〝大丈夫なのか？〟という不安が頭をもたげるが、オーちゃんも走り込み、明大での柔道特訓、ピストン堀口ジムでの打撃特訓など、取材陣がわからないところでのGPへの周波数合わせを行っているらしい。

とにかく時は来てしまった！　史上最大の緊張感を伴う大一番!!　みんなの『ハッスル・パワー』を小川直也に注ぎ込もうではないか。ハッスルハッスル!!

8月15日『PRIDE・GP』対戦カード

［『PRIDE・GP』決勝ラウンド］

（1）小川直也 vs エメリーヤエンコ・ヒョードル

（2）アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs セルゲイ・ハリトーノフ

（1）の勝者 vs（2）の勝者

［リザーブマッチ］

ケビン・ランデルマン vs ロン・ウォーターマン

［スペシャルワンマッチ］

ミルコ・クロコップ vs エメリヤーエンコ・アレキサンダー

ヴァンダレイ・シウバ vs 近藤有己

vs

他ミドル級のカードを一試合予定

ハッスル舎弟・軍鶏侍が小川直也の強さを証言!!



斎野もみじ 補欠脱出 査定インタビュー

ハッスル補欠

藤井軍鶏侍

小川vsヒョードルが決定する6日前の7月23日、現在の小川を最もよく知る男・藤井軍鶏侍をキャッチ！ 未だ底を見せない、知られざる小川の実力について証言してもらった。そして今回は“編集部補欠”斎野が、補欠脱出をかけて査定インタビューに挑戦！「面白かった」というハガキが10通届いたら査定クリアとなり、晴れて正式な編集部の一員となれる。入社して1年以上経った田舎者は、この最大のチャンスをモノにできるのか!?

聞き手／斎野もみじ（補欠）
撮影／森“モーリー”鷹博
designed by matsu (Two Three)

——初めまして、『紙プロ』編集部補欠の斎野と申します！

軍鶏侍 どうも、藤井軍鶏侍です！

——藤井さん、今日は『PRIDE・GP』直前ということで、小川幻想が膨らむ話を聞かせてください!! 藤井さんはハッスル補欠ということで、僕と立場が似てるんですけど、今回は僕の補欠脱出をかけた査定インタビューなんですよ。というわけで面白い話をよろしくお願いします！

軍鶏侍 分かりました！ 補欠の辛さは僕も身をもって分かってますし、それに小川さんに関しては僕しか知らない話がいっぱいあるんで、任せて下さい！

——おお、頼もしいです！ 今日は隣に小川さんがいないので、何でも話しちゃって下さい（笑）。ではいきなりですが、ズバリ言って、小川さんは優勝できると思いますか？

軍鶏侍 もちろん（キッパリ）。試合は何があるか分からないですけど、どう考えても100％勝てると思いますね。

——断言できると。それは心強い！

軍鶏侍 例えラッキーパンチが当たっても倒れないですよ。以前、小川さんと立ち技のスパーリングしてたら、僕のパンチがまぐれでいい角度で入ったことがあったんです。僕は凄い手応えを感じたんですけど、それでも小川さんは倒れませんでしたから、かなり打たれ強いことは間違いないですね。こっちはホント自信なくしましたから（苦笑）。

——最高のパンチをもってしても小川さんからダウンを奪えなかったと（笑）。では、改めて聞くのも何ですが、ハッスル柔道王のグラウンドに関してはどうでしょうか？

軍鶏侍 いやあ、僕なんかが言えるレベルじゃないですけど、何かの拍子でスポッと関節が入ったとしても、簡単に返しちゃうことが想像できますね。

——スポッと入るといえば、最近のノゲイラには“スピニング・チョーク”という必殺技がありますけど、明大柔道部で藤井さんがS・チョークを掛けて、小川さんが対策を練ってるという噂を耳にしたんですが。

軍鶏侍 小川さんは技術的なことを話したがらないので、僕も練習内容は言えないですけど、いろんな状況に対応する練習をしてるのは確かですね。っていうか、逆に、かける方の練習をしてますよ（笑）。

——え、逆にノゲイラにS・チョークを仕掛けるんですか!! それは見たいですねえ。

軍鶏侍 実験台になってますけど、やられた方は堪ったもんじゃないですよ（笑）。

——でしょうね（笑）。ところで先程は100％小川さんが勝つとおっしゃってましたけど、ヒョードル、ハリトーノフ、ノゲイラと、それぞれに具体的な対策を立てたりしてるんですか？

軍鶏侍 それは僕からは言えないですね。

——そこを何とか。僕の補欠脱出が掛かっ

ベスト4の中でも小川さんはモノが違いますよ!!

てるんで、少しだけでもお願いします！ とにかく誰が相手でも小川さんは勝ちますよ。

——では、勝つのは前提としてどの選手だと小川さんが苦戦すると思いますか？

軍鶏侍 ん～、3人とも同じぐらい勝つのは大変でしょうけど、でも3人の誰が来ても小川さんは勝てると思うんで。

——やはり小川さんはモノが違うんですね。

軍鶏侍 一緒に練習してるから言うんじゃないですけど、全然違いますよ。グラウンドに関しては、柔術とかサンボで強いと言っても、小川さんは柔道という桁違いの競技人口の頂点ですからね。打撃にしても小川さんはレコにパンチを当ててるし。

——寝ても立っても全く問題はないと。

軍鶏侍 僕も総合のキャリアは結構長いし、いろんな団体で試合して、いろんな道場行かせてもらいましたけど、小川さんだけは桁外れですよ。まあ、逆に小川さんが極められるところも見てみたい気がしますけどね（笑）。

——そんなこと言っちゃっていいんですか？（笑）。

軍鶏侍 い、いや……、それぐらい小川さんが凄いっていうことです！

——分かりました（笑）。話を戻しますと、藤井さんは、練習でも小川さんが極められてるとこは見たことないですか？

軍鶏侍 ないですね（キッパリ）。

——藤井さん自身も取ったことがないと。

軍鶏侍 もちろんないです！（なぜか得意気に）。

——断言してどうするんですか（笑）。

軍鶏侍 まあ、練習で取った取られたっていうのは、レベルの低い話なんで。いくら練習で強い人でも、本番で勝てない人もいるし。

——では、強いて小川さんの弱点を挙げるとしたらどこですか？

軍鶏侍 ん～……（長考）。しいて言えば高所恐怖症ぐらいですかねえ。

——あの小川さんでも、高い所はビビってたじろぐんですか？

軍鶏侍 はい。ある取材でマレーシアに行ったときに、吊り橋を渡ったんですよ。吊り橋に負担が掛からないように、5m間隔で一人ずつ渡るんですけど、小川さんがガチガチになってて進むの遅いんですよ。僕は後ろから付いて行ったんですけど、僕の後ろにドンドン人が詰まってきちゃって。しょうがないから僕が間を詰めたら、小川さんに凄い形相で「5m以内に入るな！ コノヤロウ!!」って怒られました（笑）。

——よっぽど怖かったんでしょうね（笑）。

軍鶏侍 僕なんかハンディカメラ持ってたから片手なのに。あのときタックルに入ってれば、確実にテイクダウン取れましたね。

——っていうか二人とも落ちて死んじゃいますよ！（笑）。

軍鶏侍 そんな状況じゃなきゃタックル取れないですから（笑）。



日々のハードな練習と理不尽な扱いで、いつ何時、どんなことにも耐えられる猪木イズムを注入されている軍鶏侍。自分自身、精神的な成長を感じているという。

アッ、そう言えば！

——どうしたんですか、急に（笑）。

軍鶏侍 『PRIDE・GP』当日の8月15日は、僕の誕生日なんですよ！

——じゃあ小川さんが優勝したら、マイクで「今日は軍鶏侍の誕生日です！」って言ってもらいますか（笑）。

軍鶏侍 あとで「金払えよ」って言われそうだなあ（苦笑）。

——誕生日なのに金を取られてどうするんですか（笑）。GPが終われば、次はいよいよ藤井さんの出番ですね！

軍鶏侍 そうですね。今年で32歳ですし、勝負の年だと思ってます。

——若手と思いきや、97年にデビューされてますから、ファイターとしてのキャリアは、なにげに長いですよね。

軍鶏侍 そうなんですよ（苦笑）。小川さんは『ハッスル』を広めるために『PRIDE』で闘ってますけど、僕はもともと最強のプロレスラーになりたかったんですよ。その目標に近づけるように頑張ります！

——期待してます！ それでは最後に、改めて小川さんに一言お願いします!!

軍鶏侍 小川さん、優勝賞金で誕生日プレゼント買って下さい！

——優勝するのは前提なんですね（笑）。

軍鶏侍 小川さんなら優勝して当たり前！ それでは小川さんの優勝と、斎野さんと僕の補欠脱出を祈って、いきますかーッ!!

——オーッ！

軍鶏侍＆斎野 3、2、1、ハッスルハッスル!!

【7月23日／都内・某喫茶店にて収録】



ハッスルポーズで気合を入れる補欠コンビ。軍鶏侍着用のハッスルTシャツをサイン入りで1名様にプレゼント！ 応募方法はP159を参照。

藤井軍鶏侍、『ハッスル4』出場も、ハッスルできず!!



『ハッスル4』（04／7／25横浜アリーナ）「ハッスル軍vsモンスター軍」対抗戦の先鋒戦は軍鶏侍＆崔vsコールマン＆バルバロッサ。軍鶏侍はブランチャや得意のジャーマンで攻めるものの、最後はコールマンのみちドラで轟沈!!



カッコいいのに、未だ商品化の予定がない軍鶏侍Tシャツ。みんなでオーちゃんのHPに商品化希望の嘆願メールを送ろう！

誰も小川vsヒョードル戦を

次々と我々の常識をくつがえす男、それが小川直也だ。「ハッスル！ ハッスル！」といって、悪のりしていたかと思ったら、今度は『PRIDE・GP』の準決勝で、いきなりヒョードルとの対決が決まった。これなんかまさしく〝ハッスル効果〟以外の何物でもない。

もし小川の中で〝ハッスル〟という概念に出会っていなかったら、とてもヒョードルとやる気持ちにはならなかった。

つまりここが一番、大事なことだが、〝ハッスル〟は、小川自身を根本から変えてしまったのだ。以前の小川ならGPには絶対に出場していなかった。

それは誰の目にも明らかである。これまでの小川の言動と行動を知ってるものなら、みんなそう思うだろう。

〝ハッスル〟は小川の内なるトラウマを解放してしまったのだ。そうするともう何も恐れるものはない。矢でも鉄砲でもなんでもこいである。

ヒョードル？ おお、やってやろうじゃないかとなったのだ。そうでも考えないと小川vsヒョードル戦のカードは、とてもじゃないが理解不可能。

〝ハッスル〟には実をいうと、そういった魔法の力みたいなものがあったのだ。〝ハッスル〟を甘くみるなよ、である。決してなめてはいけないのだ。

ヒョードル戦を小川自身が決定したことで、さらに〝ハッスル〟への信頼感を勝ち取ることに成功。これは小川にとっては大きな意味がある。

〝ハッスル〟の普及活動と布教運動の二つをやっている男は、もうそれを証明するためにも、ヒョードルを対戦相手に選ぶしかなかったのだ。

このあっと驚く選択は小川の株をまた上げることになった。『ハッスル4』ではリングで長州とタッグを組み、最後に2人あわせてのフィニッシュホールドの共演までやってみせた。

小川の周辺にはこのようにあらゆる形で、我々の思惑をいい意味で裏切ってくれる出来事ばかりが起こっている。

これはもう〝ハッスル現象〟というしかない。

小川vsヒョードル戦はカードが発表された時、すでにマスコミとファンは共にKOされてしまった。

ええ？ ウソだろう？ まさか？ ホント？ マジ？ 冗談だろう？

そういう気持ちになった時点で、我々の負けである。小川の圧勝だ。

これを先手必勝の論理という。そうなると小川vsヒョードル戦の試合について考える気力と想像力がまったくわいてこないのだ。試合を想像する意味がなくなったといったら大げさだろうか？ なぜかというとヒョードル戦を決めた小川に対して、我々は尊敬の念を持ってしまったからだ。尊敬している人間に外野席からあれこれいうのは、どうみてもできない。

野次馬根性になろうとしていたのに、我々は自分でそれにブレーキをかけざるを得なくなったのだ。まったく困ったものである。小川に一本取られてしまった。

誰も小川vsヒョードル戦の試合を予想してはならない。予想という行為をしたら小川に対して失礼になる。そう思わないものは人間ではない。

そのことによって何が起こったというと、もはや『PRIDE・GP』は、誰が優勝しても、どうでもいいやという気持ちになってしまったことだ。

それぐらい小川vsヒョードル戦のカード決定は、これぞ史上空前のビッグアングルといってもいい。

たとえ小川がGPに優勝しなくても、私の心の中の優勝者は、すでに小川に決まっているからだ。もはや勝負あったのだ。GPで誰が優勝するのかという興味さえ打ち消してしまったのが、小川vsヒョードル戦である。

ということは小川は準決勝でヒョードルに負けても、その負けはまったく傷にはならない。当日、おそらく我々はこの試合をきわめて神聖な気持ちで見るはずだ。

違った形で小川を応援するはずである。それは勝って欲しいというものとは微妙に違う。なぜ小川はヒョードル戦を決めたのか、その心の内を見たいだけなのだ。

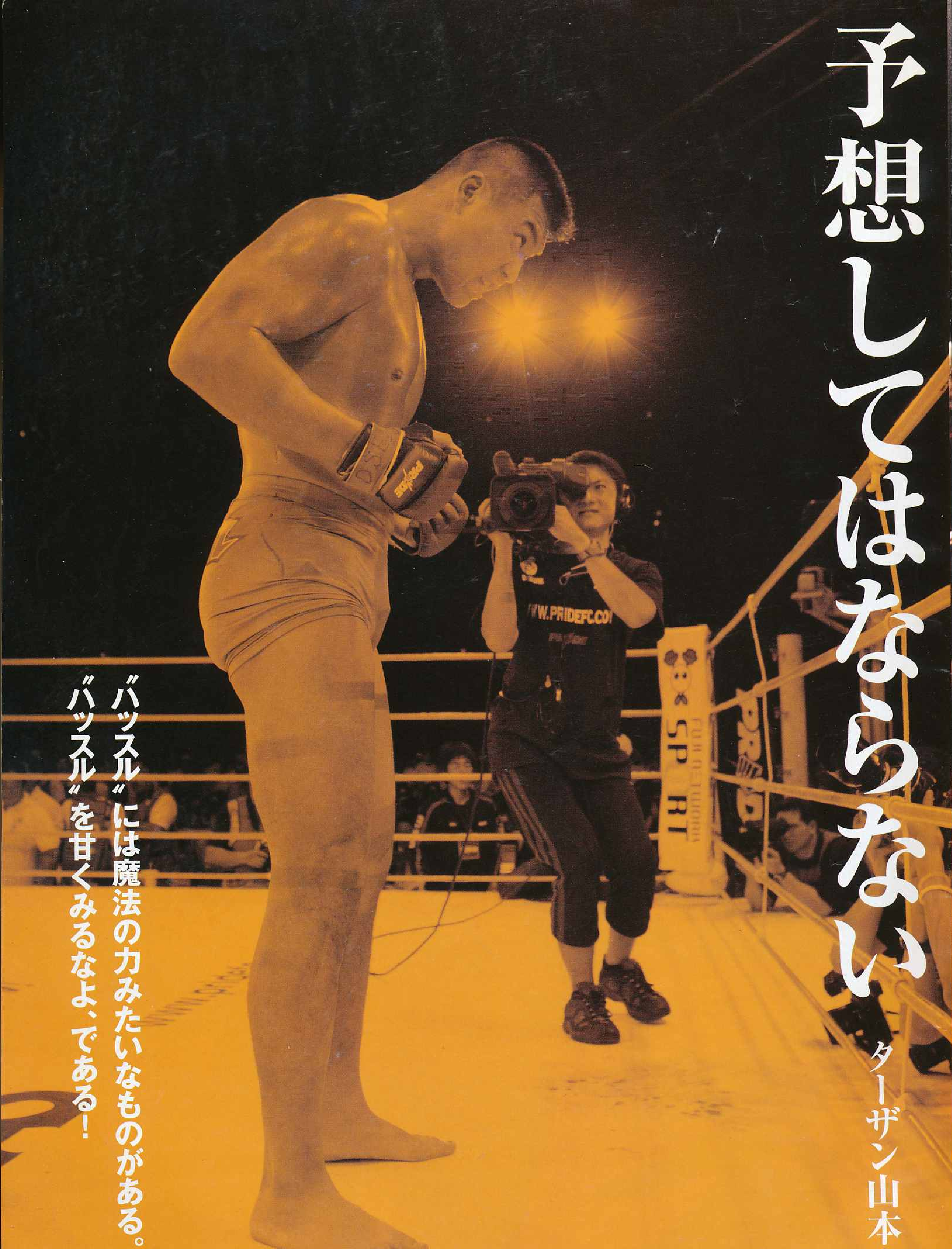
その答えは8月15日になったらわかる。今や小川vsヒョードル戦は試合の結果よりも、そっちの方に我々の興味は傾きかけている。

つまり我々にとって事実上のGPの優勝戦が小川vsヒョードル戦になってしまったのだ。もう一つの準決勝の試合であるノゲイラvsハリトーノフ戦は、どういう気分で見ればいいのか、全部、飛んでしまった。

小川はある部分で罪作りなことをしてくれたともいえる。でもいいのだ。小川が一つの謎になったことで、我々は活字プロレスおよび活字格闘技の場を与えられたのだから……。






予想してはならない


ターザン山本！

〝ハッスル〟には魔法の力みたいなものがある。
〝ハッスル〟を甘くみるなよ、である！

©乾晋也



8・15 PRIDE・GP
準決勝では
ハリトーノフと激突!!



Antonio Rodrigo Nogueira

「ヒョードルよ、GPのファイナルで最高のリマッチをやろう」

『PRIDE·GP』決勝ラウンドを直前に控え、絶賛特訓中のノゲイラに国際電話インタビューを敢行！　彼自身が「ファイター人生最大の闘いになる」と言う大一番を控えたいまの心境を聞いてみた。さらに、ハリトーノフ戦決定後のコメントも収録！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by matsu（Two Three）

——ノゲイラさん。追い込み練習の忙しい中すいません！　GP決勝大会直前ということで、少しお話が伺いたいのですが、よろしいでしょうか？

ノゲイラ　OK。問題ないよ。何でも聞いてくれ。

——では早速ですが、先月、橋本真也選手から伝授されたハッスルポーズ（リオのカーニバル・バージョン）はもうマスターされましたか？（笑）。

ノゲイラ　アハハハハ、いきなりいい質問だね（笑）。まだ完璧にはマスターしてないけど、ハシモトさんにコーチしてもらったことを忘れずに、しっかりと練習しているよ。ハッスル、ハッスル！

——ハッスルしすぎで腰を痛めたりしてませんか？

ノゲイラ　それは大丈夫。ちゃんと腰はいたわってるから。それならオガワの方が心配だと思うよ（笑）。

——では、体調は万全なわけですか？

ノゲイラ　いまコンディション調整中だけど、8月15日当日は、ベストなミノタウロをお見せすることを約束するよ。

——7月19日、PRIDE武士道で行われた日本vsブラジリアン・トップチームの対抗戦ではトップチームが見事勝ち越しましたけど、チームメイトの活躍は刺激になりますか？

ノゲイラ　もちろん刺激になるね。やはり試合を控えた選手が多いとチームに自然と活気がでるし、仲間がいい結果を残せたら、ボクもそれに続きたいと思うからね。

——あの日本vsブラジリアン・トップチームの対抗戦は、ビデオか何かでご覧になりましたか？

ノゲイラ　うん。ついこの間見たんだ。素晴らしいショーだったと思うよ。特にメインイベントのホジェリオvsナカムラ（カズ）はとてもタフな試合だった。そしてゴミ（五味隆典）もタフで強かった。彼はあの階級だったら最強の選手の一人なんじゃないかと思うけど、相手のファビロ・メロの本来のウエイトは、66キロで五味選手のひとつ下の階級なんだ。それなのに健闘したメロは同じチームとして誇りに思うよ。メロ以外にもブラジリアン・トップチームには良い選手がたくさんいる。だから本当は3vs3じゃなく、5vs5の対抗戦をやりたかったんだよ。次にまたこういった機会があったらゼヒ5vs5の対抗戦を実現してほしいね。



[ブラジリアントップチームvs日本 3対3対抗戦]

アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ○ [2R判定 2-1] ●中村和裕

1vs1のイーブンで迎えた大将戦。中村にとっては柔道からMMA転向第一戦の相手がこのホジェリオ（腕十字で一本負け）で、どうしても負けられない一戦だったが、ホジェリオは的確で鋭い打撃でペースを掴む。2Rに入ると首相撲からのヒザで中村を翻弄。判定はスピリットだったが、内容的にはホジェリオの完璧な返り討ちとなった



[ブラジリアントップチームvs日本 3対3対抗戦]

五味隆典○ [1R 8分7秒 グラウンドパンチによるKO] ●ファビオ・メロ

『武士道』2連勝と勢いに乗る五味が今回も快勝！　メロの懐に果敢に飛び込み打撃戦に挑んだ五味は、当たればKO必至のメロのフックを続けざまにかわして、自らは確実に拳を当てる。メロは実質的には五味より一階級の選手。勝利は当然かもしれないが、刮目すべきは"日本人中量級の場"『武士道』を盛り立てた、五味のアグレッシブな姿勢なのだ

——対抗戦ではなく、『武士道』チャレンジマッチに登場したルイス・ブスカペも素晴らしかったですよね。彼はどんな選手ですか？

ノゲイラ　とてもタフだよ。彼は顔がボクに似てるから、〝小さなミノタウロ〟なんて言われているんだ。彼こそぜひゴミと闘ってほしい。素晴らしい試合になることは間違いないよ。

——ノゲイラ選手自身は6月末にブラジルに帰ってから、誰とどこでどんなトレーニングをつんでいますか？

ノゲイラ　決勝ラウンドに備えて一日6時間のスケジュールでトレーニングを積んでいるよ。レスリングや寝技はブラジリアン・トップチームの仲間と集中的にトレーニングを重ねて、ボクシングはルイス・ドリア、ムエタイはルイス・エルベスがコーチについて、立ち技もスキルアップしてるんだ。

——今回のトレーニングはどういった点に一番重点を置いていますか？

ノゲイラ　サブミッションだね。ボクは「オール一本勝ち」の優勝宣言をしているから、とくに極めを意識しているよ。そして、誰が相手になっても極められる準備をしてのぞむつもりだ。

——さて、ではいよいよ『PRIDE・GP』の決勝ラウンドが間近に迫ってきまし

たけど、ベスト4に残った小川、ヒョードル、ハリトーノフの中で、誰が一番危険だと思いますか？

ノゲイラ　ハリトーノフのボクシングの技術はとても上達してるけど、ヒョードルのパウンドから比べると少し下かな。だからやっぱりヒョードルが一番の強敵だね。

――小川選手はどうですか？

ノゲイラ　オガワはボクから逃げるな。どうしても彼と闘いたいから、それだけは言っておくよ（笑）。

――逃げるなですか（笑）。

ノゲイラ　それは冗談として、彼の投げには絶対に気を付けなきゃいけないと思う。みんなそれぞれ違った技術を持ってるから、全員に対して注意は怠ってないよ。

――ノゲイラ選手から見て、小川選手の弱点はどこだと思いますか？

ノゲイラ　テイクダウンがあまり上手ではないことや、柔道式のサブミッションしかできないことが弱点だね。

――柔道式では柔術の寝技には勝てないと。

ノゲイラ　もちろん。オガワは優れた選手だしリスペクトしているけど、ボクは彼を極める練習をしっかりしているので、一本で勝つ自信があるよ。

――一説によると、小川選手もスピニングチョーク対策の練習をしているとのことなんですけど、気になったりしますか？

ノゲイラ　まったく気にならないね。どうぞ、たっぷり練習してください（笑）。



ボクとオガワが闘えば ホイスvs吉田みたいに 膠着するのではなく 本当の寝技が見せられる

Antonio Rodrigo Nogueira



[武士道挑戦試合5分2R]

ルイス・ブスカペ○ [1R 2分52秒 肩固め] **●阿部裕幸**

ブラジリアン・トップチームのブスカペが衝撃の『武士道』デビュー!!　試合が始まるや阿部を右ストレートで吹き飛ばせば、グラウンドに移っても、さすがはトップチームの猛者で独壇場。目まぐるしくポジションを強奪して、最後はガッチリ肩固め。ハリトーノフ、チェ・ム・ベ、軍鶏侍と続く、『武士道』挑戦試合の"目玉"は、このブスカペだった。



[ブラジリアントップチームvs日本 3対3対抗戦]

パウロ・フィリオ○ [2R判定 2-1] **●小路晃**

パウロは近藤、美濃輪らを完封勝ちしている猛者。小路も一本負けを喫した過去があり、これはリベンジ戦。戦前の予想では、パウロの弾丸タックルからのしつこい攻めが火を噴くかと思われたが、小路は脅威の粘り腰でそれを許さず。白熱したスタンド戦の終始。背をマットに付けることなく終了のゴング。きわどい判定で敗れはしたが、小路は良くやった!

――余裕ですねぇ。

ノゲイラ　ボクの寝技はスピニング・チョークだけじゃないし、あの技はいくとおりか入り方があるからね。まぁ、楽しみにしているよ。

――これまで小川選手は1回戦ステファン・レコ、2回戦ジャイアント・シルバとバーリ・トゥードの本職以外の選手との対戦が続きながら、人気はブッチ切りナンバー1ですけど、それについてどう思いますか？

ノゲイラ　彼は柔道のメダリストだし、日本人にとってアイドルだからね。それは当たり前だよ。でも、ノールールに関しては自分の方が上だから、もし闘えたら、ボクの生涯で一番"おいしい"相手だね。

――おいしい相手ですか！

ノゲイラ　だって今、日本で一番人気のある選手なんだからね。まだ、（※このインタビューの時点では）準決勝の相手が誰になるかわからないけど、ぜひオガワと闘いたいね。

――では次にヒョードルについてお聞きしたいのですが、ヒョードルは1回戦、2回戦と得意のパウンドを使わずに勝ち上がりました。かなり成長してると思うのですが、ノゲイラ選手から見ていかがですか？

ノゲイラ　ボクは彼のサブミッションが大きく成長したとは思わない。1、2回戦はたまたま両方レスラーが相手だったんで、テイクダウンを取ってサブミッションで極めるという闘い方になったんだと思う。これが例えば柔術家が相手だったら、ヒョードルはサブミッションの勝負を挑まないと



今度ヒョードルが一瞬でもスキを見せたらボクは必ず彼を関節技で極めてみせるよ！

思うよ。それは自殺行為だと彼もわかっているだろうからね。

――ノゲイラ選手は去年の3月にヒョードルと闘ったとき、得意のガードポジションをとりながらも、パウンドでダメージを負ってしまいました。次は違う作戦でいくつもりですか？

ノゲイラ　もちろん、違う作戦を用意しているよ。ヒョードルとやるなら、グラウンドでは上になって闘わなければならない。でも、スタンドの技術は自分の方が優れているから、パンチで試合を決めることも考えている。

――ヒョードルはファイターとしてパーフェクトに近いとの声も最近多いですけど、彼の弱点を挙げるとすればどこですか？

ノゲイラ　グラウンドで彼が下になったときの技術だね。でも彼はトータル的に優れた穴の少ないファイターだと思う。だから、もし闘うことになったら厳しい試合になることは覚悟しているよ。ただ、再戦したときにヒョードルがひとつでもミスをしたら、絶対にボクはそのミスを逃さない。必ずや仕留めるからヒョードルは注意することだね。

――前回のヒョードル戦以降、自分が一番成長した部分はどこですか？

ノゲイラ　前よりもトレーニングしていることだね。それによってあらゆる弱点も克服していると思う。あとは試合を見てもらったらわかるよ。

――もしグランプリでヒョードルとの対戦が決まったら、去年のミルコ戦以上に重要な試合になりますね。

ノゲイラ　そうだね。もしかしたら、ボクのファイター人生最大の闘いになるかもしれない。そのためにボクは準備をしっかりしてきているし、ヒョードルとは『PRIDE・GP』ファイナルという最高の舞台で、最高のリマッチをやりたいと思っている。そのときは、前回ヒョードルと闘ったときより、もっと素晴らしい試合を観せることができるだろう。でも、今回ばかりはファンを楽しませるよりも必ず勝たなければならない試合なんだ。だから、雑念は捨てて、闘いに没頭するつもりだよ。


ノゲイラの自宅にはご覧のような歴戦の"戦利品"が飾られている。
ここにPRIDEヘビー級GPベルトも加わるのか？



Antonio Rodrigo Nogueira

――いやぁ、相当気合いが入っているみたいですね。ところで、GP決勝前からこんなことを言うのもなんですが、ミルコ・クロコップが、8月のエメリヤーエンコ・アレキサンダー戦のあと、10月にケビン・ランデルマンに勝ったら大晦日にPRIDEヘビー級のタイトルマッチを要求しています。いま、彼についてどんな印象がありますか？

ノゲイラ　ミルコはグレイトファイターだけど、ファイターとして落ち込み気味だと思うから、悪い流れを断ち切らないといけないし、タイトルマッチとか大それたことを言う前に、見失ってる部分を取り戻した方がいいんじゃないかな。こういう時期こそあせりは禁物だよ。

――7・19『PRIDE武士道』では、大山峻護選手を1R1分ジャストでKOしましたけれど、まだ本調子ではないと思いますか？

ノゲイラ　オオヤマはミドル級の選手だからね、マッチメイク自体がミスマッチだったと思う。やっぱりヘビー級のトップ選手に勝ってからじゃないと、ボクらと闘うのは無理なんじゃないかな。

――先日、ブラジリアン柔術世界王者ファブリシオ・ヴェウドゥムがチーム・クロコップ入りをはたしました。これはミルコによる打倒ノゲイラへの布石だと思われますが、どう思いますか？

ノゲイラ　柔術家がミルコのチームにひとり入ったぐらいで大した驚きはないよ。ミルコが柔術のテクニックを取り入れたとしても、寝技でボクに勝つことは100%無理だからね。彼については、もう一度、ボクらのレベルに上がってきてから話そう。ボクはいま、『PRIDE・GP』のことで頭がいっぱいだからね。

――わかりました。では、決勝大会での活躍を期待しています！

【04年7月24日／国際電話にて収録】

この電話インタビューをした時点では、準決勝のカードは小川vsノゲイラが最有力。当然この取材もそれを前提として話をすすべた部分があったのだが、数日後、以外にも小川vsヒョードル、ノゲイラvsハリトーノフに正式決定。急遽、ノゲイラに組み合わせ正式決定についての感想コメントをもらったので、最後にそれをご紹介します。

ノゲイラ　一回戦の相手は小川とばかり思っていたから、ハリトーノフに決定したことは驚かされたよ。でも、ボクのゴールはこのトーナメントでチャンピオンになることだから、相手が誰だろうと関係はない。心を切り替えて練習するよ。

　ハリトーノフは若くて技術的にも優れている選手。将来的にもスターになれる要素を持っているが勝つのはこのボクだ。決勝は小川でもヒョードルでもどちらでも構わない。ヒョードルにはリベンジしたいし、小川と闘えばエキサイティングな試合になることは間違いないからね。小川の寝技はスピードがあるから、吉田vsホイスのような膠着をすることは決してないと思うしね。

　試合まで2週間を切ったが、万全の体調でリングに上がるつもりなので、たのしみにしていてくれ！


次号『紙のプロレスRADICAL』No.78
8・15『PRIDE・GP』
完全検証号
8月28日(土)発売!!
[税込み840円] 地域によっては多少発売日が異なります。





喰うか？　喰われるか!?
“不動心”、“主食・日本人”狩りへ——!!

▶近藤有己　過去5戦の戦績

04.6.22　パンクラス
●vs×　シャノン“ザ・キャノン”リッチ
［1R 1分1秒／ヒザ十字固め］

04.3.29　パンクラス
●vs×　スティーブ・ヒース
［1R 4分1秒／チョークスリーパー］

03.12.31　『PRIDE・男祭り』
●vs×　マリオ・スペーヒー
［1R 3分27秒／ドクターストップ］

03.11.30　パンクラス
●vs×　菊田早苗
［3R 8秒／スタンドパンチによるKO］

03.08.31　パンクラス
×vs●　ジョシュ・バーネット
［3R 3分26秒／チョークスリーパー］

▶ヴァンダレイ・シウバ　過去5戦の戦績

04.02.15　武士道・其の弐
●vs×　美濃輪育久
［1R 1分9秒／パウンドによる KO］

03.11.09『PRIDEミドル級GP』決勝ラウンド
●vs×　クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン
［1R6分28秒／TKO］

03.11.09『PRIDEミドル級GP』決勝ラウンド
●vs×　吉田秀彦
［2R／判定3-0］

03.08.10　『PRIDEミドル級GP』開幕戦
●vs×　桜庭和志
［1R5分1秒／パンチによるKO］

02.11.24『PRIDE.23』
●vs×　金原弘光
［1R3分31秒／TKO］

『PRIDE・GP』スペシャルワンマッチ

近藤有己vsヴァンダレイ・シウバ大予想!!

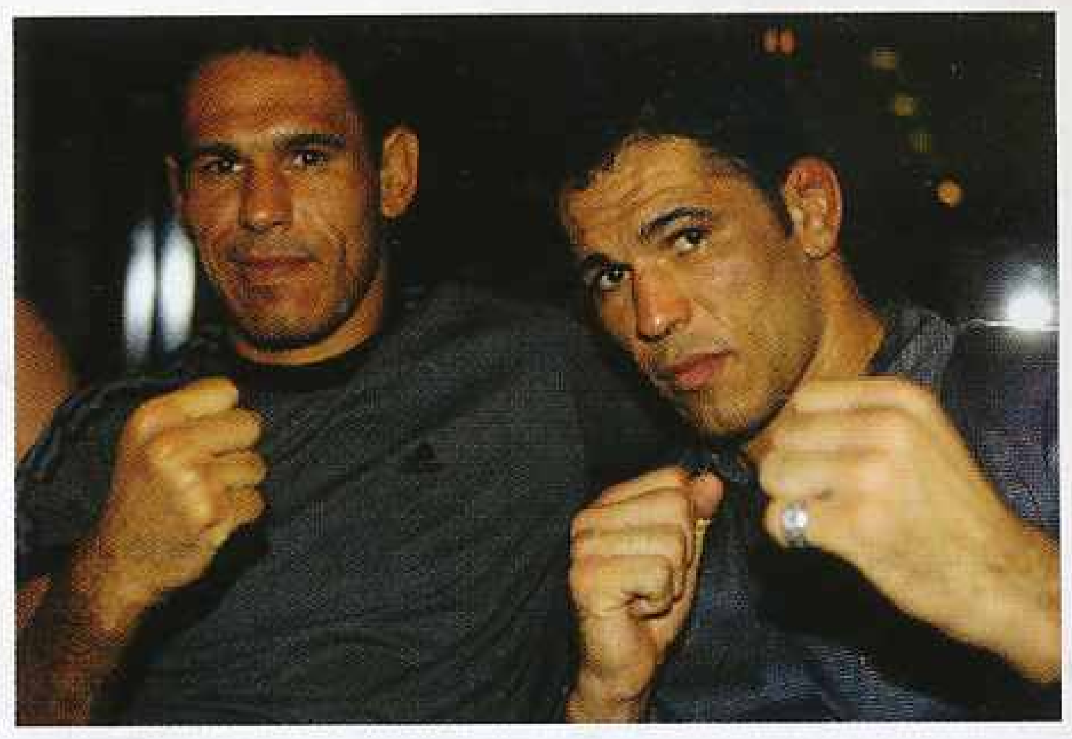
5・23『武士道・其の弐』で実現するはずだったカードは、シウバの膝の怪我で消滅。舞台を灼熱の8・15『PRIDE・GP』に移して激突することになった。“日本人ミドル級の最後の砦”として近藤にかかる期待は大きい!

構成／ジャン斉藤　designed by matsu (Two Three)



史上最強の双子

ノゲイラ・ブラザーズ



近藤には飛びヒザ蹴りがある

ヴァンダレイは無敵の『PRIDE』ミドルチャンピオンだし、経験もパワーも近藤より上だと思う。だけど、近藤は打撃もグラウンドもできるし、そして一撃必殺の跳びヒザ蹴りを持っている。最近の試合はクオリティーの高い試合をしているから、いまのところは五分五分だと思うよ。エキサイティングな試合になるんじゃないかな。（兄）

グラウンドはシウバが上

スタンドなら互角だと思う。近藤はヴァンダレイのパンチに注意して、ヴァンダレイは近藤のヒザ蹴りに注意しないといけない。でもグラウンドになるとヴァンダレイの方が強いんじゃないかな。ヴァンダレイはテイクダウンの技術が向上してるんだ。極めはないけどパウンドは破壊力的にもハンパじゃない。ヒョードル級だよ。だからヴァンダレイに対してオープンガードを取るのは自殺行為。オープンガードで動けるようにしたほうがチャンスは増えると思うね。（弟）

リングス・最後のエース

金原弘光



シウバのヒザのケガがどこまで回復しているのか？

これは体調次第としか言えないんじゃない？ いろんな人から「シウバはヒザが悪くて8月には間に合わない」とか聞いてたからさ、それがどこまで回復してるかによるよね。シウバは俺と同じヒザの十字靱帯手術してるでしょ？ それなのにミドル級GPのために早く復帰して優勝したから「凄ぇな」と思ったけど、今回はどんな程度かわからない。近藤選手にとってはチャンスだと思うよ。あともう一つ近藤選手にとって有利な材料というと、彼はサウスポーなんだよね。サウスポーの選手ってそんなにいないから、シウバはやりにくいと思うんだよ。総合的な要因を考えると、近藤選手が勝つ可能性も高いと思う。でも、やっぱり体調次第だな。

寝技世界一

菊田早苗

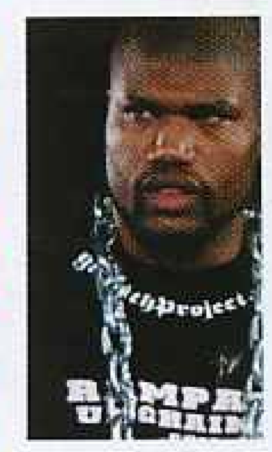


シウバには経験がある。負けられない意識もある。

シウバは、これまで場数を踏んでる上に、強敵に勝ってきてるんで、シウバが有利なのは間違いないですね。普通に考えたら6：4でシウバなんですけど、シウバにはいままで勝ってきたというプレッシャーとか、格下に負けられないという意識もあるでしょうから、そういう部分で近藤選手の方がリラックスできる分、差が弱冠縮まるのかなっていう感じですね。もちろん近藤選手は、僕に勝った人なんで、ぜひ勝ってほしいですし、勝負っていうのは経験とか実績とか計算とかが通用しない時もあるんで、そういう意味では近藤選手が勝つ可能性も十分にあることも間違いないですね。ということで、どっちが勝つかよくわからないです（笑）。

吠えるUSマッドドッグ

ランペイジ・ジャクソン



勝つのはヴァンダレイだ！ なぜならば……

次期『PRIDE』ミドル級王座挑戦者のランペイジ様が特別に予想してやる。勝つのはヴァンダレイだな。なぜかって？ 次の『PRIDE』で俺様と闘って、ボコボコにされる未来が待っているからだよ！ だからぜひともヴァンダレイに勝ってもらわんとな。いや、近藤は良い選手だと思うよ。あらゆる面でヴァンダレイに勝てる実力を持っているが、ヴァンダレイのケツにムチを叩き付けるのは俺様なんだ!! もし近藤が勝ったら別に俺様が彼と闘っても問題ねえよ。でも俺様の夢はヴァンダレイを倒して『PRIDE』のチャンピオンになることだからな……ジョージ・ブッシュ！（十字を切りながら！ 最近お気に入りのポーズ）。

怪物君

横井宏考



近藤さんは相手のパワーを流すのがうまいから勝てる

シウバのあの勢いは……殺しきれないとは思うんスよね〜。でも、近藤さんは相手のパワーを流すのがうまいからいけるんじゃないかと。同じ日本人としての期待もあるので、勝つのは近藤さんで！ え？ ついでにグランプリの予想？ まずは小川さんもすよ。で、四つに組んだら小川さんのほうが強い。小川さんが倒して上をとればいけるんじゃないですかね？ ノゲvsハリは、ホントどっちが勝つかわかんないですね。ハリは、あのでかいシュルトを押さえつけて制したから寝技もうまいと思うし。難しいなぁ……。決勝は日本人として、小川vsノゲですね。ホント小川さんが勝ってほしいです！

糖尿病地獄から奇跡の生還

ターザン山本！



近藤はシウバに勝つ可能性を秘めた最後の切り札

勝つのは近藤ですよォオ！ だってシウバは病み上がりでしょ。俺の勘だとシウバのヒザはまだ良くなってないよ。そういうときこそ取りこぼしはある。シウバはこ数年は取りこぼしはしてないけど、ちょうど負け頃だしね。それに近藤という男は意外性があるんだよね。そして〝大物食い〟という2つのセールスポイントがあって、相撲でいうと金星王みたいなところがあるわけ。逆に取りこぼしも多いけど（笑）、そういうヤツの方が一発やってくれるんですよ！ シウバに勝つ可能性を秘めた最後の切り札的な日本人だよ、これ！ 近藤は闘い方も読めないところがあるし、急に飛び道具を出したりするからね。一瞬にして勝つと思うよ。グランプリ決勝を前に大波乱が起こることを予言しとく。これはね、願望じゃない。シウバだって永久に勝てるわけないし、やっぱり病み上がりはキツイよ。俺も病み上がりだから、それがよくわかるんですよォォ！ それにしてもDSEは特上のオマケというか特大付録を投入したよね（笑）。この興行に対する異常な執念というか情念を感じる。小川vsヒョードル、ノゲイラvsハリトーノフでもう十分なんだから、もったいなくて普通はやらないよ。腹八分どころか満腹感丸出しだよ！ フルコースの食べ放題みたいなとこあるよねぇ。これで一分の隙もなくなった。恐ろしい興行だよ！ 要するにぃ、『PRIDE・GP』は石井前館長がやった国立競技場の『Dynamite!』越えをしようとしている。観客動員では箱が違うからかなわないけど、内容で上回ろうとしてるわけ。つまり、近藤vsシウバは『Dynamite!』『PRIDE』の怨念が生み出したカードなんですよ！ 勝負論としてはこれ以上の祭典はないね。同日にはG1クライマックスもあるけど、『PRIDE・GP』こそが燃える夏、史上最大のクライマックスですよォオ！



格闘技世界大戦
ついにCLIMAX!!

聞き手／堀江ガンツ
撮影／乾晋也
designed by matsu (Two Three)

逆襲のターミネーターついに始動

8・15アレキサンダー戦はヒョードルの逃げ道をふさぐ手段でしかない！

©DSE



『PRIDE・GP』の異常なまでの盛り上がりを尻目に、屈辱にまみれてきたミルコがいよいよ逆襲に転じてきた。8・15GPのスペシャルワンマッチに出場し、宿敵ヒョードルの弟アレキサンダーと対戦。狙うはもちろん兄ヒョードルの担ぎ出しだ。7・19大山峻護をKOしたあと、そのまま日本に残り調整中のミルコを直撃した！

MIRKO CRO-COP

——久しぶりのインタビューということで、今日は聞きたいことがたくさんあるんですけど、まずは快勝だった大山峻護戦（7・19『武士道』）の感想を聞かせてください。

ミルコ　とにかく身体が元に戻ってきた。試合内容云々より、それを実感できたことが大きい。カネハラ戦（5・23『武士道』）の教訓を活かして、体調を万全にして挑むことが今回の大きなテーマだったからね。

——金原戦では、やはり体調が万全ではなかったんですか？

ミルコ　これは試合後、血液検査の結果でわかったことだけど、私の身体は5月23日のカネハラ戦の時点で、グリコーゲンを使い果たした状態になっていたんだ。そのときに初めて、本当の意味での休養の必要性を心の中に刻んだよ。

——栄養学についてはよくわからないんですけど、グリコーゲンとはそれほど重要なものなんですか？

ミルコ　重要だね。つい最近、私が身をもってその重要性に気づかされたのだから間違いない（笑）。

グリコ・ミルコ担当ニュートリショニスト
桑原氏談　グリコーゲンというのは身体のエネルギー源になっている貯蔵栄養素のことで、毎日トレーニングをしているアスリートというのは、練習をしたあとはしっかり休んで、すぐにグリコーゲンを補給し、循環をよくしていくことがとても大事なんですよ。なぜなら、使ったまま補給しないでおくと、身体の中にあるグリコーゲンを貯蔵するタンク自体が小さくなっていってしまうんです。

——グリコーゲンを消費したままにしておくと、わずかな燃料しか身体に蓄えられなくなってしまうわけですか。

桑原氏　そういうことですね。

ミルコ　私の場合はランデルマン戦のときの自分が許せなく、気持ちだけで突っ走った結果、そういったことがおざなりになって、カネハラ戦では自分でも驚くほど早くスタミナが切れてしまったんだ。あのときは、「なぜだ。俺は十分すぎるほどトレーニングを積んできたはずなのに」と思ったが、そのときの私の身体はまさにもぬけの殻だったんだよ。しかも、あのときは「1分1秒でも早くKOしてやろう」ということばかり考えて、一つ一つの攻撃も力んだものになってしまった。その結果、パンチにしても、蹴りにしても力任せで、まったく先端が走ってなかったんだ。

桑原氏　しかも倒せないものだから、余計に焦ってスタミナをどんどん消耗しちゃいましたよね。

——なるほど。

ミルコ　ただ、そうやって身をもって苦しむことで、大切なことに気づくことができたので、カネハラとの闘いは私にとって意味があるものだったよ。

——そして大山戦では、1R1分ジャストでKO勝ちを収めました。今回は伝家の宝刀・左ハイキックはけん制程度にしか見せず、パンチで勝負を決めましたけど、これは作戦としてあったんですか？

ミルコ　私の左ハイキックをファンも期待しているというのはわかっているけど、これだけ知られてくると、相手も防御を練習してくる。まぁ、そのガードをかいくぐって決める自信もあるが、今回は無理せず、もともと持っていたローキックと踏み込んでの左ストレートを駆使して闘ったんだ。

——左ハイキックを使わずして勝てたという感じですか？

ミルコ　いや、そうじゃない。私にとってパンチの技術というのは、一時期K-1を離れてボクシングだけをやっていたこともあるから、キックと同等かそれ以上に重要な武器だからね。

——ボクシングだけをやっていたというのは、いつごろの話ですか？

ミルコ　96年～99年にかけてだね。私は96年にブランコ（・シカティック）に連れられて初めて日本のK-1のリングに上がることができたんだが、そのあとブランコと揉めたおかげで99年4月までK-1に出ることができなかったんだ。ただ、私はK-1に出られない間もアマチュア・ボクシングの試合に精力的に出場し続け、気がつけば3年間で40試合もやっていたんだ。そして、そのときに身につけた技術が結局K-1でも活きたし、蹴りを引き出すためにも役立っている。オオヤマとの試合でもそれが出たというわけだ。

——フィニッシュの左アッパーは特に強烈でしたよね。

ミルコ　でも、その前の左ストレートで半ば勝負は決まっていただろう。当たりは少し浅かったが、ビシッと入った感じがあったからね。もちろん、そのあとの左アッパーはまともに入ったし、あの感触なら誰だって倒れるだろう。

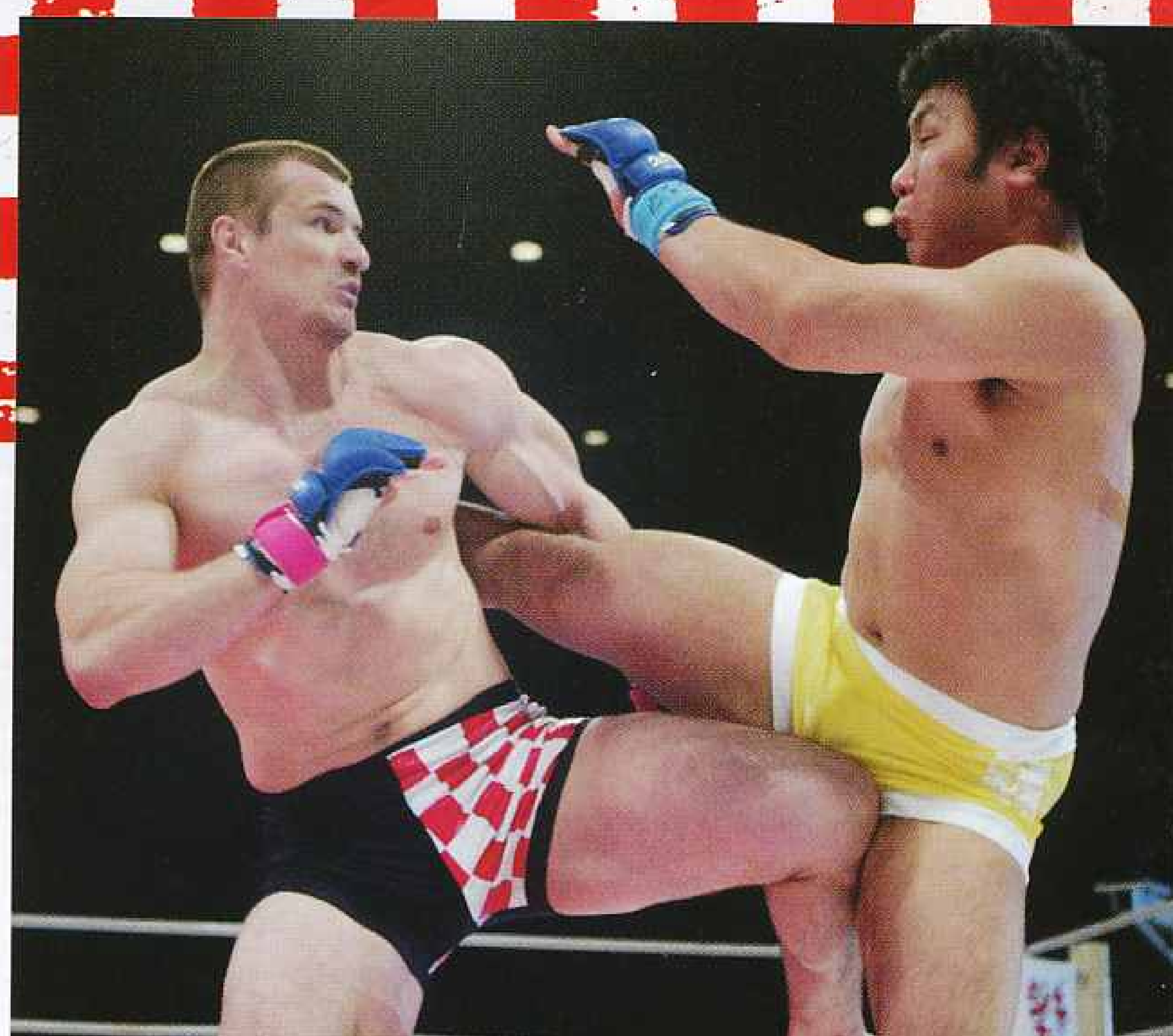
——そして試合後、8・15さいたま大会への出場も決定したわけですけど、大山戦で勝ったら8月15日まで日本に滞在すると決めていたんですか？

ミルコ　「勝ったら」というより、「勝つに決まってる」と思っていたから、4週間滞在するという予定でスタッフも日本に連れてきていたんだ。もちろん、それに関してはオオヤマに失礼だから、そんなことは言わなかったけどね。

——でも、なぜ一番気候的にきつい時期の日本で練習しようと思ったんですか？

ミルコ　飛行機で2度も往復するよりはマシだと思ったんだ。私はピーター（・アーツ）のようにどこでも寝られる人間と違っ

MIRKO CRO-COP


©DSE



5・23金原弘光戦、7・19大山峻護戦とも、パンチでの攻撃が有効だったミルコ。特に大山戦では、左ストレート一発で大山に背中を向けさせて、最後は強烈な左アッパーで1R1分ジャスト、完全KO勝ち。「ミルコ復活」を印象付けることに成功した。

私は金も名誉も地位も手に入れた。あと私にないのはベルトだけだ



て、慣れているベッドや住空間から離れて、飛行機で長時間かけて出てくるということが精神的なストレスになって、時差ボケが常に重いんだよ。体内時計がぐるぐる回り体調を戻すのに時間がかかる。だから4週間うちに2往復というのは、大事な試合のことを考えたら避けたいと考えたんだ。そして、日本でもクロアチアと同じように生活ができるように、スパーリングパートナーも揃えて、コックも呼んで、自然に体重が増えるような環境を整えたんだよ。

——ちなみに4週間日本にいる間、国会議員の仕事はどうなっているんですか？

ミルコ　ちょうどいまは国会の仕事は休みなんだよ。クロアチアは7月15日から国全体がバカンスのシーズンだし、ヨーロッパの中でもクロアチアは特に観光立国を目指しているから、バカンスを奨励する傾向にある。だからこの時期は、ザグレブやスプリットという大都市から民族大移動が起きて、アドリア海の海岸線リゾート地に向かう幹線道路で大渋滞が起きるほどだからね。国会もその期間中は休んで「See you in September」になるだよ。

——9月まで夏休みですか（笑）。

ミルコ　しかも、与党で閣僚ポストについていたら、その間も実務的なことがいろいろあるが、私は野党議員だから夏は何もやることがない。あえて日本にいるとしたらこの時期なんだ。

——では、去年国会議員になって以来、試合に出て、映画に出て、いろんなことがあったと思いますが、いまが一番練習と試合に集中できる時期ということですか？

ミルコ　そうだね。その間に屈辱も味わったし、やってはいけないことも身をもって学んだ。そろそろ本格的にヘビー級トップ戦線に復帰すべき時期に来たと思っているよ。

——そして、8月15日にはヒョードルの弟、エメリヤーエンコ・アレキサンダーとの対戦が決定しましたけど、これはやはり"仮想ヒョードル"として指名したわけですか？

ミルコ　仮想ヒョードルと言うよりは、ヒョードル戦を確実に組んでもらうための戦略から考えて、一番適した相手だろうということさ。

——弟をやられたら、兄貴が出てこざる得ないという！

ミルコ　ヒョードルには昨年11月に一度逃げられているからね。あそこまで、私達陣営にとってはヒーリング戦から始まって全てプラン通りだった。ところが試合の4週間前に、突然タイプのまったく違うミノタウロに代わってしまった。こちらとしては半年間の練習、練ってきたプランを完全に軌道修正だ。本当にあのX線写真が彼のものなのか疑いたくなったほどさ。

——ヒョードル戦実現に向けての執念の表れがアレキサンダー戦という事ですね。で、彼についてはどのように評価してますか？

ミルコ　試合を見てもらえれば、わかると思うよ。

——と、言いますと？

ミルコ　身体が大きいということ以外は、やはりまだトップレベルの選手と比べると絶対的な武器を持っていない。

MIRKO CRO-COP



ミルコの日本での移動手段はなんとママチャリ！　この日もママチャリとは思えない猛スピードを出しながら練習にやってきた。

——でも、ヒョードルはよく「アレキサンダーは実力的に自分と遜色ない」と言ってますよ。

ミルコ　キミはその言葉をそのまま信じているのかい？　アスエリオ・シウバ戦やマット"ザ・ツイン・タイガー"戦を見る限り、とてもじゃないがそうは思えないな。

——その二人だけじゃなく、『イノキ・ボンバイエ』では、ブラジリアン・トップチームの有望株だったアンジェロ・アロウージョを体格差を利用してボコボコにしてますし、決して楽な相手じゃないと思いますけど。

ミルコ　その試合はまだ見ていないけれど、どれだけの経験がある選手なんだい？　身体が大きいということは、有利な反面、それによって失うものも必ずあるからね。やはり、ヘビー級で理想的な体格は、私やヒョードル、ノゲイラといった選手がそうであるように、せいぜい110キロ未満だよ。アレクサンダーも、「これなら倒せる」という絶対的な型があると思えない。それに、いまスパーリングパートナーとして、サーシャというレスリングをやっていた120キロの選手を連れてきているが、グラウンドで圧力をかけてきても、下から対応できる自信がある。レスリングとサンボで多少動きの違いはあるだろうけどね。

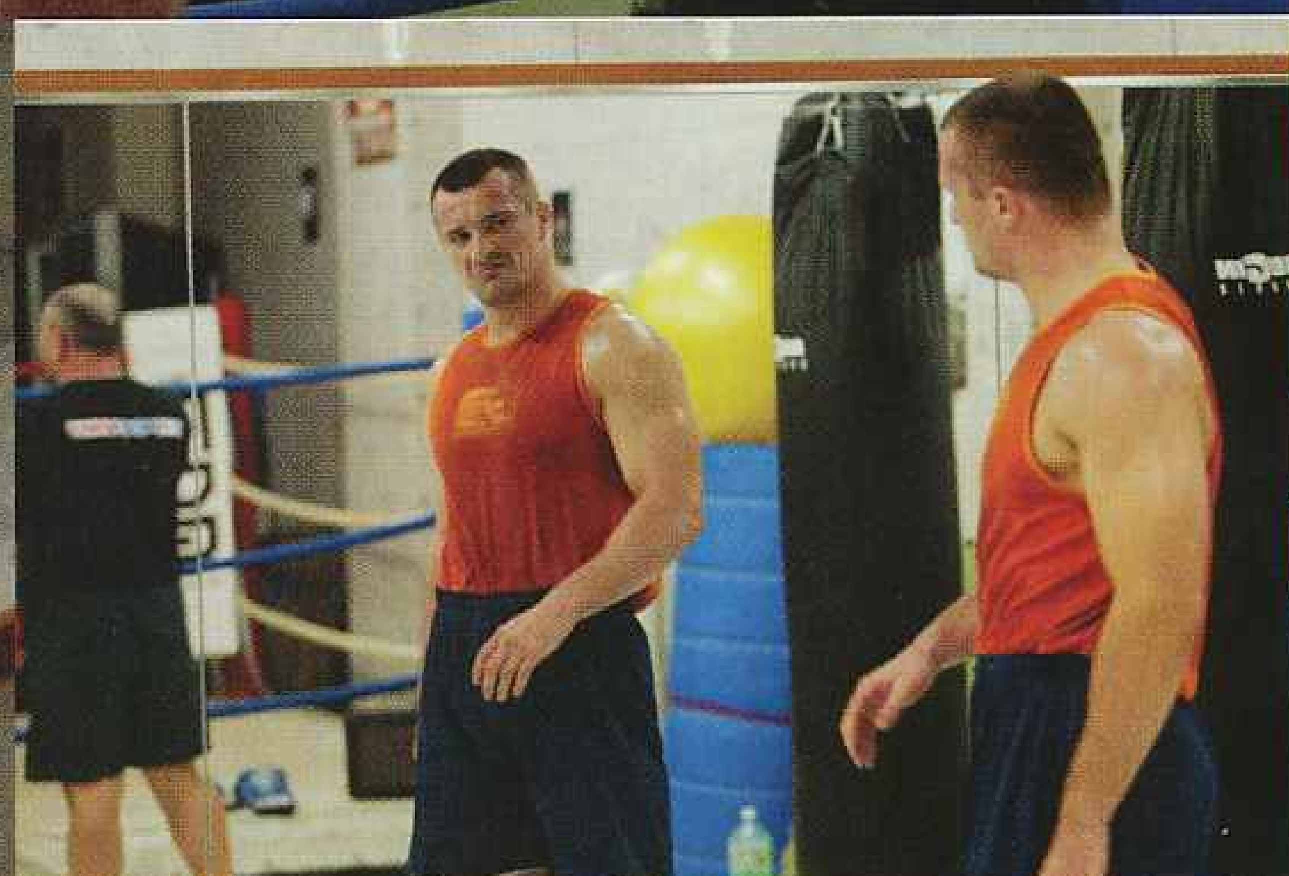
——まったく自信は揺るがずと。

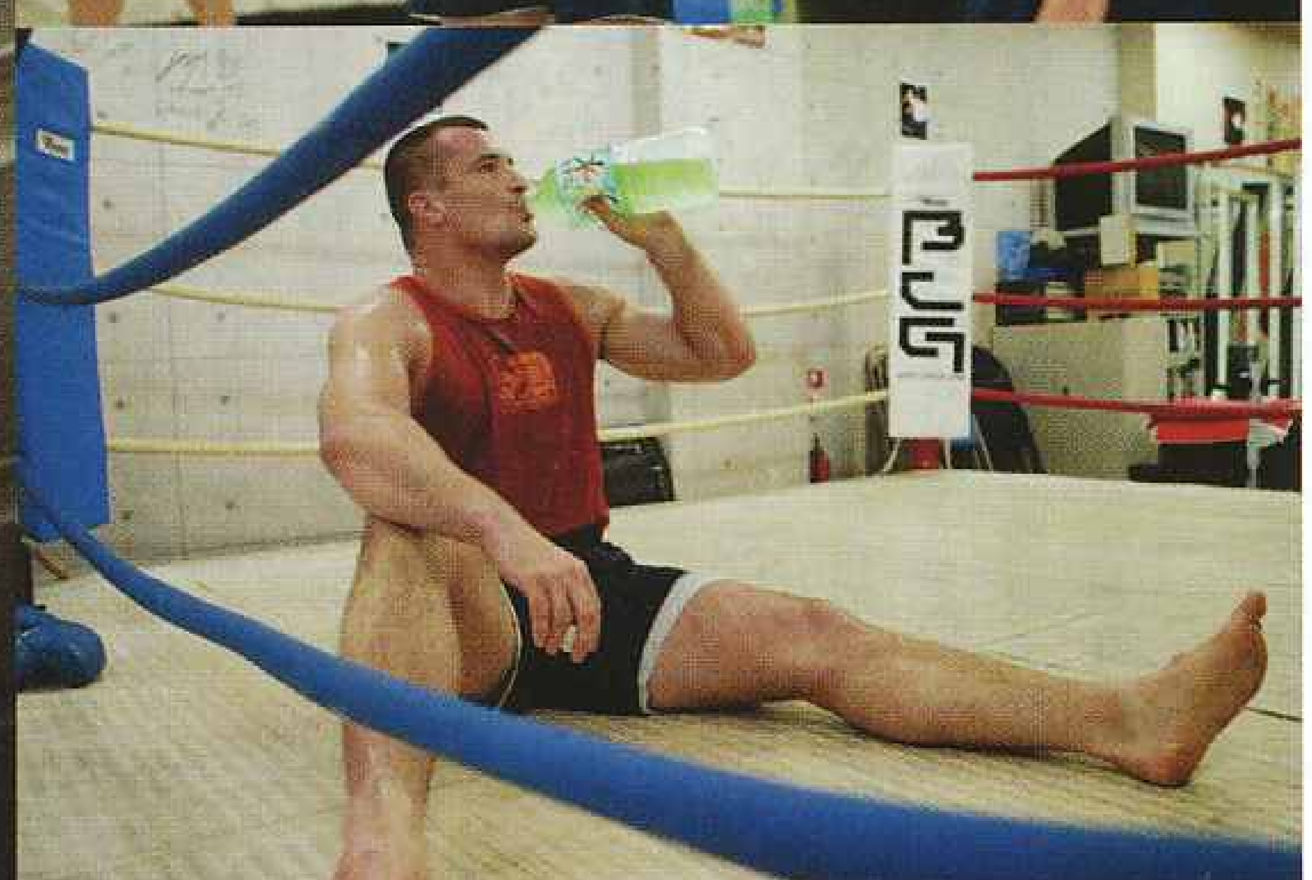
ミルコ　それよりケビン（・ランデルマン）の方が心配だよ。私は8月にアレキサンダーを倒したあと、10月にケビンにリベンジをはたし、大晦日にベルトを奪う青写真を描いているが、ここでケビンがウォーターマンに負けたら追いかける意味がなくなってしまう。ウォーターマンはとにかく力が凄かったから、動きはケビンの方が早いが、一度捕まったら危ないんじゃないか？

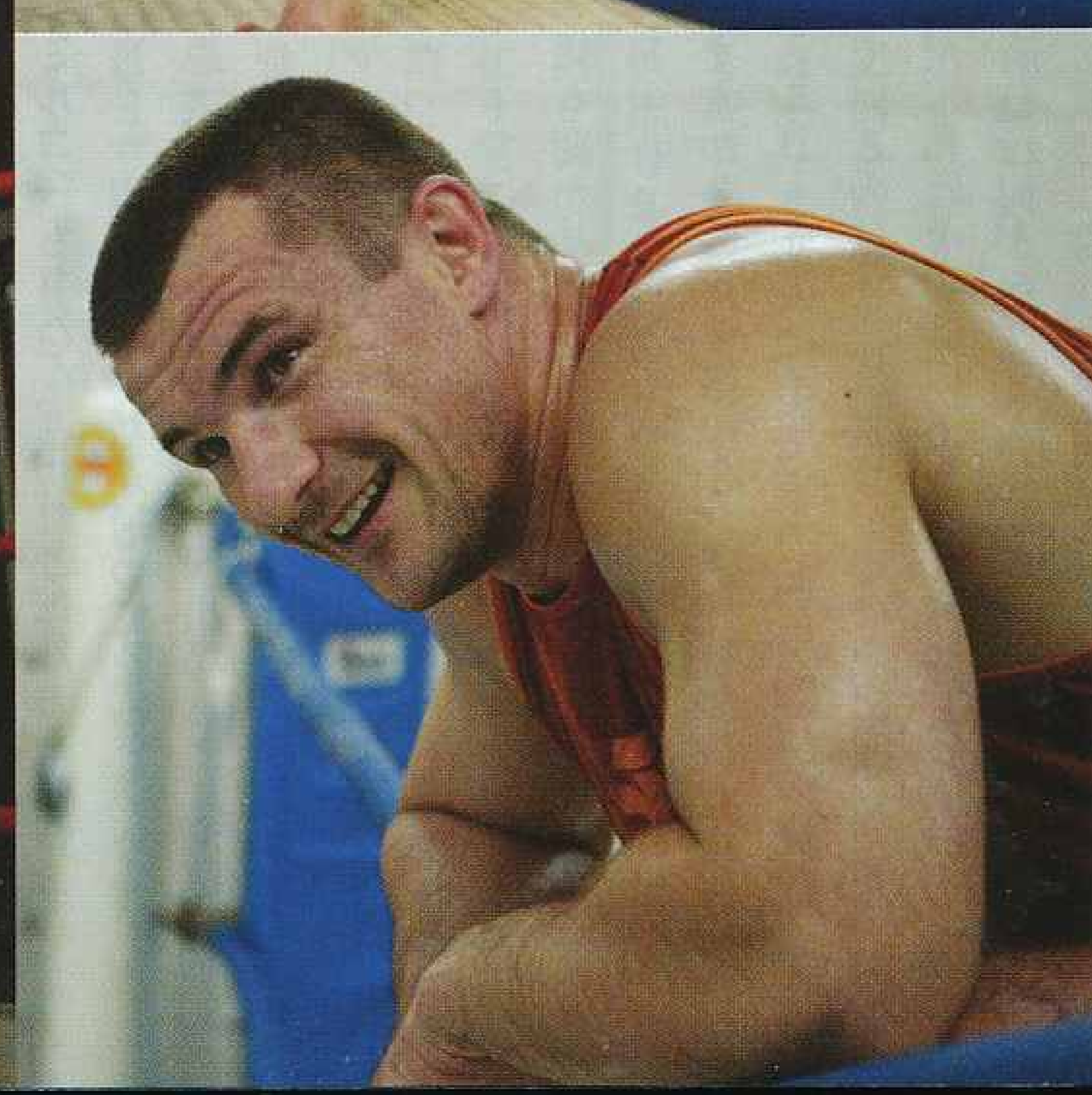
今後さらに寝技のスキルを上げて来年は『アブダビ』に出場したい











——同じレスリング系ですし、組んだら体格差もありますからね。

ミルコ　まぁ、ケビンが負けたら負けたで、マーク・コールマンと闘ってもいい。とにかく今年中にPRIDEへビー級のベルトをこの腰に巻きたいんだ。

——そのために今回クロコップ・チームのメンバーを一新したと聞きましたが。

ミルコ　一新と言うほどでもないが、マイク・ベンチッチを参謀の中心という立場から外して、チームの若返り、そしてレベルアップを図ったことはたしかだ。

——ブラジリアン柔術の強豪、ファブリシオ・ヴェウドゥムもクロコップ・チームしたらしいですね？

ミルコ　YES。昨年の『アブダビ』99kg超級で3位、この7月には『ムンジアル』（柔術世界選手権）99kg級で、その昨年のアブダビの優勝者のフェルナンド・テレレを破り優勝したばかりの、文字通りトップ中のトップだ。彼の加入は我々クロコップ・チームにとって大きな力となるだろう。

——ファブリシオは今回、日本には来ないんですか？

ミルコ　（8月）5日に来るんだ。その日は休んでもらって、6日の朝練から合流する予定だ。

——では、長期的視野に立ったチーム作りが着々とできあがってるわけですね。ちなみにベンチッチは完全に外しちゃったんですか？

ヒョードルとアレキサンダーが同等の実力だなんて信じられるか？



昨年、『武士道　其の壱』でデビュー以来、いまだ負けなしのアレキサンダー。彼にとってもミルコ戦はビッグチャンスだ。

MIRKO CRO-COP

ミルコ　悪いが外れてもらった。彼とは2002年にサクラバと闘ったあとから一緒に練習をし始め、最初はスパーリングしてもまるっきり歯が立たなかった。しかし、あれから2年が経ち、私が極められることもなくなったし、練習していても動きが読めるようになってしまった。要はもう彼から学ぶことがなくなってしまったんだよ。

——よりステップアップするためにも、コーチを変える必要が出てきたわけですね。

ミルコ　そうした時期にファブリシオが加入してくれたのはラッキーだった。ファブリシオはベーリンギ道場の師範代なんだが、一旦マドリッドに帰って、その後を引き継いでくれる人間を決めて、8月の終わりからはクロアチアに住むことになる。9月には1ヶ月間、師匠であるファビオ・ベーリンギも来るし、10月になると今度は、ファブリシオと『コパトムンド』の優勝をわけあったマーシオ・コレータも1ヶ月来るだろうから、チーム・クロコップは凄い陣容になるよ。

——ホント凄いメンバーですね。

ミルコ　私自身、彼らとハイレベルなスパーリングができることを心待ちにしているんだ。そして自分自身の寝技スキルを上げて、来年は『アブダビ・コンバット』に出場することも考えている。

——え〜ッ⁉　ミルコ選手が『アブダビ』ですか。それは本気で言ってるんですか？

ミルコ　もちろん本気だよ。そして、それが私の格闘家としてのキャリアをステップアップさせてくれるんじゃないかと思ってるよ。

——ミルコ選手のアブダビルールは見てみたいですねぇ。

ミルコ　ただ、当然のことながら、その前にPRIDEヘビー級のベルトを巻くことが先決だけどね。いまは正直言って、そのことしか考えてない。

——では、話は変わりますが、いま『PRIDE・GP』が、ミルコ選手という主役になるべき人がいない状態でも異常な盛り上がりを見せていますけど、それについてどういった気持ちで見ていますか？

ミルコ　とにかく私は負けたんだから、主役は彼らということだ。私は脇役ということをわきまえてるつもりさ。だからあまりインタビューも受けなかったし、5月、7月の『PRIDE武士道』には出場しても、6月のGP大会に出るつもりはなかった。

——いまや『武士道』の〝顔〟ですもんね（笑）。そのあえてGP大会をさけて『武士道』に出場していたミルコ選手が、8月の大会に出場するということは、いよいよ「俺はこれから、本格的にその闘いに入って行くぞ」という意思表示でもあるわけですか？

ミルコ　もちろん、10月と12月の『PRIDE』を見据えて私が帰ってくるという意思表示となるだろう。今回出場しようと思ったのも、要は、後半に向けて、ひとり上のクラスの選手を倒しておこうということだったんだ。

——では、今後のミルコ選手のターゲットにも関わってくる問題として、『PRIDE・GP』はズバリ誰が優勝すると思いますか？

ミルコ　4人の中で実力的に頭一つ抜けているのは、やはりヒョードルだろう。ただ、私は予想は口にしたくない。なぜなら、勝負は何が起こるかわからないからね。1回戦では自分自身にも起きてはいけないことが起こったし、そういう意味で言えば、誰が優勝してもおかしくない。技術と勘と運。それとスプリットセカンド（一瞬の決



断、攻防）で勝負がつくのがヘビー級なのであって、そういう部分はK－1も『PRIDE』も同じだ。

――ミルコ選手は小川直也選手をどう見ていますか？

ミルコ　彼は他の日本人とは態度が違うね。日本人選手は基本的に礼儀正しいと思っていたが、彼を見ているとちょっとそれは違ったようだ。もし彼と試合をする機会があったら、リングでいろいろ教えてあげるよ。

――では、ダークホースとして上がってきたハリトーノフはどうですか？

ミルコ　彼が勝つチャンスもあるんじゃないか？

――ノゲイラに勝てますか！

ミルコ　ノゲイラとハリトーノフが闘ったら、彼らは両方とも蹴りを出さずにスタンドで殴り合うところから始まるだろう。ノゲイラがすぐにグラウンドに持っていければいいんだろうが、早い段階で成功しなければ、かなりのダメージを負うことになる。最終的には経験の差でノゲイラが勝つ可能性の方が高いだろうが、かなりクロースな結果になるだろうね。ただ、もしハリトーノフが優勝した場合、ヒョードル、ノゲイラを加えた3人がベルトを持つことになるが、どれが一番価値があることになるんだい？

――ああ。ヘビー級王者、暫定王者、GP王者と3人の王者が生まれてしまうわけですね。でも、やっぱりトーナメントを勝ち抜いたGP王者が一番価値があると思いますけど。

ミルコ　そうか。じゃあ、もしハリトーノフが優勝したら、ノゲイラとヒョードルは潔くベルトを返した方がいいだろうな。もちろんノゲイラかヒョードルが優勝したら、リアル・チャンピオンを名乗ればいい。そいつを私は倒すだけだ。

――では、ヒョードル vs ランデルマンはどのようにご覧になったんですか？

ミルコ　別にどうという感想もない。順当な結果だったんじゃないか。

――自分が敗れた相手が、宿敵ヒョードルに倒されるということについては別に抵抗はありませんか？

ミルコ　技術を競い合った上での敗北なら抵抗もあるだろうが、ケビンに負けたのはあくまで私の驕りからくるものだからね。別にケビンに対してどうということはない。ただ、あれ以降、私が試合をするたびに、あの試合の映像が繰り返し流されることは非常に屈辱だ。だから、ケビンと再戦が決まったら、悪いがあれ以上にインパクトがあるくらい、殴り続けてやろうと思っている。

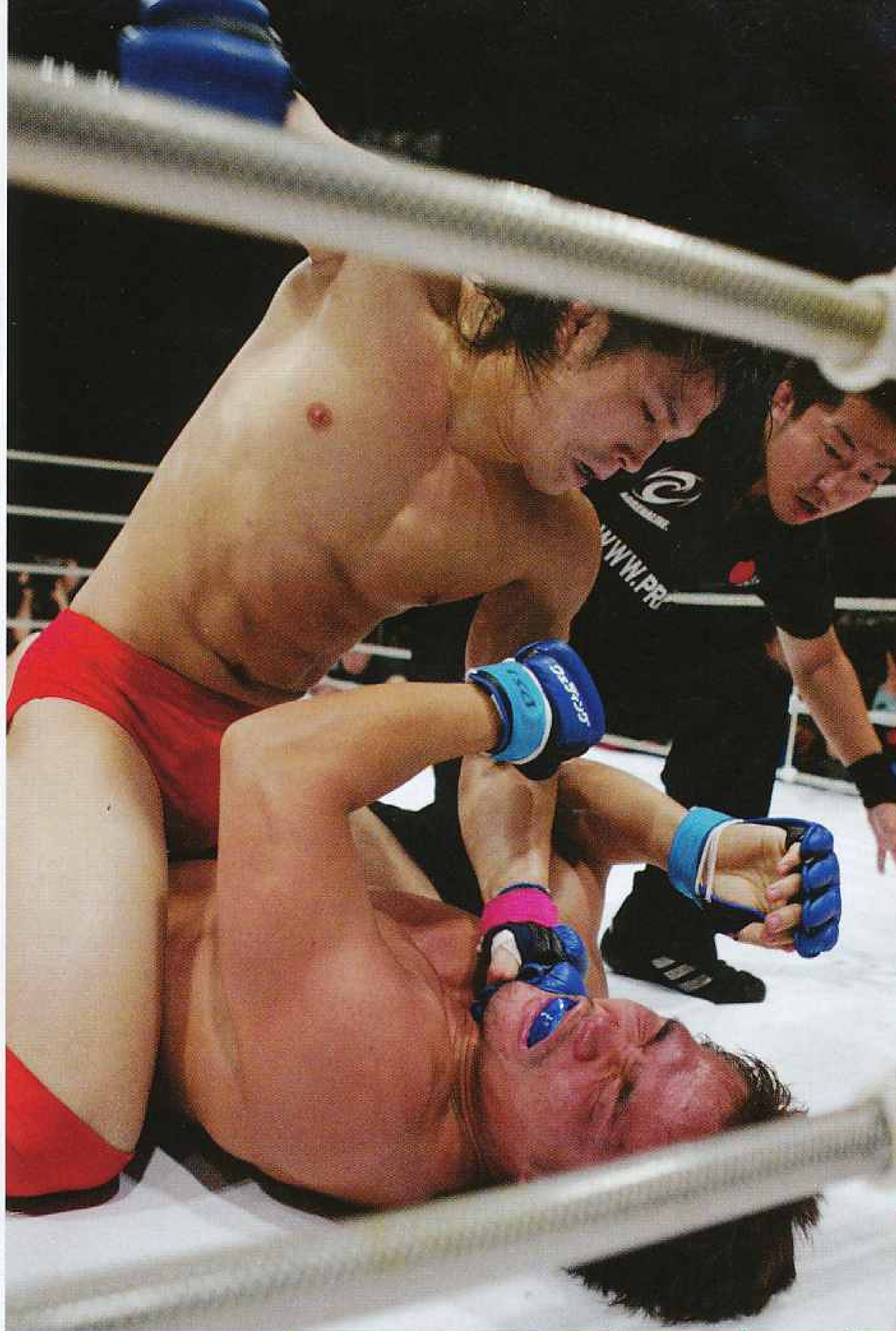
――ただ、KOするだけじゃ収まらないと。

ミルコ　ああ。チャンピオンへの挑戦権を得るためにも、「GP1回戦の敗北は、ラッキーパンチでやられただけだったんだ」と、みんなに感じさせるような勝ち方じゃないとダメなんだよ。

――すべての試合は、チャンピオンシップへと繋がっているわけですね。

ミルコ　そういうことだ。私は地位も得たし、家も建てたし、愛する家族もいる。あと私が手に入れていないのは、ベルトだけなんだよ。いくらファイトマネーをもらっても、ベルトを取らずにファイターとして終わってしまったら、私の人生は何だったのかということになる。だから今の私はベルトに対してのみ異常にハングリーだ。他に何もいらない。とにかくベルトがほしい。それもK－1のベルトや、ボクシングのベルトじゃない。世界最強の証である『PRIDE』のベルトがほしいんだ。

【04年7月31日／麻布十番『BCG』にて収録】



U系第3世代対決は、美濃輪が山喧をマウント葬!!

○美濃輪育久vs山本喧一×

［1R3分23秒　KO］

韓国VT『グラジエーター』で勝利し、日の丸国旗を背負って入場した美濃輪と、「寝技はやり尽くした」と豪語してムエタイに専念し、セコンドとして宮戸＆安生を帯同した山喧。お互いに「熱い戦いができる相手」と認め合った両者だったが、試合は美濃輪の一方的なペースで進み、最後はマウントパンチのラッシュでレフェリーが試合をストップした。美濃輪はマイクを握り「おまえら、プロレス好きか？　俺がリアル・プロレスラーだ!」と美濃輪節を炸裂させた。



杉浦が大巨人を攻略!
試合後、シルバは大暴れ!!

○杉浦 貴vsジャイアント・シルバ×

［1R2分35秒　ギブアップ］

身長差52センチという『PRIDE』史上最高のデカチビ対決が実現!　しかし内容は、ポジションをキープする杉浦のパウンド＆ヒザ蹴りにシルバが敢えなくタップするという呆気ないものとなった。納得できないシルバは棍棒を持って大暴れ。杉浦は「俺もリアル・プロレスラーだ!」と美濃輪のマイクを速攻でパクったマイクアピールで試合を締めた。

7.19 PRIDE BUSHIDO DIGEST



マッハ復活!　野生児の本領を発揮し一本勝ち!!

○桜井“マッハ”速人vsブラディ・フィンク×

［1R4分48秒　レフェリーストップ］

『PRIDE武士道』のエースと目されながらも、なかなか結果を残せなかったマッハが、久々の一本勝ちで存在をアピール!　フィンクは“ランペイジ”ジャクソン擁するチーム・オオヤマ期待のホープ。マッハはあっさりとテイクダウンを許してしまう場面もあったが、荒削りなフィンクの一瞬の隙をつき、フロントチョークで絞め落とした。

三島、ZST・GP王者に薄氷の勝利!

○三島☆ド根性ノ助vsマーカス・アウレリロ×

［2R　判定 2-1］





柔術黒帯にしてZST・GP初代王者のアウレリロが、『PRIDE武士道』に満を持しての参戦。下から一本を狙うアウレリロだったが、三島は冷静に対処してパウンドを落としていく。2-1の判定となり、ギリギリで勝利を手にした三島は「負けたら引退しようと思ってた」と衝撃告白。「リフレッシュして、また挑戦します」と決意を新たにした。



静寂のオープニング
若手対決はダダすべり!!

△光岡映二vs佐々木恭介△

［2R　ドロー］※判定なし

今大会のオープニングマッチを飾ったのは、RJW/centralの光岡とU-FILECAMPの佐々木。お互いに宇野薫、田村潔司という大物セコンドに見守られての試合だったが、“勝ちたい”光岡と、“魅せたい”佐々木のスタイルが全く噛み合わず。終始光岡がコントロールしたものの、判定なしのドローという結果に。髙田統括本部長も「試合に若さがない」と酷評した。



2003年アブダビ無差別級王者リスターが『PRIDE武士道』に見参!　対するスロエフは、昨年末の『猪木祭り』ではディン・トーマスをKOで葬ったレッドデビル第3の男だ。激闘が予想されたが、あまりの消極ファイトにレッドカードが両者に2回も出てしまうほどの膠着試合に。素質十分の両者だけに、次回に期待したい。

アブダビ王者vsレッドデビル!　膠着試合に場内は大ブーイング!!


○アマール・スロエフvsディーン・リスター×

［2R　判定 2-1］

芸能界一のマット界事情通

浅草キッドが語る

8・15『PRIDE・GP』&
一足早い大晦日の行方



「優勝予想なんて、するだけ野暮だけど
やっぱり、オーちゃんに
優勝して欲しいよ!!」

水道橋博士

© 黒田史夫

玉袋筋太郎

聞き手／松澤チョロ　撮影／丸山剛史　designed by Tani-Yan（Two three）

——いよいよ、『PRIDE・GP決勝戦』近づいて来ましたね！

玉袋 いやあ、オリンピックが可哀想だねえ、すっかり影が薄くなっちゃって（笑）。

——『PRIDE・GP』同日にはアテネオリンピックもありますからね。

博士 オリンピックの日程を変えた方がいいんじゃない？ 去年の11月の『PRIDE』の時も衆議院選挙と重なって投票率が落ちたぐらいだから。

——あ、投票率が落ちたのは『PRIDE』があったからなんですか（笑）。

玉袋 『PRIDE』があったら、もう選挙どころじゃないもんな。

——前回『紙プロ』に出てもらった時に「Qちゃんが出ないオリンピックよりオーちゃんが出る『PRIDE』だ」って言ってましたけど、Qちゃんには『PRIDE・GP』の聖火ランナーでもやってもらいましょうか？

玉袋 そっちの方が全然話題になるよ！ オーちゃんのセコンドにつくとかね。

——それにしても、ここにきて小川直也のハッスルぶりは凄いですよね。

玉袋 ホント、凄いよな！ いまや、そのホラ吹きぶりも、モハメド・アリの域まで達してきたんじゃないか。

——アリの域まで来ましたか⁉（笑）。

博士 今年に入っての小川の道筋で唯一、間違ったのが、前回、参議院選で、自民党を応援したことだけですよ。

——安倍幹事長にハッスルポーズを伝授したにも関わらず、肝心の選挙で自民党は負けてしまいましたからね。

博士 でも、それ以外は全部当たってるもん。だいたい、トーナメントって勝ち上がりが難しいじゃない。K・1は、とにかく思惑通りに行かないのに、『PRIDE』は決勝まで、ミルコは誤算にしても、小川が主役で、ここまで思いのまま狙い通りに行くっていうのは凄いね。

——お二人も行ってましたけど、この間のK・1韓国大会のトーナメントは凄いことになっちゃってましたからね（笑）。

博士 韓国大会を見たけどさ、全カードの勝敗が、トーナメントはこうなって欲しいって思ってるのと全部逆だったからね！

玉袋 ある意味、凄いことだよな。

博士 あれくらい裏目、裏目になったのって珍しいよ。

アテネオリンピックも日程、変えた方がいいんじゃない？（博士）



——韓国大会は地上波と、PPVや現場で見た人のギャップは凄かったみたいですからね。地上波でカットされたドタバタぶりが一番面白かったっていう（笑）。

博士 でも、報道されてることと大きく違うのはさ、曙はモチベーションがなくて2回戦を回避したわけじゃないんだよね。

玉袋 そうそう。試合内容も、結果も出てないけど、曙は戦闘意欲はあるよ。

——でも、曙さんはインタビューが難しいと言われてますけど、お二人はいつもインタビュアーとして曙さんの面白さを引き出してますよね（笑）。

博士 試合では手も足も出ないけど、試合前の口は凄いからね。

——アハハハハ！ 試合後も現地の記者に食ってかかってたみたいですからね。

博士 そういう意味では、あんだけ前に出て行ってる人いないよ。試合後もボヤいて全然反省の色なしっていうか、普通もうダメかって落ち込みそうなもんだけど、まだまだ、こんなもんじゃないってアピールしてるじゃない。俺はそこを買いたい。むしろ、〝日本のベルナルド〟として、何度失敗しても、GPの一回戦に曙を入れてあげたっていいと思うよ。

Qちゃんはオリンピックよりオーちゃんのセコンドについた方がいいよ（玉袋）

——最終的には、そうなるんじゃないかって噂は出てますけどね。

玉袋 いや、入ってもらわないと困るよ！

博士 だって、こうなったら、K・1韓国大会の決勝で当たった2人は両者アンダーウェイトの失格でリザーバーの曙の勝ち上がりって秘策まで考えたからね、俺は。

——オーバーウェイトならぬアンダーウェイトですか（笑）。

博士 それでもいいから、曙、出て欲しいよね。見たいじゃない。ダメならダメで、やられっぷりを含めて見たい。それだけ横綱の金看板はあるよ。でも、あの大会を見てK・1は、競技というより、まだまだ興行であっていいと思ったし、それも、間違ってないよね。

——ここ最近のK・1は「原点回帰」ってことを打ち出してましたけど、違う方向に原点回帰してしまったというか（笑）。

博士 やっぱり、テレビソフトなんだから、それは物見遊山の視聴率と連動してるし、年末に向けて競争してるっていう意味では、向かうのは競技性の方向じゃなくて、とにかく、祭りの方向が正しいとは思うけどね。

玉袋 年末に関しては俺、昨日の夜にずっと考えてたんだよ。

——GP決勝を飛び越えて、すでに大晦日のことを考えていましたか（笑）。

玉袋 気が早いんだけどね（笑）。だって、『PRIDE』の方は、もう『男祭り』をやるって狼煙を上げてるわけですよ。

——正式発表はされてないですけど、当然今年もやるつもりでしょうね。

博士 いや、俺たちは「今年も大晦日にやる」って統括本部長から引き出したから。

玉袋 TBSも『Dynamite!!』をまた、ぶつけてくるかもしれないと。だけど今年の年末に一番、数字を取ってくる

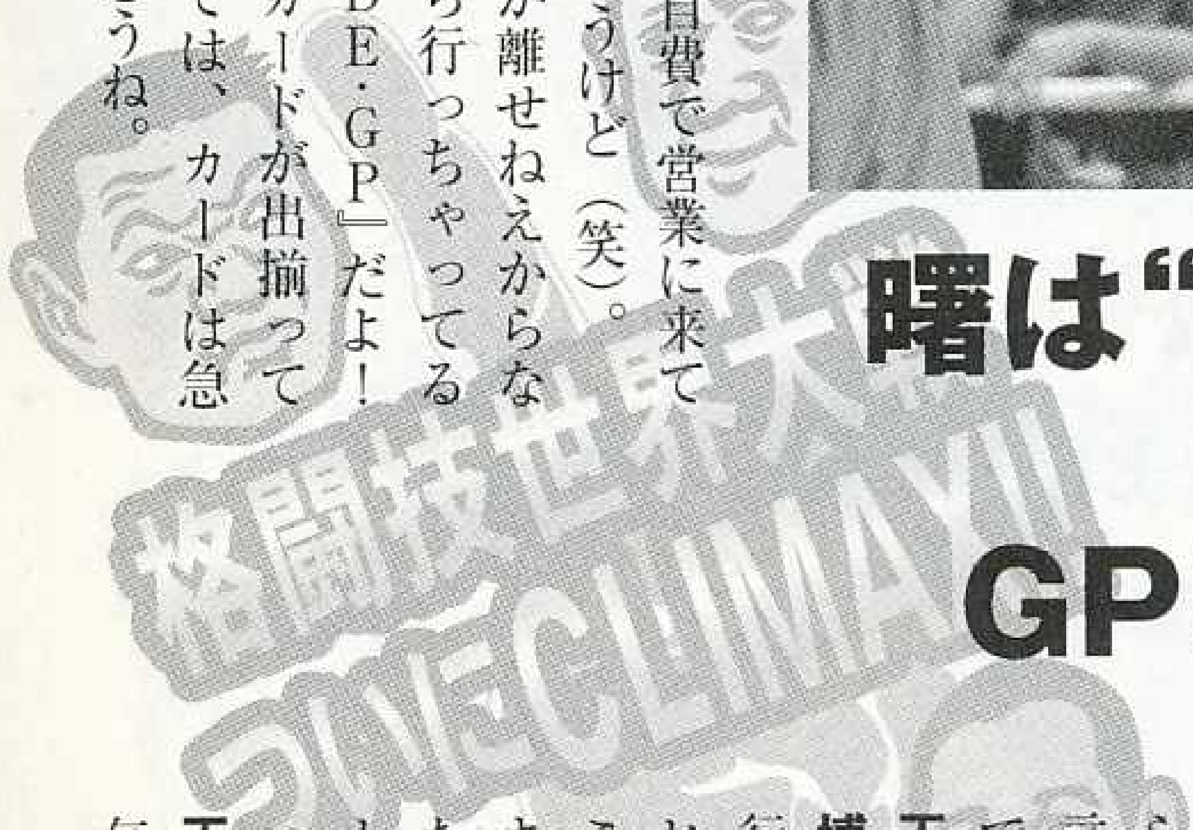
のは細木数子なんだよ～！　TBS、細木数子を絶対、大晦日に当ててくるね。
—それは強敵ですね（笑）。
玉袋　これと闘わなければいけないというね、これは大変ですよ！　そこでいま俺はワクワクしてるな。逆にK-1がいま細木数子とドッキングする可能性もあるかもしれないね。もしかしたら『Dynamite!!』に細木数子が来る可能性がある！　細木数子vsK-1戦士だね。全試合、細木数子の予想占い付き、生放送とかね（笑）。
博士　これに、番組共演する、タッキーも絡んできたら、当然、タッキー戦の雪辱に、猪木も乗り込んでくるでしょ。
玉袋　力道山追悼興行以来の再戦だ!!
博士　あと、年末『PRIDE』、K-1両陣営が狙うのは、世紀の一戦、布袋vs保坂をどっちが取るかだよね。
—アハハハハ！　それはガチンコで見たいですよね（笑）。
玉袋　やるのは『PRIDE』でしょ。『PRIDE』だけに今井美樹ってことで。
—アハハ！　イメージ的には『男祭り』って感じですけど、"火遊び"だけに『Dynamite!!』でもいいですよね（笑）。
玉袋　ガハハハハ！　で、国歌斉唱を山下久美子っていう話もあるしな。
—大晦日と言うと猪木さんもつい先日、ジェンキンスさんのように杖をついてきて、「大晦日に38度線でプロレスをやりたい」っていう話を打ち上げましたよね。
玉袋　それはテポドンと一緒だよ。
博士　どこに落ちるかわからない（笑）。
玉袋　ホント、どこに落ちるかだよな！　日テレに落ちるのか、いや日テレには、もう落ちないか（笑）。
—日テレは、もうないでしょうね（笑）。
玉袋　じゃあ、今度はテレ朝に落ちるか!?
博士　そこを飛び越える可能性もあるし、いまだ照準が決まってないかもしれない。
玉袋　そのテポドンは怖いぞぉ！

博士　でも何が驚いたって言ったら、これは浅草キッドのスクープなんだけど、北朝鮮にいると思ってた猪木さんが『PRIDE武士道』の当日に名古屋の関係者も泊まってるホテルにいたんだよ。
—エッ!?　たしかにスクープですけど、猪木さんは何をやってたんですか？



©乾晋也

博士　いや、俺も不思議に思って、次の日、リングサイドの山口さん（本誌鬼畜編集長）に「どうなってるんですか？」って聞いたんだよ。そしたら「ん？　営業じゃないかな」だって（笑）。パチンコ関係なのかな？
—営業で来てたんですか（笑）。
博士　いや、でも不思議な動きだよね。で、次の日は、もう『武士道』じゃなくて新日本の札幌大会のリングサイドにいるのよ。
—草間社長と、ヴァリッジ・イズマイウと一緒に座ってましたね（笑）。
博士　そうそう。どんな神出鬼没な動きをしてるんだよって。
—イズマイウだったら自費で営業に来てもおかしくないでしょうけど（笑）。
玉袋　イズマイウも目が離せねえからなぁ…って何で話がそっち行っちゃってるの？　やっぱり『PRIDE・GP』だよ！
博士　まだ現時点ではカードが出揃ってないけど、今回に限っては、カードは急いで出す必要がないと思うね。



曙は"日本のベルナルド"として何度失敗してもGPに入れてあげたいよ（博士）

—チケットも凄い勢いで売れてるみたいですし、当日発表でもOKですよね。
玉袋　いいねぇ。パンフレットにパーンとハンコを押して昔の新日本みたいに「おお～！」て感じで。
博士　だって、この4人の組み合わせで面白くないカードなんてないもん。
玉袋　ないよな～。
博士　ファンとしては、小川は、あの3人の誰とやっても、どれだって見たいよ。だけど、小川に勝ち逃げして欲しくないみたいなのはあるでしょ。小川が「優勝したらもう『PRIDE』は卒業だ」ってされたくないっていう。
玉袋　でも、ファンとしては、やっぱりオーちゃんに優勝して欲しいわな！
博士　でもその包囲網の中でヒョードルvs小川をやったら小川は勝てないだろうっていうのが多方の予想でしょ？
—関係者の間では、ヒョードルを優勝候補本命に挙げる人が多いですからね。
博士　だけど、それを乗り越えて小川が優勝したら文句ないよ！　優勝したら、オリンピックに先駆けて、金メダルでいいよね。あのね、オーちゃんに銀メダル持ってきてもらって、その場で、塗り替えよう（笑）。
—4人の中ではハリトーノフが準決勝ぐらいまでは一枚落ちるんじゃないかって言われてましたけど、この間のシュルト戦で一気に評価が上がってきましたからね。
玉袋　アイツは強えよ！
博士　だってヒョードルが勝ち上がって行く時だってそんなもんだったよ。「もしヒョードルなんかが上に上がって来たら、こまんなー。インタビュアー泣かせでさ、キャラないよ～」ってみんなに言われてたからね。「レッド・ドラゴン」のドクター・レクターのキャラクターをつけようかって言ってたぐらいだから。
玉袋　それがあれだけスターになって人気もそれなりに出て、ずっと勝ち続けて

きたんだから大したもんだよな。

博士 ハリトーノフは全然心配ないよね。キャラ立ちないだろって心配はあったけど、インタビューすると結構喋るしさ。

玉袋 博士はハリトーノフの（股間を指して）ハリトーノフ見たんだよね？

博士 見た見た。

玉袋 控室で脱いでる時にチラリと見たら、それはもう「張り〜トーノフ！」っていうね（笑）。

博士 それぐらい立派なもんだったよ！

玉袋 博士はノゲイラも見てるでしょ？

博士 見たよ、新宿のスポーツジムのサウナで。下半身のミノタウロをね（笑）。

——いかがでしたか、ノゲイラのミノタウロは？（笑）。

博士 ホント凄かったよ。でも、今まで一番凄かったのは、フィリオだね。あれが、伝説の「黒チューブ」かって思うくらい。しかも、あそこに「一撃」って入ってた（笑）。

玉袋 ガハハハ！ 何の話してんの、GPに関係ねぇじゃん（笑）。

——最強の男はやっぱり、あそこも最強だと？（笑）。

博士 そう。俺はグレート・アントニオって呼ぶよ。アントニオ・ホドリコのグレート・アントニオ！

玉袋 それこそ、オーちゃんじゃないけど〝モノが違う〟と！

——アハハハハ！

玉袋 まあ、そういった意味でも闘いは面白いよな。すべてひっくるめて面白い。優勝予想なんて、するだけ野暮か。

博士 いやいや、でも小川の優勝は日本人の願いじゃない。いろんな思惑なども、はね除けて、優勝して欲しいのは小川に決まってるよね。その日は終戦記念日だし、耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍んで、マイクを手に取ってもらいたい。そして玉音放送してほしい。

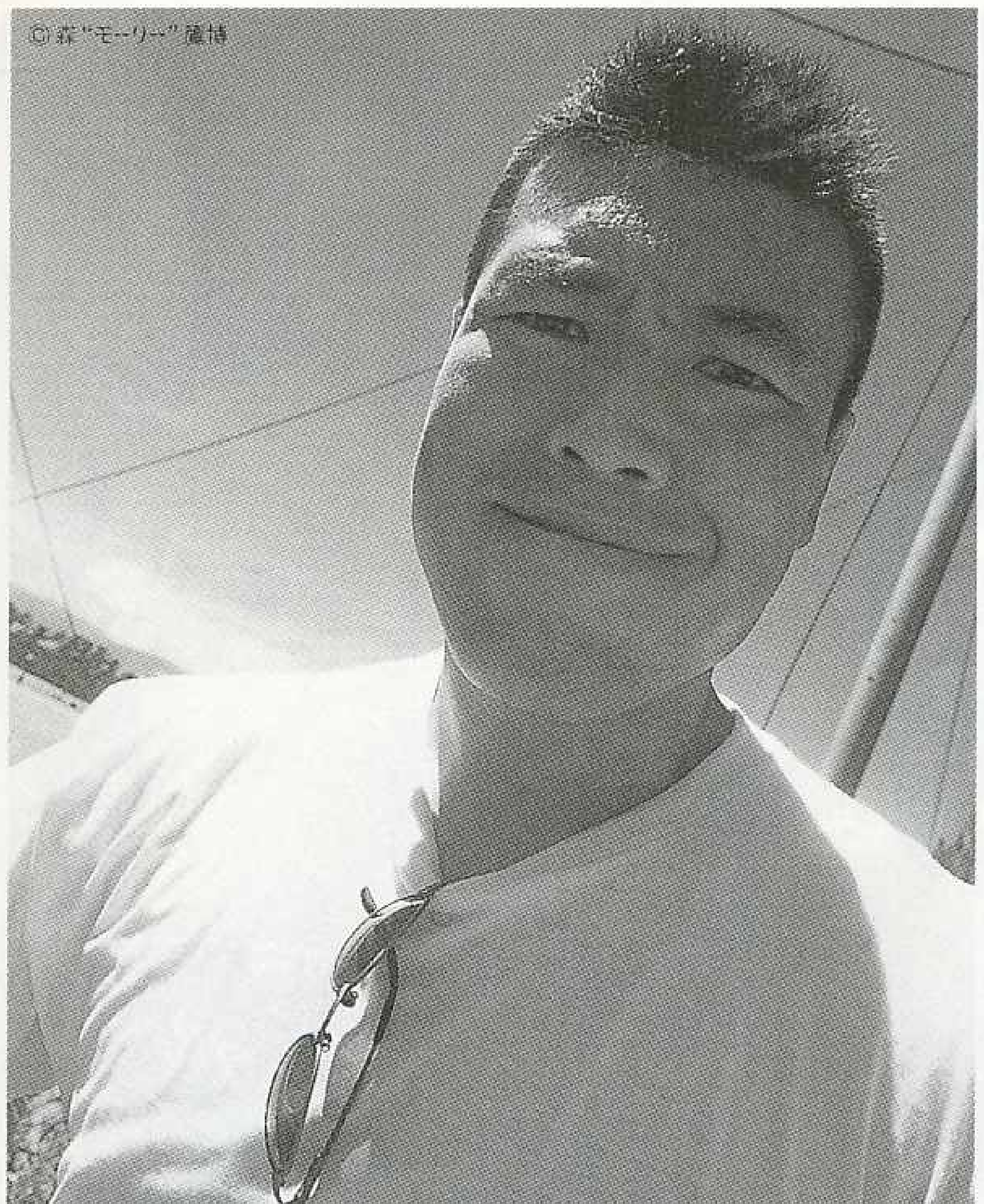
玉袋 桑田佳祐の『PRIDE』の歌を聞きたいやね。

——それはいいですよね。玉袋さん的には優勝は誰だと予想してますか？

玉袋 やっぱりね、優勝は小川ですよ。それも、すんなり勝っちゃうと思うよ。だって、相手はアマチュアに毛が生えたヤツですよ？ オーチャンって、いまプロに毛が生えちゃってるから！

——それは凄そうですね（笑）。

玉袋 そんで心臓にも毛が生えちゃってるからね。そういう点でも勝っちゃうな。



©森"モーリー"鷹博

博士 ノゲイラが、昔、小川がスポセンで、菊田を極めまくってたっていう話を聞いて驚いてたらしいけどね。

——寝技世界一を極めまくるって聞いたら、ノゲイラでも驚くでしょうね。

博士 でも準決勝でヒョードルと当たるヤツはメチャクチャ戦力ダウンするだろうね。無傷でいられないっていうところがヒョードル戦の怖いところだよね。

玉袋 でも永田は無傷だったぜ！

——たしかに無傷でしたね（笑）。

博士 でもプロレス生命を考えるとモノ凄い深い傷を受けたと思うよ（笑）。

玉袋 まあ、どんな組み合わせになっても間違いなく面白くなるよ！

博士 この際、日本中を盛り上げるために、決勝にロシア勢が上がってきたら、北方領土を賭けるっていうのが、かねてからの我々の提案だけどね。

——小川が決勝に上がったら、相手がヒョードルになってもハリトーノフになっても北方領土を賭けさせると（笑）。

博士 そうそう。なにしろ、そのために小川は、自民党の外交族の安倍晋三にハッスルポーズを伝授してるわけだからね。

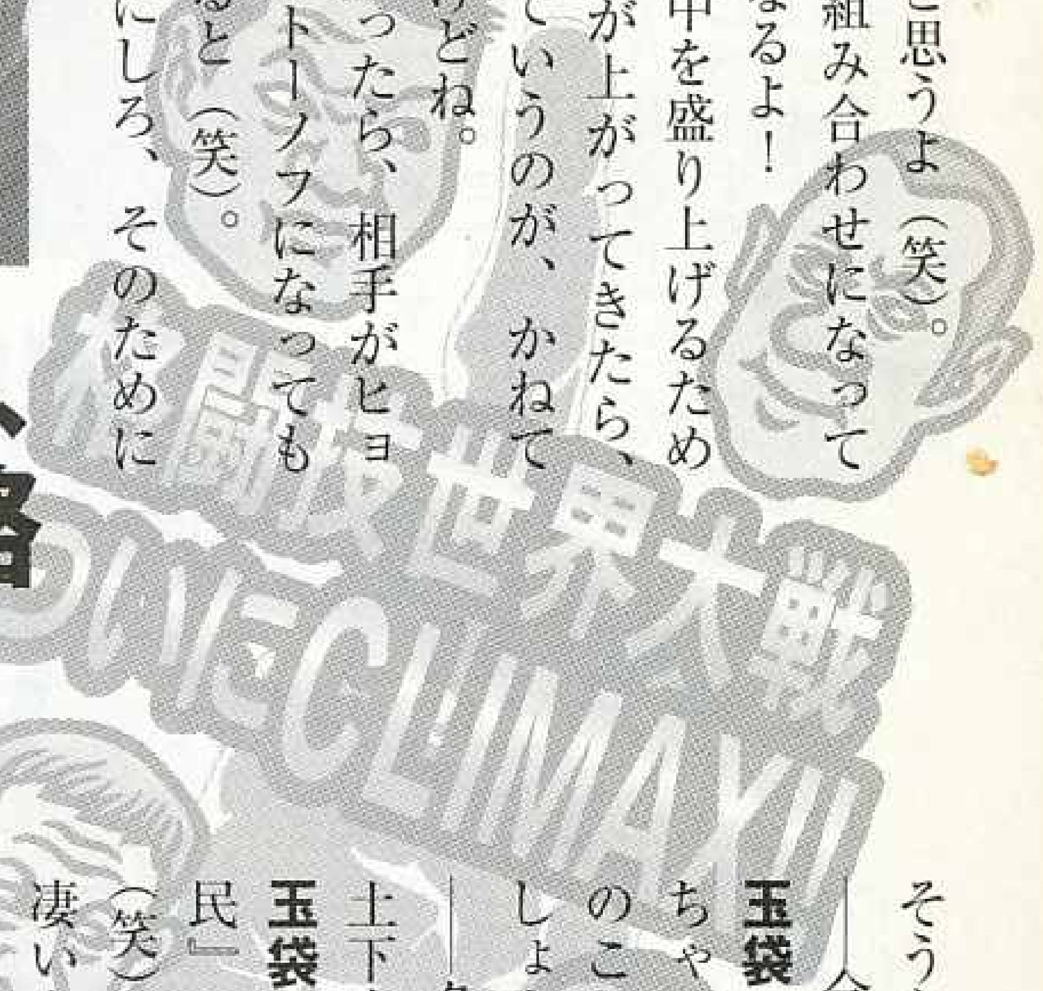
——ちゃんと理由があったんですね（笑）。

博士 自民党との外交部の人たちと小川の密接な関係っていうのは、この決勝戦での衝撃的な発表をするためだと睨んでるんだよね。その代わり、負けたら大変なことだよ。右翼に殺されちゃうよ。

——アハハハハ！ どんな手を使っても優勝するしかないわけですね。

博士 終戦記念日に北方領土を賭けて日本代表とロシア代表がガチンコで闘うと。

小川の『PRIDE』参戦も、全て猪木さんの世界戦略の一環なのかも（博士）



そうなったら凄い盛り上がるよなぁ。

——全世界注目の一戦になりますよね（笑）。

玉袋 それに、前回の『紙プロ』のオーちゃんインタビュー読んだら、猪木さんのことをまた引っ張り出して喋ってたでしょ？ 1・4事変とか路上のヤツとか。

——ターザンより前に、アントンが路上で土下座させてたんですよね（笑）。

玉袋 ターザンが土下座させるのは『和民』の店長だからスケールが違うけど（笑）、ここ最近のオーちゃんは口の方も凄いよ。

——最近はインタビューも以前にも増して面白くなってますからね。

玉袋 うん、ホントに凄い。それで優勝して、小川の口から猪木さんの名前が出てくると。いま『PRIDE』には猪木さんはいないけど、実はオーちゃんは裏では、まだ猪木さんと繋がりがあって、新日をブチ壊した時のオーちゃんみたいになったら最高だよな（笑）。

博士 俺はそっからこう行くんだと思うよ。まず優勝して北方領土通ってロシアから北朝鮮へ進行して行くと。そこに猪木さんが絡んできてさ、「おい小川、大晦日、北朝鮮で平和の祭典、頼むぞ！」ってことで。

玉袋 えっ？『男祭り』じゃないんだ（笑）。

——実は猪木さんは小川さんを遠隔操作していたと（笑）。

博士 小川の『PRIDE』参戦も、全て猪木さんの世界戦略の一環だったと。

玉袋 あれだけの師弟関係がもろくも崩れるわけないもんな。オーちゃんは、ここ何年間か師匠の名前を出さなかったでしょ。でも『紙プロ』なんかのインタビュー読むと最近出てくるんだ、これが。きっと、これは何かがあると！

——う〜ん、どうなんでしょうね。

玉袋 だけど、そんなもんビートたけしと浅草キッドが絶対離れるわけねえんだもん。そりゃ小川とアントニオ猪木って

ASAKUSAKID

いうのも絶対離れることはないよ。

博士　「おい、お前！　いま38度線で闘ってみろ！　世界中にお前の名前が知れ渡るぞ！」って言われてみろよ。「昔のイラクの人質だけじゃない。今回は、拉致被害者の解放に力を貸してくれ」って言われるの。

玉袋　師匠孝行してるよなぁ、いまオーちゃんは。ホントの意味で猪木イズムの後継者になってきたな。

博士　（冷静に）まあ、それでも、我々は大晦日、フジテレビの方に行くけどね。

玉袋　そりゃそうだ。

——そこは冷静ですね（笑）。

博士　でも、猪木や小川だったらダイナミックに、それぐらい動きを見せて欲しいね。しかし、『男祭り』の方も、そんな動きを歯ぎしりしながら見てないだろうしね。GPが終わったら、今度は12月31日の「小川 vs 吉田戦」っていうのも捨てがたいからね。

玉袋　俺、見えてるんだよ、そのカードも。

——実現の可能性は高いと？

博士　基本的には小川は、吉田戦だろ。吉田とやっても『世の中が喜ぶ』と言ってるとか、いないとか（笑）。

——でも、吉田さんの方は、小川さんについて語りたがらないですからね。

博士　でもGPで優勝したら、当然無視できなくなるからね。

玉袋　そりゃそうだよ。

博士　今度のGPで小川が優勝したら指名権持つよね。要するに王者が入ったトーナメントで優勝してるんだから、「俺が一番強いんだよ」って言えるじゃない。そこで次に闘いたい相手を聞かれて「吉田とならやってやる。出てこいや～！」って。

——のけ反るわけですね（笑）。

玉袋　ハッスルするぜ～、これは！

——「自分はミドル級GPに専念します」ってかわすような気もしますけどね。

玉袋　そしたらオーちゃんはミドルまで体重落とすよ。またファスティングやればいいんだから。

——そうですよね（笑）。気がついたら二回級制覇もありえると。

博士　二階級制覇っていうのは、ホントは吉田選手が狙ってたもんね。

玉袋　そういう駆け引きを考えるだけでも面白いよな。8月のGPが終わってその先に見えるものっていうのも楽しみだね。

博士　『紙プロ』的には、そっから『ハッスル』を見てると思うけど、やっぱり俺は『PRIDE』で闘う小川が見たいね。

玉袋　俺はね、『PRIDE・GP』で優勝して、その後は『ハッスル』で全敗するオーちゃんを見たいけどな。

博士　プロレス的には、それも一番面白い展開だよね。でも、オーちゃんの優勝っていうのは全国民にとってオリンピック以上の悲願だと思うからね。

玉袋　ただなぁ、いくらオーちゃんでも、国民の期待をすべて一心に背負ってハハレイシビリ（・ダビド）にオリンピックで負けたようなことがまたあるかもしれないってところがね、刷り込んどこ、俺。

博士　だったら、ここは国民を代表して一人の男がオーちゃんのために立ち上がるしかないよ。昔、極真の世界大会のときは、大山総裁がいつも宣言したじゃない。

玉袋　「もし、日本が負けるようなことがあったら腹を切る」と……。

博士　そう、そこで、そういう役割の人が立ち上がるわけ。

——だ、誰が立ち上がるんですか？

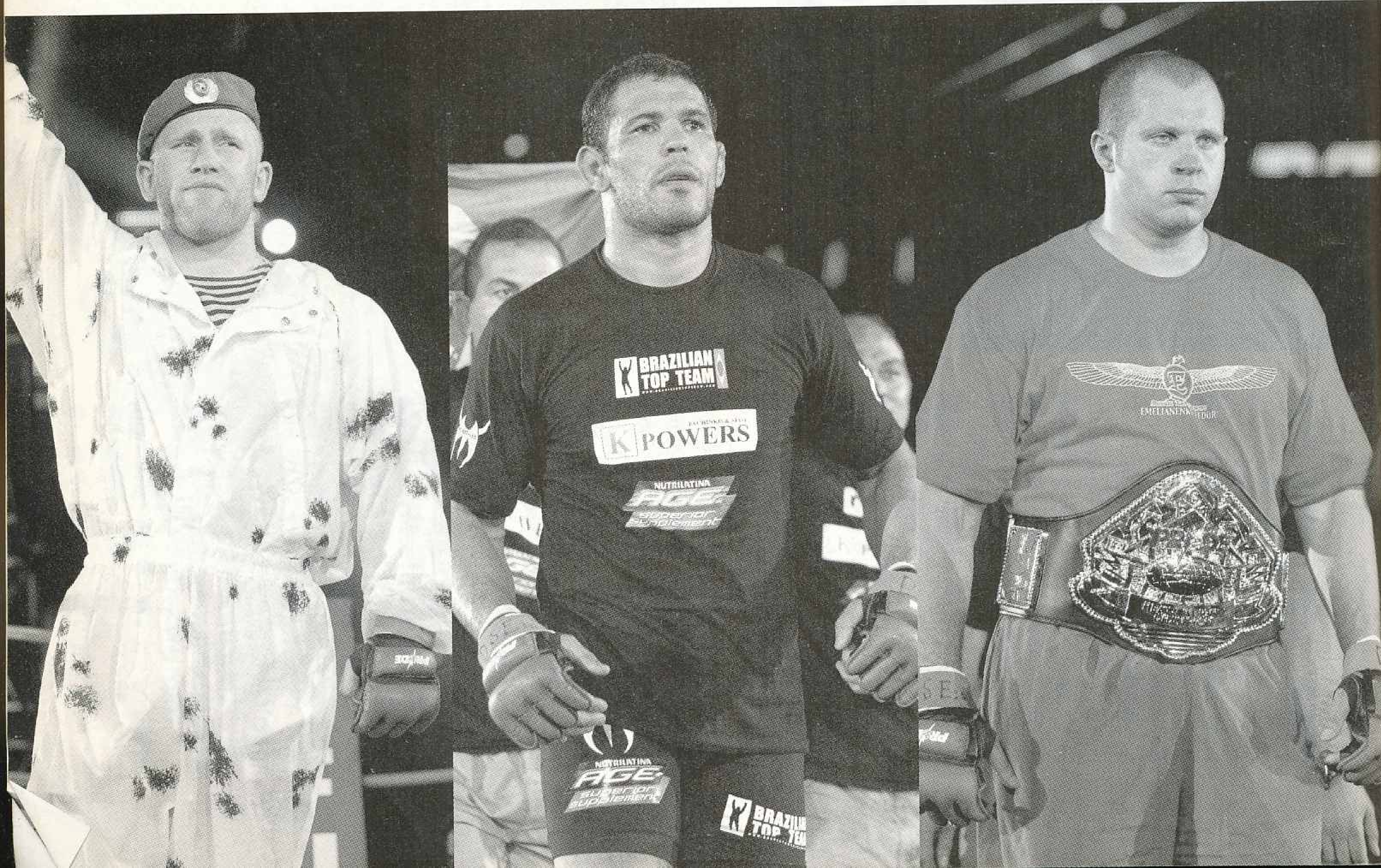
博士　ターザン山本ですよ‼　ターザンが、今こそ、日本のプロレス界を代表して、オーちゃんが優勝できなかったら、「足を切る！」っていうのね。

——アハハハハハ！

博士　腹切りは難しいから足を切ると。今ちょうど上手い具合に、糖尿病になってるわけだから。

——最初に診てもらった町医者からは「足

みんな強敵だけど、小川の優勝っていうのは全国民にとってオリンピック以上の悲願だよ！（博士）



を切らないと治らない」って脅されたらしいですからね（笑）。

博士　そうなったら、どっちに転がっても面白いからね。

玉袋　まあ、それぐらいだったらいいや。

博士　こういうことになったら腹を切るとか日本人は言いがちだけど、それってプレッシャーになるから、オーちゃんの代わりにターザンが足を切ると！　それとターザンの彼女も賭けた方がいいね。

玉袋　ラスカルの公（きみ）ね！

――何を賭けるんですか？

博士　優勝とともに結婚だね！

玉袋　そりゃいいな。ターザン結婚だな。

博士　あの人も、身を切るような思いで儲け事をするのが好きなわけじゃない。こうなったら競馬どころじゃないから狂い死にするんじゃない。まあ、小川の優勝と違って、俺たち以外、誰も関心はなんいだけどね（笑）。

玉袋　たしかにそうだわな（笑）。だけど、いまどこに行っても『PRIDE』の話が日々に出るね。スナック行けばわかるよ。

――スナックに行けば『PRIDE』の認知度がわかると？

玉袋　そうそう。スナックに飲み行って話題が出てきたら本物だから。流れ着いたホステスが山梨の井沢温泉のスナック『こころ』で、なにげに『PRIDE』の話をしたら、どっからたどり着いたかわからねえホステスのおねえさんが「やっぱり『PRIDE』は面白い」って言ってたから。もうそうなると本物だな。

――間違いないですね（笑）。ちょっと前までは安生さんも言ってましたからね。キャバクラに行ったらK-1ファイターって言うと全然食い付きが違うって。いまは『PRIDE』ファイターですかね。

博士　杉浦が「キャバクラでモテたいから『PRIDE』に出た」って言うのでわかるよ。あれは本音だもん。

玉袋　でもキャバクラってのは夢が小せえと思うな。そりゃ都心のキャバクラ行ったらある程度、誰だってモテますよ。

――そういうもんですか（笑）。

玉袋　それこそ山梨の井沢温泉のスナック『こころ』に行って、そこのホステスに「もしかして『PRIDE』に出てた杉浦さん？」って言われた方が本人も気持ちいいんじゃねえかって言っときたいな。

博士　場末のスナックでね。

玉袋　でもホント、いまは場末のスナックでさえ『PRIDE』知ってるぜ。横にいた常連のオヤジでさえ、その話に身を乗り出して来たもんな。

博士　そりゃ間違いない、本物だ。

玉袋　でも、どうなっちまうんだろ。GPだけじゃなくてシウバも出るんでしょ？

――シウバvs近藤戦なんて『武士道』なら間違いなくメインカードですからね。

玉袋　どこまで詰め込んじゃうんだよって話だよな。燃え尽き症候群が怖いけど、まだまだ行くぜ、これ！

博士　でも高田本部長がシウバとノゲイラの豪邸に行って驚いたって言ってたけど、ホント、南半球じゃ、あの青森の住宅供給公社事件の14億円横領のアニータ以来、日本に行って家が建つのは、格闘家か風俗嬢しかないっていうのが定説だから。

――そうかもしれませんね（笑）。

博士　それは凄い黄金伝説だと思うよ。ベルトじゃなくてあの豪邸の説得力って。

玉袋　だからこそシルバみたいな現在のガリバー旅行記が蘇ったわけですよ。でも、彼の話聞いて良かったなあ。

博士　毎回日本に来る時は30時間エコノミーで移動してるっていうね。

――エッ、そうなんですか⁉

博士　だから、シルバなんかはそこの闘いで破れてるんだよ。

玉袋　エコノミー症候群に負けてるんじゃないかっていう話もあるけどな。

博士　あれでファーストで来たら世界で一番強いかもしれない（笑）。

玉袋　あの体でエコノミーは相当キツイぜ（笑）。でも逆に、それぐらいの方がいいんじゃないかな。エコノミーから解き放れたシルバは手が付けられないっていうね。

――そういう狙いかもしれませんね（笑）。

玉袋　シルバは飛行機乗ると、両方の羽の中に手を入れてるっていう説もあるしな。

博士　そりゃあ、往年の馬場伝説だよ。

――アハハハハハ！　でもシウバが杉浦戦であっさり負けちゃったことで、小川直也の実力がまたわからなくなったって声も出てますよね。

玉袋　そうした方が面白いのよ。

博士　前フリのVがそう作られてたからね。まあ、それはそれで面白かったし、問題提起になるからね。

玉袋　まあ、でっかいことはいいことだ！

――それだけで十分ですよね（笑）。

博士　でも一番の願いは小川の優勝だけど、それとともに小川に勝ち逃げして欲しくないなって気持ちもあるし、「GPが終わっても『PRIDE』にいてくれ」っていう願いをどうやって小川に届かせれるかっていうのもあるよね。

玉袋　それはあるよな。

博士　だって小川は、この間の『PRIDE』で珍しく観客に感謝してたじゃない。あんなのなかったよ、今まで。「皆さんの暖かい声援が俺の気持ちの弱いところを前に出してくれる」みたいなアピールしてたけど、あれってモノ凄い心境の変化だと思ったしさ、『PRIDE』ファンの思いも伝わってるよ。『ハッスル』だってみんなで応援するけど、『PRIDE』から勝ち逃げとか撤退とか負け逃げも嫌だし、とにかく「『PRIDE』にいてくれ」っていう願いが強いよね。

――先ほど話題に出た小川vs吉田戦って世間にも届くでしょうし、関係をよく知る人にとっても見たいカードですからね。

玉袋　見たいねえ！

博士　視聴率も全時間帯で紅白越えの可能性だってあるよ。

玉袋　今年は紅白も目玉ないもんな。

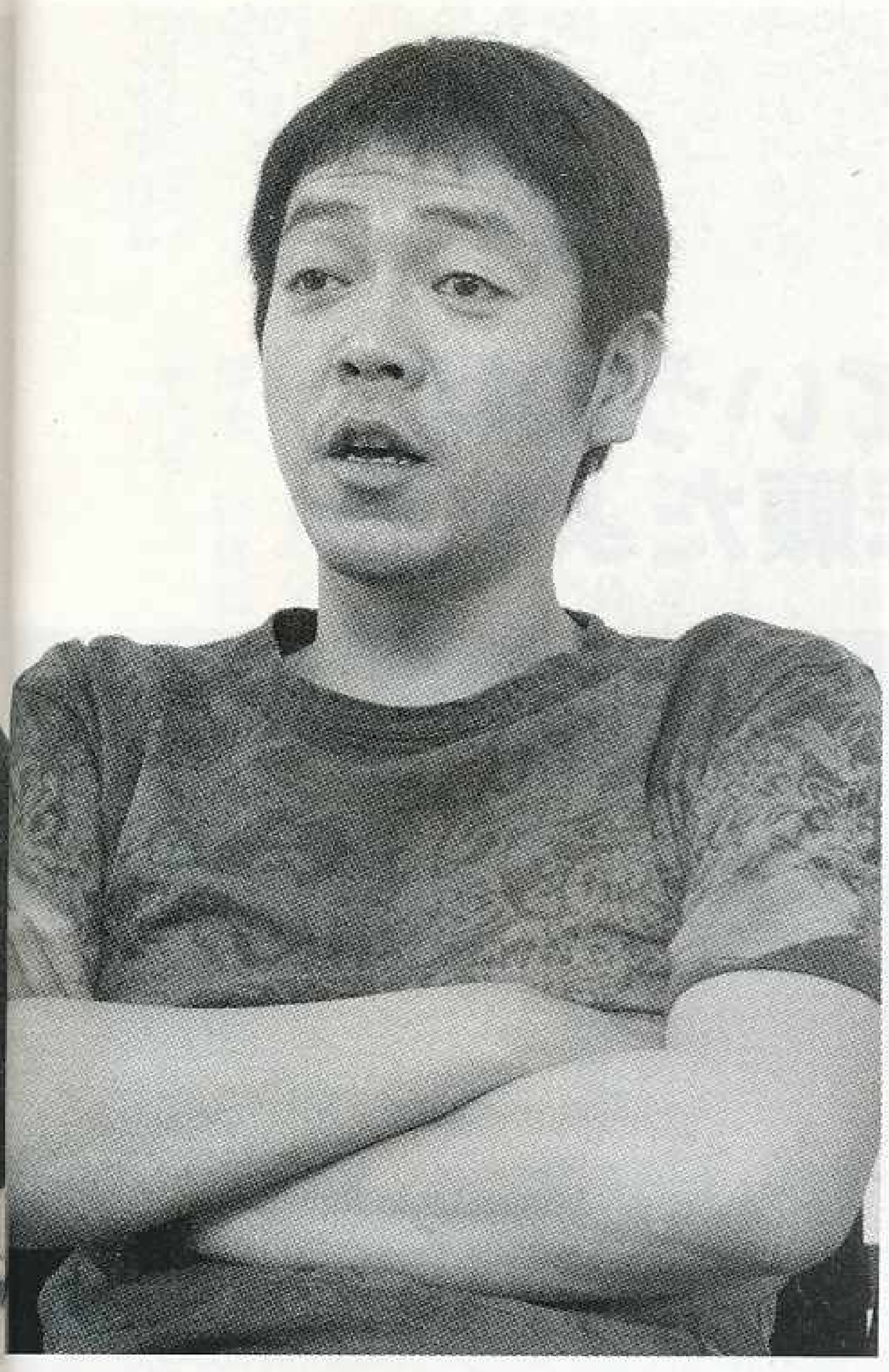
――『男祭り』的にはそれプラス田村vs桜庭戦でも実現したら完璧ですよね。

玉袋　それがあれば完璧だな。でもなぁ、細木数子vsK-1っていうのも強いぞ！

――そうですね（笑）。あとは、この間の『PRIDE』で吉田さんから呼び掛けられたGacktさんにも出場して欲しいところですね。かなり強いらしいですし。

博士　最近、Gacktの伝記を読んだけど、俺もGacktの戦闘能力っていうのも見てみたくなったよ。スタッフは全員格闘技やらせてて、合宿もやらなきゃい

なんで、ターザンがプロレス界を背負うんだって話だけどな（笑）（玉袋）



けないって。

—Ｇａｃｋｔさん自身も海外武者修行みたいなこともしてるんですよね（笑）。

博士　マダガスカルでガチンコ相撲をとったとか、いろいろ伝説があるんだよね。

玉袋　この間のは前フリだったかもしれないな。

博士　それと江頭の復帰戦とかもそろそろ考えてるからね。

—ちなみにそれはどちらで？（笑）。

博士　江頭は俺たちが押さえてるから、これは『男祭り』だね。

玉袋　さいたまスーパーアリーナの屋上で待機してもらってな。ヘリが来て、「お〜っと、高田統括本部長か！」ってよく見てみたら江頭だったっていう（笑）。

博士　江頭は時間の問題だね。

—ＴＢＳはまたボビーvsホイスの再戦をぶつけてくるんじゃないかっていう説もあるみたいですけど。

博士　それは、お遊びすぎて数字取れないんじゃない。

玉袋　どうせだったらヒクソンなんか出てきてくれたら面白えな。

—ヒクソンはK-1でタイソン戦って噂も出てましたけど、そのカードは実際難しそうですからね。

玉袋　『ＰＲＩＤＥ』も交渉中でしょ。高田本部長は否定しなかったもん。

博士　もし、『ＰＲＩＤＥ』に出るってなったら、それこそ紅白を全時間上回るかもしれないよ。小川vs吉田、ヒクソンvs桜庭だもん。田村は浮いちゃうけどさ。

玉袋　だけどヒクソンは「『ＰＲＩＤＥ・ＧＰ』の優勝者とやりたい」って言ってるらしいからね。

博士　それにしても、どんな自信の持ち方なんだろって。逆に感心するね。

玉袋　勝てるって踏んでるのかな？

—引退試合で、もしＧＰ王者に勝ったりしたら、ホントに伝説になりますよね。

玉袋　面白えよ！

博士　ヒクソン伝説としたら面白いよね。

—小川vsヒクソン戦なんかも夢のカードですからね。

博士　もちろんね。小川vs吉田も視聴率取るけどさ、小川vs長州なんかもありえるんじゃない。もちろんガチンコでね。

—数字は取れるんでしょうけど、長州vs小川のバーリ・トゥードっていうのは、ちょっと切ない感じもしますよね。

博士　でも可能性はあるんじゃない？　だって長州も大晦日、日本中が注目する紅白の裏番組にそんなことでもしないと、いろいろ入り用でしょ。

—ＷＪも、とうとう休眠会社になってしまいましたからね。

博士　そこで１億くれるっていうんだったら殴り殺されても出るでしょ。頭いいから、それもまた心意気だってことわかってる人だろうし、視聴率も取るだろうし。大晦日に覚悟を決めて、気合いの入った長州の顔っていうのも絵になると思うよ。

玉袋　日本人は、そういうのたまんないからね。ヒクソンと長州のダブル引退試合ってのもいいよな。

博士　まあでも、小川絡みは誰と絡んだって見たいよ。

—vsヒクソン、vs吉田、vs長州、何でも来いって感じですよね。

玉袋　ミルコvs小川とかだって見てぇよな！　そう考えると、ホント、いまオーちゃんは世界の中心だな。

—世界の中心で「ハッスル」とさけんでるわけですね（笑）。

博士　いま言っている夢のカードもギャラの問題だったら、なんだったら、俺が、ライブドアの堀江社長をスポンサーに連れてくるよ。

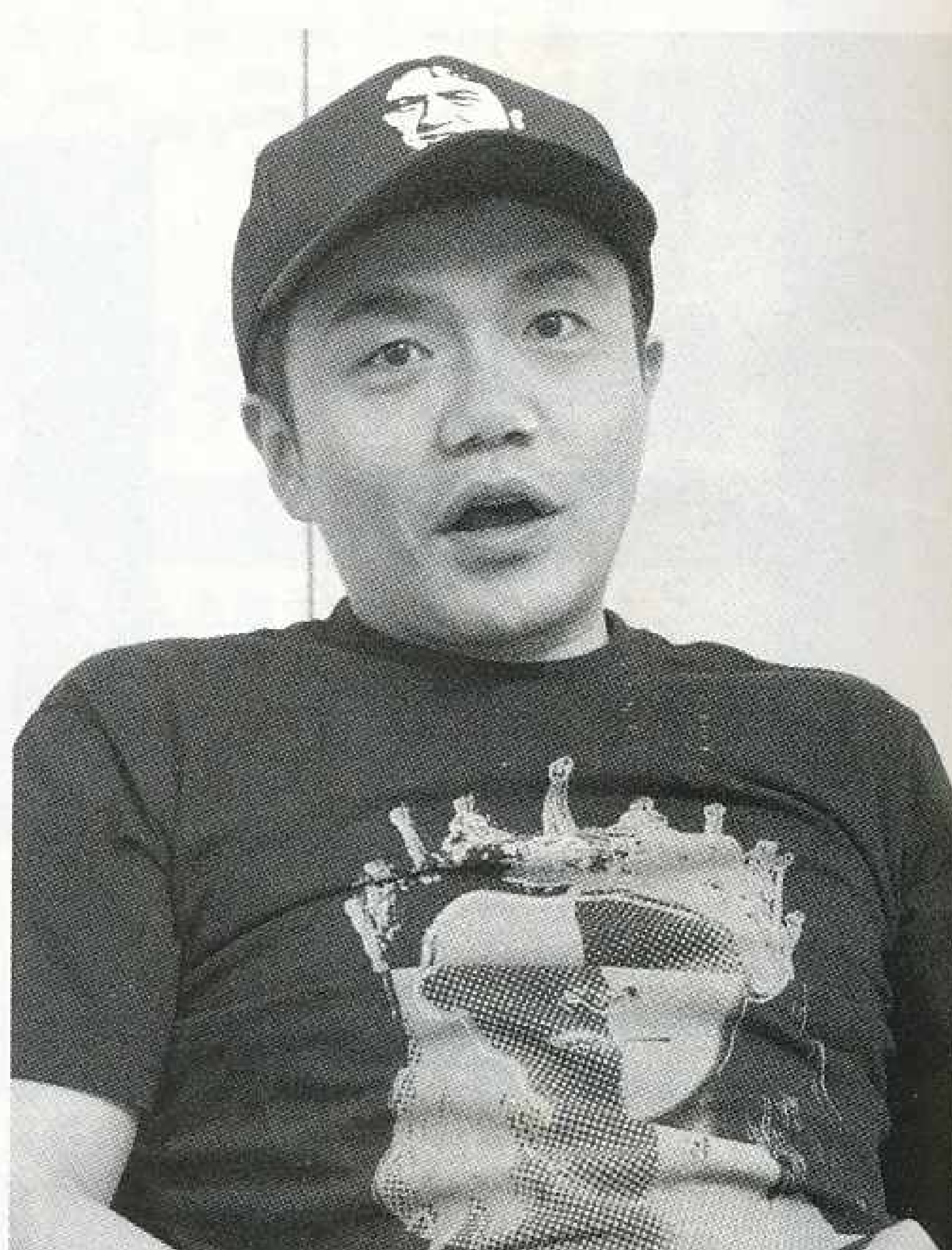
—いま話題の近鉄買収の。かなり懇意らしいですね。

博士　だって、『ド・ナイト』で共演してて、前から近鉄買収の話をしていたもん。あのニュースの時、「報道ステーション」で映ってた社長のインタビューって、やってるの俺だもん。一時期、総資産9400億持ってたんだよ。もうなんでも買いたい放題、桃太郎電鉄の社長かって話だから。で、前から、野球だけでなく、ぜひ格闘技を応援してくださいって話してんだよ。

玉袋　それに、俺たちには、馬主王の関口会長がいるわけだから。

博士　そう！　関口会長も負けてないよ。こうなったら、堀江社長と、関口会長で、『ＰＲＩＤＥ』やK-1の選手のセリをかけたらいいんだよ。小川もタイソンもヒクソンも皆、面倒見てもらってさ。

小川が優勝できなかったら、プロレス界を代表してターザンが足を切ると！（博士）



玉袋　小川はＪＲＡだけに（笑）、いいね。

博士　選手はギャラで報われて、テレビは視聴率で報われて、紅白をホントにぶっとばしてさぁ、いいことだらけだ。ＮＨＫの紅白だって、いま金まみれのスキャンダルになってるでしょ。だからこそ、密室じゃなくて、公開でセリやったり、ギャランティーも決めればいいんだよ。開かれた格闘界にして、日本発、世界中継のお祭りにして、スポンサーもじゃんじゃん乗り入れて欲しいね。

玉袋　そこら辺も含めてリングサイドで見てたら面白いんだなよぁ。最高だよ！　俺たちはいいもの見してもらってるよ。

博士　いやあ、これってマーシー様様ですよ。（笑）。

玉袋　そうそう。マーシーがあんなことで、ランナウェイしなかったら、『ＳＲＳ』の司会もやってないかもしれないからな。

—ですよね（笑）。まあでも、ここまで来たら『ＰＲＩＤＥ・ＧＰ決勝戦』は、ほっといても盛り上がるでしょうね。

玉袋　やる前から出来上がっちゃってっから。俺なんかも『ＰＲＩＤＥ』のことを考えない日がないもん。毎日考えてるな。交通事故だけには気をつけよう。

—アハハハハ！　では、最後に一言お願いします！

博士　やっぱり、『紙プロ』的には、小川直也が優勝できなかったら、プロレス界を代表してターザンが足を切ると。

玉袋　なんで、ターザンがプロレス界を背負うんだって話だけどな（笑）。

—そうなるとターザンは是が非でも小川さんに優勝してもらうしかないですね。

玉袋　そうなったらオーちゃん以上にハッスルして原稿書きまくるだろうな。

—それはそれで楽しみですけどね（笑）。

博士&玉袋　当日、会場で会いましょう！

【7月25日／都内某所にて収録】



金ちゃんの MONTHLY BOYA-KING COLUMN なんでそ～なるの!? 出張版

第12回 7・19『武士道』で突如因縁勃発！ 和田良覚vsシルバ、やるしかない!!

『紙プロ』読者のみなさん、暑中お見舞い申し上げます。体調万全、ただいま絶好調にも関わらず、結局7・19『武士道』では試合がなく暇を持て余している金原です（笑）。ホント、7月にミルコと再戦したかったな～。

その代わりという訳じゃないけど、この間、サイパンに行ってきたよ。俺の友達であるアンソニー・ネツラーが「再起戦に向けてサイパンで練習するから、コーチとして来てくれ」って言うんで行ってきたんだけど、サイパンに行く2日前になってネツラーが自転車で転んで大けがしちゃってさ。もう膝と足の甲の肉が見えるくらいえぐれちゃって、それでも無理してサイパンには行ったものの、当然練習はできずじまい。コーチで行った俺も結局やることなくなったから、ビーチでのんびりしてきたよ。

サイパンって言うと、8年前にUインターvs新日の対抗戦の前に行って以来だから懐かしかったね。あのときは〝対抗戦に向けての強化合宿〟……という名のUインター社員旅行だったんだけど（笑）。例によってベロベロに酔っぱらうまで飲んで、夜中みんなで裸でホテルに帰ったような気がするよ（笑）。いや～、あれからもう8年も経つんだよね。

というわけで、サイパンに行ってた関係で名古屋の『PRIDE武士道』はまだ見てないんだけど、聞くところによると〝最強の男〟和田良覚がジャイアント・シルバをチョークで絞め落としたらしいじゃない（笑）。

見てない人も多いと思うけど、なんか杉浦（貴）選手との試合後、こん棒を持って暴れるシルバを何人がかりでも止められない中、和田さんが後ろからシルバに飛びかかってチョークで動きを止めたって聞いて大笑いしたよ。もう、こうなったら次の『武士道』では、和田良覚vsジャイアント・シルバ戦を組むしかないね。これが実現したら、『PRIDE武士道』の注目度も一気に高まるでしょう（笑）。

それから次の8・15『PRIDE・GP』は俺から見ても興味あるよね。ホントはワンマッチでもいいから俺も試合したいんだけど、オファーが来ないんだよな～。しょうがないから、『紙プロ』編集部の要望もあったので、GPの優勝者予想でもしてみよう。



小川に続き、杉浦にも敗れてしまい『PRIDE』で試合を組むのはさすがに難しくなりそうな大巨人シルバ。しかし、まだこの男がいた。和田良覚vsジャイアント・シルバ、見たい！

今回はホント組み合わせが重要だと思うんだよ。なぜかっていうと、ヒョードルとノゲイラがやったらまたヒョードルが勝つと思うんだけど、ヒョードルはハリトーノフに勝てないと思うんだよね。なぜかっていうと、ロシアン・トップチーム総監督のパコージンさんがヒョードルに対して凄く怒ってるじゃない。だから、ハリトーノフはヒョードルとやったら死んでも負けられないと思うんだよね（笑）。そうなると、勝負への執念でハリトーノフが勝つと思うけど、ノゲイラとやったらハリトーノフは負けると思うんだよ。

だから結局、小川さんvsヒョードル、ノゲイラvsハリトーノフに決まったから、決勝はヒョードルvsノゲイラで、ヒョードルが優勝すると予想するね。でも、ホント今回は予想できないよ。特に小川さんとハリトーノフがどこまでやるかなんて、誰もわからないでしょ？　だからこそ面白いんだけどね。

そういえば、ちょっと前の話になるけど、6・20『PRIDE・GP』の会場で久しぶりに（イリューヒン・）ミーシャに会ったんだよね。ミーシャって俺のリングスデビューの相手であり、リングス最後の相手でもあるから久々に会えて嬉しくてさ、ピチコフコーチの奥さんが英語できるから、俺のカタコトの英語を通訳してもらって話をしたんだけど、パコージンさんが入って来てね。いまパコージンさんと前田（日明）さんの関係がどうなってるのかわからないから、「前田さんとはどうなんですか？」って聞いたらさ、「マエダさんとは長い親友だから、今度エカテリンブルグにリングスセンターができるのでぜひ招待したい」って言ってたんだよ。だからすぐ前田さんに知らせようと思って電話かけたらそのときは通じなかったんだけど、しばらくしたら「おう、金原なんや」って前田さんからかかってきてさ、「今日、『PRIDE』の会場でパコージンさんに会って、ロシアにアリーナができるから前田さんを招待したいって言ってましたけど、聞いてますか？」って聞いたら、「まだ聞いてないけど、ぜひ行きたいな」って言ってたんだよね。それでそのあと世間話してたら、「ところで金原、今日試合勝ったんか？」って聞かれてビックリしたよ。俺は3週間前にミルコとやったばっかりだから、試合してるわけないのに（笑）。

ホント前田さんらしいよね。だってさ前田さんは俺がリングスに移籍して1ヶ月でロシアの大会に出たとき、「金原、お前ロシア何回目やったっけ？」って聞いてきたくらいだからね。何回目も何も俺はリングスに来てまだ1ヶ月だって（笑）。

Kaneharа Hiromitsu

本音炸裂コラム毎日更新中！
バナー広告も引き続き大大募集中!!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2004 NO.77



ターザン山本！が

病床でハッスルとさけぶ!!

いかに試合を否定できるか、それがハッスルの永遠のテーマですよォオォ!!





改名直後、糖尿病により緊急入院してしまったターザン山本！。約2週間の入院生活を余儀なくされたターザンだったが、現在はすでに退院済み。今回は、まだ入院中だったターザンのインタビューをお届けします。はじめは弱気な顔を見せたターザンだが、最後はやっぱり大炎上となりました!!

聞き手／松澤チョロ　『ハッスル』試合撮影／平土幸雄
『K-1』、『PRIDE』試合撮影／乾 晋也　designed by bun-chan (Two Three)

―いきなりですけど、山本！さん、ハッスルしてますかーッ!?

ターザン　ハッスル？　してるわけないよぉ、そんなもん。

―失礼しました。全国何千人かのターザンファンは山本！さんの病状を心配してると思うんですけど、調子はいかがですか？

ターザン　ターザンファンなんか１人もいないですよォオォ！

―１人もいないんですか？　なんか入院してかなり弱気になってるような気がするんですけど。

ターザン　いまは超弱気だよォ！

―ビデオを見せられて糖尿病の恐怖を実感してるみたいですからね。

ターザン　もうね、恐怖ですよ！

―恐怖のビデオですか？（笑）。

ターザン　恐怖と脅しの論理ですよ。糖尿っていうのは進行していくと「失明します」だとか「腎臓が悪くなって人工透析になりますよ」とか「足の神経がなくなって切断しますよ」とか、「動脈硬化を起こして心筋梗塞になりますよ。それと同時に脳梗塞になりますよ」と。五大脅しなわけですよォオォ！

―脅されっ放しですか（笑）。

ターザン　ハッキリ言って、人生ないみたいなもんだよ！　一番最初に町医者に行った時なんか「足切れ！」って言われたんだもん。

―それはビビりますよね。

ターザン　ビビってたじろぎましたよォオォ！

―アハハハハ！

ターザン　まあ、それぐらい傷が膿んで、血がドロドロ出て、かさぶたが膜になって、いっくらヨードチンキで治療しても治らなかったもん。でもさぁ、ヨードチンキって２００円もしないんだよな（笑）。

―２００円で治ったら世話ないですよ！（笑）。

歌枕（ターザンの付き人）　チョロさん、なにげにテレコの電池やばいんじゃないですか？

―あ、点滅してる。山本さん、テレコの電池がなくなりそうです。

ターザン　ホントしょっぱいなぁ、お前！　編集者失格ですよォオォ！

―申し訳ありません！　ちょっと代えますんで、お待ちください。

ターザン　チョロ！　いまの怒りでさぁ、血糖値が30上がったよ！

―それはヤバイじゃないですか？

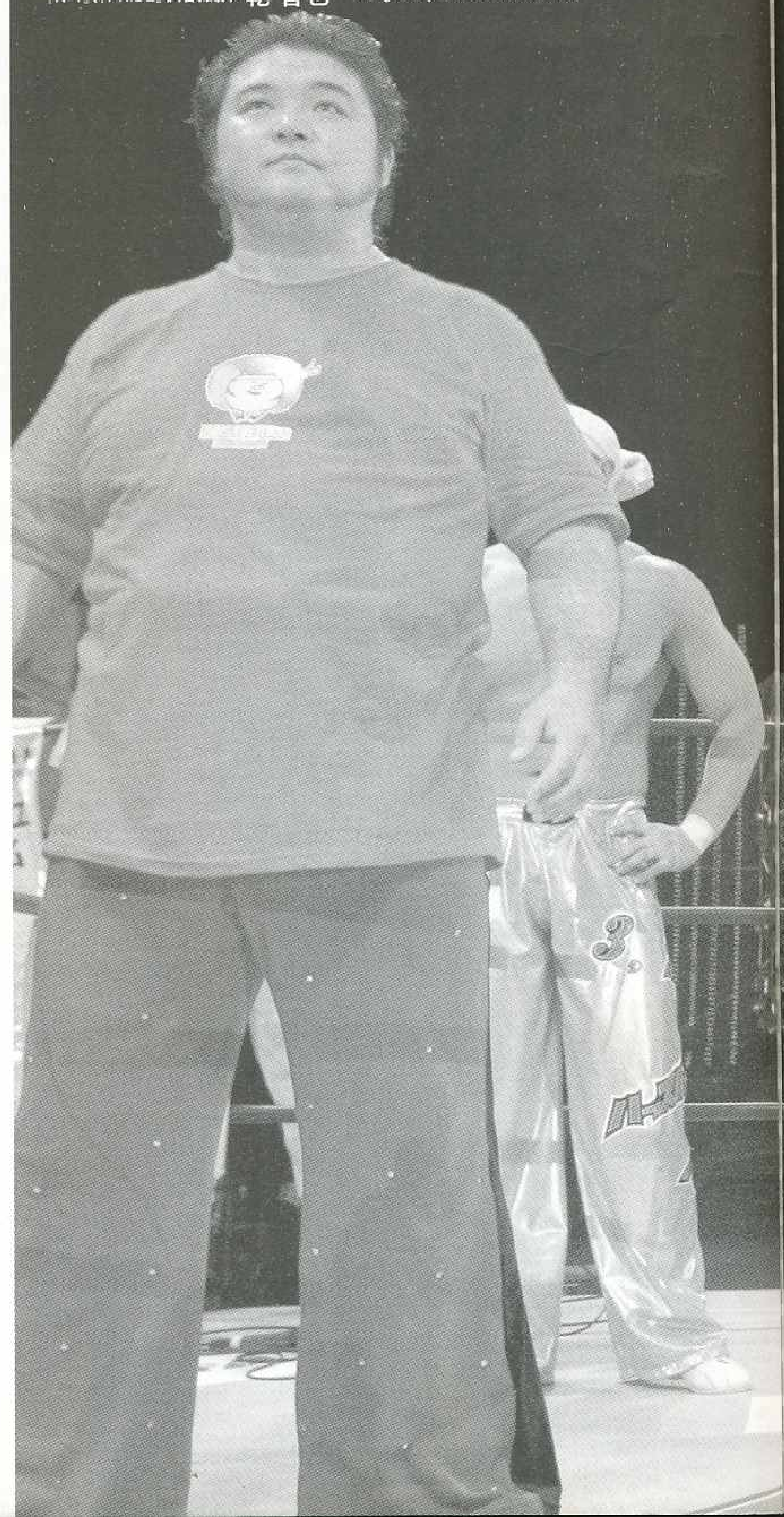
ターザン　それまで落ちついて喋ってたのに、いまのでガーッとスイッチ入ったから凄く血糖値が上がってしまった。怒りの感情と興奮は血糖値を上げるんだよね。いまは、その数値が１１０とかだから。

―落ちついてきてるんですね。

ターザン　普通の人に近づいてきてるの。最高で２７０あったんだから。

―それは、どう考えても普通じゃないですよ！（笑）。

ターザン　（無視して）それとね、ヘモグロビンＡ１Ｅというのがあって、それは血液の中の血糖値の面積を表してるんだよね。それが10以上あってさ、熱で言うと40度ぐらいの熱なんだよ。



―40度ってかなりヤバイですよ!!

ターザン　それが５・５〜６ぐらいにならなきゃいけないの。それが熱で言うと36度とかなんだよね。要するに７を越えたら危ないわけよ。

―入院してなかったらホントに危なかったんじゃないですか？

ターザン　いや、58歳の年齢になったらどっか悪いよ。軒並み悪いよ！　オール全て全部悪いですよォオォ！

―アハハハハハ！

ターザン　ただ、ボクは頭がモノ凄くシビアでしっかりしてるでしょ？　精神力というか、頭脳はね。だから、肉体の悪化とそれが完全に反比例してるわけですよ。そういう意味では、非常に最悪化した状態にならないと、気づかないというか（笑）。

―「ターザン山本！」への改名が良くなかったんじゃないかっていう説もありますけど？

ターザン　そう言うのはねぇ、しょっぱいヤツなんだよォオォ！　物事を改革するとか改名するとか、変化させるっていうことは、必ず前の部分が残ってるわけだから摩擦熱を起こすわけですよ。摩擦が起こると、やっぱりさぁ、いままでの既成のものだとか古いものとか保守的なものが抵抗を起こすわけ。そうすると、新しく変わろうするものを、うしろから足を引っ張るわけですよ。その部分で改名したりすると、いったんは落ちるんですよ。

―いったん落ちるのはしょうがないと？

ターザン　それはしょうがないんだけども、そっから大いに急上昇するわけですよォオォ！

―急上昇しますか（笑）。

ターザン　豪ちゃんなんかも改名が良くなかったとか言ってたけど、（小

ボクと田中社長が組んでたら、今頃SWSは天下獲ってましたよ！

声になり）豪ちゃんは、人生経験が少ないんだよ。人生の幅が1ミリぐらいしかないんだよォォォ！

——人生の幅が1ミリ！（笑）。

ターザン 人のことばっかり興味持ってて詮索してるけども、自分の人生なんか1ミリぐらいだからわかんないわけですよ、人の人生の機微が。

——でも、名前の最後に「！」が付いてからの一連の動きにはボクらもビックリさせられましたよ（笑）。

ターザン そんなもん、俺だってビックリしたよォォォ！

——でも、この後も変わらず「ターザン山本！」でいくわけですね。

ターザン もちろんですよ！ だって好転反応って言うじゃない？ 冷凍療法みたいなヤツ。いったん冷たくすると、熱を回復しようと努力するみたいな。あれと同じですよ。

——今回たまたま『紙プロ』でビクトル古賀先生を取材してるんですけど、「ターザン」の名付け親になるんですよね。

ターザン そうそう。でも、「ターザンって付けろ」っていうのはまったくいいセンスしてるよね。

——ピッタリですよね（笑）。

ターザン ターザン山本っていうのは言葉の響きもいいし、愛称としても抜群な改名だったよね。山本隆司の「司」は戸籍にはないんだよ。あれは前のカミさんのお父さんが改名させたわけ。

——あ、そうだったんですか!?

ターザン 山本隆だったんだけど、それに「司」を付けることによって、「上に立って人を司るように」ってことで付けたんだよね。結局、まず義理の親父によって改名して、二回目はビクトル古賀、三回目は姓名判断で改名したわけよ。ボクは三回も改名させられてるわけですよ（笑）。

——レスラーも顔負けですね（笑）。

ターザン 全部言われたとおり、「ハイ、わかりました」と即そこで変えるから。その度にブレイクしてるんですよ！ 今度のブレイクはホントにジャンプすると思うよ。いままでのブレイクとは違うブレイクをすると思うよ。間違いない!!

——期待してます。マット界に無理矢理話を戻しますけど、山本！さんの入院直後にK-1で、またドタバタがありましたよね（笑）。

ターザン 今回のK-1のドタバタは、あれは凄いドラマがあったね。俺にとっては渡りに船というかさ（笑）。さらにさらに状況は悪化してきてるもんね。

——最後の砦と言っていK-1MAXでも一悶着あって、韓国大会が、ある意味クライマックスというか（笑）。

ターザン K-1の場合は寄ってたかっておかしくなってるもんね。ボブ・サップから魔裟斗、曙という三連発のどん底みたいなねぇ（笑）。どん底一直線みたいなとこがあるもんねぇ。

——どん底一直線って（笑）。

ターザン K-1の韓国大会も招待されたんだけども、その時にキャバクラ雑誌のイベントがあったんだよね。

——アハハハ！ K-1よりキャバクラを選んじゃいましたか（笑）。

ターザン 高須基仁との対決でね、俺がキャバクラ派で、向こうがソープ派で対決して、そこで大勝利宣言しようと思ってたんだけどね。俺はK-1よりキャバクラ雑誌の方を取ったんだよ。

——でも、結局は入院してしまったわけですね（笑）。

ターザン （無視して）だからさぁ、大会に招待するんじゃなしに、ボクの能力というか才能を活かして欲しいよね。買って欲しいというか。俺の能力と才能は最強に近いでしょ！

——いまのK-1は、いろいろ言われてますけど、山本！さんの才能があれば立て直すことができると？

ターザン すぐにできるでしょう！

——すぐにできるんですか？（笑）。

ターザン そりゃそうだよ！ だって、4・2「夢の架け橋」を考えてくださいよ！ 違う？

——たしかに成功しましたけどね。

ターザン ただ、ボクはもうそういうことはやろうとは思わないから。外から高見の見物をしながら物書きとして書いてるだけだから。もう面倒臭いことは嫌なんだよね。

——すぐに立ち直させることができるんだったら谷川さんもお願いして来るんじゃないですか？

ターザン でもさぁ、それをやっちゃったら彼の立場がなくなるじゃん。だから、SWSと一緒ですよ。メガネスーパーと。

——田中社長と一緒ですか。

ターザン ボクが最初に関わってたら成功してましたよ！ ボクが敵に回ったから潰れたわけですよ（笑）。

——それはありますよね（笑）。

ターザン ボクが田中社長と最初に接触して「新しいマット界を作りましょう！」って言ったら、今頃、SWSは絶対に天下獲ってますよォォ！

——とにかく凄い自信ですね（笑）。

ターザン だって、ボクだったら誰を引き抜いたらいいかとか全部わかるじゃない。あんなに金かけなくてもジワジワできるんですよ。ボクがやってたら、今頃SWSは天下獲って『PRIDE』なんかなかったですよ。

——『PRIDE』ができる隙も与えてなかったわけですね。

ターザン というか、『PRIDE』的なものもやってたかもしれないしね。とにかく、ボクが田中社長と組んでたら大成功してましたよ！ ボクははじめからプロ格の時代になると思ってたからね。いまの時代を当時から予言してたから。

——強引につなげると、山本！さんがSWSに関わっていたら、『ハッスル』もできてなかったってことですよね。

ターザン いや、『ハッスル』っていうのは突然変異なんですよ。突然変異というのは、必然性があるから生まれるんですよ。ある必然性というか、状況が停滞してきたりとか、あるいは混乱してきたりとか、そういう状況の中で自然現象的に、何かがそこで出現しなければいけないという、生態系の神がそれをポツンと生ませるわけですよ。

——『ハッスル』は生態系の神が生んだイベントでしたか？（笑）。

ターザン 要するに、新種を誕生させるわけですよ。異形なものを。それが『ハッスル』なわけですよ。『ハッスル』は現状のプロレス界の中の大いなる矛盾とか問題点とかが解決できない時に、こういうのもあっていいんじゃない？っていうことで、ポツンと生まれた変種というか新種という



入院先のベッドで恋人のラスカルの公からのプレゼントのルービックキューブに口づけを交わすターザン！。入院中には小林聡や水道橋博士など様々なジャンルのお見舞い客が訪れ、病院のロビーは常に大盛況だったとか。



7月17日、韓国で行われたアジアトーナメント1回戦で中国の張慶軍と闘った曙。試合は大きな見せ場もないまま曙の判定負け。試合後の曙は「相手はKOすると言ってたのに打ち合いにこなかった。これじゃあK-1の試合と言えない」

『ハッスル』っていうのはポジティブな非常識プロレスなんですよオォオ!

か、変わった種なんだよ。それがいまの時代のプロレスには全く予想も付かない存在なわけですよ。だから、『ハッスル』はNOAHと対立するよね、結局。

――方向性は正反対になりますよね。

ターザン　NOAHというのは昔ながらのプロレスを維持して、昔ながらのプロレスの面白さとか、楽しさとかを馬場さん以来継承しているわけですよ。それとは違った形で、新日本プロレスは、格闘技を持ち込むことによって、馬場さんとか全日本とかと違うことをやったわけですよ。でも、それも息詰まったわけ。だから、全日本vs新日本っていう対立は、最初にあったのは全日本なんだよね。日本プロレスから派生してるから。そこに変わった新種として新日本が生まれたわけ。

――いまの『ハッスル』と同じように新種として生まれたわけですね。

ターザン　そこには馬場vs猪木っていう対立概念があったんですよ。でも今は新日本が格闘技に完全にやられてしまったので、新日本自体のリーダーシップというか、存在理由が非常に薄くなってたわけですよ。そうすると逆にNOAHの方が、元からある老舗のプロレスみたいな感じで、生き延びてきてるわけですよ。『ハッスル』は、その2つとも関係ない形でポッ～ンとさぁ、まるっきりわけのわかんない存在として誕生したんだよね。

――わけのわかんない存在（笑）。

ターザン　そうすると、新日本は格闘技でやられてるから、結局、NOAHと『ハッスル』が対立構造になってて、その証拠がマスク・ド・ノーフィアーが出れなくなったっていうところにあるんだよね。

――大会直前になって、参戦中止になってしまいましたからね。

ターザン　ボクは、NOAHの主張というか含みがあって出られなくなってると思ってるんだよね。

――新日本との絡みじゃないかとか、いろんな説は出てますけどね。

ターザン　高山は新日本とNOAHに出てるので、それが『ハッスル』に出たら、論理的に矛盾を起こすじゃない？　だから、どっちを取るかってなったわけ。それでわかったのが、『ハッスル』はNOAHや新日本とは共存できないということがハッキリわかったよ。マスク・ド・ノーフィアーが出れなかったということは、もしもあれが高山だったとしたら非常にこれは正しいことなんだよね。

――出なくて正解だったと？

ターザン　正解というか、時代がそれを証明させたわけですよ。『ハッスル』vsNOAHというのが明確に形として見えてきたわけですよ！

――山本！さんは『ハッスル4』には病院から抜け出して会場に足を運んだんですよね。『ゴング』で観戦記を書かなきゃいけなくなったっていうのもあったみたいですけど。

ターザン　GKとターザン山本！が一つの興行を見て、どういう違いがあるかということを書いて誌上対決をしてるわけですよ。

――それは会場に行くしかないですよね（笑）。

ターザン　いや、俺は行くつもりはなかったんだけど、前の週に予告を打たれちゃったからさぁ（笑）。

――GKとのツーショット写真付きの予告が出てましたからね（笑）。

ターザン　予告打たれたらさぁ、行かないといけないもん、これぇ。まあ、お金を稼がなきゃいけないっていうのあったんだけどね（笑）。

――入院費がかなりかかるみたいですからね（笑）。

ターザン　入院費を概算したら40万近くかかるもんねぇ……（しみじみと）。

――それは稼がないといけないですね。で、『ハッスル4』はいかがでした？

ターザン　あれは小屋がデカ過ぎるんだよ。やっぱりね、『ハッスル・ハウス』の成功が非常に『ハッスル』の形態にあってたんだよね。しかもなんか、料金が5千円と3千円だったでしょ？

――かなり激安設定でしたからね。

ターザン　そういった意味で言うと、ホントに『ハッスル・ハウス』が現時点での『ハッスル』のベスト空間、ベスト興行なんですよォォ！

――『ハッスル・ハウス』はメチャクチャ評判も良かったですからね。

ターザン　あれを下敷きにして、あれをスタンダードにして、どうしたらいいかということを考えないと、やっぱり迷走するよ。『ハッスル・ハウス』の成功というか、充実感というものが基本ラインとして考えなきゃダメよ。どちらかというと、『ハッスル』というのは、ギャグなんだよね、すべて！

――『ハッスル』はギャグですか（笑）。

ターザン　いままでのプロレスの常識からすると非常識ですよ、あれは！　非常識って言ってもポジティブな非常識プロレスだよね。ネガティブな非常識プロレスは良くないから。

――いい意味で非常識っていうことですね。

ターザン　そうそう。非常にポジティブな形で、いままでの従来のプロレスのアンチテーゼなんですよ。そのアンチテーゼをいままでは格闘技側がプロレスをアンチテーゼしてたわけ。

――ちょっと前まではそうでしたよね。

ターザン　格闘技側というか、真剣勝負と八百長という形で、格闘技側がプロレス側をアンチテーゼしてたんだよね。ところが、プロレスの内側からプロレス的なところで、ギャグを武器にしてアンチテーゼプロレスというか、そういうものを『ハッスル』が掲げたわけ。そこに『ハッスル』の存在理由があるんですよ！

――そういう意味でもNOAHとは対立せざるを得ないですよね。

ターザン　そう。そういった意味では試合時間を短くしなきゃダメ！　完璧に試合時間を短くして、コンパクトにまとめて、それでお客を引っ張っていくっていうね。もう答えはハッキリしてるわけ。試合やったら旧来のプロレスと同じになるもん。試合にこだわっていたら、『ハッスル』は『ハッスル』でなくなるんですよ。やっぱり、試合を否定しなきゃいけないんですよ！

――試合を否定するというと？

ターザン　それを果たしてマッチメーカーとレスラーができるかどうかが『ハッスル』の永遠のテーマですよォ！

――簡単にはいかないでしょうけど。

ターザン　WWEみたいに試合は10分以上やらない。あの試合時間は間隔を詰めなきゃいけないね。そこに『ハッスル』の存在証明があるし、観

客も、いまの時代は長ったらしい試合はダメなわけですよ。野球だって何がダメかと言うと試合時間がわかんないから。

——試合時間は読めないですからね。

ターザン　その点、サッカーはね、前半・後半、45分ずつの90分しかないんだから。そこに当然の現代性があるわけよ。バレーボールだって昔はラリーの応酬をやってたけどいまは、すぐに点が入るでしょ。そういうふうに変革してるわけですよ。いまの忙しい現代人の中で試合の終わる時間がわからないのはナンセンスだよ！　スポーツとしても競技としてもエンターテインメントとしても失格だよ！

——野球とプロレスは失格ですか？

ターザン　2時間とか3時間とかに短くした方が、見ている方もリズム感があるし、テンポもあるし、流れもいいし、進行もいいし、なおかつファンのノリも良くなるし、終わった後の余韻も短ければ短いほどいいんですよ。ちょっと食い足りないなと、腹八分目興行にしろと言いたいんですよォォ！

——6月の『PRIDE・GP』は全7試合でサクッと終わって腹八分目興行だったんじゃないですか？

ターザン　あれぐらい腹八分目でやらないとダメですよ！　でも、いまのプロレスラーは存在が恵まれてないから、リングの上で自己表現しようとしたら、これでもか、あれでもかって長くやるんですよ。それがプアーだと言いたいんですよォォ！　それに最近のプロレスって難易度の高いスープレックスとかしょっちゅうやるでしょ？　ああいうのは必要ないんですよ！　腹八分目という論理をわかってないんだよ。興行は腹八分目じゃないと。腹八分目をパーフェクトにやれなんですよ。

——それは難しそうですけどね。

ターザン　観客も少しぐらい欲求不満を残すのが一番いいんですよ。でね、試合を否定するということは、どういうことかというと、『ゴング』にも書いたんだけどね、名勝負、好勝負は必要ないということですよ。その幻想を捨てるんですよ。名勝負をしようとか、好勝負をしようとか、そういう幻想は持たないことが『ハッスル』の一番いいとこなんですよ。誰も『ハッスル』に名勝負とか好勝負を見に行ってないよ、そんなもん！

——小川さんも「いい試合って言われるより、いいイベントだったって言われたい」って言ってましたね。

ターザン　それが正解ですよ！　でも、実を言うと、名勝負とか好勝負幻想というのが、いままでのプロレスの中にあったでしょ。それ自体が、いまのプロレスにはないんですよ。これはもう失われたものというか、俺から言わせると死語なんですよォォ！

——いまのプロレス界に名勝負は存在しないですか？

ターザン　そんなもんあるわけないですよォ！　それにこだわっているレスラーはNOAHとか新日本の中にはある程度はいるんだけどね。

——NOAHとかは、みんな名勝負をしようと思ってるんじゃないですか？

ターザン　名勝負、好勝負そのものが古臭いんですよ、いまは。もう置き忘れてきた忘れ物みたいなもんだよ（笑）。

——名勝負は忘れ物と一緒（笑）。

ターザン　だから、ここに来てやっとね、そういう古いものと対決していた小川選手の考え方が全面的に肯定されて、彼自身も素直に言えるような空間になってて、『ハッスル』は小川選手の小川選手による小川選手のためのジャンルですよ！　だから、小川選手はホントに『ハッスル』のキングですよ！

——山本！さん、ハッスル・キングは橋本さんなんですけど（笑）。

ターザン　小川はキング・オブ・キングですよ！　体質的に小川選手に一番合ってるんだよ。だって、小川選手ははじめから名勝負だ、好勝負だとかできないし、やれないし、そんなこと必要ないと思ってるもん。

——そうなんですかね（笑）。

ターザン　まあでも『ハッスル』に一番似合ってるのが小川ですよ。あとは長州にしろ、橋本にしろ、川田にしろ、いままでの自分がやってきた過去の歴史に、過去の偉業、過去のキャリア、そっからくるプライド、そのすべてを放棄しなきゃ！　全部捨てないことには『ハッスル』の門を潜れないんですよ！　あれは微妙に狭き門なんですよ！

——誰でも簡単に『ハッスル』できるわけではないと？

ターザン　そうそう。こだわりとかプライドとかがあると、『ハッスル』の狭き門は潜れない！　でも、川田は三冠王者なのに『ハッスル』に来ると捨ててるでしょ？

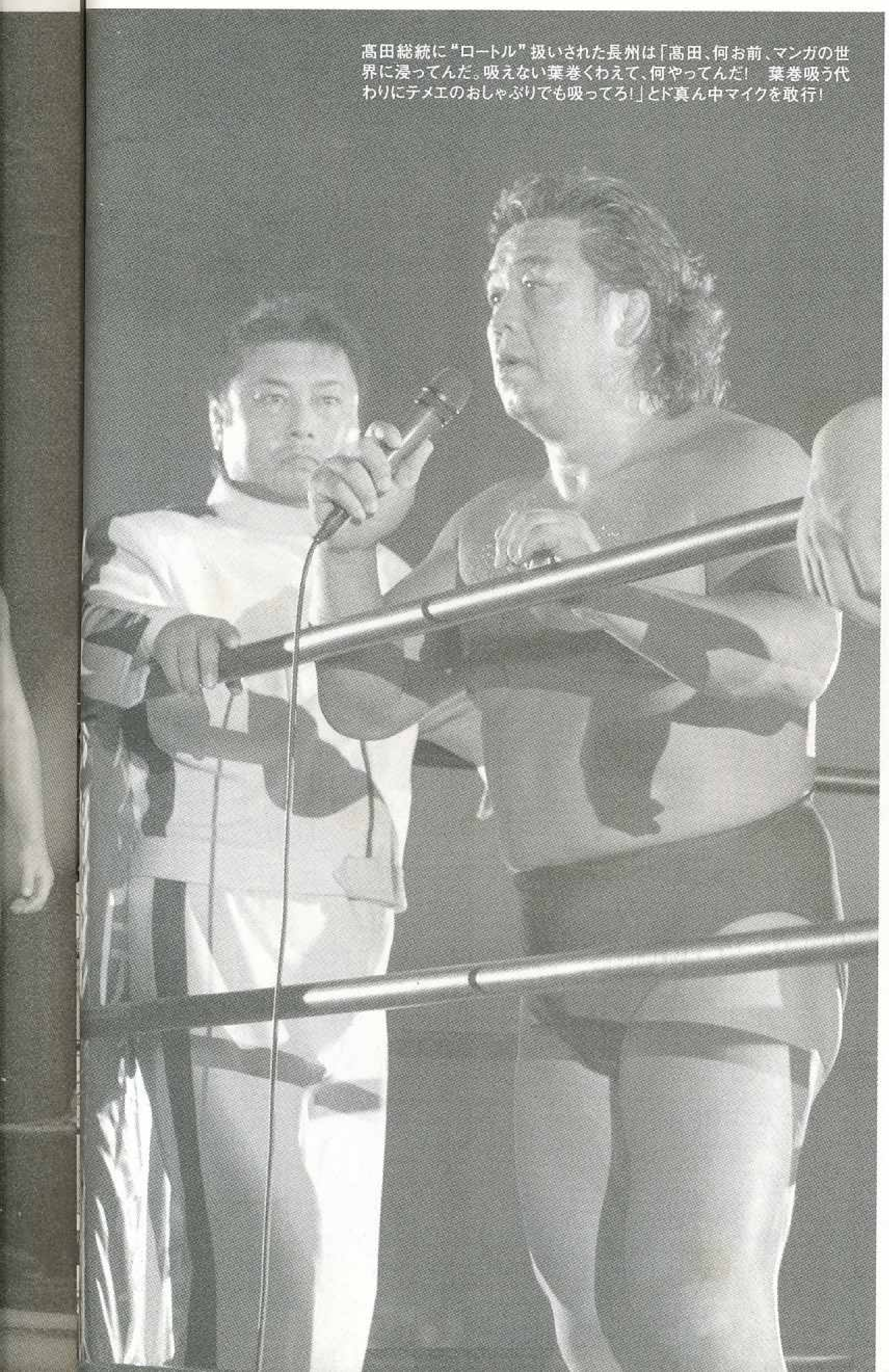
——今回はトラックスーツを着たり、だいぶ捨ててましたね（笑）。

ターザン　普通ね、ブルース・リーの格好しませんよ。それをやったということは、ある部分、彼は捨てたってことですよ。全日本での四天王時代の自分というものを捨て去ったんですよ。デンジャラスKを捨てたんですよ。そういう意識改革をやったわけ。なぜ、そういう自分改革ができたかというと、それは背負うものがないから。

——もはや"俺だけの王道"は背負ってないということですか？

ターザン　王道とか全日本プロレス

髙田総統のマイクを聞いて、俺はマジで襲いかかろうと思ったよ！



髙田総統に"ロートル"扱いされた長州は「髙田、何お前、マンガの世界に浸ってんだ。吸えない葉巻くわえて、何やってんだ！　葉巻吸う代わりにテメエのおしゃぶりでも吸ってろ！」とド真ん中マイクを敢行！

とか、背負うべきものが、形骸化してるというか、解体してしまったので、もはや自分一人しかなくなったのでできたわけですよ！

——長州さんはどうですか？

ターザン　長州さんも一緒ですよ。新日本を出て、ＷＪもないでしょ？　背負うものがないわけですよ。そうしたら、もう捨てるしかないんだよ！　放棄するしかないんですよォォ！　だから、狭き門を潜れるんですよ。そういう意味では橋本が一番、中途半端なんだよ。まだ背負ってる団体としてのＺＥＲＯ－ＯＮＥがあるから。二股かけてるから。

——ハッスル・キングは二股かけてましたか（笑）。

ターザン　そうそう。コウモリみたいな男ですよ。捨て去った方が人気が出るんですよ、川田みたいに。長州もカッコ悪いのでハッスルポーズをやらないで石井と控室に帰ったけど、あれはやっぱり長州という歴史がもたらした最後の抵抗ですよ。

——長州さん的には、髙田総統とマイクでやりとりしたのが、精一杯のハッスルぶりだったわけですね。

ターザン　そうそう。あれは長州が先輩として、髙田に言ったわけですよ。あれさえも捨てなきゃいけないんだけど、まだ捨てきれなかったわけ。でも長州も半歩踏み出したわけよ、もう。実際、予定通りマスク・ド・ノーフィアーが出ていたら、長州はあそこに出てないんだから。

——繰り上げ当選みたいな（笑）。

ターザン　そうそう。だから、時代が長州の背中を押してるんですよ。もうここまで来たら背負うものは何もないんだから、スッカラカンになってゼロになって裸一貫で勝負しろみたいな形でボーンと『ハッスル』の神が背中を押したんですよ。いいチャンスを与えてるわけですよ。あれは長州にとって、まったくもって超ラッキーですよ！

——長州力は超ラッキーと（笑）。

ターザン　でもね、弟子の佐々木健介の方が早く捨てたんだよね。

——健介さんは早かったですからね。

ターザン　場所は『ハッスル』じゃないんだけども、新日本プロレスにいた長州の愛弟子みたいな形で、肩肘張ってやってきたのを全部捨て去ってしまった時にブレイクして「うわぁ～」って歓迎されたでしょ。それをみんな大衆もファンも望んでるんですよ！　面倒臭いことはもう捨てろみたいな（笑）。お前のプライドを捨てろみたいな。

——それは簡単そうで、なかなかできないんでしょうね。

ターザン　だから、『ハッスル』というのはいままでのプロレスの中ではハッキリ言ったらね、史上空前のね、踏み絵ですよ！　「プロレスというプライドをお前踏めるのか？」って書いてあるわけですよ。で、裏には「プライド」って書いてあるわけ。お前はこれを踏んで行けるのかという。「ちょっと待って。俺は踏めそうで踏めない」なんてぐずぐず考えてたら踏めないわけですよ。キリシタンの踏み絵みたいなもんですよ！

——プロレス界には、まだまだ隠れキリシタンが多いんですね（笑）。

ターザン　そう。巨大な踏み絵ですよ！　だから、俺は見てて、もう面白くて仕方なかったもんな（笑）。

——「あ～ぁ、あの選手は踏んじゃったよ！」って（笑）。

ターザン　そうそうそう（笑）。それと、髙田総統が川田と長州を標的にしてボロカスに言ったでしょ？

——言ってましたね。

ターザン　「ロートル」とか「引きこもり」とか言ってるのは、そんなもん捨てろってことなんですよ。ただ、あの髙田総統の言い方は、ボクからすれば、失礼なヤツだなというかね、腹立つというか、あの瞬間に俺は川田ファンになるし、長州ファンになったよ！

——アハハハハ！

ターザン　俺なんか古いから、長州と川田の気持ちが１００％わかるから、髙田総統は憎たらしいこと言うなって思ってさ。俺はマジで髙田総統に襲いかかろうと思ったんだよ。「何言ってんだ、お前！　ふざけんな!!」って言ってさ、カーッとなったんだけども、冷静になってよく考えたら言ってることは全く正しいんだよ。だって、一番吹っ切れてるのは髙田総統じゃない？

——それは間違いないですね。

ターザン　新日本プロレスを出て、ＵＷＦも出て、Ｕインターも出てね、それで『ＰＲＩＤＥ』まで捨ててるんですよ、あの男は。

——髙田総統とは別人なんですけどね（笑）。

ターザン　（無視して）ヒクソンと闘った男とかね。Ｕインターで最強を名乗った男とかさ、バービックとやったこととか全部捨ててるでしょ。全部捨ててるんだよ、あの男！

——ある意味、潔いと言えるんじゃないですか？

ターザン　潔いじゃなくて、あれってアリなんだよ！　アイツが一番時代の最先端を行ってますよ！

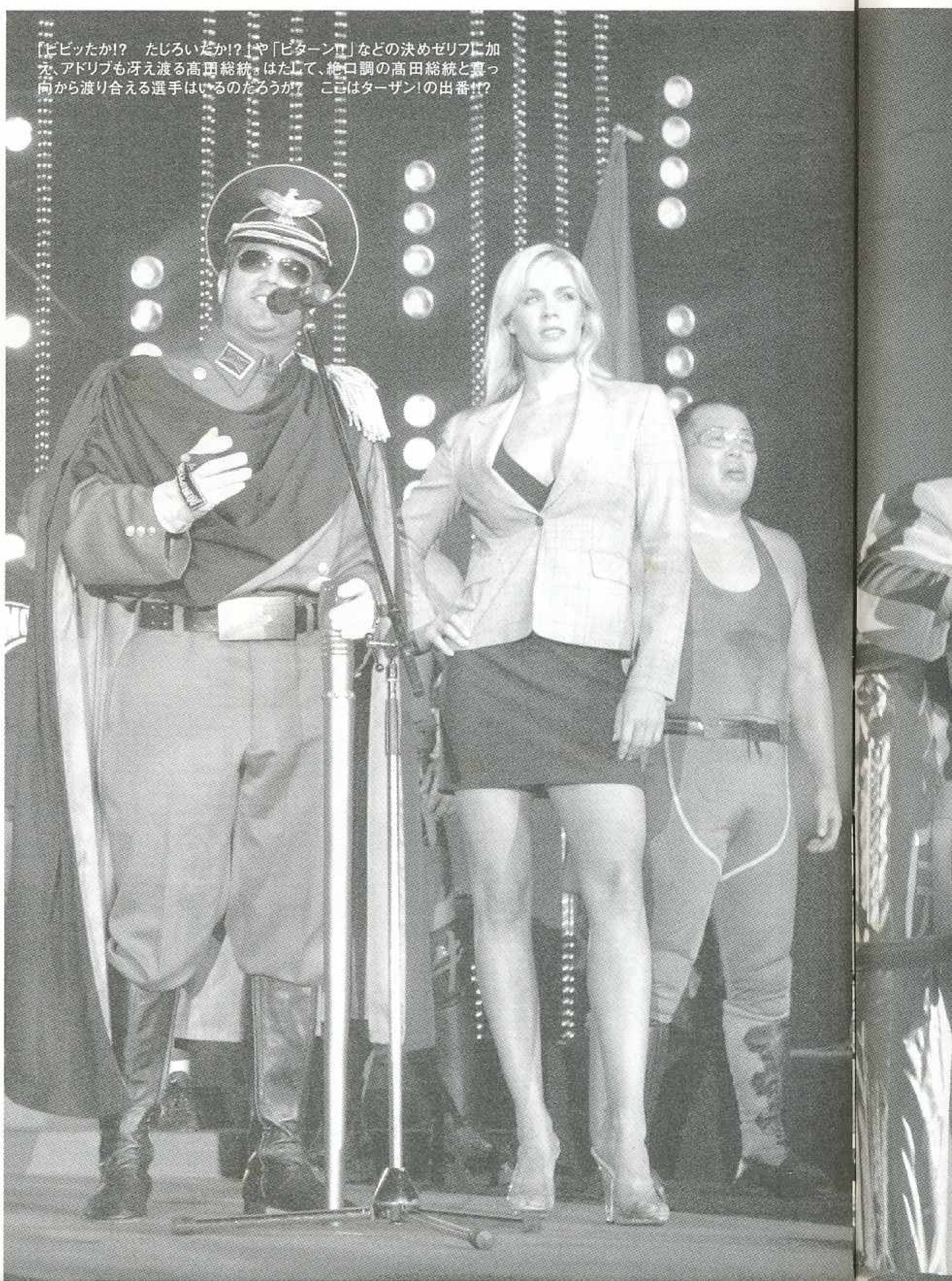
——時代の最先端でしたか。

ターザン　もうね、猛スピードで走ってるよ、あの男は！　全ての人を置き去りにしながらだけどね（笑）。

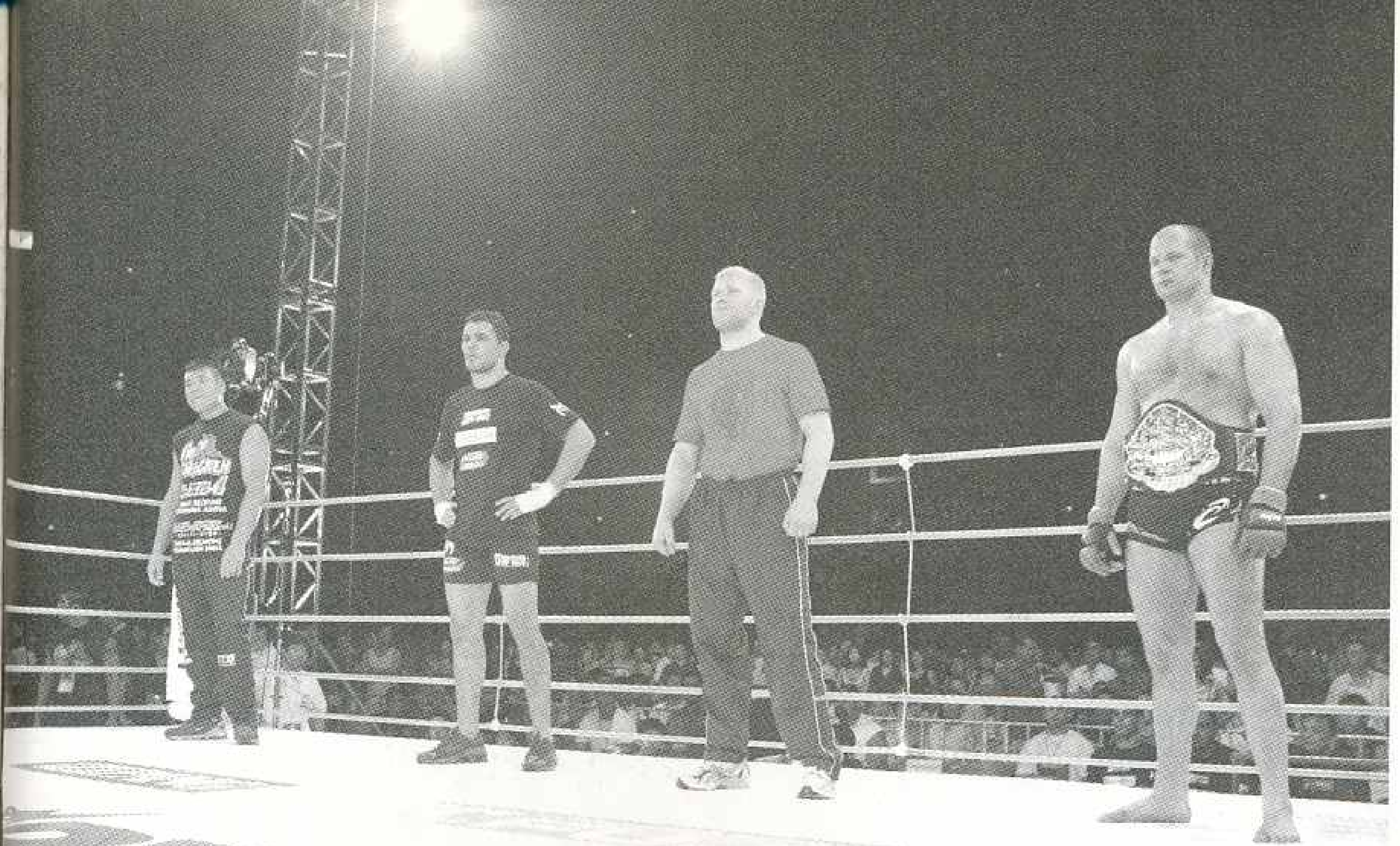
——アハハハハ！　でも、髙田総統に襲いかかる山本！さんは見たかったですけどね（笑）。

ターザン　あとちょっとで襲いかかってるとこでしたよ！　だって、川田選手に「引きこもりの三冠王」だとか、長州さんに「黒タイツのロートル」とか言われたら、俺自身が否定されてることだもん！

——長州さんも川田さんも、山本！



「ビビッたか!?　たじろいだか!?」や「ビターン!!」などの決めゼリフに加え、アドリブも冴え渡る髙田総統。はたして、絶口調の髙田総統と真っ向から渡り合える選手はいるのだろうか!?　ここはターザン!の出番!!?



DSEは天下のターザン山本!をリングサイドに招待しろーーッ!!

さんと同時代人ですからね。
ターザン　そうですよォ！　そんなもん、ボク自身が否定されたことと一緒だもん。そりゃあ怒りますよ！　スイッチが入りますよォォ！
――や、山本！さん、血糖値が上がりますよ（笑）。
ターザン　（無視して）ホントに襲おうと思ったもん。でも、髙田総統が言ってる言葉というのは、誰が考えたか知らないけども、あそこまで言っていいんだってとこまで来たわけですよ。普通はね、他のプロレス団体だったらNGだよ、あのマイクは。
――思っていても口に出しちゃいけないことを言ってるわけですね。
ターザン　いけないよ。でも、あのマイクの中には、本音と建て前と冗談とジョークと4つあるんだよ。
――4つも含まれてましたか。
ターザン　それがグチャグチャに錯綜してるでしょ。あれは演技で言ってるんだろ、冗談で言ってるんだろと。プロレスしてるんだなと思ってしまうけども、その裏では、なんてシビアなね、ホントのこと言ってんだみたいなとこもあるでしょ。ホントのことと冗談が錯綜してるから、虚実皮膜でしょ。まさにプロレスですよ、アレ！
――髙田総統こそプロレスだと。
ターザン　そうそう。ウソだけど、これはホントだから許せないみたいな（笑）、もう我慢できないわけですよ！　気がついたら、こっちもプロレスさせられてますよォォ！
――見てる側もプロレスをさせられてましたか（笑）。
ターザン　彼のマイクなんかは自分で考えたんじゃないと思うんだよね（笑）。
――どうなんでしょうね（笑）。
ターザン　いやいや、それは言わなきゃダメですよ！　自分で考えたものじゃなかったとしても、彼が言ったら彼のものになるんだから。
――そういう意味では、完璧に自分のものにしてますよね。
ターザン　完全にものにしてる。なりきってるから、あれは全部彼が考えたことになるんですよ。誰か他に考える人がいても、あれだけハマって完璧にさ、どっぷりなりきってたら、もう人格も変わってますよ。
――そうかもしれませんね。
ターザン　俺がね、髙田総統が本物だと思ったのは、たとえば言われたとおりに言って、セリフを頭に叩き込んで、あそこまでやったこと自体凄いと思うんだけど、一個だけね、アドリブが効いてたんですよ。
――どんなアドリブだったんですか？
ターザン　客席からヤジが飛んだ時、「中途半端な応援はするな！」って言ったんだよ。あれなんか脚本はないですよ。ファンに対して「中途半端な応援はするな！」って言ったのは、これは髙田の成長度を表してるというか。
――何度も言いますけど、別人なんですけどね（笑）。
ターザン　（無視して）要するにさぁ、規定演技をしながら自由演技のアドリブもね、即興もできるということを示したということは、あれは本物ですよ、もはや！　だから、平気で川田選手とか長州さんに対して言えるんですよ。いままではね、一緒のさ、権威づけされた、格のある世界で生きてるプロレス界からすると、あれはないんだよね。
――格があったら言えないですよね。
ターザン　ましてや同じプロレスラーは言っちゃいけないことだから。でもそれは髙田本人がいろんなことを経験したということで、それが彼の中で生きてるんだよ。それを見たら、お前たちがこだわってることは、しょっぱいねぇみたいな（笑）。
――アハハハハ！
ターザン　俺は引退試合で田村にKOされた男だよ、と。ヒクソンに2回も負けた男ですよ！　そういうことまでやってきた男だからね。やっぱり、はじけ方が違うよ。他の選手とはやってることが違うもん！　ああいう敗北は惨めなことだし、恥ずべきことだし、要するに、汚点なんだけど、そういうことをしてない長州や川田に対して、ああいうことを言った髙田総統の方がエライよ！　ボクたちは髙田のことをA級戦犯って言ったけども、もう時代の荒波に揉まれまくった男だよ。「しんどいなぁ」って言って、あっぷあっぷして泳ぎながら、ここまで来たんだから、大拍手ですよォォ！
――大拍手ですね（笑）。話は変わりますけど、いよいよ開催が迫ってきた『PRIDE・GP』について聞きたいんですが、現時点ではまだカードが発表されてないんですよ。
ターザン　いいんですよ、チケット売れてるんだから。カードを発表しようがしまいが、どういうカードが出てもオッケーなんですよ。4人の組み合わせがどうなろうと誰一人文句を言うヤツはいないし、小川だったら、誰とやってても面白いもん。
――たしかにそうですよね。前回のインタビューで言ったとおり、ビシッとタキシードを着て『PRIDE・GP』に現れて登場してくださいよ（笑）。
ターザン　8月15日でしょ。でもさぁ、それだったら俺のことリングサイドに招待して欲しいねぇ（笑）。
――ちなみにDSEからは招待されてないんですか？
ターザン　まだないねぇ。だって、俺、天下のターザン山本！だよ！
――アハハハハ！
ターザン　みんな、俺の価値わかってねえなって思ってね。ボクが見た方が絶対に団体は得するんですよ。目の前で起こったことを、いい形でファンに伝えることができるから。
――ここ最近のK-1の動向がリアルにわかるのは「ターザンカフェ」だけですからね（笑）。
ターザン　『ハッスル』もそうじゃない？　要するに分析能力というか、直感能力でね、どういうものを伝えたらファンが付いてくるかっていうことのコツみたいなものを『週刊プロレス』時代から身に付けてるから、いい形でナビゲートできるんだよ。「こっちこっち、こっちだよぉ～」みたいなね（笑）。
――ちょっと怖いですけどね（笑）。
ターザン　間近で見させてもらったらプラスになることを報道できるよ、と。誰よりも、間違いなく！
――間違いないですか？（笑）。
ターザン　間違いない!!　だから、俺をリングサイドに招待しろーッ!!
――や、山本！さん、また血糖値が上がりますよ！（笑）。
ターザン　入院、バンザ～～イ！

【7月26日／入院先の病院近くの喫茶店にて収録】

ますます絶口調！

吉田豪★&掟ポルシェの月刊PG(仮)談 第2回



前号からスタートした掟ポルシェと吉田豪のPG談(仮)。読者人気も高いようで何より。まだ(仮)は取れないのですが、説明しておくとポルシェの"P"と豪の"G"でPG談です。『PRIDE・GP』の略ではありません。今回は、先日52歳という若さで亡くなってしまった、らもさん話から始まります

構成／松澤チョロ　design by さおとめの事務所

掟　（しんみりと）らもさん、亡くなっちゃったねぇ……。『クマと闘ったヒト』の注釈者としてはどうなの？

豪　面識があって、なおかつ昔から原稿を読んできた人が亡くなると寂しいよね。ただ、実際には打ち上げで会っただけだったから、注釈が褒められたことと、会話がスローすぎてみんなと噛み合なかったことぐらいしか覚えてないかなあ……。プラスワンの『らもはだ』ってイベントにも行ったけど、ゲストの本上まなみにしか挨拶しなかったし（笑）。

掟　なんでだよ！　ちゃんと挨拶しようよ！

豪　あと、朝日新聞で『らもはだ』の単行本を書評するとき、本が出る直前に逮捕されちゃったんで、あえてドラッグ発言を中心に紹介したら、後から編集の人に「事件があったから削除しようかと悩んだところだけ、ピンポイントで紹介してたから驚きました」って言われたこともあった（笑）。

掟　わざわざ問題発言にスポットを当てたわけね（笑）。『紙プロ』で、らもさん取材したのって2～3ヶ月前だったけど、あの記事にはいろんなことが示唆されてるというか、不穏な感じしなかった？

豪　ああ、ストロング小林はホモだとか示唆してたし、相当不穏だったよね（笑）。最後のインタビューで言い残したかったのが、それなのかって。

掟　それと大麻解禁話でしょ。素晴らしすぎて涙が出たなぁ……じゃなくて！　ほら、あのインタビューはいきなり護身具の説明だったでしょ？

豪　だから、らもさんが階段から落ちたって聞いた時、変な武器を集めるよりも鎧とか被った方が護身になったんじゃないかって思ったんだよね（笑）。

掟　必要だったのは武器じゃなくて防具だ、と（笑）。いや、そうじゃなくて俺は他殺説を唱えたいんだよ！

豪　その仮説の方が不穏だよ！　そもそも掟さんも面識あったんでしょ？

掟　98年に、らもさんとチチ松村さんが大阪でやってたラジオ番組に出演したときにね。プロレスのガチンコ話とか、いろいろとレクチャーを受けたよ。明らかにヒトさんから聞いた話だったけど（笑）。

豪　そのとき、らもさんはUWFをガチンコだと思ってた話とかカミングアウトしてたの？

掟　いや、たまたまそん時、全日に参戦してた高山と川田の試合があんまり面白かったから、そっちの話がほとんどだったね。

豪　あぁ、高山が自伝でも書いてた制裁マッチだよね。川田が「UWFスタイルでやりたい」とか言ってきたのにカチンときて、潰しちゃったという。あれは解説も含めて奇跡的に面白かったんでしょ？

掟　だって、解説が川合俊一だからね（笑）。これがまた呑気な解説なんだよ。

豪　目の前で大変なことが起きてるっていうのに。

掟　散々、高山が川田をレスリングで封殺してて、一方的な展開になって、掌抵で場外に叩き出してね。ところが15分経過のコールがされると、最後の最後に延髄切り2発か何かで最終的にはピンフォール負けするっていう。

豪　勝敗は変えないけど、その中では好きなことやらせてもらった、と。

掟　そしたら川合俊一が「エ～ッ!?

らもさんがいなかったら、リングスも『PRIDE』もないんだよ（笑）【豪】

こんな逆転勝ちってあるんですか？」って（笑）。最初から最後まで「さっきから川田さん、何もさせてもらってませんよ〜！」とか「こないだ見たときには川田さん強かったんだけどなぁ〜。高山選手は相当練習したんでしょうねぇ！」とか、アナウンサーのフォローも無視して異変を伝え続けたんだよね。その話をらもさんとしたんだよ。

豪 この間のインタビューでは触れてなかったけど、そもそもリングスができたきっかけも、らもさんだったんだよね。UWFが分裂して、前田日明がひとりでヘコんで酔い潰れてジョニー大倉に絡んだりして荒んでた頃、らもさんから「君には挫折する資格がない。日本中の若者が君を見ている。君が引退しようとか芸能界に入ろうとか言って頓挫してしまったら、若い子たちが人間が執念を燃やしても所詮こうなるのかと失望してしまう。だから頓挫する資格はない」っていうFAXが届いて、それで前田は勇気づけられてやっていこうと思ったんでしょ？

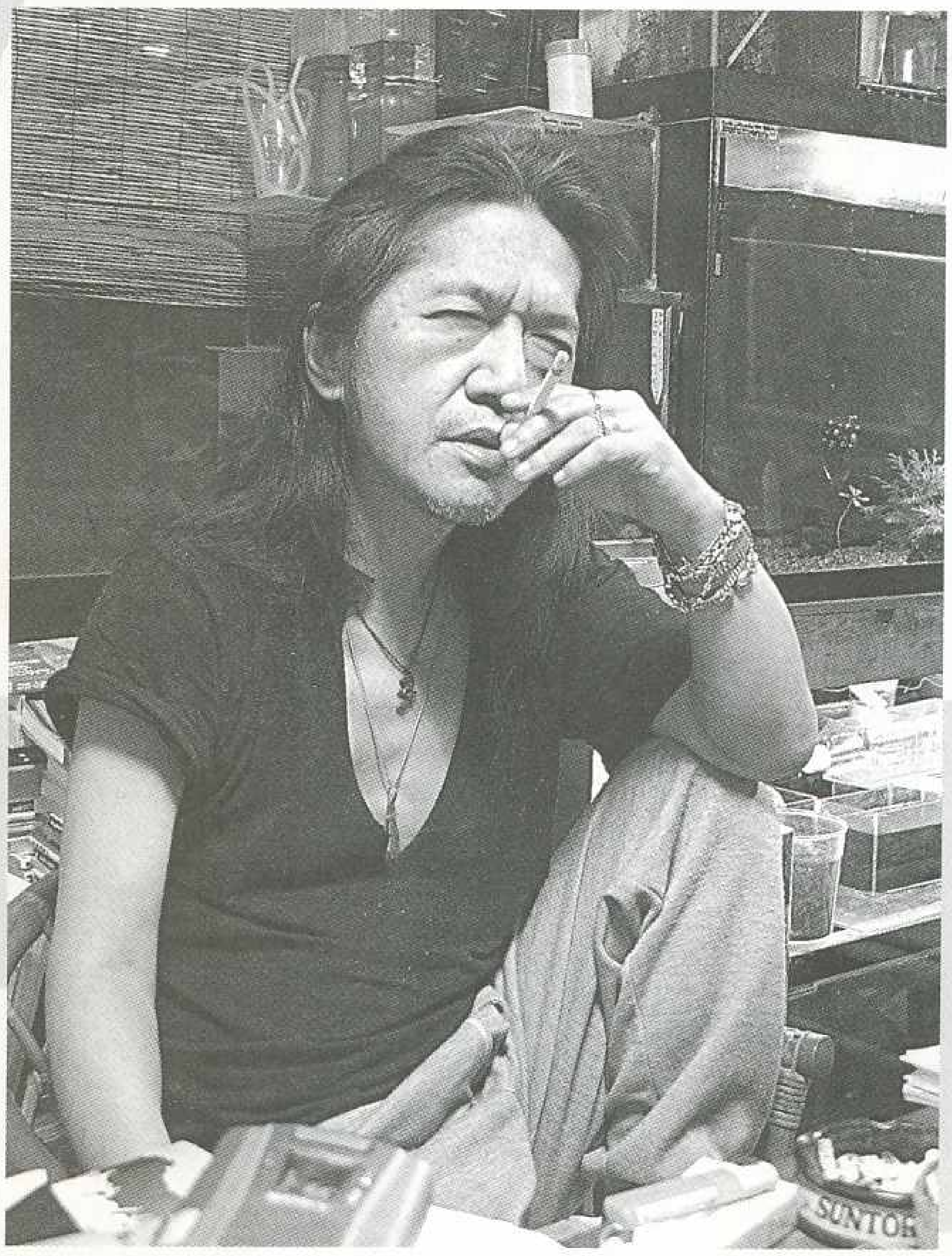
掟 泣かせる話だなぁ。じゃあ、らもさんがいなかったらリングスもなかったと。

豪 つまり、『PRIDE』もないんだよ（笑）。

掟 そっか！ ヒョードルも招聘されないし、ノゲイラも来なかった、と。それは偉大な功績というか、本当にありがたくてしょうがないね。

豪 後から知ってらもさんはショックを受けてたみたいだけど、全てはUWFが真剣勝負幻想に包まれていたおかげだよね。ちなみに、『ゴン格』増刊の『【プロレス&格闘技】迷宮ファイル』でも、クマクマンボが今あえて色々とカミングアウトを始めてたね。「ブック」がどうとか（笑）。

掟 どうしたの、一体？（笑）。



「君には挫折する資格はない。日本中の若者が君を見ている…」。らもさんが前田に、このFAXを送らなかったらリングスはできていなかったかもしれない。『お父さんのバックドロップ』公開前に亡くなってしまったのは何とも悔やまれるところ。ご冥福をお祈りします

豪 そこまで書いてもいい時代になったって判断したんだろうね。たとえば、Uインターには選手の間で「決まったらごめんなさい」と呼ばれる裏ルールが存在して、「キックが本当に入ってしまった、または関節技が綺麗に極まっちゃってしまったという場合、ブックに関わらず決めた方を勝者にする」ってことだったらしいんだよ（笑）。北尾戦でブック破りのハイキックを決めたのも、「決まったらごめんなさいルール」の発展型だったんだって。

掟 ゴメンじゃ済まないよ！ その原稿にしてもどえらいネタばらしだし（笑）。

豪 でも、U系はそろそろネタばらしした方がいい時期にきてるとは思うんだけどね。ただのプロレスだと思われて甘く見られがちだけど、そうじゃない部分も大きいから。

掟 最近、豪ちゃんはそのテーマでよく前田の原稿を書いてるよね。新日本仕込みのナチュラルスタイルがどうとか。

豪 結果以外は全てアドリブの、強弱が見える試合スタイルね。リングスってヤオだガチだってよく言われるけど、前田日明が理想の新日本を実現させたと思うと非常に合点がいくでしょ。

掟 道場では受け身とスクワットとグラウンドをミッチリやって、前田の車の音がすると震え上がって、酒を飲めば店を壊すまで飲んで、だっけ？

豪 それに、リング上でもUインター裏ルールみたいなシステムがあったらしくて、勝っちゃった場合どうなるかっていう話を聞いたことがあるんだよ（笑）。

掟 舞台裏でとんでもないことが（笑）。

豪 ある選手がディック・フライに勝っちゃって、これは第2ラウンドがあると思ってレガースを付けたまま待ってたんだけど、フライはドールマンがいないと一人で文句言えないタイプだったらしくて。そしたらナイマンを連れて来て、「何さらすんじゃコラァ！」って始まって（笑）。

掟 用心棒を連れて文句を言いに来るのか！ 素人かよ、フライ（笑）。

豪 で、それを止めに入ったのがロシア勢っていう（笑）。

掟 最高！ 試合後の方が見たいよ！

豪 興奮するよね。ただのプロレスでもただのガチンコでもない世界って。それに、突然「今日ガチンコな」って言われた時の怖さってないでしょ（笑）。

掟 血の気引くよなぁ（笑）。

豪 1か月後のガチンコに向けてキッチリ練習するのとは違って、普段からいつ何が起きても対処できるような練習をしてなきゃいけないし、それだけの心構えもしてなきゃいけないしね。

掟 今はそんな本物の殺気溢れるプロレスが存在しづらくなってるから、そりゃプロレス人気も下がるよ。

豪 しかもガチンコの相手がオランダのマフィアみたいなのとか、ロシアの殺人経験のある軍人みたいなのとかばかりで、体重差も関係ないんだよ？

掟 本気でいっても殺されるし、リングを降りてからもまた殺されるかもしれない、と（笑）。

豪 しかも中途半端な試合をしたら、前田日明にイスでボコボコにされるわけでしょ。

掟 そりゃあ根性つくよねぇ。

豪 ある選手が「『PRIDE』とかで誰が怖いとか聞かれるけど、そういう気持ちは一切沸かない。こっちは前田日明を経験してるから」って言ってたけど、そういうことだよね。

掟 基本的にリングの上に理不尽がないプロレスは面白くないからね。でも俺、第2次UWFとか実はまったく興味がなくて。

豪 UWFブームって、なんか不愉快だったからね。

掟 なんかクリーンなイメージばかりが鼻について好きになれなかったなぁ。正味の話、当時は全日の方が好きだったから（笑）。ガタイのいい外人が血まみれで大暴れみたいな方がバカっぽくて爽快で（笑）。

豪 『宝島』文化圏とか、あの辺ではUWFの評価が凄い高かったからね。景山民夫とらもさんのプッシュは大きいでしょ。2人とも亡くなっちゃったけど（笑）。

吉田豪&掟ポルシェ

掟 松田優作も見に来てたからね。やっぱり死んじゃったけど。俺なんかはFMWからまたプロレスを見始めたって感じだから、いかがわしくないとピンと来ないように出来てるんですよ。

豪 結局、スポーツライクなのって楽しくないでしょ。ドロドロしてたり殺伐としてたりエゲツなかったりいかがわしかったりとか、こっちはそういうものを求めているんだから。

掟 スポーティーなのが見たいんだったら、最初からスポーツ見りゃいいって。

豪 そういう意味では、この前取材した中山一也は最高だったよ！ 今度、三池崇史監督の『IZO』って映画で北野武とか内田裕也とか松方弘樹とか魔娑斗とかサップとかシーザー武志とかと共演して、その上で主演を張って200人以上ひたすら人を殺しまくってるんだけどね。

掟 やっぱりブッタ斬るんだ（笑）。

豪 中山一也を念頭に置いて作られた映画だからね。

掟 当然、全部太股を刺して殺すんでしょ？

豪 違うよ！ ちなみに、いまのギャグを説明すると、もともと彼は20年前に高橋三千綱監督&原作の『真夜中のボクサー』って映画の主役になるはずだったのが突然降ろされて、それで高橋三千綱の太股を刺して捕まった人なんだよね。

掟 「殴ったら殺してしまうかもしれないと思ったから刺した」っていう。

豪 柔道をずっとやってるし、ボクシングの特訓もやってたからね。

掟 ちなみに降ろされた理由は？

豪 台詞がヤクザっぽいからだって（笑）。

掟 ああ〜、本物すぎるから（笑）

豪 それだけじゃなくて、倉本聰の『北の国から』に感動すると、この感動を伝えたいと思って富良野まで訪ねて行くんだよ。しかも、お土産に鮭を持って（笑）。

掟 北海道の人に鮭（笑）。

豪 その時に「俺の気合を見せなきゃダメだ」って考えて、切腹してから行ったという（笑）。

掟 なんで気合＝切腹なんだよ！（笑）。

豪 それで「鮭どうぞ」って倉本聰に渡して世間話してたら、「あれ、血が出てるよ」って気付かれて、「いや、実はそこで切腹してきまして」って（笑）。「俺も『北の国から』に出して下さい！」っていう、その熱意を伝えたかったらしんだけど。

掟 ケガが治るまで出れないよ！（笑）。

豪 そういうことをやってる内に、「何で俺はこんなにやってんのにパッとしねえんだ？ これは日本の映画界が悪い」と考えて、東映、松竹、東宝の中で一番突っ込みやすかった銀座の松竹のビルに車で突っ込んで（笑）。でも気を遣ってクラクション鳴らして人をどかしてから、受付嬢の2メートル手前で止まって、しっかりサイドブレーキも引いて。

掟 ガハハハハ！ いい人だなあ！

豪 その辺は、ちゃんとしてる人だから（笑）。中山一也は昔、一冊だけ本を出してるんだけど、『刺されたいのか、主役はこの俺だ！』っていう非常に直接的なタイトルで（笑）。

掟 最高すぎです！

豪 その本があまりに面白いから、文春のwebで紹介したことがあったんだよ。そんなこともあってこの前、遂に取材したら「吉田氏に会いたかったんだよ！ 俺はホントにどん底まで落ちて、もう一回事件起こそうと思って、金正日を殺してやるとか、そういうことを考えてたとき、吉田氏の文章を読んで励まされたからね。こんなに俺のことをわかってくれるヤツがいるんだから、コイツのためにもまだ死ねない」って言われて（笑）。



昭和世代のプロレスファンにとって、ある意味、理想の新日本プロレスだったと言えるリングス。前田総帥率いる第二次リングスが本格的に動き出すのは、きっともうすぐだ！

掟 思わぬところで人助けしたね（笑）。

豪 そんな時に話が舞い込んできたのが、今回の『IZO』だったんだって。

掟 そうか。豪ちゃんがいなかったら『IZO』がなかったんだ。

豪 「今日の出会いは梶原一騎と大山倍達が出会ったようなものだよ。これからもずっと長く付き合っていきたいね、吉田氏は嫌がるかもしれないけど」って言われたよ（笑）

掟 大変だ。家来る時に、また腹切って来るかもしれないよ（笑）。

豪 そうなんだよ！ 「吉田氏に感謝の気持ちを伝えたくて、100回以上電話したんだよ。でも、全然つながんなくてさ。これ合ってる？」って聞かれて、携帯見たら確かに「吉田豪」って登録してあるんだけど、全然違う番号で（笑）。今回、名刺も渡したからね。

掟 もう逃げられないね（笑）。嬉しいやら大変やら。

豪 実は真樹先生の『梶原三兄弟激動昭和史 すてごろ』でも共演して、打ち上げのパーティーに行ったら、中山一也が「今回の監督、ムカついたんで、一人刺したい人間が増えました」って挨拶して、みんな凍り付いてたからね（笑）。

掟 やっぱり、追い詰められた人の表現って心に来るよね。最近、俺、ステージの上でチャップリンのモノマネやってるんだけど、実は人間って精神的に追い詰められると、みんなチャップリンに行くってことがよくわかったんだよ。宇梶剛士も獄中でチャップリンの伝記を読んで役者になろうとしたし、中山一也もチャップリン好きという話を聞いたしね。

豪 つまり、掟さんも何か困ってるの？

掟 困ってんじゃないかなぁ……。「男とは何か」って言い続けて、さすがにネタもなくなってきて「どうしよう？」って思ったとき、これはもうチャップリンしかねえなって。なんか後がない

前田日明が理想の新日本を実現させたと思うと合点がいくでしょ【豪】

そうか。豪ちゃんがいなかったら『IZO』がなかったんだ（笑）【掟】

感じがするでしょ？　いまの時代にチャップリンじゃあ笑えないのに、それを最終手段で引っぱり出してくる自分がおかしくて。「俺、いっぱいいっぱいだな」みたいな自虐性を売りたいんだよ（笑）。

豪　マルクス兄弟とかじゃないんだね。

掟　俺、田代（まさし）さんとか事件前から大好きなんだけど、田代さんの芸って全部後がないんですよ。

豪　常に切羽詰まってるよね。

掟　焼き肉のCMでも、女装して出てきて「いーんじゃない？」って言うだけのオチてないオチのがあって。でもそれ高松しげおのネタでしょ？　持ちネタの小森のおばちゃまも片岡鶴太郎のマネだし、マネのマネがやたら多い（笑）。そういうギリギリ追い詰められてる芸が好きなんで、きっと中山一也のことも好きだと思う。影ながら応援してます。自宅の電話番号知られないぐらいの範囲で（笑）。

豪　もっと表立って応援しようよ！　俺だけに任せてないでさあ！

掟　いや、2ちゃんで「中山一也はカッコいい」とかスレッド立てとくから、それぐらいで勘弁して（笑）。

豪　あと、最近緊張感を感じた試合というと、やっぱりフジテレビ27時間テレビの『恋のかま騒ぎ』だろうね。

掟　わかりやすく説明すると、ロンブーとかココリコとかが女装した上で暴露話を振られて、生でどこまで対応できるかを見る番組だったわけだけど。

豪　「ああいう暴露はお笑いじゃない」とか「明石家さんまが邪魔」だとかいろんな意見があるけど、個人的には最高だった！　いつ何が来るのかわからないから、対応力や度胸、そして大先輩のさんまや他のメンバーに対するガチの実力なんかが推し量れたしね。

掟　そういう、たまに現れるガチンコが見たくてプロレス見てるわけだからね。

豪　強弱が見たいんだよ！

掟　俺の友達のライターも言ってたけど、吉本の芸人さんって縦のつながりがあるから、普段から遊んでて相手の資質もよく理解してるからやりやすいと思うって。そこに途中から渡辺プロの芸人が入ってきても、追いつけるわけがない。普段から行動を共にしてないんだから。どれだけツッコんでいい人物なのかわからないでしょ？　それこそガチンコをやるにしても、相手がどれだけ受けられるかっていうことを分かって仕掛けないと、ただのなぶり殺しになっちゃうからね。後のフォローも含めて。

豪　確かに他の事務所だとやりづらかったのはわかるけど、ネプチューンのしょっぱさは尋常じゃなかったなあ（笑）。対応力のなさが平成の新日本レベルで。

掟　あれはしょうがないね。わざわざ前に出て来て上半身脱いで、泰造とホリケン2人で乳首コリコリして逃げたっていうのは、確かにひどかった（笑）。

豪　テレビを通じても、気まずい空気が漂ってきたからね（笑）。

掟　あれが明石家さんまという芸人の非常に残酷なところで、話を振ったときにどう対処するかっていうガチンコの部分でしか芸人の技量を測ってないんですよ。『さんま御殿』も常にそういう空気が流れていて殺伐としてるし。わざと「こいつら対処できないだろうな」って振ってる部分もあって、恐い人だよね。

豪　ネプチューンに振ったのは確信犯だと思うけど、「まさか、ここまでダメだとは……」っていうのが顔にありありと出てたからね。



これが本文中でも話題に出てくる中山一也主演『IZO』のチラシだ。他にも、桃井かおり、内田裕也、緒形拳、ビートたけし、松方弘樹、力也、岡田真澄、片岡鶴太郎、大滝秀治、樹木希林、原田芳雄、及川光博、松田龍平、原田大二郎といった超豪華俳優陣からサップ、魔裟斗、シーザー武志、村上竜司といった格闘家までもが出演している超大作。8月中旬より渋谷シアター・イメージフォーラムにてロードショー!!

掟　「ここでウケたら、お前らおいしいぞ。ガチンコの技量を見せれば格が上がるぞ」っていう部分ももちろんあったんだろうけど。

豪　これもネプチューンだけど、付き合ってる女の話を振られた時に「ちょっと……まあ……相手に迷惑もかかるし、お互い言えないこともあって……」って、素になってたでしょ。ギャグで返せよって。

掟　ギャグで返せないんだったら、ロンブーの淳みたいにパンツ脱いで「放送できないようにしてやる！」っていう、ああいう対応の仕方はプロだよ。安生とK-1でやったときの小川の反則負けみたいな（笑）。

豪　ダメならダメでロンブーの亮みたいに「オネエ言葉で喋ることさえできない」ってぐらいのダメさだったら、まだ笑えるんだけど。

掟　かわいげもあるし、腹見せちゃってるからOKなんだよ。ネプチューンなんかは事務所を代表してやってきた、団体を代表してるプロレスラーみたいなもんで、団体全体の値踏みをされちゃうから下手に腹も見せられないところもあっただろうし、それは可哀想っちゃあ可哀想だけど、あそこに来てリングに上がったからには試合しなきゃ。

豪　さんまは猪木さんと同じで自分が目立ちたい人だから、そういう中で自分をどこまで出せるかっていうのは難しいとは思うけどね。掟さんは暴露ネタってどう思う？

掟　でも、ガレッジセールの強盗ネタとか前にも何度か言ってるんだよね。

豪　逮捕歴もあるみたいだけど、ガレッジセールは絶対に強いって前から感じてたんだよ（笑）。ガタイも良すぎるからね。

掟　「バ〜カ」って言いながら自転車で通り過ぎたヤンキーを、わざわざUターンしてバイクで轢くし（笑）。

豪　フジの『スマックダウン』よりも、むしろ『PRIDE』側だったというか（笑）。保坂尚輝も、かなりのワルだしね。ただ、保坂が初期に出したファンタジー小説の巻末エッセイでは、

吉田豪★&掟ポルシェ

京都のプロレス記念館の人が『紙プロ』見たら戦慄するよね（笑）【豪】

「俺って意外とプロレスって好きなんだよね」ってプロレスについて語ってる部分があるんだよ。「なぜかっていうと、やらせだから。本気じゃないからいい」って（笑）。えらい、ざっくばらんなんだよ。

掟　「やらせだから嫌い」じゃなくて「好き」なんだ（笑）。普通は逆だよね。

豪　ずっとガチンコやってきた人間だから、安心するんじゃないのかなあ。地元では、ワルとしてホント有名だったらしいからね。いまTBSラジオの「ストリーム」って番組に俺もレギュラーで出てるんだけど、それの女子アナのマッピーが保坂と地元が一緒で、そう言ってたよ。

掟　マッピーも叩いたらいろんなもの出てきそうだしね（笑）。この間、その番組に出た時「アイドルについて語って下さい」って言われたから、「松浦亜弥はスターであってアイドルじゃない。俺たちの間では美空ひばりとか松田聖子を見てるような気持ちで見てるんですよ。生まれながらに持ったスターの資質を、偉そうな態度で現すじゃない？」って言ったら、「ああ〜、それはわかります。スタジオに来た時もそういう雰囲気ありましたねぇ」だって（笑）。

豪　つまり「偉そうだった」と。そういうことを、サラッと言うよね（笑）。

掟　かなりマッピーは肝座ってるよ。俺も3回出たけど、あの番組は面白いよね。

豪　たまに格闘技話もしてるから、『紙プロ』読者も聞いて欲しいね。

掟　TBSラジオ午後2時『ラジオ・ストリーム』っていう番組の「コラムの花道」っていう枠を20分間。豪ちゃんは月曜のレギュラーなんだよね。俺は、たま〜に呼ばれるチームというか。

豪　この間は、杉作J太郎さんをゲストに呼ぶように散々言っておいたよ。

掟　マンガやコラムだけでは、Jさんの面白さの十分の一も伝わんないからね。

豪　俺もJさんのことを「写真には写らない美しさ」って書いたことあるけど、あの魅力は生の喋りなり、直に会うなりしないと伝わらないでしょ。

掟　ドブネズミだ（笑）。でもその通りだよ。杉作さんといえば、この間、ロマンポルシェ。のライブにゲストで出てもらったんだけど、全然歌詞を覚えてないんだよ。その時は歌詞を覚えてない言い訳をずっと30分間言い続けるだけっていうライブで（笑）。面白すぎだよ！

豪　しかも、最初の2曲はモーニング娘。の曲をカラオケで唄うだけ（笑）。リキッドルームでライブをやった時もやっぱり歌詞を覚えてなくて、誰かからCD借りて、控室で10分ぐらい聞いてたよ（笑）。

掟　そして、これまで「加●ちゃんをイヤらしい目で見たことなんかない！」って言い続けてきたのに、今回とうとうステージで「加●ちゃんとファックしたい！」と宣言して（笑）。

豪　時代はカミングアウトだよ（笑）。ある意味、そうやって杉作さんが一般社会から道を外してきてるのも、もしかしたらFMWの呪いなのかもね。

掟　そんな呪われ方ないよ！（笑）。

豪　唯一、FMW系でポジティブな方に呪われてるという（笑）。

掟　俺もFMWの呪いはあったけどね……。DVDの制作やってるとき、FMWで使ってた有刺鉄線バットをカメラマンの菊池さんから貰って撮影に使用したの。何故か「これいらないからあげるよ」って盛んに言ってて。

豪　呪いのバットだ！

掟　それこそ荒井社長とか他のレスラーの血をいっぱい吸ってきたバットなんだけど、それを貰って一ヶ月経たない内に当時所属してた会社がスポンサーに切られて独立経営しなきゃいけなくなって、社員を大量解雇したんだよ。しかも、菊池さんはお父さんが危篤になって、俺にバット渡したらお父さんが危篤状態から回復したっていう（笑）。

豪　俺が藤波の呪いのしゃもじを手放して健康になったようなもんだね（笑）。

掟　家に置き場所がなくて会社に置いといたからまだ良かったのかもなぁ。最終的には京都にあるプロレス記念館の人が、ヤフオクで俺が出したのを5000円で買ってくれたんだよ。

豪　5000円でバットと一緒に不幸も送り付けた、と（笑）。その人が『紙プロ』見たら戦慄するよね（笑）。

掟　い、いや、でも喜んでくれてたし！　ちゃんと注釈に「FMWで実際に使用されていたバットです。数々のレスラーの血を吸っています」って書いておいたから！

豪　それだけじゃ呪われたバットってわかんないよ！　そういえば、最近の松尾スズキの本に、映画や舞台の前に御祓いをしてもらうのがいかに重要なのかっていう話で、「以前、ある映画の撮影の御祓いで間抜けな携帯を鳴らした役者が、事故で下半身不随になり事務所は倒産、社長は自殺」とか書いてあって。明らかに『MASK DE 41』の話なんだよね。8月中旬から、ようやく公開されるみたいだけど。

掟　田口トモロヲさん主演で、ハヤブサも荒井社長も出てる映画だ……。映画そのものも、ずっと公開延期になってたしで、相当呪われてるよね。

豪　いまは、ちょっとしたプロレス映画ブームだけど、『MASK DE 41』は呪われてるし、『お父さんのバックドロップ』の原作のらもさんは亡くなっちゃうし、プロレス映画で健康なのって『いかレスラー』ぐらいなのかなあ？

掟　いや、ターザンが糖尿病になったよ！　これは、きっと豪ちゃんにも何かあるよ！

豪　じゃあ、主演の西村が癌になったのも呪いだったのかなあ……。

掟　それは関係ないって！

【7月28日／千駄ヶ谷『ユーハイム』にて収録】



よしだ・ごう情報■ターザン、改名＆退院後初の『ターザン山本！＆吉田豪の格闘二人祭!! vol.16』は、8月24日（火）午後19時半から新宿ロフトプラスワンにて開催！　ゲストは決まり次第『紙プロHand』で発表!!
おきて・ぼるしぇ情報■2nd単行本『男道コーチ屋稼業』（マガジン5刊）発売中！　NEWアルバム『おうちが火事だよ！ ロマンポルシェ。』9月22日発売！　どっちも買え!!　レコ発ワンマンライブもあるよ！　9月26日(日)@新宿LOFT（19：00START）。詳細は次号で発表!!

携帯サイト『紙プロHand』で吉田豪の「入院させてよ！」連載中！

【アクセス方法】

DoCoMo　iMenu→メニューリスト→スポーツ→格闘技／大相撲→『紙プロHand』

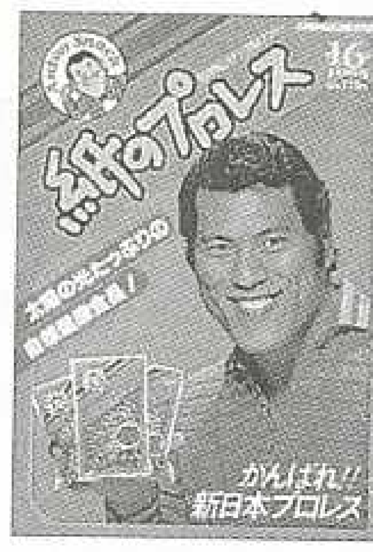
au/TU-KA　トップメニュー→遊ぶ・楽しむ or インターネット→スポーツ→格闘技→『紙プロHand』

vodafone　ボーダンフォンメニュー→ボーダンフォン・ライブ→スポーツ・レジャー→その他スポーツ→『紙プロHand』

本誌 Back Number



no.08 '94.01
特集 さらば新日本プロレス
仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！
700yen⇒350yen 50%OFF



no.16 '96.06
特集 新日本凸凹大学校
『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！
780yen⇒390yen 50%OFF

"燃える情念" 石川雄規、初の自叙伝!! '00.04



情念～夢一途なり～石川雄規
『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長・石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 自称"世界一の猪木信者" 石川社長が、あまねく全ての人に捧げる珠玉の一冊！ 情念とは何かが分かる本である。
1700yen⇒900yen 50%OFF



no.13 '95.03
特集 道場破りとは何か？
安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？ インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦
780yen⇒390yen 50%OFF



no.17 '95.07
特集 実況パワフル北朝鮮
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」
780yen⇒390yen 50%OFF

みんなで遊べる付録付き!! '01.04 完売間近



さくぼん
『PRIDE』の会場でも大人気!! サクのすべてがよくわかる桜庭和志初のインタビュー集！ 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやポスター、動く必殺技「炎のコマ」「炎の人力車」、サクマシン立体組お面など付録がこれでもか！とばかりに付いています！
1000yen



no.14 '95.04
特集 神秘とは何か？
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF



no.19 '95.09
特集 さようなら紙のプロレス
『紙プロ』を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会
780yen⇒390yen 50%OFF

インタビューという名の鉄拳史 完売間近



紙の前田日明
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！
プロレス、UWF、そしてリングスとは何か？／大山倍達とは何か？／激白！ プライドとは何か？／特別対談 撃墜王・坂井三郎×前田「勝負師とは何か？」／特別対談 イエローキャブ社長・野田義治×前田「巨乳とは何か？」／『バカの壁』著者・養老孟司×前田「脳みそとは何か？」／大和魂檄談・エンセン井上×前田 他、珠玉のインタビュー＆対談が多数収録!!
1575yen



no.15 '95.05
特集 インディペンデントの逆襲
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー
780yen⇒390yen 50%OFF

極真魂溢れる16人を直撃！ 完売間近



極真とは何か？
松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏
1530yen⇒800yen 50%OFF

---

no.61 表紙 OH砲 '03.04 / 880yen
5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!
- 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05 / 880yen
誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!
- ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- 現役復帰間近!? 船木誠勝
- 藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル
- 新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06 / 880yen
吉田秀彦が大英断! ミドル級GP出陣!
- 「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦
- 『PRIDE』REBORNを大総括!!
- 憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー
- 芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭&田村 '03.07 / 900yen
灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号!!
- "異次元格闘技戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- 『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
- ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
- スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08 / 880yen
ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!
- "最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル
- "反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ
- 吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司
- 闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09 / 880yen
ミルコ、『武士道』電撃出陣! もはや誰にも止められない!!
- 緊急独占インタビュー! ミルコ
- マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮
- "天才空手少年" VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦
- 『東スポ』とは何か? 柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田 '03.10 / 880yen
吉田とシウバ、いざ激突!! 衣(ギ)は赤く染まるか!?
- ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ
- "柔術超獣"復活へ!! ノゲイラ
- 『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー
- アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&曙&猪木 他 '03.11 / 880yen
人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!! 白黒ハッキリ決めようやーッ!!
- 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦
- 横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- 一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー 桜庭和志
- "野良犬"『紙プロ』初登場! 小林聡

no.69 表紙 OH砲 '03.12 / 900yen
大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!! 年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!
- 出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也
- 『泣き虫』著者登場! 金子達仁
- 大晦日直前インタビュー! 田村潔司
- アイ アム リアルプロレスラー 美濃輪育久

no.70 表紙 ミルコ '04.01 / 880yen
年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!! OH,ゴーバー登場!『ハッスル』とは何か!?
- PRIDE征服宣言! ミルコ
- シウバに宣戦布告! 近藤有己
- ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶
- 発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田 '04.02 / 880yen
プロレスよ、踊れ! 3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!
- 『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ＝クロコップ
- 待望の『紙プロ』初登場! 川田利明
- 理想のプロレスを追い求める! AKIRA
- スクープ! 幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03 / 840yen
最強への求道者たち全員集合!! PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!
- GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル
- 第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
- K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁
- 全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

no.73 表紙 小川直也 '04.04 / 880yen
暴走王が忘れたころにやってきた! PRIDE・GPでハッスルするぞ!!
- GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也
- PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド
- キックの名伯楽登場! 伊原信一
- 魔界のニューリーダー 村上和成

no.74 表紙 小川直也 '04.05 / 880yen
シュート? ワーク? くだらねえ、次元が違うよ! いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!
- PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也
- リベンジロード発進!! 桜庭和志
- "ハードコアのカリスマ" ミック・フォーリー本誌初登場!
- 掣圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

no.75 表紙 小川&桜庭&吉田 '04.06 / 880yen
英雄、奇蹟の揃い踏み! 小川、桜庭、吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!
- シウバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也with藤井軍鶏侍
- 奇蹟の独占インタビュー! 高田総統
- インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン
- 年金未納からUFOまで ザ・グレート・サスケ

no.76 表紙 小川直也 '04.07 / 880yen
プロレス大爆発へ最後の挑戦! ハッスルするなら今しかねえ!!
- スクープ発言連発! 小川直也
- 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対話!! 破壊王×ノゲイラ
- 厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志
- 新連載『月刊PG談（仮）』 吉田豪×掟ポルシェ

通販申し込み方法
▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『紙プロHand』で注文
②電話注文 03-3403-5142
③メール注文 kapra@kamipro.com
※①～③の通販方法はすべて代引きです。
※代引きの送料は一律500円（離島山間部は除く）となります
④郵便振替で注文 00130-3-769154 （株）ダブルクロス
※郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記して下さい。
※本誌かRADICALかを必ず明記して下さい。

▼郵便振替の送料
1冊＝310円、2冊＝380円
3～4冊＝450円、
5冊＝520円、
6冊以上＝700円

紙のプロレスRadical 常備店
- ■アイドール新宿店
- ■新宿ファイター
- ■大山アメリカン
- ■プロレスマニア館
- ■チャンピオン
- ■リングスパレス
- ■バディスラム
- ■タコシェ
- ■レッスル池袋
- ■書泉ブックマート
- ■書泉ブックタワー
- ■書泉グランデ
- ■グレートアントニオ
- ■東京イサミ

"暴走王"から"キャプテン・ハッスル"へ…小川の変遷を追え!!

Radical Back Number

BACK NUMBER



プロレスと格闘技の間で何を考える!? バカ売れ中のバックナンバーはコチラ!!



no.15 "暴走王"が遂に覚醒!! 小川直也が、1・4橋本真也戦の核心に迫る!!

●あの"1・4事変"を徹底大検証!!
●「プロレスとは何か?」革命児・佐山サトルが語り尽くす!!
●前田日明・引退直前独占インタビュー!
●五輪前に読んでおけ! アニマル浜口&京子

'99.02 / 840yen



no.34 プロレスは、闘いを忘れたときに老いていく! "闘魂プロレス"を紡ぐ男・小川直也が大咆哮!!

●紙プロ大賞総なめの二日酔いインタビュー! 桜庭和志
●4年ぶりに純プロ降臨! 高田延彦
●修斗から『猪木祭り』へ 宇野薫
●ロシア幻想爆発の衝撃発言! ヴォルク・ハン

'01.01 / 840yen



no.40 目指せ、地上最強のプロレス! 小川直也が、vs『PRIDE』を激語り!!

●蘇れ、Uインター&キングダム伝説!! 高山善廣×金原弘光
●マット界再編の鍵を握る男 三沢光晴
●プロレススーパースター列伝 グラン浜田
●前田日明からカトの親父まで大激白! ザ・グレート・サスケ

'01.07 / 880yen



no.51 "揺るぎなきプロレス"への道! 金網デスマッチに挑む小川の覚悟を読み解け!!

●長州の新日退団を語る 橋本真也
●"なんちゃってVT"はやらない! 横井宏考
●天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
●ZERO-ONEの黒幕登場!! 中村祥之

'02.06 / 880yen

バックナンバーは電話で注文できます!!

03-3403-5142

【平日15:00~22:00 (株)ダブルクロス】

---

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen

格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!
●環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
●完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
●相撲多重アリバイ 石川孝志
●マーク・コールマン

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!
●三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
●プロレススーパースター列伝 仲野信市
●本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!
●TKおかん

no.32 表紙 小川直也 '00.10 / 840yen

針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!
●田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
●ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
●プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
●"和製カレリン"本田多聞

no.35 表紙 サクマシン(イラスト) '01.02 / 840yen

「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
●ZERO-ONE本格始動 橋本真也
●プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
●"ノアの怪物"杉浦貴
●UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也(イラスト) '01.02 / 840yen

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
●ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
●ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言
●W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
●吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 表紙 小川直也(イラスト) '01.04 / 840yen

小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
●アブダビコンバット2001一大探検記!
●シュート活字×ファンタジー活字
●他に比類なきプロレスがWWFにはある!

no.38 表紙 高田(イラスト) '01.05 / 840yen

小川と長州、どちらが孤独だったのか!?
●忘れ物の正体は——。高田延彦
●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
●プロレススーパースター列伝 阿修羅原
●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen

どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?
●前田道場新エース・金原弘光
●怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会
●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
●プロレススーパースター列伝・田上明

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen

Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来!
●リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
●真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現!
●W☆INGの真実・茨城清志
●毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen

猪木なら何をやっても許されるのか!?
●ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
●"ヒャッホーの真実"辻よしなり
●蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
●誇り高きルチャ戦士 カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.10 / 880yen

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!
●ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
●大谷普二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
●野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen

サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
●その修羅場の数々! シーザー武志
●怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
●ハンス・ナイマン&ディック・フライ
●闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen

「K-1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!
●悪魔の書、現る! ミスター高橋
●ジェラルド・ゴルドー人生相談
●プロレススパースター列伝 グレート小鹿
●語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen

WWE日本侵攻5秒前!
●"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!
●第一次リングス閉幕特集
●プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
●奇跡のメガトン対談! 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
●WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭 '02.04 / 880yen

究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!
●和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
●破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
●ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!
●「地方発世界」開始! 小川直也&橋本真也
●リングスロシア軍団の軌跡
●パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!
●ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

no.52 表紙 OH砲 '02.07 / 880yen

見えない鎖を引きちぎれ! 小川直也リング外での暗闘!!
●全身プロレスラー・高山善廣
●USAの渡世人ドン・フライ
●『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
●戦慄の『LEGEND』前夜!

売り切れ寸前!!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08 / 880yen

世紀のビックイベント『Dynamite!』直前大解剖!!
●ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
●独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
●爆裂! 川村社長ガチンコ語録!
●偽造王の知られざる半生! 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen

不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!
●"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー
●"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット
●純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
●猪木とは何か? アントン実兄・猪木快守

売り切れ寸前!!

no.55 表紙 高田延彦&田村潔司 '02.09 / 880yen

高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!
●「真剣勝負」発言から7年!! 田村潔司
●実力者、遂に『PRIDE』登場! 金原弘光
●メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
●靖国神社で興行開催!! 佐山聡

売り切れ寸前!!

no.56 表紙 Uインター '02.10 / 840yen

愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
●田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け! 高田延彦
●蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山
●高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド
●『紙プロ』に風がふくぜぇ~! 鈴木みのる

売り切れ寸前!!

no.57 表紙 高山善廣 '02.11 / 840yen

一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!
●サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
●新たなる"U"が始動!! 田村潔司
●悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ
●"北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤&船木 '03.01 / 880yen

新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!
●夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
●Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
●Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
●カルガリー師弟対談 ミスターヒト×ハシフ・カーン

no.59 表紙 ヒョードル '03.02 / 880yen

吹けよ!呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!
●いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
●アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
●爆発!! WJマグマ語録
●吉田道場の秘密兵器 中村和裕
●UWFの再興と再考 田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル '03.03 / 880yen

英雄、変貌好む!!『PRIDE』RE・BORN!!
●ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
●驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
●あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
●全日本中継の真実!! 倉持隆夫

紙のプロレスRADICALを作ってる会社
株式会社ダブルクロスの求人情報

スタッフ募集!!

『紙プロ』を作っている会社、(株)ダブルクロスでは、このたび事務所移転、
事業拡大のため正社員(編集スタッフ)を募集します。

1 **編集者**(編集経験者)
2 **編集見習い**(紙のプロレスRADICAL、単行本、パンフレットなどの制作業務)
3 **電気部**(紙のプロレスHandの制作業務)
4 **衣料部**(グッズの制作・販売業務)

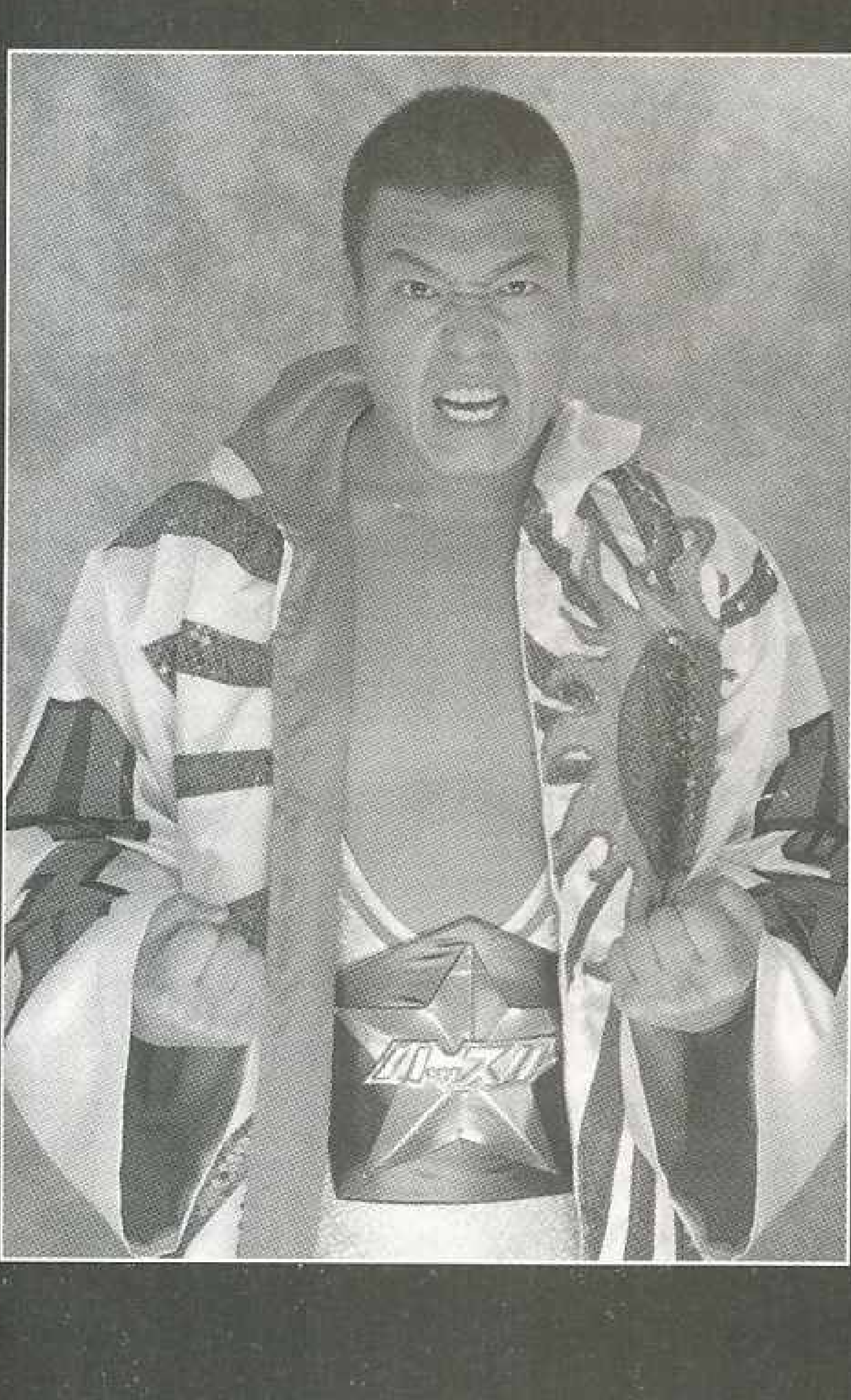
【資　格】30歳ぐらいまで。編集経験者、コンピューターに詳しいかた優遇。
勤務時間、休日、給与等は要相談
交通費支給(通勤時間1時間以内・勤務地=代々木)
※勤務開始日は10月下旬を予定しています。

【応募方法】希望職種を明記の上、履歴書(写真貼付)、論文(『紙のプロレスと私』というテーマで400字×2枚)を下記の宛先まで郵送してください。書類選考を通過した方のみこちらから電話にて面接日をお知らせいたします。なお、自己ＰＲグッズ(編集経験者は、これまで作った刊行物等)、編集企画書(編集希望者)などを同封していただいても結構です。

【締め切り】8月23日(月)到着分有効

【宛 て 先】〒151−0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　株式会社ダブルクロス　社員募集係

【問い合わせ】03−3403−5188(担当:堀江・松澤)



『紙プロ』編集部も真夏の大ハッスル!

紙のプロレスRADICAL次号は8·15 PRIDE・GP完全大特集号!!

もう試合リポートだけの"速報号"なんかじゃ満足できない!
そんなあなたのために、
試合後の選手インタビュー満載で

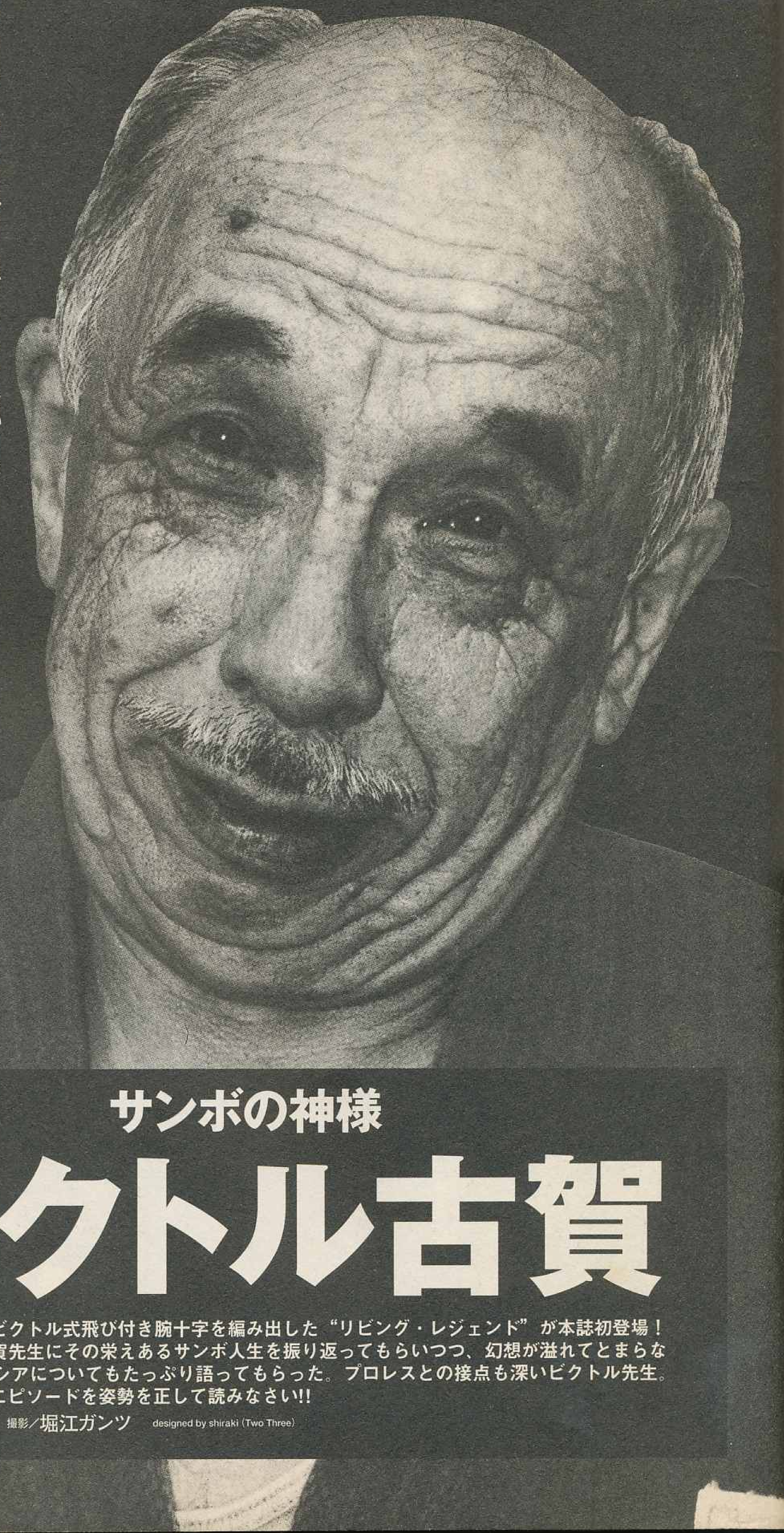
8月28日(土)に発売!!

特別定価 **840**円(税込)

※一部地域によっては発売日が異なります。

これがサンボだ!! '04

ロシア幻想の凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記





サンボの神様
ビクトル古賀

ビクトル投げやビクトル式飛び付き腕十字を編み出した“リビング・レジェンド”が本誌初登場！あのビクトル古賀先生にその栄えあるサンボ人生を振り返ってもらいつつ、幻想が溢れてとまらない格闘技大国ロシアについてもたっぷり語ってもらった。プロレスとの接点も深いビクトル先生。その知られざるエピソードを姿勢を正して読みなさい!!

構成／ジャン斉藤　撮影／堀江ガンツ　designed by shiraki (Two Three)

紙のプロレスRADICALを作ってる会社
株式会社ダブルクロスの求人情報

これがサンボだ!'04

——今日は、ビクトル古賀先生に格闘技大国ロシアの知られざる秘密や、サンボの凄みをたっぷりと語っていただきたいと思ってます!

ビクトル もうすぐ70歳になるお爺ちゃんつかまえて、何を言ってるんですか～。もうね、サンボのことで喋ることは何もないよ。どちらかというと、俺はサンボよりビンボーが専門だしね。ワッハッハッハッ!

——サンボよりビンボー! では、ビンボー話ものちほど（笑）。

ビクトル あなたの雑誌は、きのう読ませてもらいましたよ。『紙の風船』ね。

——先生! 御言葉ですが、『紙のプロレス』です!

ビクトル （無視して）『紙の風船』には、ロシアのことがいろいろ載ってたね。

——はい。ロシア人選手が総合格闘技のリングで活躍してることで、再びロシアが脚光を浴びているんですよ。先生は『PRIDE』をご覧になってますか?

ビクトル 全然見たことないねえ。前田（日明）君のところに、バラチンスキー（・スレン、現ロシアン・トップチーム）が来たときに、呼ばれて観に行ったことはあったけどね。

——すると、ヒョードルやハリトーノフが活躍されてることは御存知ないと?

ビクトル その話は伺ってますよ。僕がサンボを教えている学生はああいうのが好きだから。彼らのことが載ってる本も見せられたことがありましたけど、まあ、顔見たら強いのはわかります。あれは正統派だね。

——彼らは先生も認める正統派ですか!

ビクトル 落ち着いてるしね。でも、昔のロシアにはもっと凄い奴がゴロゴロしてたから。ボクが知ってる限りじゃ、いままで一番強かったのは、（グセイン・）ハイブラエフだと思いますよ。

——ハイブラエフというと、『Number』のロシア特集の中で紹介されていた伝説のサンビストですね。バラチンスキーもサンボ世界王者の実績を誇ってますけど、彼とは格が違うわけですか?

ビクトル ハイブラエフと比べたら、子供だよ（キッパリ）。

——バラチンですら子供!! サンビストとしての実績はバラチンほどでないヒョードルやハリトーノフなんかは……。

ビクトル あのお兄ちゃんたち? 俺はヒヨコって呼んでるよ。

——ビクトル先生にかかれば、ヒヨコ扱いですか!

ビクトル いやいや、ヒョードルとヒヨコをかけたの。ワッハッハッハ!

——単なるダジャレ（笑）。

ビクトル まぁ、ヒョードルにハイブラエフがどれくらい強いか聞いてみればいいですよ。それでわかります。僕はハイブラエフが世界一、強かったと思いますからね（キッパリ）。あとクズネツォフ。ミュンヘン五輪の柔道でルスカに負けたけど、彼はサンビストしても超一流。名前を聞いたらヒョードルはひれ伏すんじゃないか。これがそのクズネツォフの写真（P62参照）。

——ゴ、ゴツイですねえ。オーラが写真からビンビン伝わってきますよ!

ビクトル いまは2人とも歳取っちゃったからねえ。クズネツォフはチェスカ（軍隊）の先生になっちゃったの。性格も優しいし詩人でもあるんだよ。カレリンと同じだね。

——先生も旧ソ連で日本人唯一のスポーツマスター（サンボマスター）の称号を受賞した、輝かしいスーパースターですよね。

ビクトル 何を言ってるの! 輝いてるのはこの頭だけだよ（帽子を取って頭を指差しながら）。

——ワハハハ! いや、その称号は、外国人だと簡単にはもらえないというじゃないですか。

ビクトル 俺の他には誰ももらってないだろうね。マスターにも段階があって、まずは地方のマスターからスタートするんです。俺は国際大会で4回ぐらい優勝しましたから、いちばん最上級のマスターなんですよ。でも、これは手違いでもらったようなもんだよ。

——手違いというと?

ビクトル 本当は俺のことを全ソ選手権とかロシアの選手権に出したくなかったんだよ。純粋なロシア人じゃないから。だから手違いみたいなもんだよ。

——先生はロシア人と日本人のハーフなんですよね。

ビクトル お母さんがロシア人。俺はロシアでの名前をちゃんと持っていて、ちゃんとロシア語をペラペラ喋るでしょ。試合に出れる身分ではあるから、無理に出場は拒めないし、勝ったことを取り消すことはできないですよ。だから俺を潰そうとして、凄い奴を何人もぶつけてきたたね。

——ホーム・ディシジョンで不可解な判定をくだされたことはなかったんでしょうか?

ビクトル いや、判定はひとつもなかったから。

——というと……すべて一本勝ちだったんですか!

ビクトル うん（あっさりと）。判定あったら危なかったよ。負けていただろうね。

——痺れました! 本当に〝生きる伝説〟なんですね。

ビクトル いやいや、伝説だなんて。〝禿げた化石〟ですよ、僕なんかはもう（笑）。

——ワハハハ! ちなみにマスターに就くと、どんな特典があったんですか?

ビクトル 国から年金が出るんですよ。車やアパートももらえる。だから共産党委員や家のコネとか政治力がない人間は、ロシアで偉くなるためにはバレリーナやサーカス、そしてスポーツの選手になるしかないんですよ。だからみんな一生懸命スポーツに励むんです。

——強くなるのは当然ですね。ビクトル先生からみて、サンボマスターでいちばん有名な方はどなたになりますか?

ビクトル いちばん有名なのは（ユーリー・）ガガーリンかなあ。悲劇的な死に方だったし。

——人類初の宇宙飛行を成し遂げたガガーリンですね。

ビクトル ガガーリンは全ソのサンボ選手権で4位だったかな。軍隊や警察とか、国家の組織でサンボは必修だったからね。日本の子供が剣道や柔道をやるのと同じで、ロシアの子供はほとんどサンボをやるね。（ヒョードルやハリトーノフを指差して）このお兄ちゃんたちも、それで強くなったんでしょう。

——でも、本当に強いサンビストがいたのは、国家がスポーツを支援していた旧ソ連時代までだったとよく言われますよね。

ビクトル そうだね。ゴルバチョフがトップになってから、メチャクチャになった。スポーツマスターの制度は残ってるんだけど、ゴルバチョフはあんまりスポーツに理解のない人だったから。スポーツの年金を減らしたりで、いっぺんにタガが外れて優秀な指導者とか選手が外国に流れちゃいましたよ。それで一気に弱くなりました。いまの大統領のプーチンはかつて柔道をやってたし、またスポーツに力を入れ始めてもとに戻りつつあるようだ。ゴルバチョフの頃は俺もロシアにいたんだけど、いやあ、ホントにひどかったよ。一流の選手がサーカスに出たりさ、ロシアの片田舎でプロレスみたいなこともやってたから。

——新日本プロレスにソ連レッドブル軍団がやってきたのも、喰うに喰えない事情があったから

いまの俺はサンボよりも ビンボーが専門だよ(笑)



なんですね。

ビクトル　あれは良いビジネスになったでしょ。ハシミコフなんかはいまだに感謝してると思いますよ。あとになって（旧ソ連の選手は）リングスに出るようになったけど、それは前田君様々だったでしょうね。

——旧ソ連圏の選手が数え切れないほどリングスには参戦してましたからね。

ビクトル　前田君は偉いですよ。でも前田君は俺がどっかの雑誌に書いた記事を気にしてるらしいんだよね。あれは前田君と佐山君のことを聞かれてね、佐山君はたしかにセンスはあるし、身長はそれほどないんだけど、身体は柔らかいし、あと失敗を見せないバランスの良さを持ってるんだよね。技は失敗してるんだけど、足が短くて回転がいいから失敗したように見えないんですよ。よく練習したことがあるからわかるけど、彼は本当にセンスがある。いまは肥満児になってるみたいだけどね。

——はい（笑）。

ビクトル　で、前田君は神様がくれた身長と長い手足を持っていて、顔が小さいから打撃を受ける面積が少ないんですよ。ただし格闘家としてはスピードが致命的にない。それに身体が固いんです。俺は佐山君、前田君の良いところも悪いところもバランスをとって言ったつもりだったんだけどね。

——前田さんには誤解されちゃったわけですね。

ビクトル　前田君は五輪の書を読んだり刀を眺めてみたり、格闘家としての見せ方を知ってるじゃない。大したもんですよ。それだって技のうちですからね。

——プロの選手からすれば、それは重要なファクターですよね。佐山さんというと、谷津さんとサンボで闘う・闘わないという話がありましたね。

ビクトル　谷津は後輩だよ、日大の。悪い人間じゃないけど、強かったのは高校生までだね。大学時代も日本には敵はいなかったけど、プロレスラーになってから態度がデカくなって弱くなったと思うな。

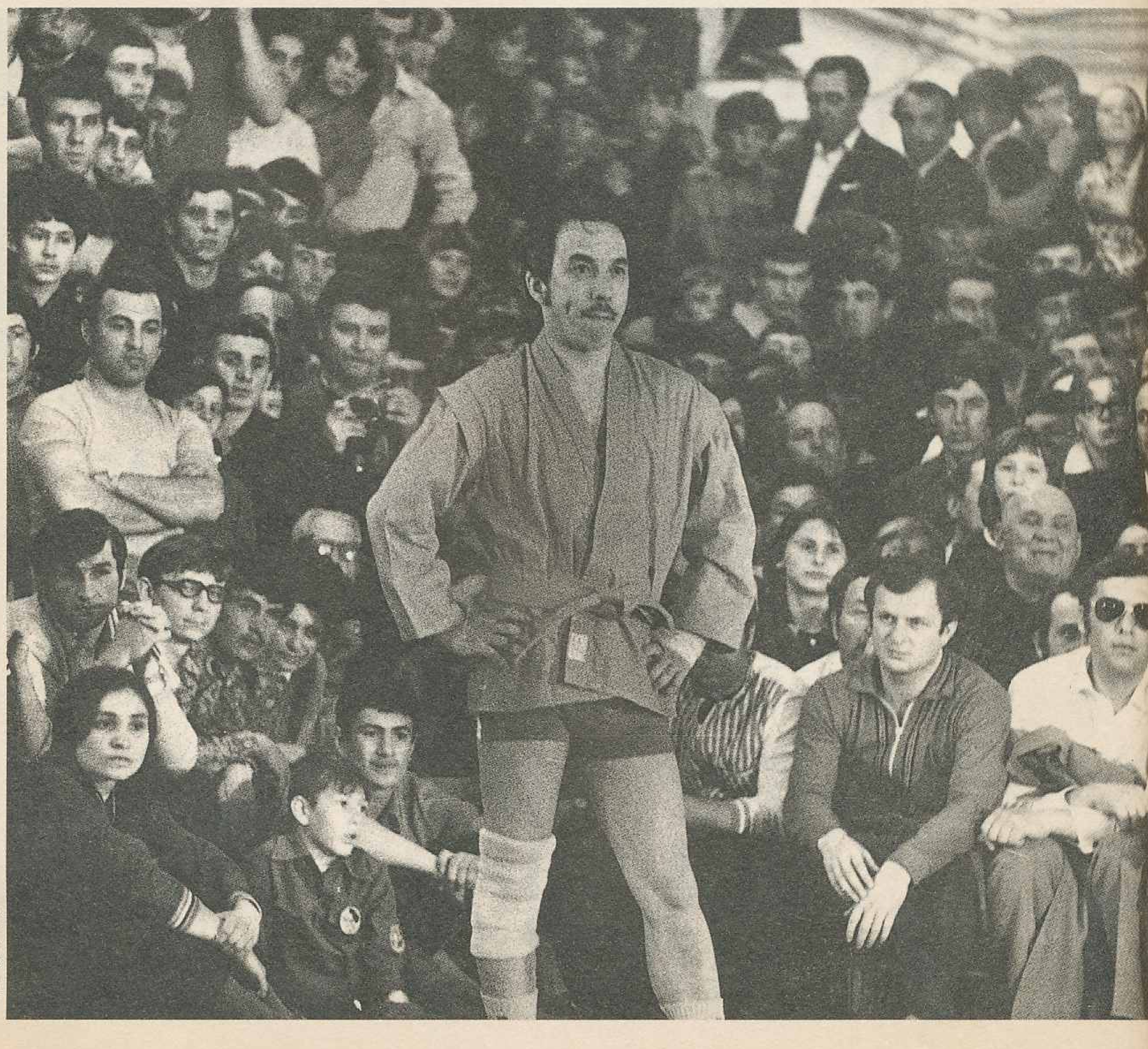
——しかし、先生はプロレス方面の関係も幅広いですよね。

ビクトル　プロレスは全然見なかったけどね。貧乏だからさ、小遣い稼ぎで新日本の道場に行って、武藤（敬司）君に技を教えたし、石澤（常光、ケンドー・カシン）君には、飛びつき腕十字を教えましたよ。

——カシンの腕十字は先生直伝だったんですか！　かつてはラッシャー木村さんら国際プロレス軍団にもサンボ指導をされたこともあったとか。

ビクトル　（アニマル）浜口君や寺西（勇）君とかにもね。国際プロレスは社長が吉原（功）さんだったでしょ。僕はレスリングをやってたからそのつながりだよ。変わった十字固めをやる人間は、当時の日本にはいなかったし、下に入っての引き込み十字は、ロシアでいい技だなと思って僕がやりだしたから。プロレスに役に立つ技が他にいくつもあったわけですよ。腕絡みとかね。腕を持ってクルンとまわって腕一本で投げる。寺西君がよく使ってましたよ。

不可解な判定負けはなかった
すべて一本勝ちだったからね



大観衆が見守る中、試合に臨まんとするビクトル先生の勇姿！　子供の頃からサンボに触れあっている観衆たちの熱気が写真からでも伝わってくる。そんな土壌からヒョードルやハリトーノフら強靭な戦士たちが続々と輩出されているのだ。

――昔からプロレスに影響を与えていたわけですね。

ビクトル 自分には変わった技が多いんですよ。俺はゴキブリでも猿でも猫でもいろんな動物からヒントもらって、いろいろ変わった技を考えてきたから。

――ゴキブリの動きから技のヒント！ それはヒクソンもビックリですね（笑）。

ビクトル 冗談だと思われますけど、これは本当ですよ。飛んだり跳ねたりして、意表を突く技じゃないと勝てないからね、俺みたいな普通のおじさんは。

――それでビクトル投げや、ビクトル式飛びつき腕十字を開発されたわけですね。

ビクトル あの頃のロシアでは、体操でもトカチェフとか個人の名前が技に付けられていてね。飛び付き腕十字はロシアにもともとあったけど、僕のはそれとはちょっと違うんですよ。日本に持って帰って柔道の偉い先生にかけたら、思い切り殴られましたけど（笑）。

――足蹴にするような入り方だから、目上の人からすると無礼者だと思ったんでしょうね。

ビクトル 僕は柔道もやってって、亡くなった猪熊（功、東京五輪・柔道金メダリスト）と同じ道場。その道場の先生は、人を殴らない人間でしたけどあの技だけは怒られたねえ。

――でも、飛び付き十字はすっかり定着してますよね。

ビクトル 飛び十字は相手が嫌がるから余計に掛かるんだよ。掛けるほうも下手したら頭を打つから危ない。そもそも普通はそんな技、考えない。だから奇人変人の技なんですよ。

――奇人変人の専用技（笑）。

ビクトル 僕は子供のときから奇人変人だったからねえ。

――先生の生まれは旧満州なんですよね。

ビクトル 終戦後に親とはバラバラに離れちゃって、ひとりで中国から帰ってきたんですよ。

――戦乱に遭われて、ピストルで撃たれたこともあったそうですが。

ビクトル 自動小銃で3発撃たれたね（淡々と）。あれは10歳のときですよ。

――うわ〜！ よくぞ御無事でした。

ビクトル 中国をひとり歩いて4ヶ月かかって日本に帰ってきましたよ。よく生きて日本に戻れたもんです。

――残留孤児になっていても不思議じゃないですよね。

ビクトル それをみんな不思議がってね、昔の『少年ジャンプ』かなんかのマンガで俺のことが載ってますよ。残留孤児にならないで、子供がひとりで帰ってきたのが珍しかったんでしょう。あの当時は、僕と同じ境遇の子供がたくさん死んでますからね。

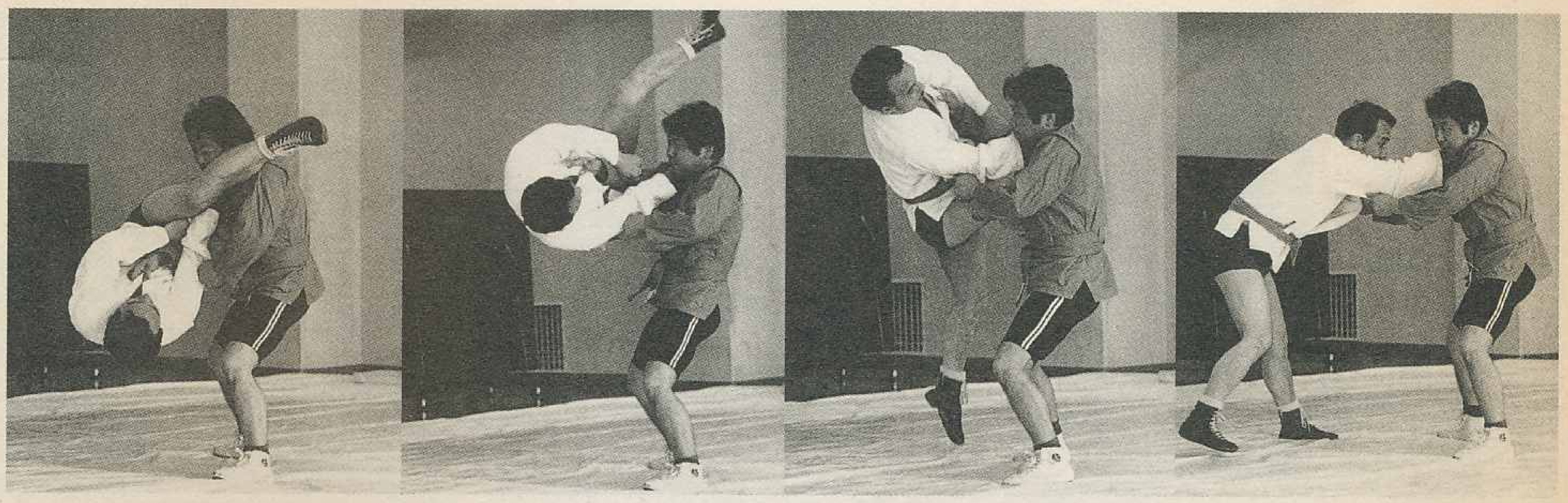
――壮絶な幼年期を過ごされてきたわけですね。

ビクトル 帰国したらしたで、ハーフだったから差別的なことをされてたいへんでしたよ。

――先生の御家族は警察や公安にもマークされていたとか。

ビクトル それでロシアに行ったらKGBにマークされてましたね（笑）。

――KGBから！ それは大事ですね。



ビクトル 自分がロシアでサンボやってる頃に、最初は新聞記者みたいな立場で近づいてきた人間が、そのうちどっかの事務局の人間になってみたりしてね。なんだかんだで俺をマークしてたんです。まぁそれがKGBだったわけですけどね。そいつとはあとで仲良くなって「俺を見張っていただろう？」と聞いたら、「そんなことない！」って必死に否定してたけどね（笑）。僕の爺さんは旧ソ連の反体制側の人間。白軍だったからね。白軍の孫がロシアに来てサンボをやっていたから「日本のスパイじゃないか？」って思ったんでしょう。

――ロシアン・トップチーム総監督のパコージンは、旧ソ連スポーツ省・副委員長だったそうですが、彼とは面識はあったりするんですか？

ビクトル 知ってるよ。偉くなったもんだよなあ、パコージンの奴は（笑）。

――ワハハハ！ ビクトル先生からすると、小僧ってかんじですか？（笑）。

ビクトル そうは言わないよ（笑）。でも、彼の上司のビクトル・ボリソフはレスリングをやってって、俺の親友なんですよ。きみらの雑誌を読んだけど、パコージンは「雑誌を6冊持ってこい！」とか言ってたでしょ。

――はい。「持ってこないとインタビューを受けない！」と怒られました（笑）。

ビクトル 雑誌6冊分のお金、俺が取ってやろうかって思いましたからね。アッハッハッ！

――いやあ、ぜひパコージンと先生の対談が見たくなりました（笑）。

ビクトル 俺はいいけどさ。パコージンは嫌〜な顔するよ、きっと（笑）。

――なるほど（笑）。話は変わりますけど、先生はもともと日本でレスリングをやられていて、そこからサンボに転向されたんですよね。

ビクトル ホントはお相撲さんになりたかったんですよ。中学生のときに従兄弟が立浪部屋にいたから、よく腹を空かしたときは相撲部屋に行ってかわいがってもらいましたよ。でも僕は身体が小さいからね。しょうがなくレスリングをやったんですね。

――レスリングの恩師は八田会長（故人）なんですよね。

ビクトル 八田さんがいなかったら僕はサンボはやらなかったね。八田さんはサンボの技術をレスリングに取り入れるために交流を始めたんです。堀米（奉文）がサンボを始めたのもそこからですよ。

――世界アマチュアサンボ連盟会長をつとめて、リングス審議員もやられていた堀米氏ですね。

ビクトル 堀米は八戸の高校の先生を辞めて、東京に来て八田さんのカバン持ちをやってたんだよ。堀米はレスリングも強かったし、お酒も強かったね。

――ビクトル先生もかなりお酒は強そうですけど。

ビクトル 好きですよ！ ロシア人は子供の頃から飲むからね。だって体を温めないと、学校行くのに凍えて死んじゃうんですよ。

――やむにやまれぬ事情があるとはいえ、登校前に一杯ひっか

けますか（笑）。

山本」への改名効果があったわ

中角栄は「ハイラルの公園で日

けますか（笑）。

ビクトル　いまは浦賀の焼き鳥屋で飲んでますね。貧乏で年金生活者だから週に2～3回に減ってますけど、むかしは毎日。火曜日が休みなんだけど定休日以外はかならず飲んでいて、俺に連絡を取る場合はそこに電話したほうが早い。一度きみらも来なさい。昔はターザン（山本！）を誘ったこともありますよ。きみらはターザンと一緒にやってるんでしょ？

——よくそう言われるんですが、一緒ではないんですよ。毎号のように山本！さんは出てるんですけど。

ビクトル　あの「ターザン」ってアダ名は俺が付けたんですよ。

——先生が命名したことは伺ってます。

ビクトル　なぜ「ターザン」と付けたかというと、あの人は叫ぶように喋るでしょ？

——はい。狂ったように喋りますね（笑）。

ビクトル　それに格好は汚ないし、床屋も行かないからヒッピーみたい髪型で、ヘソ出してTシャツ着て興奮して走り回るでしょ？

——ワハハハ！　むかしはもっとワイルドボーイでしたよね（笑）。

ビクトル　そんな奴はターザンぐらいしかいないだろうって（笑）。そしたら気に入ったのか「それを使わしてください！」ってことになったんだよ。そのちょっとあとに、いまは別れたけど若いかあちゃん好きになってね、少しは身だしなみが良くなりだしたんじゃないですか。

——「山本隆」から「ターザン山本」への改名効果があったわけですか（笑）。最近また改名して「ターザン山本！」になったんですよ

ビクトル　へえ～。そうなの。

——ただ、改名した途端に糖尿で入院しちゃったんです。

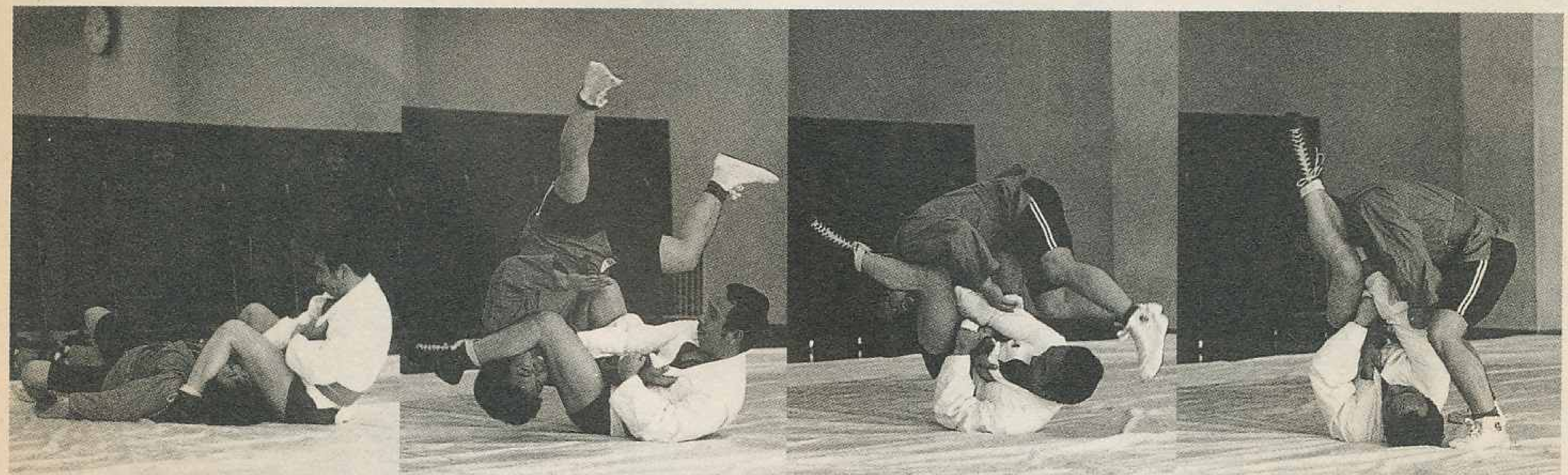
ビクトル　じゃあ、ターザン山本！じゃなくて「ターザン糖尿」にすればいいのに。

——ターザン糖尿！　ぜひ推薦しときます（笑）。しかし、ビクトル先生はKGBのエリートから山本！さんまで、本当に幅広いですよね。レスリングのソ連遠征に行かれた船中では、元総理大臣の小渕（恵三）さんと知り合ったとも聞いてますが。

ビクトル　よく知ってるね～。あのときは、バイカル号という船で横浜からロシアに向かったんですよ。小渕恵三は国会議員になったばかりで、初めての海外視察だったんじゃないかな。松浪（健四郎）が昔から政治家になりたいって言ってたんですけど、僕が松浪を小渕恵三に紹介して、小渕恵三が田中角栄に会う段取りをしてくれたんですよ。

——松浪先生が政治家になったのは、先生がきっかけでもあったんですか。

ビクトル　俺が松浪の付き人みたいな役割で田中角栄に会いに行ったらさ、田中角栄はハイラル生まれのハイラル育ちで戦時中ハイラルにいて、俺もそうだったから意気投合しちゃってね。松浪そっちのけ（笑）。田中角栄に謁見したい人間が順番待ちしてるんだよ。ホントは4、5分しか会えないんだけど、もう1時間以上も話が弾んじゃって。田中角栄は「ハイラルの公園で日本人の子供にビスケットやキャラメルをあげてたよ」「僕もその公園に行ってました」「あ、キミにキャラメルをたしかにあげた！」「あ、僕もたしかにもらいました！」って。



これが伝説の飛びつき腕十字だ!!　この“伝家の宝刀”でビクトル先生は旧ソ連のサンビストを次々となぎ倒してきた。日本では数々のプロレスラー＆格闘家に名人芸を継承。マット界に多大な影響を与えてきたのである。

ロシア人とは体格が違うから意表を突く技を編み出してたんですよ

これがサンボだ!! '04

——過去にそういう接点があったんですか？

ビクトル　いや、そんなはずはない（あっさりと）。

——ワハハハ！　思いこみだけで盛り上がったんですか（笑）。

ビクトル　絶対にそんなことはあり得ないですよ。あの人も俺も思い込んだから止まらない人だからねえ～。

——同じスター同士だから、波長も合ったんでしょう。先生もロシアではしょっちゅうサイン攻めにあったそうですよね。

ビクトル　僕はロシアで子供には人気あったんですね。いつもニヤニヤしてる面白いおじさんだったから、常に子供がぞろぞろ付いて来る。だから女遊びができないんですよ（笑）。

——たいへんですね、子供のヒーローは（笑）。

ビクトル　僕のことがロシアの教科書に一時、載ってたこともあるからね。

——教科書にまで！　体育の教科書とかですか？

ビクトル　じゃなくて、ヒゲの友情物語。

——ヒ、ヒゲの友情物語？

ビクトル　あなたたちが生まれる前は、日本でヒゲを生やしてる人間はそうそういなかったんですよ。そんな時代に自分はある理由でヒゲを生やしてたんです。いまでもある横浜文化体育館はレ

後方・向かって左から三番目のゴツイ男がクズネツォフ。本文中で先生が「ヒョードルがひれ伏すサンビスト」と紹介した強豪。見るからに強そうだ！



彼のことをヒョードルに聞いてみなさい。ひれ伏すから

スリングの世界選手権をやるためにつくられたんですけど、世界選手権が始まるいざ何日か前に屋根が潰れたんですよ。臨時で慶応大学の体育館を借りて大会をやったんですけど、ソ連からウラジミール・ロバシビリという抜群に強い選手が来ててね。軽量級のカレリンみたいなもんで負けなしの強い英雄。その選手と一緒に体育館の裏で隠れて煙草を吸ってたんですよ。

――レスリングの英雄と隠れ喫煙ですか！（笑）。

ビクトル　それをね、レンツというワンマンコーチに見つかって、ロバシビリはそのレンツにババーンって殴られて「おまえはヒゲを剃れ！」と。ロシア人の男にとっては、ヒゲを剃られるというのはたいへん屈辱的なことなんです。すぐに俺の前でヒゲを剃られて「おまえはロシアに帰ってしばらく謹慎だ。来年また世界選手権で優勝したらヒゲを生やしていい」と命じられて、ロバシビリは男のくせに泣いて帰ったんですよ。で、ロバシビリが帰るときに「ビクトル、俺は1年間ヒゲを生やせないから、俺の代わりにヒゲを生やしてくれ！」「よしわかった！」と約束して、あいつはロシアで「俺のヒゲはビクトルが持ってる」と言い回ってたんだけど、ロバシビリは免許ないくせに車を運転して、崖から落っこって死んじゃったんだよね。それでロシアの記者が僕に「ロバシビリが死んだけど、そのヒゲはどうする？」と聞かれて、「ロバシビリと今度会うときまで生やしておく約束をしたから、天国で会うまでこのままだ」と言ったんです。それがヒゲの友情物語としてロシアに伝わったんですね。

――それは良い話ですね！

ビクトル　男の約束とは、そのぐらい重要なものだということで、小学校4年か5年の教科書に『男の約束』という題で載ってたんですよ。まぁ、これは自慢してるみたいだから、載せなくていいよ（照れ笑い）。

――いや！　ビクトル先生を知る上で欠かせないエピソードですのでしっかり書かせていただきます！　教科書にそんな美談が載る一方で、先生は『ザ・世界のトイレマニュアル』という、世界のトレイ事情を紹介する本を出版されてますよね。これは画期的ですよ！

ビクトル　書いた、書いたね。あれは何で出したかというと、トイレでいろいろ面白いエピソードがあったからなんだよ。昔の日本レスリング軽量級の選手は短足の奴が多かったから、フィンランドあたりのトイレは高すぎる。ちょっと離れないとオシッコできない。高いからチンチン届かないのよ。あと満州ではトイレの下に豚がいて、上から落ちてくるウンチを食べるとかね。

――そういったウンチクが詰まった本だったんですね（笑）。

ビクトル　トイレの本、読みたい？

――はい！　ぜひ（笑）。

ビクトル　（即座に）俺もほしいんだよ！

――ワハハハ！　書いた本人が持ってないんですか（笑）。

ビクトル　自分で書いたもん何も持ってないですよ。貸したら

ああいうものはみんな返ってこないよ。ほかにも『世界の女マップ』っていう本も書いたんですけどね。

——え？ それは初耳です！

ビクトル いや、それはエッチな本だから、違う名前で書いたの。

——ワハハハ！ そこまでして書きましたか！

ビクトル これはヨーロッパの女マップということで、どうやって安く交渉するとか、真面目な格好をしてるとボラれるとか、日本の選手やコーチ、監督が一緒に行くと日本人ということだけで高くなるとか、安い女、高い女、性病のある女とかね。そういうことを書いたんですよ。

——それは素晴らしい実用書ですね（笑）。

ビクトル まぁ、これはサンボの取材に関係ないから書かないでね（笑）。

——いや！ これも先生を知る上で欠かせないエピソードですのでしっかり書かせていただきます！

ビクトル ワッハッハッ！ 言っておくけど、いま俺はね、べつに酔っぱらってないんだよ。

——酔っぱらったら、もっとすごいんですか？

ビクトル アホなことに変わりはないね。アッハッハッハッ！

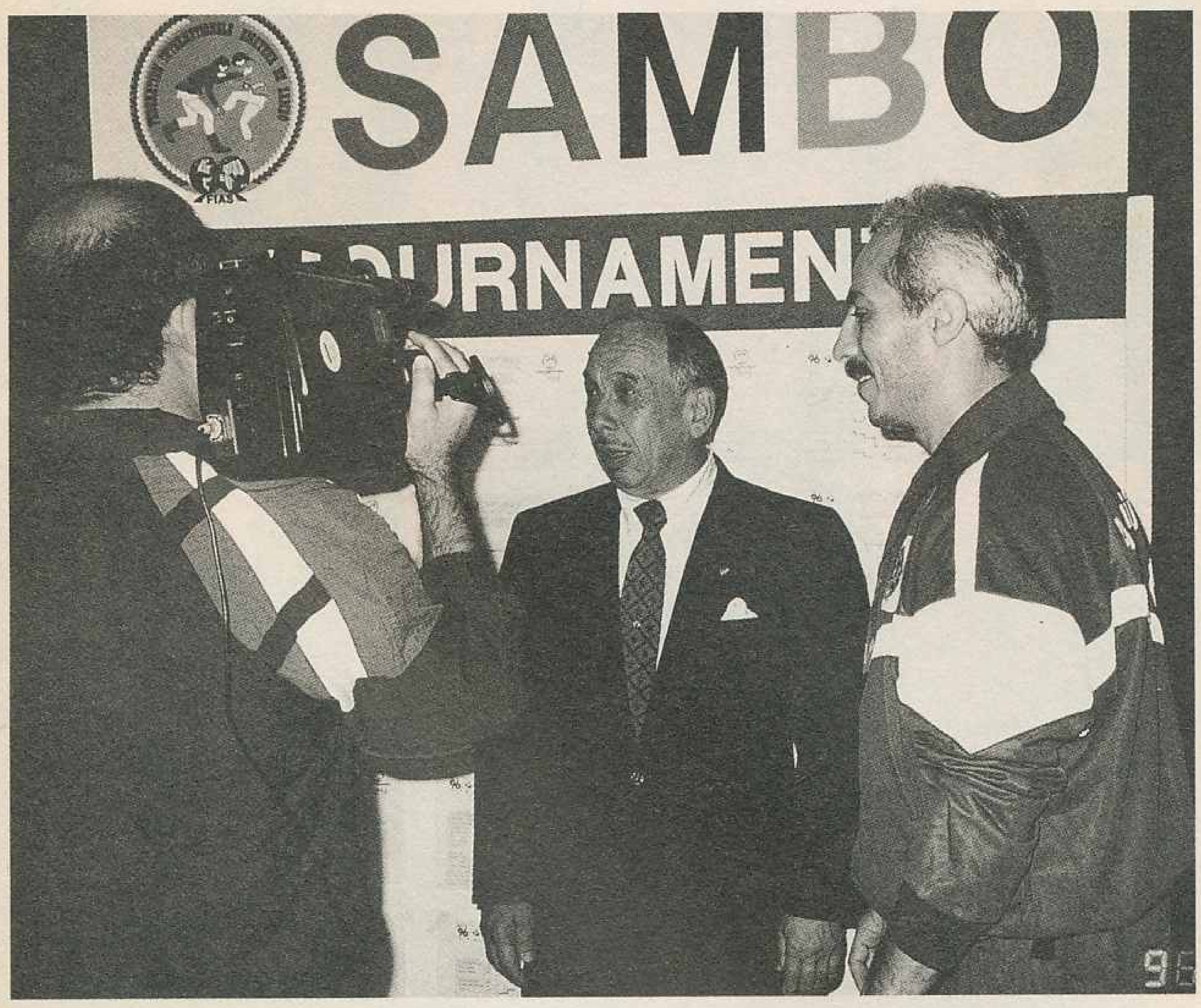
——いやあ、軽くてエロいけどメチャクチャ強いという、まさしく格闘技界の亀仙人ですね、先生は（笑）。マジメなお話に戻りますが、トイレや女マップの本を書くほど世界中を回った先生からみて、ロシア系選手のとくに優れてる部分はどこだと思いますか？ ナチュラルパワーが強いことはつと耳にしますけど。

ビクトル ロシア人も力は強いけど、いちばん凄いのはやっぱりモンゴル人ですよ。ロシアのコザックとか遊牧系統の奴らも強いですけどね。ロシア人や農耕民族、中国人なんかは、普段の生活で馬とか動物と密接に過ごしたことが格闘技ですごい役に立ってると思いますよ。

——身体の仕組みを身を持って勉強しているわけですね。

ビクトル スポーツの勉強をしてないロシア人やモンゴル人がなぜ強いのかはそこでわかる気がしますよ。あとは体格。俺は日本人の血が入ってるからわかるけど、やっぱり同じ身長でも指の長さからして違うからね。同じ動きや技をやってもしょうがないんだよ。

ロシアの人たちは俺がもう死んでると思ってるよ（笑）



ビクトル先生はロシアを訪れるとテレビカメラが向けられるスーパースターにして、ペンネームで「ヨーロッパの女マップ」をつづったりと、エロくて強い格闘技界の亀仙人だ。

——だからビクトル先生は相手の意表を突くようなイタズラみたい技を使ってたんですね。

ビクトル ビクトル投げなんかは完全にそうですよ。あれは足の長い奴に内股かけたら失敗してね。跳ね上げても相手が動かない。そのままやめないで何かやってみようと向こうの足に巻きついたらギャーって声 出して、ああ、これは面白いなあと思って、一日4試合全部それで極めたからね。

——そのまま自分のものに習得してしまうのもすごいですね。先生はディナモという、KGBや警察の人間が練習する格闘施設で学ばれたそうですが、日本人でもそういう場所に入れるもんなんですか？

ビクトル それは絶対にダメだね。

——先生は特別に許可されていたんですか？

ビクトル いや、勝手に入ってたからね、俺は。

——ワハハハハハ！ いいんですか、勝手に侵入して。

ビクトル いいの、いいの。チェスカ（軍隊専用のスポーツ施設）の中にも堂々と入って行ったからね。

——でも、軍の機密に関わるから、異国からの取材は厳禁らしいですよね。

ビクトル 大丈夫、大丈夫。俺の名前を出せば大丈夫ですよ。俺

——そういうもんなんですか（笑）。そのサンボは一般的にはスポーツとコマンドに別れていますが、最近のコマンド・サンボは競技としても行われるそうで、オープンフィンガー・グローブを付けて闘ってると聞いたんですけど。

ビクトル グローブ？ 日本の影響だとしたらありえるけど、ロシアだとグローブをつくる余裕もお金も発想もないですよ。

——というと、グローブ使用はごくごく最近の話なんですか。

ビクトル う～ん。コマンド・サンボはね、〝何をやってもいい〟んだよ。

——〝何をやってもいい〟！

ビクトル そのときその場所で違うものだしね。グルジアのサンボ、シベリアのサンボ、ゲラシモク、ウズベキスタンと、あちこちコーチや指導者によってかなり違うんですよ、まだまだできあがってないというわけだ。

——つまり、ひじょうに土着性の強い格闘技なんですね。

ビクトル サンボには絞めがないというけど、サンボ的な絞めも存在するんだよ。フルネルソンみたいなかんじで落とす。昔の軍隊にいた爺さんたちはそれができるんです。ドイツの兵隊に親しみをこめて近づいて行って、不意に極めるんだよ。

——実戦性に基づいてるどいうか、暗殺術の領域ですね！ 打撃面はどうでしょうか？ ハリトーノフやヒョードルにしても、上手いことパンチを当ててるんですけど。

ビクトル ロシア人は先天的に打撃は巧くないと思うんだけど、

これがサンボだ!04

上手いこと当てるのは目がいいからだろうね。ロシアのボクサーは非常に目がいいし。ロシアは子供は日常から、たとえば酷寒地だと、的確に物をパッと取ってパッと帰らないといけない。寒い国なりの訓練が日常からできてるんですよ。

——余計な時間は使わないで迅速な動きができる、と。あともうひとつ聞きたかったのは、ボエボエ・サンボと呼ばれる戦争用のサンボ、通称コマンド・サンボことなんです。

ビクトル 戦争用のサンボは、こないだ何かの雑誌読んだら「ボエボエ・サンボ」って書いてあったけど、ホントの発音は「ワエヴォエ」。「ワエナ」というのが戦争の意味ね。

——勉強になります! そのワエヴォエ・サンボは、ハリトーノフのようにロシア軍のエリートしか習得できないサンボで、脊髄や急所攻撃も認められてる危険な格闘技らしいですが、やっぱり武器なんかも使ったりするんですか?

ビクトル 武器を使わないでやるのが原則だけどね。モントリオール五輪で柔道金メダルを取ったノビコフって奴がいるんだけど、そいつは武器を使う格闘技を3~4年前につくったんですよ。

——武器使用OKの格闘技! それはもはやI編集長的な世界です(笑)。

ビクトル サンボの技術は当然入ってるし、あと射撃もあるね。

——射撃まで! もう格闘技の枠を越えてますよ(笑)。

ビクトル その格闘技は堀米が知ってるはずだよ。俺に日本支部長になってくれという話もあったんだけどね。

——先生は最近ロシアに行ったりしてるんですか?

ビクトル 行ってない。あんまり動きたくないからね。まさか俺がまだ生きてるとは、ロシアの人は誰も思ってないんじゃない? ロシア男性の平均年齢をとっくに過ぎちゃったし、俺のことを知ってる世代はいないですよ。いまの一世代の前には、ビクトルを神様だと思ってる奴もいるんです。共産党時代だから、「神様」なんて言葉をつかっちゃいけないのね。ただ、こういう調子のいいおじさんだから、実際に会うと落差があるんですよ。もうちょっとすごい人だと思ってたのにとかね。単なるおっちょこちょいのおじさん。知らなきゃよかったって思ってるやつがけっこういますよ(笑)。

——神様にしては気さく過ぎるというか(笑)。神様つながりでいえば、カール・ゴッチさんとも仲が良かったそうですね。

ビクトル あれは僕と正反対のタイプだったねえ~。俺がベラベラ喋ると、あの人は呆気にとられてビックリしてたね。佐山君が引き合わせてくれたんだけど、あの人は俺と考え方がほとんど同じくせにやけに難しく言うんですよ。鉄の入ったようなデッカイ靴を履いて、目が覚めて寝るまでがトレーニングだっていう人ですから。技の研究みたいなことも大好きでしょ?

——還暦を過ぎても、人を殺す方法を考えてる人ですからね(笑)。

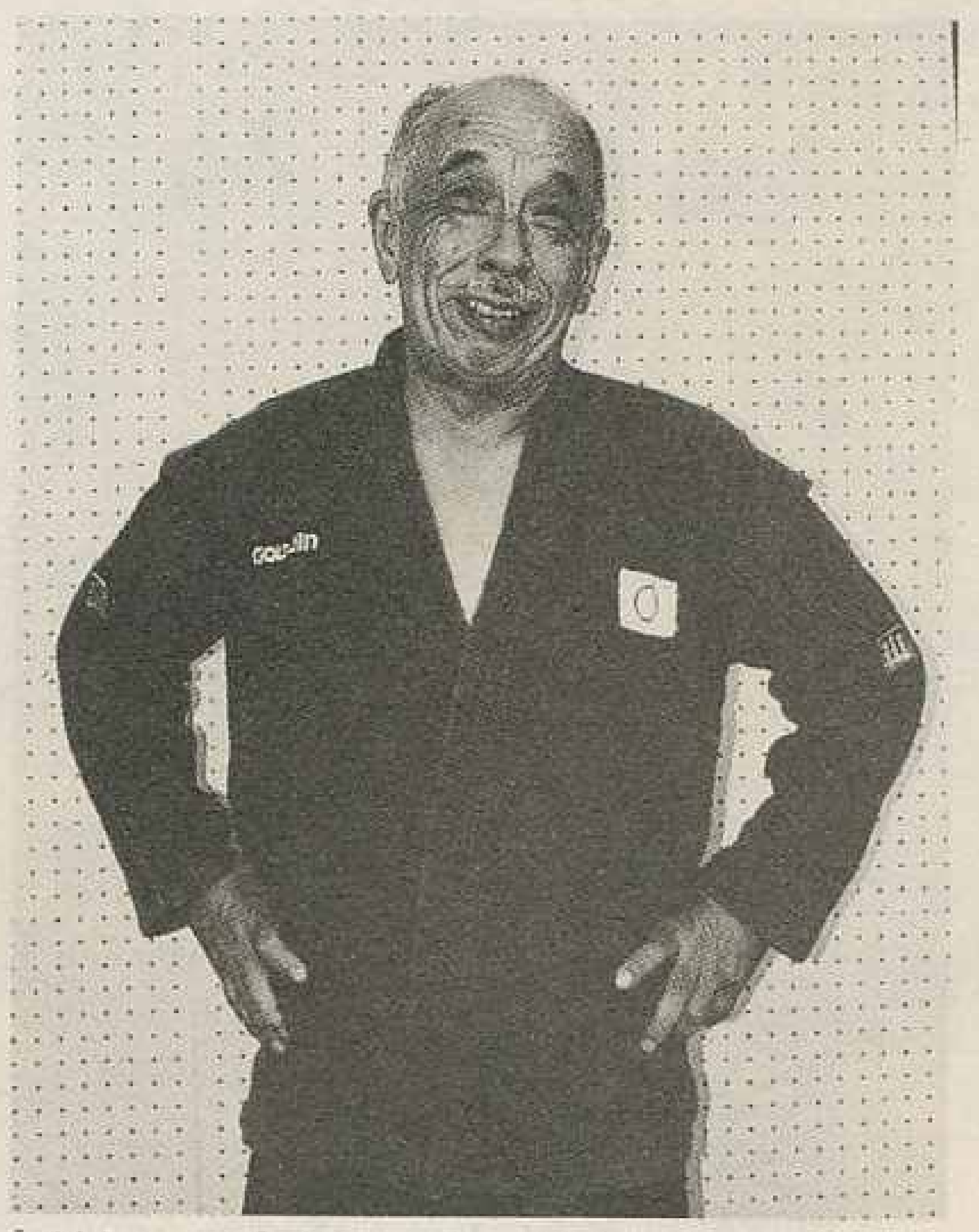
ビクトル あの人の場合は周りから神格化されてるから、それに応えようとしてガチガチになってたところもあったんですよ。格闘技の考え方は俺と一緒だけど、まぁ性格がね(笑)。

——ゴッチさん、佐山さんとくれば、猪木さんとも接点があったりしそうですけど。

ビクトル 猪木? ない、ない。俺、金儲けに頑張る奴は好きじゃないし。

——ワハハハ! やっぱり(笑)。

ビクトル 僕の弟は死んじゃったけど、猪木と組んでいろいろやってたんですよ。(ショータ・)チョチョシビリとかさ、ボクシングのユーリ・アルバチャコフとかを呼んだりして。弟は金儲けが好きで、猪木とお金が好きな者同士で俺は見てて嫌だったですよ。



【びくとる・こが】本名・古賀正一(まさかず)。1935年旧満州出身。日本人初のサンビストにしてスポーツマスター。佐山皇帝の協力のもと「これがサンボだ!」など、サンボ関連に多数の著書あり。ちなみに吉田豪は「ザ・世界のトイレマニュアル」、ビクトル先生の少年時代を描いた漫画を所有のこと。

——レッドブル軍団が新日本プロレスに来られたときには、先生もドーム大会に観戦をしに来られてましたけど。

ビクトル あのときはテレビ朝日から声が掛かってしょうがないから行っていろいろしましたよ。

——レッドブル軍団の新日本参戦は、テレビ朝日の力で実現したところが大きいらしいですね。

ビクトル そうね。テレビ朝日がモスクワ五輪の放送権を独占したときに、テレビ朝日にやり手のプロデューサーがいたんですけど、その繋がりがあったのかもしれないですね。あのときターザンは雑誌(『週プロ』)の編集長だったでしょ?

——ビクトル先生は『週プロ』でロシア物の連載をしてましたね。

ビクトル やってたね。格闘技の雑誌(『格通』)には、いまは偉くなってる谷川〝大選手〟がいたか。あんな人が何で偉くなったのかわからないよ(笑)。

——いまではK—1のプロデューサーですからね(笑)。

ビクトル 俺は金も名誉もほしくないからさ。猪木なんかはそのことをよく知ってるから俺のこと触らないのよ。俺はずっとビンボーでいいしさ。

——スポーツマスターの年金は受け取ってないんですか?

ビクトル 申請すればもらえると思うけど、もう死んでると思われてるんじゃない?

——じゃあ、ロシア政府に申請しましょう!

ビクトル でも、パコージンの世話になりたくないねえ(笑)。まぁ、俺は焼鳥屋で美味しいお酒が飲めればいいんですよ。そのために働いてるんだから。いま俺は明るい農村で毎日カラスと闘ってるんです。奴らは俺の収穫を全部持って行っちゃうんですから。

——目下の最大のライバルはカラスですか!

ビクトル 網を張っててもダメ。朝4時半頃に畑に水やりに行くんだけど、いまはアイツら俺のことわかってってね、ビクトルが来るって連絡してるんですよ。そう聞こえるんだもん。

——とりあえずの目標は、打倒・カラスということで頑張ってください(笑)。

ビクトル いやあ、いまの俺はカラスにも勝てないね。ワッハッハッ!

【04年7月17日/神奈川県・横浜青少年交流センターにて収録】

「サンボ・アカデミー横浜」でサンボを学べ!!

取材場所を提供していただいた「サンボ・アカデミー横浜」では、わずかな会場使用料実費のみで毎週サンボを学べ、文部科学省「居場所」事業の一環として、子どもに無料でサンボを指導している。

【入会条件】とくになし。会場使用料実費¥1000。他にスポーツ保険に加入(¥1500)
【活動時間】毎週土曜日、午前10時~、午後14時~、「居場所」事業・水曜日の午後を予定
【主な活動場所】横浜市青少年交流センター
【連絡先】TEL045-316-0812 古賀徹(NPO法人DPサンボ振興会理事)

7/16・17 WWE SMACKDOWN! at the BUDOKAN...Return of the Deadman

おそるべし、WWE!!

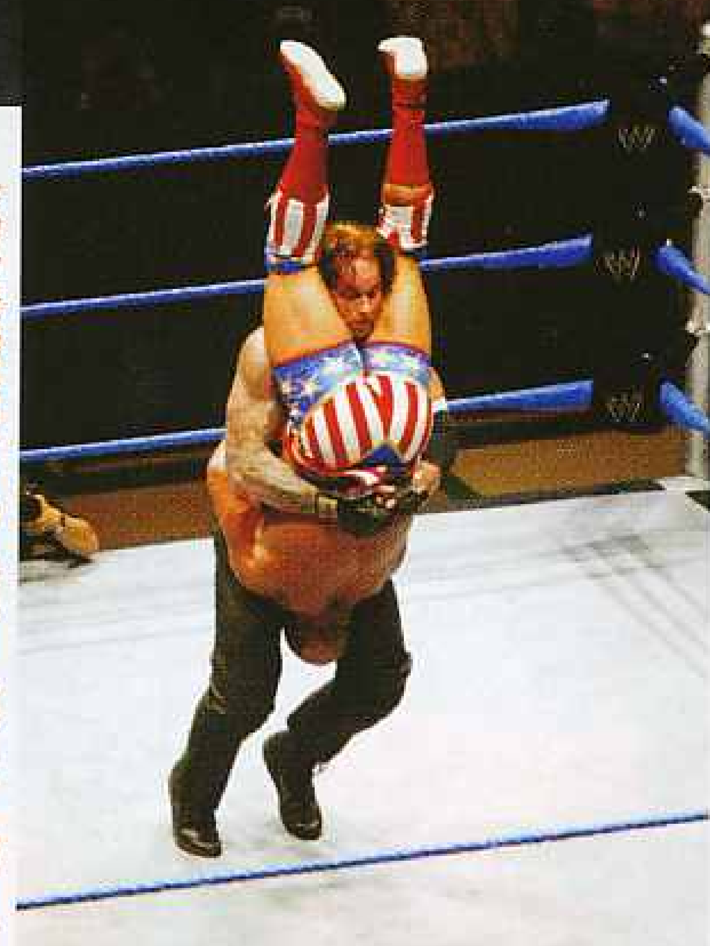
紙プロWWE取材班が表も裏も徹底レポート!!

SMACKDOWN!としては二度目の来日となった今回の日本ツアー『Return of the Deadman』。タイトル通り、デッドマンとして復活したジ・アンダーテイカーは灼熱の武道館を一気に凍りつかせた。だが、それ以上に観客のド肝を抜いたのは、試合をしないと思われていたカート・アングルの電撃復帰だ。WWEというパッケージの持つ底力を改めて感じさせてくれただけでなく、個々のスキルの高さをも感じさせてくれた。これがWWEの底力なのか!? 今回も紙プロ流の切り口で日本ツアーを解剖します!!

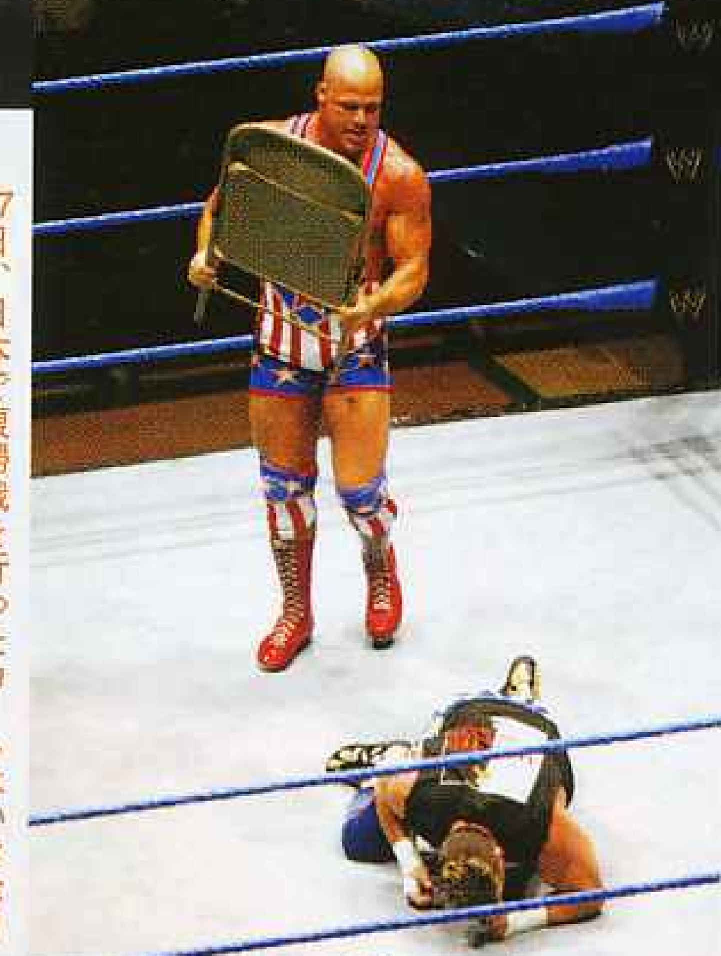
写真／平工幸雄、George Napolitano
構成／坂井ノブ　協力／YOSSY佐藤、PAINTMAN
designed by matsu (Two Three)







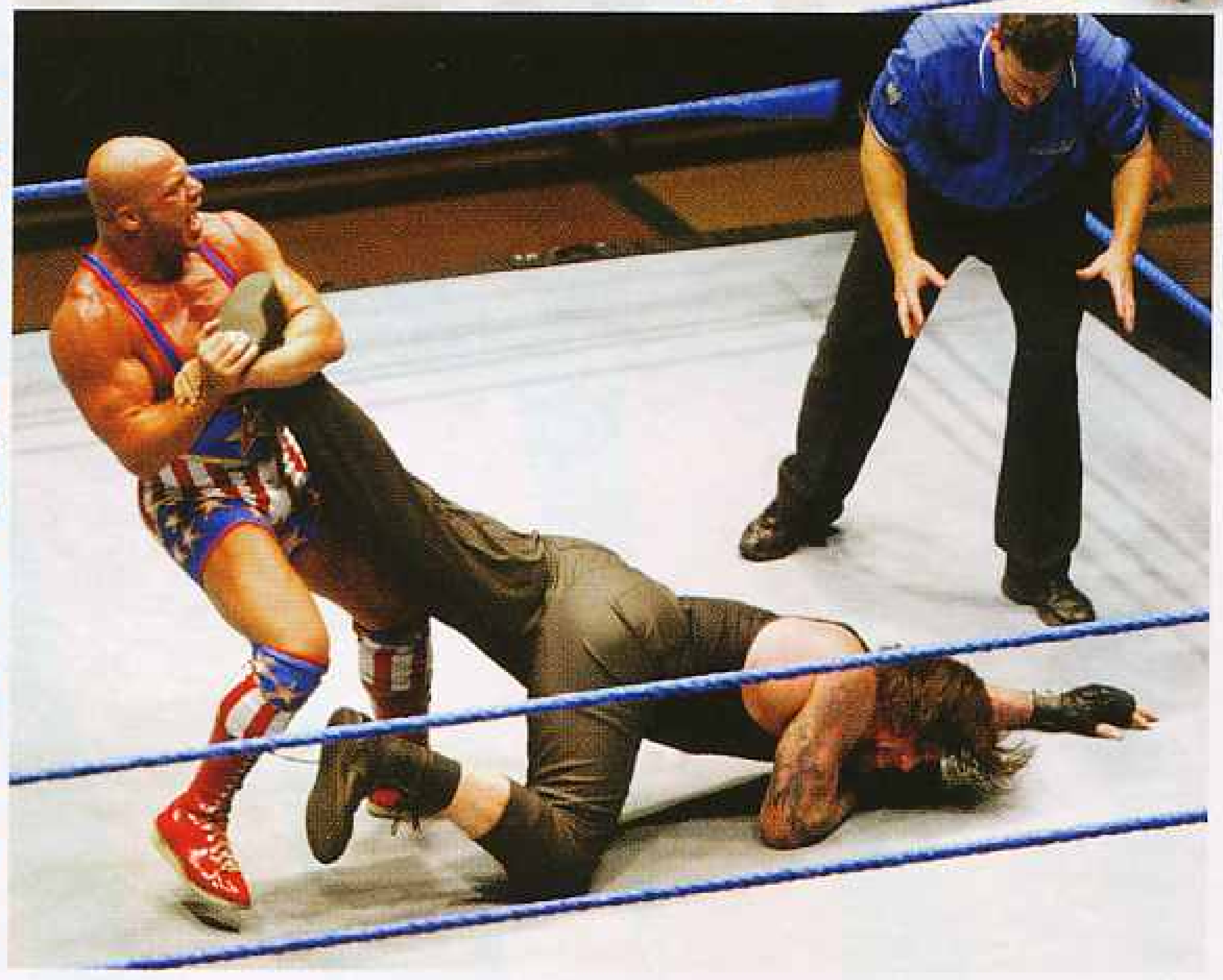
だが、最後にはテイカーのツームストン・パイルで地獄行き。首の大怪我で欠場したのに……。



17日、日本で復帰戦を行ったカートはいきなりエディの足をイスで破壊して戦闘不能に陥れる。



16日、メイン後に登場したシェイン・マクマホンはGMカートに翌日の試合出場を命令！



一人で闘うテイカーは大苦戦。カートも復帰戦ながら鮮やかなムーブでアンクルロックやアングルスラムなど得意技を連発！

今年の「スマックダウン」ツアー総括の原稿の締切を待つ内に「ハッスル4」が開催された。新しいプロレスを生み出す苦労をつくづく感じてしまった。「これまでのプロレスを根こそぎ破壊する」イベントのメインで、WJでも実現した長州と安生のタッグ激突が提供される。送り手側にとって、それが第一選択肢であるはずがない。当てにしていたプランが崩れ、咄嗟のアレンジだったのだろう。勿論、リング上の選手に罪はない。事ほど左様に新しいプロレスを創ることは難しいのである。手前の陣営に豊富なタレントがいなければ、気の利いた代案が形にならない。1982年に父ビンス・シニアの会社を買い取ったビンス・マクマホン。その団体の歴史は20年以上を数える。ならばこその選手層。ならばこその試合内容。些細な事故は、それ以上のカードを提供することによってなかったことにしてしまう。そんな奥の深さを感じさせたのが、実は今回の「スマック」ツアーだった。

日本の観客の大「エディ！」コールに迎えられて登場したエディ・ゲレロ。しかし左ヒザの調子が思わしくないというニュースも同時に届いていた。公演初日の16日のメイン。エディはJBLとのシングルだったが、試合途中スロープ上になっている花道を走ったあたりで、めっきり動きが悪くなってしまう（股関節を痛めたという説も）。何とか試合を終えたが、確か翌日のカードは、アンダーテイカー、JBLとの3ウエイだったはず。しかしここで団体は洒落た微調整を行う。アンダーテイカーとエディがタッグを組み、JBLとカート・アングル組との対決という組み合わせに切り換えたのだ。アングルのリング復帰というビッグ・サプライズ（本国では8月になってから復帰）。しかも翌日の試合、蓋を開けてみると開始早々、左足への椅子攻撃でエディは控え室へ戻り、試合終盤までアンダーテイカーはローンバトルを強いられる。エディを休ませ、ヘロヘロになるまでテイカーを動かせる。やがて訪れるハッピー・エンディング。テイカーのマイクありというおまけ付け。選手のケガという現実的なマイナス面を、それ以上のファンタジーでくるんでしまうWWEの知恵の働きに思わず唸ってしまった。こうして選手達は互いに助け合いながら、きついロードをこなしていくのかもしれない。今回のツアーは背広組と選手達の〝フォア・ザ・チーム〟精神が一番の見所。これも団体の底力なのだと知る羽目になった。

GMを務めるアングルにリング復帰を命令するには、それ以上の権威が必要になる。初日ラストで登場したのは何とシェイン・マクマホン。客を楽しませるためには何でもやる。あるものは何でも、社長の息子さえ使ってしまうのがWWEのショウビズ。シェインは日本でのビジネスの打ち合わせのために、公演初日だけの緊急来日。16日の昼間には関係者との「ミート&グリート」のパーティがあり、筆者もそこに参加することができた。ほんの少しだけ、シェインと会話を交わした。

「僕がレスリング・ビジネスを引退するという噂が流れてる？ それは誤報だよ」

「今夜、リングに登場するかって？ 未だ何も決めてない。でも試合をするならケインよりカートの方が好きだな」

その6時間後、シェインは武道館の花道でこの夜一番のヒーローとなった。確か30代になったばかりの彼だが、鬢のあたりにはうっすらと白いものが見える。成功者とはいえ若き実業家の苦労も絶えないのだろう。

TVマッチと違い、ハウスショーの面白さは時間に囚われずにレスリングを堪能できること。例えばJBL。証券アナリストのインテリキャラから、どこか3枚目のラフファイターに代わりつつある彼のレスリングも、やはり上手い。足殺しの技術も初日のゲレロにはエルボーを打つように体重をかけて倒れる。2日目のテイカーには、カニばさみをしながら倒れ込む。臨機応変で、さすがオールドスクールの技術が身についている。チャーリー・ハースの片手をマットにつけてのアームホイップも形が見事。H・レイスやR・スティムボートといったNWA王者が見せていたムーブを再現してみせる。2日目の4ウェイマッチでのフナキとレイ・ミステリオの絡みも流石だった。TVならいつもの619でフィニッシュの所を、その上に高速のウラカンラナ、更にその上にヨーロピアン・クラッチというレイレイの奥の手をフナキが引き出して見せる。フナキのジャーマンも見事

切り換えたのだ。アングルのリング
するという噂が流れてる？　それ
見せる。フナキのジャーマンも見事



相変わらずの美しさで場内を沸かせたのはトーリー（と対戦相手のドーン・マリー）。



入場時、テイカーがスーッと手を上げると真っ暗闇だった場内が明るくなっていく。すべてはテイカーの手の内にあることを象徴するシーンだ。



テイカーは入場から退場までが圧倒的に完成度が高い！

なブリッジ。ここまで見せられると、木戸銭を払った観客も得した気分になるだろう。

初日の試合を観戦した全日本プロレスのブッカー・渡辺秀行氏はこんな感想を述べている。

「客を楽しませる、トコトン楽しませることに徹している団体だから、やはり見ていて面白い。武道館って、向こうでいえばMSGみたいなものでしょ。どんな演出をするんだろうと思ったけど、実にシンプル。試合重視で進行のテンポがいい。今回はそのシンプルさが成功じゃないかな。注目は新日本時代も知ってるエディ。スーパージュニアが今やWWEヘビーのチャンピオン、そりゃ驚きますよ。身長は高くない。恐らく170cmくらいでしょ。でもヘビー級の選手にも遜色のないムーブを見せていた。JBLとのメインの試合は基本に忠実で、まるで無我の試合みたい（笑）。エージェントがテクニシャンの元レスラーばかりでしょ。選手は上手くなりますよ。日本で言えばヒロさんとか後藤さんが技術指導してるようなものかな。しかも指先からつま先まで、選手は見られることを意識してるから華麗さが生まれる。日本のレスラーも、それくらい考えてほしいよね。見た目を大事に、そしてサプライズを生んでくれ。そう口で言うんだけど、なかなか分かってくれない…。全日本も早く全選手をスターにして、小便タイムのない大会を作りたいですね（笑）」

日本のプロレスとの違いを意識的に考えてみる。ブッカーWの言う通り、WWEは全選手のスター性が練られている。前半戦が退屈ではない（ここは大事）。2日間の興行で、全選手が前の日とコスチュームを代えている。相手のキャラを殺すような試合はしないし、片方が入場する時はもう片方はリングを下りて待つというマナーも習慣化している。日本のプロレスのように頭突きを多用しない（ババレイ以外）。試合は喧嘩もどきのものにはならない。

要するに音楽で言えば、WWEは洋楽ロックなのである。Jポップではない。生まれ持っての華を、そのままに受け取るのが通なのであって、人間ドラマは二の次。見たまんま・感じたまんまで興奮できる。陽気で大らかで派手好きで、音楽ならばアメリカ人はリズムの解釈が根本的に違うし、レスラーなら骨の強さや筋力が違う。どうしても日本人には敵わないスケールの大きさが生まれる。

日本で見られるWWEもこのままでいいというファンと、そろそろ日本向けの味付けを求めるファンとで分かれる所かも。更なるビジネスの拡大を狙うなら、日本向けのオリジナルのメディアを作ればいいのにと思うが（例えばかつての洋楽雑誌『ミュージックライフ』のようなプロのファンジン的メディアがあるといいのに）、それを決定するもしないもWWE本社の胸一つ。

会場の雰囲気は、今回も開演前から出来上がっていた。武道館は夜9時前の終演を求めるので両日とも2時間半強の短い公演となったが、物足りなさは残らなかった。いつもと違って犬を連れずに登場したレネ・デュプリーに向かって「ウィ・ウォント・フィフィ！」というコールが渦巻いたのは、いいセンス。反対に寝技の時間に手拍子を打って、スタンドを促す態度には、何もそこまでアメリカの受け売りをしなくても、なんて思う。印象に残ったのは2日とも終演後に、客席から長い拍手が送られたこと。カーテンコールのような「ブラボー！」の拍手である。WWEの興行とは毎夜、1つの作品であることをファンは知っているのだ。こういうファンは素敵だ。ザ・ロックがかつて話していた「WWEはエンドロールのない1本の映画だよ」というコメントを、ここで再び思い出してしまった。

（文／長谷川博一）

※このページのプレゼント応募方法はP159を参照!!

ネタバレ通信 Vol.16

たとえエディとＪＢＬがバックステージで談笑してる姿を目撃してもビビってたじろがないＦ．Ｂ．Ｉ．の連載対談

ベロンベロンでシューズを片足なくした男とは？

何時男　今回の日本ツアーは評判いいですねぇ。

叙似位　いままで以上にお客さんの反応が良かったですね。

派乱暴　日本武道館の構造は、ホントにプロレス向きだなぁと思いました。あの館内の暑さで盛り上がってる部分も大きいですよね。

叙似位　サインボードを出したり立ち上がったりすると後ろから「見えねえぞ！」って怒鳴る人もいて、相変わらずＷＷＥの見方を履き違えてる人もいたみたいですけどね（笑）。

派乱暴　それにスポーツ新聞系の扱いも今回は小さめでしたよね。やっぱりセイブルがケツとか出さないと取り上げてくれないのかなぁ。

叙似位　「ジョン・ブラッドショー・メイフィールド」とか書いてるところもありましたからねぇ。

何時男　ＪＢＭ（笑）。

叙似位　まだまだ世間一般には認知されてないんでしょうけど、熱狂的なファンは確実に増えてる感じですよね。しかも、今回は日本向きのストーリーもあって、なおかつカート・アングルが実験的に復帰するというアングルも最高でしたからね。それに会場には『ヴェロシティ』を見ていない人が大多数だったと思うんですけど、ポール・ロンドンの凄さを改めて体感出来たのは良かったんじゃないかなぁ。

何時男　またしてもＺＥＲＯ－ＯＮＥからの凱旋ですね。

叙似位　ちなみにカートの執事をやってたルーサー・レインズも元はホースシューって名前でＺＥＲＯ－ＯＮＥに出てた選手なんですよ。第1回『火祭り』に来て、「あんなしょっぱいヤツ連れてきやがって！」って大谷が怒鳴り散らしてるんですよ（笑）。

何時男　しょっぱいのは変わってなかったですけど（笑）。ＲＶＤには勝っちゃってましたね。

叙似位　ホントは、あのポジションには映画『トロイ』で活躍してたネイサン・ジョーンズだったかもしれないわけだし。

派乱暴　しかし、去年の夏の『ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！』とは風景が全く変わってましたね。

叙似位　来年の今頃はジョン・シナとかレネ・デュプリーとか、そのへんの連中がメインを張ってるかもしれないですよ。

派乱暴　ＦＣイベントも良かったなぁ。30分遅れで来るのが当たり前になってたＷＷＥスーパースターズが、珍しく時間通りに来ましたからね。どうやら毎回遅れてるのはＷＷＥスーパースターのせいじゃなくて、アテンド担当が部屋からなかなか出てこないせいだって噂もありますよ（笑）。

叙似位　毎回髪型がビッチリ決まった方ですか？（笑）。

何時男　僕はイベントに参加できなかったんですが、ゲストは誰が来たんですか？

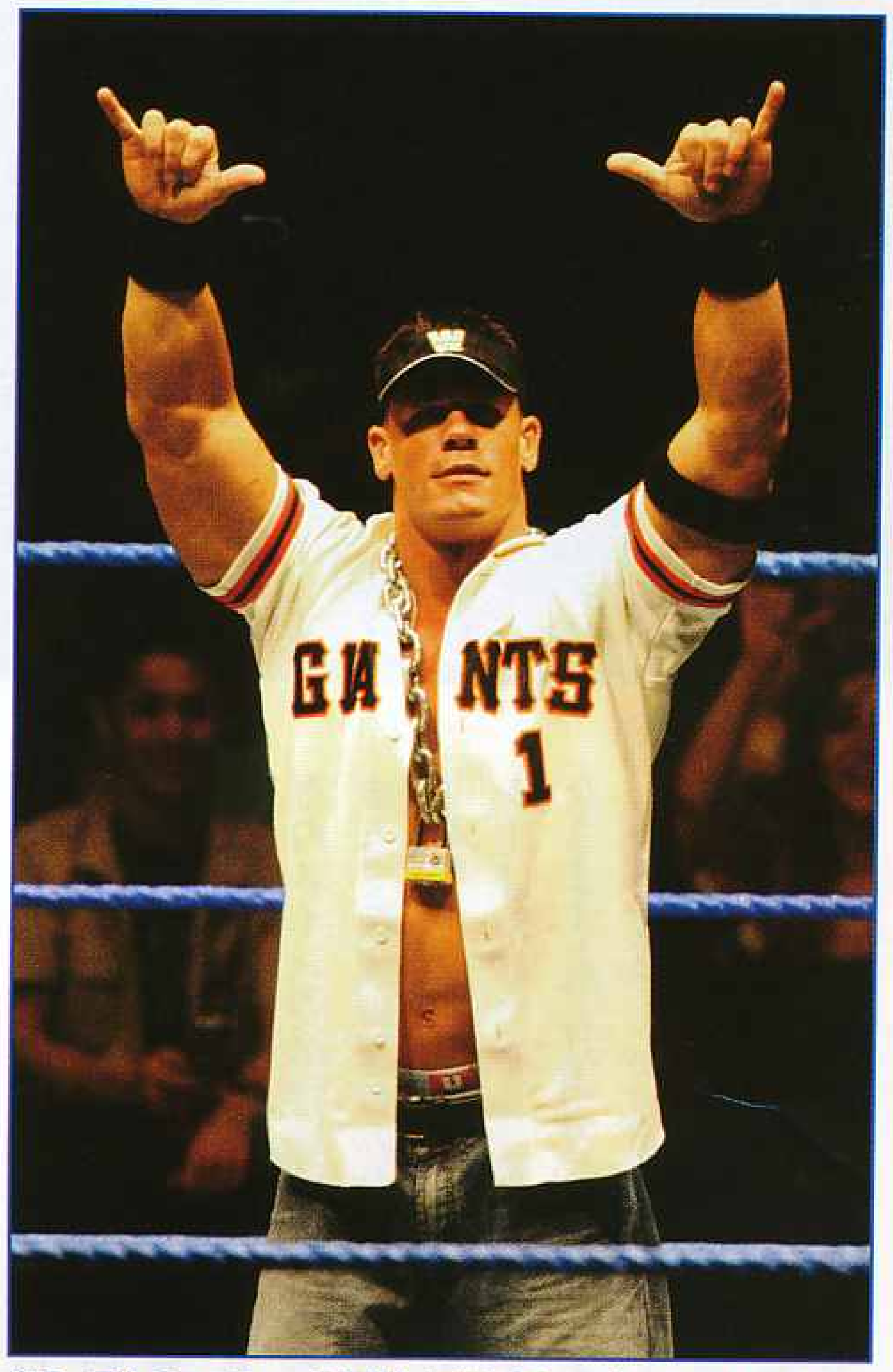
叙似位　初日はフナキ、ジョン・シナ、スパイク・ダッドリーです。

派乱暴　2日目はエディ・ゲレロ、トーリー・ウィルソン、フナキがゲストだったんですけど、トーリーは感激して泣いてましたね！

叙似位　小さな子供や身体の不自由な方にはスーパースターズが率先してサインしてましたからね。ああいうところはさすがだなぁと思いましたよ。

派乱暴　あと、トーリーはオッパイが見えそうになってましたね。だから、ずっと横にタレントマネージャーが怖い顔して立ってましたよ。でも、近くで見たら凄くキレイでしたねぇ。

叙似位　そうですか？　ファンとの撮影の合間で一息ついてる時の表情は、ちょっとやばかったと思い



初日、巨人のユニフォームを着たシナは「ナベツネ、SUCKS!!」とマイク。仕込んだのは、もちろんフナキ。王リスペクトで背番号は「1」。

今月はデッドマンの大特集 8／25発売の新作DVDを各1名様にプレゼント！

いやはや、〝デッドマン〟ジ・アンダーテイカーがあそこまで日本武道館にはまるとは思いませんでしたねぇ。あの雰囲気、ちょっとやそっとじゃ出せません。というわけで、10年以上もWWEの最前線で突っ走ってきたテイカーの94年制作の映像が日本でも発売される。かつての名勝負や名シーンが「これでもか！」と網羅されており、デッドマンの魅力が満載！　邦題は「ベリード・アライブ」だが、原題は「He buries them alive」つまり、「テイカーは奴等を生きたまま埋める」おっかねえ！　そして、PPV『ジャッジメント・デイ』がDVDで登場。大流血の抗争を繰り広げるエディ・ゲレロvsJBLやオカルト対決となったアンダーテイカーvsブッカーTなど、『SMACKDOWN!』ブランドの現在を感じるには最適です！　今月も各1名様にプレゼント。どちらも8月25日発売！　提供■ユークス



『ベリード・アライブ』（DVD：約54分／¥2940・税込）ヨコヅナ戦、ジム・ナイトハード戦等を収録！



『ジャッジメント・デイ2004』（DVD：約185分／¥3990・税込）ジョン・シナvsレネ・デュプリも収録。

※このページのプレゼント応募方法はP159を参照!!

何時男　またしてもZERO-O

ますよ（笑）。でも、ハードなスケジュールだし、仕方ないと思うんですけど。フナキは初日も2日目もファンクラブのイベントに出て、試合もやって、しかも毎日のように取材を受けてたじゃないですか？　じつは17日の朝4時半から築地の魚市場へスパイクと一緒に行くっていう、あっちの番組用の撮影が予定されてたんですよ。それでフナキが眠い目をこすってロビーに下りていったら、夜通し飲んでたナンジオに「お前の撮影、今日じゃなくなったみたいだぞ」って聞かされて（笑）。そこで初めて撮影延期を知らされたらしいですよ。酔っ払ったナンジオが爆睡してるスパイクの部屋に電話かけて「おい、今日の撮影なくなったよな？　な？」って強引に確認したそうです（笑）。しかも、その時、ベロンベロンでシューズをひとつなくしてたらしいですよ。

「死人なので取材はお断りいたします！」

何時男　僕は夜六本木某所に2日とも行ってきたんですよ。特に全選手が集まってのドンチャン騒ぎはしてなかったですね。

叙似位　『SMACKDOWN!』は試合後、バラバラみたいですよ。飲みに行く選手とか、メシを食いに行く選手とか、ホテルで休んでる選手とか、それぞれが勝手にやってるっていう。



マイクで素に近い挨拶したテイカー。「また会う日までREST IN PEACE」と言い残して消えた。

何時男　ダッドリーズが毎日来てましたね。あとはナンジオとかキッドマン&トーリー夫妻とかミステリオ。なぜかジャマールとかリッキー・マルビンとか他団体に来てる外人レスラーも集まってきて（笑）。しかも、16日の深夜にはアンダーテイカーとシェインが六本木の某店に繰り出してきたらしいですよ。その証拠写真がこれ（P67に掲載）です。

叙似位　うわっ！　すごいなぁ。

何時男　ちなみに、僕はテイカーに取材を申し込んでたんですが「アンダーテイカーは死人だから」って断られました。そこまでキャラ守るなら、六本木にも白目を剥いて正装で行ってほしかったなぁと思うんですけどね。

叙似位　僕は外人レスラー御用達のステーキ店『リベラ』にいたんですけど、JBLがビール片手に酔っ払いながらガールフレンドと入ってきたんでビックリしましたよ。

派乱暴　すごいなぁ（笑）。証券アナリストのキャラに変わっても、相変わらずAPA時代みたいにビールは飲みまくってるんですね（笑）。

叙似位　でも、さすがにビシッとスーツを着てましたよ。しかも、タクシーの料金を1万円多く払っちゃったみたいで、運転手が慌てて店の中に入ってきて、お金を返してましたから。

何時男　私生活でも成金ぶり全開だなぁ（笑）。

【7月某日、都内某所にて収録】

またもや興奮と熱狂を日本へ届けてくれたWWE『SMACKDOWN!』チーム。今年は新顔&新キャラも多く、果たして盛り上がるのかと少々不安はあったものの、フタを開けてみると大成功だった。初日は11532人、2日目は14682人という観客動員もさることながら会場の熱気は近年まれに見る凄まじさだった。そんなわけで今回も舞台裏のネタバレ情報までお届けします！　ネタバレ情報を知りたくない方はREST IN PEACE（白目）。

■F.B.I.とは「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。何時男（なんじお）はプロレス業界の末端に潜伏中、叙似位（じょにー）は桁外れのパワーで圧倒的な情報量を誇り、派乱暴（ぱらんぼ）は裏方さんとしてWWEに携わる、WWEとアメリカンプロレスを愛してやまないズッコケ3人組だ。

WWEファンクラブの会員限定サイン会は超満員の大盛況！

7月16日、17日、おなじみのWWE FCが武道館近くの九段会館でファンイベントを開催した。初日はフナキ、シナ、スパイク・ダッドリーが参加。仲良しのフナキとシナのトークで盛り上がった。2日目はトーリー、エディ・ゲレロ、フナキが参加。トーリーがファンとの触れ合いに感激して大粒の涙を流す場面も！

【WWEファンクラブ　ホームページ】
http://www.wwefanclub.ne.jp
【お問い合わせ】
WWEファンクラブ事務局
03-5738-5722



いつも一緒に行動しているシナとフナキ。シナは「コーヒー牛乳」好きであることを激白！



さすが元・王者の貫禄！ めったに見られない貴重な3ショットにファンも大満足！

『紙プロ』特派員ナンシーが掴んだアメプロの噂の噂

噂FILE

【セックス・ビデオ出してもいいでしょ?】
先日ラジオ出演をした元チャイナことジョアニー・ローラーが驚きの発言! なんと、破局したX-Pacとのセックス・ビデオ発売を企てているという! 元カレのX-PacはWWE復帰を表明したばかり。復帰の支援はあのトリプルHも一枚絡んでいるという。WWE復帰が現実のものとなれば、ビデオの発売は“元カレ連合”に阻止される。果たして、その結末は? ちなみに気になるその赤裸々な情事の“クオリティー”だが、ステッピング・アウト・マガジン誌の代表によれば「エークセレンッ!」な出来だとか。皆さんは見たい?

【俺はロン毛が好きなんだ!】
復帰以来、大プッシュを受けているエッジだが、WWEマネージメント部からイメチェンを求められている。その第一弾が髪の毛を切るように言われたとか。しかしエッジはこの要求に逆らいっぱなし。テストやクリスチャンも髪の毛を切ってイメチェンし、ロン毛は時代遅れだという雰囲気がWWE内に漂っているという。その一方で、エッジは女の子相手に、「もし髪を切ったら、俺の魅力が失われるぜ」なんてジョークを飛ばしている模様。そんなエッジの自伝『Adam Copeland onEdge』が11月2日に発売される予定。

【ショーン・オヘアがK-1出場!?】
ショーン・オヘアが総合格闘家に転向し、K-1MMAに出場する噂あり。長身から繰り出されるスワントーンボムは説得力バツグンな彼。プロレス復帰を願うファンの声は未だ届かず迷走中…。

【あれ？　ゲイル・キムが居ないぞ!】
アジア系ディーバのゲイル・キム。なんと、豊胸手術で注入した胸のシリコンパックが漏れ、再手術のためしばらくリングを離れることになった。セイブルがやっと復帰した矢先に……。

【東京ドームでPPV実現なるか?】
日本公演が大成功に終わったWWEだが、東京ドームでのPPVイベント開催に色気を見せている様子。日本での会場ブッキングを任されているディーン・マレンコが、ここ最近何度もマスコミにこの話題を触れているが、東京ドームってどうなのよ?いまさらじゃない?

【ハートー家の家が売却?】
レスリング界を代表するカナダの名門の家が売却されることになった。なんとこの家は、文化遺産に指定されているため壊すことが出来ず、地元のレストラン経営者が購入し、8月末に入居するという。キース・ハートは「家を手放すのは辛いとしながらも、家を守るにふさわしいのはブレット・ハートだけなのでこの出来事は仕方がない」と話す。“ステュ・ハート・アマチュア・スポーツ・ファンデーション”の後援で、ハートー族の友人やファンに向け、イベントが開催される予定もあるという。

【やったぜレスナー!　NFL入団決定!】
ついにブロック・レスナーが、念願のミネソタ・バイキングスへの入団が決定! 現地時間7月27日に行われたトライアウトで、ディフェンス のポジションを任されることになった。NFL04はまもなく開幕。開幕戦に登場なるか?

世界一のプロレス団体『WWE』のSMACKDOWN No.1アナウンサー

FUNAKI

世界一の格闘技団体『PRIDE』のレフェリー兼ルールディレクター

島田裕二



俺たち同・窓・生対談

世界一のプロレス団体WWEで活躍するフナキと世界一の格闘技団体PRIDEでレフェリー兼ルール・ディレクターとして活躍する島田裕二。日米の最前線で活躍するこの二人、じつは藤原組・バトラーツの同窓生である。WWE日本武道館大会で大歓声を浴びたフナキとPRIDEで大ブーイングを浴びる島田レフェリーでは、丸っきり対照的な道を進んでいるが、その根っこの部分は一緒だったのだ。そんなわけで前後編でたっぷりお届けします!

―お2人はよく会ってらっしゃるんですか?

島田 WWEのツアーでフナキが来る時は、だいたい会ってるよ。運転手がわりですよ。俺の車はカーナビついてるし(自慢げに)。

―最近のファンには馴染みが薄いかもしれませんが、フナキさんも島田さんも、プロレス界で最初に足を踏み入れたのは藤原組なんですよね。

フナキ そうそう。でも、当時はよく島田さんにはいじめられたなぁ。俺のあだ名、チンチクリンだっけ?

島田 「早く辞めちまえ!! このチンチクリン!!」とか言って。

フナキ 俺が藤原組に入った当時は、藤原(喜明)さん、石川(雄規)さん、島田さん、それと川崎(浩市)さん……。

―あ、ブッカーKも当時は藤原組だったんですね。

フナキ そこに俺がポンッと入って、5人でスパーリングとかやってたよね?

島田 当時の道場では俺と川崎さんの夢の対決も実現してたんだよ。

フナキ 藤原さんも「川崎ぃ〜、営業は力だぁ!!」とか言って(笑)。

―なんでフロントがスパーリングやってんですか?(笑)。

島田 船木(誠勝)さんたちが抜けた直後で営業の仕事もレフェリーの仕事もないから、スパーリングぐらいしかやることがなかったんだよ。

フナキ ほ〜んと、スパーリングばっかりやってたなぁ。馬鹿みたいにヒンズースクワット1000回だけの日もあったし。そんな中で「チンチクリン!」っていじめられて。

島田 いじめてないよ! 辞めさせようと思っただけだから。背が低かったから「辞めさせた方がいい」って藤原さんが言うわけだよ。しかも入門当時のフナキは「サンボやってた」とかビッグマウスだったからね。「平(直行)さんとか後川さんとやってた」とか言って。

フナキ 何言ってんの? サンボは本当にやってたよ、新宿スポーツ会館で。

―アニマル浜口ジムと並行してやってたんですか?

フナキ そう。それで藤原組に入ったばかりの頃、サンボの大会に出てね……。

島田 試合開始の笛が「ピッ!!」って鳴った瞬間に、いきなり掌底を食らわして反則負けになってんの(笑)。

―なぜだ!? (笑)。

フナキ ……出ちゃったんだよねぇ。当時、掌底の練習をしてたから。

―フナキさんのプロとして出発したばかりの頃は、格闘技志向だったんですね。最近、WWEを観るようになってフナキさんを知った方には意外かもしれませんけど。

フナキ 俺、最初に新日本に入門した時はヒザを怪我して夜逃げしてるんだよね。でも、プロレスはやりたいなぁと思ってて。ちょうど、その時に藤原組が離脱とかで人がいなかったからチャンスだったんだよね。

島田 UWFの流れを汲む藤原組だから、練習も格闘技ベースだったんだよ。

フナキ その頃は、まだ頭の中にはアメリカ行きってのは……なかったなぁ。やっぱりTAKA(みちのく)との出会いが大きいなぁ。

―みちのくプロレスで結成したタッグ「夢狩人」ですね。

フナキ ホントは、最初は(田中)稔(現ヒート)とTAKAを組ませるはずだったんでしょ?

島田 そうそう。当時の稔は、み



バトラーツからみちのくに円満移籍したフナキはTAKAとのタッグ、海援隊☆DXで大暴れ。KAIENTAIとしてWWEに乗り込んだ。

ちのくのスタイルが嫌いだったから。
フナキ　俺の方がTAKAとウマが合っちゃって（笑）。プロレス観が変わったキッカケは、新日本に出たのも大きかったなぁ。
島田　フナキが石川さんとタッグを組んで新日本の「スーパージュニア」に出た時、ボコボコにやられて怪我したんだよね。
フナキ　控室に入る前にバタッと倒れちゃって。あの時はひどかったなぁ。開幕戦で、いまの上司にあたるディーン・マレンコ（現・WWEエージェント）と石沢（常光）さんにムチャクチャやられて。その翌日は、いま同じ会社のクリス・ベノワ&大谷晋二郎が相手で、その試合後に倒れちゃったんです。まだデビューして1年も経ってない頃ですよ。
島田　藤原組から自信もって送り出してたから、怪我したって聞いたときにはムカついたね。藤原さんも「俺の顔を汚しやがって」「受身の練習をしねえからだ!!」って怒ってたし。「プロレスラーたるもの怪我をしちゃいけない」っていうのが藤原イズムだからね。
フナキ　1週間は何も食えなかったし、飲めなかったから。全部戻しちゃって。よく死ななかったと思いますよ。あとから医者に「豆腐を箱に入れてシェイクしたら崩れるでしょ？　脳があんな状態だった」って説明されて、「ひでえなぁ」って思ったよ。でも、あそこから逆に受身を一生懸命練習するようになったね。
島田　ずっと練習してたもんね。

フナキ　でも、あの頃の新日本が一番凄かったでしょ？　エディ（・ゲレロ）はいるし、クリス・ベノワはいるし、ディーンもいる、たまにフィット・フィンレーも来てたからね。
——WWEのトップ選手とエージェントが勢ぞろいしてた頃ですね。
島田　（自信たっぷりに）でもね、フナキを世に送り出したのは俺だという自負があるから。
——そうなんですか？


WWE日本ツアーでは大歓声で迎えられたフナキだが、じつは武道館で試合をするのは初めて。WWEでも確固たるポジションを築いている。

島田　藤原さんはフナキをデビューさせたくなかったんだよね。同時期に入門した池田大輔は3ヶ月でデビューしたけど、フナキは1年かかってるから。
フナキ　なんで俺がデビューできたかというと、後楽園大会のチケットを140枚売ったからなんだよね（笑）。
島田　ちょうど裏でUインターのベイダー対髙田延彦があったんだよ。チケットは苦戦してたんだけど、フナキが140枚も売ってくるから「フナキはチケットをよく売るんですよ」って言ったら、藤原さんも「よし、じゃあデビューさせるか」って（笑）。
フナキ　島田さんにはケチョンケチョンに言われてたけど、なんだかんだで考え方や展望が似てるんですよ。昔から話も合ったし。もう最初に知り合って10年になるけど、いまでも付き合いがあるからね。
——島田さん、当時の藤原組やバトラーツの選手で今でも付き合いがある選手って？
島田　それはケーフェイだなぁ（笑）。まあ、いまでも（モハメド・）ヨネからはたまにメールが来るよ。日高（郁人）とは会場でしょっちゅう会うし。どうせバトラーツを潰したと言われる嫌われモンですよ!!
フナキ　いまだにメシ食ったりしてるのは俺ぐらいじゃないの？
島田　そうなんだよ……。でも、藤原組がだんだん規模を縮小していく頃も面白かったよね。結婚式の服の配達したり、マグロを売るって企画もあったし。
フナキ　ああ、あったねぇ（笑）。
——そんな仕事までやってたんですか？（笑）。
島田　フナキは生真面目で字が上手いからオフィス・ワークを手伝ってもらってたし。
フナキ　島田さんに仕事を教えてもらいましたよ。FAXを送るときには送付状をつけるとか（笑）。

島田　藤原さんの付き人もやってたよね？　歴代のいろんなヤツらが付き人をやったけど、フナキは気が利くんだけど生真面目過ぎるから藤原さんが怒っちゃったんだよ。いいエピソードがあって、藤原さんが仕事でTV局に行くことになってたんだけど、フナキはその前の晩に「いまからTV局までの道を下見してきます」って言い出して（笑）。「いいよ、そんなの」って止めたんだけど、「藤原さんに何かあったら困りますから」って言って、ホントに車に乗って下見に行くんだよ。
フナキ　でも、当日になったら道が混んでて、下見した時より時間がかかっちゃって結局、遅刻しちゃったんだよね（笑）。
島田　それで藤原さんに怒られてたもんなぁ（笑）。その点、フナキの後に付き人をやったツボ（原人）なんかは、もともと佐川急便のドライバーだったから抜け道とか知ってて要領が良くて対照的だったよ。
フナキ　どこの家庭でも長男はよく怒られるけど、それを見てる次男は上手くやるじゃん。それと同じだよ。
島田　あの頃は藤原さんの犬の散歩とかもよくやったよね？
フナキ　ピットブルね。
島田　奥さんだけだと大変だから、藤原組の若手が犬の散歩しておこづかいをもらってたんだよ。いま思えば、それが藤原組の若手の貴重な収入源だったね。
フナキ　散歩の後にごはんを食べさせてもらったり。

島田　でもさ、あそこで俺がテラ切らないところが偉いだろ？
フナキ　……テラって単語を何年かぶりに聞いたよ（笑）。
島田　じつはフナキが世界的なスターになる前、藤原組時代から俺もいろいろ世界戦略は仕掛けてはいたんだけどね。
フナキ　え〜っ、そうだっけ？
島田　ツボ原人を連れてECWのリングに上がってるからね。ポール・E（ヘイマン）に交渉して。タズがいろいろ良くしてくれたんだけど、「どんなギミックをやるんだ？」って話になった時に「原人だ」って言ったら怒り出しちゃってね。「俺とキャラが被る！」って（笑）。
——そうか、当時のタズは原人キャラだったんですね。
島田　でも、タズが偉いのは、ツボが試合に勝った後に乱入してきてスープレックスで投げて「次のPPVで闘え!!」ってマイクで言ってるんだよ。
フナキ　へぇ〜。俺、ECWって上がったことないんだよね。みちのくの頃も、TAKAとかサスケがECWに上がった時、俺は行かなかったし。不思議と縁がなかったんだよね。ECWには。

【7月16日の大会後、目黒区『ROYAL HOST』にて収録】

■今回はここまで！　藤原組時代の思い出話（バカ話）に花が咲いたが、次回はWWEでのエピソードを中心に日本一のベビーフェイスと日本一のヒールの対談は続きます！

※テラを切る＝ピンハネするの意

ROB VAN DAM

人気者・RVDに夜の六本木で突撃取材を敢行！ 嫌な顔ひとつせず取材に応じてくれたRVDは本物のプロフェッショナルでした。

——くつろいでるところにスミマセン！ 武道館はいかがでした？

RVD あんな素晴らしいアリーナは他にないよ。お気に入りのアリーナさ。僕自身は1993年からジャイアント・ババの全日本プロレスにたびたび来ていたから、ツアーの最終戦でよく武道館で試合したのを覚えているよ。

——日本のファンも、RVDのハイレベルなプロレスに熱狂してましたよ。

RVD 日本のファンは世界のどのファンよりレスラーをリスペクトしてくれて、熱狂的に迎えてくれる。アメリカン・スタイルなレスリングショーをファンも分かってくれてて、全日本の頃とは違ったアメリカン・スタイルの声援を送ってくれる。これはアメリカでは経験できないことさ。柔道やシュート・ファイティングを見るときとはまったく異なる声援を送ってくれてたんじゃないのかな？

——日本にもハードコアな試合をやる選手はたくさんいるんですが、RVDのスタイルを真似出来る選手はいません。

RVD ハハハハ。プロレスを始めたのは今から15年も前になるんだけど、僕は常にファンが見たことないような技ばかり使ってきた。たとえば若い選手が僕の技を真似しようとしても、トータルなパッケージでコピーは出来なかった。だって僕のスタイルは長年のマーシャル・アーツで培った技と、ジムでの鍛錬によるものだからね。それに全日本のようなハイ・クオリティな団体で試合をして学んだことも多いよ。試合の中でいかに自然に技を出していくかってことを学んだ。だから日本でレスリングするのは大好きさ。あと、ひとついいかい？

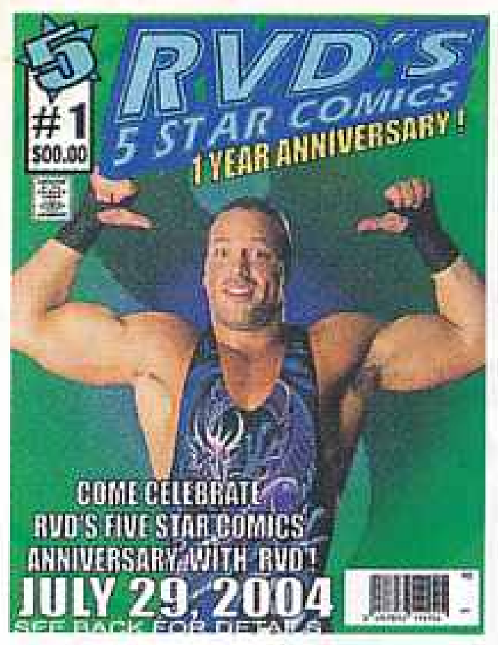
——どうぞ！

RVD 僕のコミックストア「5スター・コミックス」がLAにあるんだけど、是非日本のファンにも来てほしいんだ。

——ちょうど来年はレッスルマニアがLAであるから、日本から大勢ファンが行くはずですよ。

RVD OK！ 楽しみに待ってるよ。

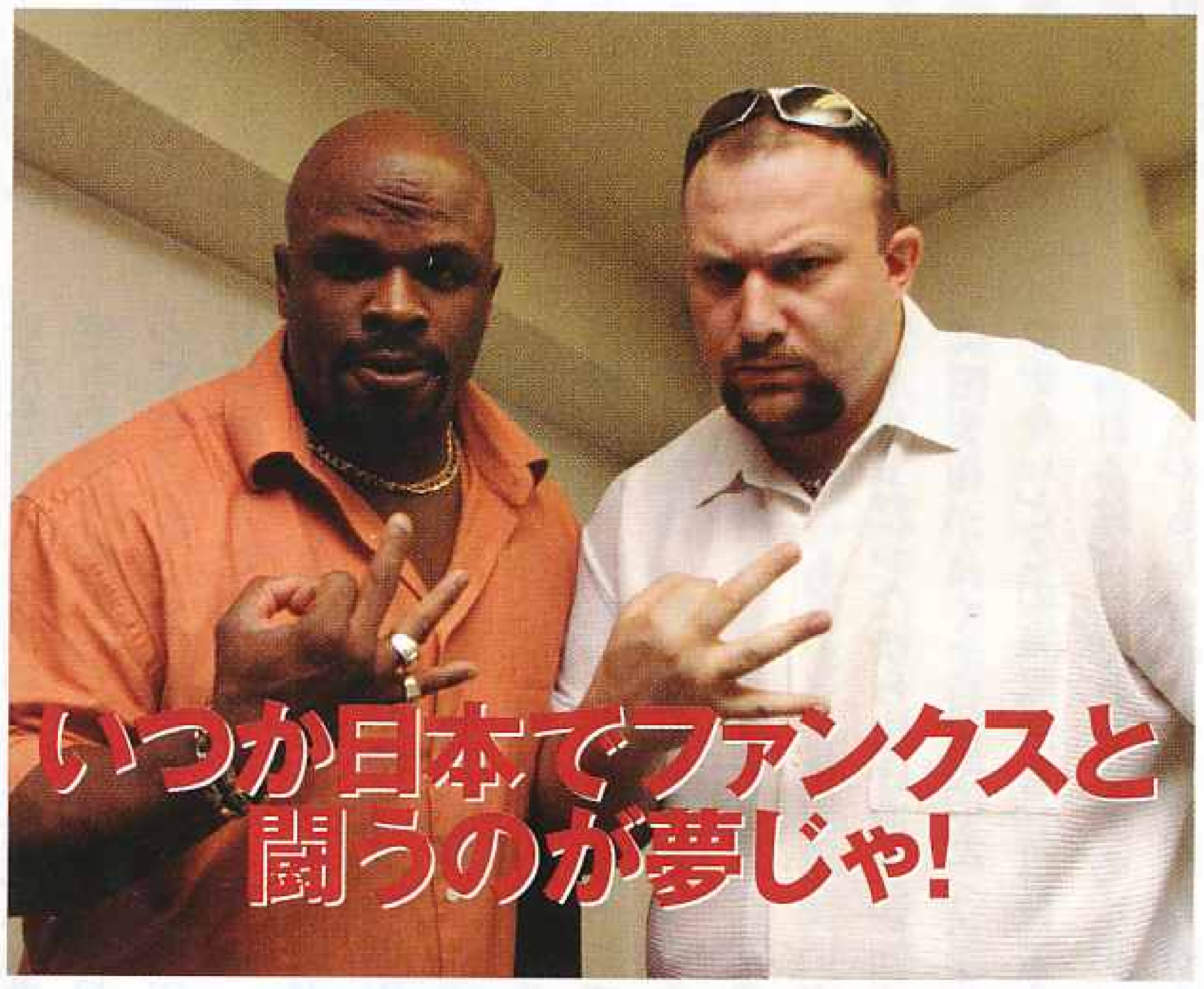
【7月17日の大会後、六本木某店にて収録】



RVDがLAで経営しているコミックストア「RVD'S 5 STAR COMICS」にぜひ足を運んでみよう！ 来年の『レッスルマニア21』はロスで開催なので絶好のチャンスだ。
http://www.5starcomics.com



SUPER STARS SPECIAL INTERVIEW



THE DUDLEY BOYZ

「GET THE TABLE!」で日本でも大人気のハードコア兄弟タッグ、ダッドリー・ボーイズが紙プロ初登場！ 試合前の慌しい時間を割いてもらい、タッグとしての夢を語ってもらった。

——今日はお会い出来て光栄です。2月の『RAW』以来、約半年振りの日本ですよね。

ババ・レイ ワシらも日本に来れて嬉しいよ。冬には何度か来てるんだけど、日本の夏は暑いのぉ。

ディーボン こんなに暑いとは思わなかったぞ。

——会場の中もクソ暑いんで、それ以上に熱い試合を期待してます。お二人は日本に初めて来た時のことは覚えてますか？

ババ・レイ ハッキリ覚えとる！ ECWとIWAとFMWの合同興行で、日本のコウラクエン・ホールでターザン後藤と闘ったんじゃ。

——当時のECWスタイルは強烈なインパクトで日本にも大きな影響を与えています。

ババ・レイ いま主流になっとるハードコアのルーツは1996年頃のECWじゃ。

ディーボン その頃のテリー・ファンクとカクタス・ジャックの試合が俺たちに大きな影響を与えてくれたんじゃ。彼ら以上の試合をしようと思って頑張ってきたから今があるんじゃ。

ババ・レイ そんなワシらのハードコア・スピリットが日本にも伝わっているのは嬉しく思うぞ。

——しかし、お二人はずいぶん長いことタッグ組んでますよね。

ディーボン アメリカでもここまでキャリアが長いタッグはおらんよ。

——先日、ジ・アウトサイダーズのお二人にうかがったんですが、タッグで成功する秘訣は「私生活でも仲が良いヤツと組むことだ」と言ってました。

ババ・レイ その通りじゃ。ワシらはとっても、とっても、とっても仲がいいフレンズだ。10年組んでるが、ケンカしたのはたったの1回じゃ。

ディーボン ロード・ウォリアーズも仲が良かったろうが。そういう関係は絶対、試合に影響するんじゃ。ワシらの夢は、いつか日本でドリー&テリーと対戦することだからな。

——ファンクスと！ それは見たいです！

ババ・レイ もちろん、彼らのことは本当にリスペクトしとる。

ディーボン バックステージで学んだことは本当に多い。日本で対戦出来たら光栄じゃ。

【7月16日の大会開始前、日本武道館の控室にて収録】



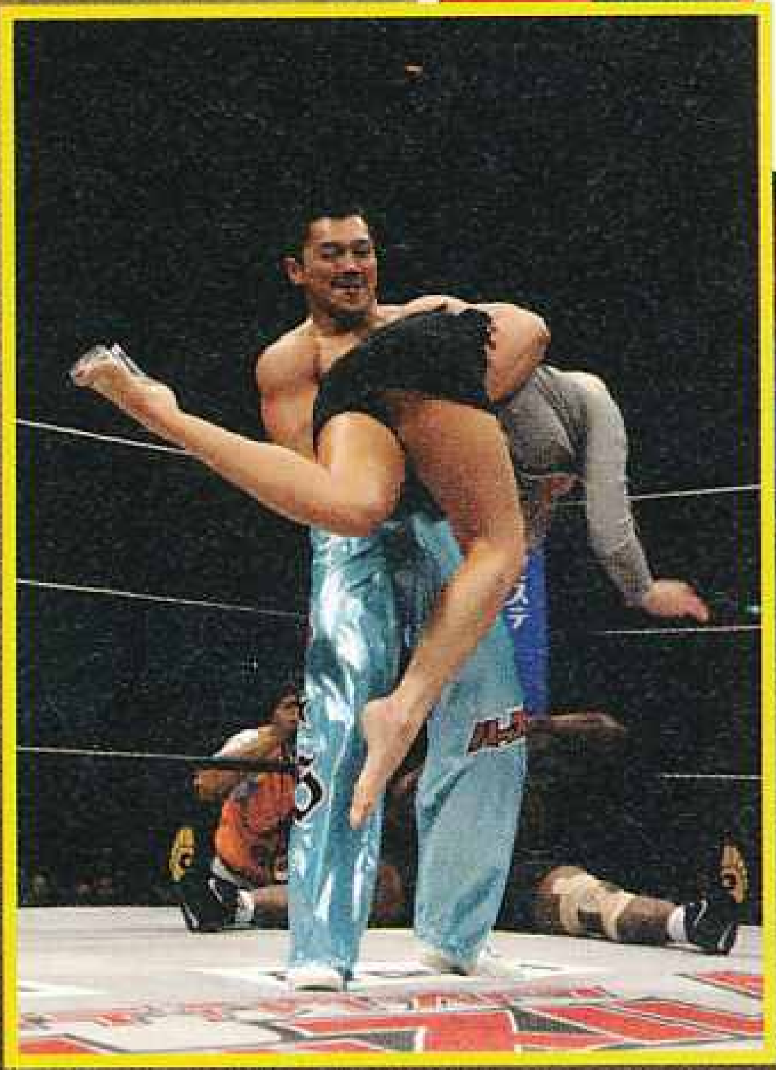
得体のしれない ハッスル・パワー

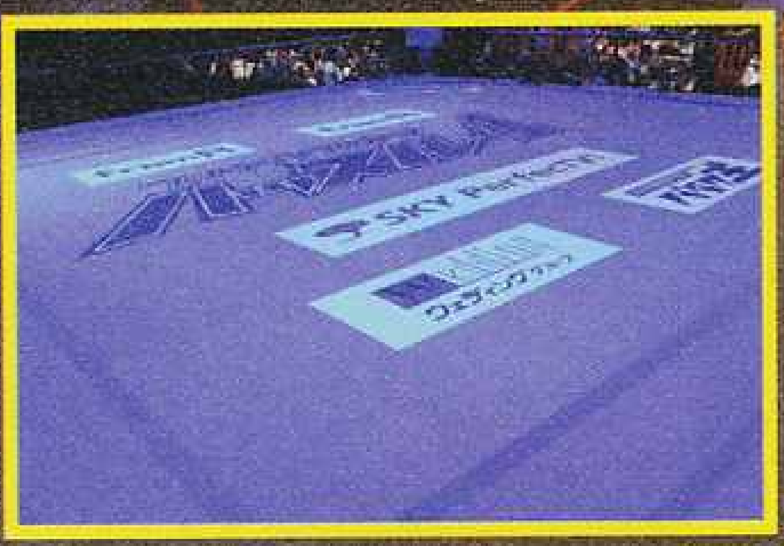
構成／ジャン斉藤
撮影／平工幸雄、DSE
designed by matsu (Two Three)



7・25『ハッスル4』に
ビビってたじろいだ!!

『ハッスル』とは
プロレスを抑圧から
解放する場なり!!

















リアルな言葉を聞け!

ハッスル劇場

マンガの世界に浸ってるだけじゃない!
ほつれ合う人間関係、ぶつかり合う感情!!

「髙田ぁ。なにマンガの世界に浸ってんだ、おまえ」

これは、いまからご紹介するハッスル劇場で、フィギュア化を絶賛希望されている髙田総統に対して長州が言い放った言葉だ。たしかに過剰で幻想的なその世界観を言いあらわすならば、“マンガの世界”にも当てはまる要素はあった『ハッスル4』だが、それがとにかく面白かった!

なにしろあの川田利明がブルース・リー風のコスチュームで大ハッスル! そのうえ横井に「ハッスルが足りない!」と説教までするハッスル振りだ。ハッスル・キングこと橋本真也は予告通り、沢田研二級のド派手な衣装でこちらも大炎上! もう“勝手にしやがれ”って!!

今大会からサブタイトルに付けられた「ファイティング・オペラ」を「オペラ」という言葉を軸にして強引に解釈すると、「闘いを中心とする舞台劇。扮装したレスラーの肉体&思想闘争を、豪華で幻想的な舞台装置で構成される」世界になるが、橋本&川田はビビってたじろぐゴージャスな扮装で、先駆けて“変身”している小川を含めて、ファンにハッスル・ワールドを堪能させることに成功したわけだ。

「マンガの世界」を否定するかのような発言をした長州にしても、その一見してコミカルで明るく軽いハッスル・テイストの中に、実録ヤ●ザ劇画の凄みあるキャラクターが紛れ込んだそのギャップが好評を得て、大「長州!」コールを巻き起こしているところもある。プロレスは、本来ならば人間力を試される舞台であるが、ほつれあう人間関係、ぶつかり合う感情――『ハッスル』はそれをさらに激しく際立たせている。そこには



いつにもまして“暴走”気味だったハイパーキャラクター、我らが髙田総統。長州を散々に挑発するくだりは、キャプテン・ハッスルやハッスル・キング、ハッスルKをこきおろすそれとは一味違い、ヒリリとする緊張感が会場を支配した。観客もノリではないブーイングを総統に浴びせたのだ。



リアルな感情がほとばしる言葉が確実に放たれているのだ。

さぁ、その人間力が見事に凝縮されたハッスル劇場をさっさと読んだらどうだ？（総統風）。グルグルグルグル……ビターンッッッッ!!!!!!!!

★

2vs2のイーブンで迎えた『髙田モンスター軍』vsハッスル軍の全面対抗戦。その最終試合に、ハードコアに出場するはずだった長州力が〝大物X〟としてハッスル軍に加入し、因縁深い小川直也と電撃合体をはたした！　ギョロ目&黒パン組は、対するボビッシュ&アン・ジョー司令長官を破り、対抗戦はハッスル軍の勝利に終わったが、その試合終了後にモンスター軍団が乱入!!　ギョロ目&黒パンをさんざんに痛ぶっていると、その危機から救うべくキング橋本、ブルース川田らが参上！　一気にモンスター軍を蹴散らしリングに平穏をもたらしたが、どこからともなく、あの怪声が会場をこだました！

高田総統（以下総統）　チキン&ポーク、引きこもり！　**それに黒パンツのロートル（＝長州力）！**

【のっけから失礼すぎる呼び掛けに観客爆笑！】

総統　君たちには品がないんだ。下品な騒ぎはやめなさい……。

【総統の高貴なテーマ曲『威風堂々』が流れ、美人秘書のウテ・ワーナとともに高田総統が、リングから遠く離れたハッスル・ステージに姿を現した！　観客は総統に声援が送るが……】

総統　（歓声を送る観客に向かって）おい、そこの者。**「総統！」コールはやめろ!!**

【声援を断固拒否！「もっとブーイングをくれたまえ！」に続く名言が誕生した！】

総統　（リングのハッスル軍に向かって）ハッスル軍諸君、**そして夏休みにも関わらず、ここに集まってくれた暇で暇で仕方がない下々の諸君……。**

【観客ブーイング&笑い】

総統　我こそが髙田モンスター軍総統、すべての者から崇拝されている、髙田だぁ！（ものすごく偉そうに）。

【観客ブーイング&拍手】

総統　なかなかいまの試合も盛り上がったし、良い雰囲気じゃないか。君たちもやればできる。バカじゃないんだな。（リング上を覗き込みながら）おい、そこのチキン、そしてポーク、引きこもり！

【ブルース川田は鋭い眼光を総統に投げかける】

総統　**君たちのその格好は、何なんだ？　わからん。今日はコスプレのパーティーかい？**

【観客大爆笑！】

小川（キャプテン・ハッスル以下キャプテン）　おい、髙田ァ。度胸があるんだったらコッチに来いよ、コノヤロー！

総統　うるさい、黙れ！　背ェ高ノッポのギョロ目が（子供を叱るように）!!

【とにかく偉そうな総統の態度に観客爆笑！】

総統　最近、**君は幅広く活躍しているらしいじゃないか。君の活躍をフジテレビの『ごきげんよう』で拝見し**



モンスター軍の理不尽でえげつない要求に対して、モロ本音な叫びであげながらも大ハッスルしているモーレツ軍師の中村カントク。この格好でセコンドに付く姿はとにかく必見なんだよ!



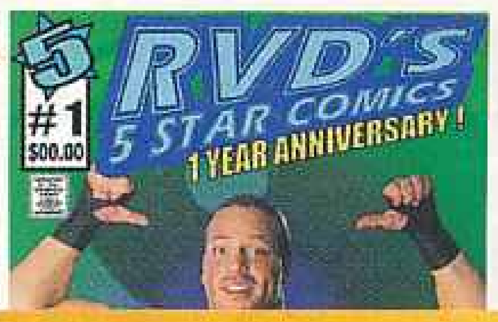
『ハッスル』のためなら漫才師風ジャケットを着せられることも苦にならない笹原GM。その命懸けの決意はホンモノだ。そして『モンスター娘。』のセクシー接待で見せた恍惚の表情もホンモノなのだ。



髙田総統からの度重なる制裁を受けて、その見事なやられ振りが観客の溜飲を下げるヤドカリ島田。その見苦しい人間性がまるわかりな言葉を含めて、十分に楽しめるキャラに変化しつつあるが、理解を示すのはやめよう。



「やりたかないけど……」「こんな格好までさせられて……」とボヤキながらも、じつはノリノリでハッスルしているじゃないか!　自ら「ハッスルK」、“俺だけのハッスル”宣言をブチあげた。総統や小川のハッスル振りをみて、『ハッスル』ではこうでもしないと輝けないことに気付いたのか?　プロレスラーとは嫉妬の塊のような存在でもある。



ROB VAN DAM

たよ（ニヤリ）。

【仰天！　総統は『めざましテレビ』だけではなく、『ごきげんよう』ウオッチャーでもあった！　それにしても、総統は小川の出演番組を欠かさず観ている。それにはなにか動機でもあるのだろうか……？】

総統　たしか司会は小堺一機くんだったな。君との絡み、まったく噛み合ってなかった。あれをな、滑りっぱなしだと言うんだ。**君のプロレスと同じだ！**

【容赦ない言葉の鉄槌に観客大爆笑！】

キャプテン　うるせぇボケ、コノヤロー！

総統　相も変わらず威勢がいいじゃないか、チキンくん。元気だけが取り柄の君だ。その元気を『PRIDE・GP』……いや違う。次の査定試合で存分に見せてくれたまえ。

【小川にまばらな拍手＆声援が送られるが……】

総統　**中途半端な応援をするな**（観客に向かって）!!

【応援するなら腹の底から声を出し、拍手するなら思い切り手を叩こうよ！　ということ。総統は傲慢に見えてまことに筋が通ってらっしゃる】

総統　おい、そしてポーク！　〝飛べないブタ〟とは君のことだ。ワーハッハッハッハ！（ひとり高笑い）。

【キングは苦虫を噛み潰したような表情で総統を見る】

総統　おい橋本くん、ポークと言えば〝トン〟とご無沙汰だったな……クク。**私としたことがまたダジャレを言ってしまったよ！（ニヤリ）。**

【観客失笑！　ハッスル軍は呆れ気味】

総統　チキンくんにひとつ聞きたいことがある。じつはな、そこにいる破壊されっぱなしの自称・破壊王、ポンコツポークくんは、ハッスル軍にいらないんじゃないか？

キャプテン　うるせぇんだよ。いま頑張ってんだよ。ハッスルしてんだよ！

総統　（まったく無視して）**なに？　モンスター軍に引き取ってくれってか？　断る（自分で振っておきながら）！**

【観客大爆笑！】

キャプテン　（ギョロ目をヒンむきながら）ふ、ふざけんじゃねえぞ、コノヤロー！

総統　どうしても君がお願いするんであれば、ここにいる私の部下の島田参謀長の靴磨きでもさせてあげようか？

キャプテン　死んでもやんねえんだよコノヤロー！

総統　（やっぱり）断る!!

【観客大爆笑】

総統　粗大ゴミが増えるだけだ。おい、引きこもりの川田くん。君だ、君に用があるんだ。聞きたまえ。君とはたしか『ハッスル・ハウス』でお会いしたね。相も変わらず、あの骨董品の三冠ベルトを毎日毎日、その仏頂面で磨いてるらしいじゃないか。

【観客から川田に「何か言い返してくれ！」とばかりに声援が飛ぶ！】

川田（以下王道）　（声援に応えるようにマイクを握り）髙田ァ！　……じゃなかった、総統。

【観客爆笑＆拍手】

王道　話をさっきに戻すけどなあ、**おまえこそ自分よく見てみろ。コスプレじゃねえのか？**

【観客大拍手!!　PPVのカメラが総統の高貴な姿を靴から帽子までなめるようにとらえる】

総統　（まったく無視して）**君のそのジャージは、どこのメーカーだい？**

【さすがは総統！　絶妙な切り返しに観客爆笑！】

総統　ま、話を元に戻そう、聞いてくれ。そこにいるのは……ロートルの長州くんじゃないか？

【つ、ついに総統と長州が初接触！いい知れない緊張感が場内を漂う……なぁ～にが起きるんだコラ！　紙面飾ってコラー！】

総統　……初めまして、長州くん。我こそが髙田モンスター軍総統、髙田だ。

【大「長州！」コールが発生!!　ハッスル軍からひとり離れ、リングの後方でハッスル劇場の顛末を見守っていた長州はつかつか歩を進め、そしてマイクを握ったぞコラー！】

長州　**髙田ぁ。なに漫画の世界に浸ってんだ、おまえ。吸えない葉巻くわえて何やってんだ、おまえ。なあ？　葉巻吸う代わりにテメェのおしゃぶりでも吸ってろコラ、親指でもぉ。**

【貫禄たっぷりにマグマな言葉をぶつける長州に観客は大拍手！　長州はマイクを小川に渡して再び後方に下がる】

総統　私の話を最後まで聞きなさい、私の話を最後まで聞きなさい！　せっかくだから、ここで君に言っておきたいことがあるんだ。私は君がいけ好かない。**生理的に君は受け付けないんだよ。要するに、嫌いなんだ!!**

【素直すぎる告白に観客爆笑】

総統　まあ、悪く思わんでくれ。**思ってもらっても構わんがな。**私のこの頭の中には、一冊辞書がある。その辞書から長州君の大好きな「革命戦士」という言葉を引いてみたんだが、こんな答えが出たんだ。「過去の栄光にすがり、グズグズ過ごす」。どうだい、面白いだろう？

【観客からは大ブーイング】

総統　ブーイングありがとう！（ニヤリ）。ま、残り少ないプロレス人生だ。**縁側でお茶でも飲むようにリングに上がってりゃあいい。**さて最後に、ひとこと言わせてもらう。そこのコスプレトリオ！　そしてロートルの長州くん。君らは決して一枚岩じゃないんだよ。君らの結束力では、「新しいプロレス」なぞできるわけがないん



「ハッスルすればできるじゃねえかよ！」——ついにハッスルした破壊王に川田！　孤軍ハッスルしてきたを小川からすれば、これ以上に嬉しい出来事はない。



もちろん応援するぜ、ハッスル・キング!!　ドハデな衣装に続いて、観客を無理矢理立たせてハッスル・トルネードを強要するなど、あの元気いっぱいの破壊王が帰ってきた！　「もっとハッスルしちゃうよ」——してくれ、もっと！



だ。わかるだろう？　きょう偶然に勝ったことを酒の肴に……。

【ここで長州がリングを降りて控室に戻る。キレたのか!?】

総統　（かまわず続ける）まぁ、仲良しごっこでもやっていろ。わかるだろ？　最後にひとこと言わせてもらう。ここにいる下々に宣言しておく。我がモンスター軍は近いうちに**例の計画を実行し、然るべき物をいただく。**どうだ？　ビビッたか？　たじろいだか!?　それではご機嫌よう。バッドラック……!!

【マントを翻して、スモークの中に消えていく。再び『威風堂々』が会場に流れ出す】

キャプテン　おい、言うだけ言って帰ってんじゃねえぞコノヤロー！　戻って来いコノヤロー！　何だこの音楽、とめろとめろ早くコノヤロー！　気分悪ィー！　……（気を取り直して）みなさん、今日の対抗戦、何とかハッスル軍が勝つことができました。

【観客拍手】

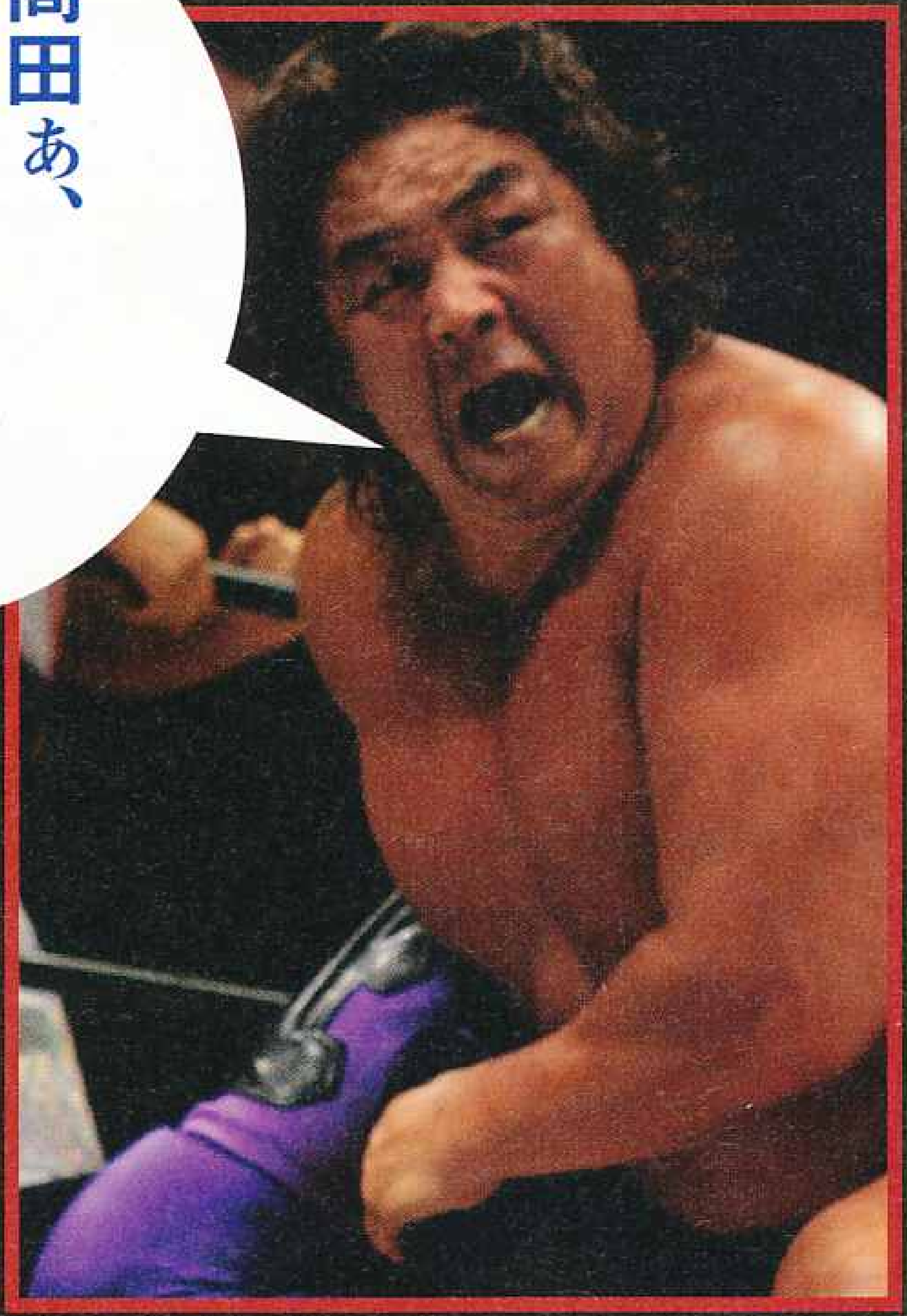
キャプテン　これもみなさんが一緒にハッスルしてくれたからだと思ってます。ありがとうございました！

【観客大拍手】

キャプテン　**それと、橋本！　川田！　ハッスルすればできるじゃねえかよ！**

橋本（ハッスル・キング以下キング）　**小川ぁ、舐めるなよ。**俺もハッスルしちゃったんだよ、おまえ。なあ、いいだろ、おい？　もっとハッスルしてやるゾ！（腰を振りながら）。

キャプテン　**トルネード、ありがとう（ガッチリ握手）。**



ついに髙田総統と接触！　魔界に足を踏み入れた長州は、その入場シーンからハッスル劇場の途中で控室に引き上げるまで、すべてのシーンが印象的なものばかり。『ハッスル』での期待感はパンパンに膨れあがっている。

【PTAから抗議が殺到しかねないトルネード・ハッスルを披露したキングに感謝の言葉を述べるキャプテン】

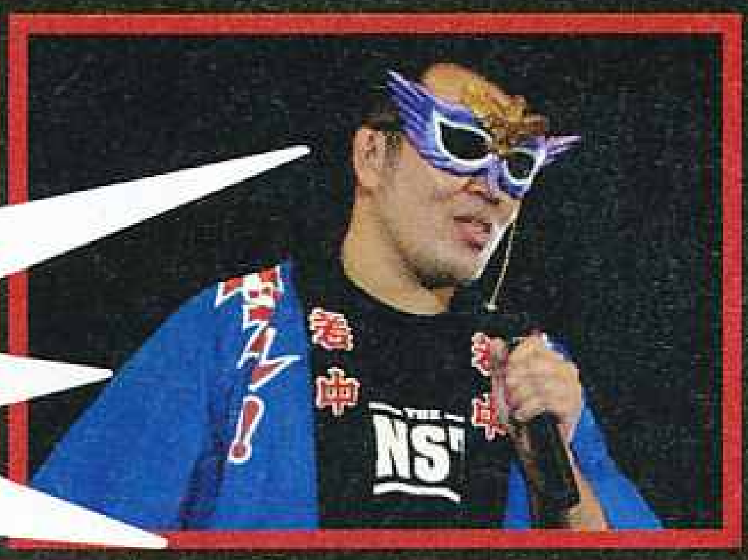
キング　それと髙田ぁ！　**長州さんの言った「漫画の世界」、俺、大好きだけど……。**

【観客声援＆爆笑】

キング　でも俺が落とし前つけます。過去のあのときのようにブッ叩いてやるぞオラァ！

【いいぞ、キング！　過去のあのときと同じくブッ叩け！……って、だから「髙田総統」と「髙田本部長」は別人だよ！　続いてトラックスーツに身を包んだ川田がマイクを握る】

王道　**……小川、『ハッスル』な、お前だけのもんだと思うなよ。これからはなあ、俺はなあ、〝俺だけのハッスル〟いかさしてもらうからな。**



インチキ日本語を駆使するその軽いノリは、すでに『ハッスル』の世界には欠かせなくなっているアン・ジョー司令長官。"Mr.200%" 安生洋二とソックリだが、総統によればまったく別人とのこと。

【王道がまさかの〝俺だけのハッスル〟宣言！　観客は大歓声で歓迎し、小川はギョロ目をヒンむいてたじろいだ！】

王道　それと、もうひとつ！　**このリングに関しては〝ハッスルK〟と呼んでくれ！**

【川田のハッスル振りはもう止まらない。今度は〝ハッスルK〟襲名宣言だよ！】

キャプテン　わかったよ。**「ハッスルK」って呼ぶよ。**みなさん、ハッスルKでいいですね？

【観客大拍手】

キャプテン　ハッスル・キングとハッスルKです。よろしくお願いします！　決して浮かれてるわけじゃないですけど、きょうは勝ったということで、最後にですね、お決まりのですね、（ハッスルポーズしながら）コレをですね、やってもよろしいですかね？

【観客大拍手！　そして「長州もやってくれ！」というファンの叫びをきっかけに、大「長州！」コールが発生！　ハッスル軍のモーレツ軍師・中村カントクが控室に迎えに行くが……】

キャプテン　えー、長州さんですけど、今日は無理そうなんで。かならず次回にハッスルしてもらえるように努力します！

【不満の声が挙がっても不思議ではない展開だが、ファンはすんなり納得してくれた。キャプテンにはキングやハッスルKをハッスルさせた実績がある。きっと安心感があるのだ】

キャプテン　ということで、みなさん、最後締めますんで、ご起立お願いします！　えー、今日もですね、3人揃い踏みです。

【キャプテンの両脇をハッスル・キング、ハッスルKが固める】

キャプテン　**あとひとり、次はここにいてくれるように努力します。**よろしくお願いします！

【観客拍手】

キャプテン　では、みなさん！　また明日から頑張っていきましょーーーっ！

観客　オーーーーッ！

キャプテン　スリー、ツー、ワン!!

ハッスル軍&観客　ハッスル、ハッスル!!!!!!

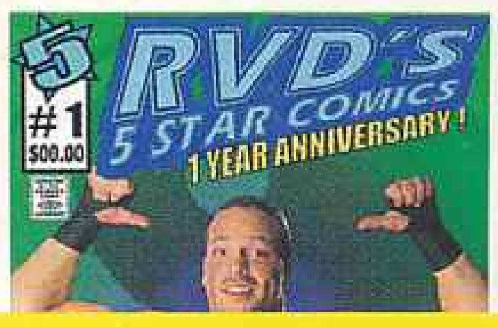
★

相も変わらず高貴な話術を披露した髙田総統にもたじろいだが、途中で引き上げたとはいえ、あきらかに毛嫌いしそうなハッスル劇場の中にしばらく身を置いた長州にもビビった！　その長州に小川は「ハッスル、ハッスル！」をさせることを前向きに約束した。想像してください。長州のゴーカイな腰使いを……も、猛烈に見たい！　ハッスル、ハッスル、タココラ何コラァ！

気になる今後の『ハッスル』スケジュールは、9月2日は『ハッスル・ハウス』後楽園ホール大会、9月20日『ハッスル5』横浜アリーナ大会、そして10月には21日に『ハッスル・ハウス』、23日には愛知で『ハッスル6』の開催が正式決定している。

長州の動向だけでなく、シリーズの流れ、そして髙田総統が企てる〝例の計画〟の行方を、ギョロ目をヒン剥いて注目しよう！　トルネ～ドォオ、ハッスルッ!!

BOB VAN DAM



人気者・RV
敢行！ 嫌な
たRVDは本

くつろい
道館はいかが
RVD あん
ないよ。お気
は1993年
日本プロレス
アーの最終戦
のを覚えてい
―日本のフ
ベルなプロレ
RVD 日本
アンよりレス
れて、熱狂的
カン・スタイ
ファンも分か
頃とは違った
声援を送って
では経験でき
ート・ファイ
まったく異な
んじゃないの
―日本にも
手はたくさん
タイルを真似
RVD ハハ
のは今から15
常にファンが
使ってきた。

総統がマンガに浸った！★「総統、ハッスル4を振り返る」の巻

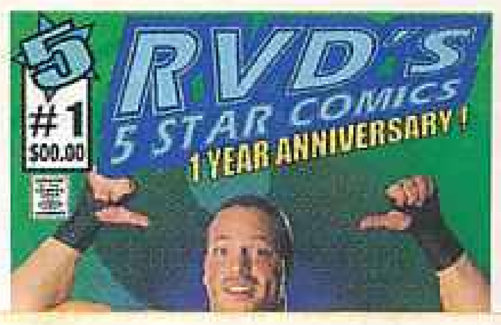
須田信太郎◎作





『ハッスル』パンフ「ハッスル物語」でおなじみ！ マンガに浸った総統を描けるのは須田先生だけ!!





ROB VAN DAM

"俺だけの王道" ～ドラゴンへの道～



サイコ・ザ・デス＆大巨人vs川田＆横井戦の直前に、川田の控室映像が流された。全日本プロレスの石狩太一が小荷物を持って登場。「川田さん、小川さんから預かってきました」。



川田「何か気味悪いな。開けてみろよ」石狩が小荷物を開けると、その中にはなんと黄色いのトラックスーツが! 「何だ、それ……?」唖然とする俺だけの王道。



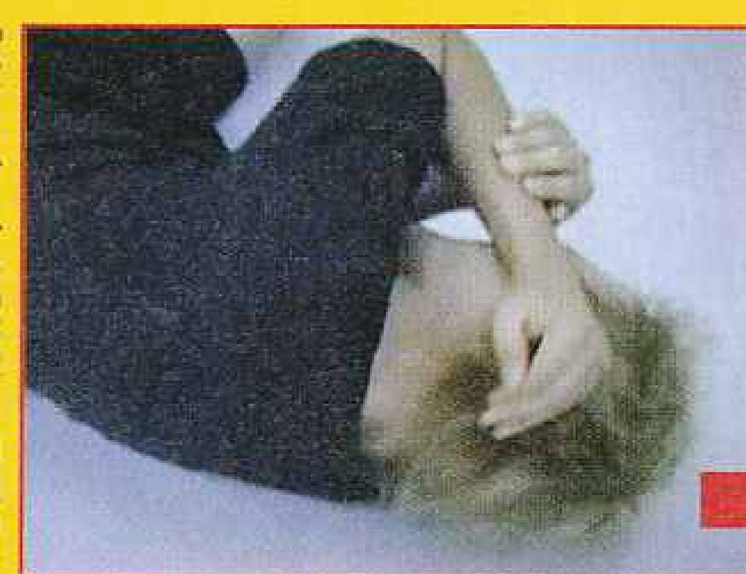
石狩「たぶん、これじゃないですかね?」壁に貼られた『ハッスル4』ポスターのトラックスーツを着た川田を指差す。小川は川田をもハッスルワールドに引きずりこむのか!?



硬い表情の川田を前にして「これでハッスルしろっていうことじゃないですか（薄笑い）」脳天気にハッスルポーズを披露する石狩……その瞬間!



川田は「バカこけ～～～～～ッ!!（怒）」と狂ったように絶叫するなり顔面蹴り!! 豪快に吹っ飛ぶ石狩に会場は大爆笑!!



『ハッスル2』の控室でも同様の仕打ち、『ハッスル3』ではミック・フォーリーの有刺鉄線バッドの餌食。試合の出番はないが、ボロボロに虐められる石狩の今後に注目!



のたうちまわる石狩を尻目に『ハッスル4』ポスターに描かれている自分のトラックスーツ姿を凝視する川田……。ま、まさか! 俺だけの王道がドラゴンへの道に!?

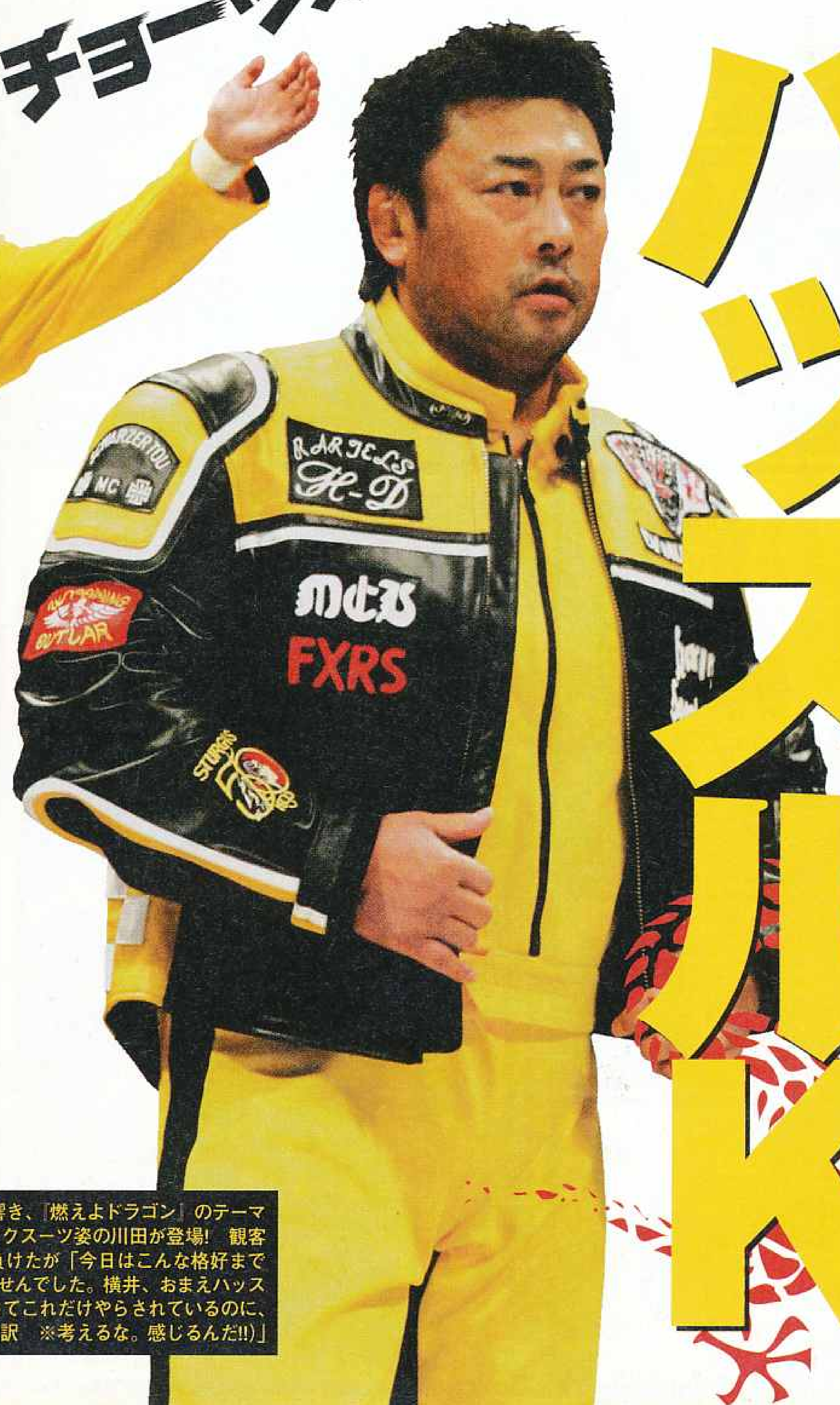
「こんな格好までさせられた」って、いちばんノリノリでやってるじゃないか! これがハッスルKだ!!



ヌンチャクを持て! いまこそオープン・フィンガーグローブをつけろ!!

『ハッスル・ハウス』に続いてハッスル度100%のハッスルK!! こうなったらハッスル死亡遊戯をスタート! 1階・MMAの達人コールマン、2階・人形の使い手サイコ・ザ・デス、3階・大巨人シルバ、4階・韓国合気道のカート・ハングルらが死守するモンスタータワーに乗り込むしかない!!

HUSTLE K



会場には怪鳥音が鳴り響き、『燃えよドラゴン』のテーマが流れる。そしてトラックスーツ姿の川田が登場! 観客は大歓声!! 試合には負けたが「今日はこんな格好までさせられたのに、すいませんでした。横井、おまえハッスルが足りないよ。俺だってこれだけやらされているのに、もっとはじけろよ（超意訳 ※考えるな。感じるんだ!!）



これが ハッスル☆キングや!!

テーマ曲はジュリーの「勝手にしやがれ」!!



キング・アフロ
敗者アフロマッチで負けてもないのになぜアフロにしたかって? キングには王冠、つまりド派手な被りモノが必要なんや! キングな俺にピッタリやろ?

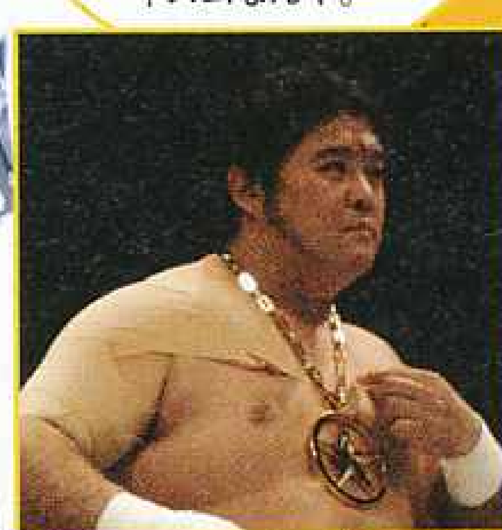
キング・マーク
額にはハッスル星マークがしっかり埋め込まれている。これを付けてると髙田のヤローの「ビターン!」は通じない。中国で水面蹴りを学んだときに一緒に教えてもらったお呪いや!

キング・フェイス
ハッスル・キングに変身しても、破壊王時代のシブい男前の顔は変わってないゾ。髙田のヤローもモテる顔をしてやがるが、ハッスル軍で対抗できるのは俺だけだ!! みんなもそう思うだろ?

キング・ベルト
ハッスルするとピカピカ光り輝く特注ベルト! どうや。カッコいいだろ? 小川のベルトもド派手だけど、仮面ライダーマニアの俺からすると、まだまだハッスルが足りん!!

キング・バックル
入場するときはコスチュームに隠れていて、試合中は外すから目立たないが、このバックルも超一流品!! 見えないアイテムにこそ気を使うのがダンディズムなんや。





キング・ヒラヒラ
尾張のプレスリーとも呼ばれているから衣装にはヒラヒラが付いている。花道を走りながら腕を回すと、ヒラヒラが優雅に舞ってキレイだから、よ~く見とけ!

ハッスル・ロゴ
ハッスル・ロゴが入っているのはコスチュームだけじゃないゾ。赤ズボンのケツにもデカデカと入っている。つまり、俺の尻にハッスルが付いた。もうハッスルするしかないんだ!

リオのカーニバルバージョンに続いて、またもや新ハッスルポーズ誕生!

これが「ハッスルポーズ ~トルネード・バージョン~」や!



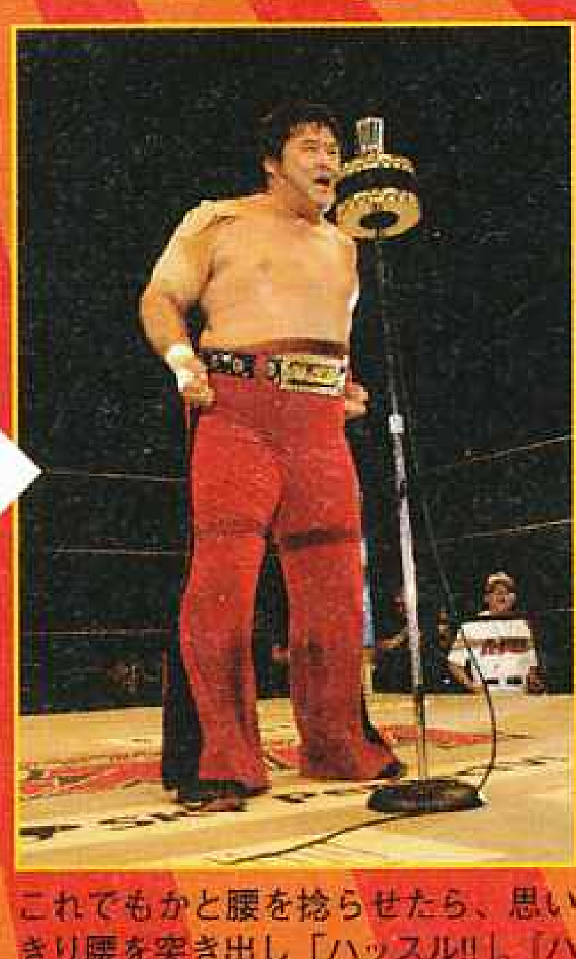
押忍! 『ハッスル4』で公開した新ハッスルポーズを特別教授するゾ! まずはいつものハッスルポーズを「3、2、1、ハッスル、ハッスル!!」と豪快に決めろ!!



ちゃんとハッスルしたか? ハッスルしたなら次が肝心! すかさず両腕をクロスして上空にあげる! ハッスルスマイルを忘れずに、恍惚の表情で次のムーブにうつるんや!

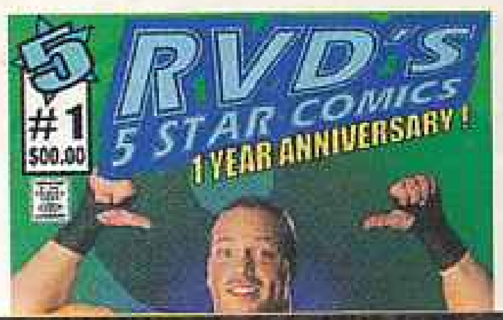


両腕をクロスしたまま、「トルネ~~ドォォオ!!」の掛け声に合わせて、腰をクネクネ竜巻のように豪快に回せ! 恥ずかしさを捨てるのがポイント!! ちっぽけなプライドは捨ててこい!



これでもかと腰を捻らせたら、思いきり腰を突き出し「ハッスル!!」。『ハッスル5』では、PPVのゲスト解説を務めている青木裕子ちゃんと一緒にやるからな! 押忍!

ROB VAN DAM



罰としてヤドカリをまたしても制裁!!



1 成田空港でマスクド・ノーフィアーの到着を待つヤドカリ。マスクド・ノーフィアーの正体は高山善廣と噂されていたが、どうやらガイジンらしい。



2 2時間待ってもM・ノーフィアーは姿をあらわさず……。ヤドカリはショックのあまり崩れ落ちる。テロ対策で厳重警備がしかれる空港でまったく迷惑な行為だよ。



3 来日しない理由が発覚!! それは「ビターン!!」を受けてなかったから……というのも仰天な話だが、今後はしっかり「ビターン」して欠場を防いでほしい。



4 ズバリ言って「信用」という言葉からいちばん縁遠いヤドカリに、こんなこと言われたくねえんです。俺は根こそぎマスクド・ノーフィアー派!!（GK調）。



5 総統の必殺技は「ビータンッッッッ!!!!」。ヤドカリの場合は、「見え透いたお世辞」と「賄賂（モンスター軍の経費から持ち出し）」、そして「見苦しい保身」になる。



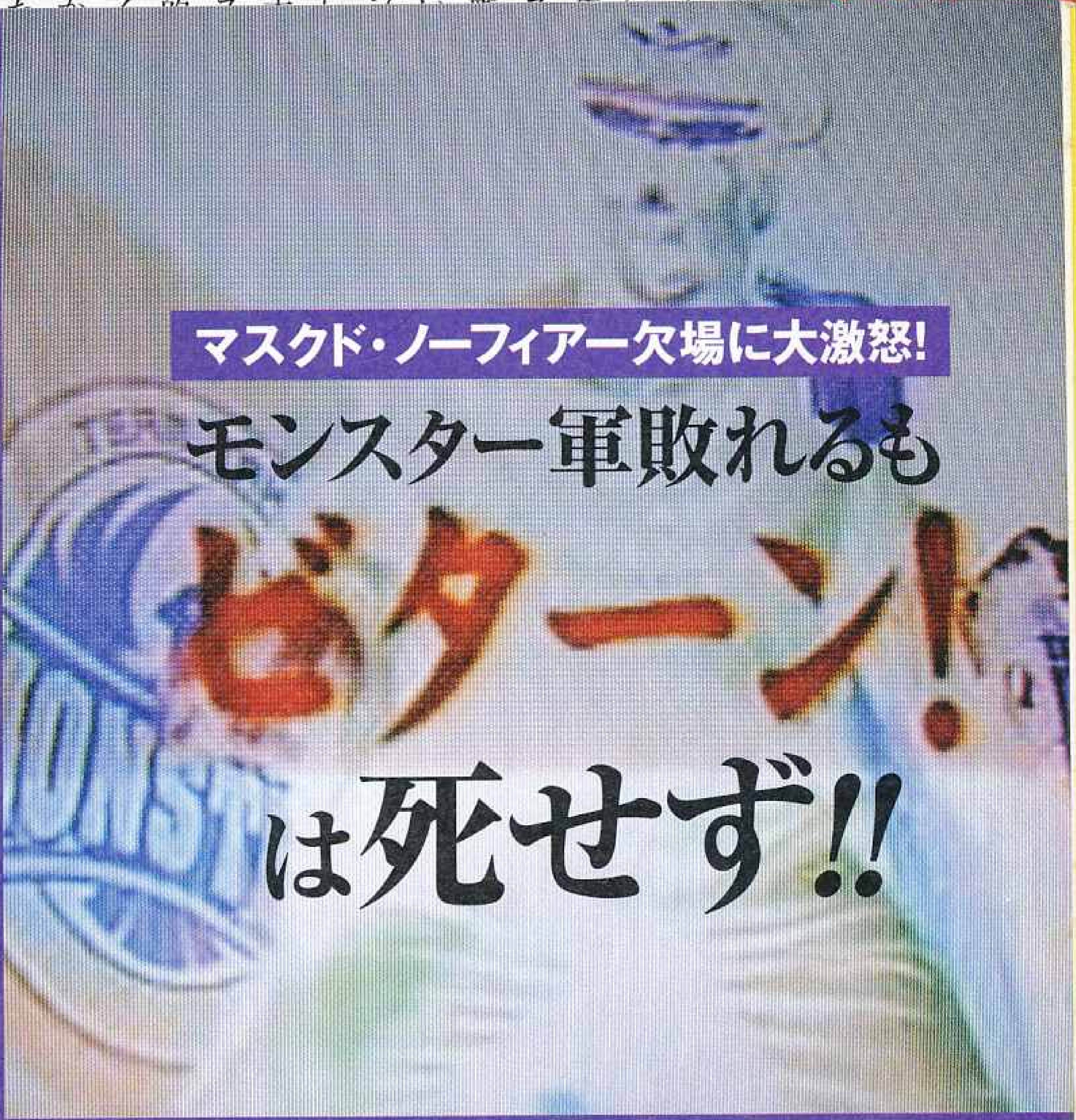
6 右脚の次は左目! 次回の制裁箇所はどこになる? 今後はバンジージャンプを強制させるなど、お笑いウルトラクイズ的な展開も期待したい。



7 見てみぃ、ド迫力のビターンッッッ!!!! 鬼気迫る表情はあの松方弘樹演じる『仁義なき戦い』の坂井鉄也を彷彿させてくれるじゃないか! カッコイイぜ、総統兄ィ!



8 ノーフィアーの代打に「300%、WINシマ〜ス」とアン・ジョーが名乗り。そしてインチキ日本語でヤドカリを見下した口振り。ヤドカリの転落人生は続くのか……。



マスクド・ノーフィアー欠場に大激怒!

モンスター軍敗れるもビターン!!は死せず!!

M・ノーフィアーは洗脳されてなかった!

マスクド・ノーフィアー来日せず!! 『ハッスル4』で予定されていたキャプテン・ハッスル&"大物X"（長州）vsボビッシュ&M・ノーフィアー（以下ノーフィアー）の一戦は、大会前日にノーフィアーの欠場が発覚! 代わりにアン・ジョー司令長官が身体を張ることになった。

興行内容的には暗い影を落とさなかったノーフィアーの欠場だが、たまらないのは招聘失敗の罰として、アキレス腱断裂刑に続き総統から再び制裁を受けた島田参謀長だ。

ここではヤコペッティもたじろくハッスル残酷物語を再録! 別枠の映像シーンとともに総統の「ビターン!」を堪能してもらいたい。

【モンスター軍秘密基地】

総統 島田!

島田（以下ヤド） ハ、ハイ（怯）!

総統 どういうことだ! マスクド・ノーフィアーはなぜ来ない?

ヤド 違うんです、総統! 言い訳、言い訳をさせて下さい（見苦しさ300%）!

総統 やかましい!（ドンと井上さん張りに杖をつく）。だからあれほど私の"ビターン"を受けさせろと言っただろ!

【ビターンは誰もを洗脳してしまう力を持っているが、ノーフィアーは洗脳済みではなかった。欠場について業界では様々な憶測が流れているが、これが原因だったとは! 総統がそう言われるのだから間違いない!】

ヤド も、申し訳ありません! 総統の"ビターン"を受けなくても信用できる男だと思っていたのですが……。今回の件はどうか目をつぶってください!

総統 目をつぶる? ほう、君は私に指図しようというのかい? ウテ!

【総統のボイン秘書のウテ・ワーナがヤドカリの土手っ腹にヒザ攻撃! 倒れたヤドカリに総統は仁王立ち】

総統 よく聞け。目がつぶれるのは貴様だ。（グルグル指を回し、一点に定めて）ビターンッッッ!!!!!!

【「ビターン!」がヤドカリの右目に炸裂! 観客爆笑!】

ヤド 目が痛い、痛〜〜〜い!! 潰れるぅぅぅ!!

【のたうちまわるヤドカリに観客は大拍手! ヒドイよ!】

いまやノゲイラのスピニング・チョークと並んで、総統の「ビターン!」はもっとも危険な必殺技だと断言しよう! さぁ、君もこのビターンを会場で体感したらどうだ? 決断を待つ!!（総統風）。

『ハッスル4』全面対抗戦

○［3勝］ハッスル軍vs髙田モンスター軍［2勝］●

× 藤井軍鶏侍&崔リョウジ【変型ドライバー】ムッシュ・ド・バルバロッサ&コールマン ○

× 横井宏考 &ハッスルK【横入り式エビ固め】大巨人&サイコ・ザ・デス ○

○ ハッスル・キング【三角絞め】ガマ大王 ×

○ 坂田 亘【ダイビング・フットスタンプ】ケビン・ランデルマン ×

○ キャプテン・ハッスル&長州力【リキラリアット】"ザ・バッファロー"&アン・ジョー司令長官 ×



総統の秘書に坂田がセクハラ攻撃!!

ランデルマンのセコンドにウテ・ワーナが付いたが、ウテの度重なる介入に坂田が激怒!! 手慣れた手つきウテを抱え上げ、お尻ペンペン!! 坂田は勢いに乗ってランデルマンも撃破!





「このデブが!!」（ハッスル・キング）ガマ大王を見事に成敗!!

JBの「セックス・マシーン」でゲロゲロ吠えながら登場したガマ大王! セコンドには「ゲロゲ〜ロ!」ネタでおなじみの青空球児師匠が付くという噂が一部で流れたが、やっぱり噂でしかなかった。ハッスル・キングとの肉弾相打つ絡みはもっと大きく載せたかったが、この暑苦しさをカラーで見せるのはこれが限界だ。





キャプテン・ハッスル作詞!!
『ハッスル音頭』発売!!

♪ハッスル、ハッスル、ビターン、ビターン!!



ハッスルすれば、季節外れでも踊れる!!

9月に発売決定!!　秋なのに盆踊りという、まさしくハッスルなチャレンジとなった『ハッスル音頭』は、なんとキャプテン・ハッスルがギョロ目をひんむいて作詞した。『ハッスル4』では、本来ならば中村カントクが熱唱する予定だったが、対抗戦で先にモンスター軍が連勝したためにヤドカリがワンマン・リサイタルを敢行。ジャイアン張りの歌唱力で会場をたじろがせた。ボエ〜♪

ファイティングオペラ

ハッスル4 DIGEST



実況席で木原のオヤジが大ハッスル!

ハッスル・ブースを固めたのは、青木裕子ちゃんと、前号本誌に登場したタイガー木原。ブルース・リーマニアのタイガーは、「李王道」改名寸前の川田に嫉妬を抱いているという噂も。



オープニング・マッチはやっぱりこの2人!!

ハッスルのオープニングマッチといえば、“イケメンコンビ”カズ&スパンキー。サンジェイ・ダッド&ジョシュ“ザ・エルビス”サンジェイを相手に安定感のあるファイトで会場を温めた。サンジェイ&エルビスも良い選手。次回の登場を期待だ!

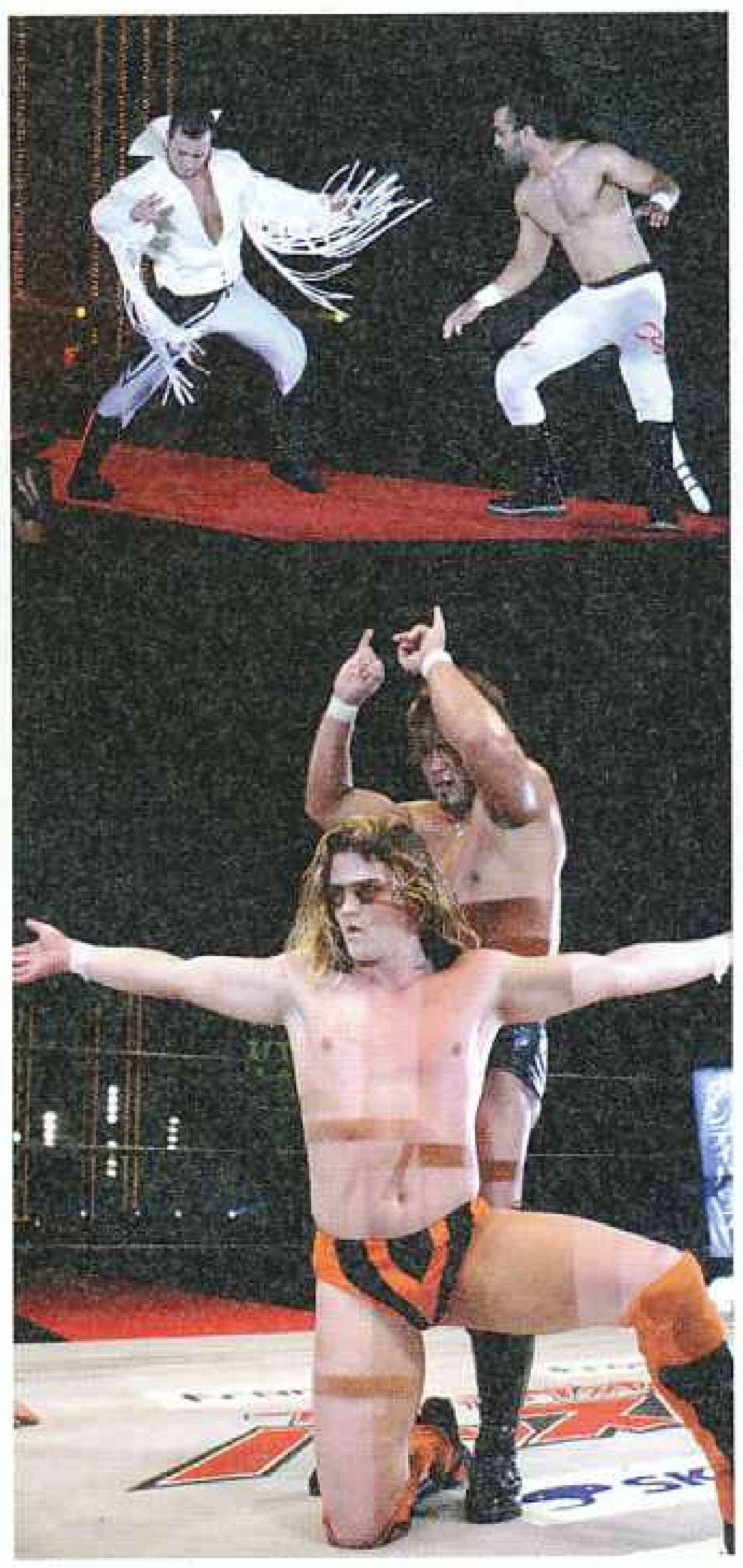
ピラニアン・モンスター級? ハッスル仮面が戦慄デビュー!!

ハッスル星雲から飛来したハッスル仮面がデビュー戦を初白星で飾ったが、ズバリ言って、いちばんハッスルしてねえんです!!「Mr.さかいに似ているなあ」ぐらいの印象しかないが、モーレツな巻き返しで『ハッスル』定着はなるか!?



コリノ無惨!　衝撃のハッスル・ハードコア!!

今回のハッスル・ハードコアはロイヤルランブル形式。もともとは長州が出場するはずだったが、「俺にはやることがある」というメッセージを残して石井智宏がピンチヒッター。金村キンタロー、田中将斗、本間朋晃、スティーブ・コリノ、ザ・フライング・バンパイア16世らが入り乱れた。優勝はギターでコリノを滅多打ちにした田中（次号でロング弾丸インタビューを掲載予定）。試合が終わってもコリノはしばらく立ち上がれないほどの凶撃だった!!













①大会前になんとヤドカリ&アン・ジョー握手会が催されたが、生意気にもヤドカリは予定時間を30分近く遅れて参上。　②オープニングでは恒例となったカップルいじり。「恋人同士ならさっさと接吻をしたらどうだ?」いつか総統バージョンも見てみたい!　③オープニングではランデルマンと観客のバナナの早食い競争も!!　ケビンがミルコ戦ばりに圧勝!!　④山田千鶴ちゃんが『ハッスル・ハウス』に続いて、『ハッスル』の正しい観戦方法を得意の新体操を交えてハッスル指導!　千鶴ちゃんは『ハッスル・ハウス』で「小川さんやランデルマンさんに肩車してもらったりして写真を撮ってもらいました!」（HP掲示板より）……か、肩車!?　千鶴ちゃん、彼らはキミが考えているような紳士じゃないんだよ。気をつけて!　⑤「オープニング・ハッスル」の希望者が募られた。写真のファミリーが選ばれ、リング上でハッスル、ハッスル!!　ちびっ子のハッスル具合がなんとも微笑ましい!!　これにて大会スタート!

地方にも進出!　スケジュールをいまから確保だ!

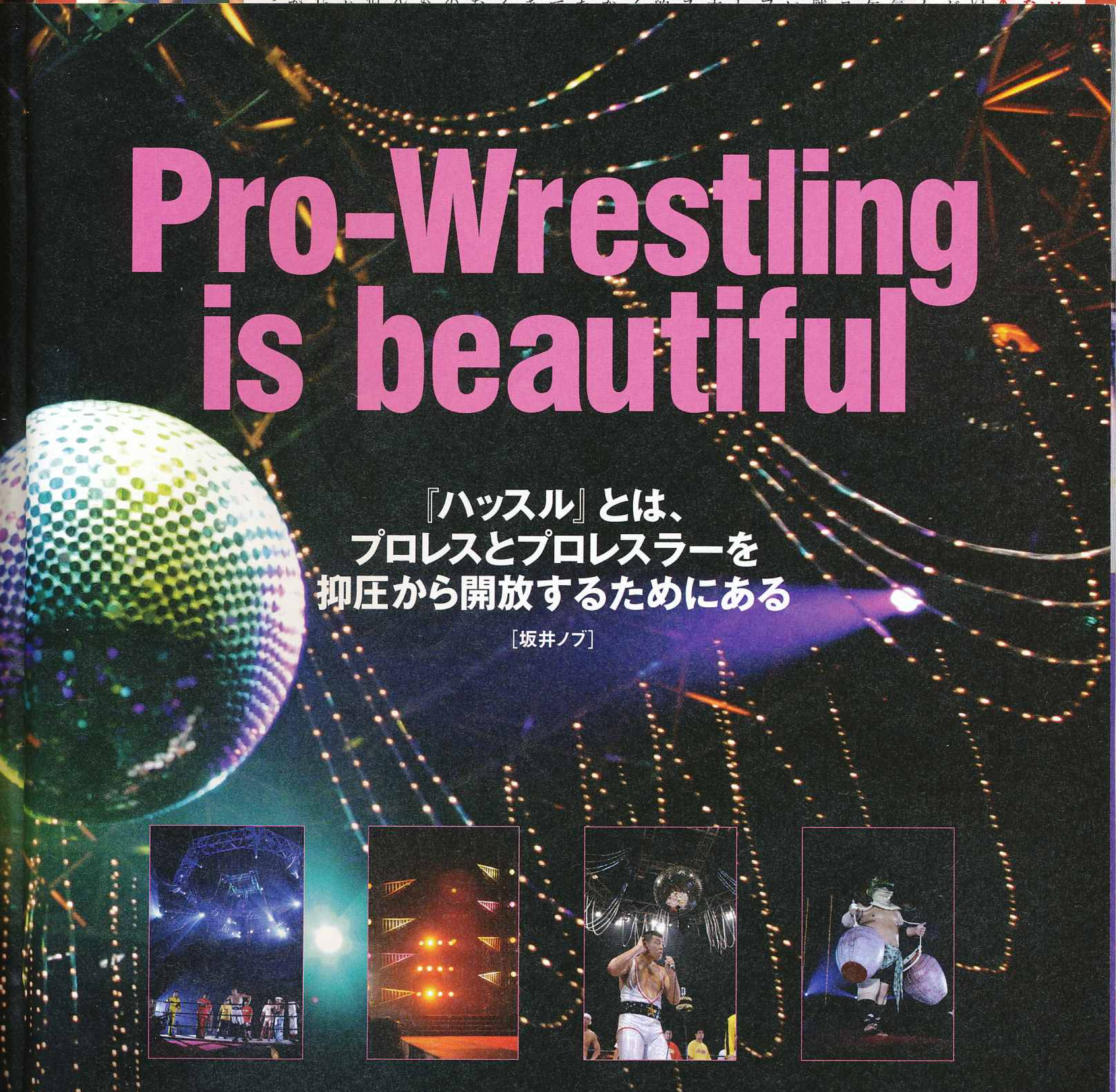
『ハッスル』シリーズ、続々開催!!

★9月2日
『ハッスル・ハウスvol.2』／後楽園ホール
★9月20日
『ハッスル5』／横浜アリーナ
★10月21日
『ハッスル・ハウスvol.3』／後楽園ホール
★10月23日
『ハッスル6』／愛知県体育館

■お問い合わせ:DSE／TEL.03-5464-1531

『ハッスル』が愛知に進出!　しかも『ハッスル・ハウス』と中一日の連戦となり、大掛かりな連続ドラマが期待できそうだ。これは密航（死語）するしかない!　そして、ハッスルマニアにもうひとつ嬉しいお知らせ。ハッスル劇場でキャプテンがGMに直談判し、チケット価格設定の見直しを求めた。観客の「た・か・い!!」コールにも押されるかたちで、GMが前向きに検討することを約束。リーズブナルな金額でナマ総統を拝めることになりそうだ!





Pro-Wrestling is beautiful

『ハッスル』とは、プロレスとプロレスラーを抑圧から開放するためにある

［坂井ノブ］

ここ最近、プロレス業界内部で『ハッスル』シリーズへの風向きがだいぶ変わってきた。何が凄いって、あの『週刊ゴング』が『ハッスル』を大々的に取り扱っているのだから。しかも、巻頭カラーの見出しが「ハッスルのゴングか、ゴングのハッスルか」だもの（元ネタは「マスカラスのゴングか、ゴングのマスカラスか」）。

プロレス界のトップ選手が相次いでぶっ飛んだコスチュームに身を包み、巨大なミラーボールの下でプロレスを繰り広げ、それを高田総統がメチャクチャにこきおろすのだから、面白くないわけがない。もちろん、それ以外にも魅力は満載だ。

いわゆるプロレスの文脈からするとあり得ない演出なのだろうが、『ハッスル』が画期的なのは70年代のソウル、ファンク、ディスコ、さらには黒人映画の意匠が随所に散りばめられていること。これが隠し味となって、ハッスルの世界観をより増幅させることに成功している。

プロレス界で最もアッパーかつファンキーな入場テーマ曲であるアントニオ猪木の『炎のファイター』も、もともとはモハメド・アリから贈られた曲であることは広く知られている。その原曲は映画『アリ／ザ・グレイテスト』のサウンドトラックに収録されているジョージ・ベンソンの『愛は偉大なもの』。「イノキ・ボンバイエ」（和訳すると「猪木、ヤツを殺せ」）とは程遠い、かなりメロウなソウル・バラードである。このようにアントニオ猪木のルーツを辿る時でさえ、70年代の黒人文化を素通りするわけにはいかないのだ。

アントンと源流（の一部）を同じくする『ハッスル』シリーズも、70



くする『ハッスル』シリーズも、70年代に生まれた名曲がギッシリと詰まっている。至福感たっぷりのエンディングを彩っているのはヴァン・マッコイ&ソウル・シンフォニー・オーケストラの名曲「ハッスル」。ガマ大王のテーマ曲は〝ゴッド・ファーザー・オブ・ソウル〟ジェームス・ブラウンの「セックス・マシーン」（いわゆるゲロッパ）だった。腰にくるリズムと甘いメロディが紡ぎ出すトラックに、ぶっとい声でソウルが注入されたこれらの楽曲は聴く者の心を躍らせる。

もちろん、音楽だけではない。ハッスルKのコスチュームはアメリカの黒人に熱狂的なファンを生んだブルース・リー主演『死亡遊戯』さながらのトラックスーツ（『キル・ビル』でもおなじみ）だったし、ハッスル・キングのでっかいアフロヘアも70年代の黒人ファッションの最先端だった。





このように『ハッスル』では、いたるところにアメリカが生んだ偉大なる70年代黒人文化が散りばめられているのだ。

60年代まで不当に差別されながら抑圧されてきたアメリカの黒人が公民権運動を経て70年代に入ると「ブラック・イズ・ビューティフル」を合言葉に、黒人が黒人であることを誇り、様々な分野で黒人文化が花開いた。でかいアフロ、でかい襟（えり）、でかいベルボトム、でかいモミアゲ……。彼らは今見るとマヌケなぐらい強烈なファッションで自己を主張した。音楽ではシリアスなソウル、宇宙へと至るファンク、バカでセクシーなディスコなど、すべてが大げさで本気と冗談の境界線をブチ破っていた。



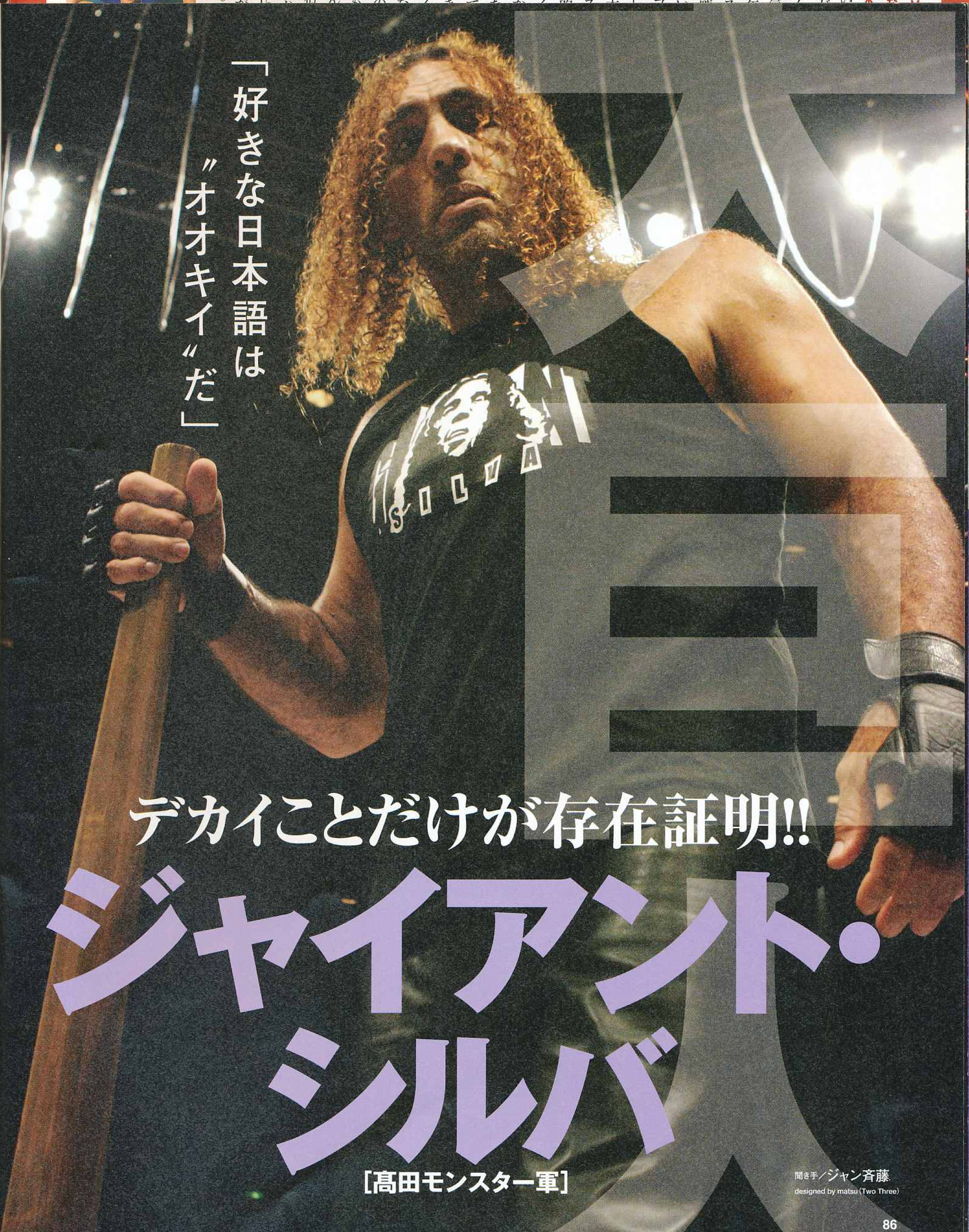


マーチン・ルーサー・キング牧師が「I have a dream」と語った時代と、現在のプロレス界を並べるわけにはいかないが、それでも小川には「ハッスル普及」という大きな夢がある。プロレスが「他に比類なきジャンル」だったのはもはや20年以上前の話だ。「いま、ハッスルしないとプロレス終わっちゃうぞ」という切実な叫びは、多くのプロレスファンの胸を打った。

じつは「瀕死のプロレス界を再生する」というシリアスなテーマをも含んだ『ハッスル』だが、そういう暗さや重さを微塵も感じさせないから、まったくプロレスのことを知らないファンでも楽しめる。当時の黒人文化や黒人が置かれた状況やらを理解してない僕らでも黒人映画や黒人音楽を楽しめるのと同じだ。

『ハッスル』における小川、橋本、川田、そして髙田総統のハッスルぶりを見ると、プロレスラーがプロレスラーであることを誇れる時代が再びやって来たことを実感させてくれる。だから、『ハッスル』には格闘技コンプレックスみたいなプロレスは一つもない。必要ないのだ。

小川が常々「PRIDEよりもハッスル」と主張しているのは、世の中にはびこる「格闘技至上主義」に対するアンチテーゼだ。そんな大真面目な主張を小川はぶっといモミアゲに、橋本はアフロとジュリーみたいな衣装に、川田はブルース・リーのコスチュームに込めてリングに上がる。どこからどう見てもマヌケだが、彼らは大真面目だ。そんな彼らに髙田総統は「コスプレのパーティーかい？」と言い放ったが、その通り。ハッスルはプロレスが誇りを取り戻すための最もアッパーでファンキーなパーティーなのだ。



大巨人

「好きな日本語は〝オオキイ〟だ」

デカイことだけが存在証明!!

ジャイアント・シルバ

[髙田モンスター軍]

聞き手／ジャン斉藤
designed by matsu (Two Three)





『武士道〜其ノ四』で杉浦貴と対戦した大巨人。身長は圧倒的に勝っていたが、試合では圧倒的に負けてしまった！ 一勝一敗にならないところが残念だ（当たり前）。

いきなりだが、読者の皆さんは、ジャイアント・シルバがとにかくデカイことを御存知だろうか？ え？ とっくに知ってるって!? それでも聞いてください！

あらためて紹介するが、この大巨人シルバ。デカイだけの理由で『髙田モンスター軍』入りしたかと思えば、ただただデカイだけの理由でバーリ・トゥード世界最高峰のステージ『PRIDE・GP』に迷い込んでしまった。そして、やっぱりデカイだけの理由で『武士道・其ノ四』に登場。『PRIDE・GP』ではオーちゃんに敗れ、『武士道』では、ノアの杉浦貴にこれでもかと殴られ蹴られた。マット界の最強伝説対決〝大きいことはいいことだ〟vs〝NOAHだけはガチ〟は、後者の一方的な勝利に終わってしまったのだ。う〜ん、残念！

しかし、このシルバは試合の勝敗によって、その価値が左右するようなチンケなレスラーではない。むしろ結果なんてまったく関係ないことを断言しておく。だって、ひたすらデカイだけの理由で抜擢され続けてるんだから、シルバはいつ何時デカければOKなんだよ！

いいですか。じっくり考えてみてください。いっときの強さなんて、選手の力量を計るうえで大してモノサシにはならないんです。ところが、このシルバときたら、1年経っても2年経っても10年経っても、ズバリ言って天国に召されても、そのデカさは変わることはない。永遠の特性を持つ男、ジャイアント・シルバ。とにかくデカイだけの理由で、思わずインタビューをしてしまった！

——シルバさん！ あいかわらずデカイですねえ。

シルバ　おう。生まれたときからとにかくデカかった。それが俺様の最大のセールスポイントなんだゾ。

——シルバさんはそんなにデカイのに、こないだ『武士道・其の四』では、ひとまわりも小さい杉浦選手に負けちゃいましたね。

シルバ　おう。負けた。

——デカさではシルバさんが文句なく勝っていたのに……もう残念ですよ！

シルバ　負けたことはどーでもいいんだが、肝心の試合内容が最低だった。それだけが心残りだな。

——そういえば、あの試合で目立ったのはデカイことだけでしたねえ。試合後にこん棒を振り回して大暴れしましたけど、あの暴走にはどういう理由があったんですか？

シルバ　………。

——シ、シルバさん!? とにかくデカイんだから何かしゃべってくださいよ！

シルバ　……あれは、何もできなかった悔しさで怒りが頂点に達して暴れてしまった。おまえも男だから、わかるだろ？

——いや、悔しいのはわかりますけど、背中で泣くのが大男の美学というものです。ダメですよ、とにかくデカイからって調子に乗っちゃ！

シルバ　俺様も反省してる。スギウラさんやファンのみんなに悪いことをしてしまったと思ってるゾ。俺様はプロレスを始めてからまだ8年。MMA（総合格闘技）に関しては5カ月足らずだ。もっと経験を積めば、みんなに喜ばれるファイターになれると思っている。それまではこのデカさにビビってたじろいでいてくれ。

——シルバさんはただデカイだけじゃなくて、リング外の面白エピソードにも事欠きませんよね。『PRIDE・GP』開幕戦は戦闘竜さんが相手なのに、当日まで小川さんと闘うと思っていたとか。

シルバ　（デカイわりには即座に）黙れ、チビ。そんなことがあってたまるか。対戦相手がギョロ目（小川直也）じゃないことぐらいは知っていたゾ。

——でも、『武士道・其の四』で流されたプロモでは、開幕戦当日の控室で「今日の相手はオガワだ〜！」って吠えてましたよ！

シルバ　それはウソだ。そして俺様がデカイことだけはホントだ。

——シルバさんがデカイことは誰もが知ってますよ！ ところで、シウバさんはデカイだけの男じゃなくて、ヘンゾ・グレイシーの道場に通って柔術を習ってるんですよね。

シルバ　そうだ。そこはヘンゾ先生の従兄弟がやってるドージョーだから、ヘンゾ先生にはまだ会ったことはないが、MMAのトレーニングはちゃんと積んでいるんだゾ。とくにテイクダウンの攻防が、この闘いでひじょうに大切な生命線になることは、トレーニングすることで理解していた。ギョロ目やスギウラ戦ではそれが敗北のきっかけになったしな。もっと学習することにするゾ。

——シルバさんはそのデカさを活かしてバスケットでは五輪代表として活躍されてましたが、プロレス入りしたのはどういう理由があったんでしょうか？

シルバ　それはシークレットだ。

——え〜!? とにかくデカくて隠すものなんてないんだから、過去もさらけ出してくださいよ！

シルバ　（デカイわりには即座に）黙れ、チビ。とにかくシークレットだ。

——むかしからプロレスラーに憧れていたとか？ ブラジルはかつてプロレスが盛んだったと伺ってますけど。

シルバ　俺様はブラジルのサンパウロに住んでいたが、ブラジルのプロレス事情はとくには知らない。プロレスをやりだしたのはニューヨークに移ってからなんだゾ。

——ニューヨークに移り住んだのはどうしてですか？

シルバ　ニューヨークは素晴らしい街だから引っ越した。ほら、ニューヨークは歌の歌詞にもよく出てくる

何もできなかった悔しさで怒りが頂点に達して、試合後に暴れてしまった。



杉浦に敗れた悔しさのあまり持参したこん棒を振り回して杉浦に襲いかかったシルバを、あの"最強"和田レフェリーが飛びつき裸締めで制止。シルバはノア幻想ばかりか、図らずも"和田最強伝説"をも掘り起こしてしまった！

♪ニュ〜ヨ〜ク、ニュ〜ヨォ〜ク♪
ニューヨークは素晴らしい街だから住んでいるんだ。



GIANT
SILVA

【じゃいあんと・しるば】1963年7月21日ブラジル出身。バスケットボールで二期連続ブラジル代表としてオリンピックに出場。『PRIDE・GP』開幕戦では戦闘竜をまさかのジャイアント・アームロックで仕留めた。『紙プロHand』格闘家コラムでは、二日酔いのランデルマンの代打として緊急寄稿。あらゆる分野で器用な面をのぞかせるが、とにかくデカイことが最大の売りだ。230センチ、238キロ。

ステキなところじゃない。♪ニュ〜ヨ〜ク、ニュ〜ヨォ〜ク♪（ノリノリで歌い出すシルバ。怖い）。

——シルバさんは声もデカイですねえ。先ほどのお話によるとニューヨークに移ってからプロレスを始めたそうですが、すんなりデビューできたんですか？

シルバ　とあるプロレス学校に通って勉強して、短期間だがＷＷＥとも契約したことがある。あのロック様とも闘ったんだゾ。

——え！　それはホントですか⁉

シルバ　ウソだ（キッパリ）。

——ワハハハ！　何を言ってるんだ、この大男は（笑）。

シルバ　でも、ＷＷＥと契約していたことはホントだ。それからカナダやメキシコもまわったし、そしてニュージャパン（新日本）のリングではタッグチャンピオンにもなった。そのときはチョーノさんには世話になったな。

——蝶野さんが「本隊をブッ潰す！」ために率いてたＴ２０００の一員だったんですよね。

シルバ　ニュージャパンに経済的な問題があったらしくて契約更新はされなかったが、俺様は一生懸命頑張ったんだゾ。いまは『髙田モンスター軍』の一員として、タカダ・ソートーのために闘っている。ギョロ目やブタ（破壊王）、引きこもり（ハッスルＫ）をやっつけるのが目的だ。

——『ハッスル』はエンターテイメント性が強いプロレスですよね。日本のプロレス界にはエンターテイメント的なプロレスは向いてないという声もあるんですが、シルバさんはどう思いますか？

シルバ　どーでもいい。

——「どーでもいい」！　デカイからって大雑把な答え方しないでください！

シルバ　ホントにどーでもいいんだ。世界にはいろんなプロレスのリングがあるが、そこがどんなスタイルのリングだろうと、各自がプロレスラーとしての主張や、表現をすればいいじゃんか。だから、どーでもいい。このジャイアント・シルバのキャラクターをうまく活かしてくれるプロモーターがいれば、俺様は１００％のジャイアント・シルバを見せる気持ちはある。その証拠に、いますぐリングに上がれといわれたら、俺はなんなく闘ってやるゾ。

——シルバさんは『ハッスル３』のハードコアマッチで、なんと武器として登場しましたが、毎回ああいうかたちでもＯＫ？

シルバ　イベント全体的な流れもあるからな。そもそも俺が決めることではない……そうだな。そんなことはおまえが考えればいい。

——は？　なぜボクが考えるんですか（笑）。

シルバ　おまえが考えればいい……ククク。これは傑作だ！　ガーッハッハッハッハッハ！（意味不明なバカ笑いをするシルバ。怖い）。

——何なんだ、いったい（笑）。ひたすらデカイからっていい気にならないでくださいよ！

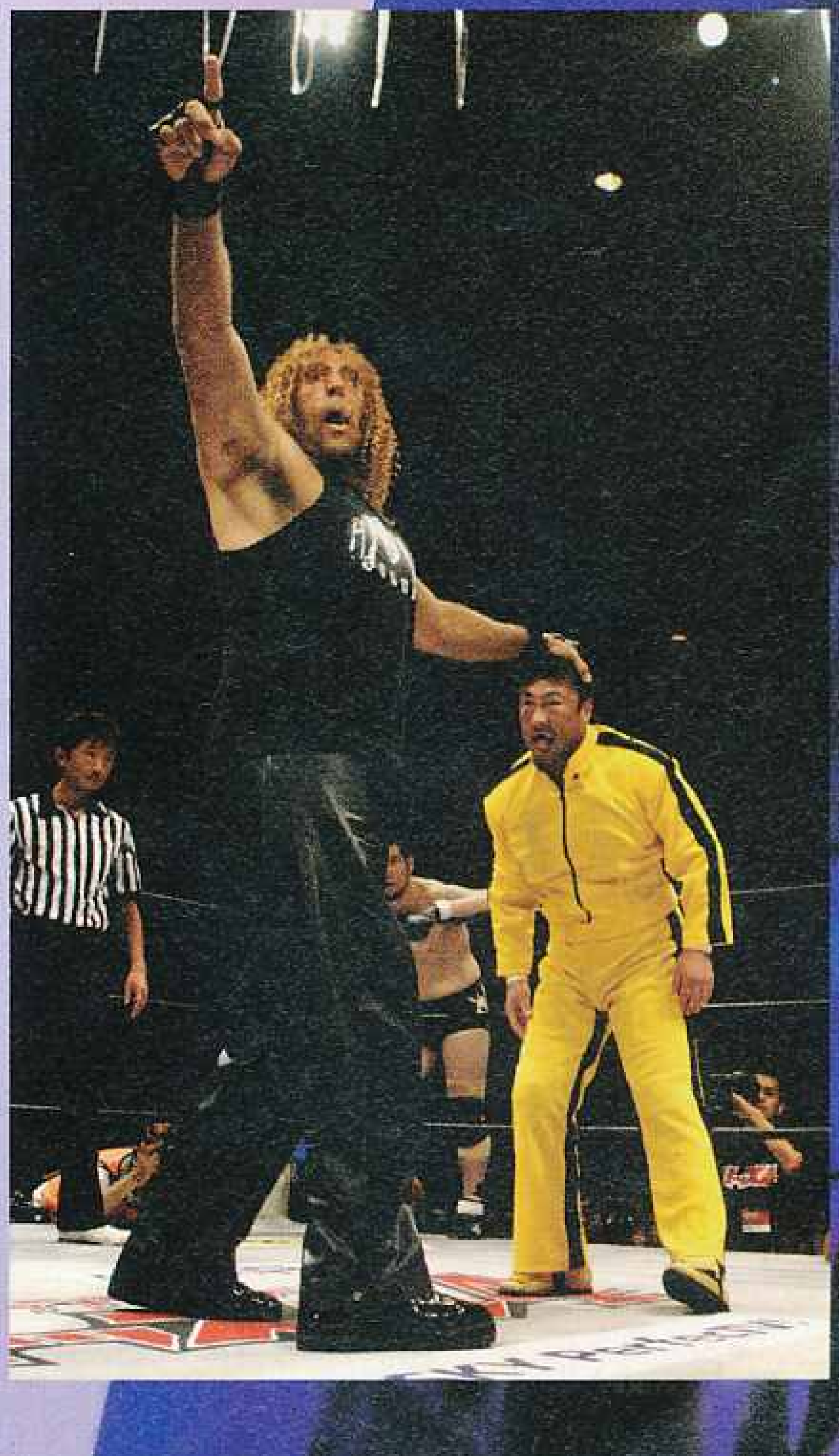
シルバ　ククク。おまえが考えろ……ガーッハッハッハッハッハ！

——え〜、最後の質問です！　シウバさんは語学に堪能ということで日本語の学習にも余念がないということですが、いちばん好きな日本語を教えてください。

シルバ　オオキイ（日本語で）。以上だ。

【04年7月22日／北青山にある『髙田モンスター軍』秘密アジトにて収録】

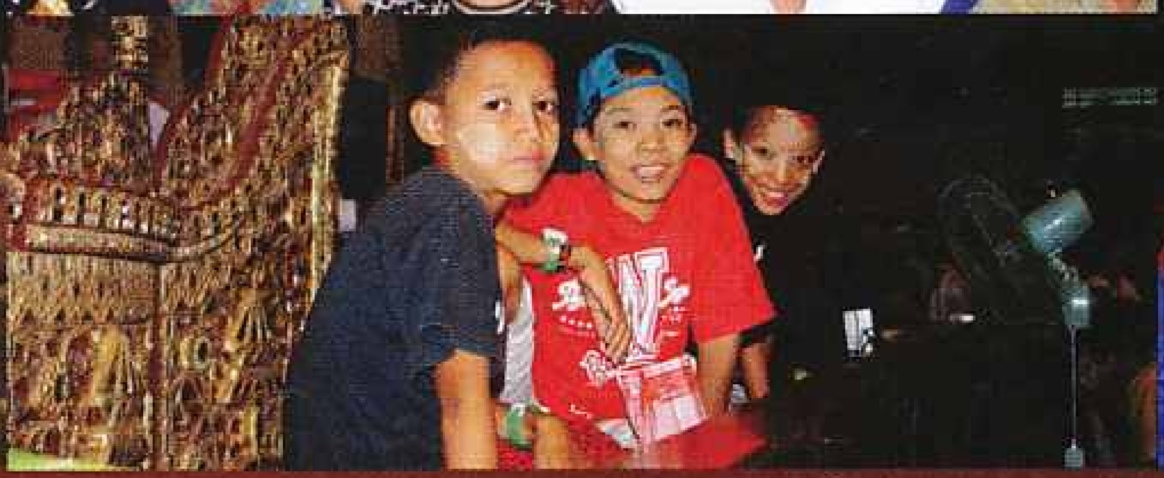
このインタビューの3日後の7月25日、おそらくデカイだけの理由で『ハッスル4』に出てしまったがジャイアント・シルバ。同じモンスター軍所属のサイコ・ザ・デスとのコンビでハッスルＫ&横井組から勝利を強奪したが、しつこいようだがこの男に勝敗は関係ない。ただただデカければ、シルバはまったく問題ないのである！



『ハッスル4』では〝ハッスルＫ〟こと川田利明と対戦。もはや映画のワンシーンだ！　シルバさんにはとにかくデカイだけの理由でハリウッド進出もはたしてもらいたい。











4人のサムライが"未知の超過激格闘技"へ挑んだ!!

バーリ・トゥードより
危険な格闘技
素手ムエタイ



ミャンマー・ラウェイとは何か？

徹底密着取材!!



グローブなし、頭突きあり、ヒジあり、投げあり。そして判定なし！　最後にして最強、1000年の歴史を持つ立ち技格闘技が日本へ挑戦状を突きつけた。その名はミャンマー・ラウェイ！　過激ルール、アウェイ（敵地）へ乗り込んでの闘い。命の危険も承知の上で"未知の格闘技"のロマンに真っ向から挑んだ4人のサムライがいた。『紙プロ』は世界の格闘技と、挑戦する無謀なサムライを応援します!!

写真・構成／さささい　designed by matsu (Two Three)









とにかくデカイだけの理由でハリウッド進出もはたしてもらいたい。



香港、アメリカ、フランス、オーストラリア、そして日本。他の国が無視する中日本だけがラウェイからの挑戦を受けた

大晦日には前代未聞の〝テレビ3局・格闘技ジャック〟が行われ、地上波のゴールデンタイムにバーリ・トゥードの試合が流される〝格闘王国・日本〟。アメリカでUFCが開催されて11年、日本で『K-1』が始まって11年、『PRIDE』が始まって7年。

世界の格闘家が現れては、驚異的なスピードで研究され、最強幻想を抱いた格闘技の使い手が次々に底を見せて倒れ、立ち向かう日本人もまた力つきていく。

見知らぬ世界の強豪、未知の格闘技に夢を馳せた時代は過ぎたかに思われたこの夏。最後にして最強、1000年の伝説を持つ立ち技格闘技がその全貌をあらわにした。

その名はミャンマー・ラウェイ。グローブなし、頭突きあり、ヒジあり、投げあり。そして判定なし！勝敗を決めるのは、相手をマットに這わせる己の攻撃のみ。

香港、アメリカ、フランス、オーストラリア、日本。5カ国へ出された〝ラウェイからの挑戦状〟に反応したのは1カ国のみ。他の国が無視する中、日本だけが〝未知の格闘技〟との闘いへ手をあげた。

素手にバンテージを巻いただけで殴り、蹴りあうムエタイの源流。頭突き、ヒジうち、投げも可能な格闘技。それがミャンマーに一千年続く伝統格闘技〝ラウェイ〟だ。

日本では「ビルマ拳法」もしくは「ムエカッチューア」の名で伝えられてきたラウェイ。ムエタイ700年に対し1000年と、ムエタイよりも長い歴史を持っていながら「ムエカッチューア」というタイ語で称され、ムエタイの亜流のような扱われ方をされてきたラウェイ。古代ミャンマーで誕生し、2000年に殴り込みをかけてきたアメリカ人選手3名を1Rで返り討ちにした以外、いっさい他の競技とも外国人選手とも交わることがなかったラウェイが、7月10日・11日の2日間、ミャンマーの首都ヤンゴンの国立室内競技場で日本人選手4名と対抗戦を行った。

結果は、格闘結社・田中塾の田村彰敏が、ラウェイ・ウェルター級チャンピオンのエー・ボー・セインをヒザ蹴りでKOし、見事勝利。ラウェイ1000年の歴史において、はじめてラウェイ・チャンピオンが外国人に敗北した瞬間だった。

幾度となくラウェイを観戦し、海外窓口であるウィン・ズィン・ウー氏の親友となった高森拓也氏から、知人であるパンクラス尾崎社長を通じて全日本キックボクシング連盟・宮田充氏のもとへ届けられた〝ラウェイからの挑戦状〟。宮田氏は、危険すぎるラウェイ・ルールに名乗り出る選手の不在と、ケガを負った身でありながら「出させろ」と言う小林聡の扱いに苦労したあげく、格闘結社・田中塾へ話を持ち込む。田中塾長の返事はごくごくシンプルなものだった。

「あ、やらせます」。

申し入れを受けた田中塾長は、怒っているわけではなさそうなのに厳しい口調で、高森氏のもとへ電話をかけてきてこう語ったという。

「高森さんがどのくらい格闘技やってらっしゃる人か知りませんけどね、正直、こんなルールで手をあげる選手なんていないッスよ！日本のキックボクサーは腰抜けですよ！俺だって弟子にやらせたくないッスよ！だけどね、出ますよ！なんでだかわかりますか？田中塾は背を向けないんスよ！」

だが、田中塾は背を向けない、というのはあくまでも塾長である田中健一個人の考えである。危険すぎるルールへの参戦を強制出来ないと考えた田中塾長は、弟子を集めて「どうする？」と問いかけた。これに手をあげたのが、田村彰敏と新見吉太郎である。

もうひとつ、ラウェイからの挑戦状を受けたのが西良典率いる和術慧舟会・長崎本部だ。「慧舟会は基本的に受ける団体ですから」という、これまたシンプルな監督・西の言葉のもと、山本武晴と若杉成次が参戦に名乗りをあげた。

最後に、決定した4人の選手に加えて女性である渡邉久江が「面白そう。自分を入れて5vs5にして欲しい」と参戦表明。政府関係者の反対もあって参戦はかなわなかったが、ミャンマーを訪れた日本の女子ムエタイチャンピオン・渡邊の存在は、強くラウェイの観客に印象づけられる結果となった。



出発前から男気満載！記者会見には佐山サトル皇帝も登場!!

6月28日、都内藤原ジムで記者会見が行われ、『ミャンマー・ラウェイ』〝ミャンマーvs日本・4対4対抗戦〟選手派遣が正式に発表された。田中塾長は「自分の弟子ながら誇りに思う。技術うんぬんより、体力と精神面が重視される闘いになる」と、過酷な闘いへ弟子を送り出す心境を語った。

団長を務める藤原代表は「自身が闘うとしたらどうしますか」の問いに対し「パンチよりもヒジを使った闘い方でいくだろうね」と、全日本キックの宮田氏を相手に実演。当然のように宮田氏へガツンとヒジを叩き込み「こうやって接近戦でヒジを有効利用する」と説明した。

会見へ大幅に遅れて登場した、大日本帝国・掣圏会館の佐山サトル皇帝に対し、藤原代表は「おい皇帝。ちょっとラウェイについて話せ」とコメントを要求。皇帝は「田中が育てた選手だから、100%間違いない」と太鼓判。さらに「ミャンマーに日本酒は持っていけるんですかね？日本酒があったらトシちゃん（藤原代表）は世界一ですよ」と、独自の理論を展開。迫りくるラウェイとの闘いを前に、日本を代表するにふさわしすぎるメンバーが顔をそろえた。

会見後は、田村・新美両選手が公開練習を行い、藤原代表は両者にヒジの技術をその場で伝授。「倒れながら相手にヒジやヒザを打て」と、具体的な指導を行っていた。













徹底密着取材!!

ミャンマー・ラウェイとは何か?

①試合中はずっと生演奏で音楽が流れ、試合が佳境に入ればリズムも早まって力強くなる。ミャンマー（ビルマ）なだけに竪琴も存在　②打撃に合わせてリングアナが「オイ!　オイ!」と声をあげ、ミャンマー語で試合をあおる。③ラウェイでは子供もリングに登場。この2人は第1試合で激闘を展開、5R闘い抜いてドローとなった　④会場の前には似顔絵入りの巨大看板! 日本選手1人1人を描いたバージョンも存在　⑤パンチで倒れた選手。表情からもダメージが深刻そうだが立ち上がって試合再開。ラウンド中4度マットに倒れるも、ダウンが取られたのはこの1回のみ（!）。最後は左ミドルでKOされた

日本から、タイ・バンコクを経由して約9時間。軍事政権下であるミャンマーで、政府主催、国際親善試合として行われる今大会。首都・ヤンゴンの国立室内競技場は、集まったミャンマー人の熱気でひしめきあっている。一段高くしつらえられた席には、スポーツ省大臣（！）が座り、試合会場、客席には警備を務める国軍兵士。リングに祭壇状の机がセットされ、関係者が祈りを捧げる中、大会がスタートした。

ゴングらしき鐘の音で試合スタート。試合中もずっと生演奏が行われ、リングアナは打撃に合わせて「オイ！　オイ！」と声をあげる。ラウェイ選手のほとんどは、引くことをしらない。判定がないラウェイでは、相手を倒さなければ決着がつかない上、いわゆるアウトボクシングを行う選手には容赦なくブーイングが飛ぶ。選手はとにかく前へ前へ出て、相手を素手で殴り、蹴りまくるしかない。

さらに。KO、レフェリー・ドクターストップおよび、1R中に3回にわたってダウンした場合に試合が決着するのだが、ダウンカウントは基本的に半分も取られない。選手が立ち上がる意志を見せている場合、レフェリーは「立て」とアクションするだけで、ちっともダウンカウントを数えやしないのだ。

青コーナーの選手が倒れた。あきらかにパンチが効いて、のダウン。なのにレフェリーはカウントを取らない。早く立て、という合図を手で送るだけだ。選手が立ち上がって、ファイティングポーズ。

立ち上がる。観客から大きな声援が飛ぶ中、ラウンド終了。アナウンサーが何事かコールし、レフェリーが現金の束を本部席から受け取って両コーナーへ。お金で選手の頭を叩き、手渡す。場内からは拍手。あまりにもロコツな激励賞の渡し方に、奥ゆかしい日本人として驚いた。だが、選手の名前で激励賞が出される日本よりも、目の前でいい試合をした選手に現ナマを渡すラウェイ・システムは、選手のやる気を出すには優れているかもしれない。

激励賞に気を取られている間に試合再開。さっきのラウンドで倒れた選手が、ふたたび倒れる。今度は、倒れたまま選手がしばらく動かない。やっとダウンカウントが数えられる。よろよろと選手が立ち上がる。ふたたび大声援。

5R終了。結果は引き分けとなったり、試合を鋭い鋭い目つきで見据えていた田中塾長が、吐き捨てるように言った。

「あんな選手たちと、こんなルールで闘って勝てるキックボクサーなんて、日本にひとりもいないッスよ」。

グローブなし、頭突きあり、ヒジあり、投げあり。そして判定なし。勝敗を決めるのは、相手をマットに這わせる己の攻撃のみ。

言葉で想像していた以上の闘いがそこにあった。















ラウェイ1000年の歴史において初の外国人王者誕生!! その名は田中塾・田村彰敏!!

徹底密着取材!!
ミャンマー・ラウェイとは何か?

じりじりした熱気と、大一番を前にした選手・セコンドの緊張感が高まる中、通訳が「そろそろ、準備してください」と声をかけにくる。日本人の珍しさにミャンマーの観客が取り囲む中、日本vsミャンマー対抗戦の第1試合となる山本武晴が入場。リングで合掌、ワイクーを踊る礼儀正しい日本人へ、会場が暖かい拍手を送る。

鐘の音で試合スタート。ラウェイ・ライトウェルター級チャンピオンのナイ・ワン・レイが、ミドルキック。しかし柔道初段&プロレスファンの山本が豪快にフロント・スープレックス！ レイが山本の顔面へパンチを叩き込むが、山本はさらにバックドロップで相手を放り投げる。出場選手中最強のレイが宙に浮くのを見て、観客が驚きかつ興奮の歓声をあげる。

しかしレイも負けてはいられないとばかりに固いパンチの連打。山本の身体が前のめりにゆらめき、倒れぎわにレイが背中へヒジ！ 山本が立ち上がるもゴング直前に左ストレートを受けふたたび倒れる。ふたたび立ち上がった山本だったが、レフェリーが試合を止めた。

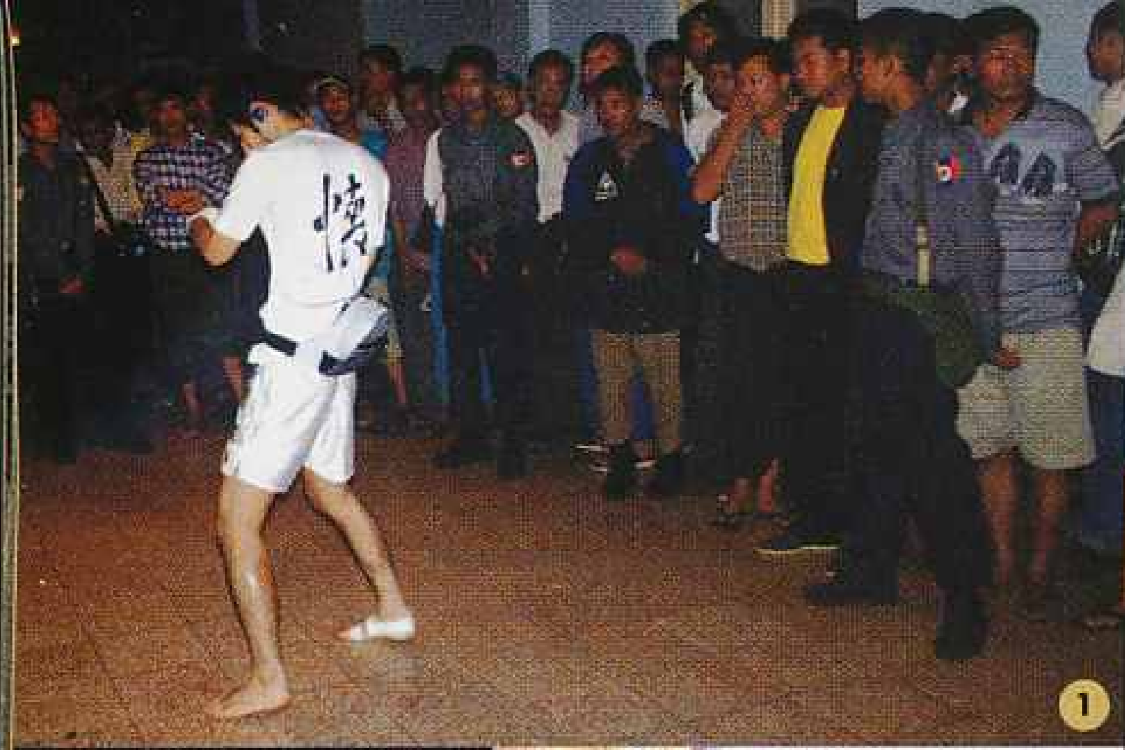
試合タイムを見れば3分かもしれないが、闘いの内容に観客は大きな拍手。大臣が試合内容を称え、トロフィーを手渡した。

続くメイン、山本の結果を受けて気合いが入りまくった表情の藤原敏男、田中健一とともに田村彰敏が入場。厳しい表情ながら一礼。ウェルター級チャンピオンのエー・ボー・セインを睨み据える。

総合をベースとする田村が、己の武器であるタックルでセインに飛び込み、相手を徹底的にじらしまくる。セインは見慣れぬ攻撃をしかけるその背中へ、苛立ったようにヒジをガツガツと叩き込む。観客、レフェリーさえも見慣れぬ闘いぶりにとまどう中、相手との距離が狭まった3Rで田村が首相撲からヒザ。続く4R、タックルの後ブレイク。攻めあぐねているかにも見えたその瞬間、田村の左ヒザがセインの顔面を直撃！ 軽く放ったかにみえたこの一発で、セインは白目をむいて崩れ落ちた。

一瞬静まりかえった場内が、動けないセインの姿を認めて大大爆発。1000年の歴史ではじめて起きた外国人相手への敗北という事実に、政府関係者は人目もはばからず大泣き。敵地での勝利という事実を前に、日本人関係者に緊張が走ったが、ミャンマーの観客は暴動どころか田村を称える大歓声。田村としっかり抱き合って喜びあう田中塾長の目にも、大粒の涙が浮かび、流れていった。

そして、表彰台に立った田村の腰にはなぜか、セインの保持していたウェルター級のチャンピオンベルトが巻かれる結果に。ノンタイトルで行われたはずの一戦を終え、政府公認のミャンマー・スポーツ協会が認める新王者・田村彰敏がこの日誕生した。







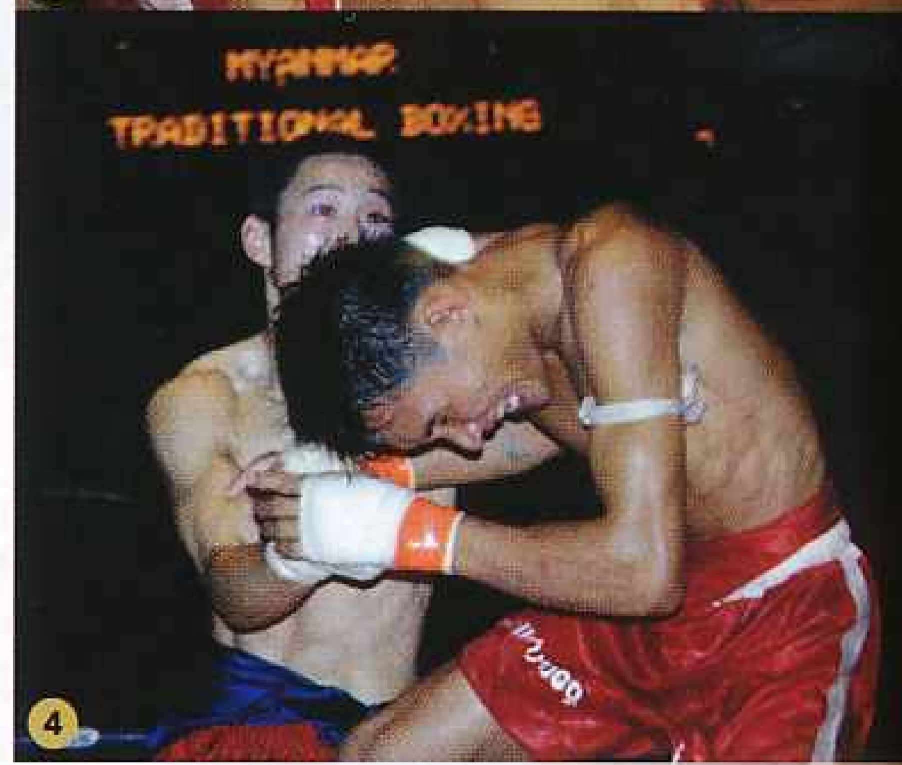






①控室前でシャドーを行う若杉の周辺に観客が集まり、公開スパー状態に。ウォークマンで聞いているのはカーペンターズ（なぜだ） ②ウィンのパンチが若杉の顔面へヒット ③新美へパンチを繰り出すシュエ ④ドローとなった新美とシュエ、両選手にトロフィーが贈呈された ⑤1勝1分けという結果を出した田中塾、控室でガッツポーズ！ ⑥ロープ際、投げを嫌ったシュエがリング外へ倒れ込む





①KO勝利の瞬間、田村を見つめる田中塾長の目に涙 ②ラウェイ王者田村彰敏誕生。上に見えるのは……（田中×藤原対談参照） ③＆④タックルでセインを倒し、首相撲からヒザを叩き込もうとする田村。次の瞬間、ラウェイの歴史に風穴があいた！ ⑤日本人で最初にラウェイと闘った男・山本は空手着で入場 ⑥山本の相手ナイ・ワン・レイは、参戦選手中最強と評判だった ⑦試合を見つめる西と若杉。西の大きさはミャンマーでも際だっていた ⑧身体を乗り出して日本人選手を見ようとする観客。ピースサインは世界共通



続く2日目、ミャンマーの新聞は前夜の出来事を「事件」として大きく報道。リングサイドのカメラマンも倍増、観客もさらに増えた1万3500人のミャンマー人が会場にひしめきあい、前夜闘った山本、田村の姿を認めると次々に観客が握手を求めにくる。

セミファイナル、日本人との対抗戦実施がコールされると観客が大きな拍手。リングインした若杉が、ワイクーの中で相手を日本刀アクション。相手のウィン・トゥンは払いのける仕草で返す。会場が闘いへの期待で沸き返った。

突進してきたウィン、若杉の顔にヒザをブチあて、パンチでコーナーへ。詰められた際、抱えて投げようとする若杉だったがウィンはロープを掴んで逃げる。どう考えても反則に思えるが、このあたりはルールが整備されていないためブレイクになるのみ。1R終了、ウィンのパンチで若杉の歯が折れている。

2R、首相撲をさけて差し合いにいった若杉に、ウィンが細かく鋭い頭突き。3Rでタックルに入ろうと重心を落とした若杉の顔面へ、ウィンの左ヒザがサッカーボール気味にヒット！　若杉が立ち上がるも、レフェリーが試合を止めた。

対抗戦のトリを務めるのは、今回がデビュー戦となる田中塾の新美吉太郎。ゆっくりと四方へ礼した新美の腰に、田中塾長がラウェイ戦士の印である布をぎゅっと巻き付ける。

高い緊張感の中試合スタート。様子をうかがう両者を、演奏がせきたてる。ローの相打ちから飛び込んできたラウェイミドル級チャンピオンのシュエ・サイを、新美がネックロック気味に捕らえるが、すぐにブレイク。新美のタックルにはロープを掴んでかわすも、パンチで踏み込みきれない王者へブーイングが起こる。5R終盤、相手を倒せないシュエ・サイの姿にざわめきが起こる中新美がタックル。これをいやがったシュエがロープごしに倒れ込んだところで試合終了。判定なしの両者ドローとなった。

ともに表彰されるもリングを去るシュエ・サイには「バカシュエ・サイ」「アホシュエ・サイ」の大合唱、リング上でワイクーを踊る新美には大歓声。日本人初参戦の"敵地"とはとうてい信じられない光景がそこにあった。



■山本武晴（やまもと・たけはる）
所属：パワーナインジム。身長167cm、1972年12月15日生まれの31歳。今大会では最も強いと言われていたナイ・ワン・レイと対戦。バックドロップとジャーマン・スープレックスを披露しミャンマー人の度肝を抜くことに成功する。最初の試合という大役にも「感情が表に出ないだけで、気持ちはワクワクしていた」と語る山本。「次はジャーマンで一発KOします!」。自分のジムを開いた際は、リングに洗濯物を干すのが夢だと語る『紙プロ』愛読者。[写真右]

■新美吉太郎（にいみ・よしたろう）
所属：格闘結社・田中塾。身長177cm、1979年7月23日生まれの24歳。アマ修斗東日本ミドル級優勝。今回がプロデビュー戦ながら、田中塾長の大抜擢を受けて参戦。誰よりも落ち着いた表情で対抗戦の大トリを見事に務め、ビッグハートぶりを日本人関係者にも見せつける。田村からも「新美さん試合中、ローをカットして蹴り返してニタッて笑ってましたよ」と驚かれていたが、田中塾へ入るまでは格闘経験なしの野球少年だったという。[写真右から2番目]

■田村彰敏（たむら・あきとし）
所属：格闘結社・田中塾。身長175cm、1980年5月31日生まれの23歳。最年少ながら見事KOで歴史的勝利をおさめ、"ミャンマーの藤原敏男"となる。普段は少年のような笑顔を絶やさないが、試合前は表情が一変。総合格闘技を志して田中塾へ。「日の丸とかいっぱいあるなぁとは思ったけど、そういうものかなぁと」。今回は家族に「ムエタイツアーに行ってくる」と告げて挑んだが、父はインターネットで息子のニュースを発見していたらしい。[写真左から2番目]

■若杉成次（わかすぎ・せいじ）
所属：和術慧舟會・福岡支部。身長170cm、1978年5月12日生まれの26歳。前日会見で「日本は武道の国です。武道を見せます」と発言、田中塾長の心を掴む。師匠である西良典も実力を高く買っているが「若杉は話術慧舟會」とも語っている。西に「オマエが負けてシュンとなるところも見てみたい」と試合前のデリケートな時に言われ、結果は敗北となるもシュンとはならず。ラウェイ参戦後は8月2日アマレス国体予選へ。若杉の挑戦は続く!
[写真左]



敏が入場。厳しい表情ながら一礼。

の日誕生した。



田村彰敏&新美吉太郎

「総合格闘技をやるんなら、世界最強を目指すのが当たり前でしょう」

――まずは田村さん、ラウェイ100年の歴史に残るKO勝利おめでとうございます！　ケガや体調は大丈夫ですか？

田村　いやもう……腹もおかしくなったし、熱も出ちゃって大変でした。今でも背中が痛いんですよ。

――あぁ～、思いっきり背中の中心にヒジ打たれてましたもんね。

田村　脊柱にヒジありなのは、ラウェイくらいッスよ（苦笑）。

――デビュー戦ながら引き分けという結果に持ち込んだ新美さんは……4人の中で一番きれいな顔でしたよね（笑）。

新美　おかげさまで無傷でしたね（笑）。タンコブくらいです。

――ラウェイで一勝一分けという結果をあげられたということで、田中塾の強さの秘密みたいなものをお伺いしたいんですが、お二人が相当厳しいと言われる田中塾でのトレーニングを続けてるっていうのは、やっぱり田中先生の魅力もあるんですよね？

新美　（即座に）もちろんですよ！

田村　そりゃそうですよ。じゃなきゃ続かないッスよ。

――そうですよね。田中先生はやっぱり強いですか？

田村　強いですよ！　アキレスかけられた時、1ヶ月まともに歩けなかったですもん。

――それはほとんど壊される寸前ですね（笑）。田村さんが勝った瞬間、田中先生も新美さんも男泣きしてらっしゃいましたけど、あの瞬間見ていていかがでしたか？

新美　いやぁ……ホント劇的でしたよね。格闘技やってて良かったって思いましたよ。

田村　勝った瞬間、シンとなってもおかしくないのに、すごいミャンマーの観客は暖かかったですよね。試合の次の日、自分は朝ホテルのまわりを散歩しにいったんですよ。そしたらミャンマー人がこう、ヒザ打つマネして「昨日、見たぜ！」みたいな感じで話しかけてきてくれて（笑）。嬉しかったですね。

――次もミャンマーで……っていうのは？

田村　……うーん（笑）。

新美　頑張ってください（笑）。チャンピオンですから。

――ベルト持って帰って来ちゃいましたからね（笑）。

田村　いや（笑）、正直わかんないッスよね。あんな危ないルールで向こうのチャンピオンと闘うなんて一生に一度だと思ってたんで……。あのテンションにもう一回持っていけるかっていうと……。

――同じ気持ちっていうのは、なかなか難しいでしょうね。新美さんの次は国内デビューになると思うんですけど、やっぱり修斗のリングになる感じですか？

新美　自分はやっぱり最強になりたいっていう気持ちがあるんで、総合格闘技が一番やりたいですよね。でも……最近の修斗みたいに、競技化しちゃってるのはどうかなぁって見てて思いますね。

帰ってきた!?　電気部日記出張版

ミャンマー・ラウェイ取材日記

BY・ささきい

★7月2日

ミャンマー・ラウェイ取材を決めたはいいが、パスポートが切れていた。これは行けないんじゃないだろうか。「行くのが可能であれば、どんな手を使っても行きます」と、今回の旅のマネージャーを務める全日本キック・宮田さんへ宣言する。今にして思えば、そんな宣言をされても困るだけだったと思う。

★7月5日

パスポート申請窓口で多少ゴネてみたが、発行期日は変わらない。前日記者会見が行われる9日発行、当日のバンコク入り。ビザは当日午前中申請、午後発行の予定。海外はOL時代にグァムとサイパンに行った2回だけしかない。3回目がミャンマー。つなわたりすぎる初の海外取材。

★7月8日

ミャンマーの日本大使館へ念のため問い合わせてみたところ「ビザの当日発行はこの1年くらいやっていない」という、信じられない返事をもらう。海を越えたミャンマーの通訳氏にメールで泣きつく。「なんとかするのでパスポートのコピーを送ってください」という暖かい返事をもらうが、「パスポートが出来るのは明日です」という恥ずかしい返事をする。

★7月9日

パスポートのコピーをファクス。ミャンマーはビザがないと入国できないため、最悪、向こうについても国に入れない可能性がある。「もう知らない」と自暴自棄のままバンコク行きの飛行機へ乗り込んで爆睡。ホテルでさらに眠る。

★7月10日

朝一番の飛行機でミャンマー着。ビザはきちんと発券されていた。ガイドのリャンさん（佐藤浩一似）と雑談しつつ、選手団の泊まるホテルへ。ボブ・サップや曙の存在は、ミャンマーでも知られていた。「サップは、パフォーマンスは上手ですけど、あまり格闘技には向いていないように見えます。私は格闘技素人ですのでなんとも言えませんが」とリャンさん。ミャンマーでも知られるサップのサップぶりに感心。

ホテル着。偶然下のロビーには旅のコーディネイトをしてくれた高森さん、藤原先生、田中塾長、そしてBUDO-RAの山田編集長、早田カメラマンがそろいぶみ。高森さんに「佐々木さんのビザ発行に、ミャンマーの副大臣が動いたよ」と笑いながら言われる。笑い事ではない。ビザ即日発行をなしとげた日本人は私で2人目だという。1人目は怖くて聞けなかった。

田中塾長から「これおいしいよ」と、オレンジのビンに入った液体を手渡される。おそるおそる口をつけてみると、鼻にツンとくる刺激臭と苦み。強い酒だろうかと思ったらそれは選手の身体に塗るタイオイルだった。海外取材はつねに危険と隣り合わせ。強い判断力をもとうと心に決めた。

会場へ向かう前、ホテルの日本料理屋で昼食を取る。慧舟會の若杉成次選手が同行した渡邊久江選手に「江戸幕府が出来たのは何年前か」「廃藩置県の意味は」「徳川家康の息子は」など、次々に問題を出してからかっている。今だから言うが、私も出された問題の半分以

でも廃藩置県は知ってたよ。

前日は早く会場入りしすぎて、選手たちの気持ち







らっしゃいましたけど、あの瞬間見て見てて思いますね。

“格闘ジャンヌダルク”改め、ミャンマーのアイドル!?

渡邊久江



ミャンマーには、ホントに試合したくてついて行ったんですよ。とりあえず行っちゃって、怒られるの覚悟で強行出場かなとか思って（笑）。まぁ、結局は出来なかったんですけど、それもまた運命かな、と。

日本人選手の闘いは、もうみんな気持ち的に折れなかったのが凄かった。その中に混じって私もやりたかった（笑）。4人とも、どれもこれもすごい印象に残りましたね。ホント、試合ってやっぱり勝ち負けだけじゃないんだな、って。田村選手なんて作戦も聞かされてなかったから、見てて「もっといかなきゃ」なんて思ったんだけど、もう作戦勝ちですよね。あれだけ見事なKO決められたら何も言えないですよ。他の選手も、全部引いて負けた選手はいないと思うし、そこはホント素晴らしいなって思います。

藤原（敏男）先生の印象ですか? あんまりこわいとかは思わなかったですね。私、あんまり人に対してこわいとか思わないんですよ。こわい人の中でも、かわいい面とか見つけちゃう感じで。先生はすごくいい人で、そういう意味でホントかわいい人でしたね。田中さんは、あたしみたいなタイプ嫌いな人かなって思ったんですよ。でも話してみたらいい人で、それでフタをあけてみたら面白い人でしたね（笑）。

試合は、今は次が（8・11）決まってるんで気持ちはそっちに切り替えてますけど、機会があればホントやってみたいです。ミャンマーで会った人たちも、みんな期待してくれてたんでその気持ちに応えられたらいいな、って。

単純にミャンマーにもう一回行きたいですね。女子ラウェイで無敗の選手がいるんですけど、負かしてみたいですね。見た感じ私、彼女とならすごいイイ試合できると思うんですよ。ヒジとかもあるし、KOされちゃうかもしれないけど、どっちもひかないでいい試合できると思うんですよ。……あんまり考えると次で反則しちゃうんで、今は考えないようにしときます（笑）。でもホントに試合したくなったら、こっそり行ってやってきちゃうかもしれないけど（笑）。その時はぜひ、取材お願いします（笑）。



11日のメイン後に行われた女子の試合後に、花束贈呈で登場した渡邊。大会前日の会見から渡邊の存在は高く注目され、試合も期待されたが政府関係者の強い反対をうけたため実現されることはなかった。なお、この関係者は田村勝利の瞬間に声をあげて号泣していたという。

対ミャンマー・ラウェイ1勝1分け!! 格闘結社・田中塾の強さに迫る!!

——そのあたりはすごく田中先生的な考え方ですね（笑）。

新美　押さえ込んで勝つとか、そういうのはキライですね。テイクダウンして押さえ込む技術があれば勝てるみたいなところがあるじゃないですか。

田村　あぁ～、そういうのはサイテーですよね（笑）。ていうか、試合終わって両方無傷で、それが男の闘いかって思いますよ！

——いいですねぇ。こちらが見たい田中塾の姿勢そのものですね（笑）。

新美　最初にテイクダウンいってそのままでって……1ラウンドから3ラウンドまでそれだと、もう金返せですよね。それやってたら何もわざわざ総合やる必要ないと思うんですよ。あえて総合をやるんなら、やっぱり最強を目指すっていうのが当たり前じゃないんですかね。

——見てる立場にとってその姿勢は最高ですよ。お客さんが見てて面白い試合みたいなのって意識はしますか？

田村　いや……自分はあんまりそういうことは気にしないッスね。ただ単にガンガン必死で闘わないと、自分の気が済まないんですよ。

——お二人ともその姿勢は非常にラウェイ向きですよね（笑）。

田村　アハハハ！　どうなんですかねぇ（笑）。

新美　競技化しちゃった総合やるくらいだったら、自分はブラジルへ素手のバーリトゥードやりに行ってみたいですね。

田村　あぁ、それは自分もやってみたいですね。やれるのはブラジルかロシアだと思うんですよ。でも、一回でいいです（笑）。

——ロシアだったら先生もきっと喜んでついてきてくれると思いますよ（笑）。次の挑戦にも期待してます！

【7月21日、津田沼の格闘結社・田中塾にて収録】



7月24日、全日本キックのリングへ田村・新美が登場。新美はマイクで「今回、キックの選手が出なかったので田中塾が挑戦してきました」と挑戦的な挨拶。「ミャンマーには、金じゃあ買えないロマンがあふれていました。道は俺たちが造ったので、次は勇気あるキックボクサーが挑戦してくれることと信じています」と続けた

徹底密着取材!! ミャンマー・ラウェイとは何か?

昼食を取る。慧舟會の若杉成次選手が同行した渡邊久江選手に「江戸幕府が出来たのは何年前か」「廃藩置県の意味は」「徳川家康の息子は」など、次々に問題を出してからかっている。今だから言うが、私も出された問題の半分以上は全く分かっていなかった。ごめん、渡邊選手。でも廃藩置県は知ってたよ。

前日は早く会場入りしすぎて、選手たちの気持ちにいらぬプレッシャーを与える結果となったため、この日はゆっくり会場に行くことに決定。だが出発時間、通訳が大慌てで「もう6試合目です」とこちらをせかす。急いで会場へ向かうとまだ4試合目だった。

試合後、会場を出る時に「日本人は強かったよ。本当に素晴らしい闘いだった」と、ミャンマーの観客に日本語で言われ「ありがとう」と答える。

★7月11日

翌日会見、田村選手と闘った相手が欠席。ケガのダメージが大きかったのかと心配されたが、ミャンマー側が語った欠席の理由は「彼はジャケットを1枚しか持たずに来た。そのジャケットが乾いていないから会見には出席できない」。……。そんなわけねぇだろ！

呆然。「宿題はやったんですけどノートを忘れました」という、小学生のときの言い訳を思い出す。ミャンマーは仏教国で、本当に嘘がつけない国民なのだなと日本人一同しみじみ思う。後日聞いた話によると、選手自身は出席して礼を尽くしたかったらしいが、渡邊参戦にも大反対した「政府のえらい人」が、彼の会見出席を「恥さらし（！）」と断固として止め、ミャンマー側が断腸の思いでついた嘘が「ジャケットが乾いていないから」らしい。たぶん彼のジャケットは当分乾くことはないのだろう。

ミャンマーの孤児院を訪問。子供たちを見る田中塾長の目がとても優しかったので「塾長、子供好きですか」と訪ねてみると「好きだね。でも犬のほうがもっと好きだね。犬は裏切らないから」と、奥深い発言をされる。パコダ（寺院）をたずねた後空港へ。

1時間のフライト中、西監督と伊達木氏に話を聞く。愛妻家・西監督が結婚前、奥さんに保険を解約して100本のバラを送ったというエピソードにも感動。「そういう男を見つけることですよ」と言われ、少しブルー入りつつも「ハイ」と返事。バンコクの空港で選手団一行と別れる。



★7月12日

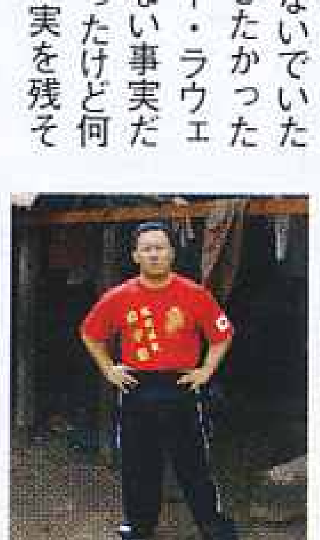
この日朝の便で帰るのは、パンクラス尾崎社長と私だけ。さみしい気持ちでちょっとへこんでいた私のお腹を激痛と下痢が襲う。症状は5日間続いた。

痛むお腹をかかえつつもミャンマー・ラウェイのことを考える。今回、強引に取材へ行くことを決めたのは、参戦する選手たちを見届けたいと思うのと同時に「ここで遠慮していたら、この仕事についている意味がない」と思った。自分が興味を持って、見届けたいと思う対象がそこにあるのに、自分の能力のなさに対する不安などのデメリットを気にしていて旅立たないでいたら、自分の歴史には「行きたかったけど行けなかったミャンマー・ラウェイ」という、どうしようもない事実だけが残る。だとしたら「行ったけど何も出来なかった」という事実を残そう。そう思った。

世界は広くて面白い。こんな機会がなかったら、ミャンマーという国に足を踏み入れることもなかっただろう。世界は広くていろんな人間がいて、いろんな格闘技がある。ごくごくあたりまえのことを肌で感じた。その事実はいつの時代でも変わらない、いくら探求しても足りない大きな課題であり希望だ。

迷いながら行くことに決めたミャンマー・ラウェイだったが、今では本当に「行けて良かった」と思う。頭の奥に世界へつながる道が出来たような、そういう感覚が帰国後もずっと続いている。





ミャンマーvs日本の対抗戦には日本人の闘いに望むものすべてがあった



「不平等を克服した者こそが英雄になれる」と本誌54号で語っていたのは活字バーリ・トゥードの第一人者、堀辺先生だ。今更その文章を読み返して、あらためて〝不平等な状況〟という言葉について考えた。

ミャンマーへ発つ2日前、日本では『K・1MAX』が開催されていた。会場でその闘いを見ていた私は、魔裟斗とブアカーオ・ポー・プラムックの判定を見ていて「なぜ、私を含む日本人は、魔裟斗優位の判定を心情としてヨシとしないのだろう」と、考えていた。海外へ行って「自国のヒーローである魔裟斗が、日本で生まれたK・1という競技でムエタイ戦士のブアカーオに判定負けした」と外国人へ教える（実際にはそんな機会はなかったが）のは、非常におかしな気がしたのだ。

日本へ戻り、冒頭に引用した堀辺先生の言葉を読んでいてあらためて気づいた。どんな闘いに対しても、公正さを求めるのが日本人というものなのだ。「相手の土俵、もしくは相手と対等、それ以下の状況で闘って勝たないと、勝ったとはいわない」のが、日本人という不思議な生き物なのだ。相手が刀を持っていなければ、自身も刀を捨てる。相手が武器を落とせば闘いを中断して「拾え」と言う。そういう心意気のもとに生きてきたのが、日本人であり、近頃見直されている「武士道精神」というものではないのか、と感じたのだ。

そして、そういう「不平等な状況」へ向かっていく者を、日本では「サムライ」と呼んだのではなかったか。この対抗戦は、まさしくそんな「不平等な状況」へ向かっていく「サムライ」たちの闘いだった。

田中健一塾長は「今回が田中塾の最終章だと思って挑んだ」と、幾度も繰り返していた。その弟子である田村は「塾長はあまり言いたがらないかもしれないですけど」と前置きした上で「塾長は、自分がヒジありのルールで負けているから、弟子にヒジありのルールで勝たせたかったんだと思うんですよね」と語ってくれた。

二敗という結果に終わった慧舟会勢だったが、監督・西良典は「田中塾が一勝一分けだったのに対し、うちは負けてしまって日本の負け越しになってしまった。選手団に対して申し訳ない」と語った後「次はミャンマー人が考えつかないような技を考えます。相手の上を行きますよ」と、次戦へのプランをすでに考えはじめていると明かしてくれた。山本武晴は「自分が勝てなくても、弟子を育ててラウェイに送り込みたい」と語り、参戦について「面白いな、って思いましたね。自分の人生が小説だとしたら、ここでミャンマー行きってすごくいい一小節になるなって。試合の時も大歓声で嬉しかったですよ。『猪木vsペールワンみたいだ』って」と、ボコボコの顔で笑いながら語ってくれた。若杉成次は、試合直後から「このままじゃ終わらないですよ。そんなお上品じゃないですから」と宣言し、大会翌日はミャンマーの関係者がいる記者会見で「自分とラウェイとの闘いは、まだ終わっていない」と言い切った。

帰りの飛行機で、西は「慧舟會の一番の武器は〝しつこさ〟ですから。自分はカーマンもヒクソンもまだまだ追いかけるし、ラウェイも追いかけます」と、90年9月のロブ・カーマン戦、94年の日本人初となったヒクソン・グレイシー戦のリベンジも忘れていないと、当然のように言い切り、自身の参戦についても「もちろんやりますよ」とキッパリ。「興味がどんどんわいてきました。トレーニング開始しますから、時間さえもらえれば」と、早速ラウェイ対策を練り始めている。

新たな闘いのテーマを、敗北という結果から掴みとって次へ進むタフさ。今回を最終章と決めて挑んだ田中塾とは、また違った力強さがそこにあった。田中健一塾長がヒジありルールへのリベンジを弟子に託したように、慧舟会勢の思いはまた次のステージへ向かって、さらに熱さを増して進んでいく。

「相手の土俵で、相手のルールで、未知の格闘技と闘う」という、これ以上ない舞台の上で、4人の選手は最高のサムライぶりを見せてくれた。危険なルールで、相手は全員チャンピオンで、取り扱うマスコミも少なく、もっと言えばギャラさえ出るのか分からない中、最初に闘いへ挑んでいった彼らは本当に頼もしかった。そして、藤原敏男に憧れてキックを始めた人間より、さらにひと世代、もしくはふた世代下にあたる自分たちの世代にもまだ〝未知の格闘技〟との闘いというロマンが残されていたこと、それに挑戦しようとする無謀な人間がいたことを、とても嬉しく思う。タフであること、いつでも笑いを忘れないこと、心折れないこと、闘いのロマンに果敢に挑むこと、そして不平等な闘いへ自ら挑むこと。ミャンマーvs日本の対抗戦には、日本人選手の闘いで見たいものすべてがあった。

今回の闘いを経た後も、ミャンマー側は日本へラウェイ戦士を送り込む日が来ることを待ち望んでいる。闘いを求めて旅立つ日本人選手も現れるかもしれない。ラウェイという新たな闘いの舞台は、とびきり危険ではあるが、非常に独特で魅力的だ。ミャンマーにラウェイがあるように、日本には武士道があり、サムライがいる。それは、他の国から「未知の格闘技」のように魅力的に映っているはずだ。海のむこうにいる強豪の存在は、いつも闘う者と見届ける者をわくわくさせてくれる。次の闘いへ挑む選手が、他国で日本人戦士への尊敬と信頼を植え付け、何より強さを見せつけてくれることを願う。今回の4選手が、充分にその任務を果たしていたように。

初代王者決定トーナメントを前に赤いパンツの頑固者が語る



徹底密着取材!!
ミャンマー・ラウェイとは何か?

団長＆監督が語る

ミャンマー・ラウェイ珍道中

ミャンマー・ラウェイ選手団・団長 藤原敏男

ミャンマー・ラウェイ選手団・監督 田中健一

古くからの『紙プロ』読者にはおなじみのタナケンこと格闘結社・田中健一、久々の登場！“素手の超過激格闘技”ミャンマー・ラウェイ1000年の歴史において、初の外国人勝者を誕生させた田中塾。選手団・監督のタナケンと選手団・団長の藤原敏男が、旅の思い出とともに、男とは何か、サムライとは何かを多いに語った!!　日本男子全員必読、ラウェイ以上に過激な言葉が飛び交う激辛対談スタート！　押忍!!

聞き手／中村カタブツ君（41歳）＆さささきぃ　撮影／松澤チョロ

designed by bun-chan（Two Three）

ている「武士道精神」というもの
ボコボコの顔で笑いながら語ってく
スコミも少なく、もっと言えばギャ
任務を果たしていたように。

ミャンマーvs日本の対抗戦には

——今日はミャンマーで千年の歴史を持つ素手の立ち技バーリ・トゥード）との他流試合を制した格闘結社・田中塾の田中健一監督と、日本選手団団長の藤原敏男先生のスペシャル対談なんですが、本題に入る前にちょっと気になることがありまして、今夜田中塾に道場破りが来るっていうのは本当なんですか!?

田中 いや、それは昨日ッスね。結局来なかったッスけど、今日来るかもしれないですよ。「明日か、明後日来る」って言ってたんで。

——随分アバウトな道場破りなんですね（笑）。

田中 3日前に通訳連れたアメリカ人が来たんですよ。頭おかしいッスよ。

——さすがは田中塾ですね。日本に戻ってまで他流試合に関わっていくと（笑）。

田中 もういいッスよねぇ。自分、ミャンマーに行ってて一週間道場に居なかったからやることいっぱいあって、それに帰ってきてから腹も痛くなって大変ですよ。今日も病院行ってきたんですけど、藤原先生、腹は大丈夫ですか？

藤原 大丈夫だけど、俺も昨日やっとだよ、12時前に寝たの。

田中 そうですよね。自分もしばらく格闘技の仕事とかしたくなかったんですよ。格闘技関係者とも会いたくなかったし、こういうインタビューもやりたくなかったんですけどね、本音を言うと。

藤原 ということで今日は中止になりました（笑）。

——ワハハハ！ そこをなんとか（笑）。

田中 いや、それぐらいの気持ちでやったんですよォ。もうやるべきことはすべてやってミャンマー行きましたからね、練習とかも作戦とかも全部。

——なにしろ、ヒジ打ちあり、頭突きあり、投げ技ありで、しかも素手でやる立ち技のバーリ・トゥードですからね、ミャンマー・ラウェイは。

田中 だから、さすがに今回ばかりはそんなルールで「弟子に出ろ」って強制することはできなかったですよね。でも、田村（彰敏）と新美（吉太郎）は自分から「出たい」って言ってきたんですよ。その時は嬉しかったですね。でも、「じゃあ、出ろ」って言うんじゃなくて、「ビデオを見てからもう一回考えろ」って。それでも「やります」って言ったんですよ、アイツらは！

藤原 そのビデオも凄い内容だったよ。

田中 血だらけで殴ってましたからね。素手だと3発ぐらいまともに殴っても立ち上がってくるんですよね。あれ、外傷あるんですけど、脳には響かないからですよねぇ、先生？

藤原 あれはあとで効いてくるんだよ。

——お二人は素手での闘いを極めていらっしゃるんで分かるんですね。

藤原 それは佐山だろ。ストリートファイトをやってたのは佐山だよ。

田中 いや、藤原先生といえば、市街地型実戦格闘技・掣圏道のモデルですからね（笑）。でも、このミャンマー・ラウェイにはやっぱり運命っていうのを感じたんですよォ。というのも、ウチで毎年開催するアマチュアの実戦格闘技大会ってあって、それのプロ版みたいな感じなんですよね。だから、自分がやりたかった理想の格闘技にようやくたどり着いたっていう喜びもありましたね。もっと早く、自分が現役バリバリの頃にこういうのをやりたかったって感じですね。

藤原 田中ちゃんの所は普段からああいう練習してるからね。

田中 そうですね。基本的に掣圏道寄りであり、ラウェイ寄りの練習ですから、ウチにはバッチリでしたね、あのルールは（笑）。でも、自分、昔のムエカッチューア（ミャンマー・ラウェイの別称）の映像は何回か見たことがあって、それは技術があんまりないものだったんですよ。それが最近のを見たらかなり発展して、こんなに凄くなってるって思わなかったんですよ。だから、今回は佐山代表と藤原先生のアドバイスで首相撲と前蹴りをきっちりやっていきましたね。

藤原 結局、こっちはどっちみち未知の格闘技だから組んでからが勝負だろうなって思ってたんだよな。

田中 絶対、ムエタイっぽい試合の流れになったら負けるなって思ってましたね。だから、弟子たちには首相撲からの投げとかを徹底してやらせましたね。

藤原 あとは組む前の前蹴り。この間のK-1MAXのブアカーオの後ろに体重乗っけて蹴る、ああいう前蹴りだな。

田中 首相撲を2分間やらせて、次はミットを持ってるヤツが前に出てくるのを前蹴りで止める練習を2分間。これを交互にず



ストリートファイトをやってたのは佐山だろ！

いや、藤原先生といえば、掣圏道のモデルですから（笑）

っとやってましたね。自分、あ

バカじゃないなっていうか、お利

初代王者決定トーナメントを前に赤いパンツの頑固者が語る





愛弟子・田村彰敏がヒザ蹴りでKO勝ちした瞬間、田中塾長の目には大粒の涙が。会場が予期せぬ日本人の勝利に騒然となる中、田中塾長は弟子に水を飲ませた後しっかりと抱きしめ、健闘を称えた。写真左は勝利後、控室で藤原会長と田中塾・新美吉太郎を交えての記念撮影。田村勝利後の日本人控室には、ミャンマーの報道陣が詰めかけてごった返す大騒ぎとなった。

っとやってましたね。自分、あのルールに勝つにはどうしたらいいかっていうのをノートに何冊も書きましたよォ。

――そうだったんですか?

藤原　田中ちゃんはこういう顔だけど、意外に繊細な神経を持ってるからね（笑）。

田中　だから腹が痛くなるんッスよォ（苦笑）。

――ただ、その割には向こうに行く前に過激な発言をしてましたよね。〝日本のキックボクサーが挑戦されたのに、総合格闘技のウチがいくんだから、これからキックボクサーはファイトマネーの5％をウチに上納しろ〟と（笑）。

田中　そうッスねぇ。でも、いまにして思えば、会場に行ってあの試合を数試合見て、「ああ、日本のキックボクサーもバカじゃないな」って感じたんですよ。バカじゃないなっていうか、お口さんだなって感じたんですよ。……お利口さん？（苦笑）。

全日本キック・宮田　……お利口さん？（苦笑）。

――どうなんでしょうか、全日本キック関係者としては（笑）。

宮田　いや、この話は実際、全日本キックとの間で5月に決まりかけていたんですよ。ただ、向こうの国内情勢が不安定になったってことで一回延期になって、6月の初めぐらいにもう一回話が来たんです。だけど、一回延期になってるんでなかなか動き辛いところがあって、そういう中で田中塾さんと慧舟會さんが手を挙げていただいたんですよ。

田中　俺達としては、本当は最初にキックボクサーが行ってコテンパンにされて、「じゃあ、俺達が行ってやる」って感じで行きたかったんですよ。

宮田　そうですか（苦笑）。

田中　勝手に自分でそういうストーリーを作ってたんですよ。ところが先に行くことになって、「なんだ先に俺たちだってよ」って。

藤原　だから、かえって良かったんだよ。トップに出ていって、魂を持った、武士道精神を持った男たちがまだいるんだっていうことを見せれば一番いいんだよ。

田中　そうッスよね！　でも、自分ら、こんなことばっかりやってるから金には縁がないんですよ。ただ、今回は上納金貰えることになるんで（笑）。

宮田　……（苦笑）。

田中　まあ、それは半分冗談ですけど、宮田さんが自腹切って送ってくれるって言うんで（笑）。

宮田　え、なんか話がドンドン進んでますね（苦笑）。

田中　ふふふ。でも、大したも

ミャンマーvs日本の対抗戦には

んだなって思ったのが田村も新美もアイツら全然不動心なんですよね、向こうに行っても。逆に自分のほうが興奮してましたねぇ。試合前はあんまり寝られなかったですから。

藤原　何にせよ、最初にやるっていうのは大変だよな。選手は一番苦労するし、指導するほうも選手以上に「ケガするんじゃないか」とか、「何か起こるんじゃないか」とか、いろいろ気を使ってね。まして食い物が合うかどうかも分からないし、全てのことを考えないといけないから。

田中　国対国の対抗戦ですからね。そこで敵地に乗り込んでいった選手たちは凄い勇気ありますよ！　自分も、「もし田村たちが勝ったら暴動もんだろうな」ってことも考えてて、少なからず準備しましたよ。「俺が止めなきゃいけねえんだろうな」って。

――暴動が起きた時用の準備ってどんな用意をしてたんですか？

田中　準備っていうか、1人で止められるようなアレじゃないですからね。

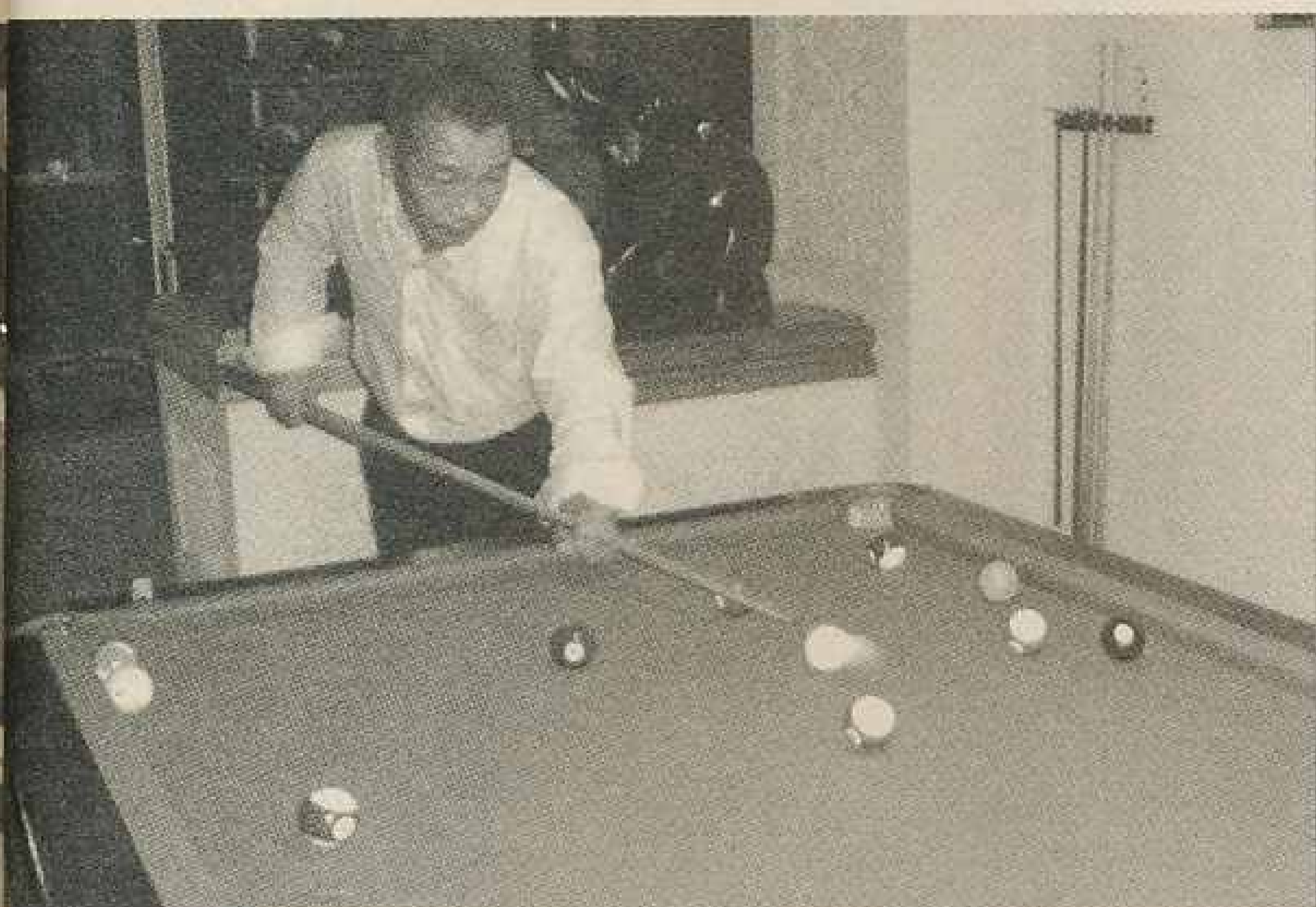
藤原　俺はパチンコ用意してたよ。

田中　向こうの警官はピストルじゃなくてパチンコを持ってるんですよ（笑）。ちょっと原始的なんですけどね。石を一杯持って。

藤原　で、俺は山田（＝同行した格闘技雑誌『BUDO－RA』編集長の山田英司）を相手にちょっと練習したんだよな。最初は練習用の割れる玉を身体に当てて、「じゃあ、次は石だぞ」って（笑）。

田中　やってましたねぇ（笑）。

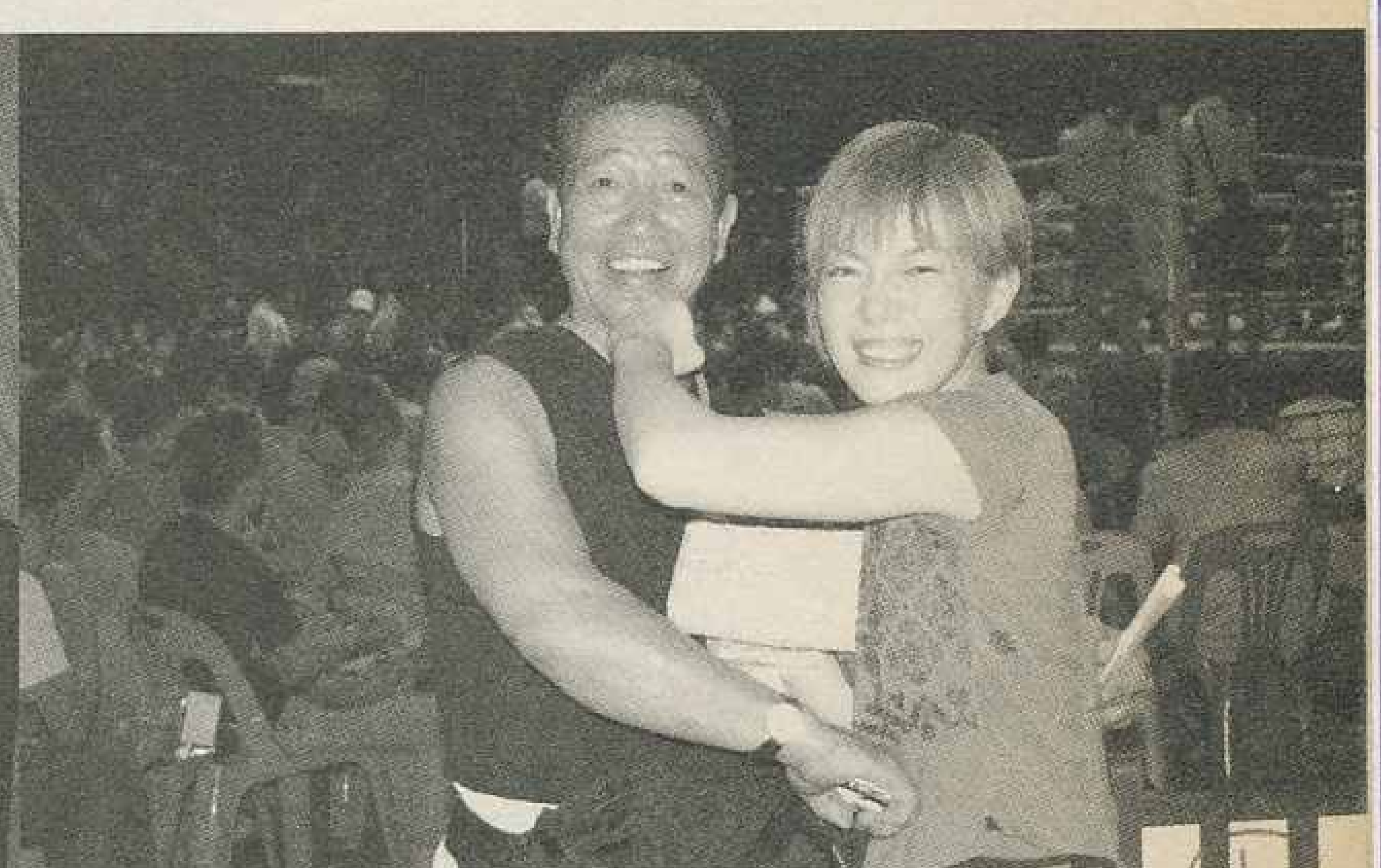
藤原　でも、本当に暴動起きたら何にもできないよな。やるしかないんだよ、もう。



大会終了後、ホテルのバーでビリヤードに初挑戦する藤原団長。タマを狙う視線は真剣そのもの。たたずまいに大人のシブさが漂っている。さすが団長！



日本人参戦のきっかけとなった、パンクラス尾崎社長を藤原団長がなぜかヒジで一撃（？）



ラウェイ参戦を志願しミャンマー遠征に同行した渡邊久江と藤原団長。常に威厳あるオーラ漂う藤原団長だが、渡邊の前では、なぜかチャーミングな表情に!?

田中ちゃんたちは夜の探検に行っちゃったからね（笑）（藤原）

田中　実際、田村は初日（試合は二日間に渡って行われた）に勝ったんですけど、次の日会場行ったら、田村の看板に穴が空いてるんですよ。パチンコで打った痕なんですよ。だから、それを見てちょっと身の危険を感じましたね。どうですか、先生、ちょっと暴動起こるような感じしました？

藤原　起きてもおかしくないかなっていう感じはあったよ。俺だってタイの選手を破った時には「ヤバイんじゃねえかな」って思ったからなぁ。

田中　田村と新美にはそのことも言ってあったんですよ。にも関わらずあいつら不動心でしたね。大したもんですよ。

――試合でも田村さんはヒザ蹴りでKO勝ち、新美さんもプロデビュー戦なのにドローまで持ち込んだんですよね。

田中　自分もやっぱりバカじゃないですから、全然勝率がゼロなんて言うのに弟子を行かせるわけないし、少なからず勝率があったから行かせたんですよ。でも、あんなに作戦通りに行くとは思わなかったですよ。田村がもし勝つとすればなんらかの投げで頭を打つか、左のヒザ蹴りかと思ってたんですけど、それがズバリ当たって左のヒザ蹴りだったんですよ。で、田村が言うんですよ、「なんであんな軽く出した蹴りで倒れちゃうんですかね」って。だから、自分は「バカ野郎、それが一番威力があるんだ」って言ったんですけどね。技っていうのはそういうもんだし、田村がそれを分かったって言うのも収穫ありましたね。

藤原　向こうは日本人を総ナメしちゃえという考えで予選やって、最強の相手をリングに上げてるんだよ。だから、観客も熱くなってて、新美とやった選手は1ラウンドが終わったあとで、「なぜ日本人相手に攻めきれないんだ」とブーイングされてたからな。

田中　そうッスね。向こうは勝たなきゃ勝たなきゃって凄い緊張丸出しで、逆に可哀想でしたよね。まあ、新美の場合は判定をつけるとすれば新美が負けちゃうような内容なんだけど、アイツはアイツでデビュー戦の割には良くやったと思いますよ。

藤原　彼の相手はラウェイでも無敗の男だったんだよな。

――そんな人を相手にデビュー戦で、しかもあのルールでドローって凄いですよ。

田中　まあ、ハートが強いですから、アイツは。

――やっぱりそういう選手じゃなきゃダメなんですね。

田中　そういう選手っていうか、それが普通ですよね、先生？

藤原　なにやるにしても精神力だよ。プレッシャーを感じない、または感じても自分の味方につけてやるような気持ちの強い選手じゃなきゃ。だから、今回やった4選手。慧舟會の選手も含めて、肌で感じたろうからね、何かを。

田中　それで、今後ちょっと自分が気合い入れて考えていかなかきゃならないことは「修斗の田村が勝ったんだから、俺たちが行っても勝ったかもしれないな」って勘違いするキックボクサーですよ！　あとは日本の総合格闘家ですね。特に日本の総合格闘家はバカばっかりですから、その勘違い野郎を田村が叩き伏せなきゃいけないですよね、あのルールで！

――ラウェイルールで（笑）。

田中　そりゃそうッスよ！

藤原　キックボクサーにしても打撃さえ当たれば勝てるだろうって思う人間は出てくるだろうね。でも、あれは打撃だけじゃ勝てないから。やっぱり投げと頭突きがあるから、どこでどういう場面が出てくるか分からないんだよな。

田中　そうッスよね。向こうの連中は組み合いになった時に何気なく頭突きとかも入れてくるんですよ。小刻みなんだけど、目立たないんですけど入れてるんですよ。

藤原　だから、倒すためには立ち技もある程度は必要だし、グラウンドもある程度身につけておかないとね。まあ、なんにせよ、最初にやるっていうのは大変だよね。

田中　そうですよ！　しかも、敵地ッスよ！　でも、総合の奴ら日本語通じないですからね！

初代王者決定トーナメントを前に赤いパンツの頑固者が語る

藤原　でも、本当に暴動起きたら何にもできないよな。やるしか

った蹴りで倒れちゃうんですかね」って。だから、自分は「バカ野

手じゃなきゃ。だから、今回やった4選手。慧舟會の選手も含

敵地ッスよ！　でも、総合の奴ら日本語通じないですからね！

バカですよ。指導者もバカですよ、わかってないッスよ！

——日本の総合格闘家はまだ何も反応してないんで、そこまで言わなくても（笑）。

田中　いや、わかんないッスね、アイツらは！

宮田　……まあ、僕が現地に行って思ったのは、藤原先生と田中さんと、慧舟會の西（良典）さんはやっぱりやりたそうだったなってことでしたね（笑）。

藤原　だから、いま田中ちゃんが35だろ？　で、西さんが40代だろ。で俺が50代だから30代、40代、50代で3対3でさ（笑）。

田中　じゃあ、俺は一番弱いヤツと。

藤原　なんで？　トップバッターでいかなきゃダメだよ（笑）。

宮田　昔、極真がムエタイに挑戦した時があったじゃないですか？　その時、代表として付いていった黒崎健時先生が急遽リングに上がることになったんで、今回もそういう形で田中さんが出ていかないかなぁって思ってましたよ（笑）。

田中　いやぁ、そうならないことを願ってましたね（笑）。自分は指導で精一杯だったですから。

——ところで、ミャンマーでは国を挙げての対抗戦だったんで、現地についてから妨害工作みたいなものってなかったんですか？

田中　それはなかったですね。ミャンマー人はみんないい人でしたよ。良心的でしたよ。ホテルも一番いいホテルじゃなかったかなぁ。

藤原　一番のホテルって言ってたよ。

田中　日本料理屋があるとは思わなかったですよね。

——じゃあ、食事のほうも問題はなかったんですね。

宮田　向こうのほうも考えてくれて、最後の日だけはミャンマー料理で、それ以外はだいたい夜は中華で、昼は和食でしたね。で、藤原先生は試合終わったあとディスコで踊ってました（笑）。

藤原　あれ？　踊ってた？

宮田　先生は翌日「腰が痛い」って言ってました（笑）。

——団長でしたよね、たしか（笑）。

藤原　だってみんないなくなっちゃうんだもん。夜の探検に行っちゃったから（笑）。

田中　いやいや、あれはですね、夜のパトロールですよォ！

藤原　あ、パトロール？　ふ〜ん、変なパトロール（笑）。

——それは性豪と噂される山田編集長と行くパトロールなんですよね（笑）。

藤原　そう。メシを食ったらバーッと飛び出てって。

田中　いや、編集長がやたらめったら詳しくって（笑）。でも、山田編集長は優しいところがありますよ。田村と新美があれだけの試合をやったから、「田中さん、今夜はハメを外してあげましょう」と。で、自分も、「楽しいところに連れて行ってあげてください」と言ってカラオケに連れていったんですけど、アイツら自分が近くにいるから、こっちのほうばっかりチラチラ気にしてるんですよ、やっぱり。

藤原　それはそうだよな。

田中　で、「こんなんじゃリラックスできるわけねえよな」って思って、「『俺、用がある』って言って出ますから、二人のことをお願いしますね」って編集長に言って、何気なく出ていったんですよ。でも、あいつら真面目でそのあとカラオケして帰ってきただけでしたよ。新美なんて帰ってきてビリヤードやってましたからね。

宮田　何を突いてるんだ、お前はと（笑）。

田中　そうなんですよォ（笑）。だから、自分も付き合いで初めてビリヤードをやっちゃいましたよ。

藤原　あれ？　でも、田中ちゃんも試合が終わったあとは羽を伸ばしてたよね（笑）。

田中　いや、そういう話はいいじゃないッスか。活字にできないッスよォ。

藤原　いいんじゃない？　試合が終わったあとの祝勝会の話なんだから。

田中　そうッスか？　……まあ、自分、モテましたよね、これがまた（真顔で）。

——ワハハハ！　モテましたか。

田中　たぶん、自分、日本以外の国に行ったらどこでもモテますよね（キッパリ）。

宮田　でも、レストランの女の子だけにはフラれちゃったんですよね（笑）。

田中　いや、あれは渡邊（久江）が悪いんッスよォ！

宮田　店員で1人可愛い子がいて、渡邊選手に「ちょっとあの子を呼んで来て」って言ったんですけど、来てもすぐに帰っちゃったんですよね（笑）。

田中　だから、あれは渡邊が悪いんッスよォ！　まとめ方が悪いからまとまるもんも、まとまらなくなっちゃったんッスよォ。

藤原　男なら自分で行くべきだったんじゃないの？（笑）。

田中　いや、それを日本でやって逃げられてばっかりいたからもうダメだと。だから、女を使ったほうがいいと思って。そしたら使う女を間違えちゃって。結局、宮田さんの教育がなっちゃいないんッスよォ。

宮田　え、僕ですか!?（笑）。

——凄い八つ当たりですね（笑）。

田中　でも、自分、宮田さんにもう一つちょっと疑問があるんですけど。

宮田　はい？

田中　宮田さんは、ウチの田村が勝った時あんまり嬉しそうじゃなかったのはなんでかなぁって思ってたんですよ。いや、失礼だったらすいませんが。

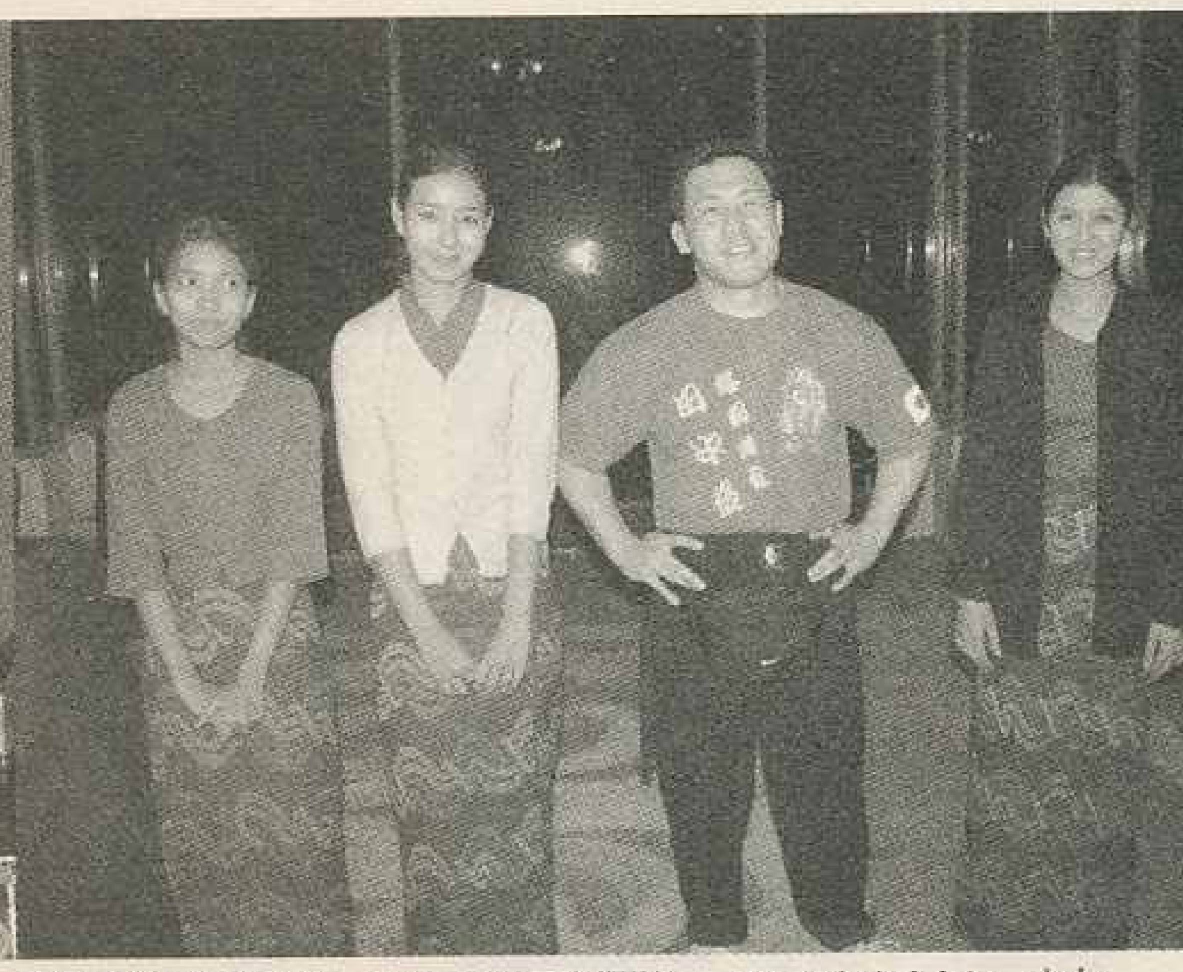
宮田　失礼もなにも、僕は嬉し



徹底密着取材!!
ミャンマー・ラウェイとは何か?



大会初日、目を腫らしてしまった田村のためにエビチリを取り分けるタナケン。この日は弟子の勝利を祝ってコーラで乾杯！



晩餐会会場の美人ウェイトレスと記念撮影し、はにかむタナケン。文中にあるフラれてしまった可愛い女の子は、残念ながらこの中にはいない



ミャンマー最後の日、孤児院を訪ねた旅の一行。ゴジラは日本のおもちゃ会社さんからの贈り物だ。タナケンの子供を見る目が優しい

大会終了…
線は真剣…

いやいや、あれはですね、夜のパトロールですよォ!（田中）

ミャンマーvs日本の対抗戦には

かったですよ!?

田中　そうッスかねぇ？　宮田さんは全日本のプロモーター的な立場で向こうに行ってたじゃないですか？　だから、田村が勝ったら今後に繋げにくい、困るようなアレがあったと思ったんですよ。いや、宮田さんの人柄はいい人だと思ってますよ。

宮田　いやいやいや、僕は田村さんが勝った時に、「やったーッ！」って大声出してたじゃないですか！

田中　いやぁ、自分が見た感じでは、一番平常心だったのが宮田さんだったんですよねぇ。なんか喜びもしないし、悲しみもしないし。

宮田　だから、喜んだって言ってるじゃないですか！（苦笑）。

藤原　田中ちゃん、喜び方って人それぞれ十人十色があるからさ（笑）。

宮田　先生までやめてくださいよォ。僕は声出して喜んでましたよォ。

――宮田さんが撮ったビデオを見たら宮田さんの「やった！」って連呼してる声が入ってましたよ（笑）。

田中　そうッスかねぇ？

宮田　本当ですよ（苦笑）。でも、真面目な話、ウチでもミャンマー・ラウェイには興味はありますよ。もちろん、安全面を考えながらですけど、やっぱり新しいものにはドンドン関わっていきたいですから。

――ということは、このラウェイが全日本キックに登場する可能性もあると。

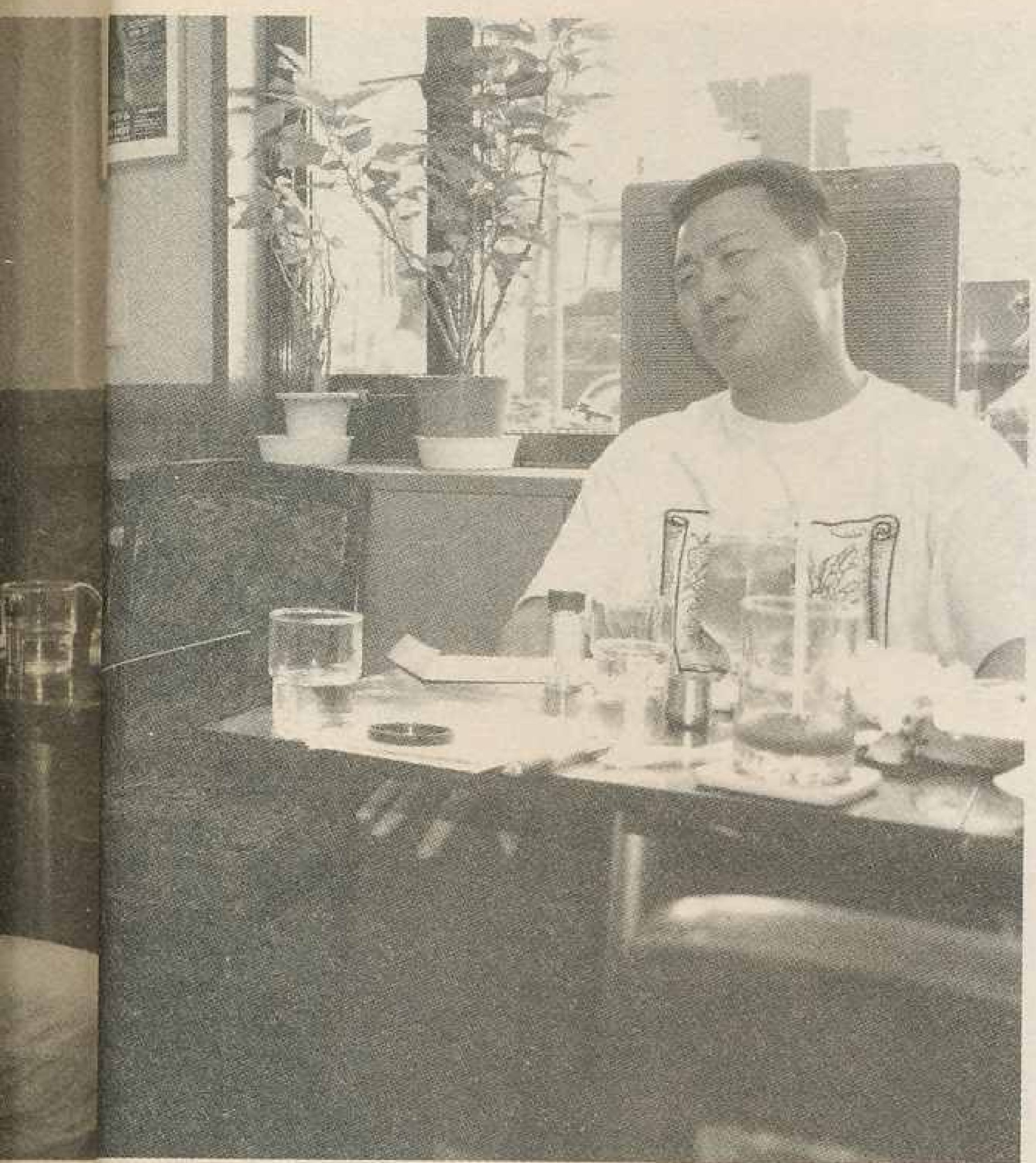
宮田　ありますね（キッパリ）。

田中　ふ～ん。だけど、日本ではホントの意味の強さって分からないですよ。敵地に乗り込んでやらないとねぇ。

――まあ、そうですけど（苦笑）。で、今回日本選手団がミャンマーに乗り込んでの他流試合で勝利をあげましたが、日本国内でも田中塾の試合は、それこそ他流試合のような盛り上がりになるって評判になってるじゃないですか。

田中　そうでしょうね。ラウェイのような感じになるんでしょうね、日本にいながら（笑）。でも、いまの日本にはああいう血気盛んな奴らが必要だと思うんですよね。まあ、アイツらも悪いことしますけど、いつのまにかウチが更生する場になっちゃってますね。ドンドン入ってくるんですよ、仲間が。ヤクザもいますよ。道歩いていると挨拶されますからね。

見た感じ一番平常心だったのが宮田さんだったんですよ。喜びも悲しみもしないし



宮田　この前も、ウチのサトル・ヴァシコバ（勇心館所属）が田中塾の高谷裕之選手にキックルールで勝っちゃったじゃないですか、その時は怖かったって言ってましたね。田中塾ってことで（笑）。

田中　それはないッスよ。ヴァシコバ選手が修斗所属だったら、あったかもしれないけど、全日本キックには迷惑かけないですよ。でも、格闘技なんだからやっぱり多少ヤバイぐらいの雰囲気のほうがいいッスよね。

――だから、たとえ修斗のリングであっても修羅場を作り出す田中塾っていうのに非常に魅力を感じるんですよ。で、改めて聞きますけど、田中塾は修斗所属なんですよね？

田中　いやぁ、佐山代表がいた頃からウチは島でしたよね、北方領土でした（笑）。だから、スタンスとしてはいまと変わらないですね。で、自分らが何を目指すかって言ったら、修斗のチャンピオンなんてちっちゃ過ぎますよね。それって当たりハズレ付きのアイス買って、そのアイスが当たるかなっていう、そんなもんッスよォ。

――うわぁ（苦笑）。え～と、じゃあ、どこを目指すんですかね。

田中　それは藤原敏男という偉大な男に近づくことじゃないですかね。超えるってことは不可能に近いんですよ。3億円の宝くじが当たるよりも難しいことですからね。だって、あれは運じゃないですか？

藤原　え、何、俺は運なの？（笑）。

田中　いやいや！　先生の場合は運も実力も全部手にした人ですから！　ともかく今回は田中塾最終章最終回のつもりで挑んだんですよ。もしこれで田村と新美がコテンパンにやられて負けたりしたら、自分がそこまでの指導者でしかなかったっていう責任もあるし、プレッシャーもありましたね。それに自分がこれまでやってきた格闘技の経験を全部覆されることになるわけですから。だから、あの二人はよくやってくれましたよ！

藤原　それに選手たちが「よしやってやる」って、未知のものに立ち向かっていった度胸も買ってあげなきゃいけないよね。

田中　そうですね。慧舟會の二人は残念ながら負けちゃいましたけど、よくやりましたよ。それと、これは矛盾してて理不尽な言い方かもしれないですけど、逆に田村がコテンパンにやられて担架で運ばれるくらいになってほしかったたって気持ちも親心的にはあるんですよ。「世界にはもっと強いヤツがいるんだぞ」って自分は常日頃から言ってますから、「ああ俺たちが日本でやってたことはちっちゃいことなんだ」って自覚させるためにも逆の意味で少しはあったんですね。だから、田村たちはそういう意味では修羅場をくぐってるんですよ。

――じゃあ、一つ田村さんと新美さんに言いたいのはビリヤードはするなと（笑）。

田中　いや、やってもいいんですけど、せっかくこっちが気を使って消えてやってるのに結局何にもしなかったっていうのがねぇ。で、編集長も遊ばせるムードに持ってったのに、「アイツらダメざんすよぉ」って（笑）。ま、ヤツらの気持ちも分かるんですけどね、昔の自分なんかあれ以上に何にもできなくて、人とまともに喋ることもしなかったッスからね。（と、ここで突然、携帯が鳴り出して、出るか出ないか非常に迷う塾長）

藤原　なんで出ないの？

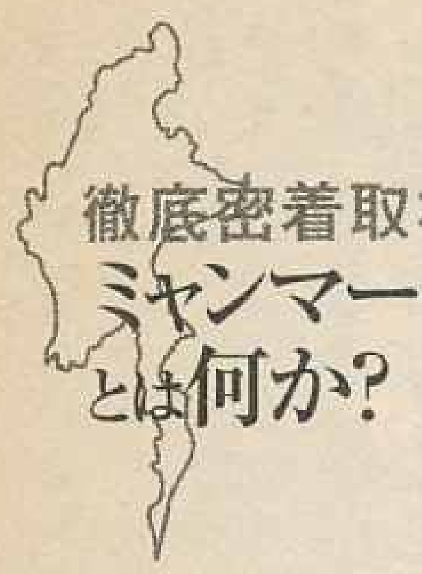
田中　え～、いやいや、いいんですよォ。

藤原　ミャンマーの彼女からじゃないのォ？（笑）。

田中　いえいえいえいえ（苦笑）。

――やっぱり、いろんな修羅場をくぐると男は成長するってことですね（笑）。

初代王者決定トーナメントを前に赤いパンツの頑固者が語る



徹底密着取材!! ミャンマー・ラウェイとは何か？

田中　そういうことです！　経験が何にも勝る武器だと思いますよ！

藤原　田中ちゃんの場合は練習も試合も夜も全て本気で一生懸命やるから。

田中　打投極フル回転ですからね（笑）。これは余談ですけど、今回意外だったのは『紙のプロレス』が取材に来たことですよ。真剣勝負なのに『紙のプロレス』が来たんですよね。

ラウェイ取材担当のささきぃ　いや、素手の格闘技の大会に日本人が初出場して、そこに田中先生と藤原敏男先生が同行するとなったら行きますよ（笑）。

田中　いや、あれは見直しましたよ。でも、ほかの格闘技雑誌は取材にも来ないでね、ふざけんなこの野郎っていうね。だから、ある雑誌が取材したいって来たんですけど、自分は「田村がヒザ蹴りで倒したシーンを表紙にして、巻頭で6ページ載せるっていう条件なら取材する」って言ってありますから。無理でしょうけどね。

——噛みつきますね（笑）。

田中　やっぱり、弟子二人があれだけやってるのにキチンと評価しないっていうのは許せないッスよね！

——その評価の話で言うと、いま総合格闘技がスポーツ指向になってるのは田中塾長的にはあまり評価できないんですよね。

いや、僕は田村さんが勝ったときに「やった！」って大声出してたじゃないですか！

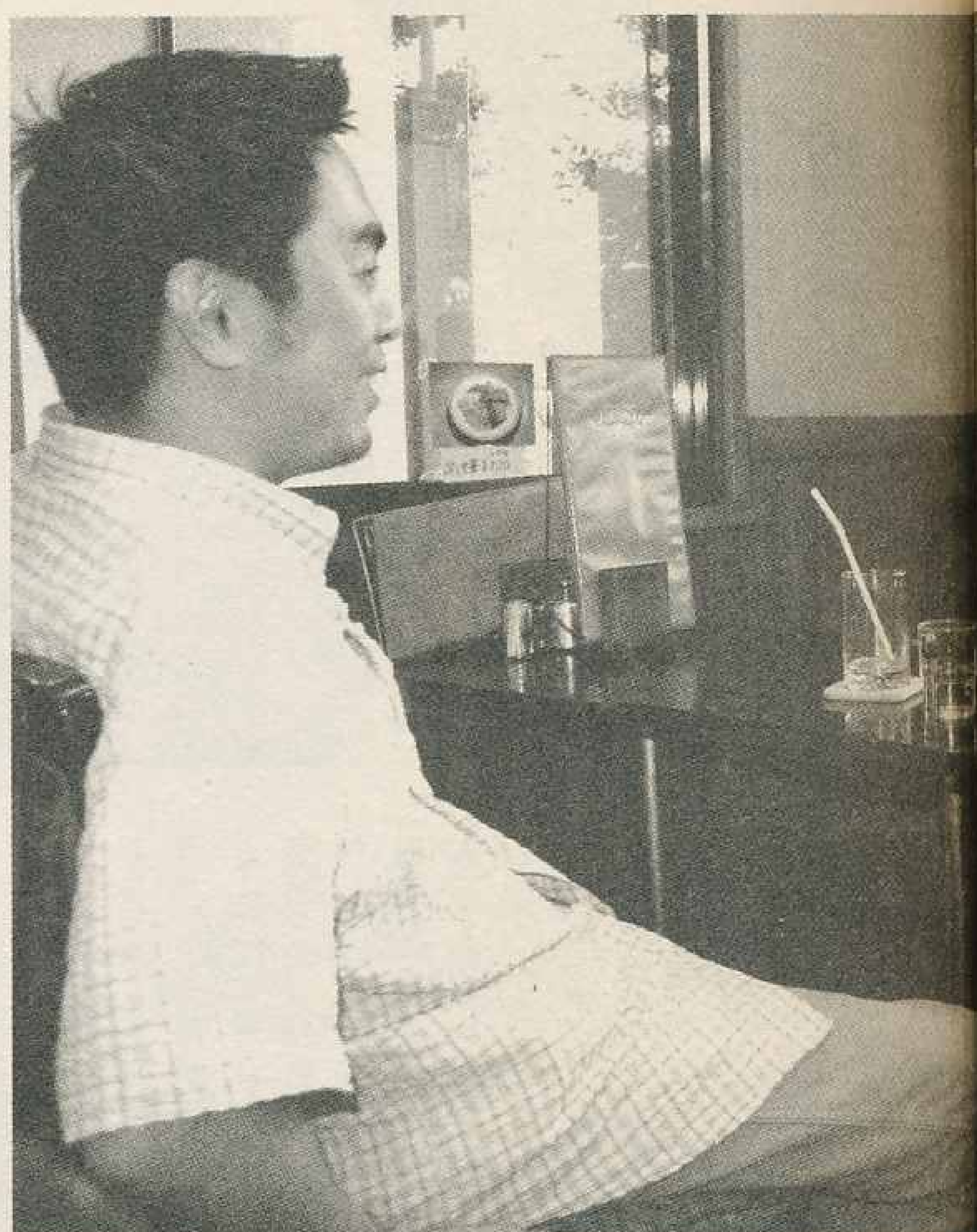
田中　それもつまらないッスね！　自分、野球とサッカーは大嫌いですから。だいたい、野球のルールもいまだによく分からないですし、サッカーも大嫌いですね。サッカーはやってるヤツも、好きだって言ってるヤツも嫌いですね！

藤原　でもね、サッカーの練習は俺見ていてプラスになるんだよね。ボールを操るバランスは最高だと思うんだよ。サッカーだって野球だってインパクトの瞬間の身体の動かし方って勉強になるんだよ。ウチのジムに鏡があるでしょ、あそこでピンポンを3分間ラリーやれって言っても、みんななかなかできないんだよね。あれなんかは、サイドステップのいい練習になるんだよ。

ささきぃ　いまサッカーの話が出ましたけど、ラウェイの試合の前に日本対ミャンマーのサッカーの試合がミャンマーであって日本が勝ったんですよ。でも、試合のあとに日本側に卵が投げられたりとかあったんですよ。

田中　へぇ～、こっちは日本が勝っても全然そんなことなかったですよね。

ささきぃ　だから、ラウェイのほうは観客のマナーも良かったし、日本選手の態度がしっかりしてたからじゃないかって現地では言われてるんですよ。



「田村が勝利した瞬間、宮田さんはあんまり嬉しそうじゃなかった」と、旅のマネージャーを務めた全日本キック興行部長・宮田氏に詰め寄る（？）タナケン。どんな瞬間もタナケンの目はすべてを見逃さないのだ（「嬉しかったですって！」by宮田）

田中　やっぱりチャラチャラしてるからですよ、サッカーのヤツらは！

——抹殺しますか。ホントに佐山イズムですね（笑）。

田中　それで思い出したんですけど、ミャンマーって大東亜戦争の時に日本兵が30万人来て、20万人死んでるみたいなんですよ。その死んだ理由っていうのが傷口からバイ菌が入ってウジ虫が湧いたっていう、いまでは考えられないような理由みたいなんスよ。

藤原　マムシに噛まれたりとかね。

田中　それで、田村がヒザ蹴りやった時に、バーッて日本兵の霊が見えたって言う人がいるんスよ。自分は見たわけじゃないッスよ。自分は夢中で見えないッスけど、一人だけじゃなくて何人かポツポツ見えてたって言うんスよ。だから、昔の日本兵がリング上で一生懸命闘ってる田村に力を貸してくれたんじゃないかなっていうね。そういう話をしてたんスよ。

宮田　あと最後に田村クンが勝ってベルトを巻いてる時、なんか上を向いてるんですよね。

田中　なんか憑依してたような感じでしたよね？　自分もいまにして思うと、インターバルの時、田村の汗拭いたり指示出すじゃないですか？　なんかが憑依してたっていうか、いつもの田村じゃねえなっていう気が……しないでもなかったッスね。信じる信じないは別として、そういうのもあったのかもしれないッスね。

——敵地だからこそ、英霊の方々の強力なバックアップがあったと。

田中　ええ。あったんじゃないかなっていう気がしないでもないッスね。プラス藤原敏男の魂を吸収してたから、なおさらじゃないですか（笑）。

——まさに日本を背負った戦いだったんですね。

田中　そうッスね。やっぱり、ウチの場合、K-1やPRIDEに出てるようなタレントを作る気もないですからねぇ。だって、だいたい柔術クラスってあるじゃないですか？　あれを作ると50人から100人ぐらい人集まるんですよ。でも、やっぱやりたくないですよね。一応自分も柔術は教えられるぐらいのアレはあるんですけど、やりたくないですよ。格闘技を始めた気持ちはやっぱ忘れられないですよね。別に柔術をケナしてるわけじゃないけど、実戦中心の掣圏道とかラウェイとかやりたいじゃないですか。

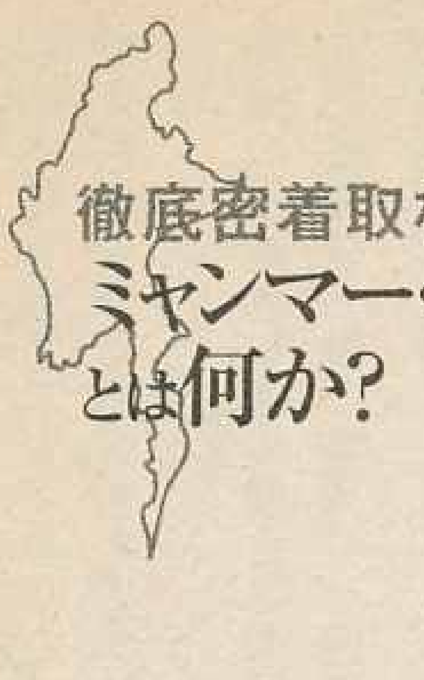
——とはいえ、修斗のほうでも高谷選手が結果を出してるわけですから。田中塾長的にはまだまだみたいですけど。

田中　話になりませんよ。まったくダメっスね。なのに、マスコミがそうやって煽るから本人勘違いしちゃうんですよ。まだ俺のほうが強いですよォ。

藤原　みんな思ってるのが自分のほうが強いっていうね、いくつになっても（笑）。

田中　ホントそうですよ。弟子が強くなってくると嬉しいんですけど、逆にムカついてくることもあるんですよ、俺より強くなるんじゃねえよって。自分も別に現役引退した気はないですからね。

ミャンマーvs日本の対抗戦には



藤原　じゃあ、ラウェイやる?（笑）。

田中　いや、自分はもういいですよォ。

藤原　できるよ。だって、俺は35で辞めたんだから大丈夫だよ。

田中　いや、先生は別ですよォ。ま、どうしてもっていうんなら、それは宮田さんの決断次第ですね。

宮田　また、僕ですか!?（笑）。

田中　そうッスよ（笑）。全日本キックでトーナメントを組んでくれて、その両端に俺と田村が入って、その間にラウェイの強豪とか、サムゴー（・ギャットモンテープ）とか入れてもらえばやりますよ。で、藤原先生は決勝戦のレフェリーをやってもらうんですよ。

宮田　なんで全日本キックのカードまで決めるんですかぁ。まあ、いいですけどね（苦笑）。藤原祭りの中でやったりとか、いろんな可能性はあるとは思いますね。

藤原　え、俺がやるの?（笑）。俺もさ、あと30歳若かったら絶対やるけどさぁ。

——それは見たいですね。でも、その前に、藤原先生はいまゴルファーとして地位を築き始めてますからね。

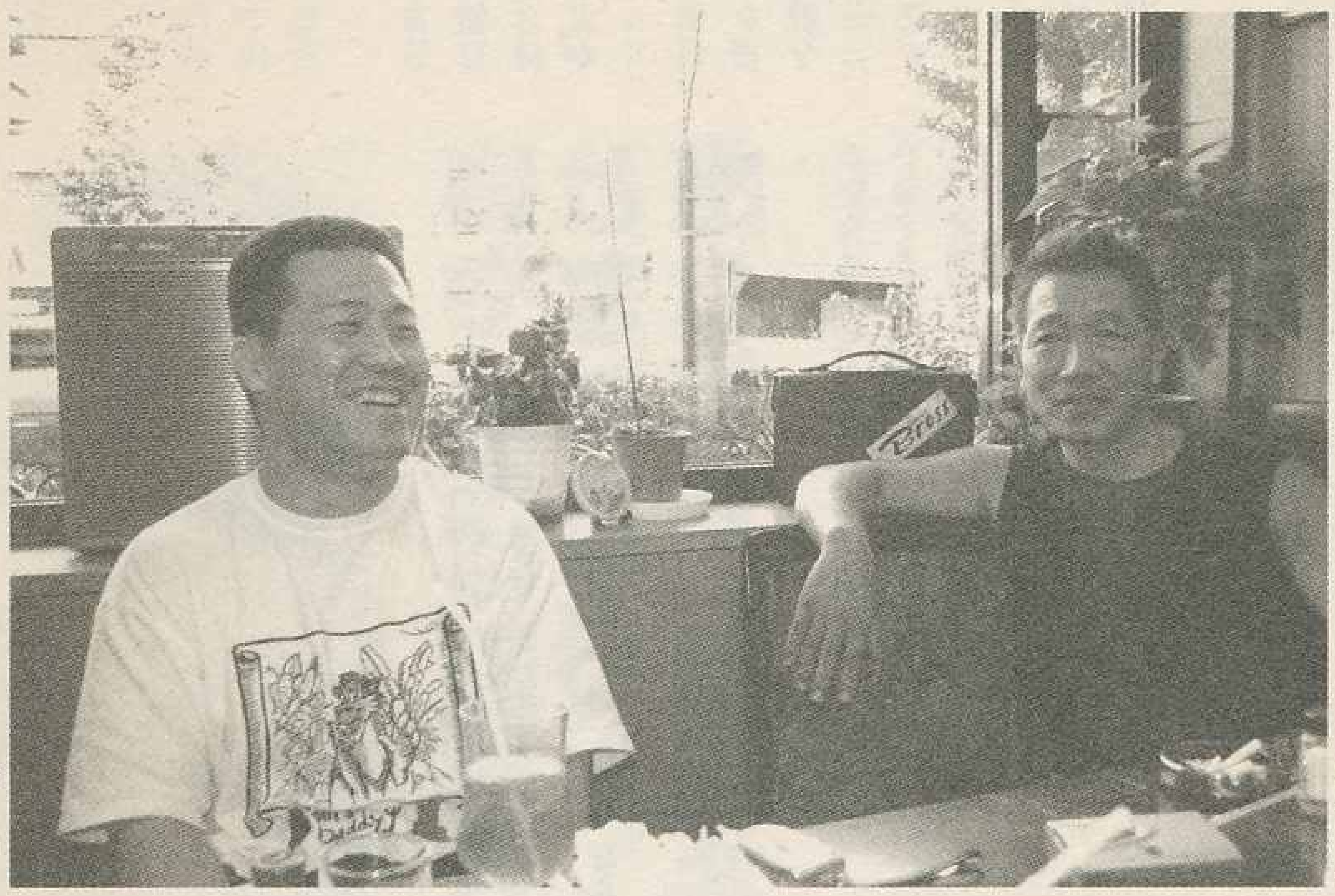
田中　ゴ、ゴルフ?

藤原　この前アマチュアの関東大会で優勝して、9月には全日本大会に出るんだよ。そこで勝つと今度は世界大会。世界34ヶ国から集まるんだよ（笑）。

——だから、先生も大きな意味での他流試合に打って出るんですよね（笑）。

藤原　そういうことだからね、わかった?

田中　へぇ～、ゴルフですか。先生、自分テレビでゴルフを見てると疑問に思うんですよ。あんな穴まで1メートルぐらいしか距離ないのになんで入んないッスか?



最強を目指す男なら、ここしかない!　田中健一監督、そして田村、新美と一緒に強くなるべし!
【格闘結社田中塾】住所:〒274-0825　千葉県船橋市前原西　電話番号:047-474-1847

血便&血尿は当たり前!?　藤原敏男団長、そして小林聡のもとキックを学びたい人はこちらまで!
【藤原ジム】住所:〒116-0003　東京都荒川区南千住1-15-5　電話番号:03-3805-1457

藤原　微妙に芝の生え方とかがいろいろあるんだよ。

田中　でも、あんな距離だったら自分でも3発ぐらい打てば入りますよ。

宮田　3発も打ったら（笑）。

田中　（誰の話も聞かず）で、入るじゃないですか。そうすると観客が拍手するんですけど、こんなのなんで拍手するんだって思うんッスよ。ま、素人の考えですけど。

藤原　プロになると、ワンパットが入るか入らないかで1億円、2億円の差があるんだよ。

田中　いやぁ、あんなんだったら俺でも入りますよ。自分、ビリヤードの時も新美にセンスあるって言われましたよ。

——塾長は藤原先生のゴルフにまで牙を剥くんですねぇ（笑）。

藤原　田中ちゃんは格闘家だからスポーツは肌に合わないんだよね。俺は紳士だからスポーツも分かるから（笑）。

ささきぃ　でも、先生はミャンマーでビリヤードやった時「一番から落としていくんですよ」って言っても「何番からでもいいんだよ」って言ってましたよ（笑）。

藤原　俺は初めてやったんだから、それでいいんだよ。

田中　先生も結局ノールールの人ですからね（笑）。それにしてもラウェイって凄かったですね、ヒジ打ちあって頭突きあって。で、自分がキックボクシングをやった時って全部ヒジでやられてるんですよ。だから、自分キックボクシングに負けたっていうより、ヒジ打ちに負けたっていう印象があるんですよ。それで今回弟子がヒジ打ちありのルールで勝ったっていうのは自分の雪辱になるっていう、そっちのがデカかったですね。本当、あれでもし田村がヒジ打ちで勝ったりしたら俺はもう日本にいないと思いますよ。

藤原　どこに行くの（笑）。

田中　どっか分かんないけど行っちゃうと思うんですよォ。

ささきぃ　田村さんも試合後の夜、「先生がいつも負けてたのはヒジだったから、ヒジありのルールで弟子に勝ってほしいって気持ちがあったんだと思いますよ。先生は言いたがらないけど実はあったんだと思いますよ」って言ってましたね。

田中　……さすがは田村！　高谷のバカにこのセリフを聞かせてやりたいッスね。

——ワハハハハ！

田中　まあ、田村と新美には来週、たらふく肉を食わせてあげますよ。日本一旨い店があるんですよ、生の牛肉食わせるとこが。

藤原　よし！　じゃあ、来週はみんなそこに集合ね。ごちそうさまです（笑）。

——ワハハハハ！　今日はありがとうございました。

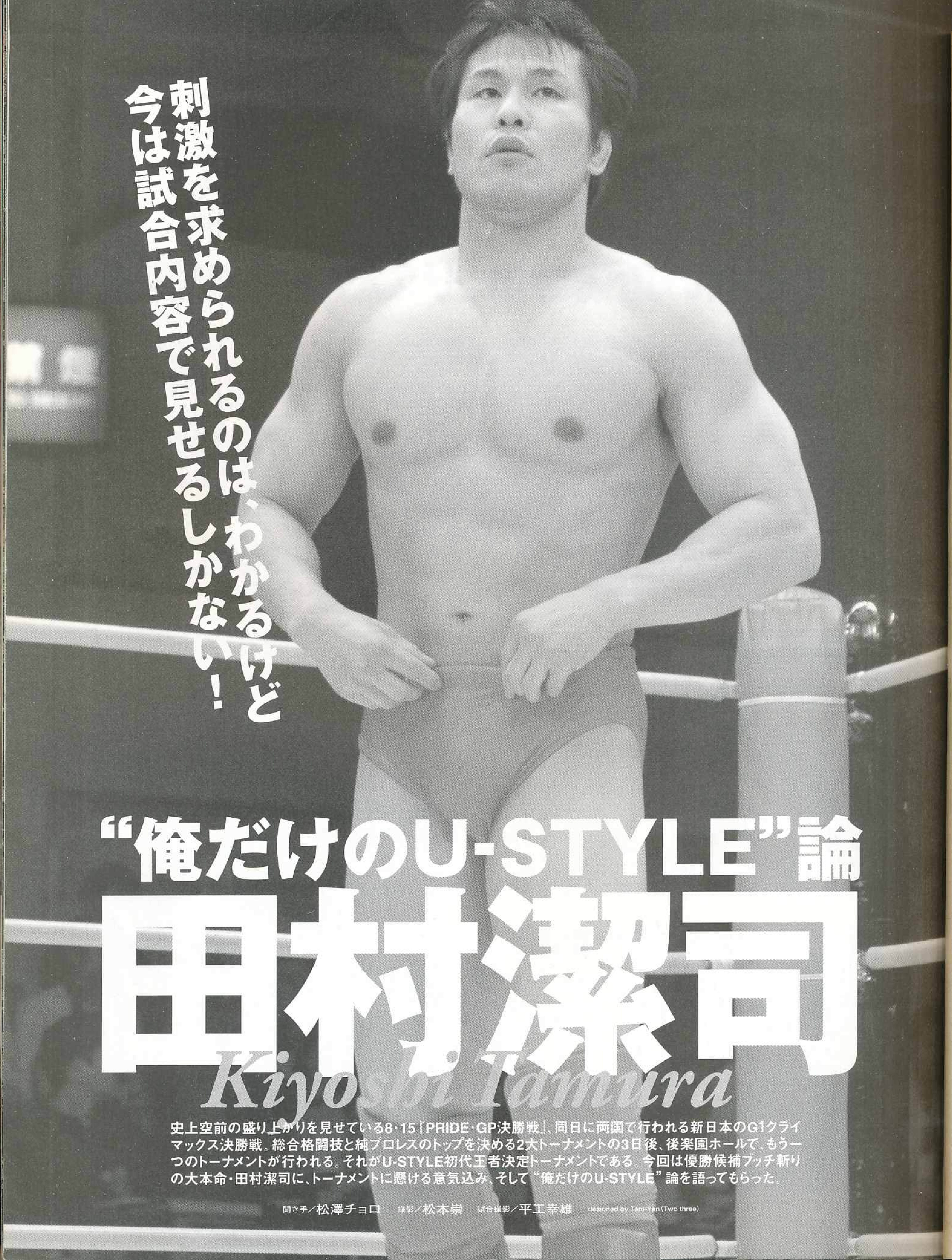
【7月20日／藤原ジム近くの喫茶店にて収録】

8.11 タイ遠征試合メンバー&対戦カード決定!

タイ王妃の生誕日を記念して行われる、8月11日、女子ムエタイ大会「タイvs日本・3対3マッチ」の対戦カードが、下記のとおり決定!　この大会の模様は、タイのテレビ局「チャンネル5」にてタイ全土に生中継される予定とのこと。

「タイ王妃生誕記念女子ムエタイ大会／タイvs日本・3対3マッチ」
8・11タイ王宮前広場
[インターナショナル女子ムエタイ・ライト・フライ級タイトルマッチ/2分4R]渡邉久江 vsナムワーンノーイ・アールサヤーム
[51kg契約/2分4R]ヌアシアン・チョー・インスワン vsグレイシャア亜紀
[54kg契約/2分4R]カター イトーン・ソー・ブラパージャンvs杉貴美子

初代王者決定トーナメントを前に赤いパンツの頑固者が語る



刺激を求められるのは、わかるけど今は試合内容で見せるしかない！

“俺だけのU-STYLE”論

田村潔司

Kiyoshi Tamura

史上空前の盛り上がりを見せている8・15『PRIDE・GP決勝戦』、同日に両国で行われる新日本のG1クライマックス決勝戦。総合格闘技と純プロレスのトップを決める2大トーナメントの3日後、後楽園ホールで、もう一つのトーナメントが行われる。それがU-STYLE初代王者決定トーナメントである。今回は優勝候補ブッチ斬りの大本命・田村潔司に、トーナメントに懸ける意気込み、そして“俺だけのU-STYLE”論を語ってもらった。

聞き手／松澤チョロ　撮影／松本崇　試合撮影／平工幸雄　designed by Tani-Yan (Two three)

田村　（唐突に）今日はボヤいていい？
――なんですか、突然!?（笑）。
田村　最近ね、金原に負けないぐらいボヤきたいことだらけだから。
――そうでしたか（笑）。では、ここ最近はハッスルしてないわけですか？
田村　う～ん………ハッスルはしてないかな。いまは『紙プロ』的に言うと溜めを作ってる時期だから。
――あ、溜めの時期でしたか。だからヒゲを生やしてるんですかね？
田村　いや、これはあまり意味はない。忙しいから剃ってないだけ。
――あまり意味はないと？（笑）。
田村　そう。なんか最近はつまんない。まあでも、佐伯さんに比べたら俺の方がまだハッスルしてるのかなって思うしね（笑）。
――佐伯さんと比べるのもどうかと思いますけど（笑）。佐伯さんはホームページの日記とか読むだけで大変そうな感じばっかり伝わってきますからね。
田村　あぁ、ネガティブ日記ね（笑）。
――そういえば、佐伯さんの日記で「Tさんと連絡が取れない」って、凄い悩んでた時期がありましたけど、どう見ても田村さんですよね？　あの「T」って（笑）。
田村　ハッハッハッハッハッ！
――その時期は、ほっといてくれっていう時期だったんですか？
田村　そんなことないよ。まあまあ、いろいろあったんだけどね（笑）。
――プライベートはイマイチながらも、練習はキッチリやってるんですよね。
田村　練習は楽しいからね。それに俺は汗かくのが好きだから。最近はね、汗かいて、鍋を食べながら、また汗かいてっていうのが快感なんだよね。
――暑い時期に、あえて鍋を食べて汗をかくのが快感なんですね。
田村　そう。暑さモードってあるのよ。「もうどうにでもして」って時が（笑）。
――アハハハハ！

大会を見に来い、と（笑）

Kiyoshi Tamura

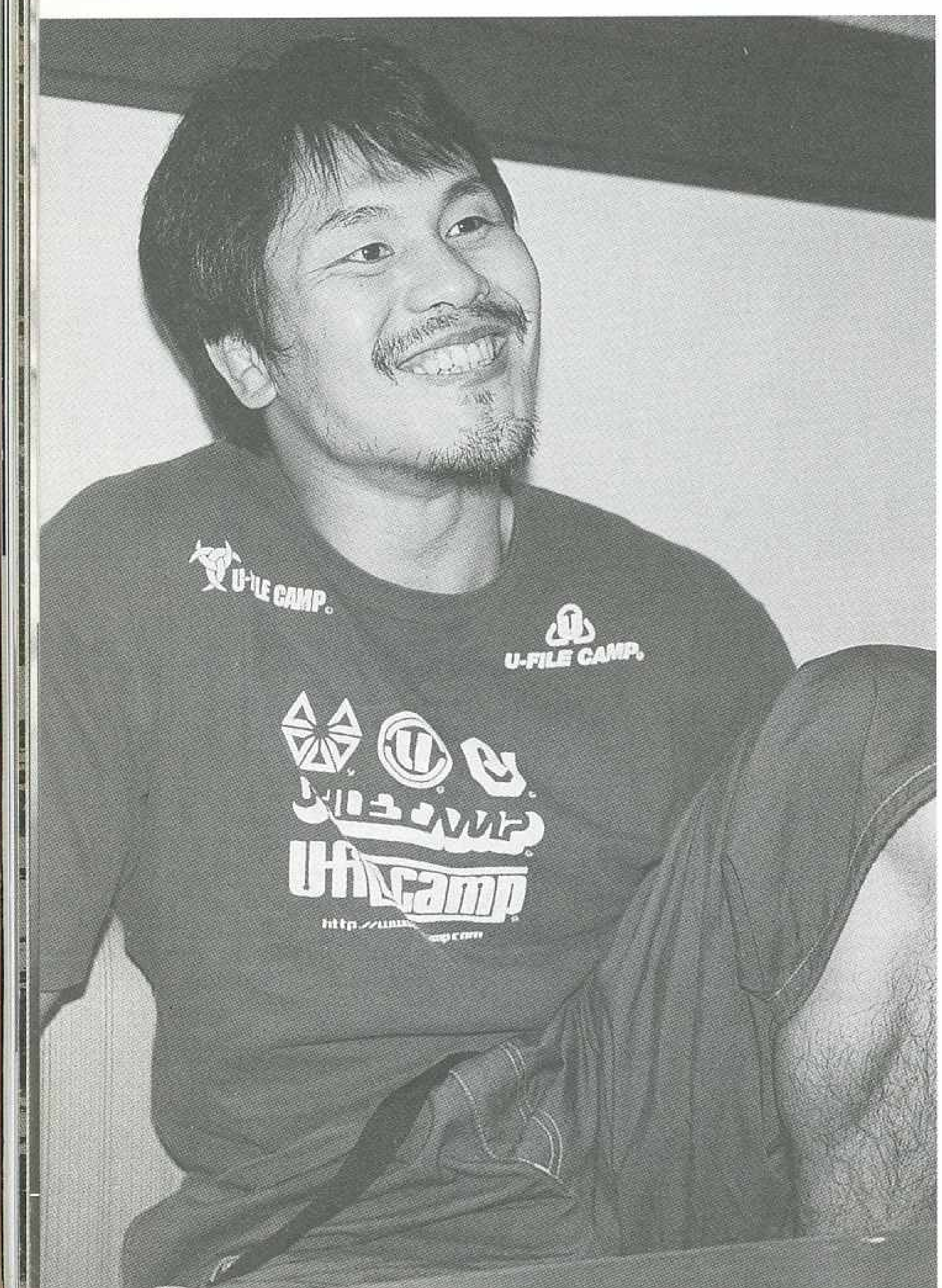
田村　だからね、車の冷房をガンガンきかせて運転してる時、多摩川の土手かなんかをランニングしてるヤツ見たら「よく走るなぁ」って思うでしょ？
――思いますね。
田村　俺も運転してる時はそう思うもん。でも走ってる時は汗かくモードだから。……何言いたいのかよく分からん（笑）。
――アハハハ！　要するに汗かくモードに入れば汗をかくのが快感になると（笑）。
田村　そうそう。健康的でしょ？　だからね、まだ親父臭くないんだよ、多分。
――田村潔司は親父臭くはないと？
田村　うん。汗も凄いサラサラだから。
――まだ汗を弾きますか？（笑）。
田村　弾く弾く（笑）。
――この間、テレビを見てたら、ダウンタウンの松ちゃんは枕の匂いを嗅いだら親父臭がするって言ってましたね（笑）。
田村　言ってたね（笑）。でも俺もね、一週間くらい運動してなかったら、なんかベッタ～ってした汗が出るのよ。そういう意味ではオッサンだろうけど、同級生と比べても5～6歳は若いと思う。
――肉体はもっと若いんじゃないですか。
田村　でも寝ても疲れが取れなかったりとかあるからね。でもホント、練習以外のことしなかったら凄い充実してんだろうなぁ。他でストレス感じてるから。
――いわゆるファイター以外の部分でストレスを感じてるっていうことですね。
田村　そっちの方ではボヤキたいことがいっぱいあるよ。選手に関しては、巨人の工藤投手も言ってたけど、やっぱり気持ちなんだよね。心技体の"心"から崩れていくから。俺はリングスの時に、心技体の"心"が「もう嫌だ。こんなんじゃ1年も保たない」って思ったんだよ。その時、指を折って1年ぐらい間があいて、それで一回リフレッシュできて、自分のペースで試合が出来るようになったから。いまは、逆に40歳ぐらいまでできるんじゃないかなって気持ちにはなってる。
――ほう！　40までやりますか？
田村　心技体の"心"の部分をホントに追い詰めてやんなければ。自分で調整して、肉体もメンテナンスしてやればできそうな気がしてきたね。
――いままではそういう質問に何と答えてたんですか？
田村　いまぐらいの歳になったら、もう辞めるって言ってたね。でも全然下の子とやっても、まだ追いつかれたって感じがないし、練習もついていけてるし。だって俺は34歳だよ！
――アハハハ！　それは凄いです（笑）。
田村　凄いですよ（笑）。
――総合の世界は20代半ばの世代がバリバリ活躍してる時代ですけど、田村さん的には、まだまだ若いヤツには負けないと。
田村　まだまだ強いよ。まあ、ぶっちゃけ、ちょっとヤバイかなって時もあるけどね。ウチに松田英久っていう凄く寝技が上手い子がいるのよ。松田とやってると「あぁ、ちょっと追い付かれたなぁ」っていう時があるのよ。
――そうなんですか。
田村　力も強いし、上手いし。下が育ってるから、そういうのは楽しみだけどね。
――で、田村さん！　いよいよ大舞台が近づいてきましたね。
田村　えっ、何かあるの？
――「何かあるの？」って、U-STYLE初代王者トーナメントですよ！（笑）。
田村　あぁ、はいはい。近づいてきたね。まあ、ボクはマイペースにやりますよ。好き勝手に。そんな感じだよね。
――でもベルトが掛かるからには田村潔司が取らなきゃまずいと思いますし、実際、田村さんが初代チャンピオンになると思ってる人も多いと思うんですけど（笑）。
田村　まあ、多いだろうね。
――ボクも優勝は田村さんしかないと思ってますから（笑）。
田村　じゃあ、頑張るよ（笑）。
――好き勝手にやるとは言いながらも、やっぱりベルトは欲しいですよね？
田村　いや、もちろんもちろん。試合だから何が起こるかわからんけど、俺が獲らなきゃ話にならんと思うし。久々のベルト姿を見に来てもらいたいよね。
――早くも優勝宣言ですか？
田村　いや、優勝宣言っていうと逆にイヤらしいから、もうね、田村潔司ベルトお披露目大会を見に来い、と（笑）。
――アハハハ！　優勝宣言を飛び越えて、ベルトお披露目大会ですか（笑）。
田村　そうそう（笑）。
――メンバーはどんな感じになりそうですか？　田村さんは当確でしょうけど。
田村　もちろん。あと上山（龍紀）、佐々木恭介、それに伊藤（博之）、カッキー（賢人）。あと滑川（康仁※後にケガのため欠場。代わって石川雄規が参戦）、三島（☆ド根性ノ助）クン。それで7人？
――はい。……正直ちょっとメンツが弱い気がしますね（笑）。
田村　うん、弱い（キッパリ）。
――あっさり認めますね（笑）。
田村　まあまあ弱いのはわかってるから、あとは内容で見せるしかないよね。ただね、今回のトーナメントもそうなんだけど、これからU-STYLEをどうするかっていうのを考えてる時期でもあるから。
――悩んだ結果、決まった選手が先ほどの7人なわけですね。
田村　そうだね。結局ね、U-STYLEっていうは、結局誰でもできるようなスタイルじゃないから。だからそのスタイルっていう競技を広めていくのか、名前のある選手を集めて打ち上げ花火的にやるのか、その辺がちょっと微妙だよね。…もうそろそろフリーになろうかなって思ってるんだけど（笑）。
――すぐそういうこと言いますからね（笑）。田村さんはいろんな顔を持ってま

すけど、何が一番大変なんですか？
目
――まあ時期的には花火もあげたいところ
――最近発売されたU-STYLEのDV
らえると思うから。

すけど、何が一番大変なんですか？
田村　U-STYLEもU-FILEもSTYLE-Eも、もう大変よ。
―全部じゃないですか（笑）。先ほどU-STYLEの方向性の話をしてましたけど、田村さん自身に限って言えば、昔の猪木さんじゃないですけど、ホウキ相手でもいい試合を見せられる自信があったりとかするんじゃないですか？
田村　いやぁ、やっぱり相手だよね。相手によるから。極端な例で、ウチに長州力を呼んだとするじゃん。
―おっ、残り1人は長州力ですか!?（笑）。
田村　いやいやいや、それはない（笑）。
―でも長州力はビッグネームですし、アマレスの実績もありますし、U-STYLEへも対応できるかもしれないですよね。
田村　いや、できないでしょ（あっさり）。
―長州力にはU-STYLEは無理と？
田村　できないと思うけど、じゃあ、お客さんは何を見に来てるのかって部分で。試合なのか、選手なのか、その辺だよね。間違いなく長州力より佐々木恭介たちとやった方がいい試合はできるから。
―まあそうでしょうね。でも長州さんもUWFとの対抗戦では安生さんに何もさせずに完勝したりしてますけど？（笑）。
田村　長州力はUWFはできたかもしれないけど、U-STYLEはできないね。
―その違いは大きいと？
田村　そうだね。いろんな面で、かなり進化してると思うから。
―ただ、田村vs長州力って単純にお客さんも観たいでしょうし、マスコミにしても注目度は高いと思うんですけど、田村さん的には、そっちの方向に行くのはどうかなっていう感じなんですね？
田村　そうねぇ……ぶっちゃけ、そういうのもあって悩んでるんだよ。
―打ち上げ花火的なものも必要かなという気持ちもあると？
田村　そうそうそう。

優勝宣言っていうより、田村潔司ベルトお披露目

―まあ時期的には花火もあげたいところですよね（笑）。
田村　ハッハッハッハッ。でも俺は結構気分屋だから。いや、気分屋じゃないな？
―天の邪鬼というか？（笑）。
田村　ハッハッハッ。まあ、どっちかっていうと職人気質だから嫌なものは嫌だから。やりたくないものはやりたくない。
―頑固者ですからね（笑）。
田村　そういうこと（笑）。そういう意味でU-STYLEっていうのは問題点がいっぱいあるんで、そこを変えていかなきゃっていうか、変えるようにしないと。
―決まってから言うのもあれなんですけど、今回のトーナメントには、正直、高阪さんや、垣原さん以外の新日本勢の参戦もあると思っていた人も多いと思うんですよ。ボクも坂田さんなんかは、さすがに出るかと思ってたんですけど。
田村　う〜ん、いじめるの？　そういうのは佐伯さんに言って（笑）。
―プロデューサーですからね（笑）。
田村　まあ、もう1人によっては流れが変わってくるかもしれないけど。よそからだと垣原だけだよね、いまのところ。いや、いろいろ案は出たのよ。でもどうにもならない部分もあって、最終的にこの路線でいこうっていう。外の選手も入れようと思えば入れれるけど、自分らがやってることで入れないと意味ないから。
―いまは、その時期ではないと？
田村　う〜ん……微妙だね。
―案としては、どういう選手を上げようとか考えてたんですか？
田村　だから長州力。
―こだわりますね（笑）。いわゆる長州力個人というよりは、長州力的な名前のある選手ってことですよね。
田村　そう。そういう打ち上げ花火的なものでね。でもU-STYLEとしては内容を見せないといけないから、その辺で意識を変えなきゃいけない部分もあるよね。



―最近発売されたU-STYLEのDVDのインタビューで「外部からも呼ぶだけだったら呼べるけど、打ち上げ花火になるんだったらダメだし、レベル的にも対応できないんであれば二の足を踏むところがある」って言ってましたね。
田村　そう。いまはそのトーナメントの選手が決まった以上は、そのメンバーで全力を尽くすっていうか、その中で闘いを見せなきゃいけないから。いまはもうそういう考えかな。垣原とも、もう10年ぐらいやってないし、いまのメンバーで内容を見せるしかないから。内容を見せた上でU-STYLEはダメって言うんだったら、ホントにダメだろうなっていう。
―「わかってくれなきゃいいや」っていう感じもあるんですか？
田村　いやいや、そうじゃなくて、お客さんが来てくれないと成り立たないでしょ。面白かったら来るわけだから。突き放す言い方じゃなくて、面白くなかったら来なくていいし、面白かったら来てもらえると思うから。
―トーナメント出場メンバーの中で脅威に感じる選手とかいます？
田村　やってみないとわからない。
―佐々木さんのセコンドについて垣原さんの試合を見てましたけど、やったらいい試合になりそうな気はしました？
田村　試合前はわかんないねぇ。高阪戦にしてもそうだけど、やってみないと分かんなかったからね。U-STYLE型にはまってるものじゃないし、フリートーク的な感じだから。だからやってみないことには分からない。その辺が面白かったりするんだろうし。
―ですよね。フリートークというか、アドリブというか。大阪での冨宅戦は会場に行けなかったんでDVDで観たんですけど、ああいう試合になると思って見てた人はいなかったでしょうね。
田村　予習してきてるねぇ。
―いえいえ。田村さんの試合は何が起こるか分からないっていう意味でもハズレ

はないですからね。
田村　ありがとうございます！　もっとホメて（笑）。
――アハハハハ！　ここ最近、田村さんが名前を上げて評価してるのは佐々木選手、原選手、伊藤選手の3人で、共通して「表情がいい」って言ってますよね。
田村　うん。佐々木はもうちょっとだけど、伊藤はいいねぇ。伊藤と俺がやったら凄くいい試合になると思うよ。
――伊藤さんは総合では、いい結果を残せてませんけど、U-STYLEではハズレがなくなってきてますからね。
田村　それは感じるね。
――原選手は、どうですか？
田村　石川君の遺伝子を受け継いでるから、そういうのが出てるんじゃないかな。一人の原学っていう選手だと、あんまり魅力はないけど、バトラーツとか、UWFを受け継いでる昔からの伝統とかを石川君から学んだりしてるから、そういう反骨精神っていうものが出てるんじゃないかな。石川君がどういう指導をしてるか分かんないけど、石川雄規の背中を見て育ってるなって感じは受けるよね。
――3人は表情が凄くいいということですけど、田村vsTKも表情見てるだけで、もの凄く伝わってきますからね。
田村　ハッハッハッ。そうなの？
――そうなんです。表情っていうのも、かなり重要な要素ではありますよね。
田村　重要重要。
――佐々木選手、大久保選手と連戦してみていかがでした？　2人も田村さんの背中を見てここまで来たと思うんですけど。
田村　良くなってきてるよ。あと1～2年経ったら、激しく面白い試合になってくると思う。でも大久保はどうかなぁ。
――大久保ちゃんは、まだ微妙ですか（笑）。
田村　大久保は相手によってだね。大久保の良さを引き出してくれる選手だったら全然光ると思うし。だから、選手が育ってないようで育ってきてるから。俺もね、やることは分かってるんだけど、それは口に出すことじゃないしね。それをアイツらにやらせて、意識を変えさせてやったら、結構いけると思うよ。
――若手選手も、みんな成長してるのはわかるんですけど、いわゆるU-STYLE的な攻防で器用にこなしていっていうか、そつがなくっていう感じがするんですよね。やっぱり、表情だとか感情とかが田村さん以外の選手は、まだちょっと欠けてるのかなって正直思いますね。

Kiyoshi Tamura

マスコミに対しても何クソッっていう気持ちがないとやっていけないと思う



田村　うんうん。ありがとうございます。それを見出しに書いておいて。
――わかりました（笑）。でも『ハッスル』のようなエンターテインメント路線と違ってU-STYLEはあくまで試合内容で見せていくしかないですからね。
田村　そうそうそう。そう考えると上げられる選手も限られてくるからね。
――その辺は田村さんのハードルは、かなり高いでしょうからね。
田村　そんなこともない……かな？
――どっちなんですか（笑）。そういう意味で実験的に前々回大会はインディーとかからも選手を募集して、一宮vs滑川戦とか実現しましたが、田村さんから見れば、一宮選手はU-STYLEのレベルに達してないっていう評価ですか？　僕的には非常に面白い試合だったんですけど。
田村　見てないからわかんないけど、わかるよ。チョロがああいう試合が好きっていうのは分かる。俺も好きだから。イメージだけど。それはね、生き様だよね。一宮選手の、技術とかじゃない生き様が出てるっていうことでしょ？
――そうですね。
田村　それが出てれば全ッ然問題はないですよね。それはお客さんに伝わることだから。玄人受けはしないけど、素人受けする試合だよね。見てないけど想像はつくから。チョロもそうだけどマスコミや関係者が評価したっていうことは、そういう面を他の選手も見習って欲しいよね。
――やっぱり、レギュラー以外の選手と外部の選手が絡んだ時は緊張感も違ってきますからね。
田村　なるほどねぇ。たとえば、どういう選手に出て欲しいの？
――本人も「出たい」って言ってますし、ジョシュ・バーネットとかいいんじゃないですか。まあ新日本なんで、政治的なことを考えると難しいところもあるんでしょうけど。
田村　ん～……、ホントにやりたいんだったら、こっち来りゃいいんじゃないの？
――そうなんですけどね。ちなみに田村さんの方から行くつもりってあります？
田村　ないね（キッパリ）。あとは誰？
――う～ん、すぐには出てこないですけど、ただ他団体だと、単純に田村さんの好き嫌いとかもあるじゃないですか？（笑）。
田村　それは大きい！（笑）。
――ですよね（笑）。たとえば鈴木みのるさんとの試合もファンは見たいと思うんですけど、田村さんのことを知ってると、

多分それはないなと思いますし。

田村　そうだね！　ないね（キッパリ）。

——石川社長とかどうなんですか？

田村　タイミングが合えば、こっちは全然オッケー。ただ俺一人で決める問題じゃないから。石川君にも出てもらえれば。原選手にも出てもらってるし。厳しい中を育った同世代の仲間なんで、そういう意味では是非U・STYLEで石川流に感情を表現してもらいたいと思うし。

——U・STYLEのリングで見たい選手って、まだまだいますからね。

田村　田村vs石川ってのはマスコミ的にはどうなの？（笑）。

——プロレス雑誌は食いつくと思いますよ。格闘技雑誌的には、あまり大きく取り上げられはしないでしょうけど、その点はしょうがないかなっていう感じですか？

田村　いや、全然しゃあないよね。食い付かないんだったらしょうがない。

——そういう部分を含めた葛藤もあるんでしょうね。

田村　そうそう。そういうのも、いい意味で自分の中で溜めにしてるから。そういうライバルというか、何か一つ意識して、マスコミに対しても何クソッていう気持ちがないとやっていけないと思うし。

——ほぼ同時期に『PRIDE・GP』の決勝戦があるわけですけど、同じようなトーナメントでベルトを争うにも関わらず、注目度も全然違うわけじゃないですか？

田村　それもしょうがない（笑）。

——試合のクオリティーだったら負けない自信もあるでしょうし、そういう意味での何クソッて気持ちもありますよね？

田村　そういう、クソッていう気持ちがあれば、それに比例して活躍するかしないかってとこもあるだろうし。そういう気持ちがあるから、いま闘龍門なんかは成功してるんだと思うしね。

——闘龍門は評価してるんですか？

田村　そうだね。ぶっちゃけると、新日本の選手とかはあぐらをかいてるから。

——それはどういう意味でですか？

田村　名前はあったとしても新日本の一人の選手と、闘龍門の一人の選手の意識っていうのは、全ッ然違うと思う。闘龍門の選手は絶対何クソッて気持ちでやってるから、いまこれだけ注目を集めてると思うし。だからホントね、新日本は名前があって花は咲いてるけど、土の中の根っ子の数が全然違うと思うんだよね。

——田村さんが新日本の選手って言ってるのは、何か意味があるんですか？

田村　いや、全然（笑）。ただメジャーかどうかっていうことだけで。

——新日本の上井さんなんかは田村さんにウチのリングに上がって欲しいってよく言ってるわけですけど。

田村　言われてない、言われてない。

——田村さんの耳には届いてないと（笑）。

田村　来てない、来てない。

——上井さんはことあるごとに「まだ新日本に上がってない最後の大物が田村潔司だ」って言ってて、話はいってるもんだと思ってましたけど。

田村　ないですね。全くない。

——そうでしたか。闘龍門って最近メディアの露出も増えてますけど、どのぐらい知ってます？

田村　全然知らない。でも、伝わってくるね。この間『週プロ』でマグナムTOKYOがインタビューされてたよね？　あれ読んだけど、やっぱり意識が違うよ。

——あの10ページのロングインタビューを読んだんですか？　ボクも途中までは読んだんですけどね。

田村　そうなの!?　あれは全部読まないと。興味ないの？

——いや、そんなことはないんですけど。

田村　興味あるんだったら読まなきゃ。俺、興味あるから読んだもん、全部。

——マグナムに興味があるんですか？

田村　いや、マグナムTOKYOっていう選手がどんな人か知らないし、人には興味がないけど、その内容に興味があったんだよね。それで読んだら、意識も考え方も全然違うよね。考えてることを行動に移して、その行動に移したことを成功させて、いい流れになってる人って、なかなかいないからね。

——この業界は特にそうですよね。

田村　だけど、闘龍門はそれがみんなできてるから凄い偉いと思う。だって年間何百試合ってやってるんでしょ？

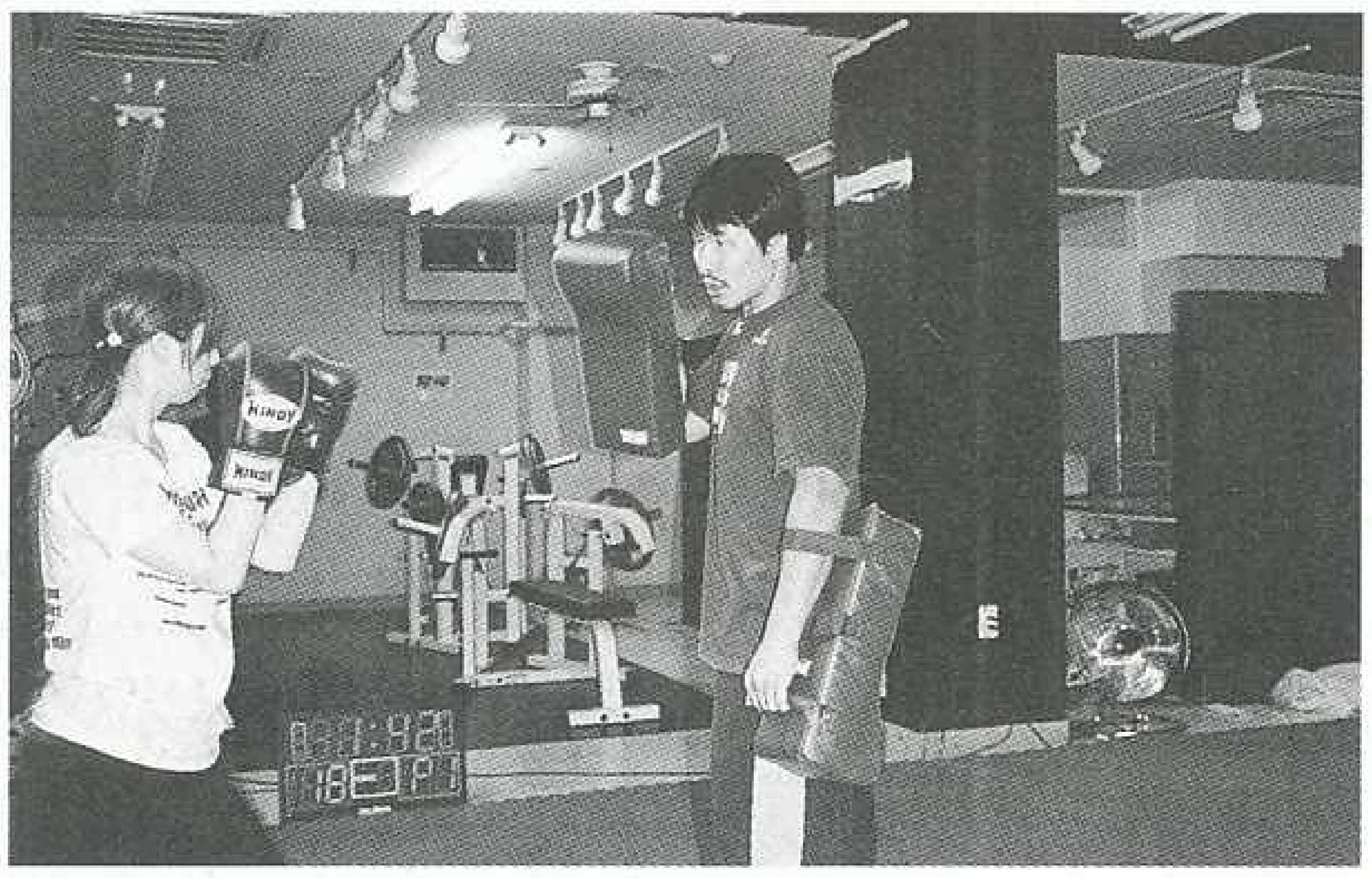
——プロレス団体では一番多いですね。

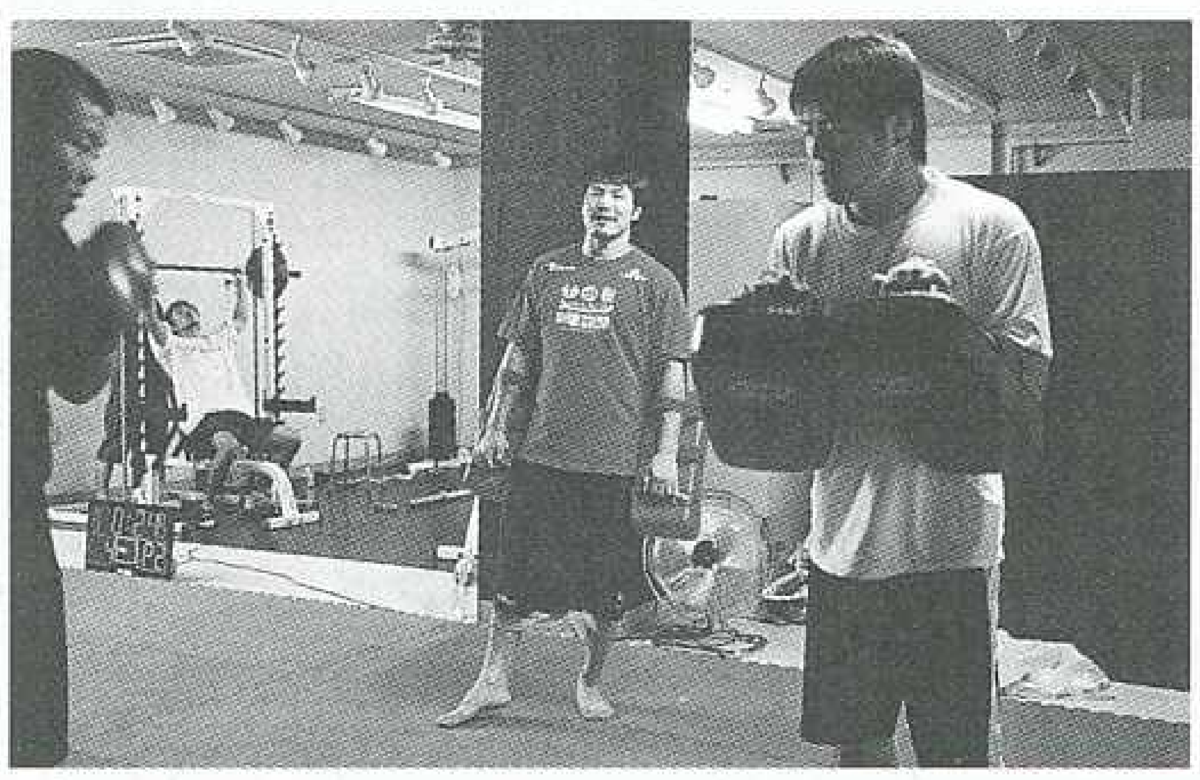
田村　営業とかも選手で分担してやってるわけでしょ。それって当たり前のことのように見えて当たり前のことじゃないんだけど、彼らにとっては当たり前のようにやって結果を残してるから凄いよ。

——やらされてるんじゃなくて、みんな自発的にやってるみたいですからね。そういう意味でU・STYLEとかU・FILEを含めて考えると、下の選手に物足り

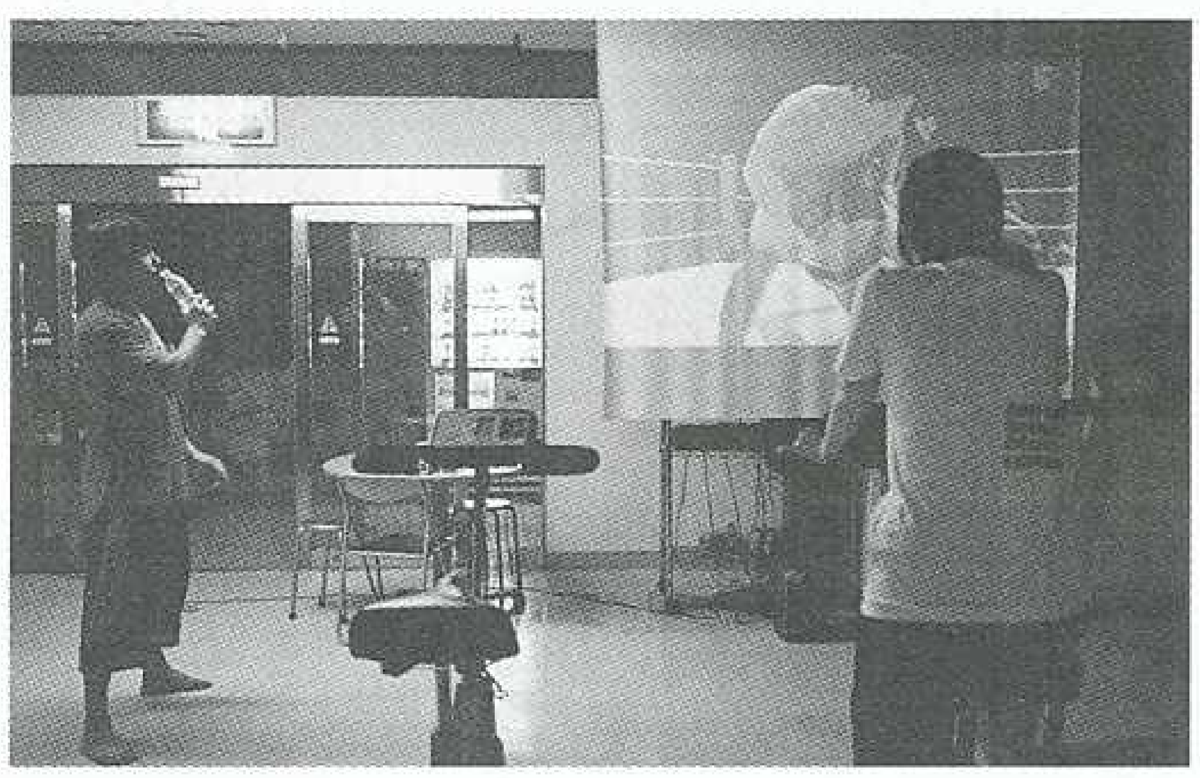
Tamura's Class

U-FILE調布で
田村クラスはじまります





8月からU-FILE調布で毎週土曜日、田村クラスが始まってます。いまなら、もれなくタムタム相手にミット打ちができちゃうぞ。調子が良ければタムタムギャグも聞けるかも。



U-FILE調布ジムにはリングやマットはもちろん、ランニングマシーンやエアロバイクもあるんです。ハッスルしながら、ビジョンでタムタムの試合も見ることもできますよ。

■**U-FILE登戸ジム**　住所：神奈川県川崎市多摩区登戸1568／問：044-932-0282／アクセス：小田急線向ヶ丘遊園駅から徒歩5分（登戸郵便局前）
■**U-FILE町田ジム**　住所：東京都町田市原町田1-2-3／問：042-739-1072／アクセス：JR町田駅南口から徒歩2分、小急線町田駅南口から徒歩5分
■**U-FILE調布ジム（西調布格闘アリーナ）**　住所：東京都調布市上石原2-40-6　B1F／問：0424-80-3731／アクセス：京王線西調布駅から徒歩4分
■**U-FILE赤羽ジム**　住所：東京都北区赤羽3-3-3／問：03-3902-3170／アクセス：JR赤羽駅より徒歩5分、地下鉄赤羽岩淵駅より徒歩1分
■**U-FILE大森ジム（ゴールドジムサウス東京ANNEX内）**　住所：東京都大田区山王2-4-1大森駅前ビル6・7F（ゴールドジムサウス東京アネックス内）／問：044-932-0282（U-FILE CAMP登戸）または 03-5718-3939（ゴールドジム）／アクセス：JR京浜東北線大森駅、山王西口から徒歩2分

なさを感じてるってことですか？

田村　いや、そこまで突っ込まないで（笑）。闘龍門をホメてるだけだから。

——あ、そうでしたか（笑）。

田村　まあでも、ウチもあと2年ぐらいは、もつかなっていう感じなんで。

——またそういうことを言う！（笑）。

田村　でも、あと1～2年が勝負でしょ。

——あと1～2年っていうと田村さんも35～36歳ですし、まだまだバリバリやらなきゃいけないですよね。

田村　まだバリバリだね（笑）。

——田村潔司のU-STYLEが見たいっていう人は多いでしょうけど、いつまでも「田村を見に来た」っていうお客さんを期待してたらU-STYLEの将来を考えると良くないですからね。

田村　そうだよねぇ。まあまあ、頑張りますよ！　1年保ったんだから、あと3年もてばいいんじゃない（笑）。

——目指せ3周年と（笑）。そういえば、田村さんは以前『ゴング』で「PWCは面白い」って言ってましたけど、残念ながらなくなっちゃうみたいですね。

田村　PWCはなくなるんじゃなくて活動停止でしょ？

——さすが、詳しいですねぇ（笑）。

田村　もったいないねぇ。何か協力したいなぁ、PWCに。

——ハハハ！　何を協力するんですか？

田村　ウチでやってるSTYLE-Eと絡ませたいなぁ。でもね、PWCは見てて面白いけど、何が悪いかっていうのは、やっぱり意識の問題だと思うんだよ。

——その辺はU-STYLEと共通の問題でもあるわけですね。

田村　そうそう。意識が変わったら面白いと思うんだけどねぇ。これはU-STYLEにも言えるんだけど。

——田村さんの性格的にPWCが面白いっていうのは何となくわかる気がするんですけど、具体的には、どういった点が一番面白いと思ってるんですか？

田村　PWCは出来上がってないところもあるから面白いんだよ。DDTとかも見たことあるけど、闘龍門と同じ感覚で完成されてるところがあるじゃん。

——エンターテインメント系の団体としてネタがしっかり作り込まれてますからね。

田村　そうそう。でもPWCって何か応援したいものがあるんだよ。ホントもったいないなぁ、PWCは……（しみじみと）。

——団体をやっていくのは、ホント大変なんでしょうね。やる側に回ってみると。

田村　そう！　ホント大変なんだから。見てる方は「カードが弱い」とか「しょっぱい」とか簡単に言うけどね（笑）。

——失礼しました（笑）。

田村　まあメンバーで言えば、たしかに弱いかもしれないよ。でも都合が悪くなった時の佐伯繁だから。メンバーについての不満は佐伯さんに言って（笑）。

——また佐伯さんですか（笑）。

田村　都合が悪いことは佐伯さんで、ホメるところは俺にして（笑）。

——それが田村スタイルなんですね（笑）。

田村　そういうこと！（笑）。まあでも、来年のことで考えてることはあるんだよ。

——U-STYLEの来年の展望ですか？

田村　そうそう。展望っていうほどでもなくて、「来年はこうなったらいいな」っていうぐらいのものだけど。U-STYLEやって1年ちょっと経つけど、去年までの1年間っていうのは、勢いでいけたから。でもこれからはソフト面とハード面、全ての意識を変えないとダメ。そう

俺は「U-STYLEを見に来て良かった」って余韻が残る試合がしたいだけ



PLAYBACK Kiyoshi Tamura's U-STYLE BOUT



VS 冨宅飛駈　03・6・29 梅田ステラホール

U-STYLE大阪初進出のメインで、UWF時代、苦楽を共にした冨宅と対戦した田村。試合は大方の予想を裏切り田村の一方的な展開に。強烈なミドルでダウンを奪いまくった田村が、わずか188秒で勝利。試合後、田村は「試合時間は短かったけど内容は濃かった」



VS 三島☆ド根性ノ助　03・4・6 ディファ有明

旗揚げ戦でU-STYLEへ参戦表明した三島と初対決を行った田村。三島のオリジナル技・コブラ固めでファーストエスケープを奪われた田村だったが、最後は腕十字をガッチリと極め勝利。試合後の田村は「今後、いいライバルになるのかなと思いました」



VS 坂田亘　03・2・15 ディファ有明

U-STYLE旗揚げ戦の田村の相手はリングス時代から行動を共にすることが多かった坂田。4年振りの対戦となったこの試合は、互いにエスケープを奪い合う白熱の攻防の末、田村がフロントチョークで勝利。試合後の田村は「今日の自分の試合は50点ぐらい」

いう意味でいまはゼロからスタートする気

う気持ちとパワーを溜めてる状態だから。

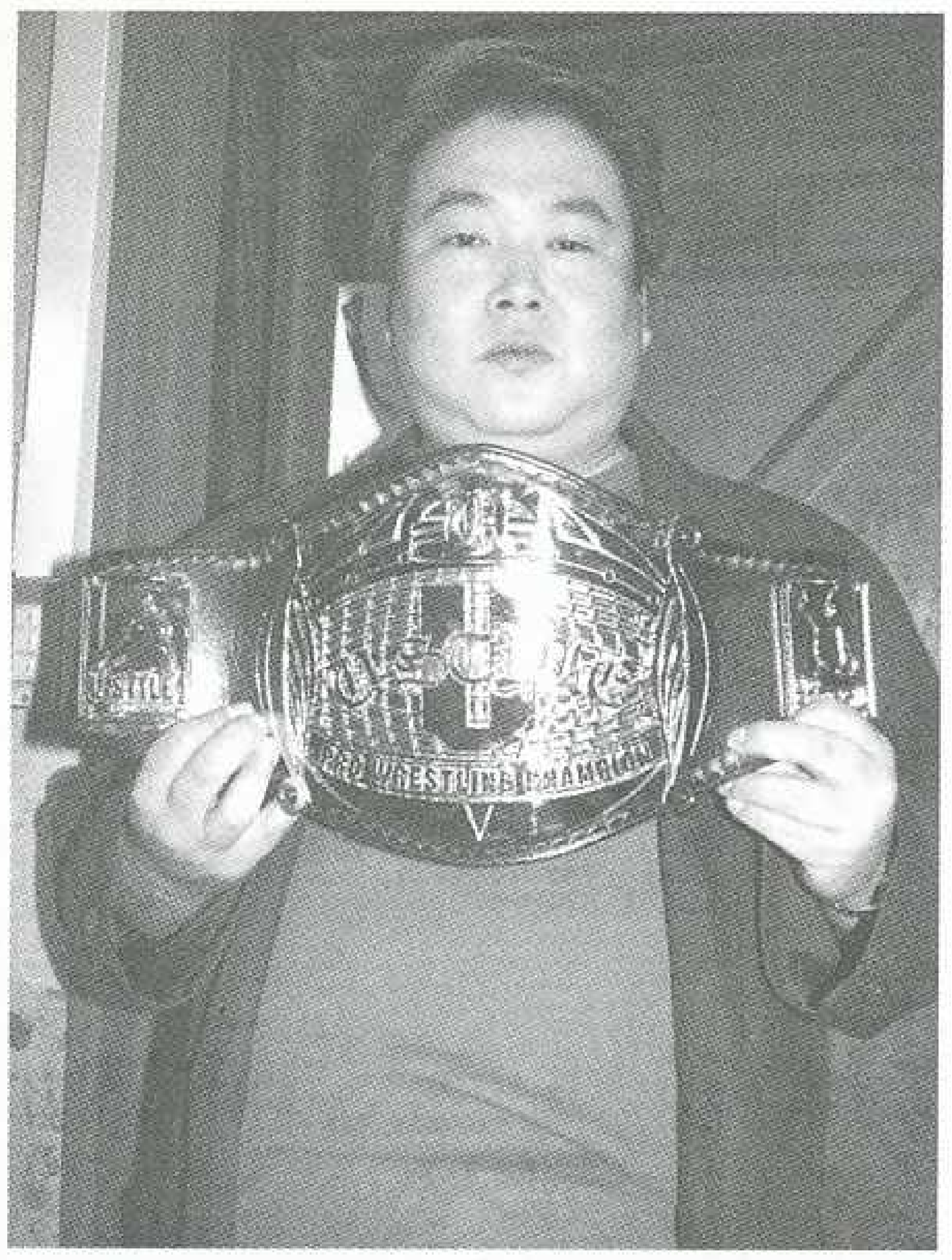
——ただ、ホイスは次はK-1『ROMA

いう意味でいまはゼロからスタートする気持ちじゃないと無理かな。とりあえず来年を期待してくれ、と（笑）。
──トーナメント前に、既に来年の話ですか（笑）。
田村　いやいや、もちろん、トーナメントも見て欲しいけどね。
──最初に言ってましたけど、今度のトーナメントの見どころとしては「俺のベルト姿を見に来い」って感じなんですよね？
田村　まあ、何かなければ、間違いなくベルトは俺が巻くと思うから、このメンバーだと。あとはもう試合内容で見せるしかないよね。俺の基本的な部分は「U-STYLEを見に来て良かった」っていう余韻が残る試合がしたいだけだから。
──田村さんの試合は余韻が残りますからね。お世辞抜きにして。
田村　でしょ？（笑）。まあ、刺激を求められるのは俺も凄い分かるし、だけど、それ以上に大切なものがやっぱり試合内容だから。見に来なかった人を後悔させるような試合内容を見せないといけないし、逆に「メンバー弱いじゃん」って言われれば言われるほど、俺の溜めはあるから、そういって言われて何クソッっていう気持ちとパワーを溜めてる状態だから。まあ、期待しいて欲しい……なぁ。
──アハハハハ！　最後に『PRIDE』方面の話も聞かせて欲しいんですけど。
田村　話すことないよ。
──いまのところ予定はないと？
田村　予定もないし、『PRIDE』は興味ないから。基本的に自分とかジム生が関わってないと全く興味ない。それだったらPWCの方が全然興味ある。
──どういう比較なんですか？（笑）。
田村　『PRIDE』の〝P〟より、PWCの〝P〟なんだよ、興味があるのは（笑）。
──それはそれとして、『PRIDE』で闘いたい相手っていうと、ちょっと前に話していたとおり、吉田さんとホイスどっちかとだったらやりたいっていうぐらいの感覚なんですか。
田村　そうだね。
──ただ、ホイスは、「吉田に負けてる田村とはやるつもりはない」って言ってるみたいですよ。
田村　俺とはやりたくないって？
──残念ながら、そうみたいです。
田村　なるほど。じゃあ、吉田秀彦に勝つしかないね。
──ただ、ホイスは次はK-1『ROMANEX』で須藤元気とやるんじゃないかって話もあるみたいですけどね。
田村　何でK-1に行くの？
──須藤選手がホイラーに勝って「次はホイス選手、僕と闘って下さい」っていうアピールにホイスも握手で応じたんですよ。
田村　へぇ〜。
──『ROMANEX』には田村さんとか吉田さんも出るんじゃないかって噂もちょくちょく出たりしてましたけど。
田村　吉田さんは出ないと思うなぁ。
──また意味深なこと言いますね（笑）。
田村　いや、吉田さんが出たら人間不信だよ。俺は全然可能性あるけど。
──そうなんですか（笑）。
田村　あるある（笑）。
──田村さん的には、いい話でタイミングが合えば可能性はゼロではないと。
田村　そうだね。でも、そんなことといったらPWCに行く可能性もあるから（笑）。
──最後までPWCですか（笑）。では、U-STYLEのトーナメントと、PWCの復興に向け頑張ってください！

【7月17日／U-FILE調布近くのカラオケボックスにて収録】

Kiyoshi Tamura

Schedule



U-STYLE初代チャンピオン決定トーナメント日程!!

8月7日（土）
『U-STYLE9 トーナメント1回戦』
大阪・梅田ステラホール
OPEN／16:00　START／17:00
第1試合　木村直生 vs 森山大
第2試合　冨宅飛駈 vs 大久保一樹
【初代チャンピオン決定トーナメント1回戦】
第3試合　佐々木恭介 vs 伊藤博之
第4試合　上山龍紀 vs アレクサンダー大塚
第5試合　垣原賢人 vs 石川雄規
第6試合　田村潔司 vs 三島☆ド根性ノ助

【席種・料金】※当日500円UP
VIP（最前列・2列目、パーティー付）15000円／
SRS席 8000円／指定A席 6000円／指定B席 5000円

8月18日（水）
『U-STYLE10 トーナメント2回戦&決勝戦』
東京・後楽園ホール
OPEN／17:30　START／18:30
トーナメント準決勝2試合
トーナメント決勝戦
【ワンマッチ】
原学 vs ロッキー・ロメオ
出場予定選手　佐々木健介、中嶋勝彦、クラフターM

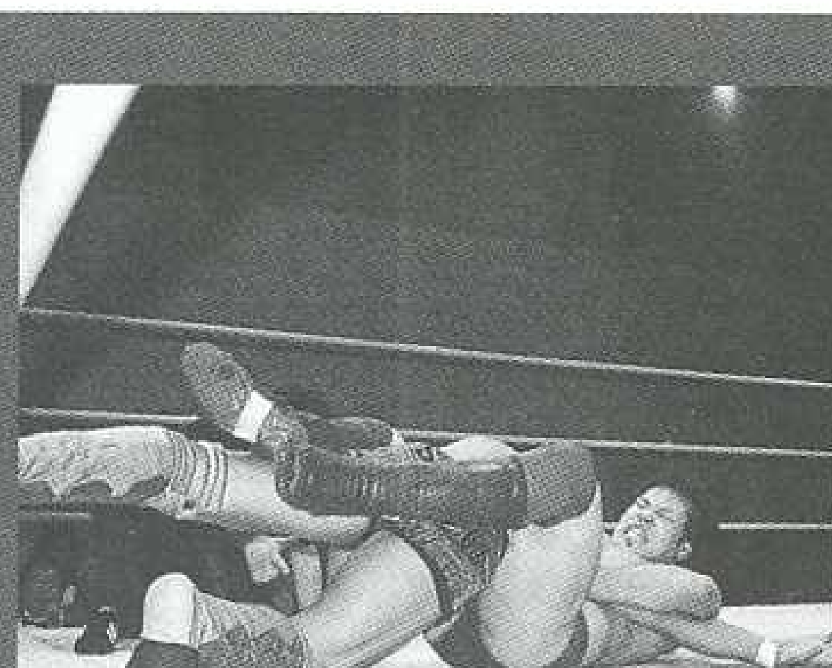
【席種・料金】※当日500円UP
VIP（最前列・2列目、パーティー付）15000円／
SRS席 8000円／指定A席 6000円／指定B席　5000円

■問い合わせ
U-STYLE事務局（DEEP事務局）／TEL.052-339-0303



VS 大久保一樹
04・4・28　後楽園ホール

田村の愛弟子対決２戦目の相手は、日頃、スパーリングを頻繁にこなしている大久保ちゃん。ゴング前、田村の胸板を突き飛ばし気合いを入れた大久保だったが、逆片エビ固めでエスケープを奪うのが精一杯。最後はジャンピングハイキックで田村の勝利！



VS 佐々木恭介
04・3・13　梅田ステラホール

U－STYLE旗揚げ以来、はじめて愛弟子との一騎打ちを行った田村。試合開始前、師匠の田村へ張り手をブチかました佐々木が、勢いに乗って攻め込みファースト＆セカンドエスケープを連取。しかし、最後は伝家の宝刀・左ミドルキックで田村に軍配！



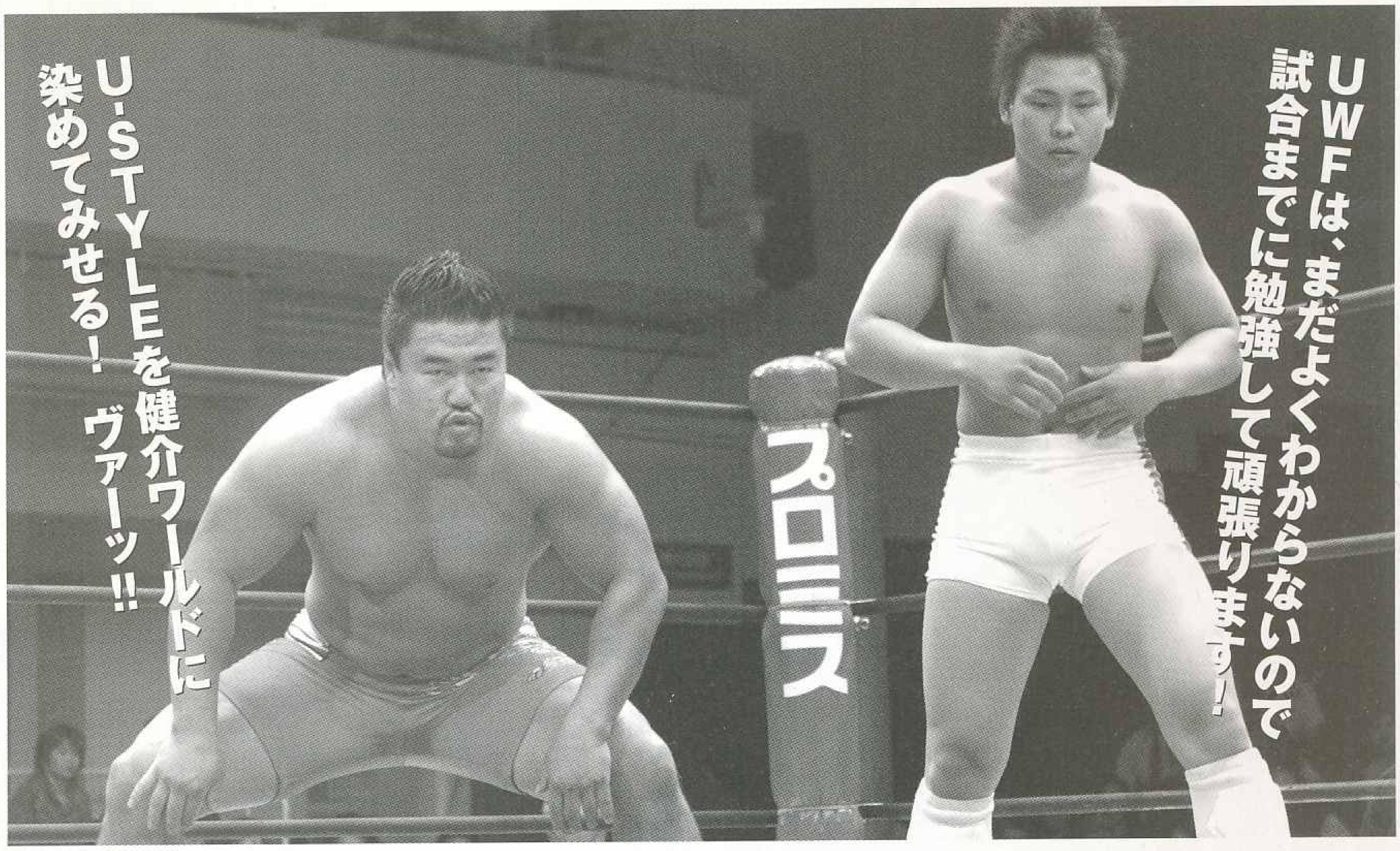
VS 高阪剛
04・2・4　後楽園ホール

U-STYLE１周年記念大会で、リングス時代から好勝負を繰り広げてきたＴＫと闘った田村。会場には成瀬やジョシュといった新日勢も姿を見せる中、２人はハイレベルな攻防を披露。最後は田村が腕十字で勝利するも、試合後ノーコメントで会場をあとに。



VS 藤井克久（現・軍鶏侍）
03・12・9　後楽園ホール

10月大会での「田村潔司挑戦者決定トーナメント」で優勝したUFOの藤井と対戦した田村。旗揚げから全勝同士の対戦となった、この試合は藤井の豪快なジャーマンに手こずりながらも、最後は田村がダブルリストロックで勝利、連勝記録を４に伸ばした。



正直、楽しみ！ 健介&中嶋クンが 8・18 U-STYLEに出撃!!

8・18U-STYLE後楽園の目玉は初代王者決定トーナメントだけじゃない！ なんと、健介と中嶋クンがそれぞれワンマッチで出場決定！ ハワイ遠征中の2人に初挑戦となるU-STYLEへの意気込みを語ってもらった。アロハ〜!!

聞き手／松澤チョロ　撮影／平工幸雄　designed by Tani-Yan (Two three)

──8・18U-STYLE後楽園大会へ出場が決まったわけですが、中嶋クンはU─STYLEってどういう印象があります？

中嶋　エッ!? あの〜、あれですよね。高田さんとかがやってたヤツですよね？

──ちょっと違いますけど、高田さんとかがやってたUWFの流れを汲んだ団体ですね。田村さんのことは知ってます？

中嶋　知ってます知ってます。『PRIDE』とかも出てますよね。U-STYLEって、プロレス……じゃないヤツですか？

──いや、プロレスはプロレスですね（笑）。

中嶋　いまプロレスになってるんですか？

──う〜ん、いまはプロレスっていうか、当時もプロレスっていうか（笑）。ビデオとかでUWFは見たことがあるんですか？

中嶋　いや、全然見てないです。

──参戦の話を聞いてどう思いました？

中嶋　自分は健介ファミリー入りして、いろんな団体に出させてもらってるんですけど、今回はU-STYLEっていう団体にチャレンジしていくっていう気持ちで頑張っていこうって思ってます！

──UWFっていうのは、この間、中嶋クンが指導してもらった前田さんが作ったような団体なんですけど、実際、前田さんに会ってみて、どういう印象を受けました？

中嶋　おっきいなぁって思いましたね。でもUWFの話とかは伺ってないんで、よくわかんないですね。すいません、自分はリングスしかわかんないんですよ（笑）。

──入団するって話もあったみたいですし、リングスは何回か見てるんですよね？

中嶋　見てます見てます。エッ、リングスっていうのはUWFから来たんですか？

──そうですね（笑）。中嶋クンはU─STYLEって凄く向いてると思いますよ。

中嶋　初めてなんで、どうなるのかなっていうのが、ちょっと怖いっていうのもあるし、逆に楽しみでもありますね。

──最後に意気込みを聞かせてください！

中嶋　なんか、プロレスじゃなく、『PRIDE』でもなくって感じみたいなんで、その間ぐらいの感じで頑張ります！

──健介さん、突然のU-STYLE参戦には、ビビってたじろぎましたよ！

健介　そうッスか!? 実はボク、まだ詳しくわかってないんですよね（笑）。あそこの団体は何なんですか？ 何なの!?（笑）。

──「何なの？」って言われても困りますけど（笑）。健介さんも知っているUWFが進化したスタイルって感じですかね。

健介　へぇ〜。じゃあ、プロレスってことでいいんですよね？

──まあ、そうですね。よくわからないけど、なんか面白そうだなって思って参戦を決めた感じなんですね？

健介　うん、そういう感じ（笑）。

──でも、健介さんと言えばデビュー直後から、鈴木みのるさんとかとグラウンド中心の試合をしたりしてましたし、当時UWFスタイルには興味があったんですよね。

健介　そうッスね。鈴木もそうだし、当時は安生とか同年代の選手も何人もいたんで、またそういうスタイルで試合をしてみるのも面白いかなって思いましたね。

──最近は、バトラーツの道場で石川社長とかと一緒に練習してるんですよね。

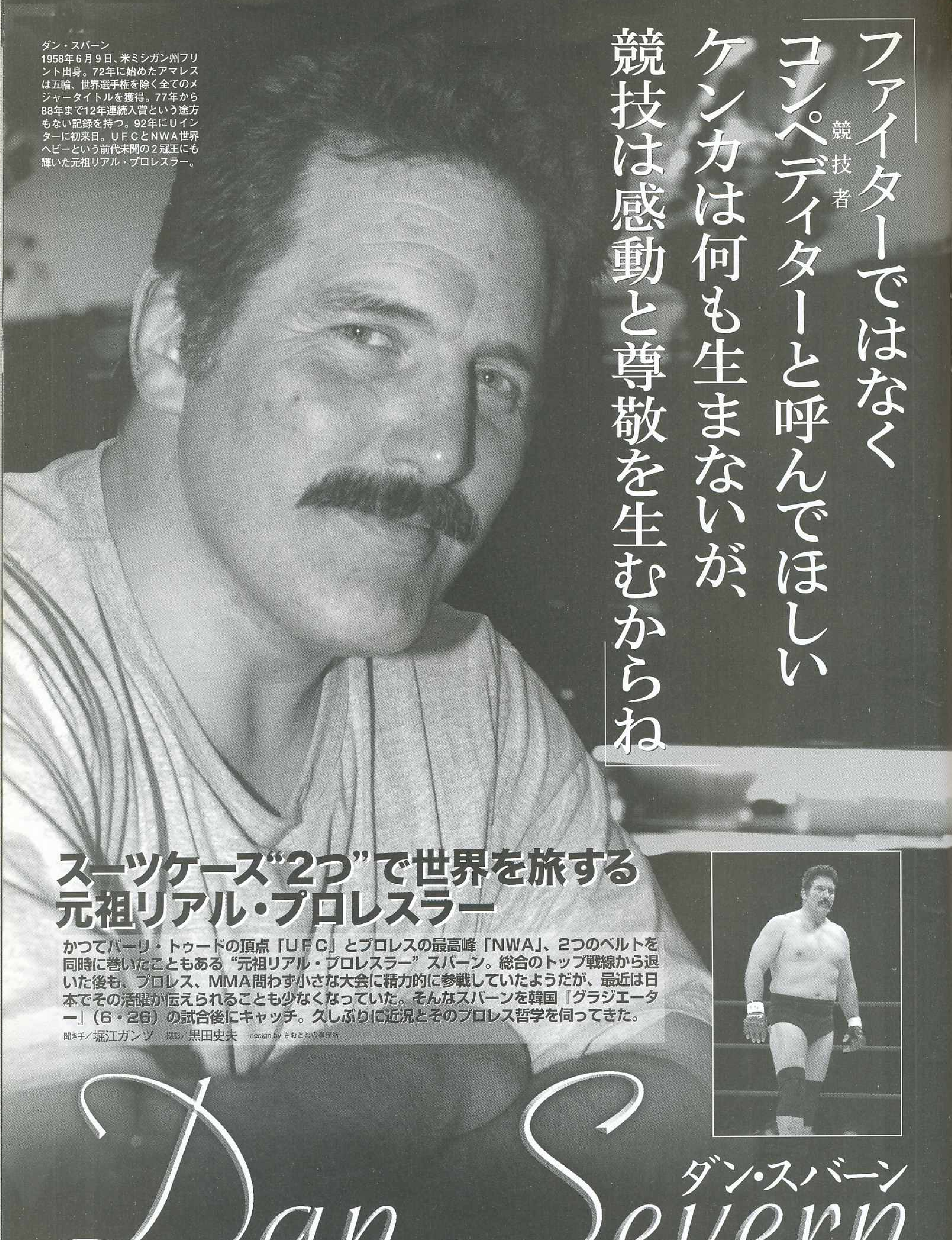
健介　そうッスね。気分良く練習できてます。最近はトレーニングも、いろんな面で進化してきてるけど、それとはちょっと違って、昔のプロレスの練習みたいな感じで。

──今年は、いろんな団体で、いろんな顔を見せてますけど、U-STYLEっていう大会に出るにあたって、何か違う顔を見せてやろうとか考えてます？

健介　一回もやったことないから何とも言えないけど、U-STYLEの世界じゃなくて、健介ワールドを見せたいッスね。いろんな団体に上がってきてるけど、その場所その場所で俺の世界を作ってるし、だからU-STYLEでも同じ感じですね。

──健介さんのUWFスタイルっていうと一番印象的なのは、ドームで垣原さんに負けちゃった試合なんですけど（笑）。

健介　ガッハッハッハッ！ あの時はポカをやったって言ったんですけど、今回はポカをやらないように頑張ります！（笑）。



「ファイターではなく コンペディター（競技者）と呼んでほしい ケンカは何も生まないが、競技は感動と尊敬を生むからね」

ダン・スバーン
1958年6月9日、米ミシガン州フリント出身。72年に始めたアマレスは五輪、世界選手権を除く全てのメジャータイトルを獲得。77年から88年まで12年連続入賞という途方もない記録を持つ。92年にUインターに初来日。UFCとNWA世界ヘビーという前代未聞の2冠王にも輝いた元祖リアル・プロレスラー。

スーツケース“2つ”で世界を旅する 元祖リアル・プロレスラー

かつてバーリ・トゥードの頂点「UFC」とプロレスの最高峰「NWA」、2つのベルトを同時に巻いたこともある“元祖リアル・プロレスラー”スバーン。総合のトップ戦線から退いた後も、プロレス、MMA問わず小さな大会に精力的に参戦していたようだが、最近は日本でその活躍が伝えられることも少なくなっていた。そんなスバーンを韓国『グラジエーター』（6・26）の試合後にキャッチ。久しぶりに近況とそのプロレス哲学を伺ってきた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／黒田史夫　design by さおとめの事務所

Dan Severn ダン・スバーン

シンが私とMMAをやるって？ おいおい、いま初めて聞いたよ（笑）

—スパーンさんが日本のメディアから取材を受けるのは久々だと思うんですけど、失礼ですが、今おいくつになられたんですか？

スパーン 46歳だよ（笑）。

—46歳！ その年でまだMMA（総合格闘技）をバリバリやってるんですか！ それはほかの選手に励みになりますね。

スパーン ただ、そのためにはトレーニングを休まず続けなければならないし、もちろん定期的なオファーがなくては試合ができない。そういった意味では、私の階級であるヘビー級と比べてミドル級の選手は大変だと思うよ。いくらでも取り替えが効く選手が溢れているんだからね。でも、ダン・スパーンの代わりができる選手はなかなかいない。安いファイトマネーでホイホイMMAに出てくれる知名度のあるヘビー級の選手なんて、そうそういないだろうからね（笑）。

—そんなスパーン選手も日本のマット界では、格闘技もプロレスもご無沙汰していますが、現在はどんな活動をしているんですか？

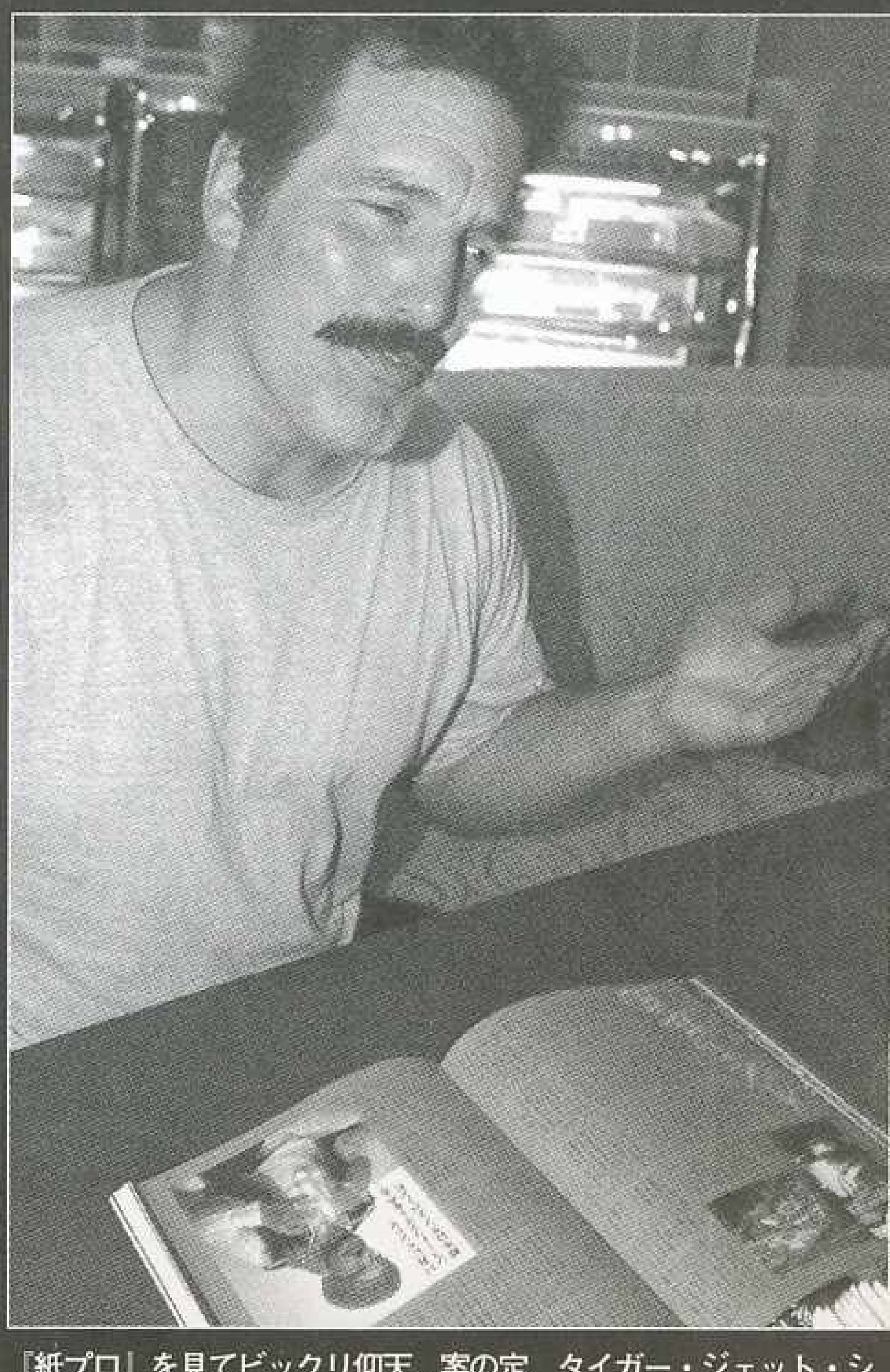
スパーン 相変わらず毎週のようにプロレスの試合に出ているし、MMAも毎月やっているよ。

—毎月MMAマッチをしてるんですか!?

スパーン 毎週末何かしらやっているんだ。例えば、第1週はMMA、第2週はプロレスの試合、そして試合がない週末はMMAのセミナー、プロレスのセミナー、グレコローマンのセミナー、フリースタイルのセミナー、それから学生たちへのレスリングセミナー、もうひとつ警察官にも格闘技を教えているから、かなり忙しい日々を送っているよ。

—凄いハードスケジュールですねぇ！

スパーン WEBページで今月のスケジュールを見てもらえばわかるけど、みんな「ダン・スパーンは双子なんじゃないか？ こんなスケジュールをひとりでこなせるハズがない」と言うんだよ（笑）。



『紙プロ』を見てビックリ仰天。案の定、タイガー・ジェット・シンがぶち上げたMMAマッチは初耳だったスパーン。でも、本人は乗り気なので、ゼヒ実現してほしい！

—では、もう次の試合も決まっていたりするんですか？

スパーン もちろん。11月までにすでに6試合MMAマッチが決まっているよ。これから2週間後にコロラドスプリングスで試合があり、その2週間後にサウスダコダでまた試合があるんだ。私のWEBサイトを見たら驚くんじゃないかな（笑）。

—そんなに試合をしていると、ご自分ではMMAレコード（総合格闘技での対戦結果）なんかもよくわからないんじゃないですか？

スパーン 確かに正確な数字はわからない（笑）。おそらくこれまで130試合ぐらいしてるけど、その中で少なくとも110試合以上は勝っているよ。

—ジェレミー・ホーンとどちらがたくさん試合をしていますか？

スパーン どうかなぁ。彼もたくさん試合をしているけど、私の方が長くやってるから同じくらいかな。でも、一人とんでもないヤツがいて、トラビス・フルトンというんだけど、彼は明らかに私より多くMMAをやっているね。ただ、トラビスはまだ20代半ばだから無理がきくんだろう。40代後半の私と比べてほしくないなぁ（笑）。

—でも、なぜ毎月のように闘おうとするんですか？ 普通は準備をして何ヶ月に1回のペースで闘うものだと思うんですけど。

スパーン まぁ、普通の選手はそうなんだろうけど、私は普通じゃないからね（笑）。私の場合、試合前に追い込んで練習するというより、いつも通りの練習の途中で試合がある感じなので、試合をすること自体が特別なことじゃないんだ。だから、例えば今回の韓国大会でも、私は昨日ソウルに着いて、試合当日である今日、誰と闘うか知っただけだからね（笑）。

—相手も知らずに韓国まで来ましたか（笑）。

スパーン モンテ・コックスから相手の名前だけは聞いていたけれども、「イリエ」なんていう選手は聞いたこともなかったし、誰と闘っても自分の闘いをするだけだから、関係ないんだよ。

—ちなみに、今日の試合後、入江選手は「スパーンはボクのアームロックでタップした」と主催者側にアピールしてたんですけど、実際はどうだったんですか？

スパーン 私がタップを？ 力任せに切り返しはしたけど、見ての通りタップなんかしてないよ（笑）。本気でそんなこと言ってるのかい？

—もちろん、その抗議はアッサリ一蹴されたんですけどね（笑）。

スパーン でも、イリエは面白いヤツだったね。なんかパフォーマンスをしたり、試合中にいろいろしゃべってきたり。私の130戦に及ぶMMAキャリアの中でも、5本の指に入る変なヤツだったよ（笑）。

—さすが入江選手ですね（笑）。

スパーン 彼がリマッチを望むならどこでもいいよ。もっとトレーニングをして、1Rでケチョンケチョンにしてあげるから。その時は、遊んでるヒマもなく、彼の叫びは痛みによる叫びだけになるよ。今日の私はナイスガイだったけど、次に彼とやるときは〝ビースト〟になるから。なんなら、私が主催するイベントで対戦を組んでもいい。あまりファイトマネーは払えないけどね（笑）。

—スパーン選手は自分でMMAの大会も開いているんですか？

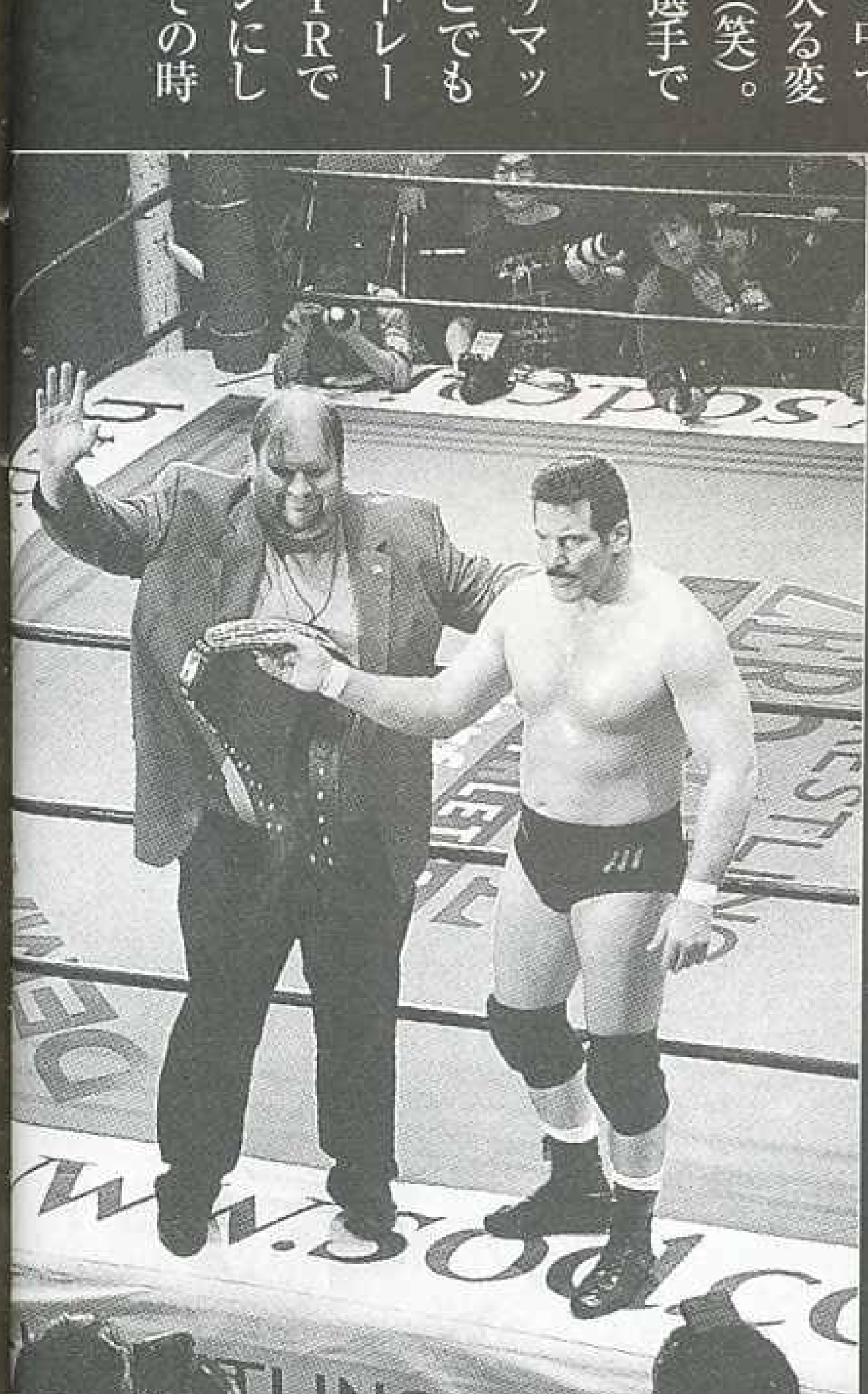
スパーン YES。いまMMAの会社とプロレスの会社、それから大きなトレーニングジムを持っていて、みんな成功しているんだ。会計士にも「あなたは自分の好きなことをやってこれだけ成功している希な人だ」と言われたよ。

—MMAのイベント名は何と言うんですか？

スパーン 『デンジャーゾーン』というイベントなんだが、だいたい6～8週間に1度に割合で大会を開いているよ。

—『デンジャーゾーン』は聞いたことあります。あれはスパーン選手が主催してたんですか。

スパーン それから1ヶ月に1回『ミッドウエスト・レスリング・アライアンス（MWA）』というプロレスのイベントも開いているよ。



02年3月にはZERO－ONEにも登場。NWA世界王者として破壊王の挑戦を受けたスパーンはクリーンファイトに徹していたが、クソデブことジム・ミラー会長の余計なお節介により、Mr.フレッドの高速スリーカウントの力を借りての不本意な勝利。なお、このときがフレッド初の高速カウントだったのだ。



先に韓国で行われた『グラジエーター』では入江秀忠と対戦し、判定勝ちを収めたものの動きが悪く、やはり年齢を感じさせたスバーン。かなりウエイトオーバーもしていた。

――そういったイベントを開こうと思ったきっかけは何だったんですか？

スバーン まずそこに出ている選手というのは、自分のジムの選手が多いんだ。だいたい自分で育てて、プロでできると思ったときに試合に出す。

――ジムの卒業生のためのリングなわけですか？

スバーン それだけじゃないけどね。私は開かれたイベントを心がけているんだ。いまはUFC、『PRIDE』、KOTCを初めとしていろんなイベントがあるけど、選手がそれらのイベントを自由に行き来できないシステムになってるじゃないか。MMAは個人スポーツなのだから、私はみんなフリーであるべきだと思うし、そういったフリーの選手が上がれるリングが『デンジャーゾーン』なんだよ。自分自身、呼ばれればどこのリングでも試合をするしね。

――ほんとスバーン選手のスタイルは、「スーツケースひとつで世界中を旅する」と言われた、古き良き時代のNWA世界王者のサーキットみたいですよね。

スバーン 私の場合はMMAのバッグとプロレスのバッグをつねに二つ持ち歩いているから、「スーツケース〝2つ〟で旅する」と言った方がいいけどね（笑）。

――確かに（笑）。そういえば、11月にインドでタイガー・ジェット・シンとMMAの試合をするというのは本当ですか？

スバーン （怪訝そうな顔で）私がタイガーと？

――ええ。ウチの雑誌でやったインタビューで、シンが「11月にインドでシュートファイトをやる。相手はダン・スバーンだ！」と答えてるんですけど（笑）。

スバーン いま初めて聞いたよ（笑）。

――やっぱりそうでしたか（笑）。

スバーン 別にやるのは構わないけれど、ちょっとスケジュールを確認しないといけないなぁ。でも、11月なら調整できると思うから、いつでもオファーの電話を待っているよ（笑）。

――シンとは面識はあるんですか？

スバーン あるよ。IWAジャパンのカワサキ・スタジアム（95年）に一緒に出てるからね。

――あぁ、そう言えばそうですね。シンとも闘ってるんですか？

スバーン いや、シンとはやらなかったな。覚えているのは、カワサキ・スタジアムでのターザン後藤戦と、あとは〝ベンキー〟とやった試合かな。

――べ、便器……ですか？

スバーン ベンキーを知らないかい？ 体が大きいスモーレスラーで。

――ああ！（大黒坊）弁慶ですか！

スバーン そう。ベンキーとはアルティメットスタイルのプロレスをやったんだが、彼はパワーがあって面白かったよ。それからZERO-ONEでハシモト（破壊王）ともやっているんだ。

――疑惑のNWA世界戦（笑）。ありましたね～。

スバーン 以前、日本に来たときはヒールで、〝ビースト〟を強調した闘い方をしていたが、今度日本に行けたならば、キチッとスーツを着込んだ正当派としてやりたいね。プロレスラーというのはオフィスが望んだことをやらなければいけないから仕方がないんだけど。昔、女性に負けたこともあるからね（笑）。

――UFC&NWA王者が女性に負けましたか（笑）。それはWWEですか？

スバーン いや、それはインディペンデントの団体で、お客が少ないからいいかなと思ってね（笑）。でも、WWEではかつてのケインみたいなマスクマンだったら、どんなにリングで非道なことをしても、マスクを脱げば日常生活に支障はないけれども、私の場合は素顔だからね。あまり酷いことはできないよ。それなのにWWEは私の額に「666」と書いて試合に出ろというんだよ。そんなことをしたら、もう外を歩けないから、さすがに断ったら、アッサリとクビを切られてしまった（苦笑）。

いま私は選手でありプロレスとMMAの団体オーナーでもあるんだ

――WWE離脱の真相はそれでしたか（笑）。

スバーン やっぱり私は「ダン・スバーン」という本名でリングに上がってるからね。あまり人間性を疑われるようなことは難しいよ。私はリングでは野獣になるが、普段は紳士の振るまいを欠かさない。ニックネームも〝ビースト〟じゃなく〝テディベア〟にしてもらいたいくらいだよ（笑）。

――日本ではもう一人のビースト、ボブ・サップが有名ですが、彼のことはご存じですか？

スバーン ああ、知っているよ。ただ、彼の試合というのは、『Dynamite!』でやったノゲイラ戦しか観たことがないんだ。

――あのノゲイラ戦のころは素晴らしかったんですけど、いまやすっかりビーストぶりは影を潜めて、それこそ〝テディベア〟になってるんですよ（笑）。

スバーン 彼の評判がよくないのは、知っていたよ。アメリカの雑誌やインターネットのサイトなどでも、ミルコ・クロコップvsボブ・サップなどが取り上げられていたんだけど、いまは漫画のキャラクターのような存在になってしまって、酷い書かれようだったからね。やはりリング上で〝ビースト〟であり続けるというのも大変なんだよ。私も普段は〝テディベア〟だけど、なんとかまだリング上では〝ビースト〟でいられるので、まだまだ現役は続けるつもりだよ。

――今後スバーン選手はどんな活動をしていきたいですか？

スバーン MMAの選手としても、プロレスラーとしても、『デンジャーゾーン』、MWAのオーナーとしても、すべてベストを尽くしたいと思う。自分の選手としてのピークは46歳という年齢を考えても過ぎているとは思うけれど、年齢は関係なく、これからもMMA、プロレスどちらもやっていくつもりだし、すべての活動をこれからも続けていくことがテーマだね。

――では最後に、若いファイターに何かアドバイスがあればお願いします。

スバーン それを話す前に、私は〝ファイター〟という言葉は好きじゃないんだ。ファイターというと街のケンカ屋を連想してしまうからコンペディター（競技者）と呼んでほしい。ケンカは何も生まないが、競技は感動と尊敬を生むからね。だから、若い選手に私から学んでほしいことがあるとすれば、アスリートとして、いい試合をすることが自分の仕事だという意識で闘うということかな。決して我々がやっていることは、見せ物のケンカじゃないからね。

【04年6月26日／韓国・ソウル『オリンピック・パークホテル』にて収録】

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

嫌なことも悲しいことも吹き飛ばす、仰天情報が目白押し!!

FNS27時間テレビの『恋のかま騒ぎ』は観ました？ 大半を吉本勢が占める中で、グズグズになりながらも頑張るネプチューンは、なんか新日本の選手にいじめられるインディー選手みたいで、むかしの『スーパーJr.』を観てるようでした。担当はサイノです。

Fight & Ticket　試合・大会情報

8・8 バトラーツ越谷大会 NOAHの刺客が越谷に来襲!!

真夏の越谷で伝説のバチバチファイトが蘇る！ NOAHの池田大輔が臼田とタッグを結成し、石川社長＆原学と激突する。初期バトラーツで、気が狂ったように殴り合った大ちゃんとイカレ社長。月日が経った現在でもシバキ合いは必至だ！ そして同日、大ちゃんの盟友、元チーム・タコの小野武志がDEMOLITIONに参戦する。そちらも合わせて注目だ!!

『鼓舞～blood, sweat＆tears～』
■日時　8月8日（日）試合開始17:00（16:00開場）
■会場　埼玉・桂スタジオ
■チケット　SRS席 5000円／自由席 4000円／小中生 1000円（当日販売）
■決定カード
石川雄規 & 原学 vs 池田大輔（NOAH）& 臼田勝美（フリー）
竜司ウォルターズ vs チョコボール向井（IWA JAPAN）
■問　バトラーツ　0489-63-0005
■HP　http://www.battlarts.jp/

怨霊&殺害塩化ビニール プレゼンツ"666"第4弾興行

■日時　8月21日（土）試合開始19:00
■会場　東京・バトルスフィア東京
■チケット　社長と心中席（最前列指定席）4000円／自由席（2列目以降自由席）3000円
■問　666オフィス　090-3805-1892　■HP　http://666.thrustkick.com/

WJ選手会興行メインにカシンが出場！

『TAKE OFF！』
■日時　8月19日（木）　試合開始18:30■会場　後楽園ホール
■チケット　S席 6000円／A席 5000円／B席 3000円
■対戦カード
❼【WMGタッグ王座決定戦】
石井智宏＆ケンドー・カシン vs 金村キンタロー＆BADBOY非道
❻長州力＆維新力浩司 vs 藤原喜明＆石川雄規
❺越中詩郎＆大森隆男 vs 田中将斗＆佐々木義人
❹ミスター雁之助 vs GENTARO　❸マンモス佐々木 vs 黒毛和牛太
❷宇和野貴史 vs 関本大介　❶和田城功 vs 下田大作
■HP　http://www.wj-pro.net/

ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭!! vol.16

■日時　8月24日（火）開始19:30（開場18:30）
■会場　ロフトプラスワン　■料金　¥1800（飲食別）
■出演　ターザン山本、吉田豪、豪華マル秘ゲストたちが乱入予定!!

パンクラス梅田大会 10勝無敗の前田吉朗が地元に凱旋！

5月28日の後楽園大会でKO勝利し、デビュー戦以来10連勝を誇る前田吉朗が大阪に凱旋を果たす。対戦相手は2001・2002年『ブラジリアン柔術世界選手権』黒帯ペナ級優勝のフレジソン・パイシャオン。9年の柔術のキャリアに加え、ボクシングも特訓し、『ジャングルファイト2』での総合初挑戦を白星で飾っている。前田に敗れた同門アレッシャンドリ・ソッカの敵討ちと、柔術復権を掛けたパイシャオンが、未だ底を見せないミラクルファイター前田に襲いかかる!!

『PANCRASE 2004 BRAVE TOUR』
■日時　8月22日（日）試合開始16:00（開場15:00）　■会場　大阪・梅田ステラホール
■チケット（当日500円up）SS席 8500円／A席 6500円／B席 5000円
■対戦カード
❼【フェザー級戦・5分3ラウンド】前田吉朗（パンクラス稲垣組）vs フレジソン・パイシャオン（グレイシーバッハ・コンバットチーム）
❻【ライトヘビー級戦・5分3ラウンド】ニルソン・デ・カストロ（シュート・ボクセ・アカデミー）vs 渡辺大介（パンクラスism）
❺【ウェルター級戦・5分2ラウンド】大石幸史（パンクラスism）vs 男!徳岡（WATER）
❹【ヘビー級戦・5分2ラウンド】小澤強（禅道会）vs セハク（RJW/CENTRAL）
❸【フェザー級戦・5分2ラウンド】亀田雅史（総合格闘技道場コブラ会）vs 砂辺光久（HYBRID WRESTLING 武∞限）
❷【ミドル級戦・5分2ラウンド】花澤大介13（総合格闘技道場コブラ会）vs ザ・グレート浪花（総合格闘技夢想戦術）
❶【ウェルター級戦・5分ラウンド】熊谷真尚（禅道会）vs 宮崎裕治（総合格闘技道場コブラ会）
■問　パンクラス　03-5792-0815　■HP　http://www.pancrase.co.jp/

DRAGON GATEが毎日観戦できる！『お台場毎日プロレス』絶賛開催中!!

DRAGON GATEが『お台場冒険王2004』で毎日プロレスを開催中！ ほぼ毎日、13:30と16:30の2回公演。冒険王の入場料金だけでDRAGON GATEを楽しむことができる。そして毎週火曜日はプレミアムマッチ！ コチラはチケットが必要なので要注意。くわしくは下記HPで。

『DRAGON GATE PREMIUM MATCH』
■日程　試合開始18:30（18:00開場）
◎8月10日（火）PREMIUM MATCH "2nd STAGE"　◎8月17日（火）PREMIUM MATCH "3nd STAGE"
◎8月24日（火）PREMIUM MATCH "4nd STAGE"　◎8月31日（火）PREMIUM MATCH "FINAL STAGE"
■会場　東京・『お台場冒険王2004』冒険ランド内特設テント "DRAGON GATE ARENA"
■チケット　全席指定 5000円（お台場冒険王1DAYパスポート含む）
■HP　http://www.gaora.co.jp/dragongate/

吉田秀彦柔道教室『第8回 VIVA JUDO!』開催



毎回好評の『VIVA JUDO!』が8回目を迎える。今年はオリンピックイヤー。柔道王に直接指導してもらって、未来の金メダルをゲッツだ！ 写真は、アカデミー賞2部門を受賞した『マスター・オブ・コマンダー』のDVD発売イベントで、19世紀の艦長服を身につけてご機嫌の吉田。吉田総統として『ハッスル』に登場か？ 高田総統のビターンをゲッツで返す吉田総統……見たい！

■日時　9月12日（日）　■練習　13:00～15:00（受付開始12:00）
■講師　吉田秀彦、中村和裕
■対象者　柔道初心者および経験者の小学校1～6年生。参加出来るのは事前に申し込みをされた方のみ。
■定員　50名　■参加費用　無料（柔道着は無料で貸し出し）
■場所　吉田道場 青葉台柔道クラブ（神奈川県横浜市青葉区つつじが丘1-12ベル青葉台1F
■問　（株）ジェイロック　03-3414-9000（担当 宮本、嶋澤）　■HP　http://www.hidehiko.jp/

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

DVD　話題＆最新作情報

PRIDE GP 2004 2nd ROUND

¥5040／130分／DVD／8月27日発売



6月20日の『PRIDE GP』準決勝がDVDで登場する。テレビでカットされたハリトーノフvsシュルトの殺戮ショーは必見だ。ランデルマンの殺人バックドロップや、ジャクソンの高速パワーボムをスロー再生して再検証してみよう!!

■収録内容
❶桜庭和志 vs ニーノ“エルビス”シェンブリ　❷クイントン“ランペイジ”ジャクソン vs ヒカルド・アローナ　❸セルゲイ・ハリトーノフ vs セーム・シュルト　❹小川直也 vs ジャイアント・シルバ　❺吉田秀彦 vs マーク・ハント　❻アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vs ヒース・ヒーリング　❼エメリヤーエンコ・ヒョードル vs ケビン・ランデルマン

■HP　http://www.mediafactory.co.jp/
■問　メディアファクトリー 03-5469-4880（10:00〜18:00／土日、祝日は除く）

西村修物語 part.2

¥5040／105分／DVD
¥7140／VHS　8月13日発売



これまでのプロレスビデオの常識を覆した、無我イズム溢れる一本が登場！　西村の解説付きバトルコレクションでは、試合に関係のないことを延々と語り続け、突然母校を訪問し、廊下で恩師とレスリングでじゃれ合い、そして“コメントが長くなる理由”を告白するなど、西村ワールド全開の105分だ!!

And Others　その他情報

PRIDEチャレンジ 未来の桜庭や吉田を目指せ！



今後の『PRIDE』を担うファイターを発掘するPRIDEチャレンジでは、現在出場選手を募集中。詳細や申込みはPRIDEのHPで。サクも吉田も既に30歳なかば。未来のエス、出てこいやあーー！（切実）。

■日時　9月5日（日）　開始時間　未定
■会場　東京・ゴールドジム大森
■HP　http://www.so-net.ne.jp/pride/index_flash.html

焼酎「ZIPANG」ボトルセットが期間限定発売!!



宝酒造が期間限定で「ZIPANG」PRIDEボトルセットを発売！　高田統括本部長、サク、シウバ、ヒョードルの肖像入り4本セットに、オリジナルカートンが付く。受付はインターネットのみ。申込みの順に9月上旬から発送される。今すぐアクセス!!

■価格　5460円（消費税・送料込み）　■期間　8月20日まで
■HP　http://shop.takara.co.jp/
■問　宝酒造株式会社　075-241-5111

ファイティングスペース・ゼロで会員募集

キックボクシング、柔術、フィットネス、リハビリと幅広いニーズに合わせたクラスを用意しているファイティング・スペース・ゼロでは、現在会員を募集中だ。また、6月27日に開催されたアマチュア大会『メンズファイトクラブ 魁』の開催記念Tシャツを、HP上で発売中！　今回は特別に読者プレゼントも提供してもらったぞ。読プレページへ急げ!!

■入会金　10000円（シニア、キッズは5,000円）
■月会費　8000円（シニア、キッズ、レディースは6,000円）
※クラスにより道着やグローブ等別途費用が必要
■スポーツ傷害保険　720円／月　※初回無料体験コースあり。
■TEL【新小岩】03-5670-4900
【亀有】03-3690-8007　【川口】048-298-0120
■HP　http://www.fightclub.co.jp/

紙プロHand　更新・最新情報



宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』は、速報・試合結果だけじゃなくショッピングコーナーも大好評！『ハッスル』Tシャツ・メッシュキャップ・タオルが購入出来ちゃうほか、『紙プロ』×『ハッスル』のコラボグッズも絶賛発売中!!　8月1日から写真の“中川画伯・特製イラスト待画”のほか、8月イラストカレンダーも配信！　もちろん夏の激闘も連日連夜速報します！　レスラー間“友達の輪”連載コラム『紙プロ』いいとも！では男色ディーノが登場中。ディーノがどんなお友達を紹介するのか、目が離せない!!　吉田豪コラムも絶賛配信中!!　要チェック!!

Docomo：i Menu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶ 紙プロHand
au/TU-KA：トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or インターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶ 紙プロHand
vodafone：メインメニュー ▶ ボーダフォン・ライフ ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶ 紙プロHand

暑くても頑張る人の読者ページ

紙プロ元気大学

暑いですね。みなさん熱中症などおこしておりませんか。読者ページ担当、本業は電気部のささきぃ……ですが、今月は未知の格闘技ミャンマー・ラウェイも担当しております！　この先を読むより前に、まずは89ページからのミャンマー・ラウェイ特集を読んでください。いいから読んできてください。読まない限りはこの先へ進めません。読みましたか。なら、続きを読むことを許可します。……い、いかがだったでしょうか（急に弱気）。ご意見、感想をお待ちしています。あ、もちろん他のページについてもよろしくお願いします。それでは今月も暑い中、はじまりはじまり。



（東京都・ヤー）➡はじめましてヤーさん。たぶんどこかの雑誌でイラストは拝見してるのですが、ウチへ送ってきてくれるのははじめてだと思います。ありがとうありがとう。前々号に登場した『ZST』ラウンドガールの尾藤ゆうちゃんと、高田総統の秘書ウテ・ワナ女子です。珍しい女子のイラストだったので、でっかく掲載してみました。

内回校巡

『紙プロ』76号　面白かった記事

【小川直也インタビュー】
★橋本vs小川戦が、猪木さんの新日本ストロングスタイルに対するダメ出しだったとは驚きました。
（兵庫県・春名義行・37歳・会社員）
➡「『ハッスル』への情熱に感動した」という方から「"1・4事変"に込められた意味、アントンとの関係を知って興奮した」という方も多数。面白かった記事ナンバーワンは小川直也インタビューでした。以下、順不同でお送りします。

【橋本×ノゲイラ対談】
★小川vsノゲイラを直前に、橋本はノゲイラの腰へダメージを与えにいったのか？
（北海道・佐藤稔・37歳・学校職員）
➡それはいいですね。そういうことにしましょう。って、2人の対決は決勝じゃないと見られないけど。さらに言えば、対談の現場ではイエローキャブのカレンダーを前に「ノゲイラ、誰がいいか同時に指でさすゾ!!」と、中学生みたいなことをやっていたらしいですけども。

【セルゲイ・ハリトーノフインタビュー】
★ミルコの攻撃力を上回るインパクト！　死人が出ないか心配。
（石川県・浅井清治・30歳・会社員）
➡今月のロシア特集を見て、もっと不安になってください。はたしてノゲイラ戦はテレビで放送されるんでしょうか？

【月刊PG談】
★吉田さんならではの真樹先生トークが良かったです。『書評の星座』が好きだったので復活してください。
（山形県・佐藤英樹・23歳・フリーター）
➡久々の吉田豪登場に喜びの声多数です。「真樹先生の写真はカラーで見たかった」という女性の声も。今月はいかがでしたか？

【シャノン"ザ・キャノン"リッチインタビュー】
★ある程度、シャノンのうさんくささが見えたので。
（東京都・斉藤和幸・28歳・自営）
➡リッチについてはミャンマー・ラウェイに参戦した若杉成次選手から「ビデオを見たけど、あれは完全に心が折れて負けていた」とか、ラウェイ関係者からは「ベルトは2本用意されていて、リッチが持って帰ったのは"残念賞"のベルトだった」など、うさんくささがさらに深まるエピソードを聞きました。ある程度見えましたか。それは良かった。

『紙プロ』76号　つまらなかった記事

【破壊王×ノゲイラ対談】
★破壊王のハッスルポーズは、なんかエロイ。
（埼玉県・石山雄紀・13歳・中学生）
➡理由は言えないけど、そう思う君の感性は間違っていないと思う。

【ターザン山本！ハッスル炎上二本立て】
★なんか頭が痛いです。
（広島県・寺戸和之・40歳・会社員）
➡大丈夫ですか？　ターザンは今月も登場していますよ。

『紙プロ』でやってほしい企画

★サンボの神様・ビクトル古賀先生とプーチン大統領の対談。
（北海道・安倍正典・31歳・フリーター）
➡ナイスタイミング。プーチン大統領はちょっと難しかったけど、古賀先生は今月登場とあいなりましたよ。

★2人の"ターザン"がご対面。ターザン後藤×ターザン山本！　対談。
（群馬県・小野塚聖鷹・9歳・小学生）
➡あんまり人を疑いたくないけど、キミは嘘の年齢を書いていないかな？

『PRIDE』のワンマッチで見たいカード

★桜庭和志vsヒクソン・グレイシー。
（神奈川県・鍋田総一郎・36歳・会社員）
➡私も、まだこの夢はあきらめておりませんよ！

★ケビン・ランデルマンvsノゲイラ、三沢光晴vsヒョードル。
（愛知県・東健太・15歳・高校生）
➡前者はともかく、後者のカードが実現するのはなかなか難しいと思う。でも、願い続けていれば実現するかもしれないよ。まずは須藤元気選手のように、願い事を紙に書くことからスタートしてみようか。

★ドスカラスJr. vs ボビー・オロゴン。
（大分県・朝来野和歩・15歳・中学生）
➡ルチャ代表vs"からくり"ガイジン…。これは私もすごく面白いカードだと思います。この対決を実現できるのは……頑張れ佐伯さん！





上（東京都・ぷかぷか）右（石川県・シーザー孝志）➡反響高かった真樹先生×菊田早苗×尾崎社長対談。固定ファンらしき人たちの意見が熱かったです。その珍しい顔合わせに、つい絵心もそそられてくれてありがとう。上の3人イラストはペンネームが違いますが、あきらかに絵で分かるんじゃないかなぁ。「またチャレンジします」とのことですが、はい、待ってます。右は「ひさびさにデカく載せてください」って、いっつも出来るだけデッカく載っけてるのにー。

紙プロ76号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 小川直也インタビュー
2位 ケビン・ランデルマンの独白
3位 橋本真也×アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ対談
4位 吉田豪・掟ポルシェのPG談
5位 真樹先生×菊田早苗×尾崎社長対談

1位は毎号大好評、大反響の小川直也選手インタビュー。ハッスルするならいましかねぇ！　今月も面白いですよ。2位はその小川選手をチキン呼ばわりしたランデルマンの独白。読んでいてわたしもちょっと泣きそうになりました。3位はハッスルボーズ伝授のハッスル・キング×ノゲイラ対談。写真の表情もいちいちバツグン。4位は久々に吉田豪が『紙プロ』登場！　のPG談。5位は『紙プロ』にしかきっと出来ない（やらない）異色対談。6位はセルゲイ・ハリトーノフインタビュー、全女幻想高まるアジャ・コングインタビュー。2位以降は僅差でした。

読者が選ぶ『PRIDE』のワンマッチで見たいカード ベスト5

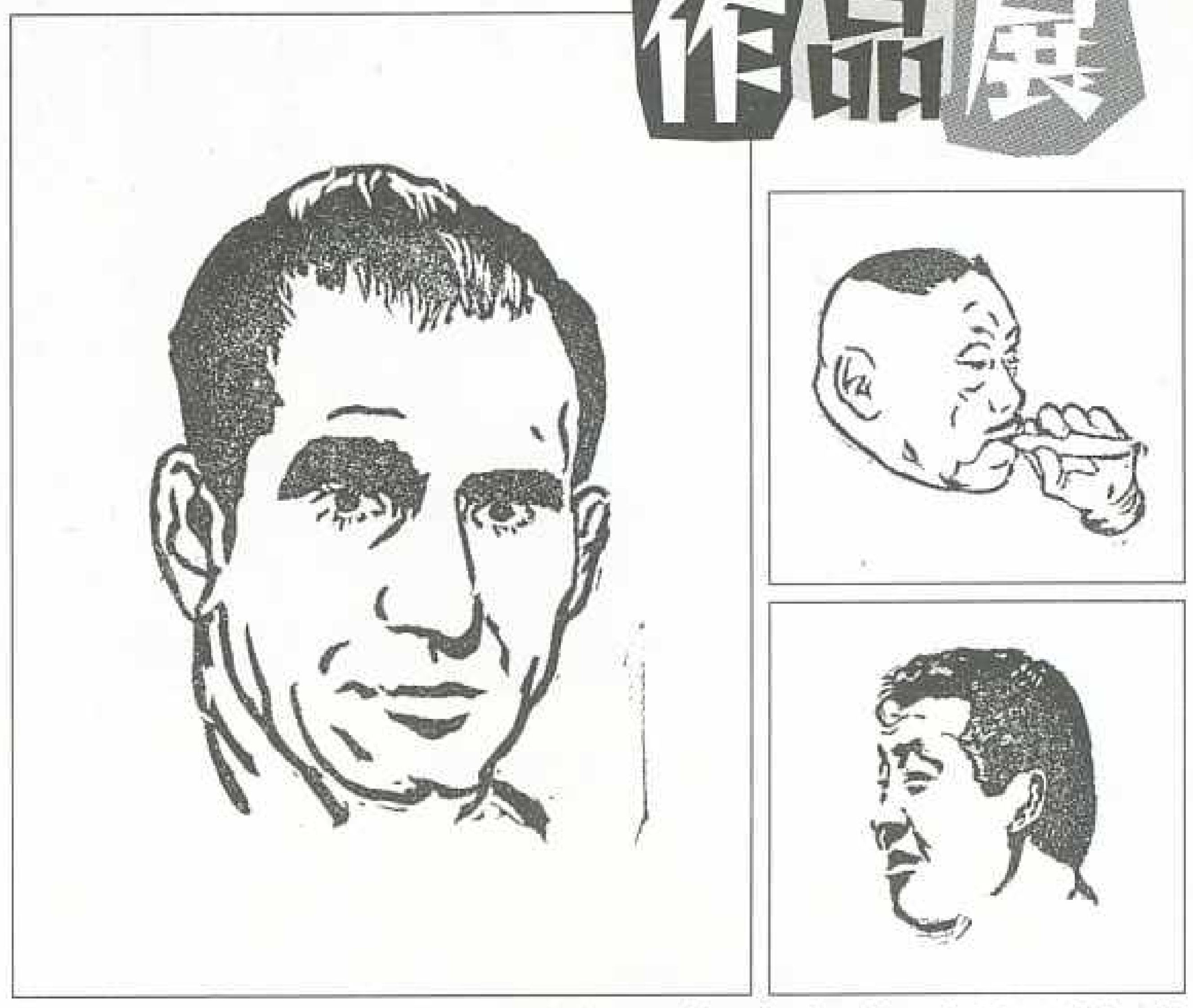
1位 小川直也 vs 吉田秀彦
2位 田村潔司 vs 桜庭和志
3位 小川直也 vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
4位 小川直也 vs エメリヤーエンコ・ヒョードル
5位 ミルコ・クロコップ vs エメリヤーエンコ・ヒョードル

前号で募集した『PRIDE』ワンマッチで見たいカード。トップは柔道王対決、超僅差で2位の赤とオレンジの激突。3位から5位はほぼ同数でした。なるほど、と思わせるものあり、「セイブルvsモンゴルマン」などのマニアックな上にそれは伊勢崎市でやるのか、それともWWEでやるのかどっちなんだ、というカードもありな内容で、見ていて面白かったです。「こんなカードが見たい」という希望はもっとも主催者側が知りたいことでもあるし、熱が高まれば実現の可能性は充分出てくるから、夢は捨てちゃいかんですよ。「ヴォルグ・ハンvsノゲイラ」の再戦を求めるハガキも多かったなぁ。



（大阪府・英加直純）⬇越中詩郎選手！　7月29日後楽園の大谷晋二郎戦は良かったですね！　つーかホントにかっこよかったんですよ。ついケツばかりに注目してしまっていたんですが、このイラストのとおり上半身も非常に鍛えられている選手だと気づきました。顔面ウォッシュをケツで迎撃したシーンはすごかった。震えたよ。大丈夫か私。

今月の版画部作品展



（東京都・シンペイ・タナカ）⬅先月掲載したブロディと一緒に送られてきた、往年の名レスラー３枚。上がルー・テーズ、右上がグレート東郷、右下が力道山……ですよね？　最初はハイセンスな肩固めの版画などいただいていたので若い人かなと思っていたのですが、だんだんシンペイさんの年がわからなくなってきました。おいくつですか？





左・（大分県・ハッスル少年）右・（埼玉県・中川雅博）➡左は一見高田総統……ですが、よく見ると違う人ですよ。連れているのはジャイアント・シルバに猛烈な飛びつきスリーパーをかけていたあの最強レフェリー。なるほど、マスク・ド・ノーフィアーはこっちの軍に所属していたから出なかったのかぁ（多分違う）。右は本物の高田総統！　ビターン。私は総統の高笑いが大好きです。ドゥ・ザ・ハッスル！





左・（神奈川県・葉チャン）右・（埼玉県・稲葉聡）⬅ハリトーノフ２枚。前号はあちこちでハリトーノフの名が間違われてました。気づかなかったなら探さなくてよいです。左は「私はバコージンさんが好きなので、ヒョードルと袂をわかった今もバコージンさんを見られるのはハリトーノフ選手のおかげと思って感謝しています」と語る葉チャンさん。ロシア特集は楽しんでいただけましたでしょうか。右はなんか本当に猟奇殺人者みたいなハリトーノフ。ピチコフさんは『週プロ』の表紙を飾ったこともありますね。偶然真ん中にいただけですけど。

私が愛したハッスラー

タレコミ部あてに、たくさん『ハッスル』ネタが届いています。すごくたくさん。ここではその中でもちょっとひねった『ハッスル』ものをご紹介します。



（静岡県・森上屋のり）「地元の薬局チェーンまでハッスル,ハッスル！」➡ロゴも完コピですね。こういうチラシを見た主婦が「なんか、今流行っているのよね」と、ハッスルを認識して、ダンナの知らないところでハッスルしてるんでしょうね。…わざわざ下品な言い方をしてしまいました。すいません。



（埼玉県・花の浪人中）「コロコロコミック８月号（小学館）より。小学生、ビターン!!　次は総統が出てくるといいですなぁ」⬇わぁ、コロコロキャラがみんなハッスルしてる。「“ハッスル”とは“はりきる”という意味」って、あらためて聞くと新鮮。



「何があってもサクちゃんをずっと応援しています」（神奈川県・葉チャン）⬇よし、先生との約束だ！　先生もずっとサクを応援するよ！　……喜びのあまり己のキャラ設定がよくわからなくなりました。今月は冷たいご意見のハガキも多くて、私はせつなくなったです。



（北海津・アカツキ）⬇サクイラスト。あきらかにこちらの「弱いところ」を突かれているような気がするのは気のせいでしょうか。載せちゃってるし。まぁ、かわいいからいいや。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

日本は暑いですね。驚くことにミャンマーより暑いですよ。今月号が発売される頃、私はまたひとつ年を取って29歳になります。女性としてかなり大切な時期だと思いますが、ついさっきまで会社の床で寝ていました。おはようございます。さて、『紙プロ元気大学』では皆様のお便りを常時募集しております。次号は8月下旬発売というとんでもないことになっているので、これを読んだらすぐにハガキを送って下さい。ていうかどうしよう読者ページ。『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

メールは radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
（株）ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「ネオブラ王者は37歳」係まで。

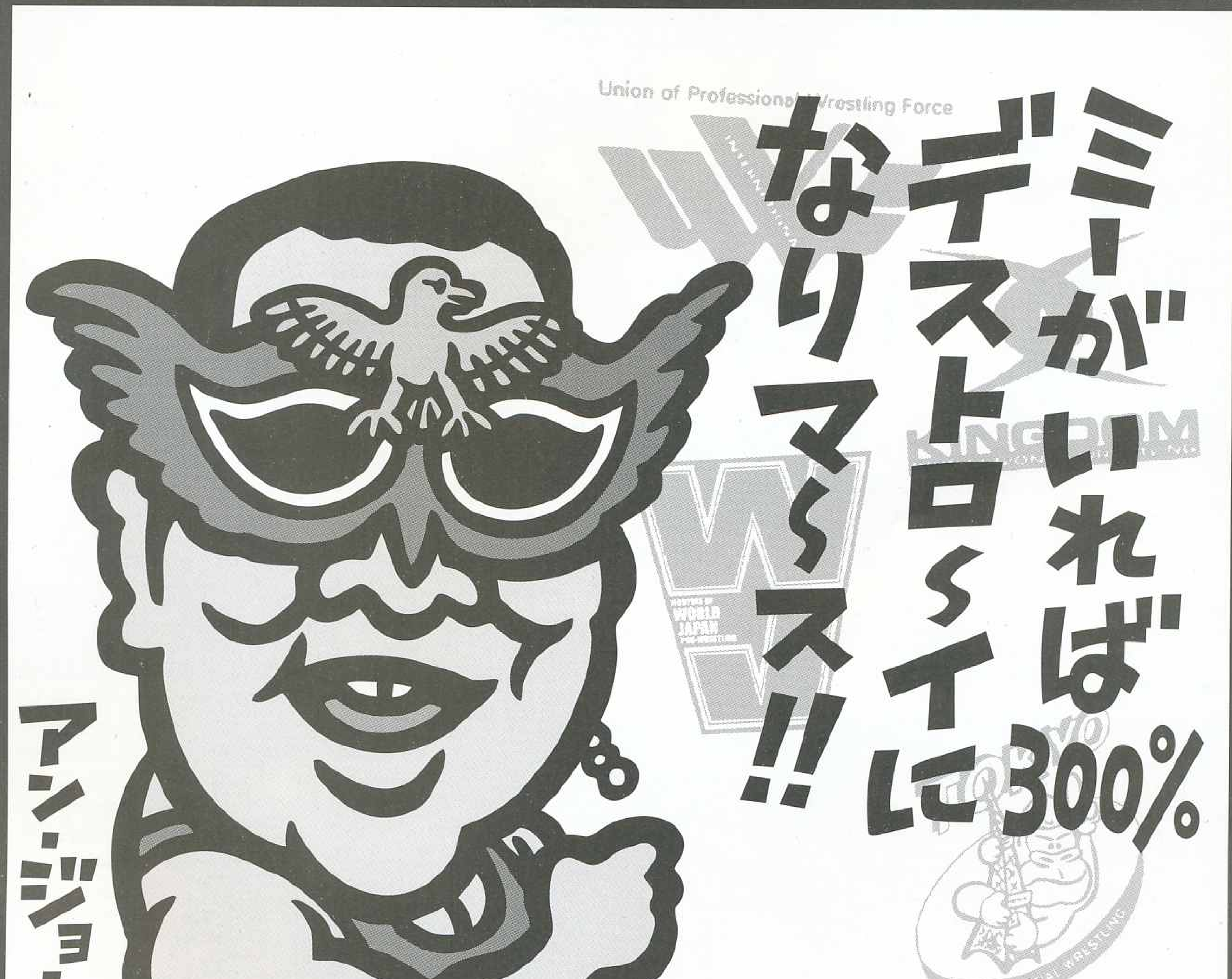
★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます!★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに!　プレゼントコーナーあてのハガキも、
内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

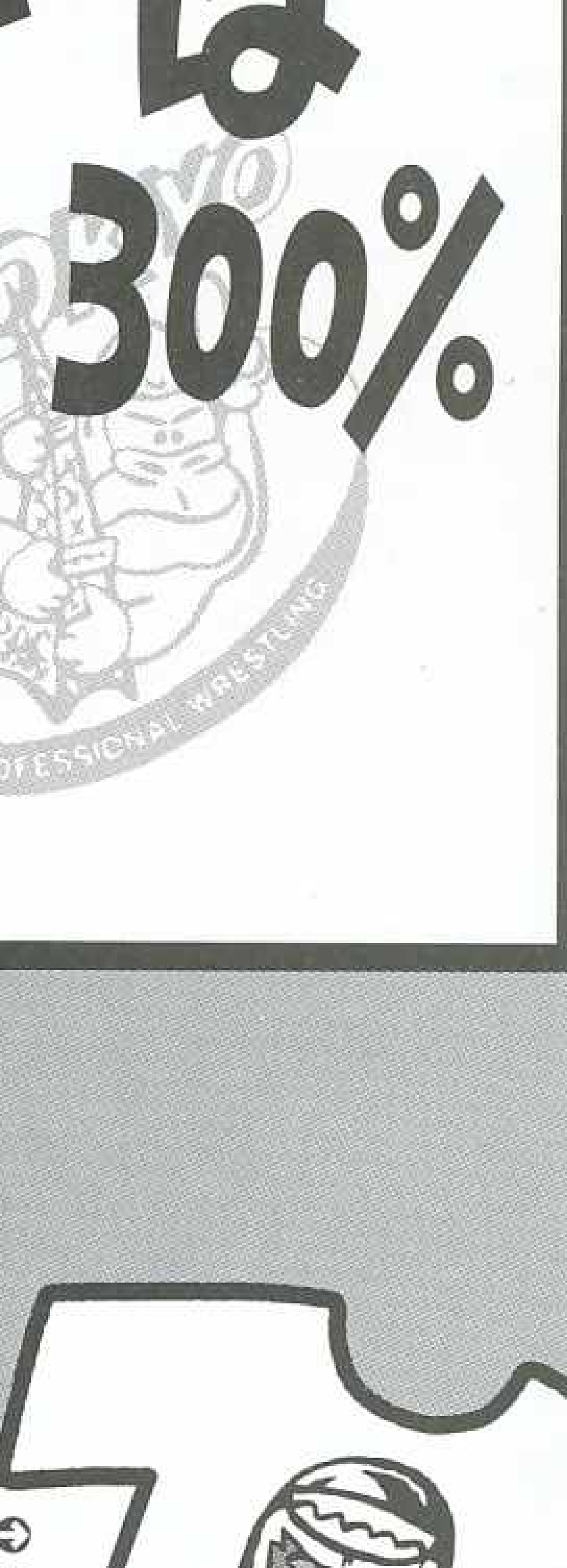
最終回



今月イチバンおもしろかった作品とその作者

静岡県磐田郡 **目ガ覚メタロウ**

★目ガ覚メタロウさん、採用おめでとうございま〜す!! 「キャプテン・ハッスル」Tシャツ(M)。お楽しみに!!
★ジェームス・凡人さん、住所教えてクダサ〜イ!! スミマセン、こちらのミスです。
★サヨナラ! 中川画伯の『ほんとにジョーク』は今号で終りです。突然、サヨナラ!
皆さん、長い間ありがとうございました。ありがとう、ありがとう! 感謝カンゲキ雨、嵐(高木功)です。
次号は、もっと大物が描くかもよ。お楽しみに!! そしてサヨナラ!
★IT革命です。毎日更新。犬とサヨナラとイラストレーション。『中吉』http://chu-kichi.jp/

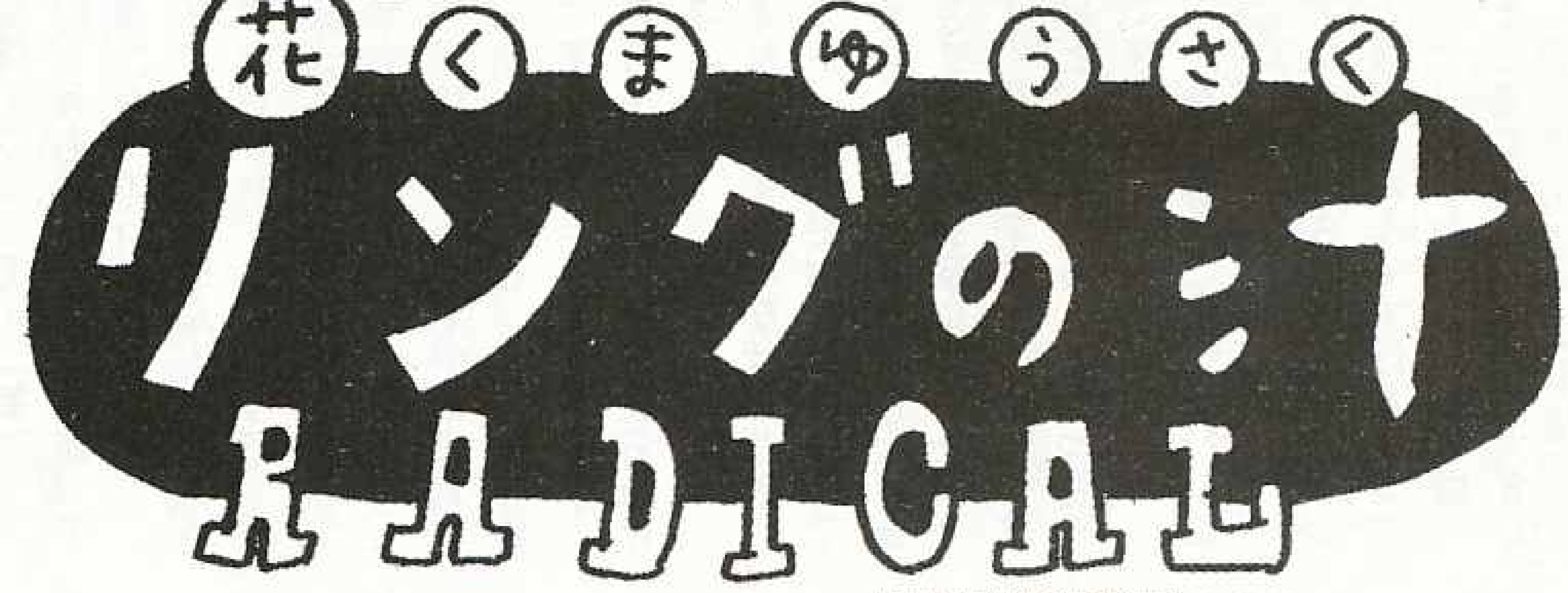


前号のTシャツ ブルーK

スーパーコラムMEGATON☆☆

次号のコラムはお休み。次々号からリニューアルしてお届けします!!

オレのロックと違う（by稲葉浩志。ステージをきっかけに）いいニュースだあー





www.HANAKUMA.com

足関十段・今成選手がブラジルの柔術大会『ムンジアル』出場！見て〜。ZSTの小谷弟vs所たのしみだなあ〜。こないだの修斗のメイン、生駒に勝ってほしかったなあ〜。ライアン・ボウの試合っていつも……。などとつぶやきながら、連日の猛暑でむれてちとかゆい股間をポリポリしてます。

そんで『PRIDE武士道』をPPVで観た。三島vsアウレリロが面白かったり、ディーン・リスターvsアマール・スエノフも終わってみれば凡戦かもしれないが、観てる間はなかなか見ごたえあったり、マッハが勝って一安心したり、ヤマケンがせつなかったり、巨人が棍棒振り回すの不思議だったりと、いろいろ見所あったりしたかもしれないが、すべて見終わったときの物足りなさは、やはり『武士道』だったんだなあと思う。

つまんないというマイナスイメージがべったりついた『武士道』は、ちょっと面白かったぐらいじゃ、イメージをひっくり返せない。そこでよけいなお世話というか、字数稼ぎで、どうすれば『武士道』は面白くなるかを考えてみました。

忙しい中、もう一度『武士道』の放送を見直してみましたが（拷問）、解説の高田総括本部長のコメントでハッとしたのは一つだけ。

最初の試合（光岡vs佐々木）で「試合に若さがないねえ」とバッサリ斬り捨てたコメントです。本部長の現役の試合のときより、この二人のほうがずっとテク見せてるのになあと、心の中でつぶやいた人は全国に多数いたでしょう。

そこで思いました。高田総括本部長ではなく高田総統が『武士道』の解説席にいたらと。

●ブスカペが阿部兄イに肩固め極めたとき、解説の総統がビシッと一言、「ビターン！」。

●アウレリロの三角絞め&腕十字が三島を襲うたんびに、総統が一言、「ビターン！」。

●マッハがギロチンやり、アナウンサーが「入ってますか?」と振ってきたので、総統が即答で「ビターン！」。

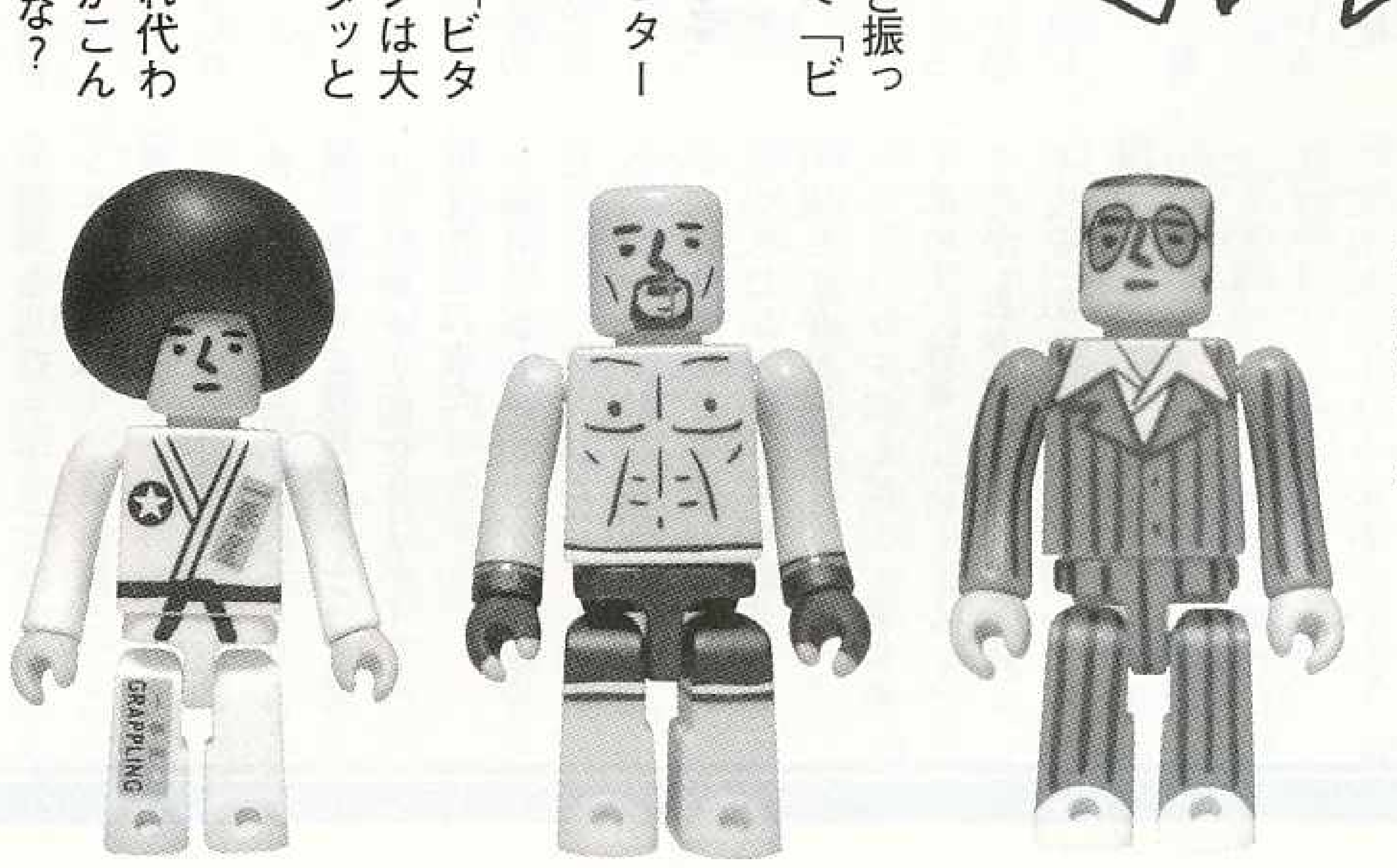
●ミルコのアッパーに「ビターン！」。

●棍棒持ち出したシルバに「ビターン！」と一喝（イメージは大沢親分の「喝っ！」）、ピタッと動きが止まるシルバ……。

うん、本部長と総統が入れ代わるだけで『武士道』の放送がこんなにも面白くなった。……かな?







Hanakuma Yuusaku
中島らもさんの『お父さんのバックドロップ』大好きでした。

原タコヤキ君の 大阪プロレスファン通信 番外編

ナニワの中のナニワな人たちがお送りするダイナマイトな関西コラム



まいど〜！ってひと叫びしたところでチョロ選手！（猪木さんが天龍を呼びかけるふうに）。またブッキング失敗しやがって！　ほんで急遽代役を立てたのがアレクって、関西人でもなければ、だいたいからしてプロレスファンどころか現役やないかい！（怒）。というわけで主旨から外れてグダグダのままに番外編行きまっせ〜！

★

——というわけで、8・7U-STYLEに出場が決まったアレクサンダー大塚さんですけど、今回はまず、アレクがここ数ヶ月姿を消して、いったい何をしとったんやという話を聞かせてほしいんですけど。

アレク　は〜い。えーっと、2月に『PRIDE』に出て、その後、ちょっとみちのくに出たりしてたんですけど、もう去年くらいからとにかく精神的に落ち込んでいたのが、もう一気にどん底になったというか……。ハッキリ言ってウツですよね。

——そんな体でウツって！（笑）。

アレク　何ヶ月も周りと連絡を絶って部屋に引きこもっていましたから。

——川田どころやないやん！　リアル引きこもり君やんか、ほんなら。

アレク　本当にそうだったんですよ。個人としても、そしてプロレスラーとしても、ワイはこのままでいいのかって考え込んでしまったら、もう抜け出せなくなって……。

——で、どうやってその状況から抜け出せたの？

アレク　とりあえずこんな状況が続いたら、もう絶対に社会復帰できなくなると思って、とりあえず徳島の実家に戻ったんです。そこで前もやったんですけど、お遍路さんを回ったんです。

——民主党の管直人バリに（笑）。

アレク　管さんはもうちょっと後だったんですけど（笑）。あと、実はお袋も一緒に回ったんですけど、それが大きかったですね。今までそんなに長く話したこともなかったんですけど、長い時間肉親と一緒にいると、やっぱりボクが元気に活躍するということが、ごく身近な人からでも幸せにできるんだというふうに思うようになって。

——本当にそうだよね。ほんで、それはファンも一緒やと思いますよ。

アレク　あ！　途中で、回ってる何人かファンの方にも元気をもらいました。それで精神的に吹っ切れて東京に戻ってきたら、たまたまU-STYLEから話をいただいたんです。

——凄くいいタイミングだったわけですね。じゃあ今のアレクならいい試合が期待できそうやね、久々に（笑）。

アレク　は〜い（笑）。今後はU-STYLEもできればやっていきたいですし、プロレスも総合も、まだまだやり残していることがありますから、気合いを入れ直して頑張りま〜す！

——また大阪にも来てね〜。

アレク　ええ！　早速8月6日か7日にお邪魔します〜。　んむはぁ。

12th. GUEST

■アレク（あれく）
8月7日のU-STYLE大阪大会で久々の試合を行うアレク。初代王者決定トーナメントに出場するアレクは一回戦で上山龍紀と対戦。U-STYLE初出場となるアレクは上山を破り、18日、後楽園での準決勝戦へと駒を進めることが出来るのか!?　んむはぁ

追悼 中島らもさん



7月16日未明、らもさんは神戸市内で酒を飲んだ後、階段で足を滑らせ転落。頭を強く打って市内の病院で手術を受けたが意識が戻らず、26日午前8時16分、脳挫傷などのため亡くなった。享年52歳

ボクが中島らもさんの訃報を知ったのは、チョロからの電話だった。

「ウソやろ!?」

と、しばし呆然としてしまった。

5月25日に、このコーナー10回を記念して、らもさんに取材を行ったところなのだ。

「もしかしたら、インタビューはウチの取材が最後だったかもしれないですねぇ」

とチョロ。

「そうかもしれへんなぁ」

と僕。

学生の頃から大好きで、その著書のほとんどを持っているボクは、ファンとしてひどくショックを受けた。また、ある部分で、あの中島らものラストインタビュー（かどうかは定かではないが、プロレス関係のロングインタビューとしては最後だろう）を務めることができたという、妙に高揚感を覚えてしまったことも、正直に書いておこう。

実際会った、らもさんは、驚くほどにゆっくりと喋る人だった。『紙プロ』を今も読んでいると言ってくれたのも嬉しかった。

らもさんのプロレス観には正直言って古い印象を受けた。プロレスをB級の視点から捉えて楽しむという段階は、いまのマット界はすでに通り越してしまっているからだ。ただ、インディー自体は好きじゃないようで、そこで少しほっとした（「すべてはサムソン冬木が悪い！」には笑ってしまったけど）。

インタビュー自体は評判がよかったようで、確かにらもさんも、かなりご機嫌で話してくれ、予定時間を大幅にオーバーしてしまったほどだ。

帰りに新刊を頂き、サインをしてもらった。作家にサインをもらったのは、村松友視さんに続いて二人目で、あとはもう、欲しい人はいない。僕の読書遍歴の浅さが存分に窺い知れる。

らもファンにして、一滴の酒も飲めず、躁鬱のかけらもないボクだが、思春期の過剰な自意識不安を、切なくも楽しく描いたらもさんのエッセイには、胸を締めつけられるような思いで読んでいた。いまさらながら当代一のエッセイストだったなと改めて思う。

ご冥福を心よりお祈りいたします。

スーパーコラムMEGATON



“歌うシュート活字王”狂気の連載!!

タダシ☆タナカの『シュート活字劇場』

マット界舞台裏の裏(ウラ)

第10回

闘龍門“分裂騒動”を浅井嘉浩に直撃

7・4「闘龍門JAPAN5周年記念大会」は神戸ワールド記念ホールを超満員にした。しかしどんなカードよりも、ウルティモ・ドラゴン校長の突然の卒業宣言と、新社名DRAGON GATEの発表のほうがインパクトあったことは間違いない。

この突然の名義変更は「登録商標の問題」と発表された。「商品展開は重要な収益源だから、興行だけなら経営体制が変わっても旧名でやっていけるが、新しいスポンサー関連の意向で新社名の方がやりやすい」と決定されたという。

先手を打って組織変更を実現させたことは、ビジネスモデルとしては理想像。「どの企業でもリストラ以下努力しているのに、プロレス団体だけ終身雇用だったり、不要なところに金が消えている」と批判していたのは校長本人だった。ただしこれが上層部の総入れ替えなら斬新だったが、岡村隆社長は留任したので、クリエイティヴ面を担当してきた校長だけが追い出された印象は消えない。分裂とか独立といった表現を使った専門紙もあった。はたして、この〝分裂騒動〟は何があったのか、私は直接、素顔の浅井嘉浩(ウルティモ・ドラゴン)に話を伺ってみた。

闘龍門JAPANは老舗団体の衰退を尻目に、昨年183の興行数を誇り、配下選手数が最大であることから、ある意味では日本一の団体になっていた。お台場冒険王のアトラクションとして「毎日プロレス」が開催中で、フジテレビをバックにさらなる飛躍が期待される矢先である。なにしろ一日2回公演で全150大会。これまで女性客を開拓してきた功績は大きかったということである。

しかし、浅井は「そんなに戦略があったわけではない。ただ男は一生プロレスを応援するタイプが多いが、女性客は飽きるのも早い欠点はある」といたって冷静に分析している。

結論から先に言ってしまえば、今回の〝分裂騒動〟のそもそもの原因はウルティモの現役復帰がパワーバランスを崩してしまったことにある。これまではあくまで校長と生徒、プロデューサーとタレントの関係であったが、同じリングに立ってしまったら、弟子たちは気遣いせざるを得ない。

思えば99年1月の逆上陸が成功したのは、校長がケガのため裏方に専念せざるを得なかったからだ。女子プロレスのGAEAが何年たっても長与千種&おチビさんという構図のままなのと対照的で、新人でしかないマグナムTOKYOらは最初からエースという宿命を負った。人生は皮肉なもので、マイナスと思われていたことが長期的にはプラスだったのだ。闘龍門旗揚げ前、のちのマグナムTOKYOとなる付き人・黒木にWARのリング屋を手伝うフリして寸法を測らせ、それをメキシコの溶接屋に持っていって同じものを作らせた〝主犯〟は浅井だが、〝実行犯〟のマグナムは7年後に新会社の代表になっていた。

校長の人生は5年周期でいろんな事件が起きる。「メキシコに行ったこと、ユニバーサルを辞めたこと、そして手術ミス。今回のも神様が与えた試練だと考えている」。すでに闘龍門は飽和状態で、プロレス学校を終了してもデビューに漏れる生徒が増えていた。今後は新日のLA道場との提携話など、就職先は全方位外交になるという。「学校と興行会社が再び分かれただけで、他の団体のような分裂ではない」。

枠があればDRAGON GATEに行く者もいる『闘龍門X』は、秋に最終興行をして一端終了させる。第二のプロモーションとして01年11月から一年間存続した『T2P』もまた、「選手たちに目的意識を持ってもらうためのスローガン。団体化の意思はもとからない」。浅井によれば「テーマを与えてあげて、全員でひとつのものを作り上げる、炊きつける教育だった」という。たとえ組織を離れようが、闘龍門は自分が作り上げたものという自負は強い。現にDRAGON GATE選手のキャラは全部校長がプロデュースしたものだ。「さらに成功する自信もある」という。子供たちは巣立っていったが、校長は永遠に校長なのだ。

正中神経切断からの02年9月の復活は奇跡的。ヒジの痛みでまったく眠ることすら出来なかった地獄の日々から4年半の歳月が流れていた。03年6月にはいきなりMSGでデビューとなる。その後様々な要因もあって、大きな出番がないまま現在WWEは休養扱いになっているが、新日本プロレスの「ベスト・オブ・スーパージュニア」に参戦したことと合わせ、さらに視野を広げることになったそうだ。またヘラクレスと呼ぶ中西学とのタッグも、浅井ならではの発想と魅力がある。

アメプロからみた日本マット界は、軌道修正が求められると意見が一致してきた。「洋服の流行でも、リバイバルで60年代風とか、迷ったときは原点に戻るべき」が持論だ。ただしアメプロはひとつしかなく、日本の団体数が30以上の現状の説明は立場上難しいという。なにしろ浅井がエースだったユニバーサルと大仁田厚の出現が多団体時代の幕開けだったから、「お前らのせいじゃないか」と言われたら肩身が狭いらしい。

WWE復帰は11月を予定している。そこに登場するのは従来の〝ウルティモ・ドラゴン〟ではなく変身した姿になるだろう。もはや浅井は、負けても価値が落ちない勝敗を超えた存在になっている。また勝ち試合でも「いかに相手の格が落ちないように魅せるかを考える」という。だからリングス出身の成瀬昌由が自身のHP日記で、ウルティモ戦の喜びを綴っていた。

究極龍伝説はまだまだ続く!



最終回
“偽造王”一宮章一の

偽造だもの



武藤敬司からYAWARAちゃんまで偽造の限りを尽くす一宮章一。自他共に認める“偽造王”一宮の偽造コレクションを御開帳！ 惜しまれつつも最終回となる今月は、破壊王&ミスター火祭りの二本立て!!



今回の偽造ネタ
橋本真也

その名は……は偽本真也

本人評価点 90点

今回の偽造ネタ
大谷晋二郎

その名は……大た偽晋二郎

本人評価点 0点

コラム担当の斎野です。みなさん、『ハッスル4』が開催されたにも関わらず、長州&U・ドラゴンが表紙を飾った衝撃の『週プロ』はご覧になりました？ 突然の中カラーぶち抜き8ページの偽造特集って、どうゆうことですか!? あんなことやられたら、白黒2ページのこっちはお手上げですよ！ ウチは『週プロ』みたいに写真が多いわけじゃないし！ 偽造連載はウチが数ヶ月前からやってるのに、似たような企画やるなんて、それこそ偽造じゃねえかチクショーッ!! ……スミマセン、取り乱しました。『週プロ』の担当の方がこの連載を読んでるはずがないですね。そんなこんなで、『週プロ』の偽造特集ショックとは関係なく、今回で『偽造だもの』は最終回！ 最後も元気にいきますかーーッ!!

押忍、は偽本真也です！ 連載4回目で早くも最終回を迎えるということで（苦笑）、最後に相応しい大物の偽造で締めたいと思います。やっぱり橋本さんのファイトスタイルは全国どこへ行っても浸透してるし、体型も似てるんで、どの会場でも評判は上々ですね。

あるとき、普段の橋本さんから、リング上での〃破壊王〃にスイッチする瞬間が見えたんです。ならば、自分も普段の一宮章一から〃は偽本真也〃に変身できるだろうと勝手に思ったんですよ（笑）。動きも研究したんですけど、橋本さんは結構思いつきでプロレスをされてるような方ですからね。8割は気迫で、あとは考えて中っていう感じで（笑）。でも、キックとDDTでお客さんを十分納得させる説得力は、さすが闘魂三銃士ですよ。

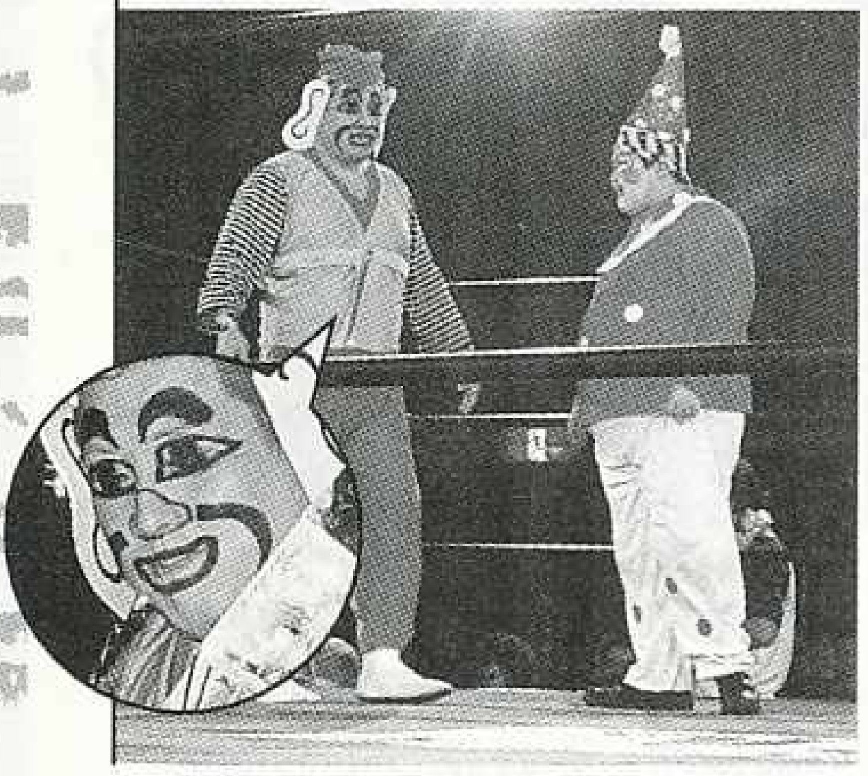
後楽園ホール（04・1・9）で破壊王と初遭遇したときは、初めて天龍さんと闘ったときぐらい舞い上がっちゃって、自分が〃は偽本〃だということも忘れて、いちプロレスラーに戻っちゃったんですよね（笑）。あの闘いで、久しぶりにWAR時代の痛みの伝わるプロレスを思い出しました。お陰で〃は偽本真也〃に、ただの偽造じゃない、何か熱いものを取り入れること

あんな選手から、こんなヒトまで…… ザ☆偽造コレクション!!

偽造王のひとことコメント付き!

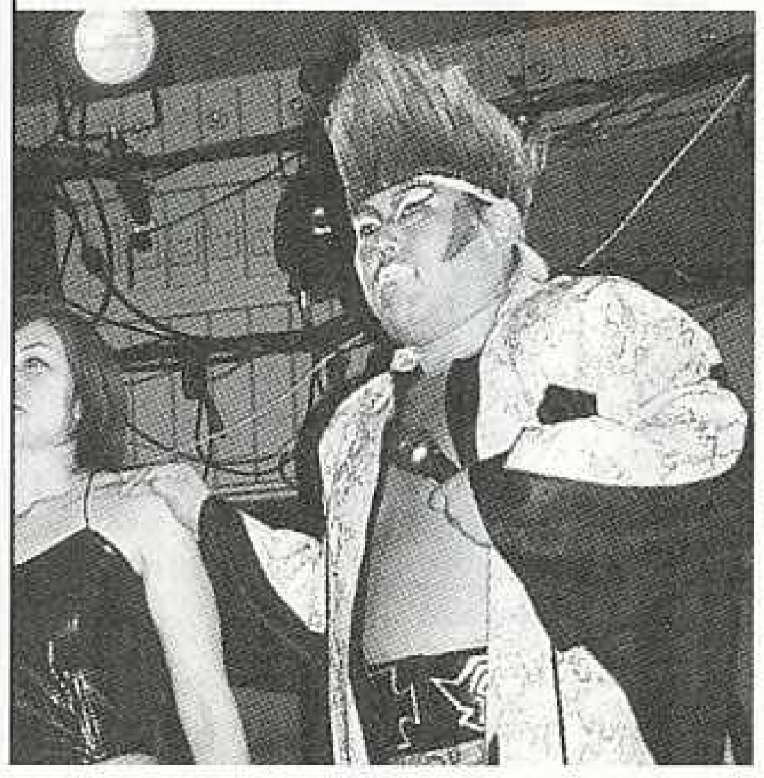
▶ 偽べっさん

これは画期的ですよ！　マスクマンの偽造を、メイクで表現してますからね。恐らく業界初ですよ。隣のくいしん坊仮面（三和太）も、同じくメイクのみです。



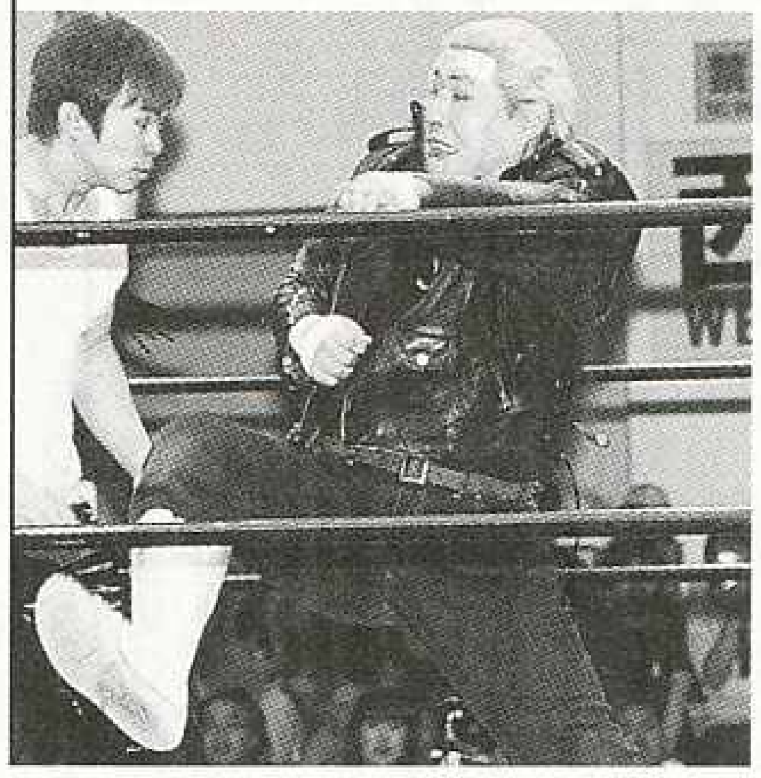
▶ ポイズン澤田偽ユリー

高木三四郎に負けたとき、DDTにしがみつく手段として偽造しました（笑）。あの偽造をすると、“金縛り”もできるようになるのが自分でも不思議です。



▶ 大偽田厚

レスラーとしては大好きですけど、人間的には嫌いですね（笑）。練習しないで、あれだけプロレスができるって凄いですよ。プロレスラーとしては天才じゃないですか？



▶ 天龍偽ん一郎

師匠であり、憧れの人ですね。天龍さんの技も結構パクリが多いですから、元祖偽造王は天龍さんです！（笑）。オリジナルはＷＡＲスペシャルだけのような……。



▶ 偽ル中野

（三和）太のダンプ松本さんと僕のブルさんで“偽悪同盟”を結成しました。メイクはコンドル斎藤さんの直接指導です。いつか我々で白いベルトを狙いますよ（笑）。



▶ 偽ルク・ホーガン

DEEPの大久保戦でヒジを剥離骨折しちゃって、技が出せない状態だったんですよ。ホーガンのスタイルって、散々やられてからのカムバックなので、そういう部分でしっくりきましたね。



▶ 上田偽ま之助

ビジュアル的には自信ありますね。でも、いまやっちゃたら、新日本の矢野通くんの偽造だと思われちゃうんで、馬之助さんの偽造は矢野くんに任せます。



▶ 田村偽よし

プライベートで飲みに行くんですけど、この人は純プロレスが結構好きなんですよ。それでもあのスタイルを崩さないところが、赤いパンツの頑固者たる所以ですね（笑）。



▶ その他の偽造レパートリーはコチラ!!

長州力、高山善廣、武藤敬司、黒使無双、グレート・ムタ、グレート・ムタ2000、越中詩郎、新崎人生、高木三四郎、スーパー宇宙パワー、MIKAMI、金村キンタロー、マッチョ☆パンプ、ラッシャー木村、新宿鮫、カート・アングル、ミスター・アメリカ、マット・ガファリ、井上京子、豊田真奈美、アジャ・コング、シャーク土屋、ボリショイ・キッド、GAMI、お船ちゃん、ゲーリー・グッドリッジ、吉田秀彦、YAWARAちゃん、ジョニー・ローラー、柳葉敏郎、鈴木雅之、南部虎弾、ジョニー・デップ、夢野まりあ　他多数!!

▶ すでに紹介した偽造



▶ 偽レイシートレイン＆ヒクソン・偽レイシー

総合格闘技の試合で偽造は難しいので、もう出落ちしかないなと。TKのジムで練習してたので、横井くんとジョシュにお願いしました。でも何で先頭が葛西なんだ？（笑）。



ができたというか。おちゃらけたインディーのプロレスから、殻を破って一段上に行けたような気がします。お客さんがどう思ってるか知りませんけど（笑）。

一応、ハッスル・キングを先取りしてアフロを被ってみたんですけど、コスチュームがあんなに進化するとは思ってなかったんで、また1から偽造し直しというかコスチュームを新たに発注しなきゃいけないかなと（笑）。

続きましては、発売日が『火祭り』直後ということで、大た偽晋二郎です。大谷さんの求めてるプロレスっていうものが大好きで、体型的な壁を乗り越えて偽造しちゃいました（笑）。橋本さん同様、気迫を全面に押し出しながらも、常にお客さんを大事にしながら試合してる部分が、ホント尊敬できますね。

メチャメチャ凝ったスパンコールの衣装まで用意したんですけど、実は偽造が難しくてあまり出してないんです。お客さんにはそこそこ受けたんですけど、自分では全く納得してないですね。顔面ウォッシュ、スワンダイブ、スパイラルボムを出しても、それだけでは大谷さんにはならないというか、技を出すタイミングとか微妙な間を偽造しきれてないんですよ。あとは『プロレスの教科書』プラスあの〝熱さ〟っていうものは偽造しづらいですね（笑）。残念ながらボクはまだ〝プロレスの神様〟にはお会いできてないし、ただ単にテンションが高ければいいってもんじゃないですからね。早く完成させて、またみなさんに披露したいと思ってます。

まだまだ、偽造ネタがいっぱいあるんですけど、紹介できないのが残念です。他のネタは会場か、もしくは『週プロ』（No1217）の偽造特集で確かめてくれれば（笑）。丸藤正道選手と本田多聞選手という秘蔵の偽造も、タイミングを見計らって出していこうと思うので楽しみにしていて下さい。特に本田選手のブサイクっぷりの表現には自信がありますから（笑）。これからも一宮章一の偽造は進化していきますので、DDT共々よろしくお願いします！

ザ・検証

7・7『K-1 WORLD MAX』で優勝したブアカーオと、7・17『K-1 アジアGP』で優勝したガオグライ。タイ人の強さに圧倒されて、映画『マッハ!』が無償に見たくなりました。それにしても改めて思うのは、チャンプア・ゲッソンリットと互角に渡り合った金ちゃんはやっぱり凄いということ。担当は斎野です。

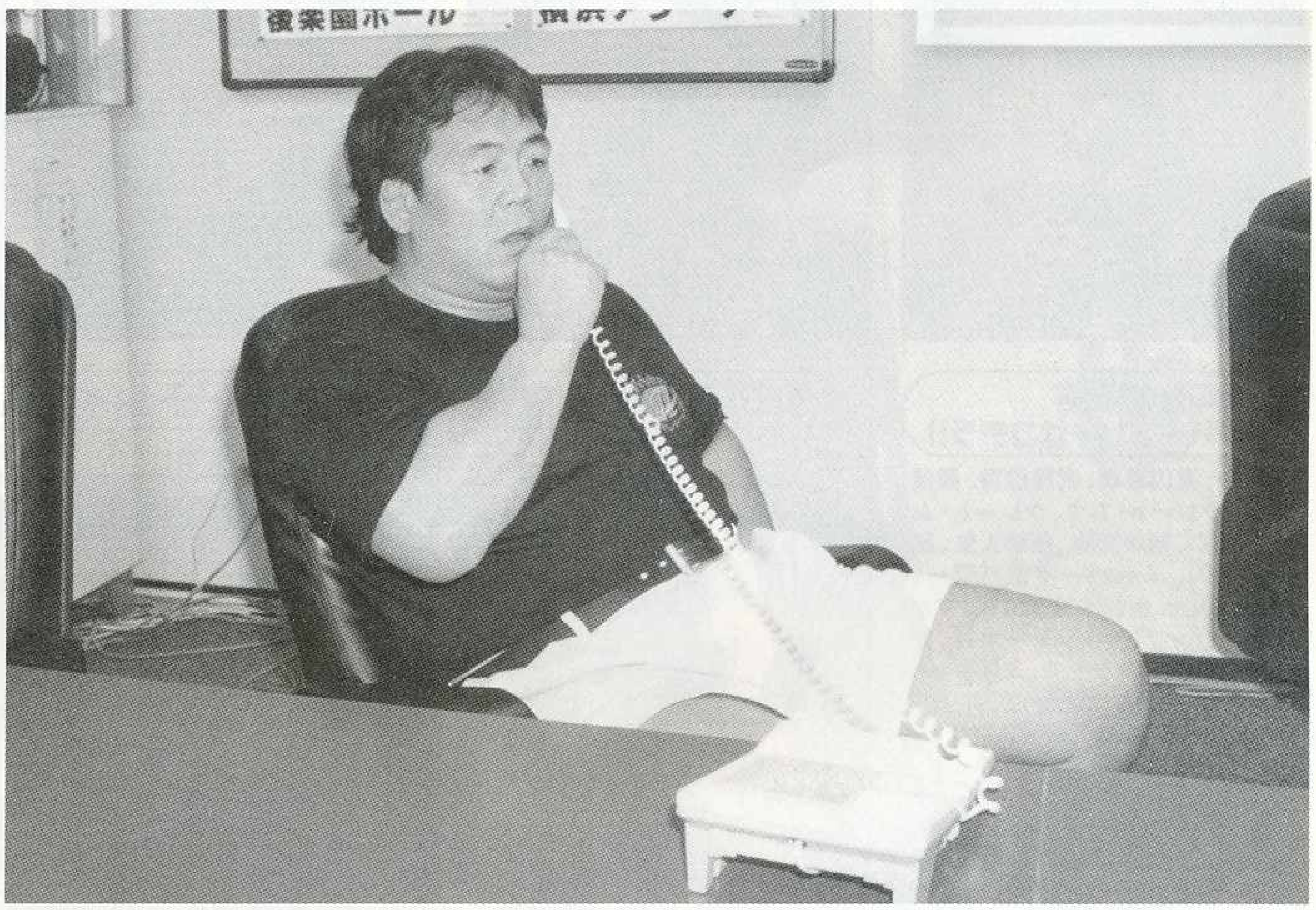
【今月の検証　椎名基樹】長州とサイパン

「ホントか、テメーこの野郎！　覚悟しとけよ！」という長州の鬼気迫る怒号が響き渡った。ガシャン！　と受話器を叩きつけるように電話を切った長州は「上井（営業部長）に連絡を取ってくれ！」と怒鳴るや山中営業次長のデスクに駆け寄り「どこでもいいぞ！　会場押さえてくれ！」指示を出した。そして、しばらくして、山中営業次長から「一番近いところで10月9日の東京ドームが空いています」と聞くやいなや、バーンとテーブルを叩いて「やれ！　押さえちゃえ！」と即決。と、ある。「やれ！　押さえちゃ！」だなんて、レイプシーンのセリフの様な、ハレンチな言葉は、いかにも長州っぽく、思えば言霊のネイキッドぶりは、プロレス界でも長州は前田をも凌ぐなあと、改めて感心。言ってみてえな、「やれ！　押さえちゃえ！」。

そして、この日に両団体のスケジュールが入ってないことを確認すると長州は「二言はないだろう！」としてやったりの表情を見せると、マスコミの質問に答えたそうだ。その中に問題の「えあ？」という、発言がある。

マスコミに「蝶野や平成維震軍など、本隊とは別の軍団もUインターとの対抗戦に出場するのか？」と訊かれて「（Uインター側が）チョイスすれば全部出さすって、ウチは。その代わり言っとけよ。一人残らず出ろって。全部シングルで行く。よーし今からサイパンに行って、帰ってきたら選手会にかけて聞いてみる」と答える長州。サイパン？　今から？　別に選手会に聞いてから、サイパンに行ってもいいかと思うのだけれど……。どうして、こんな重大でドラマチックな会見で長州は自分がサイパンに行くことを宣言しなければならないのだろう？　興奮していてもたってもいられなくなった長州は、とにかく「サイパンに行こう！」という気持ちを抑えられないようだ。

猪木島のあるパラオは、サイパンから飛行機ですぐのところにある。このミクロネシアの島々に新日の男ども魅了する何が隠されているのだろう？　もちろん、わからないが、今月はこれで終了。



「なに漫画の世界に浸ってんだオマエ」「受話器の向こうにいるのは、黒パンツのトロールの長州くんだな？」「なにタココラ！」「黙れトロール！」

おまけ　補欠・斎野の補欠日記

7.23 fri 藤井軍鶏侍選手の取材でZERO-ONE道場へ。GP前にオーちゃん幻想が膨らむ軍鶏侍インタビューはP12から。ちなみに補欠・斎野の査定インタビューにもなってますのでよろしくお願いします。それと、軍鶏侍Tシャツが商品化されないことを嘆いていました。「全ては小川さん次第ですね……」と力なく呟く軍鶏侍選手。商品化を望むヒトはオーちゃんのHPに嘆願メールを送って、オーちゃんをその気にさせよう！

7.26 mon 留守録しておいた27時間テレビの『恋のかま騒ぎ』を観る。最近は芸人のネタによるガチンコ番組が増えてきた。決められた時間内に練習を重ねたネタを披露するのは大変なことだと思う。しかし今回の『恋のかま騒ぎ』は、ネタ番組以上のガチンコさっぷりで最高に面白かった。振られたトークに対し瞬時に受け身を取らないと大ケガしてしまうという危険極まりない内容。しかも生放送というピリピリ感も堪らなかった。ちなみに大ケガしたのはネプチューン。

7.29 thu デザイナーさんの事務所まで会社のバイク（スーパーカブ）で移動していたら、駐車している車のドアが急に開き、時速30キロで走る僕のバイクとクラッシュ！　なんとかケガなく済んだものの、後ろから車が来てたら完全に轢かれてた。臓物ぶちまけて、脳症飛び散って、僕の目玉はオープンカフェで呑気こいてるOLのコーヒーにボチャッ！　辺り一面は阿鼻叫喚の地獄絵図……ハッっと我に返り、申し訳なさそうに車から出てきたヒトを見ると牧伸二にそっくりだった。バイクにキズはついたが、おじさんは素直に謝ってくれた。「あんあああんあ、やになっちゃった、あんあんあ、驚いた」とは言わなかった。

7.30 fri バイクで移動中、またもや車に轢かれた。2日連続だ。自動車が渋滞してたが、バイクの特権を生かして脇をスイスイと進んでたところ、トラックにいきなり幅寄せされ、ガードレールとトラックの間に挟まれてしまった。左腕をしたたかガードレールにぶつけ内出血。でもバイクはミラーが曲がったぐらいで済んだので一安心。トラックから「大丈夫？」と降りてきた人は、気仙沼二郎に似た善良そうなおじさんだった。きっと家では病弱な嫁さんと腹を空かせた子が5～6人（みんな沼二郎似）が待っているに違いない。その家に「この前、お宅の旦那さんのトラックに轢かれた者なんだけど、治療費が10万かかっちゃってさあ……これどうしてくれんの？」などと電話できるはずもなく、何事もなかったように立ち去った。っていうか、単に遅刻しそうだったから急いだだけ。

【今月の検証　せき詩郎】
優勝するのはこの選手！
真夏の祭典『G1 CLIMAX』予想!!

それは夢だったのかもしれない。桂三枝が椅子から危ない落ち方をする夢。

いや、夢だと断定することはできない。なぜなら私はその時、寝たり起きたりを繰り返していたのだから。

思えば私は『プリキュア』くらいからずっとそうだった。暑くて目が覚めたのだが、午前中に起きるとなんだかもったない気がして、冷房の温度を20度まで下げて、また寝ることにする。

私が寝てるベッドはエアコンの真下にあるので、冷たい風が直撃するため、今度は寒くて起きる。枕元の携帯をみるとまだ午前中。テレビでは『サンデープロジェクト』。私は再び寝ようと冷房を切る。

廃品回収の車のスピーカーから声が聞こえる。佐川急便がこれでもかというくらいにチャイムを鳴らす。私はそのたびに目を覚ますのだが、こうなると私もムキになり絶対に寝てやると決意する。寝ようとする覚悟の量が違うのだ。

だが、またしても暑くて起きる。

こうやって断続的に寝ていると、テレビの音声が夢に影響を与えることがある。いま聞こえているものはテレビの音そのものなのか、夢の中で加工されたものなのかわからなくなる。テレビで放送されているものがリアルタイムで夢にでてくるのだ。

その日、『新婚さんいらっしゃい』が始まった時も、私はそんな状態だった。

『新婚さんいらっしゃい』で最も視聴者が興奮する瞬間といえば、桂三枝が椅子から転げ落ちるところであろう。サッカーで言えば、桂三枝がDF相手に股抜きを見せたくらいの、格闘技でいえば桂三枝が下からいつの間にか三角を極めているくらいの興奮度だ。『ドラクエ』でいえば、戦闘2ターン目なのにはぐれメタルが逃げ出す気配がない時のようだ。

出演している新婚カップルがなにか言う。その多くはピンクジョーク。例えば「週七回です」くらいのことを言う。その瞬間、三枝は椅子から転げ落ちる！　椅子ごと倒れることだってある。この体を張ったリアクションに観客は狂喜乱舞する。ただ転げ落ちるだけの単純な行動なのに、痛さが充分に伝わってくる。

一説によれば、三枝の体はこのリアクションを長年続けているために、もうボロボロらしい。収録前になると、古傷を気にしながら入念にストレッチをする三枝の姿がみられるという。

夢と現実の中間点、週プロ風に言えば「夢の架け橋」の真ん中あたりで、私は新婚カップルと三枝のやり取りを聞いていた。話は奥さんの体重の話になった。奥さんが太ったとか痩せたとか旦那はすぐにわかるという。

「なぜ？」

三枝が問う。すかさず旦那が違和感のあるタメ口で答える。

「夜、上にのせるとわかる」

ガタンッ！

凄い音がした。

寝ぼけまなこ、プラス裸眼視力0・0001以下の私でも、三枝が椅子から転げ落ちたのはわかった。

だがその落ち方は半端じゃなかった。いつもより急角度で落ちたように見えたのだ。受身を取り損ねたようにも見えた。

後藤のバックドロップ、猪木カウントダウンのベイダー戦、そして記憶に新しいヒョードルvsランデルマン戦。様々な光景が次々と浮かび上がる。

あまりの痛さのためか、三枝は靴を脱ぎ、それに八つ当たりするかのように投げ捨てた。三枝は、三枝は大丈夫なのか……ムニャムニャ。

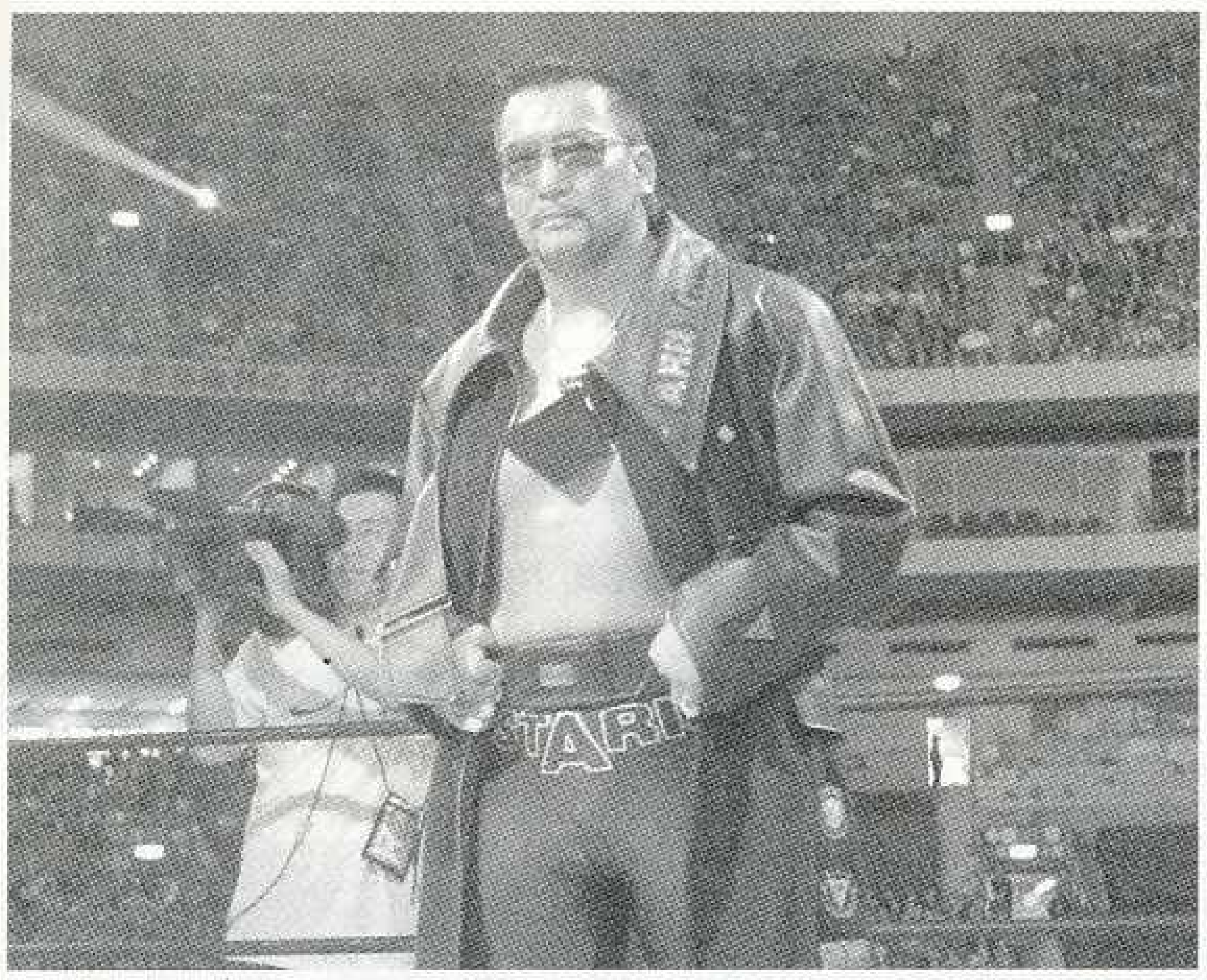
私の目が完全に覚めたのはそれから数十分後。ブラウン管には『アタック25』が映っていた。

先ほどの光景が現実だったのか、それとも夢の中で加工されたものなのかはわからない。ただわかっていることは3つ。

ひとつは長井と成瀬が正式にタッグを結成したということ。このタッグは春に一度みたのだが、先輩後輩の縦社会ギミックがわかりやすくて良かった。もう一つはアニマル浜口の「気合だー！」の掛け声のあとに、最近「オー」とか「ワー」とか「ウォー」などの言葉が追加されていると言うこと。「気合だーっ、オー、ワー、よーし、ウォー」のように、気合を入れすぎたための反動と余韻がいつまでも続くのだ。そして最後に、おさむちゃんの自己紹介がどんどん長くなっているということ。結局「おさむちゃんです」と言わない時すらある。

そういうわけで、今年のG1優勝は蝶野！　理由は夏男だから。

以上。



チケットが完売状態の『PRIDE・GP決勝戦』の真裏で、G1はプロレスの意地を見せることができるか!?　新体制になってからの初のG1に注目だ!!

見逃すな！ ♥ G1&主要大会日程表 ♥

06日	新婚さんいらっしゃい関東地区二次予選会（朝日放送東京支社）
07日	新婚さんいらっしゃい富山地区一次予選会（富山県民会館）
	新日本プロレスG1 CLIMAX 2004（相模原市立総合体育館）
08日	新婚さんいらっしゃい富山地区二次予選会（富山テレビ）
	新日本プロレスG1 CLIMAX 2004（大阪府立体育会館）
09日	新日本プロレスG1 CLIMAX 2004（神戸ワールド記念ホール）
10日	新日本プロレスG1 CLIMAX 2004（愛知県体育館）
11日	新日本プロレスG1 CLIMAX 2004（石川県産業展示館4号館）
13日	新婚さんいらっしゃい岡山地区一次予選会（瀬戸内海放送）
	新日本プロレスG1 CLIMAX 2004（両国国技館）
14日	新婚さんいらっしゃい静岡地区一次予選会（静岡朝日テレビ）
	新日本プロレスG1 CLIMAX 2004（両国国技館）
15日	新婚さんいらっしゃい関西地区一次予選会（朝日放送本社）
	PRIDE・GP決勝戦（さいたまスーパーアリーナ）
	新日本プロレスG1 CLIMAX 2004（両国国技館）

RADICAL CALENDAR

8 August

6 FRI.
DRAGON GATE■兵庫・神戸チキンジョージ (19:00)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
NEO■東京・北沢タウンホール (19:00)
AtoZ■埼玉・所沢市民体育館 (18:30)

7 SAT.
新日本■神奈川・相模原市立総合体育館 (18:30)
みちプロ■福島・いわき市平体育館 (18:30)
DRAGON GATE■愛知・刈谷あいおいホール (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
U-STYLE■大阪・梅田ステラホール (17:00)
大日本■福島・船引町営体育館 (18:30)
WMF■東京・北沢タウンホール (18:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ (18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField (19:00)
全女■東京・バトルスフィア東京 (18:30)
格闘美■東京・新木場1st RING (18:00)
ナイトメア■群馬・館林駅前谷越町駐車場 (16:30)

8 SUN.
新日本■大阪・大阪府立体育会館 (16:00)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
バトラーツ■埼玉・桂スタジオ (17:00)
大日本■宮城・塩釜水産物卸市場 (15:00)
大阪プロ■大阪・IMPホール (13:00)
K-DOJO■福島・郡山市総合体育館 (15:00)
K-DOJO■東京・北沢タウンホール (17:00)
SPWF■千葉・SPWFプロレス道場 (14:30)
LLPW■東京・後楽園ホール (18:30)
OZアカデミー■神奈川・横浜文化体育館 (13:00)
国際プロ■神奈川・茅ヶ崎青果市場 (14:00)
ナイトメア■東京・バトルスフィア東京 (18:00)
キングダムエルガイツ■東京・Z-ZONE永山 (17:30)
DEMOLITION■東京・TFMホール (18:30)

9 MON.
新日本■兵庫・神戸ワールド記念ホール (18:30)
大日本■福島・湯川村体育館 (18:30)

10 TUE.
新日本■愛知・愛知県体育館 (18:30)
みちプロ■岩手・花泉町民体育館 (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (18:30)

11 WED.
新日本■石川・石川県産業展示館4号館 (18:30)
みちプロ■青森・むつ市民体育館 (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)

12 THU.
みちプロ■青森・黒石市中央スポーツ館 (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
大阪プロ■大阪・フェスティバルゲート2F (14:00)

13 FRI.
新日本■東京・両国国技館 (18:00)
みちプロ■山形・鶴岡市体育館 (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ (14:00)
AtoZ■東京・亀戸サンストリート マーケット広場 (19:00)

14 SAT.
新日本■東京・両国国技館 (18:00)
NOAH■宮城・築館町総合運動公園体育館 (17:00)
みちプロ■新潟・新潟フェイズ (19:00)
DRAGON GATE■京都・京都KBSホール (18:00)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ (18:00)
NEO■東京・後楽園ホール (12:00)

15 SUN.
新日本■東京・両国国技館 (14:00)
NOAH■秋田・皆瀬村とことん山キャンプ場特設リング (18:30)
みちプロ■山形・山形市総合スポーツセンター (15:00)
DRAGON GATE■富山・イベントプラザ富山 (17:00)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
大日本■神奈川・川崎市体育館 (17:00)
DDT■東京・新宿クラブハイツ (20:00)
K-DOJO■千葉・BlueField (13:00)
K-DOJO■千葉・BlueField (15:00)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ (14:00)
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場 (13:15)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部 (12:00)
NEO■東京・東京キネマ倶楽部 (16:00)
PRIDE GP 決勝戦■埼玉・さいたまスーパーアリーナ (15:00)

16 MON.
みちプロ■岩手・大船渡市三陸町越喜来漁港 (14:00)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)

17 TUE.
新日本■東京・後楽園ホール (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (18:30)
K-DOJO■富山・高岡テクノドーム (18:30)
U-STYLE■東京・後楽園ホール (18:30)

18 WED.
みちプロ■福島・鹿島町民体育館 (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
U-STYLE■東京・後楽園ホール (18:30)

19 THU.
みちプロ■秋田・大曲市民体育館 (18:30)
WJ■東京・後楽園ホール (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
DDT■東京・北沢タウンホール (18:30)

20 FRI.
NOAH■東京・後楽園ホール (18:30)
みちプロ■青森・八戸市シーガルビューホテル (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
全女■埼玉・パチンコ飯能プラザ駐車場 (19:00)

21 SAT.
NOAH■埼玉・越谷桂スタジオ (18:00)
みちプロ■福島・福島国体記念体育館 (18:30)
DRAGON GATE■静岡・藤枝市民体育館 (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ (18:00)
666■東京・バトルスフィア東京 (19:00)
GAEA■静岡・キラメッセぬまづ (18:00)
格闘美■東京・新木場1st RING (18:00)

22 SUN.
全日本■東京・青梅市新町西東京レーン横広場特設リング (18:00)
※雨天中止の場合は24日(火)に延期
NOAH■宮城・大河原町はねっこアリーナ (17:00)
みちプロ■宮城・仙台市ニューワールドテニスクラブ (16:00)
DRAGON GATE■愛知・名古屋国際会議場 (17:00)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
レッスルエイド■東京・ディファ有明 (15:00)
K-DOJO■千葉・BlueField (17:00)
WWS■群馬・伊勢崎ロイヤルホテル (18:00)
埼玉プロ■東京・板橋区赤塚公会堂 (19:00)
全女■栃木・JR宇都宮駅東口広場 (19:00)
AtoZ■東京・後楽園ホール (12:00)
パンクラス■大阪・梅田ステラホール (16:00)
全日本キック■東京・後楽園ホール (18:30)

23 MON.
全日本■東京・後楽園ホール (18:30)

24 TUE.
NOAH■山形・山形市総合スポーツセンター (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (18:30)

25 WED.
全日本■山形・酒田市営体育館 (18:30)
NOAH■秋田・秋田県立体育館 (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
全女■千葉・東庄町パチンコチャレンジャー跡地特設リング (19:00)
NEO■長野・松本市めいてつショールーム (18:30)

26 THU.
NOAH■福島・ビッグパレットふくしま (18:30)
DRAGON GATE■神奈川・小田原アリーナ サブアリーナ (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)

27 FRI.
全日本■北海道・旭川大成市民センター (18:30)
DRAGON GATE■神奈川・横浜赤レンガ倉庫 (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
全女■埼玉・伊奈町中央駅入口交差点横広場 (18:30)

28 SAT.
全日本■北海道・札幌テイセンホール (19:00)
ZERO-ONE■新潟・上越市厚生南会館 (18:00)
NOAH■東京・ディファ有明 (18:00)
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
IWA JAPAN■神奈川・横須賀ヴェルニー公園 (17:00)
TAMA■東京・西調布格闘技アリーナ (19:00)
ナイトメア■東京・バトルスフィア東京 (18:30)
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場 (13:15)
GAEA■愛知・枇杷島スポーツセンター (18:00)

29 SUN.
全日本■北海道・北見市立体育センター (18:00)
ZERO-ONE■岐阜・セラトピア土岐 (17:00)
NOAH■静岡・アクトシティ浜松 (17:00)
DRAGON GATE■福井・サンピア敦賀 (18:00)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (13:30&16:30)
新宿プロ■東京・歌舞伎町クラブハイツ (19:00)
IWA JAPAN■東京・後楽園ホール (17:00)
WMF■埼玉・ペペホール アトラス (14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField (15:00)
札幌プロ■北海道・札幌テイセンホール (15:00)
ターザン後藤一派■埼玉・春日部インディーズアリーナ (14:00)
GAEA■岡山・卸センターオレンジホール (15:00)
全女■東京・後楽園ホール (12:00)
AtoZ■東京・バトルスフィア東京 (18:00)
Love Impact■東京・新木場1st RING

30 MON.
全日本■北海道・釧路鳥取ドーム (18:30)
アパッチ興行■東京・後楽園ホール (19:00)

31 TUE.
NOAH■長野・長野運動公園総合体育館 (18:30)
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA (18:30)
ZERO-ONE■岩手・岩手県営体育館 (19:00)
IWA JAPAN■東京・国立代々木第二体育館 (18:30)


9 September

2 THU.
新日本■東京・北沢タウンホール (18:30)
NOAH■岡山・山陽ハイツ体育館 (18:30)
DRAGON GATE■福岡・久留米リサーチパーク (19:00)

3 FRI.
新日本■東京・後楽園ホール (18:30)
全日本■神奈川・横浜文化体育館 (18:30)
NEO■東京・板橋産文ホール (19:00)

4 SAT.
NOAH■福岡・博多スターレーン (18:30)
NEO■東京・板橋産文ホール (18:30)
M's Style■東京・京・新木場1st RING (18:30)
CROSS SECTION■東京・TFMホール

5 SUN.
ノア■大分・別府ビーコンプラザ (17:00)
大日本■東京・北沢タウンホール
格闘美■東京・新木場1st RING (18:00)
新日本キック■東京・ディファ有明



まさに底なしの神秘!

幻想大国ロシア

現地潜入徹底リポート



TONOV

［キレエフスク発　潜入取材レポート］

秘密主義者

その謎に包まれた素顔

「すべては8月15日に明らかになる」

今回のロシア取材、最大の目的の一つはこの男に会うことだった。『PRIDE・GP』のダークホース、セルゲイ・ハリトーノフである。関係者が「サンボの実力ではヒョードルより上」と言い、デビューわずか4戦でヘビー級4強に名を連ねた“ロシア軍最強の男”は、果たしてどんな場所で、どんな日々を送っているのか。関節技、スタンド打撃、パウンドと勝ちパターンは多様、いまだ全貌を明らかにしていない、底なし沼のごとき強さを持つハリトーノフ。その“底”に一瞬でも触れるべく、彼がイリューヒン・ミーシャとともに練習を積んでいるトゥーラ州キレエフスク市に向かった。

文／橋本宗洋　撮影／乾晋也　構成／堀江ガンツ　designed by hisa（Two Three）



まさに底なしの神秘!
幻想大国ロシア
現地潜入徹底リポート

SERGEY KHARIT

セルゲイ・ハリトーノフ

モスクワ市内のホテルを出て、車で3時間ひたすら突っ走る。出発は朝6時半。何度となく助手席でウトウトしかけたのだが、そのたびに車体の揺れで頭を天井に打ち付けた。ロシアでは市街地を離れれば離れるほど道が悪くなる。舗装されてはいるのだが、いたるところがアスファルトごと大きくえぐれているのだ。

そんな強烈なドライブを経てたどり着いたのは、トゥーラ州キレエフスク市。街の中心部から車で10分も行けば、あとはもう草原と針葉樹、そして地平線しか目に入るものがない静かな田舎町だ。東京の基準でいう〝娯楽〟なんて、きっとここにはないんだろう。スポーツ選手にとっては、練習以外することがない理想的な環境。そうか、ハリトーノフはこんな場所で腕を磨いてきたのか。

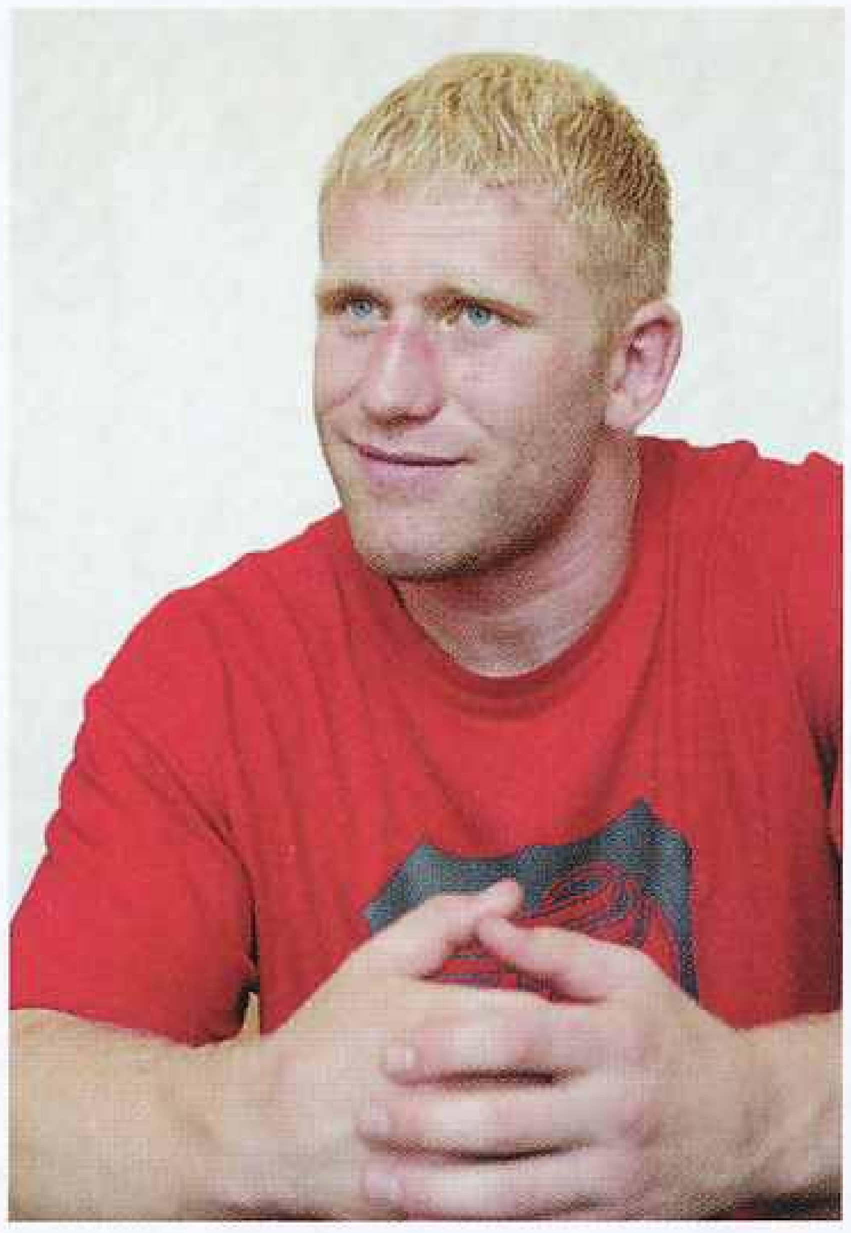
そう、ここキレエフスクに来たのは、セルゲイ・ハリトーノフに会うためだ。軍人である彼はこの街にある部隊に所属し、この街で練習を積んでいる。待ち合わせたのは市立体育館。トタン張りのシンプルな建物に到着すると、すでにハリトーノフとイリューヒン・ミーシャ、8人ほどの練習仲間たちが玄関に集まっていた。全員が分厚い胸板と太い腕を誇り、ただならぬ雰囲気を漂わせている。

「地元に住んでいる人間ばかりではないんですが、わざわざキレエフスクまで来て私のスパーリング・パートナーを務めてくれるんですよ。軍隊の仲間もいますし、警察官やスペッナズ（特殊部隊）のメンバーもいます」とハリトーノフ。この中の何人かは、いずれロシアン・トップチームの一員として『PRIDE』のリングに上がることになるだろうという。

様々なステップを使ってのランニングにストレッチ、技の反復練習、そしてスパーリング。練習はミーシャの指示で整然と進んだ。ロシアン・トップチームにおいて、選手としてのみならずコーチとしてもミーシャへの信頼は厚い。リングス時代には、クリストファー・ヘイズマンにその指導力を買われて「一緒にオーストラリアに来ないか」と誘われたこともあった。

もちろんキレエフスク市民にとっても、リングスやアブソリュート大会で活躍してきたミーシャは英雄的存在。キレエフスク市長によれば、市の予算でミーシャのジムを建設する予定もあるとか。結婚相手の連れ子がすでに子供をもうけているため、なんとミーシャは38歳にして孫がいる。とはいえ老け込むにはまだまだ早い。ここしばらくはケガに悩まされてきたが、戦線復帰へ向けてできる限り若手選手と同じ練習メニューをこなすようにしている。

「シュルト戦の戦法も、ミーシャと一緒に作り上げたもの。彼との練習は、私にとって非常に重要です。特に今は私の人生で最も大事な練習をする時期ですから。体調もすこぶるいいですね」



SERGEY KHARITONOV

そういってハリトーノフが笑顔を見せる。『PRIDE・GP』決勝大会に向け、現在は軍務を離れて練習漬けの毎日。どうやら調子は上々のようだ。ミーシャも「今のセルゲイの調子は80%。試合までには確実に100%にもっていける。課題はケガをせずに試合を迎えることだけだよ。それができれば、優勝できると思うね」と太鼓判を押す。ロシアン・トップチーム総監督ウラジミール・パコージン氏は、ハリトーノフの卓越した能力を語ってくれた。

「彼をサンボのロシア代表チームと練習させたことがあったのだが、スパーリングで誰にも負けなかったね。あれだけ大きな体をしているのに、10キロ走でもトップを取った」

取材日の時点では決勝大会の組み合わせは決まっていなかったのだが、それも問題はないようだ。大会を前に、ロシアン・トップチームはハリトーノフのために万全のバックアップ体制を敷いた。

「準決勝進出が決まってすぐ、ニコライ・ズーエフさんがエカテリンブルグからここまで来てくれたんです。そして『PRIDE・GP』決勝大会に向けて、トレーニングのプランを作ってくれた。試合までどんな練習をすればいいのか〝宿題〟を置いていってくれたんです。重点的に練習しているのは、グラウンド。ヒョードルもノゲイラもオガワも、全員が優れた寝技の使い手なので、私もそれに対抗していかなければならない。ズーエフさんは世界的な寝技のスペシャリストですから、非常に有効なプランができました」

大一番のためにズーエフが作戦を立てた例は、過去にも一度あった。昨年3月16日に開催された『PRIDE・25』におけるエメリヤーエンコ・ヒョードルvsアン



日本からの取材と聞き、なんとキレエフスク市の市長まで我々を出迎えてくれた。この町では青少年育成のため「イリューヒン・ミーシャ杯」のサンボ大会が毎年行われてるとのこと。



この日は地元のテレビ局もハリトーノフとミーシャの取材に訪れており、なぜか本誌・ガンツも「日本からわざわざ取材に来た記者」として逆取材を受けた。



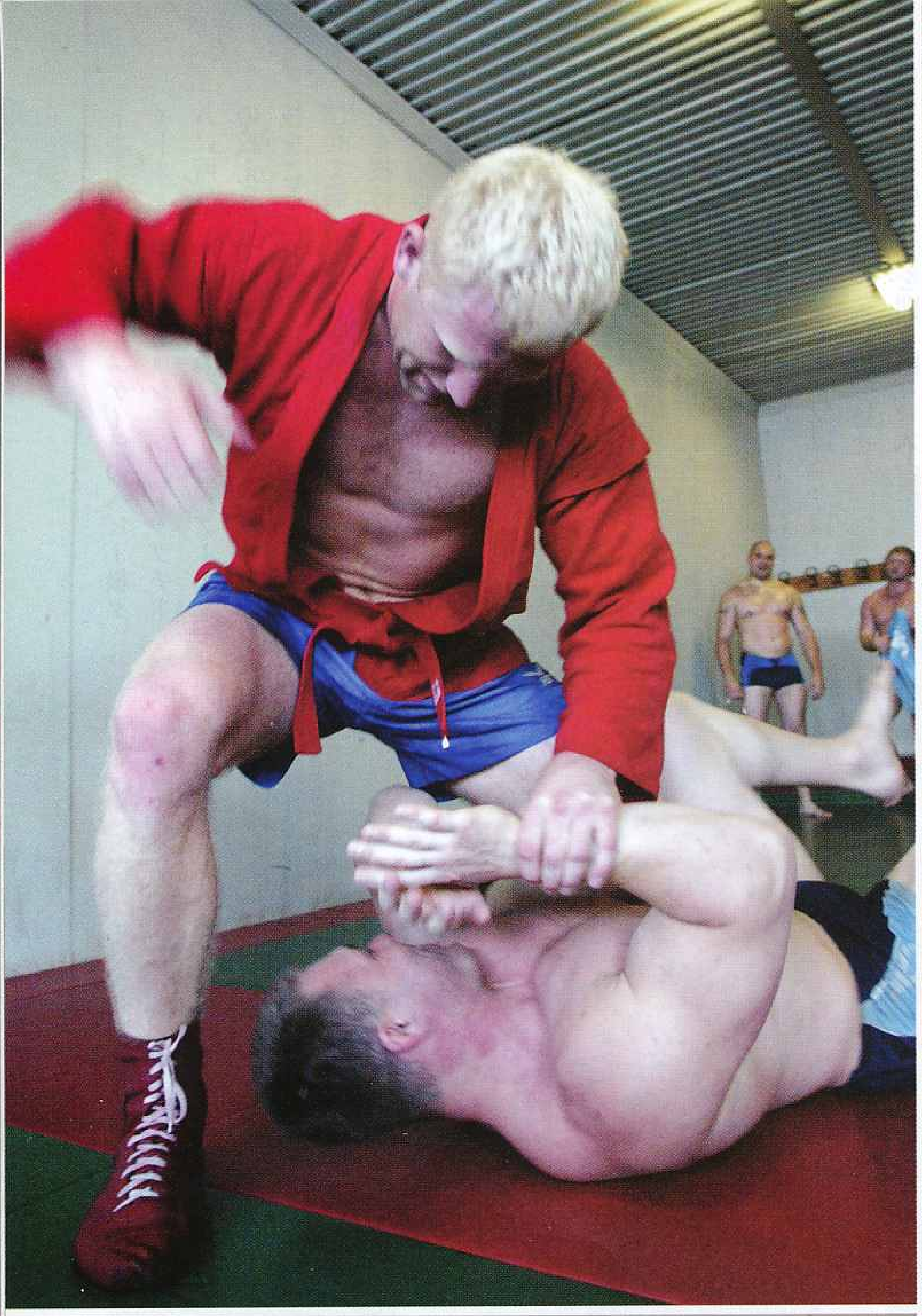
これがハリトーノフらがトレーニングするキレエフスク市立体育館の外観。中は体育館、ウエイトルーム、サンボ場、シャワー室等が完備されている。

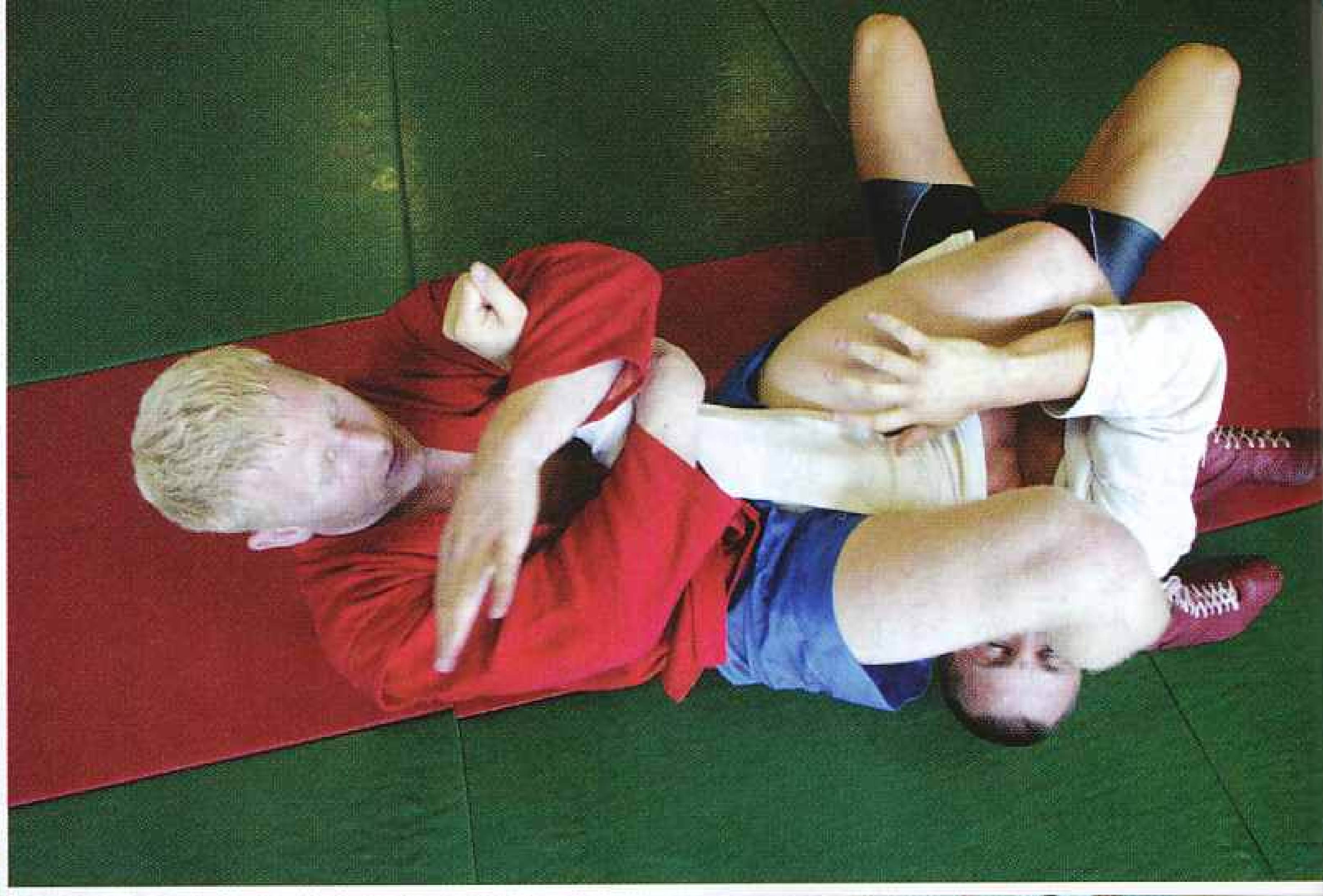




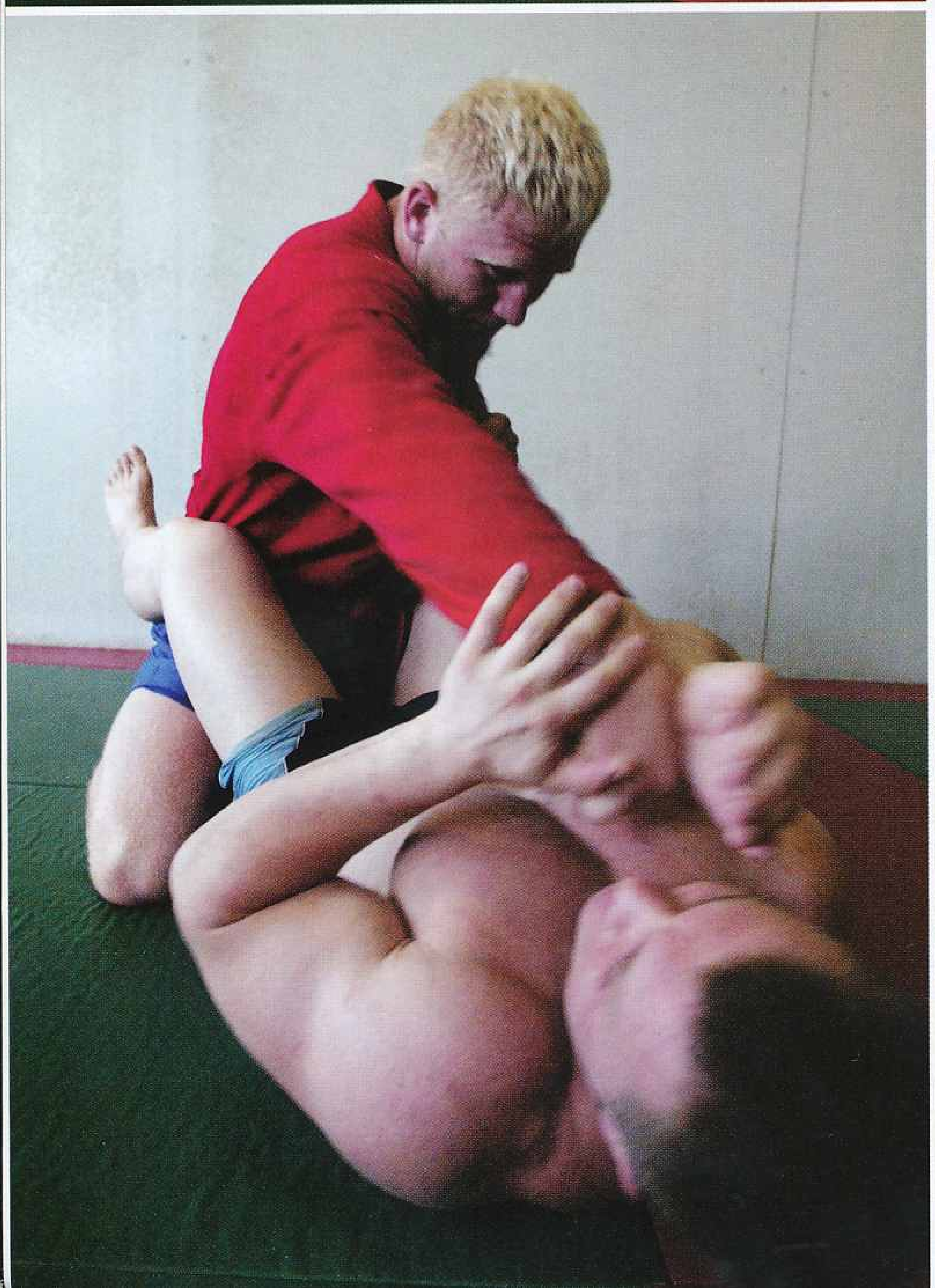




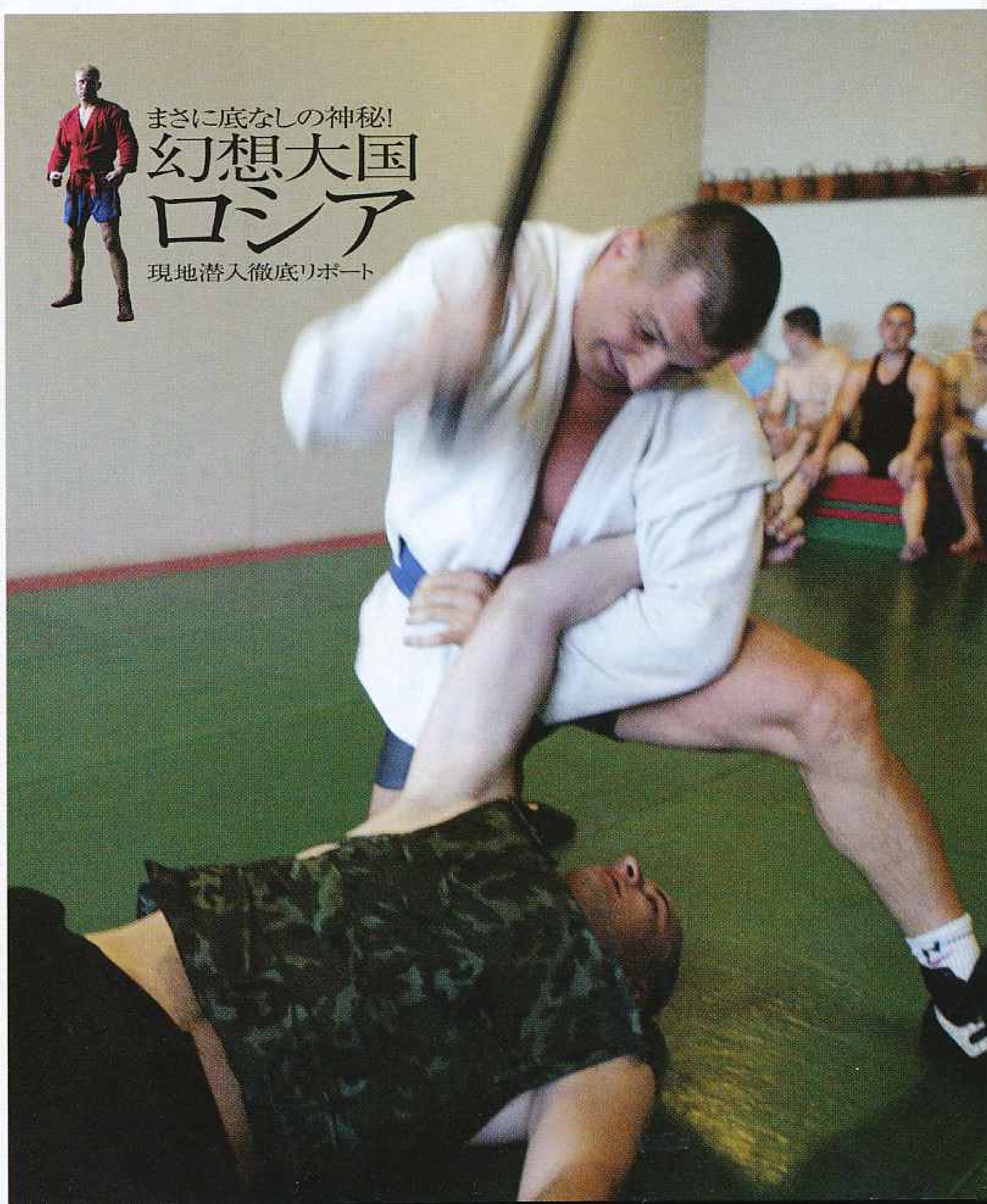








“秘密主義者” のハリトーノフだが、この日はミーシャやロシアン・トップチームの若手相手にさまざまな技を見せてくれた。この日の練習を見る限り、どうやらグラウンドポジションでの打撃で勝負するようにも思える。はたして柔術式寝技のスペシャリスト、ノゲイラ相手にハリトーノフはどんな寝技を見せてくれるのか？　また、練習の最後にはミーシャが特別に逮捕術用のコマンドサンボをみせてくれた。



トニオ・ホドリゴ・ノゲイラのヘビー級タイトルマッチ。当時ロシアン・トップチームに所属していたヒョードルは、ズーエフの教えを忠実に守ることでノゲイラの関節技をことごとくしのぎ、パウンドの嵐を浴びせて戴冠を果たしたのである。今回、教えを授ける対象こそハリトーノフに変わったが、あの時と同様、あるいはそれ以上にチームが一丸となっていることは明らかだ。
「セルゲイには、まだまだ試合で出していない技がたくさんあるんだ」。ミーシャはいう。「今度の大会では、新しい技を披露することになるだろう。用意したのは3つ。そう、それぞれの対戦相手に合わせて秘策を用意してあるということさ」

かつての先輩であるヒョードルに関して問われると、ハリトーノフは「今はノーコメント」と微妙な表情を見せた。ただしミーシャの言葉を聞く限り、不安はない。
「セルゲイに比べてヒョードルは経験が豊富だが、それは練習で補うことができるよ。それに我々が持っているヒョードルに関する知識を、セルゲイには全部伝えてある。ヒョードルだって人間だ、弱点は多いんだよ。負けない選手なんていないのさ」

この取材後に準決勝での対戦が決まったノゲイラに対しては、ハリトーノフ陣営はさらに強固な自信をのぞかせていた。モスクワで話を聞いたヴォルク・ハンの言葉は、以下のようなものだった。
「私もかつてノゲイラと闘って判定で敗れたが、ノゲイラは我々ロシア人と比べると肉体的な強さが足りないと感じたね。しかも、そのときの私は40歳だったんだ。だから若い選手たちには、当時から『君たちがノゲイラと闘えば、絶対に勝てる』と言い続けてきたんだ。『ブラジルの選手に負ける要素はない』とね。もちろん、そのために厳しいトレーニングも積ませてきた。実際、ヒョードルはその通りにしただろう？ 今度はセルゲイがやる番だ」

こうなると、ますますミーシャのいう〝秘策〟に興味が沸くのだが、詳しい内容に関しては誰もが口を閉ざした。特にハリトーノフ自身の秘密主義は徹底している。
「1日の練習時間？ 朝やって、昼寝して、また練習。あとは秘密です」

あなたが他の3人より優れていると思うところは？
「8月15日になったら分かりますよ」

どんな技を用意してるんですか？
「サンボの技は何千もあります、とだけ言っておきましょう」

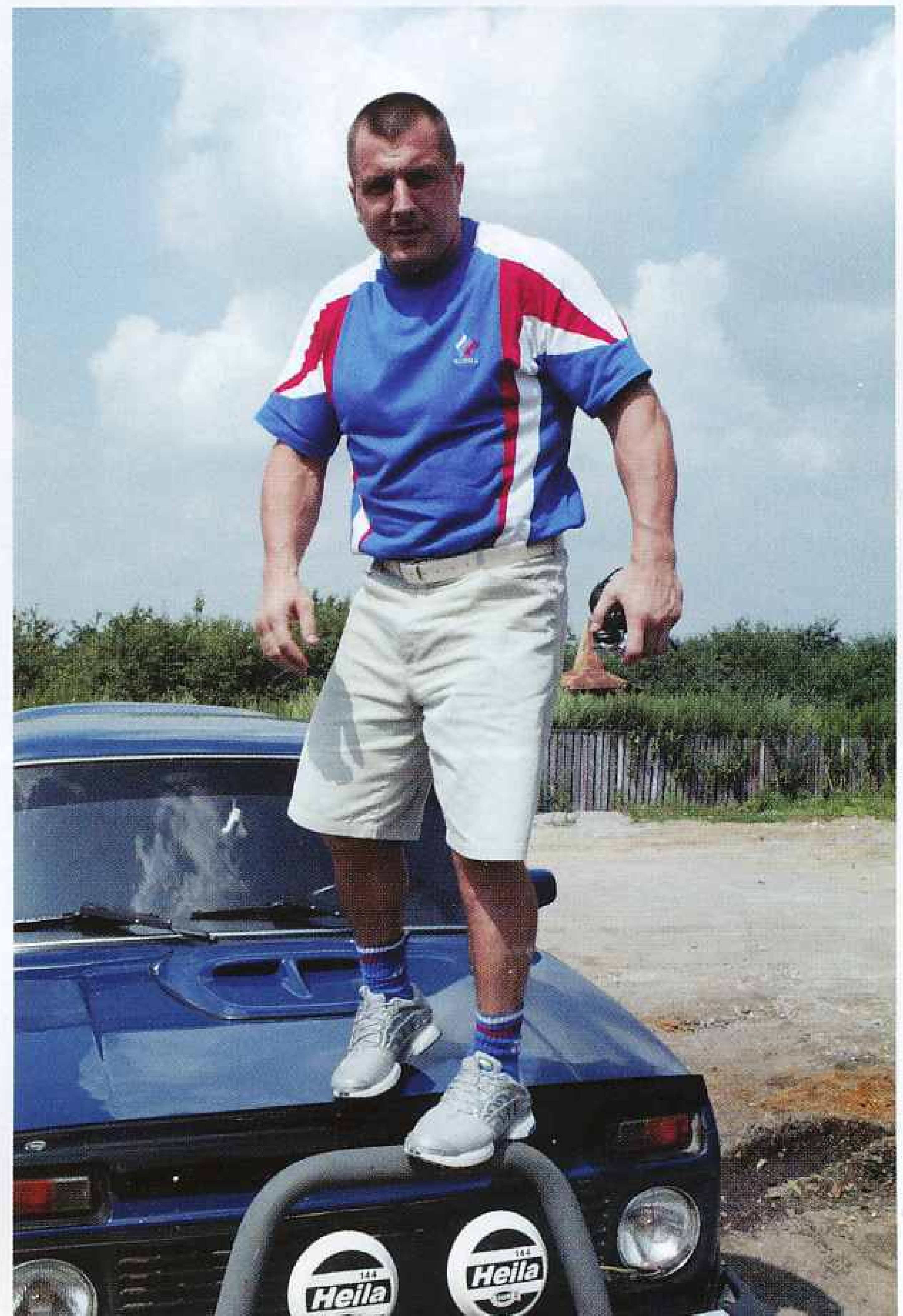
ハリトーノフは普段から物静かな男で、決して大きいことを言わないタイプだという。「気持ちの切り替えを大事にしています」という彼の趣味は読書とチェス。今回の取材時にも、「大事なのは試合前に何を言うかではなく、試合当日リングで何を見せるかだと思います」と繰り返した。「私はいつも、トレーニングのプロセスを公開することはありません。わざわざ日本から来てもらったので、グラウンドを重点的にやっているということだけは特別にお伝えしましたが……」。それから「私は他の選手よりも試合キャリアが少ないですが、その分どんな技を使うか知られていない。それは有利な点だと思います」とも。「闘いに勝つためには、何か秘密を持っておかなければいけない」とはハンの言葉だ。

公開された練習も、多分に〝見せるため〟の要素が強いものだった。決して奥深いところまでは踏み込まない。ただ、そんな中でも目がクギ付けになる場面があった。ミーシャが仰向けになり、ハリトーノフが立ち上がった〈猪木vsアリ状態〉での攻防。ハリトーノフは巧みにミーシャの足をさばきながら、サッカーボールキック、あるいは踏み付け攻撃を連続して繰り出していく。マス程度の軽いものとはいえ、その迫力は際立っていた。

たとえばシュート・ボクセ勢もグラウンドにおける蹴り技の技術に長けているが、それは〝ケンカ殺法〟という色が濃い。どこかに〝凶暴性〟や〝ブチ切れての凶行〟といったムードがあるのだ。しかしハリトーノフがやると、テイクダウンや関節技と同じ、言ってしまえば〝単なる技術の一つ〟という雰囲気。機械的に、オートマチックに敵の顔面を蹴り潰すとでも表現すればいいだろうか。倒れた相手を踏み潰すとき、ハリトーノフの心拍数は平常時となんら変わりがないんじゃないだろうかとさえ思え




まさに底なしの神秘!
幻想大国ロシア
現地潜入徹底リポート





ロシアン・トップチームのヘッドコーチになっていたミーシャ。ロシアＶＴのパイオニアでもあるだけに、その経験値、知識は非常に豊富だ。

SERGEY KHARITONOV





即戦力になりそうな選手がゴロゴロしていたＲＴＴの若手選手たち。この中から近い将来、第２のハリトーノフ、ヒョードルが誕生することは間違いないだろう。

る（準々決勝のセーム・シュルト戦後、ハリトーノフは何食わぬ顔で「あのまま殴り続けていたら、相手は失明していたでしょうね」と語った）。おそらくは、この非情な攻撃こそ、戦場格闘術であるコマンドサンボ（コンバットサンボ）の真髄に近いものだ。もちろん、我々が見たのは試合用にアレンジされた技術であって、本来の〝人を殺す技術〟とは別物なのだろうが。

ハンは「コンバットサンボの最大の武器は、強い心だ」という。ハリトーノフの意見もまた同様。

「相手を倒すために様々な要素が必要なのは当然ですが、中でも強い心は最も大切なものです。これまで厳しい練習を積んできましたが、そうしなければ強い心を持ち、リングで全力を出すことはできません。そして魂で勝っていれば、闘いを80％は支配したことになるんです」（ハリトーノフ）

そしてハン、ミーシャが口を揃えるのは、ハリトーノフの最大の長所もまた、強い心であるという点だ。

「セルゲイは決してあきらめるということを知らないんだ。一度スパーリングで負けた相手にも、勝つまで食らい付いていく。今日がダメなら明日、明日もダメなら明後日には勝つ、という気持ちでね」（ミーシャ）

その強い心を養ったのは、軍隊での経験だろうとミーシャはいう。しかも、ハリトーノフが所属するのは通常の部隊ではない。第１０６赤旗勲章およびクトゥゾフ２等勲章受章親衛空挺師団——通称第１０６親衛空挺師団。ロシア軍の中で、最も能力が高いといわれる特殊部隊である。

その主な任務は、飛行機やヘリコプターからパラシュートなどで降下し、敵陣の後方深くを急襲すること。孤立無援の作戦を展開するため、隊員には高い戦闘能力が要求される。基地との連絡を取るための暗号化・暗号解読能力や、外国での作戦遂行のための語学力など、高度な知性も必須事項だ。

『ヴィジュアル版　世界の特殊部隊』（マイク・ライアン、クリス・マン、アレクザンダー・スティルウェル共著。原書房刊）によれば、西側諸国には規模と戦力の面でロシア空挺部隊にかなう部隊はないという。いわばハリトーノフは、他国に比べてもとりわけ軍事に力を注いできたソビエト→ロシアの軍隊の中でも、さらに選りすぐりのエリートというわけだ。

このあたり、柔道・サンボ時代に地方チーム所属ゆえ中央で冷遇され、道衣を買う金にも苦労したという〝叩き上げ〟のヒョードルとは正反対。だがエリートがエリートであり続けるために払う犠牲もまた、並大抵のものではない。ハリトーノフは、自身の青春時代をこう振り返る。

「21歳で現在の部隊に配属される前、私はリャザン市にある空挺部隊の養成学校に5年間いました。子供の頃からサンボを習っていたということもありますが、肉体的にも精神的にも強い男がそこへ行くと聞いて、ぜひ入りたいと思っていたんです。学校はもちろん男子校で、全寮制。揉め事？もちろんありましたよ。学年が進めばチームとしての結束力が出てくるんですが、最

初のうちはどうしてもね。私もケンカはしました。自己防衛のためです（笑）。一度に10人を相手にしたこともありましたよ」

知力、体力、精神力、全てにわたって優れた人材を育成するため、そのプログラムはすこぶるつきに厳しい。

「休みは月に一度ないし2カ月に一度で、外出の許可が出るのは年に1日だけ。あとはひたすら軍事訓練と、スポーツと、勉強に明け暮れる生活でしたね。学校では法律や心理学、経済学も学ぶんです。単に強いだけでなく、知性もともなった理想的な将校になるためにね。一緒に卒業した仲間には、空挺部隊の教官や大統領の護衛といった要職に就いている者もいます。その過程はもちろん厳しかったですが、私は当然だと思ってました」

なぜそんな道を選んだのかと聞くと、彼は即座にこう答えた。

「〝本物の男〟になるためです」

養成学校を卒業すれば、さらに過酷で容赦のない訓練が行なわれる。実弾射撃や本物の爆弾を使用したプログラムもあり、訓練中の負傷者、死亡者も他国の特殊部隊より多い。高高度からのパラシュート降下、総重量60キロにもなる装備を身に着けてのコンバットサンボのスパーリングや長距離行軍。サバイバルのため生きたカエルを食べる訓練まであるとか。サンボ着を脱いだハリトーノフの右わき腹にも、大きな傷跡が見えた。「大したケガじゃない。つまらないことなので言いたくはないです」と彼はいうのだが。

「そんな過酷な経験をした人間が『PRIDE』の選手で他にいるかい？」（ミーシャ）

空挺部隊と並び称される特殊部隊スペツナズでは、徴収兵は入隊訓練に際して忠誠宣誓書に署名。スペツナズを裏切った場合は死刑に処されることに同意する。『世界の特殊部隊』には、ロシアの特殊部隊に関するこんな記述も見られた。〈手や足だけで相手を殺したり致命傷を負わせたりできることで特に有名である〉

そんな精鋭部隊の中でも図抜けた強さを発揮したことで、プロ格闘家デビューの誘いを受けたのがハリトーノフなのである（彼はロシア軍の白兵戦選手権で優勝している）。また、同書で言及されている、不正規戦で求められる兵士像〈高い技能を持ち、単独で行動でき、斬新なアイディアを生み出せる人物〉も、ミーシャによるハリトーノフ評と合致する。曰く、

「セルゲイは常に我々の予想を超えてみせるんだ。普通はセコンドの言うことを聞くだけで精一杯なのに、彼は自分の判断でそれ以上の動きをするんだよ」

〝本物の男〟になりたくて空挺部隊を志した少年が、いま〝男の中の男〟を謳った大会の頂点に手をかけようとしている。戦争のスペシャリストが、他の選手たちとは違う風景を見ながら闘っていることは確かだ。〝ハリトーノフには『PRIDE』なんてスポーツは生ぬるい〟と言いたいのではない。むしろその逆で、そんな男までもが『PRIDE・GP』では命を賭して闘っているということ。ハリトーノフが入場時に着ている軍服は、キャラクターを強調するための〝コスチューム〟などではない。青と白の縞模様のTシャツは精鋭部隊のみが着用を許されるものであり、空色のベレー帽は空挺部隊員の証。現在の彼にとって、〝戦場〟とは『PRIDE』のリングに他ならない。

「練習のために軍務を離れているのも、試合のために日本へ行くのも、上官の許可があってのことです。ロシア軍が私をバックアップしてくれている。であれば、負けることは許されないでしょう。言ってみれば『PRIDE・GP』で優勝することは、空挺部隊員である私の〝任務〟なんです」

戦場の格闘家セルゲイ・ハリトーノフは、8月15日、いよいよその〝任務〟を実行に移す。



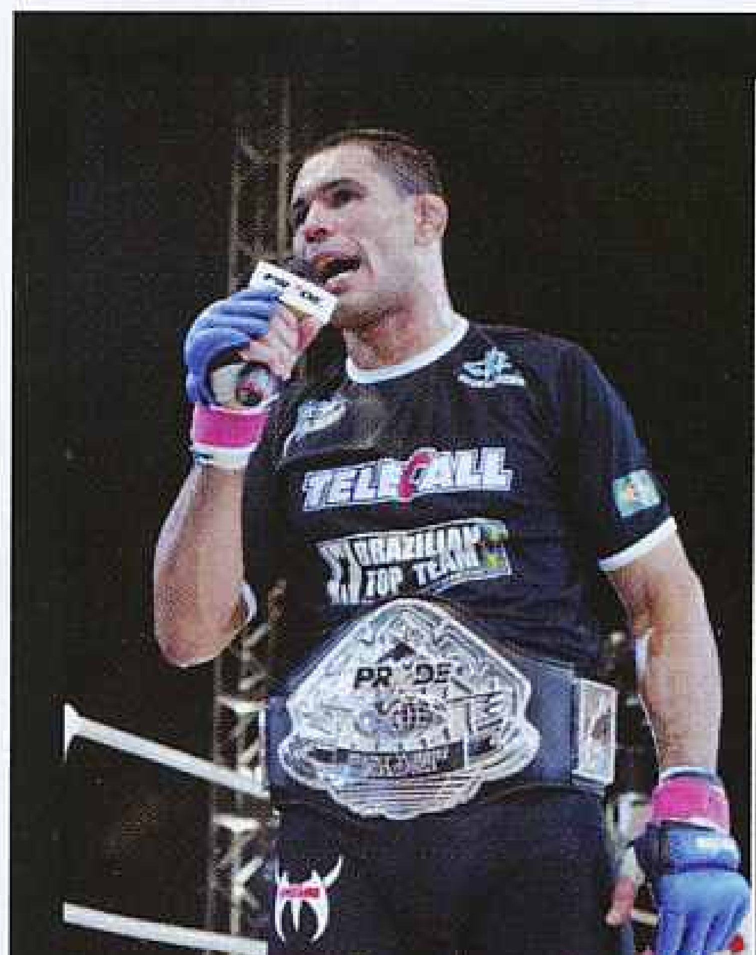
SERGEY
KHARITONOV

1980年８月18日、ロシア・アルハンゲリスク出身。“ロシア軍最強の男”の異名を持つ、ロシアントップチームの新エース。サンボ公式戦14戦無敗、『PRIDE』でも現在４戦４勝。ニンジャ、シュルトを倒した冷酷な闘いぶりにファン急増中！　決勝大会でどんな闘いを見せるか期待せずにはいられない。192cm、101kg。



ハリトーノフ直筆サイン入り
サンボ着アクセサリーを
2名様にプレゼント！

ロシアン・トップチーム、パコージン総監督から、『紙プロ』読者にプレゼント。ロシア・サンボ連盟公式グッズである（たぶん）サンボ着のアクセサリーに、ハリトーノフのサインを入れて、赤、青、各1名様にプレゼントいたします。応募方法はP160参照。



8・15『PRIDE・GP』決勝大会
準決勝の相手は
ノゲイラに決定！

ヒョードルとの因縁の元同門対決が噂されていたハリトーノフの準決勝だが、ファン投票の結果、逆転でノゲイラが相手となった。これまでRTTからはヴォルク・ハン、コピィロフ、ラバザノフ、そしてヒョードル（当時）がノゲイラと闘い、勝利を収めたのはヒョードルのみ。このRTT因縁の相手にハリトーノフは勝つことができるか？　注目だ！

エメリヤーエンコ・ヒョードル、セルゲ

君はまだ真のサンボを知らない!
ロシア・サンボ連盟会長セルゲイ・エリセーエフが語る

知られざるサンボの全貌



モスクワ市内にある荘厳な石造りの建物――ロシア・スポーツ体育省。その一角にオフィスを構えるのが、全ロシアサンボ連盟だ。『PRIDE・GP』ベスト4に2人の選手を送り込んだサンボの、いわばここは総本山。ペレストロイカ以後、ロシアのスポーツ界は危機に瀕してきたと伝えられるが、ロシア・サンボ界はいかにしてヒョードル、ハリトーノフのような強豪を生み、そして育ててきたのだろうか……?

文／橋本宗洋　撮影／乾晋也　構成／堀江ガンツ　designed by hisa (Two Three)

まさに底なしの神秘!
幻想大国ロシア
現地潜入徹底リポート



エメリヤーエンコ・ヒョードル、セルゲイ・ハリトーノフの活躍で、ロシアの国技サンボが、いままた脚光を浴びつつある。グレイシーの出現以降、組み技といえば柔術というムードが世界中に広まったのだが、では我々はどれだけサンボについて知っているというのだろうか。

その語源は"武器を持たない自己防衛"であり、スポーツサンボと軍隊格闘術コマンドサンボの2種類がある、というのは知られているが、例えば「ヒョードルがコマンドサンボの世界大会で優勝した」と聞けば「そんな大会があったんだ?」と思うし、彼が「試合前にエカテリンブルグ式サンボを習ってきました」と言えば「それ何?」となる。

知られざるサンボの全貌について、ロシアサンボ連盟の会長、セルゲイ・エリセーエフ氏にインタビューを試みた。

◎　◎

――我々はまだサンボについて知らないことが多いんですが、中心となるのは、いわゆるスポーツサンボなんですよね?

「サンボを学ぶ者は、まずスポーツサンボのトーナメントに出場することになります。そこでいい成績を収めた者は、今度はコンバットサンボのセクションに入ることになる」

――日本で言うコマンドサンボですね。

「そう。ロシア語ではワエヴォエ(軍隊)サンボと言いますが。そしてコンバットサンボで実力を認められた者が、プロの選手として選抜されて『PRIDE』などに出場することになるわけです。それ以外に、ロシアの代表チームに入れば給料をもらえるシステムにもなっていますね」

――ペレストロイカ以後、ロシアのスポーツ選手は厳しい環境にいると聞いていましたが、現在は旧ソ連時代と同じような待遇だと。

「ソ連が崩壊したときには、サンボだけでなく全てのスポーツ選手に著しい影響がありました。予算もなくなってしまって、多くの選手が引退したり、その世界から離れていった。ただ、プーチンが大統領になって状況が変わりました。彼はスポーツに力を入れ、サンボも援助してくれるようになりました。我々の暮らし向きはよくなりましたし、よりサンボに集中できるようになった」

――たしか、プーチン大統領も柔道とサンボの経験者なんですよね。

「そうです。それもあってサンボを援助してくれるわけです。『サンボ70』という、一般の勉強をしながらサンボを学ぶ専門の学校もあるくらいですからね」

――サンボには、土地ごとに様々な種類があるとも聞いたことがあるんですが。



「ロシアは広大な国ですから、それぞれの地方によって特徴がありますね。100以上の民族が独自に培ってきた技術を伝承しているんです」

――民族格闘技の特徴が、サンボの中にも色濃く残っていると。

「そういうことです。例えばグルジアのチダオバ。モルドバ人はトリンタという格闘技を使う。カザフスタンにはクレシュという格闘技があります。サンボはそれらに加え柔道、レスリングの技術を統合して作られたものですが、地域ごとの特色も残っているんです」

――例えばこの地方はこんな技が強い、というのを紹介していただけますか?

「ロシアの中にはたくさんのサンボアカデミーがあり、クストヴォという街には国際サンボアカデミーがあります。そこの選手は特に足関節技を得意としていますね。エカテリンブルグの選手は、四つんばいの相手を攻めるのが得意。またマイコプ地方のサンビストは投げ技中心の闘い方をします」

――では一口にサンボといっても、それぞれの技術を駆使した異種格闘技戦のような側面もあるんですね。

「出身地によって得意な技がありますからね。監督、コーチのクラスになると、動きを見ただけでその選手がどこの出身かすぐに分かりますよ。ただ、最近は技術もユニバーサルになってきましたが」

――それから、先ほどのコンバットサンボの話なんですが、スポーツサンボで強い選手がやるものなんですか? 我々は、コンバットサンボは軍隊で使用される格闘術だとこれまで思ってきたんですが……。

「それも事実ですね。ただ、それだけではない。コンバットサンボは一つではないということです」

――コンバットサンボは一つではない?









1. ここがロシア・サンボ連盟の建物入口。これは道路面したいわば外壁で、入るとすぐに緑溢れる中にはに出て、その中にサンボ連盟の建物はある。**2.** これがおそらく本邦初公開となる“競技用”コマンド・サンボの試合風景。ルールはほぼ『PRIDE』と同じながら、ヘッドギアとジャケットを着用するところが特徴。**3.** この人がブラッド・ハサノフ。重量級不動の王者だ。**4.** ミーシャが披露してくれた逮捕術としてのコマンドサンボ。武器を持った相手の腕を極め、逆に武器を奪い取って攻撃する技術だ。



「ええ。まずはスポーツマンのためのコンバットサンボがあります。これは2001年に始まったもので、世界大会も行なわれていますね。一般の強い選手、それに他の競技の選手も出場することができます」
――サンボのハード・バージョンというか。
「ルール的には『PRIDE』に非常に似ていますね。ただしコンバットサンボの大会ではもちろんサンボ着を着用しますし、ヘッドギアも着ける。打撃、絞め、関節技は全て有効。反則は指で目を突くことと金的攻撃ぐらいですね」
――現在のチャンピオンは？
「昨年はエメリヤーエンコ・ヒョードル、今年は彼の弟のアレキサンダーが優勝しました。体重別で行なわれているので、軽い階級にも強い選手はいますよ」
――では日本で言われる、軍隊の格闘術としてのコンバットサンボというのは？
「それにも2つの種類があります。まず内務省、警察で行なわれるもの。これは職務の性質上、敵を逮捕、連行する技術を中心にしたものですね。それから軍隊、特にスペツナズや空挺部隊などの特殊部隊でのもの。簡単に言うと、相手を殺すためのサンボです」
――相手を殺すためのサンボ！
「ですからその技術は高度な機密事項になります。それぞれの組織にコンバットサンボのセクションがあり、大会も開かれているんですが、それは完全に非公開です」
――軍隊のコンバットサンボには、どんな技術があるんですか？
「戦闘の際に自分が生き残るための技術です。機密事項ですから、詳細はもちろんいえません（笑）」
――それはそうですよね（笑）。
「ごく簡単に言うと、ナイフ、機関銃の銃身、シャベルなどを使った技術だということです。それからベルトも使いますね」
――ああ、もうそのレベルなんですね。それは外国人はもちろん、ロシアの一般市民も見ることができないものなんですよね。
「そうです。見せるものではない。もしあなた方がそれを見てしまったら、ここにある刀で首をハネられることになる（笑）」
――知らないままにしておきます（笑）。
我々はよくハリトーノフ選手に「戦場で使う殺しのテクニックをリングでも見せるんですか？」なんて聞くんですが、本人にしたら「そんな甘いもんじゃない」って感じなんでしょうね。
「本当の殺人技術を使ってしまったら、それこそ対戦相手を殺してしまうんですよ（笑）。それに、その技を見せるのは軍の機密を漏らすことになる」



現在、ロシア・サンボ連盟は会長セリセーエフ氏、そして副会長をお馴染みパコージン氏が務めている。両者ともに『PRIDE』への理解が深いので、今後、さらにサンボの強豪の参戦が増えてきそうだ。

――彼がなかなか技術について話したがらない訳が分かりました。現在、エメリヤーエンコ兄弟やハリトーノフ選手が『PRIDE』で大活躍していますが、彼らに続くような選手もたくさんいるんですか？
「もちろんです。いまヴォルク・ハンが熱心に教えているスレン・バラチンスキーがその第一候補ですね。他にも強い選手はたくさんいますよ」
――現在、サンボのトップ中のトップというとどんな選手がいますか？
「プーチンです（笑）」
――それは最強ですね（笑）。
「実際の話をすると、まず挙げられるのはブラッド・ハサノフでしょう。サンボの世界選手権を8回制覇しています。これはサンボの歴史の中でも偉大な成績といっていい。それからクストヴォにいるロポウォーク。彼は90キロの選手ですね」
――ハサノフ選手は何キロなんですか？
「153キロですね」
――153キロ！　身長は？
「204センチです」
――204センチ153キロで、しかもサンボのチャンピオンということは、ウドの大木じゃないと。やっぱりいるんですね、そういう怪物が。彼はプロにはならないんですか？
「サンビストのプロ進出に関しては、慎重にならざるをえませんね。強い選手をどんどん送り込んでいくと『PRIDE』に迷惑をかけることになりますから」
――え？
「ロシア人が上位を独占して、ブラジルや日本の選手が出場できなくなってしまいますからね（笑）」

◎　◎

やはりサンボは、その技術、人材において国土同様の広さと奥の深さを持った格闘技だった。よく柔道とブラジリアン柔術を比較して〈スポーツ化した柔道に対し、柔術には日本人が忘れてしまった禁じ手も存在する〉などと言われるが、サンボにおいては一般市民のためのスポーツから上級者のための激しい格闘技、そして軍隊の殺人術までが、リアルタイムで息づいているのである。その深淵は、簡単にたどり着けるものではないだろう。サンボを代表して『PRIDE』に参戦するハリトーノフですら「プロになることで〝サンボの謎〟により多く触れられると思った」というのである。ヒョードルやハリトーノフがリング上で見せる底知れない強さ。それはそのまま、サンボの奥深さに通じているのかもしれない。



再会 *FOREVER RINGS*

「リングスでの10年間の思い出を私は何一つ忘れてないよ」

いまから13年前、日本で初めてコマンド・サンボを披露し、その後10年間に渡ってリングスマットで活躍。後年はのちのPRIDE王者エメリヤーエンコ・ヒョードルを育てるなど、日本マット界に多大なる功績を残しながら2002年2月、リングス活動休止と同時に我々の前から姿を消した伝説の男がいる。その名はヴォルク・ハン。かつてのリングス・ロシアがロシアン・トップチームと名を改め、PRIDEマットで大活躍する中、リングスを誰よりも愛し、誰よりもファンから愛された男は、いま何を考え、何をしているのだろうか?
今回我々は、そのヴォクル・ハンと3年半ぶりに再会。その日、ロシア・サンボ連盟オフィスには、以前とまったく変わらぬ笑顔の彼がいた——。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by hisa（Two Three）

VING LEGEND

ヴォルク・ハン

K HAN

英　雄



RUSSIAN LIV

VOLK



まさに底なしの神秘!
幻想大国
ロシア
現地潜入徹底リポート

ヒョードルには持てる技のすべてを叩き込んだが、ひとつだけ教えなかった技があるんだ

―お久しぶりです！　今日はハン選手にお会いしたくて、はるばる日本から来てしまいました！

ハン　ドーモスイマセン！（日本語で元気よく）。でも、もう少し待ってくれたら、私の方から日本へ行こうと思っていたんだけどね（笑）。

―そうだったんですか!?　なかなかハンさんが日本に来てくれないので、日本のことはもう忘れてしまったのかと思ってたんですけど（笑）。

ハン　何を言ってるんだ。私は10年間にわたり、ほとんど毎月日本に行っていたのだから、忘れるわけがないよ。マエダさん（前田日明）はいま何をしていますか？

―え～と、詳しくはよくわかりませんが、釣りをよくしているようです（笑）。

ハン　釣りを？　私はてっきり飛行機乗りになってると思っていたんだけどね。昔、マエダさんはよく「リングスを辞めたら、旧日本軍の飛行機を買って大空を飛び回る」と言っていたから。

―ああ、「ゼロ戦を購入して太平洋を横断する」ってやつですね（笑）。その夢はまだ叶ってないようです。それにしても、ハン選手にも「ゼロ戦購入」の話はしていたんですね（笑）。

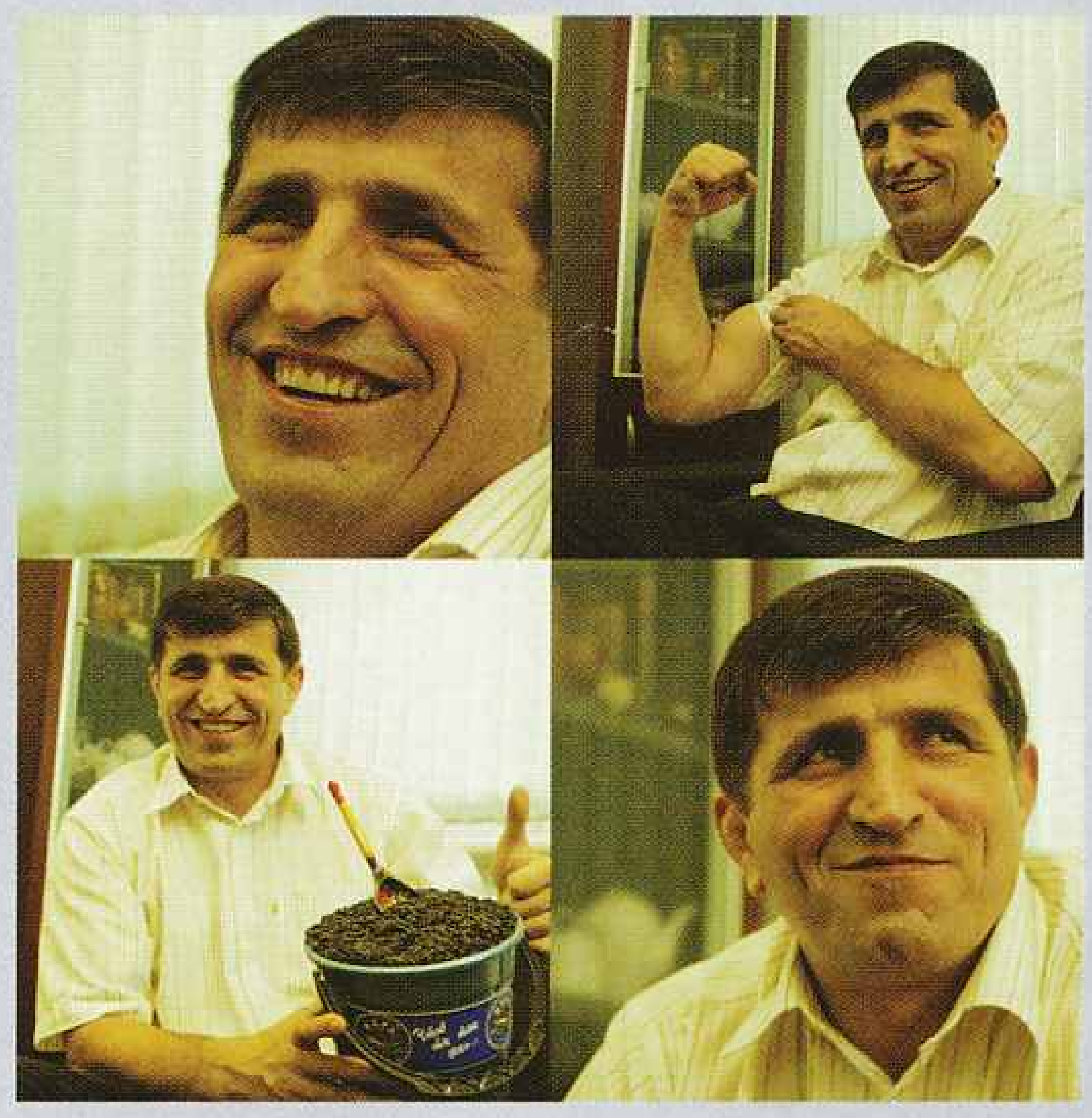
ハン　じゃあ、マエダさんに「ロシアに来て、ぜひ一緒に釣りをしましょう」と伝えておいてほしい。ロシアには川や湖がたくさんあるので、思う存分釣りができますとね。

―わかりました（笑）。それにしても、ハンさんと再びお会いできて嬉しいですよ。

パコージン（RTT総監督）　ハンはビジネスでとても忙しい身なのだが、今日はあなた方、日本の記者のみなさんが訪ねてくるということで、仕事に穴をあけてきてくれているんだよ。

―ありがとうございます！　では、今回は2002年2月にリングスが活動休止になって以来のインタビューですけど、この2年半どんな活動をしていたんですか？

ハン　リングスが終わってから私はまったく違う人生を歩み始めたんだ。それまでスポーツと共にあった私の人生が、それ以降、スポーツではなくビジネスを中心とした生活に大きく様変わりし、いまは、カザフスタンからロシアを経由して石油を輸出するビジネスをやっているよ。



―スポーツから離れたのは、やはりリングスが終わってしまったショックが大きかったからですか？

ハン　ハッキリとそう言ってもいいでしょう。私を含めたロシアの選手はリングスの活動に一生懸命参加していたので、これは我々にとって人生そのものだったんだ。それだけにリングスが終わったときのショックは大きく、悔しくて仕方がなかった。どうしてリングスが終わらなければならないのか、私にはまったくわからない。多くのファンに愛された立派な団体だったじゃないか。いまの『PRIDE』を見ても、トップファイターのほとんどがリングスで闘っていた選手であることでもそれは証明できるでしょう。だからこそ、いまでも悔しくて仕方がない。

―いま、かつてのリングス・ロシアはロシアン・トップチームと名前を変えて『PRIDE』で大活躍しているわけですけど、ハンさんもリングス活動休止後、『PRIDE』で闘ったり、コーチになったりしようとは考えませんでしたか？

ハン　当時の私にとってそういった選択をする気にはどうしてもならなかった。なぜなら、私が若い選手を育てたのは決して他の団体のためなんかじゃない。リングスの未来のために我々の後継者を作ろうと思ったんだよ。だから、そのリングスのための"水"を他人に飲まれるというのは、私にとってどうしても抵抗があったんだ。

―なるほど。それで一気に情熱が冷めてしまったわけですか。

ハン　目の前が真っ暗になり、しばらくは何もする気が起きないような感じだったね。だから、リングス最終戦となったあの日、「ああ、これは私にとってスポーツのお葬式なんだ」と思ったんだ。それぐらいショックだった。ただ、私のような老兵はともかく、若い選手には将来があるので、彼らのために『PRIDE』という新しいステージを用意してくれたパコージンには感謝している。そして、ビジネスが中心の生活になったとは言え、いまも私はロシアン・トップチームの一員であることに変わりはない。ビジネスも軌道に乗ったし、早ければこの10月にも一度、セコンドとして『PRIDE』の闘いをこの目で見てみたいと思っているよ。

―日本のファンもハン選手の来日を待っていますよ。

ハン　フフフ。（力こぶを見せながら）まだ力は衰えてないから、ファンが望むのなら、『PRIDE』に出てみたい気持ちももっているよ。

―では、まだ現役で闘う気持ちはあるんですか？

ハン　もちろん！　リングスは終わってしまったが、私は死ぬまで兵士であり、戦士であり続けるつもりだ。『PRIDE』はいまトーナメントの真っ最中らしいけど、誰がチャンピオンになるか待って、できればそのチャンピオンと闘いたいね。

―グランプリ王者に挑戦ですか！

ハン　年は取ったが私には他の選手にはない経験がある。私がリングスのトーナメントを2度制しているのを君は知っているだろう？

―もちろんよく知っています！（笑）。

ハン　しっかり準備をすればチャンピオンシップに相応しい試合をする自信もあるから、ゼヒやってみたいと思う。

―その相手はヒョードルや、ハリトーノ

フでもいいわけですか?
ハン　ヒョードルもセルゲイも私の弟子だよ。まったく問題ない。ヒョードルは私の道場に来て、初めて総合格闘技というものを学び、私とパコージン、それから多くのコーチのバックアップでトップ選手になったんだ。私はヒョードルをリングスのチャンピオンにするために、すべてを叩き込んだ。しかし、念のためにひとつだけ教えなかった技があるんだよ。もし、ヒョードルと闘うときがきたら、その技を使うつもりだ。

――弟子にも教えない秘密の技ですか! それはどういった技かこっそり教えてもらえませんか?

ハン　秘密なのだから教えるわけにはいかないよ(笑)。これはヒョードルだけでなく、セルゲイも同様だ。いくら弟子といえども私のすべてを教えることはない。男だったら誰でも、いつかは師匠を超えたいと思うものだ。でも、私だって弟子には負けたくない。だから、自分だけの技は残しておくんだよ。

――素晴らしい!(笑)。ところで、ヒョードルはいま「世界最強」の呼び声も高いんですけど、ハンさんはヒョードルがここまで強くなることは想像していましたか?

ハン　もちろん!(キッパリ)。彼が初めて私の道場に来たときから、「この男はものになる」と思ったんだ。だから彼に「お前は肉体的に優れているから、私の言う通りに練習すれば、日本でプロの選手として活躍できる」と言って、私のチームに迎え入れたんだよ。

――プロとして活躍できるどころか、チャンピオンになってしまいましたからね。

ハン　彼はそれだけの素質を持ち、かつ努力をしてたのだから当然と言えば当然のことだよ。そして彼は持ち前の粘り強さで、これだけ偉大な選手になったんだ。

RUSSIAN LIVING LEGEND

VOLK HAN



いまのところヴォルク・ハン最後の来日となった02年2月15日、第1次リングス最終戦。ハンは弟子であるヒョードルのセコンドについていた。今度は『PRIDE』のリングに弟子を送り込んでほしいものだ。

――ロシアの選手はかつて、なかなかブラジルの選手に勝てませんでしたけど、ヒョードルはブラジル人選手に一度も負けたことがないんですよ。彼は他のロシア人選手とどこが違うのでしょうか?

ハン　ヒョードル以前にも、イリューヒン・ミーシャ、グロム・ザザ、そしてアンドレィ・コピィロフが強豪ブラジル人選手に勝っているが、たしかに対戦成績はかなり負けが込んでいた。ただ、それは我々がブラジル人より技術的、体力的に劣っていたのではなく、ひとえに経験の差だったと思う。彼らはバーリ・トゥードという闘いに慣れていたが我々にとっては未知のスポーツだったから、その知識の差は歴然だった。しかし、私たちは試合に負けるたびに研究し、ブラジル人に勝つための練習を繰り返した結果、やっとヒョードルの世代で立場を逆転することができたんだ。

――これまでの研究と努力の成果が、ヒョードルで花開いたということですね。

ハン　その通り。そして、私はヒョードルが頭角を現す以前から、近い将来ブラジル人を倒すことができると確信していた。なぜなら私は4年前、40歳のときにノゲイラと試合をしたが、実際に闘ってみて「ブラジル人は言われるほど強くない」と感じたんだよ。

――ノゲイラ戦でブラジリアン柔術家の力を見切りましたか。

ハン　もちろん彼らが素晴らしい格闘家であることには違いない。しかし、彼らの多くは我々ロシア人と比べて、身体能力やパワーで明らかに劣っているし、テクニックについてもズバ抜けたものを持っているわけではない。だから私は弟子たちに「私



RUSSIAN LIVING LEGEND

VOLK HAN

は40歳だったから判定負けになってしまったが、お前たちは若くそして強い。絶対にブラジル人に勝てる。何も恐れることはない」と言って聞かせたんだ。ましてやノゲイラと闘ったとき、私は40度の高熱を出していたんだからね。

——では、そのとおりヒョードルがノゲイラに勝ったときどう思いましたか？

ハン　当然のことだと思ったね。だから、私はノゲイラ戦のためにヒョードルが飛行機で発つ前に電話で言ったんだ。「お前は必ずノゲイラを倒せる。自信を持って闘え」とね。そして、そのとおり彼はノゲイラを倒した。だから試合後、ヒョードルは「先生、あなたの言う通りでした」と日本から私に電話をかけてきたよ（笑）。

——ヒョードルからそんな電話がありましたか（笑）。

ハン　ただ、いま私は簡単に勝ったように話してしまったが、そこまでの道のりは決して平坦じゃなかった。ヒョードルがノゲイラを倒すために、チームを挙げて彼をバックアップし、彼もその練習によく耐えたからあのような結果が残せたんだ。

——まさにチーム一丸となっての勝利だったわけですね。

ハン　そのとおり。モスクワの人たち、エカテリンブルグの人たち、トゥーラの人たちみんながヒョードルのために一つになったんだ。

——それだけバックアップをしたヒョードル選手が、昨年末チームを抜けてしまったことについてどう感じましたか？

ハン　非常に惜しいことだ。ヒョードルにはみんなの〝心〟を入れていたからね。その心が離れてしまったということが残念でならない。しかし、彼の決断というものは尊重しなければならないと思う。彼も成長

ハリトーノフはすでにノゲイラを倒す力を持っている。もう彼を止めることはできないよ

し、一人前になったことで新しいものが見えてきたのだろう。ましてや彼は世界チャンピオンなのだから、もっと広い世界、新しい世界で自分の力を試してみたい、そしてもっと大きな成功を手に入れたいと思うのは当然だ。だから彼が我々の元を去ったということは悔しかったが、彼の選択というものは尊重しているし、チームを去ったとはいえ、同じロシア人として、彼のさらなる活躍を願っているよ。

――ボクらもリングス時代から思い入れがあるだけに、ヒョードルの離脱は残念だったんですけど、そのあとすぐにハリトーノフという強い選手が出てきたところに、RTTの底知れない凄さを感じましたよ。

ハン　そこが我々の強みなんだ。RTTはロシア・サンボ連盟と強い結びつきを持っているので、日本行きを希望している強豪がゴロゴロしている。そういった選手を準備するには3ヶ月もかからないよ。

――たった3ヶ月で『PRIDE』デビューできますか！

ハン　ああ、できる！　例えばいま我々はスレン・バラチンスキーという選手を準備しているが、彼はおそらく10月には『PRIDE』に出場できるだろう。

――かつてリングスに1度参戦した元サンボ世界王者ですね。

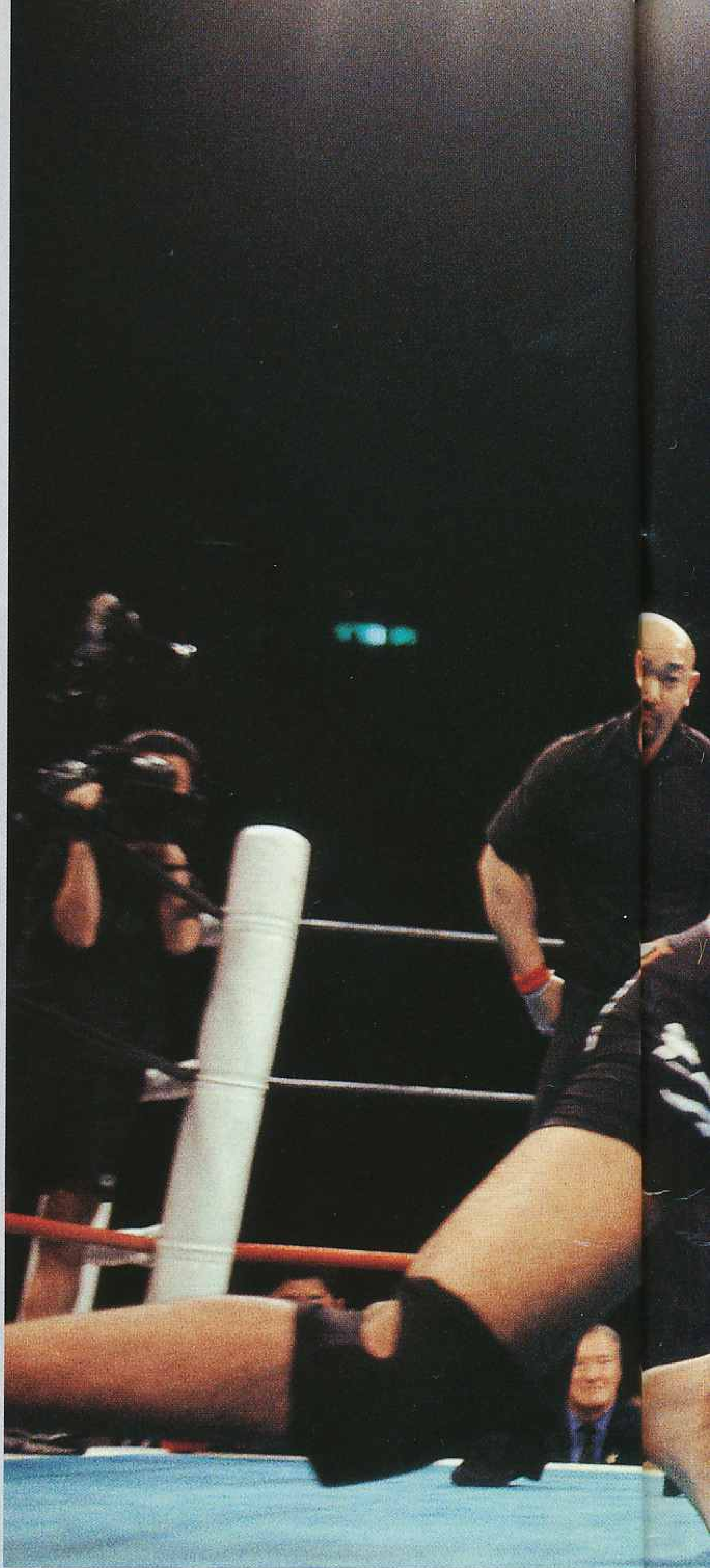
ハン　そう。彼はサンボ世界選手権に2回優勝という輝かしい実績を残しているし、才能にも大変恵まれている。これから『PRIDE』に向けた練習をしっかり積めば、必ずヒョードル以上の選手になれるだろう。なんといっても、バラチンスキーはかつてサンボの大会で2度ヒョードルと対戦し、2度とも勝っているからね。

――あのヒョードルに2戦2勝ですか！

ハン　それだけじゃない！　柔道でも、つい最近までオリンピック強化選手に入っていたんだ。不運なことにヨーロッパ選手権で古傷のヒザを怪我してしまったので、アテネには行けなくなってしまったが、治療を終えてから練習を再開して、10月に『PRIDE』デビューさせたいと思う。そのときは、私もセコンドとして日本に行くつもりだ。『PRIDE』に新しい1ページが開かれる瞬間を楽しみにしていてほしい。

――それはホント楽しみですねぇ。ただ、ハン選手は10月ではなく、8月にハリトーノフのセコンドとして来てほしいんですけど（笑）。

ハン　私もハリトーノフの応援に行きたいのは山々なのだが、9月までは仕事のスケジュールが詰まっていて外国へ行くことができないんだ。だから、8月はハリトーノフ、ミーシャ、ズーエフが行って、10月に私とバラチンスキーが行くことになるだろう。我々は負けるために日本に行くわけではなく、勝つために行きたい。だから、ハリトーノフとバラチンスキーが『PRIDE』で素晴らしい闘いを見せられるように、私もがんばるつもりだ。



2000年、「私はマエダの兵隊だ」の名台詞と共に40歳にしてＫＯＫ初出場をはたしたハンは、見事決勝トーナメント進出をはたし、ノゲイラと対戦。判定で敗れたものの、16歳年下の若き柔術王と最後まで闘い抜く姿はファンの感動を呼んだ。

――ハン選手は、いまのハリトーノフ選手の活躍はどのようにご覧になっていますか？

ハン　私は信心深い人間なので、あまりいいことは言いたくないのだが、いま私は彼とヒョードルが決勝で闘うという夢を見ている。特にハリトーノフは若いので、技術がどんどん上がっているし、スポーツマンとして粘り強くなった。そしてなによりヒョードルと違い経験豊富なコーチが周りに揃っているので、ヒョードルよりも簡単に『PRIDE』で活躍できるんじゃないかと期待しているよ。

――いまハリトーノフ選手はハン選手と同じロシア軍空挺部隊ということで、一部では〝ヴォルク・ハンの再来〟とも言われているんですよ。

ハン　私がプロになったのはときすでに30歳だったが、彼はまだ24歳だ。私よりもっともっと強くなれるだろう。私のファンだった人たちもセルゲイを私だと思って応援してやってほしい。

――そのハンさんがかつて所属し、いまハリトーノフ選手がいるパラシュート部隊というのは相当厳しいらしいですね？

ハン　大変厳しかった。いまもそうだろうが、旧ソ連軍のパラシュート部隊というのは、世界でも有数の厳しさだと思う。まず、部隊に入る前に兵隊を育てる準備機関があるんだが、そこでは特に厳しい訓練

タムラからオファーがあれば喜んで受ける。リングスの素晴らしさを見せようじゃないか

を受けたよ。

——僕らにはちょっと想像もつかないんですが、一番厳しかった訓練とはどんなものでしたか？

ハン　すべての訓練が厳しく過酷だったが、やはり飛行機からパラシュートで落ちる訓練が難しかった。というのは、ただ飛び降りるのではなく機関銃を始めとして、何十キロもの武器を持って、大きく左右に揺れる飛行機から飛び降りるわけだから、毎回命がけの訓練なんだよ。

——一歩間違えたら命を落としかねないわけですね。で、そのパラシュート部隊にいたときにコマンドサンボも身につけたわけですか？

ハン　コマンドサンボは軍隊のトレーニングのひとつだったから、別に私は学びたくて学んだわけじゃないが、身につけることができた。しかも、ちょうどそのときアフガニスタンの戦争のために白兵戦についての訓練は特に力を入れて行われていたので、そういった影響もあるね。

——ハン選手もそのときは戦地に赴いたわけですか？

ハン　いや、もちろん私も兵士として戦場で闘いたかったが、私はイスラム教徒なので、アフガニスタンへの戦争では行くことができなかったんだ。しかし、戦地にいかなかったことで、より訓練する時間が増えたので結果的に白兵戦での技術が上がることになったよ。

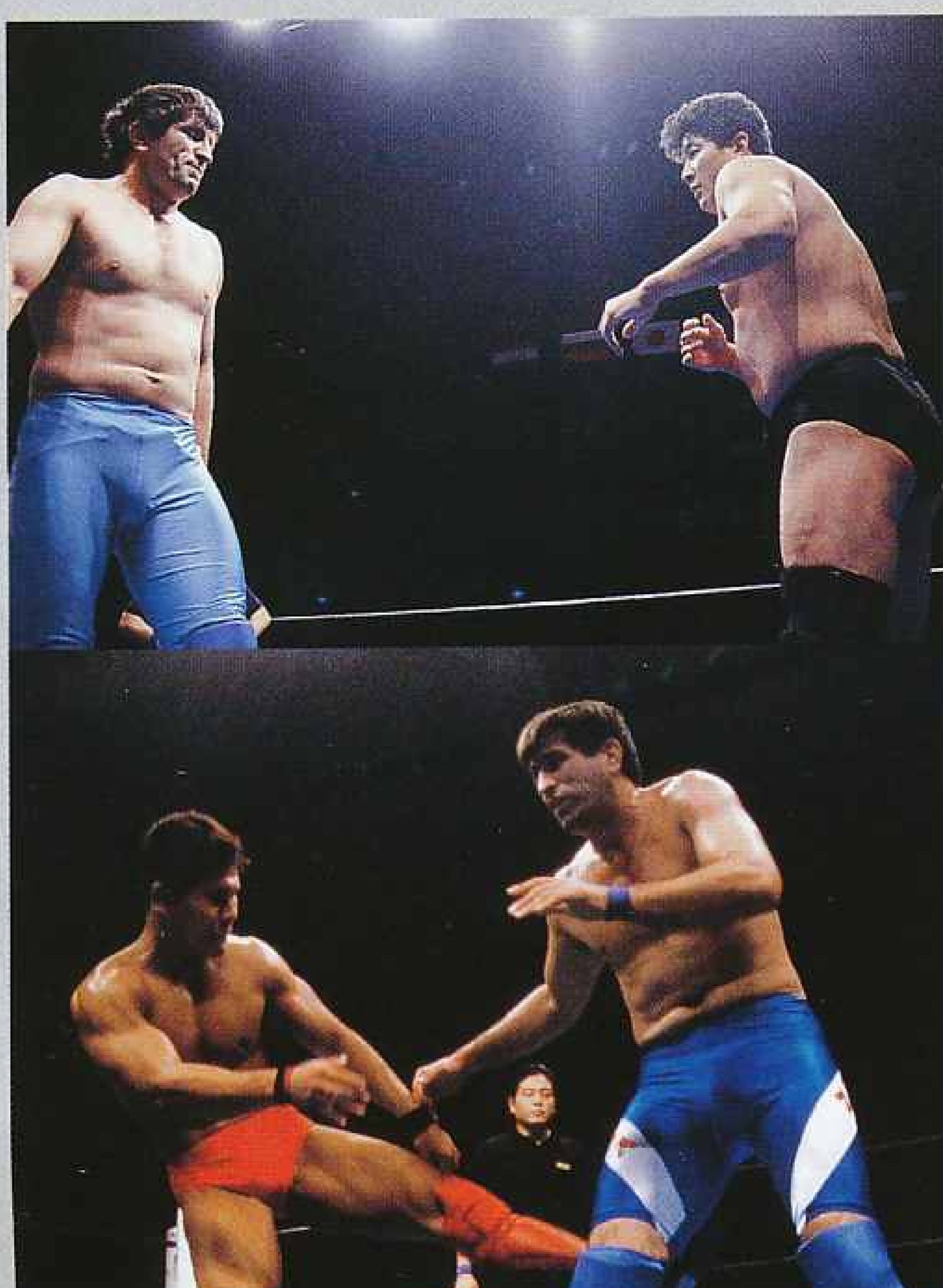
——さきほどサンボ連盟の会長にお話を伺ったとき、「軍隊のサンボは人を殺す技術」と言っていたんですけど、やはりハン選手もそうした技を身につけたわけですか？

ハン　もちろんそれが訓練の一環だからね。コマンドサンボというのは競技ではなく、本当は武器を持った相手を特別な技を使って殺す技術なんだよ。詳しく話すことは残念ながらできないが、機関銃だけでなく、ナイフやロープ、ベルトやシャベルなど、身につけているものすべてが相手を殺すための道具となるんだ。

——では、ハン選手がリングスで見せていた鮮やかな技の数々がコマンドサンボの技というわけではないんですね？

ハン　もちろんコマンドサンボの一部ではあるが、私のテクニック自体がコマンドサンボというわけではない。私はサンボだけでなく、レスリング、コマンドサンボ、柔道のエキスパートでもあるから、身につけた多くの技を合わせて使っていたんだ。

——でも、実際に戦場で使うコマンドサンボというのは、やはり殺しの練習をするわけですよね。もちろんリング上で武器を使うことはできませんが、そういった経験はリングに上がっても大きな効力を発揮しますか？



リングス10年間で数々の名勝負を残してきたハン。特に前田日明、田村潔司との一連の闘いは、毎回ファンを熱狂させた。U-STYLEのリングで田村戦がもう一度見たい！

RUSSIAN LIVING LEGEND

VOLK HAN

ハン　軍隊でのコマンドサンボの訓練は技術的なことはもちろん、精神的な力が鍛えられるんだ。たとえばパラシュート部隊の訓練でひとつ例を挙げると、我々は長期訓練の途中で生きたままのカエルを食べて行軍する。

——生きたままのカエルですか！

ハン　生きたままのカエルというのは、一般の人にとってはとても食べられたものではないと思うが、我々は戦場で生き抜くために当然のように食べる。そして、それは心を鍛えているので問題ないんだよ。

——ということは、同じパラシュート部隊であるハリトーノフ選手の精神力もかなりのものがありそうですね。

ハン　彼は優秀な軍人なので心が強いのは当然だよ。しかも、彼はサンボの技術に優れ、ボクシングのテクニックも持っている。そして今回のGPのために、セルゲイはエカテリンブルグのズーエフの道場へよく行っているんだ。そこには特別な技術を教えられるコーチがいるので、そういった技術も修得しつつある。だから、いまのハリトーノフはノゲイラさえも倒せる力があると思っているんだ。そして、なにより彼はプロのリングで勝つ味を覚えてしまったから、もう止めることはできないよ。

——それは期待が高まりますねぇ。今回の『PRIDE・GP』にはヒョードル、ハリトーノフの他にノゲイラと小川直也選手もベスト4に残っていますが、彼らについてはどのように見ていますか？

ハン　ノゲイラについては私から改めて言う必要もないくらい大変経験豊富な強い選手で、ファンなら誰もがご存じでしょう。しかし、オガワ選手は柔道においてそれ以上の経験がある。だから私はノゲイラを必要以上に恐れなければ、オガワ選手が勝つ可能性は高いと思うんだ。

——ヒョードルがノゲイラと闘ったときと同様、精神的に負けなければ勝てると。

ハン　そう。これだけハイレベルな闘いになると、精神的な問題が非常に大きくなってくる。心で負けなければノゲイラに勝つだけでなく、彼がチャンピオンになる可能性もあるんじゃないかな。

——では、残った4人の中でズバリ優勝は誰になると思いますか？

ハン　こればかりは4人全員にチャンスがあるとしか言えないね。4人とも非常に強い選手です。誰もが勝つ可能性、負ける可能性がある。運も左右するでしょう。だからこそ私はゼヒ、セルゲイに幸運が訪れることを祈っています。ところで、コーサカはまだ頑張っていますか？

——高阪（剛）選手ですか？　はい。試合数は少なくなっていますが、まだまだトップクラスの実力者としてがんばっていますよ。

ハン　まだアメリカにいるんですか？

―いえ、もう日本に帰ってきて、自分でジムを開いています。

ハン　私が知る限り、コーサカこそ『PRIDE・GP』のようなハイレベルな闘いに出場してほしい素晴らしい選手だと思う。私は彼が強くなっていく過程をすべて見てきたが、彼は努力家であり研究熱心であり、そして大変な人格者だ。彼のような選手を生み出したということは、リングスの大きな功績と言えるでしょう。

―ハン選手と高阪選手の試合も素晴らしかったですよね。

ハン　私にとっても彼との試合は喜びだった。いつも闘うたびに新鮮な驚きに満ちていて、ファンにも喜んでもらえたのではないかとう。それからタムラ（田村潔司）はどうしてますか？

―田村選手はU-STYLEという、初期リングスのルールを使った団体を自分で作って、『PRIDE』と旧リングススタイルのどちらもやっているんですよ。

ハン　おお、それは素晴らしい！　そういったことなら、タムラによろしく伝えてほしい。私は専門家として、いつでも手伝う準備があるとね。

―それはもうゼヒ伝えます。田村vsハンの芸術的な一戦はボク自身もう一度見たいですから。

ハン　もしそういったオファーがあるのなら私は喜んで受けるよ。タムラと一緒にリングス・スタイルの素晴らしさを見せつけようじゃないか。私はまだ30分間休憩なしで闘い続ける自信がるからね。

―30分フルタイムやりますか……いやぁ、めちゃくちゃ見たいです！

ハン　それからヤマモト（山本宜久）はどうですか？　彼はリングス・ジャパンの中では非常に毛色の違った人だった。日本の選手は緻密なテクニックを持った選手が多かったが、彼は大胆というかミステイクが多い選手だったからね（笑）。

―よく見てらっしゃいますね（笑）。

ハン　カクダ（角田信朗）とサタケマサアキ（佐竹雅昭）は？

―2人とも引退して、角田さんはK-1の競技統括プロデューサーに、佐竹さんは自分の道場を持って空手を教えています。

ハン　そうですか。私はカクダやサタケともゼヒ試合がしたかったのだが、ついに実現しなかったのが残念だ。彼らのような日本の空手家とぜひ一度手合わせしたかったのだけどね。

―ハン選手は10年間でいろんな名勝負がありましたけど、ご自身がリングスで一番印象に残っている試合と言えばなんですか？

ハン　私はリングスの試合に出るとき、常に自分の一番いい技を見せようと心がけていたので、どれも印象に残っている。ただ、やはり初めてリングスに出場したとき、あのときの興奮はいまでも強く心に残っているよ。

―91年12月に前田さんとやった試合ですね。



13年前にマエダと初めて闘ったあの日から私はリングスの虜になってしまったんだよ

ハン　そう。私にとって、あんなに大勢のお客さんの前で試合をするのはもちろん初めてだったし、外国に行くことさえ初めてだったから、ファンの声援を受けながら闘うということがこれほど素晴らしいことなのかと、そのとき初めて知った知ったんだよ。だからあの日、私は残念ながらマエダさんに負けてしまったが、本当はもっともっとあと1時間でも2時間でも闘っていたかった。それぐらい私にとって素晴らしい体験だったし、私はあの日からリングスの虜になったんだよ。

――あの前田戦の感動が、ここまで総合格闘技を続ける原動力となったわけですね。

ハン　それ以来、私は幸せな選手生活を送れたと思うが、ひとつだけ悔しいことがある。なぜ、なぜこんなに早く年を取ってしまったのか、もう少し年が若ければ、日本の皆さんの前でもっともっと試合ができたのではないかと思わずにいられないんだ。私は30歳でプロになり、そして40歳のときにリングスが終わってしまった。10年という月日はこれほどまでに短いものかとつくづく思わずにはいられない。

――ハン選手にはまだまだ闘ってほしいですよ。

ハン　（ケータイの液晶画面に映る子供の写真を見せながら）これは私の息子です。次男でまだ小さいですが、彼が何年かあとに私の夢を受け継いでくれることでしょう（ニッコリ）。

――ヴォルク・ハンJr.のデビューですか！（笑）。

ハン　（今度は上半身裸のハンの写真を見せ）これは、そのオヤジが日本で試合をするために準備中の写真。"彼"もまだまだやる気はあるみたいだよ（笑）。

――そっちも非常に楽しみです（笑）。

パコージン　では、そろそろインタビューは終了でいいかな。ハンはもう仕事に戻らなければいけない時間だ。

――あ、そうなんですか。じゃあ、最後に聞きづらいことなんですが、ひとつ聞かせてください。ハンさんが一昨年、逮捕されたという話を聞きました。心配しているファンもいるので、なにがあったか話していただけませんか？

ハン　わかった。私は日本のファンにウソをつきたくないので、正直にすべて話そう。確かにあなたが言うとおり、私は逮捕され、4ヶ月間拘置所ですごした。しかし、私は何の罪もおかしていないので、何一つ罰せられずに自由になり、そしていま私の弁護士たちは、逆に私が4ヶ月間ビジネスができなかったことに対する賠償請求の裁判を起こしている。



RUSSIAN LIVING LEGEND

VOLK HAN

本名・カムザトキノフ・マゴメッドハン。1961年4月15日、ロシア・北コーカサス出身。リングスが生んだ最高傑作と呼ばれる格闘芸術家。91年リングスに初来日、複雑怪奇な関節技の数々でコマンドサンボ旋風を巻き起こす。コーチとしてもヒョードル、アターエフ、ハリトーノフを育てるなど、その手腕には定評がある。再来日熱望！

――いったい何があったんですか？

ハン　簡単に言えば、あれは政治絡みの事件だった。いまユーコスという石油会社のコドルコフ社長は裁判にかけられているが、規模こそ違うにしろ、それと同じことが私にも起こったんだ。当時、私はエリツィン元大統領の派閥の候補であるコルジェコフ氏を支持し応援していたのだが、彼の対抗候補陣営が私がコルジェコフ氏を支援しないよう罪をでっちあげ、私を逮捕させたんだよ。なぜこんなことが起きてしまうかと言うと、信じられないかも知れないが、まだロシアという国は法律が"ない"と言ってもいい部分がある。特にそれは選挙のときに顕著になってしまうんだ。影で様々な不正が行われ、不当逮捕が繰り返される。私もそれに巻き込まれたんだよ。

――それが原因で日本に来れなかったということはあるんですか？

ハン　いや、直接事件が関係したということではない。ただ、残念ながらこの逮捕という事件は、私のビジネスにも大きな影響を与えたので、そういった危機を脱出するまではスポーツには力が注げない状況だったんだ。しかし、あれから1年以上が過ぎ、もうその影響もだいぶよくなったので、これから私は再びスポーツにも力を注ぎ、まずはパラチンスキーが今年中に『PRIDE』でデビューできるようにがんばりたいと思う。だから、もし心配しているファンがいるなら、「何も心配いらない」と伝えてほしい。

――わかりました。こんなことまで話していただいて、ありがとうございます！　では、また今度は日本でお会いできることを楽しみにしていますよ。

ハン　私も再び日本のファンの皆さんに会える日を楽しみにしているよ。日本では長い間頑張ってきたが、リングスでの10年間はすべて思い出として私の心に残ってる。ファンとのお互いに尊敬し合った関係を私は生涯大事にしたいので、必ず近いうちに日本へ行くことを約束しよう。ぜひそれを日本のファンにお伝えください。

――わかりました！　必ずお伝えします。

ハン　では、私はビジネスがあるので、このへんで。ドーモスイマセン！（ニッコリ笑い元気よく立ち去る）

【04年7月26日／モスクワ・ロシアサンボ連盟会長室にて収録】

リングス活動休止以降、スポーツ中心からビジネス中心の生活になったというハン。インタビュー中もケータイが何度もなり、忙しい日々を送っていることがかいま見られたが、身振り手振りを交えながら笑顔で話すその姿は以前とまったく変わっていなかった。ハンはやっぱり元気だ！　10月にその姿が日本で見られることを期待しよう！

独占スクープ!!

ロシアン・トップチームの秘密兵器
10月『PRIDE』襲来か!?

"ヒョードルをサンボで2度破った男"

スレン・バラチンスキー



見てみ、この身体!

伝説のプロレスラー、ジョージ・ゴーディエンコを思わせる、この凄まじい肉体の持ち主こそ、ロシアン・トップチームの秘密兵器、スレン・バラチンスキーだ。

かねてから関係者の間で〝ヒョードル以上の逸材〟と言われてきたバラチンスキーだが、それもそのはず、かつてサンボでヒョードルを2度に渡って破ったことがあり、世界選手権も2度制したサンボの強豪中の強豪なのである。

そんな彼の経歴を簡単に紹介しよう。まず9歳でサンボを始め、11歳でサンボ専門学校『サンボ70』に入学。在学中8年間で、数々の大会を制覇。サンボだけでなく柔道でも全ロシア選手権優勝。そして、つい最近まで、麻薬取り締まり局の警察官をする傍ら、柔道のオリンピック・チームに入っていたロシア・スポーツ界の、エリート中のエリートなのだ。

こんなすさまじい経歴を持った男が、いまヴォルク・ハンの指導を受けて『PRIDE』参戦の準備に入ったというのだから、これは期待せずにはいられない。

ただ、リングスのファンはご存じのとおり、実はこのバラチンスキー、かつて一度、鳴り物入りでリングスKOKに出場しながら、ヴァレンタイン・オーフレイムのローキックで古傷のヒザを負傷。残念ながらTKO負けとなり1回戦で姿を消してしまった過去があるのだ。

RTTパコージン総監督は、このときの敗因を「当時、サンボ連盟会長だったチホミロフ氏はリングスや総合格闘技のことがまったくわかっていなかったから、ほとんど準備もさせずに参加させてしまったため」と言う。

しかし、現在の会長であるエリセーエフ氏は総合格闘技に理解があるので、準備に怠りはない。早速、ミーシャ、ハリトーノフとの練習をスタートさせ、そこにヴォルク・ハンも加わりバラチンスキー育成に力を入れているという。

類い希なる素質と、サンボ、柔道での確かな実績、そしてロシアン・トップチームのバックアップ体制がひとつになり、もしかしたら、とんでもない実力を発揮するのではないかと期待せずにはいられない。

バラチンスキー本人も、「力がなければ(『PRIDE』に)行きたくないが、私は自分に力があると思っているので『PRIDE』に参加したいと思う」と、堂々参戦宣言。

はたして〝『PRIDE』の新しい扉を開く男〟のデビューXデーはいつになるのか?

まずは正式発表を待て!



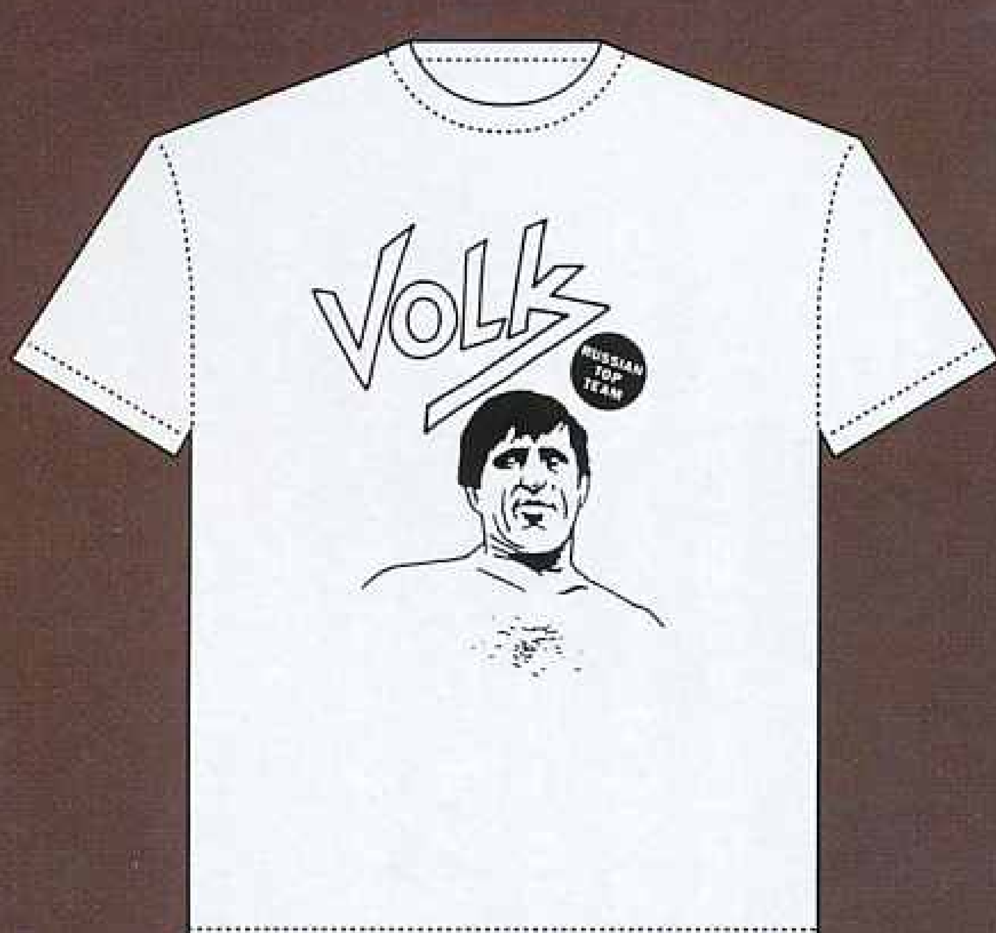


購入方法は
P160
参照!

V・ハンもニッコリ
早くも人気大爆発!

RTT公認

ロシアン・レジェンドシリーズ



ヴォルク・ハンTシャツ〈ホワイト〉
¥3,990［S or M or L or XL］



コピィロフTシャツ〈ホワイト〉
¥3,990［S or M or L or XL］



ミーシャTシャツ〈ホワイト〉
¥3,990［S or M or L or XL］

言うちゃ悪いけどI編集長怒りの直言！

曙のオッサンにK-1は無理！

それでもK-1ルールにこだわると言うのなら……

谷川、お前が相手せい!!



7・17 K-1ソウル大会
7・19 PRIDE武士道をブッタ斬る!!

プロレス・マスコミの哲人・I編集長の

喫茶店トーク V（バード）

PROFILE
井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けた人間は数知れない。バード（VTの意）、〝殺し〟など、破天荒なI用語を次々と生み出している。



言うちゃ悪いけど怒りの直言！　先月に続いてI編集長がガッチガチに怒った!!　I提言をまったく受け入れない『PRIDE』&K-1の二大メジャーに、再び言葉の鉄槌を振り下ろす（ドン）。残念ながらクリチコは登場しませんが、今月も絶好調のI編集長なんだよな!!

聞き手／堀江ガンツ　構成／ジャン斉藤　design by さおとめの事務所

——さて、井上さん。今回の『喫茶店トークV（バード）』は、曙がアジアGPに参戦したK—1韓国大会について伺わせてください。

井上 ま、K—1の韓国大会は言うまでもなく曙に尽きるわけだよ。

——舞台裏のドタバタ劇を含めて、やっぱり曙に尽きますよね（笑）。

井上 曙がトーナメントに出るとなった時点でやね、あ〜んなブザマな試合になることは誰だってわかってるんだよな！（ドン）。

——誰でもわかりましたか！

井上 当たり前ですよ、アンタ!! トーナメントに出ると聞いたときは、言うちゃ悪いけど、アホかと思ったわ！

——井上さんからすると、闘う前から結果が見えていたわけですか？

井上 これがノゲイラが出るというんだったら話は別ですよ。あの男はキックやパンチを知ってますからね。でも、あの曙にトーナメントは無理に決まってるんだよ!!

——K—1未体験のノゲイラのほうがまだ対応できますか（笑）。

井上 俺も散打の選手がどれぐらい強いとか、ムエタイの選手が勝ち上がるとは思わなかったけど、直感として、曙のオッサンにトーナメントはもたんと思うてたわ、あれ！

——一回戦で負けちゃいましたが、あの一試合だけでいっぱいいっぱいでしたよね。

井上 だいたいね、K—1ルールでやらせること自体が、も〜〜〜〜う無謀ですよ、これ！ 呆れて声も出んわ!!（大・絶・叫）。

——ま、毎月のことですけど、鼓膜が破れそうです、井上さん。

井上 （無視して）この〝大阪のバカ〟が前から言ってたじゃないか。「曙の試合はプロレスのルールを大胆に取り入れた変則マッチをやれ」と！ もう何回言わせるんだ！

——井上さんは曙がデビューする前からそう言ってましたよね。

井上 そう言ったときは「井上さん、アンタはアホか！」と大笑いされたもんだけど、曙とサップを活かすためには、プロレスルールを取り入れないと絶対にダメ!! もう谷川の旦那も角田のおっさんも目を覚ましてくれなきゃいかん！

——そろそろI提言を受け入れてくれ、と。

井上 またK—1ルールで闘わせたら誰も見ないですよ。だいたいK—1ルールじゃ勝てるわけないんだから！


中国・散打王者のヒット＆アウエーに手も足もでなかった曙。コメントブースで不甲斐なさを指摘する韓国のマスコミに「リングに上がってやってみればいい」と喰ってかかる一幕も。

いくら曙やサップでも、谷川の旦那だったらK—1ルールで勝てるわ！

——圧倒的な勝利を想像できないですよね。

井上 曙は散打の選手がヒット&アウェイの掛け逃げでズルイとかワーワー言うてますけど、そういったルールがある以上は文句は言えないのであってね。

——ルールに則って闘ってるだけですからね。

井上 K—1の試合はK—1ルールでやるの！ K—1のトーナメントを相撲のルールでやったことがあるのか？ ないわ、ほんなもん!! トーナメントは純然たるK—1ルールでキチンとやらなくちゃいけませんよ。ただ、それ以外は、俺に言わしたらすべてスペシャルマッチとして考えなさいと。K—1ルールにプロレスのルールを被せて、たとえば反則カウントを5つまで認めて、コーナーの上から飛ぶことを許可するとかね。もうぴょんぴょん跳ぶわけだ！

——空飛ぶK—1マッチ！ でも曙には不向きです（笑）。

井上 両手で相手をつかまえていいルールにするとかね。そうすれば、この前の試合も曙は勝ってたと思うんだよ。

——曙はまわしを掴む勝負をずっとしてきたわけですからね。

井上 相撲取りは蹴って殴ることをやってないんだからね。言うちゃ悪いけど、曙が練習しとったスペシャルパンチが全然やれなかったのは、当たり前の話なんだよ、あれ！

——「おっつけパンチ」という一撃必殺のパンチのことですね。

井上 練習でサンドバッグ相手にやっても、実際の試合では、生きてる人間が相手なんだから。「いまからスペシャルパンチや！」「バ〜ン!!」「ほいほい、動かないで待ってるで〜」「KO！」でバンザ〜イ〜！ って、そんなわけあるか!!（ドン）。

——井上さんがまさかのノリ突っ込み！ それほど怒ってるんですね（笑）。

井上 サップもハイキックがどうたら言うてましたけど、谷川の旦那にはたいへん申し訳ないけど、あんなことを教えたところでモノになるわけがない！

——たしかにあおりビデオでは毎回出ていますが、実戦では1発も出たためしがなかったですよね。

井上 スミヤ（バザル）のおっさんにしてみてもできるわけないんだ。炭を焼くこと以外やってないんだから。

——ガハハハ！ 井上さん。それ、名前が「スミ」にかかってるだけですよ（笑）。

井上 じゃあ、スミヤのおっさんは試合で何をやってたんだよ!?

——まあ、構えてただけですよね。

井上 構えるだけなら、俺でもできるぜ！ 言うちゃ悪いけど。俺のことだから肋骨とか足の一本も折れるけども、あの程度でウン百万円もらえるんだったら、俺だってK—1に参戦するわ！

——ガハハハ！ 嬉々としてリングに上がりますか（笑）。

井上 も〜う、やってやりますよ、アンタ!!

あの程度でウン百万円も貰えるなら俺だってK—1に参戦するわ!!

喫茶店トーク

誤解しないでほしいけども、俺はK—1の悪口を言いたいわけじゃないんだよ。俺は谷川の旦那とは顔馴染みだし、「よう!よう!」の仲や。何回も話したことがあるし、原稿も頼まれたこともある。角田のおっさんとは面識がないから話したことはないけどね、非常に一本気の純粋でいい男だよ。だからあの2人に対してワーワー言ってるけど、俺は心の中でスマンと謝ってるんだよ。文句は付けたくない部類に属する2人だからね。逆に『PRIDE』には榊原の旦那や、高田とか笹原のアンさんがおるけどやね。あの連中とはあまりしゃべったことないから、『PRIDE』の連中のやることに対して、俺はズバーッと言えるんですよ。

——K—1にも毎月ズバズバ言ってる気がしますけど……（笑）。



アジアGPには朝青龍の実兄スミヤバザルがなぜかエントリー。子安のテクニックの前に為す術なく、一回戦敗退となった。

井上 （無視して）そんな俺でも、もう言わせてもらうわ! あの2人が仕切ってるK—1はあんまりにもやることなすこと俺の考え方と違う! 他のプロ格者が「編集長、いまのK—1でいいと思いまっせ」と言うんだったら、俺もワーワー騒がないだんけども、俺が言ってることにプロ格者は「そうや!」と言いながら、拳をゴーゴー突き上げてる現実があるわけだよ!

——プロ格者集団にはそんな運動が! たしかに、K—1の興行があるたびにファンは文句を言っている現状はありますね。

井上 俺にもガタガタ言わせるなと! 同じことを何ッ回も言わせるんだよ、もう!!（ドン）。曙やサップ、スミヤのおっさんやアマゾンの大ウナギ（モンターニャ・シウバ）とかね、あの連中がええ加減でブザマな試合をやってるからブツブツ言ってんだよ。あれほどの逸材がなぜブザマな試合になるかと言ったら、やっぱりそれはルールですよ。K—1ルールで闘わせるからダメなんだよ。

——井上さんが宇宙で一番、評価しているモンターニャもバタービーンとK—1ルールで闘ったら、思いのほか凄みは発揮できませんでしたね。

井上 あれにしたってK—1MMAルールだったら面白い試合になってたぜ。名古屋での『PRIDE武士道』にしたって、（ジャイアント・）シルバがこん棒を持って大暴走したけども、あれもルールがルールなら暴走でも何でもないんだよな。

——というと、こん棒を持ってもいいルールにすべきなんですか?

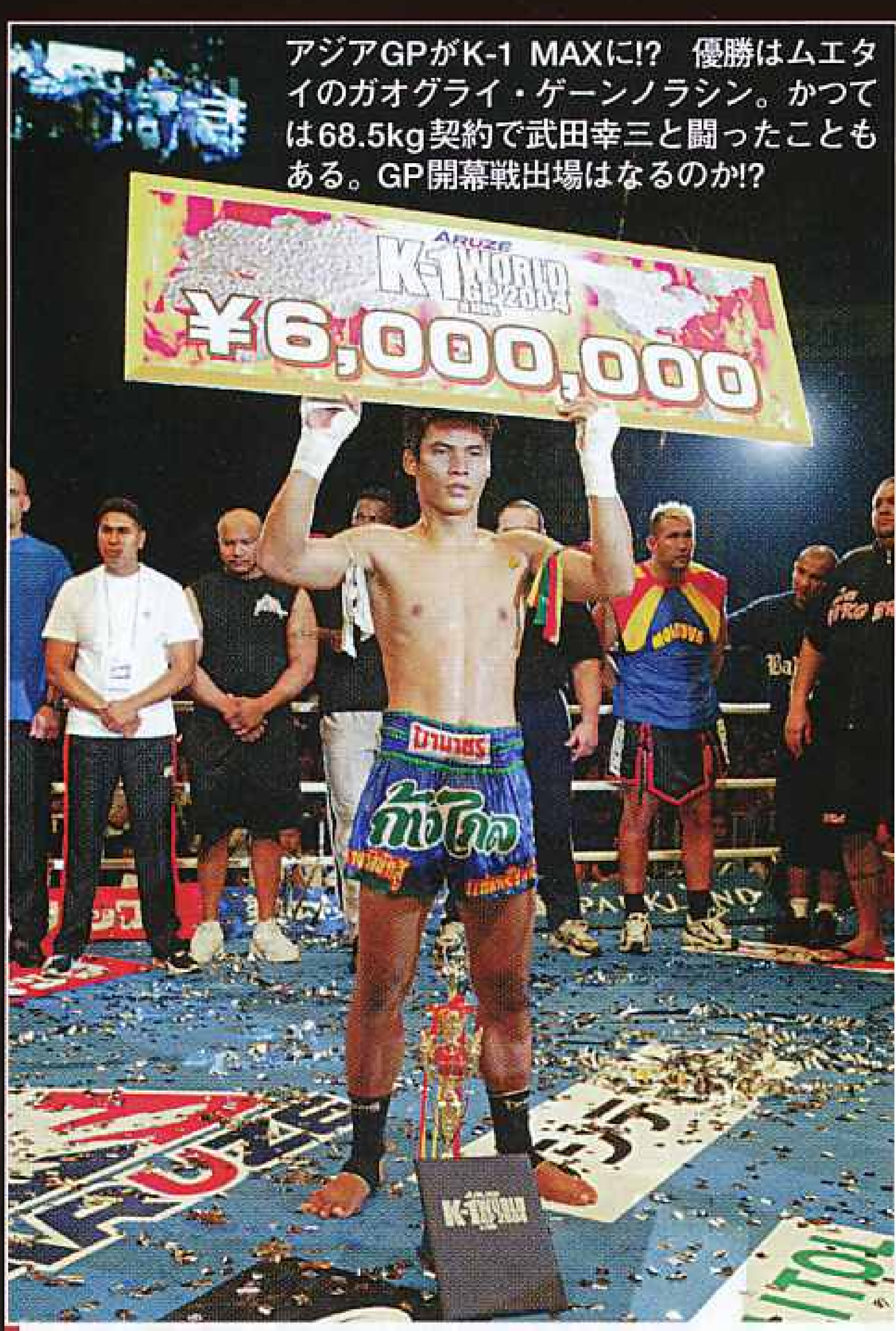
井上 みなまで言わせるなって!!（ドン）。

——ガハハハ! 武器使用マッチですか! たしかに『武士道』らしいですね（笑）。

井上 かつて大仁田（厚）がデスマッチだなんだといろんなことをやったときに、みんな大仁田を非難したけども「反則しても、凶器を持ってもよろしい、火を使ったっていい」ルールにしてるじゃないかと。純然たるルールで規定されているんであってね、ええ加減なことやってんのと違うんだよ! 俺が大仁田の肩を持って論戦を展開したのは、そういうことなんだよな。シルバにしても、いまの『武士道』ルールだから問題なんであって、「木刀を振り回しても、場外で闘ってもやってもよろしい」というルールだったら、それは暴走でもなんでもないんですよ。そうしたほうがあの大男の良さは出てくる。『武士道』でも特別ルールをやらせるべきなんだよな!

——『武士道』はいろんな実験ができる場ですけど、こん棒使用ルールは誰にも思いつきませんでした（笑）。

井上 本戦と違うんだからね。思い切って観客論に振り切れる場なんですよ。榊原の旦那も「今度の名古屋で客が入らなかったり、ブザマなことやったらやめざるをえない」とか言う暇があったら、プロレスルールを取り入れることを考えればいいんだ! K—1にしたってやね、何のために新日本プロレスと提携してるんだと。プロレスルールを取り入れるK—1MMAルールを作って、何のために新日本プロレスと提携してるんだと。



アジアGPがK-1 MAXに!? 優勝はムエタイのガオグライ・ゲーンノラシン。かつては68.5kg契約で武田幸三と闘ったこともある。GP開幕戦出場はなるのか!?

——新日本とK—1の交流は、すっかりナリを潜めちゃいますよね。

井上 中邑はおる。柴田はおる。棚橋はおる。真壁だってやろうと思ったらやりますよ! ましてや金本という凄いのがおるんだから。

——新日本のリーサルウエポンは金本! まったく気が付きませんでした!

井上 ガッチガチにやるからね、金本は。そういった連中を生かさなかったら嘘ですよ。プロレスのルールというのは決して八百長じゃない。真剣勝負を毎日やらせとったんじゃ大ケガするし下手すると死人が出るから、それを防ぐためにルールがあるんであってね。場外のカウントを認めたり、ロープブレイクを認めたのは、そういうことですよ。

——長年の知恵でそういうルールになったんでしょうからね。

井上 K—1は曙とサップだけじゃなくて、プロボクサーにも「K—1に来た以上はキックのある試合をしなさい」と押しつけたらダメなんだよな。ボクサーが出る場合は、1Rはキックなしボクシングマッチ。2Rはキック3回限定ルール。そして3RはK—1ルールでやらせると。ちょっとややこしいけど、山本（KID）と安廣（一哉）の試合は変則ルールでやったじゃないか。

——1RごとにK—1ルール、K—1MMAルールがチェンジする形式でした。

井上 プロ格者のBさんは、あの試合を「編集長、

曙、サップ、モンタ、シルバの4人はノールール、こん棒OKで闘わせろ！

あれは良かったとちゃいまっか」と誉めてましたよ。面白かったたって言っとるわけよ。ボクサーもそういうふうに使わないと、レイ・マーサーや（フランソワ・）ボタの野郎にしたって使いようがない。あの連中がまともにキックをマスターしようと思ったら2年はかかりますよ。

——防御の仕方を覚えるだけでもたいへんでしょうね。

井上　キックができないんだから、殴ることを中心にしたルールにしなさい。そうしないと、いつまで経ってもタイソンは出てこないよ。

——曙は8・7ラスベガス大会に出ることも正式決定しましたが、井上さんからすると、新ルールを採用しないのはこれまた無謀な挑戦になるんですよね？

井上　ラスベガスでは俺が言うようなルールで曙がええとこ見せればいいんや。ただし問題は、谷川の旦那が「弱い相手を連れてきたら、わざと勝たせたと思われるんです」って言うとることだ。バカなこと言っちゃいかんよ！　弱い相手だろうが強い相手だろうがどうでもいいんだよ。ファンは強い勝ち方をする曙とサップを望んでんだから。相手はヘナチョコでもいい。ハッキリ言えば、谷川！　お前が相手をせい！

——ガハハハハ！　ラスベガス大会はは谷川さんvs曙にすべきですか！

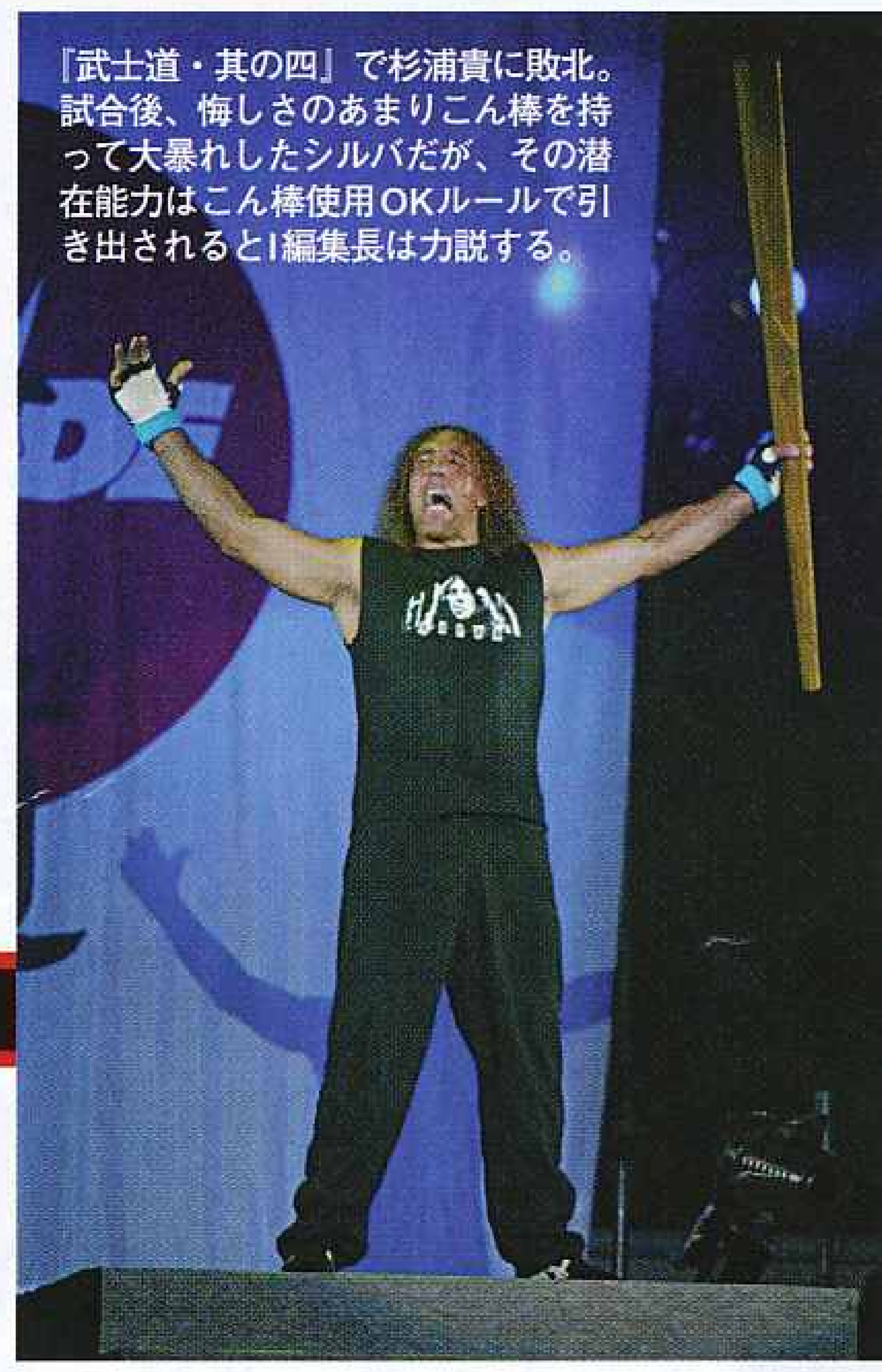
井上　旦那vsサップでもええわ！　いくらなんでも谷川の旦那相手だったら、強い勝ち方ができるだろう。谷川の旦那は大怪我するかもしれんけど、2人を光らせることになるじゃないか。

——それはプロデューサー冥利につきる話ですけど……（笑）。

井上　しかもただのK—1ルールじゃないからね。場外で暴れて、もう木刀振り回して、ピョンピョン跳ね回る。

——ガハハハ！　谷川さんは衝撃的なK—1デビューを飾りそうですね（笑）。

井上　もうマスクマンで出てきたっていいからね。そのマスクを剥いても問題なし。マスクを剥いでも次から次へとマスクが出てくる。最後のマスクが脱がされると……中身はタイソンなんですよ、これ！



『武士道・其の四』で杉浦貴に敗北。試合後、悔しさのあまりこん棒を持って大暴れしたシルバだが、その潜在能力はこん棒使用OKルールで引き出されるとI編集長は力説する。

——ガハハハハ！　格闘技興行というよりはマジックショーですよ、それ!!

井上　ラスベガスこそ思い切って冒険しなさい！（ドン）。それをもってええ加減だとか、プロレス的だとか、そんなことを言うようなやつは、とことん間違ってるんだ！　マスコミが筆を取って指摘しなさい！

——ボクらは重要な任務を背負ってるんですね（笑）。

井上　いまからでも遅くはないんだよ。ルールを考えることがK—1の原点回帰宣言、そして曙に関する小生の見方だな。これは曙だけではないぜ。サップ、モンターニャ、『PRIDE』でいうとジャイアント・シルバ。この4人はあくまでフリー・ルール！　こん棒を持って大暴れや！

——この4人には井上四天王を名乗って、とにかくガッチガチにこん棒を振り回すわけですね！

井上　あともうひとつ。K—1MAXの判定問題も言わないといかんだろ。

——決勝戦でタイ人が圧倒的な内容で魔裟斗を押しまくっていたのに、なぜか本戦ドローで延長に突入。後日、K—1サイドがミスジャッジだったということで異例の謝罪文を出しましたね。

井上　前から思っとったんだけど、ホーストとかアーツが判定で持ち込まれた場合は、俺が「負けただろう」と思っても、たいていドローになるんだよな。俺は長いあいだプロレスや格闘技も観てきたけども、やっぱり何だかんだ言っても格闘技をやってない人間だから、俺の目ではホーストは負けてるアーツが負けてると思っても、プロの人間の目から見ると、これはドローだというハッキリした根拠があるんじゃなかろうかと思っとったから、それ以上強くは言えないんだよ。

——プロのジャッジの言うことに従ってしまいますよね。

井上　でも、今回の魔裟斗のときは「これは八百長だと書くぞ！」と意気込んで、そういった原稿を書き上げたんだよ！

——あ、井上さんは一歩踏み込むつもりだったんですか！

井上　その途端に、その日の新聞に謝罪文が載ってるわけだよ。パーですよ、パー！

——いやあ、その原稿は読みたかったですよ。

井上　ま、もうしょうがないわな。でも、俺の見方は間違ってなかったんだと。魔裟斗にしたってホーストにしたって、たしかにK—1の顔だわ。負けさせたくないのはわかるけど、負けは負け。1回や2回負けたところで問題ないわけよ。ミルコも負けたけど、負けたから何だ！　誰だって負ける。俺だって負けますよ！

——喧嘩で鳴らした井上さんでも負けるときがあるんですね。

井上　誰だってまともにやったら負けるケースはあるんだから。気にする必要はないんだよ、勝ち負けは。ただ主催者として弁護してやれるところは、とことん弁護してやりなさい。「ケガしていて裏側ではこんなドラマがあった」とかね。

——判定で弁護するのは、選手を守ってあげることにはならないんですね。

井上　マスコミだってそうや！　こん棒の暴走をとやかく言う前に、そういうことをちゃんと指摘せえ！　ま、そういうことですな。

——わかりました！　来月もガッチガチに厳しい提言をよろしくお願いします！

【04年7月20日／電話取材にて収録】

［マット界舞台裏の裏リポート］

信用連敗 K-1よ、どこへ行く 舞台裏は大混乱だった韓国大会

文／タダシ☆タナカ



7・17韓国・ソウルで行われた『K-1アジアGP』。〃主役〃の曙は戦前「全試合KOで優勝」を公言していたが、結果は無惨な1回戦敗退となった。

確かに曙は対戦相手に恵まれなかった。プロの理屈がわからない18歳の中国人〃散打〃選手とのカードなど、いくら体格差があってもリスクが大きいことは予想できたハズだ。これは主催者側のミスである。なにしろ誰もがスタミナを心配する曙なのに、自身は「トーナメント形式が好きだ」と公言してきた。それがまともなパンチひとつ当てることができない。せいぜいクリンチの際にボディーを打った程度である。ところが、こんな大凡戦でも依然として15・4%の高視聴率を稼ぐため、K-1はいまだにキワモノ路線から脱却できないのである。

ちなみに1回戦が曙vs張になってしまった要因はというと、当初は曙vs〃朝青龍の兄〃スミヤバザルを考えていたが、フジテレビが朝青龍の結婚式を中継する関係で、相撲協会が嫌がる曙との絡みを一回戦で避けて、二回戦で当たるように気を使ったためだったという。しかし二人とも初戦敗退とは誰も予想できず、喜劇のような悲劇は拡大する。「兄貴は十倍強い」ギミックで売り出したモンゴルの英雄だが、またもやタオル投入。こうも毎回期待を裏切る未知の強豪も珍しい。

一方、観客が望む通りの1RKO劇で復活をはたしたジェロム・レバンナは、マニアの批判を省みず大衆の期待に応えたカードの勝利である。総合格闘技で28勝と紹介されたテレンス・リーズビィの〃正体〃はUPWのプロレスラー。自分の仕事がなんであるかはわきまえている。ビッグネームを相手にゴングと同時に真っ向からアグレッシブに攻め、前のめりに散っていった。

しかし、地上波放送では流されなかった準決勝を巡るドタバタは酷すぎた。角田信朗競技統括プロデューサーは、曙に勝った張選手が「右拳骨折で棄権。トーナメントルールにもとづき曙出場」と発表。客席のクリスティーナ夫人も手を叩いて喜んでいたが、そもそも負傷箇所は右スネ。生放送PPVの中継映像は〃右スネを冷やす張の姿〃が流されていた。ところが試合開始となって、子安慎悟が入場したのに曙が出てこないのだから観客もPPV視聴者も唖然とする。会場は急遽休憩になった。

どうやら舞台裏の説得に失敗し、曙が「気持ちを入れ替えるのは大変」と、準決勝進出を拒否したようだ。谷川イベント・プロデューサーは、「最近、リザーバーが上がるようにルールが変わったが、その徹底がなされず、一時混乱した」と説明。それが本当なら角田の競技統括最高責任者という役職は一体なんなのか？ マスコミも聞いてなく、競技統括が知らないルール改正など茶番もはなはだしい。ちょうど競技重視の方向転換をわざわざスポーツ紙に書かせたばかりである。

しかも休憩中に三宅アナが「リザーブマッチの選手が右拳骨折で、張が右スネ骨折したため曙が出場」と説明したのに、休憩明けには骨折したはずのリザーバーと子安の試合になるのだから詭弁も限界だった。

結局、トーナメントは優勝が義務付けられていた曙に代わって、最軽量（78kg）、若干20歳のガオグライ・ゲーンノラシンがグランプリ開幕戦の切符を手にした。ガオグライは01年3月に武田幸三からダウンを奪っているが（判定負け）、ボクシング戦もやる〃便利屋〃だ。その戦歴は4月の後楽園で日本人に判定勝ちした以外、5連続早い回のKO負けという仕事人を思わせる経歴の持ち主で、ウェルター級（67kg）では763位にランキングされている。ダークホースと言えば聞こえはいいが、ヘビー級のトーナメントを中軽量タイ人が制したことで、大会自体のクオリティが問われる形となってしまった。競技性回帰まで、まだまだ道は遠いようである。

K-1年間計画の歯車がアチコチで狂い始めている。母屋を乗っ取ったはずの新日本プロレスとの提携は、武蔵のプロレス・デビュー戦も礼を尽くされていたのに、ボブ・サップ幻想が崩れた『ROMANEX』旗揚げ戦は、新日＆猪木軍に5戦全敗。これによって〃勝ち逃げ〃しようとする新日本の協力も難しくなり、少なくとも年内もう一回開催と発表されていた『ROMANEX』は、開催のメドが立たなくなってしまった。

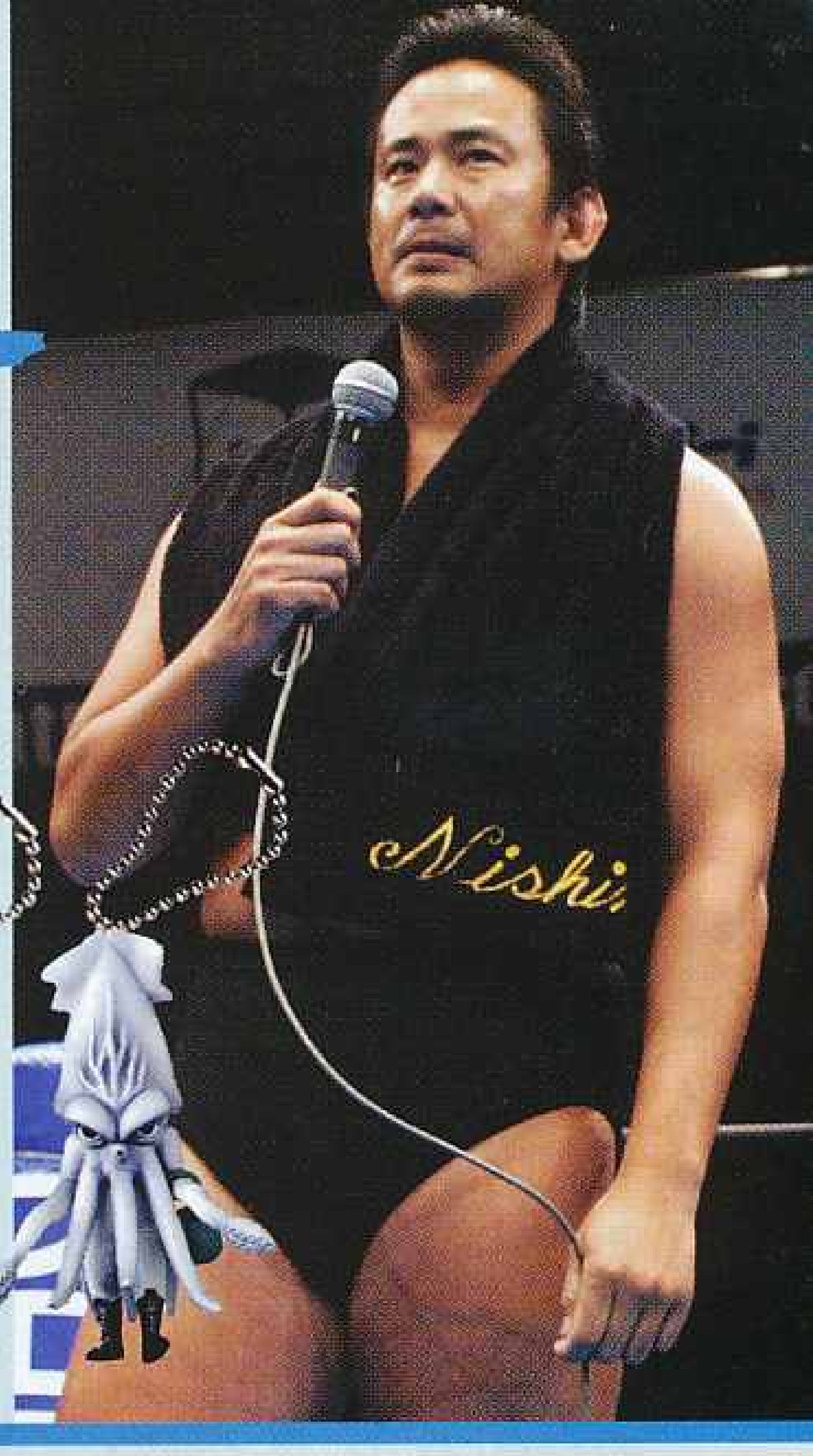
さらにマイク・タイソンに振り回され、この夏の『Dynamite!』開催は消滅。9月から開幕する『ワールド・グランプリ』は、大阪ドーム開催から武道館に規模を縮小した。大晦日は『PRIDE 男祭り』が先行発表されたが、北朝鮮からの『イノキボンバイエ』復活説が出ている。TBSは年末の『Dynamite!』を諦めていないが、ヘビー級のまともな選手たちに愛想をつかされかけているため、中軽量級の選手を集めMAXのMMAを計画中との情報がある。須藤元気、山本〃KID〃徳郁に加え、五輪次第だが永田裕志の弟、秋山成勲などが候補だ。柔道は3大会連続金メダルが期待される野村忠宏も口説いているが苦戦しているとのこと。

おまけに7月30日（現地時間）には、起死回生の切り札マイク・タイソンが格下のダニー・ウイリアムスに4回まさかのKO負け。しかも左ヒザを負傷し、引退の危機とも言われている。

ここ1～2年で純K-1ファンの信用を失い続けてきたK-1。復活のためにも、9・27日本武道館では、今度こそ本当に〃競技性回帰〃がされ、少しでも信用回復するよう願うよりほかはない。

応募することが宇宙の法則!!

RADICAL PRESENT



MUGA





★無我セット

※©「いかレスラー」制作委員会
いかレスラーフィギュア（¥2100/メディコムトイ提供）と『いかレスラーの歌』（¥1050/avex mode提供）をセットでプレゼント! みなさんご一緒に、♪いかいかいかいかいかレスラ〜……
［HP］http://www.ika-movie.com/

1名様

★キャラボット『いかレスラー The Calamari フィギュアキーチェーン』

¥200（全7種＋シークレット3種）※©「いかレスラー」制作委員会
全国のローソン（一部店舗を除く）にて好評発売中! 映画『いかレスラー』もシネセゾン渋谷、池袋テアトルで絶賛上映中だ!【Yujin提供】
［TEL］03-3696-6004（土・日・祝日を除く平日10時〜12時/13時〜16時）
［HP］http://www.yujin-net.com/



各1名様

HUSTLE

『ハッスル4』で長州が因縁浅からぬ小川と電撃合体! 勢いに乗じて「なぁにがやりたんだコラ」とばかりに長州Tシャツも登場! 長州がコスプレする日も近い!?【DSE提供】

各1名様









01★ハッスルプロレスラーTシャツ　S〜XL ホワイト/ウォーター ¥3990
02★ハッスルプロレスラータンクトップ　M〜XL グレー&ネイビー ¥3990
03★ハッスルノースリーブ　M〜XL ブラック ¥3990
04★総統Tシャツ　S〜XL ブラック ¥3990
05★リキラリアットTシャツ　S〜XL ホワイト/ブラック ¥3990
06★ハッスルリストバンド　ブラック/イエロー/グリーン/ピンク/ホワイト/レッド ¥1050
07★ハッスルうちわ　¥525
［TEL］03-5464-1531　［HP］http://www.so-net.ne.jp/pride/

BOOKS

各3名様



★迷宮Xファイル ¥1050

前田vs佐山、新日本vs極真、鈴木vsアポロ……マット界が封印してきた、様々な試合・事件の裏舞台の全貌が、遂にこの一冊で明らかになる!
【アッパー提供】

★PRIDE名勝負伝説 ¥1700

髙田統括本部長、サク、高山のインタビューを始め、PRIDE全戦績、PRIDEトリビアなど痒いところに手が届くラインナップ。しかもPRIDE1〜12の名勝負36試合が収録されたDVD付きだ!　【宝島社提供】

BAM BAM BIGELOW

各1名様



★マサ・サイトーPHOTOTシャツ
（Yellow）¥4095

★ザ・ニンジャTシャツ
（WHITE）¥4095

男なら誰でも憧れるマサ・サイトーとザ・ニンジャのニューTシャツが登場。やっぱりこの時期のマサとニンジャが一番カッコいい! マサの長生きと、ニンジャがこれ以上死なないことを祈りつつ応募しよう。プレゼントはすべてL
【バンバンビガロ提供】　［TEL］03-3460-1145　［HP］http://www.bambam88.com

INSPIRE

各1名様



★コスケ&獅龍マスクキーホルダー

アジアタッグから陥落してからというものの、行方をくらましてしまったコスケ&獅龍。二人のファイトが見られないのは残念だが、マスクはカッコいいからノー問題!!　【インスパイア提供】
グレート・コスケキーホルダー
【1/6スケール】¥1050 ©全日本プロレス
獅龍キーホルダー
【1/6スケール】¥1050 ©全日本プロレス
［TEL］03-5629-3920
［HP］http://www.inspire.co.jp



PRIDE

『武士道』グッズが続々登場だ! 7・19『PRIDE武士道ー其の四ー』で、大山を秒殺して完全復活を遂げたミルコ。この試合を見ると、金ちゃんってホントに凄いって実感します。【DSE提供】
[TEL] 03-5464-1531
[HP] http://www.so-net.ne.jp/pride/

01★BUSHIDOTシャツ S~XL ホワイト/グレー ¥3990
02★武士道イラストTシャツ S~XL ホワイト ¥3990
03★武士道ストラップ ¥1050
04★武士道キーホルダー ¥1050
05★シウバキャップ ¥1050
06★シウバストラップ ¥1050
07★シウバキーホルダー ¥1050
08★ミルコストラップ ¥1050
09★ミルコキーホルダー ¥1050
10★ヒョードルストラップ ¥1050
11★ヒョードルキーホルダー ¥1050





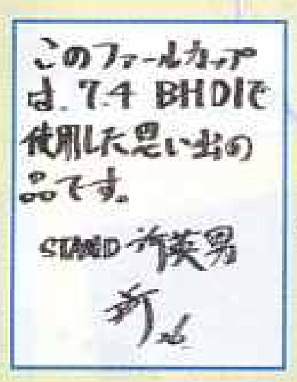
SMACKGIRL



★辻結花パウンドTシャツ
¥3500 S~XL
辻ちゃんがパウンドかましてるカッコいいTシャツが完成だ! 辻ちゃんvsエリカ・モントーヤの決戦は8月5日のため今号には間に合わず。辻ちゃんのえげつないパウンドは炸裂したのか!? 【辻結花提供】
[HP] http://www.smackgirl.com/

HIDEO TOKORO





★所英男・サイン入りファールカップ
7・4『BATTLE HAZARD 01』でリングスルールに挑戦し、見事勝利した所英男。その試合で着用し、しかも洗ってないとの噂のファールカップをプレゼント! 身に着けるもよし、嗅ぐもよしだ!! 【STAND提供】

OMIYAGE

★ミャンマー土産のTシャツいろいろ
1000年の歴史をもつ素手のムエタイ『ミャンマーラウェイ』に電気部さささぃが潜入! 波乱のレポートはP89から。体調不良になりながらもなんとか持ち帰ったTシャツをドドーンと大盤振る舞いだ!! 【さささぃ提供】



FIGHTING SPACE ZERO



★魁Tシャツ BLACK/WHITE
6月27日「MEN'S FIGHTCLUB 魁」を開催したファイティングスペース・ゼロから、同大会の記念Tシャツをゲッツ! 裏にはエキシビジョン参戦した大物選手サイン入り!! ジム詳細は情報ページをチェック!!
【ファイティングスペース・ゼロ提供】[HP] http://www.fightclub.co.jp/mensfight/index.html

応募要項

応募券

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦コラムに連載して欲しい人
⑧今後の『ハッスル』に望むこと

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「ハッスルと真ん中」係まで
※締切は2004年8月24日(火)当日消印有効

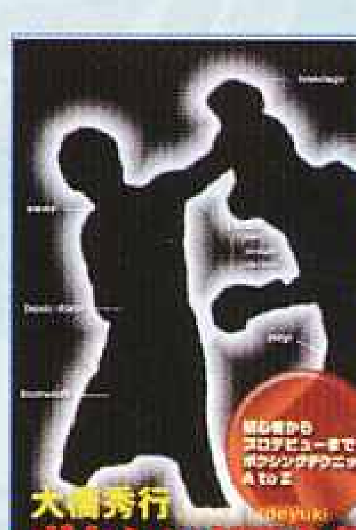
DVD



★『あじさいの唄』第壱巻~うすあさぎ~
(60分/特典映像、予告編等込み) ¥2079 8月19日発売(第弐巻・9月後半/第参巻・10月後半リリース)
構想8年! 制作1年!! 総制作費2億円!!! ソフト・オン・デマンドが、『ビッグコミックオリジナル』で10年以上にわたり好評連載中の『あじさいの唄』を、高橋がなりが企画・制作総指揮のもと初のアニメ化! 声優に蟹江敬三や和久井映見、主題歌はかぐや姫と超豪華だ!
【ソフト・オン・デマンド提供】
[HP] http://www.ajisainouta.jp/



★御舘透 JKDトラッピング・アートVol.1
(45分) ¥5880
ブルース・リーを始祖とする武術"ジークンドー"の実戦テクニックを御舘透伝授! ジークンドーならではの接近戦テクニックを解説し、さらにブルース・リーが映画の中で披露した素早い手技の連続攻撃を徹底紹介する。
【クエスト提供】
[TEL] 03-3360-3810
[HP] www.queststation.com



★大橋秀行・ボクシング完全教則ー入門篇ー
(81分) ¥5880
軽量級きってのハードパンチャーとしてWBAとWBCの世界チャンピオンに輝いた大橋秀行が、ボクシングの基本のテクニックを分かり易く解説する全3巻シリーズの第1巻。現WBC王者・川島勝重を育てあげた指導力で基本を徹底的に磨く。



★『PRIDE武士道ー其の参ー』
(約190分) ¥5040
5月23日に横浜アリーナで行われた『PRIDE武士道ー其の参ー』がDVD化。スリリングな攻防となったミルコvs金原や、白熱した日本vsグレイシー・3vs3対抗戦、武士道挑戦試合を含む熱戦12試合を収録だ!
【メディアファクトリー提供】
[HP] http://www.mediafactory.co.jp/
[TEL] 03-5469-4880
〈10:00~18:00/土日、祝日は除く〉

『紙プロ』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます
★全国どこでも送料一律500円です。
（離島・山岳部の方はお問い合せ下さい）
★代引き手数料は315円です。
（代引き金額によって異なります）

『紙プロHand』でご注文の場合

詳しくは『紙プロHand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合

平日15:00～22:00
（株）ダブルクロス 03-3403-5142

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします（確認メールはいきませんのでご了承下さい）。

ヒョードルSARU Tシャツ〈ベージュ〉
¥3,800 [SOLD OUT] or M or L or XL



ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800 [SOLD OUT] or [SOLD OUT] or L or XL



ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or [SOLD OUT] or [SOLD OUT]



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or [SOLD OUT] or XL



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or [SOLD OUT]



赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL



ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 XS or S or M or L or XL



マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500 S or M or L or [SOLD OUT]



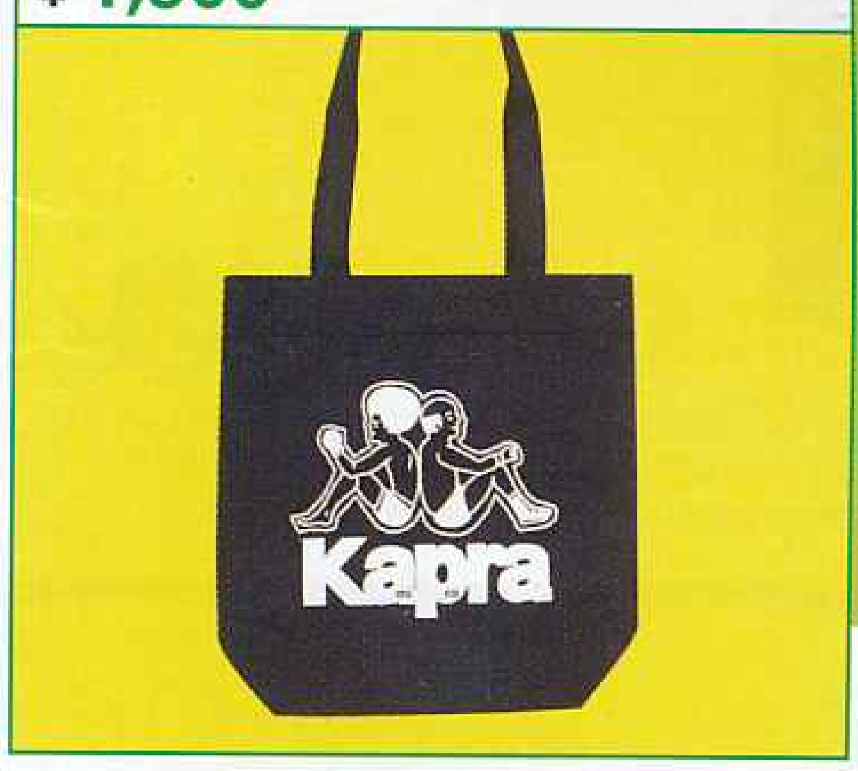
『カズ・H』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 [SOLD OUT] or S or M or L or XL



『COZY BAKA』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 [SOLD OUT] or S or M or L or XL



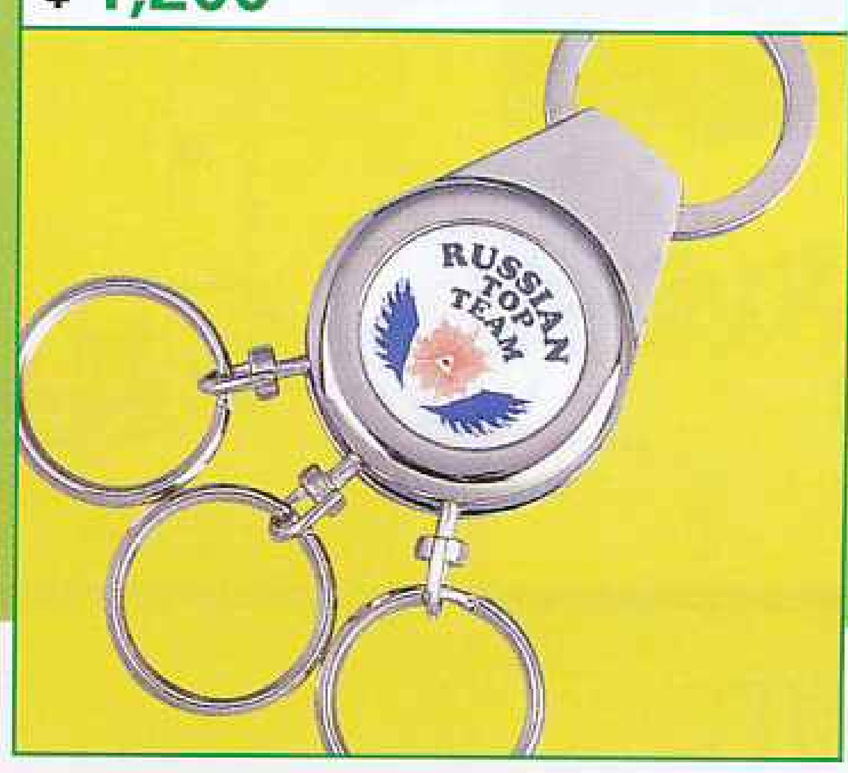
トートバック〈ブラック〉
¥1,500



『ヒョードル』キーホルダー
¥1,200



『ロシアン・トップチーム』キーホルダー
¥1,200



リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥~~4,500~~ ➡ SALE ¥2,500 S or M o[SOLD OUT]



紙のプロレス RADICAL
No.77
2004年9月10日発行

No.78は 8月28日（土）発売!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（ロシア幻想に取り憑かれて非番）
見習い
斉野もみじ

スーパーバイザー
吉田豪
助っ人
片山ボン
ジャイ子
電気部
ささきぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
斉藤ユーリ
森廣博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀
菊池茂夫
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
体調
プリン体・入江（TwoThree）
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

ハッスル & 紙のプロレス コラボグッズ

第1弾は髙田総統!
さっさと買うがいい……ビターーン!!





「髙田総統」フェイスタオル
¥2100(税込)



「BITAAAN!」メッシュキャップ
[ブラック/パープル] ¥3150(税込)



「ビビったか? たじろいだか?」ナップザック
[ブループリント/オレンジプリント] ¥2100(税込)



「ビビったか? たじろいだか?」Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック/ホワイト] ¥3990(税込)

「BITAAAAN!」Tシャツ
¥3990(税込)

ハッスル グッズは紙プロ通販でも買えますよ!!



ハッスルロゴTシャツ[XS・S・M・L・XL ホワイト/ブラック/イエロー/レッド/ピンク/ブルー/グリーン]
¥3990(税込)



ハッスルフェイスタオル
[ブラック/イエロー/グリーン]
¥2100(税込)



ハッスルメッシュキャップ
[ブラック/レッド/イエロー/ピンク/ブルー/グリーン] ¥3150(税込)



紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZINE MOOK 254
2004 NO. 77
"キャプテン・ハッスル"! 史上最大の査定試合へ!!
平成16年9月10日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円+税

9784898297346
ISBN4-89829-734-X
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌　69860―54

印刷：図書印刷株式会社